

## 九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告7：箱崎遺跡

九州大学埋蔵文化財調査室

<https://hdl.handle.net/2324/7407625>

---

出版情報：九州大学埋蔵文化財調査室報告. 10, 2023-12-25. Archaeological Heritage Management Office, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



九州大学埋蔵文化財調査室報告 第10集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 7

# 箱崎遺跡

—HZK1903・1904・2101 地点—



2023

九州大学埋蔵文化財調査室

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第10集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 7

# 箱崎遺跡

—HZK1903・1904・2101 地点—

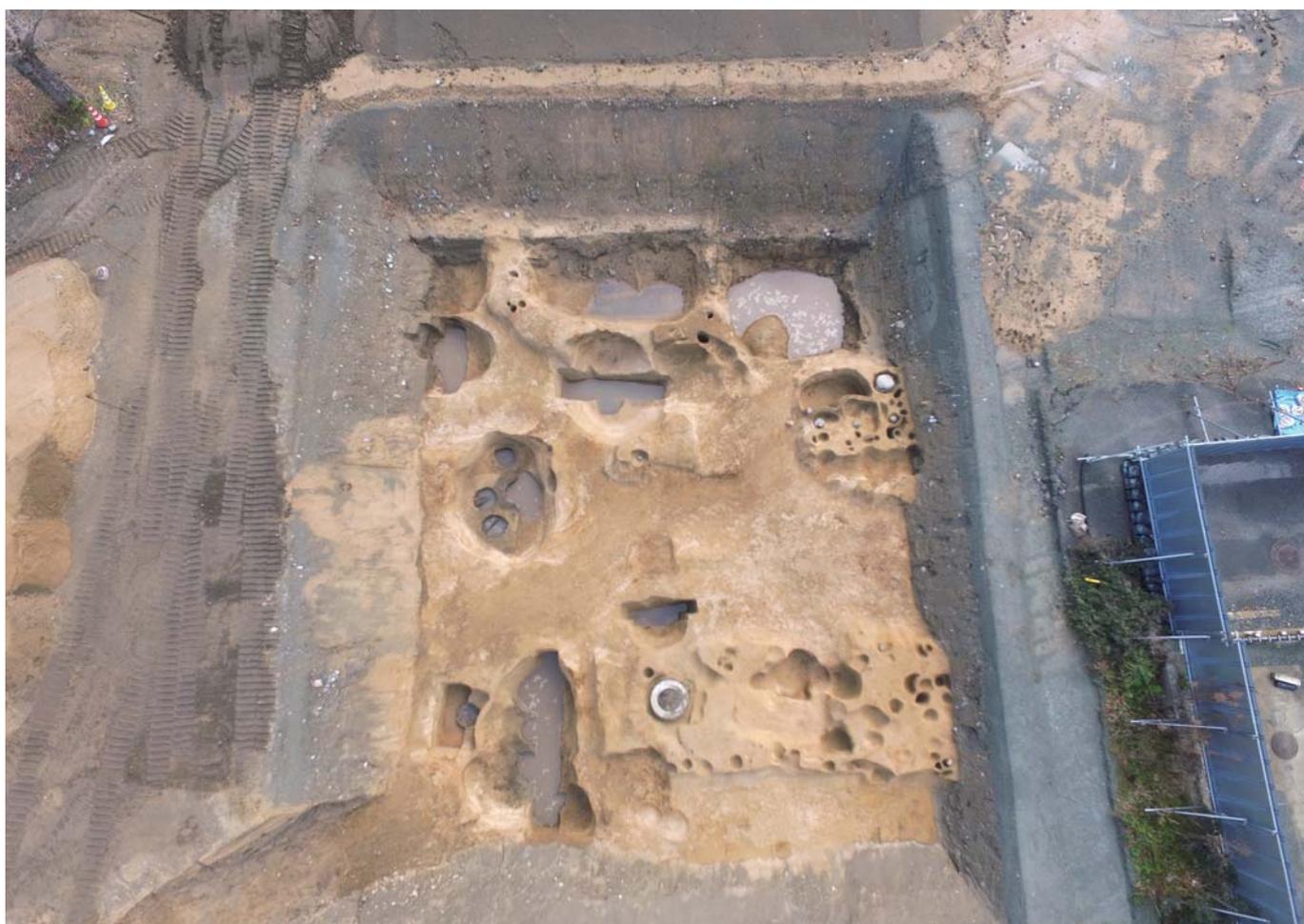


2023

九州大学埋蔵文化財調査室



HZK1903地点 A 区調査区全景 (南から)



HZK1903地点 B 区調査区全景 (西から)



HZK1903地点 C1区調査区全景 (東から)



HZK1903地点 C区調査区全景 (西から)



HZK1904地点調査区全景（南から）



HZK1904地点完掘（北から）



HZK2101地点調査区全景（北から）



HZK2101地点北西柱穴群（北から）



HZK2101地点 ST33遺物出土状況 (西から)



HZK2101地点 SE37 (南から)

## 例 言

1. 本書は、九州大学箱崎キャンパス跡地において2017～2021年に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果報告書である。「跡地」までが正式名称だが、本書では煩瑣を避け、「箱崎キャンパス」と表記する。
2. 本書には2019年度に実施した HZK1903地点、HZK1904地点、2021年度に実施した HZK2101地点の調査成果を掲載する。
3. 本書の内容は同じ箱崎キャンパス南側で行われた HZK1703地点、HZK1804地点、HZK2003地点の調査成果を掲載した『九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集 九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告6』と補完しあっており、本書と合わせて適宜参照していただきたい。
4. 調査主体は九州大学埋蔵文化財調査室である。
5. 発掘調査・整理作業の担当者・参加者はそれぞれの報告箇所に記した。
6. 検出遺構および土層の実測は、三阪一徳、齋藤瑞穂、福永将大が行った。製図は福永、石井若香葉、田邊八子、門脇義徳、田中えみが行い、株式会社パスコが測量支援と HZK2101地点の製図を行った。
7. 出土遺物の実測は、板倉佳代子、尾座本洋子、白井恭子、田中えみ、谷直子が行い、製図は白井、田中、谷が行った。
8. 遺構写真は三阪、齋藤、福永が、遺物写真は谷が撮影した。
9. 本書で使用した地形図は、2020年1月に調整した電子地形図25000「福岡」である。
10. 遺構図等における X・Y の数値は平面直角座標第Ⅱ系（原点：北緯33度0分0秒、東経131度0分0秒）における座標値（m）を、方位は同座標系の座標北を表す。標高値は東京湾平均海面を基準とする海拔高（m）で表す。
11. 土層の色調は、『新版標準土色帖』（2010年度版、農林水産省農林水産技術会議事務局監修／財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠して表現した。
12. 本書で使用する遺構記号は、次のとおりである。  
SB：掘立柱建物、SD：溝、SE：井戸、SI：竪穴遺構、SK：土坑、SP：ピット、ST：墓、SQ：近代遺構、SX：その他性格不明遺構等
13. 本書の執筆は宮本一夫、齋藤、福永、谷が分担し、担当部分を末尾に記した。
14. 樹種の同定と年代測定は株式会社パレオ・ラボに依頼し、第Ⅷ章にその成果を収載した。
15. 表紙デザインは、石井若香葉が担当した。
16. 本書に掲載した調査記録・写真および出土遺物は、九州大学埋蔵文化財調査室が収蔵保管する。
17. 発掘調査・整理作業にあたり、次の方々・部局から御指導・御教示ならびに格別なるご高配をたまわった。御芳名を記して、謝意を表する次第である（敬称略、五十音順、所属は当時）。  
足立達朗（九州大学アジア埋蔵文化財研究センター）、阿部泰之（福岡市経済観光文化局）、  
岩永省三（九州大学総合研究博物館）、藏富士寛（福岡市経済観光文化局）、神 啓崇（福岡市経済観光文化局）、田上勇一郎（福岡市経済観光文化局）、田尻義了（九州大学アジア埋蔵文化財研究センター）、谷澤亜里（九州大学総合研究博物館）、徳留大輔（出光美術館）、中尾佑太（福岡市経済観光文化局）、比嘉えりか（福岡市経済観光文化局）、本田浩二郎（福岡市経済観光文化局）、  
溝口孝司（九州大学大学院比較社会文化研究院）、九州大学施設部、九州大学統合移転推進部、  
福岡県教育庁、福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課
18. 本書の編集は、宮本監修のもと谷が担当した。

# 目 次

巻頭図版

例 言

目 次

挿図・表目次

写真図版一覧

## I HZK1903地点（応力研生産研本館地点第2次調査）

- |          |    |
|----------|----|
| 1. 調査の経緯 | 1  |
| 2. 遺構と遺物 | 4  |
| 3. 小結    | 70 |

## II HZK1904地点（保存図書館地点）

- |          |     |
|----------|-----|
| 1. 調査の経緯 | 84  |
| 2. 遺構と遺物 | 87  |
| 3. 小結    | 105 |

## III HZK2101地点（正門前地点）

- |          |     |
|----------|-----|
| 1. 調査の経緯 | 110 |
| 2. 遺構と遺物 | 111 |
| 3. 小結    | 205 |

## IV 分析と考察

- |                                                                                                                      |     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 箱崎遺跡 HZK1804・1903・2003・2006地点出土木材の樹種同定<br>.....小李克也（パレオ・ラボ）                                                          | 232 |
| 箱崎遺跡 HZK1804・1903・2003・2006地点出土木材の放射性炭素年代測定<br>.....パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ<br>伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹<br>Zaur Lomtadze・小李克也 | 238 |

## V まとめと展望

- |          |     |
|----------|-----|
| 1. はじめに  | 256 |
| 2. 遺構の変遷 | 256 |
| 3. まとめ   | 261 |

写真図版

報告書抄録

## 挿図・表目次

I HZK1903地点(応力研生産研本館地点第2次調査)	第33図 HZK1903地点 B 区 SK72・73・74出土遺物
第1図 HZK1903地点全体図	31
第2図 HZK1903地点 A 区遺構配置図	32
第3図 HZK1903地点 A 区エリア I SK01～04-b・07・08遺構平面・断面図	33
第4図 HZK1903地点 A 区エリア I SK09～11-a・b・SP16・SD17遺構平面・断面図	34
第5図 HZK1903地点 A 区エリア I SP13・19～22遺構平面・断面図	34
第6図 HZK1903地点 A 区出土遺物 1	35
第7図 HZK1903地点 A 区エリア II・III SP25・26・SK27～29・32・33・35遺構平面・断面図	37
第8図 HZK1903地点 A 区エリア III 井戸検出状況	37
第9図 HZK1903地点 A 区エリア III サブトレンチ土層断面図	39
第10図 HZK1903地点 A 区出土遺物 2	40
第11図 HZK1903地点 B 区遺構配置図	40
第12図 HZK1903地点 B 区エリア I 遺構配置図	41
第13図 HZK1903地点 B 区エリア I SK01・02・SP03～05・SK06・07・SP08～10・SK11～13遺構断面図	41
第14図 HZK1903地点 B 区エリア I SK17～20・SP21・SK22・SP23・SK24・SP25・SK26遺構断面図	42
第15図 HZK1903地点 B 区 SK14・15・SP25出土遺物	42
第16図 HZK1903地点 B 区エリア II 遺構配置図	44
第17図 HZK1903地点 B 区エリア II SP27～33・SK34・35遺構断面図	46
第18図 HZK1903地点 B 区エリア III 遺構配置図	47
第19図 HZK1903地点 B 区エリア III SK38・SP39～41・SK42・44・SP45・SK46～49・SP50～53遺構断面図	48
第20図 HZK1903地点 B 区エリア III SP54・SK55・56・71遺構断面図	49
第21図 HZK1903地点 B 区 SK55・71出土遺物	50
第22図 HZK1903地点 B 区 SE58平面・断面図	50
第23図 HZK1903地点 B 区 SE58出土遺物	54
第24図 HZK1903地点 B 区 SE59周辺平面・断面図	55
第25図 HZK1903地点 B 区 SE59出土遺物	55
第26図 HZK1903地点 B 区 SE76出土遺物	56
第27図 HZK1903地点 B 区 SE60周辺平面図	57
第28図 HZK1903地点 B 区 SE60周辺サブトレンチ北壁土層断面図	58
第29図 HZK1903地点 B 区 SE60出土遺物	59
第30図 HZK1903地点 B 区 SE62出土遺物	61
第31図 HZK1903地点 B 区 SE64出土遺物	62
第32図 HZK1903地点 B 区 SE66出土遺物	62
第33図 HZK1903地点 B 区 SK72・73・74出土遺物	63
第34図 HZK1903地点 B 区 SE67平面・断面図	63
第35図 HZK1903地点 B 区 SE67出土遺物	64
第36図 HZK1903地点 B 区 SE68平面・断面図	64
第37図 HZK1903地点 B 区 SE68出土遺物	64
第38図 HZK1903地点 B 区 SP37・SK69・SK70遺構断面図	64
第39図 HZK1903地点 C1・C2区遺構配置図	64
第40図 HZK1903地点 C1区 SK01・03～07・11・13～16平面・断面図	64
第41図 HZK1903地点 C1区出土遺物 1	64
第42図 HZK1903地点 C1区 SK21・22・SX25平面・断面図	64
第43図 HZK1903地点 C1区出土遺物 2	64
第44図 HZK1903地点 C1区 SP02・08～10・12・17～20・23・24平面・断面図	64
第45図 HZK1903地点 C2区 SD44・45・SK100平面・断面図	64
第46図 HZK1903地点 C2区 SK33・54・SD55・SK56・66・89・96平面・断面図	64
第47図 HZK1903地点 C2区 SD55出土遺物	64
第48図 HZK1903地点 C2区 SD62断面図	64
第49図 HZK1903地点 C2区 SD62・65出土遺物	64
第50図 HZK1903地点 C2区 SK26～28・30～32・35・SP36・SK37・40平面・断面図	64
第51図 HZK1903地点 C2区 SK29平面・断面図	64
第52図 HZK1903地点 C2区 SK27・29・31出土遺物	64
第53図 HZK1903地点 C2区 SK41・SP43・SK46・47・49・50～53平面・断面図	64
第54図 HZK1903地点 C2区 SK57～61・64・65・67平面・断面図	64
第55図 HZK1903地点 C2区 SK41・49・50・51・54・57・59・61出土遺物	64
第56図 HZK1903地点 C2区 SK68・69・73・SP74・SK75・79・80・SP81・SK91・95・136平面・断面図	64
第57図 HZK1903地点 C2区 SK73・79・80出土遺物	64
第58図 HZK1903地点 C2区 SK82a・SP82b・SK83～86・SK124平面・断面図	64
第59図 HZK1903地点 C2区 SK90・92～94・98・99・120・SP121・SK122・123平面・断面図	64
第60図 HZK1903地点 C2区 SX88・SK89・90・92出土遺物	64
第61図 HZK1903地点 C2区 SK101・112～119・135平面・断面図	64
第62図 HZK1903地点 C2区 SK127・128・SP129～131・SK132・SP133・SK137～139平面・断面図	64

第63図	HZK1903地点 C2区 SK100・101・123・139 出土遺物……………	65
第64図	HZK1903地点 C2区 SP34・38・39・42・48・ 63・70～72平面・断面図……………	67
第65図	HZK1903地点 C2区 SP76～78・102～109平 面・断面図……………	68
第66図	HZK1903地点 C2区 SP110・111・125・126・ 134平面・断面図……………	69
第67図	HZK1903地点 C2区 SE140平面・断面図 …	70
第1表	HZK1903地点 A 区出土遺物観察表 ……	72
第2表	HZK1903地点 B 区出土遺物観察表 ……	73
第3表	HZK1903地点 C 区出土遺物観察表 ……	78

## II HZK1904地点 (保存図書館地点)

第1図	HZK1904地点遺構配置図……………	85
第2図	HZK1904地点 SK01～03・SP04・05平面・断 面図……………	88
第3図	HZK1904地点 SK01・02出土遺物……………	89
第4図	HZK1904地点 SP06・SK07～09・SP10・11平 面・断面図……………	90
第5図	HZK1904地点 SK07～09出土遺物……………	91
第6図	HZK1904地点 SP12・13・SK14・SP15・16平 面・断面図……………	91
第7図	HZK1904地点 SK14出土遺物……………	92
第8図	HZK1904地点 SP17～19・SK20・21・SP22平 面・断面図……………	93
第9図	HZK1904地点 SK21・SP17・19出土遺物…	94
第10図	HZK1904地点 SP23・25・26・SK27・28・ SP29・SK30・31・SP39・41平面・断面図…	95
第11図	HZK1904地点 SK27・SP25・26出土遺物…	96
第12図	HZK1904地点 SK31・SP29出土遺物……………	96
第13図	HZK1904地点 SP32～34・37・SK38・SP40・ 42・44平面・断面図……………	97
第14図	HZK1904地点 SK45・47・48・SX50・59・ 60平面・断面図……………	98
第15図	HZK1904地点 SK45・47出土遺物……………	100
第16図	HZK1904地点 SX50・60出土遺物……………	101
第17図	HZK1904地点 SP46出土遺物……………	101
第18図	HZK1904地点 SP36・51・52・SK53・SE55・ SK56平面・断面図……………	102
第19図	HZK1904地点 SE55・SK56出土遺物……………	103
第20図	HZK1904地点 SQ61・62平面・断面図……………	104
第21図	HZK1904地点 SP36・SK53遺構外出土遺物 ……………	105
第1表	遺物観察表……………	106

## III HZK2101地点 (正門前地点)

第1図	HZK2101地点遺構配置図……………	113
第2図	HZK2101地点遺構配置図……………	115
第3図	HZK2101地点南東エリア SK01・02・SD03・ SK04・SP05・06・SK07・08平面・断面図 ……………	117

第4図	HZK2101地点南東エリア SD09～12・SP13・ 14・SK15・16・17平面・断面図……………	118
第5図	HZK2101地点南東エリア SK18・19・SD20・ SK21～24・SD32平面・断面図……………	119
第6図	HZK2101地点出土遺物1……………	121
第7図	HZK2101地点出土遺物2……………	121
第8図	HZK2101地点出土遺物3……………	121
第9図	HZK2101地点南東エリア SP25・SK26・27・ SP28～30・SK31・ST33・SK34平面・断面図 ……………	122
第10図	HZK2101地点南東エリア SK35・36・41・ 42・49・50・55・61平面・断面図……………	123
第11図	HZK2101地点南東エリア SK51・52・63・ 64・69・70・SP71・SK72平面・断面図…	124
第12図	HZK2101地点南東エリア SP401・SK402・ SD403～405・SK406平面・断面図……………	125
第13図	HZK2101地点出土遺物4……………	126
第14図	HZK2101地点南西エリア SE37・SP38～40 平面・断面図……………	127
第15図	HZK2101地点南西エリア SP43・SK44・ SP46・53・ST58・SP59・67・68平面・断面 図……………	129
第16図	HZK2101地点出土遺物5……………	130
第17図	HZK2101地点出土遺物6……………	130
第18図	HZK2101地点出土遺物7……………	130
第19図	HZK2101地点出土遺物8……………	131
第20図	HZK2101地点出土遺物9……………	132
第21図	HZK2101地点南西エリア SK80・SP81・82・ SK85～87平面・断面図……………	133
第22図	HZK2101地点南西エリア SK89・90・95・ 97・99・100・106・SP113平面・断面図…	134
第23図	HZK2101地点南西エリア SP45・SK47・ SP48・54・SK56・57・98平面・断面図…	135
第24図	HZK2101地点出土遺物10……………	136
第25図	HZK2101地点出土遺物11……………	136
第26図	HZK2101地点出土遺物12……………	136
第27図	HZK2101地点南西エリア SP62・65・66・ SK73・SP74～78・SK105・112平面・断面図 ……………	138
第28図	HZK2101地点南西エリア SP79・SK83・84・ 88・SP91・92・SE93・SK114平面・断面図 ……………	139
第29図	HZK2101地点南西エリア SK94・SP96・ SK101・SP102～104・SK107・108・SP109・ 110・SK115平面・断面図……………	140
第30図	HZK2101地点南西エリア SK111・116・117・ SD118・SK119・SP120・SK121・124・138 平面・断面図……………	141
第31図	HZK2101地点南西エリア SK128・SP133・ SK140・SP141・147・SP151・153・159・ SK177・179平面・断面図……………	142

第32図	HZK2101地点南西エリア SP122・123・164・165・167・175・184・SK222・223・SP236平面・断面図……………	144	第58図	HZK2101地点出土遺物22 ……………	167
第33図	HZK2101地点南西エリア SK125・SP126・SE213・SK214・SP218・SK237・238平面・断面図……………	145	第59図	HZK2101地点出土遺物23 ……………	168
第34図	HZK2101地点南西エリア SK129・130・SP131・132～136・SK137・139・142平面・断面図……………	146	第60図	HZK2101地点北西エリア SI268・SK269～275・SP308・SK328平面・断面図……………	169
第35図	HZK2101地点南西エリア SK143・SP144・145・SK146・148・149・SP150・SK152・SP154・155平面・断面図……………	147	第61図	HZK2101地点出土遺物24 ……………	170
第36図	HZK2101地点南西エリア SP156～158・160～163・SK166・168・SP169・170平面・断面図……………	148	第62図	HZK2101地点出土遺物25 ……………	170
第37図	HZK2101地点南西エリア SP171～174・176・SK178・180・SK181・182・194平面・断面図……………	149	第63図	HZK2101地点北西エリア SK276～278・SP279・280・SK282・283・SD284・SP327・347平面・断面図……………	171
第38図	HZK2101地点南西エリア SD183・SK185・SP186～191平面・断面図……………	151	第64図	HZK2101地点北西エリア SP361～363・SK364～366・SP368・SK370・371・373・374・SP375・376平面・断面図……………	172
第39図	HZK2101地点南西エリア SK192・SP193・195・196・SK197・SP204・SK216・SK225平面・断面図……………	152	第65図	HZK2101地点北西エリア SP345・346・348・SK349・SP350～353・SK354・SP355・356・358・SK360平面・断面図……………	173
第40図	HZK2101地点南西エリア SK226～228・230・SP231・239・240・SK241平面・断面図……………	153	第66図	HZK2101地点北西エリア SP330～332・SK333～335・SP336・339・SK341・SP342・SK343・344平面・断面図……………	174
第41図	HZK2101地点南西エリア SK198・199・SP201・202・SK203・SP205・SK206・SP207平面・断面図……………	154	第67図	HZK2101地点北西エリア SP311・317～319・SK320・SP321・SK322～324・SP325・SK326・SP329・SK559平面・断面図……………	175
第42図	HZK2101地点南西エリア SK209・210・SP211・SK212・215・SE217・SP221平面・断面図……………	155	第68図	HZK2101地点北西エリア SK292～295・297・298・SP299～307・309・310・340平面・断面図……………	177
第43図	HZK2101地点南西エリア SP219・SK220・224・229・234平面・断面図……………	156	第69図	HZK2101地点北西エリア SK285・SD286・SK287・288・SP289・SD290・SK291・296・SP359平面・断面図……………	178
第44図	HZK2101地点出土遺物13 ……………	157	第70図	HZK2101地点北西エリア SK252～254・SD255・SK256～258・SP259・SK281・SP314・SK338平面・断面図……………	179
第45図	HZK2101地点出土遺物14 ……………	157	第71図	HZK2101地点出土遺物26 ……………	180
第46図	HZK2101地点出土遺物15 ……………	157	第72図	HZK2101地点出土遺物27 ……………	180
第47図	HZK2101地点出土遺物16 ……………	157	第73図	HZK2101地点北西エリア SP377～379・381・SK382・383・SP384・SK385・SP386～388平面・断面図……………	181
第48図	HZK2101地点出土遺物17 ……………	157	第74図	HZK2101地点北西エリア SK407・SP422・SK424～429平面・断面図……………	182
第49図	HZK2101地点北西エリア SK200・315・SP316・SK372・400平面・断面図……………	159	第75図	HZK2101地点北西エリア SP389・SK390～394・SI418・SP459・SK488～491平面・断面図……………	184
第50図	HZK2101地点出土遺物18 ……………	160	第76図	HZK2101地点北西エリア SK421・451・452・SP478～480・SK498・501・513・526平面・断面図……………	185
第51図	HZK2101地点出土遺物19 ……………	161	第77図	HZK2101地点北西エリア SP481・482・SK538・547・554・555・SP558平面・断面図……………	186
第52図	HZK2101地点北西エリア SK260・265・369・398・471平面・断面図……………	161	第78図	HZK2101地点出土遺物28 ……………	187
第53図	HZK2101地点北西エリア SD235・SK242・245・262・264・SP266・267・SE367平面・断面図……………	162	第79図	HZK2101地点出土遺物29 ……………	187
第54図	HZK2101地点出土遺物20 ……………	163	第80図	HZK2101地点北西エリア SP395・SK396・SP397・399・SK408・SP409～412平面・断面図……………	188
第55図	HZK2101地点出土遺物21 ……………	164	第81図	HZK2101地点北西エリア SK413・SP414・415・SK416・417・SP419・420・SK423・430・SP446・SK505平面・断面図……………	190
第56図	HZK2101地点北西エリア SK243・244・246～248・261・263平面・断面図……………	165			
第57図	HZK2101地点北西エリア SK249・250・SD251・SK312・313平面・断面図……………	166			

第82図	HZK2101地点北西エリア SK431・432・SP433・SK434・SP435・SK436～439・SP440～442・514平面・断面図……………	191
第83図	HZK2101地点北西エリアSP443～445・SK485・507・508・518～520平面・断面図……………	192
第84図	HZK2101地点出土遺物30……………	193
第85図	HZK2101地点北西エリア SP447～450・453～457・SK458・494・SP495・496・SK497・516・521・524平面・断面図……………	194
第86図	HZK2101地点北西エリア SP474～476・SK477・483・484・486・487・502～504・510・525・SP550平面・断面図……………	195
第87図	HZK2101地点北西エリア SK460・SP461～470・472・473・SK492・SP493・SK499・500平面・断面図……………	196
第88図	HZK2101地点北西エリア SK506・509・SP511・SK512・SP515・SK517・SP522・523平面・断面図……………	197
第89図	HZK2101地点北西エリア SK527～529・SP541・SK543平面・断面図……………	198
第90図	HZK2101地点北西エリア SK530・531・SP532・SK533～536・SP537・539・SK540・542・544・545・SP553平面・断面図……………	200
第91図	HZK2101地点北西エリアSP546・SK548・549・551・552・SP556・557平面・断面図……………	201
第92図	HZK2101地点出土遺物31……………	202
第93図	HZK2101地点出土遺物32……………	203
第94図	HZK2101地点出土遺物33……………	203
第1表	HZK2101地点遺構観察表……………	205
第2表	HZK2101地点遺構観察表……………	216
IV 分析と考察		
第1図	マルチプロット図(1)……………	240
第2図	マルチプロット図(2)……………	243
第3図	暦年較正結果(1)……………	251

第4図	暦年較正結果(2)……………	252
第5図	暦年較正結果(3)……………	253
第6図	暦年較正結果(4)……………	254
第7図	暦年較正結果(5)……………	255
図版1	箱崎遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真……………	236
図版2	箱崎遺跡出土木材の走査型電子顕微鏡写真……………	237
第1表	箱崎遺跡出土木材の樹種同定結果……………	233
第2表	箱崎遺跡出土木材の樹種同定結果一覧……………	235
第3表	測定試料および処理(1)……………	245
第4表	測定試料および処理(2)……………	246
第5表	測定試料および処理(3)……………	247
第6表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果(1)……………	248
第7表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果(2)……………	249
第8表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果(3)……………	250

#### V まとめと展望

第1図	調査区配置図……………	257
第2図	検出遺構図……………	259
第3図	第1段階(12世紀後半～13世紀前半)の遺構〈北半調査区〉……………	263
第4図	第1段階(12世紀後半～13世紀前半)の遺構〈南半調査区〉……………	264
第5図	第2段階(13世紀後半～14世紀前半)の遺構〈北半調査区〉……………	265
第6図	第2段階(13世紀後半～14世紀前半)の遺構〈南半調査区〉……………	266
第7図	第3段階(14世紀後半～15・16世紀)の遺構〈北半調査区〉……………	267
第8図	第3段階(14世紀後半～15・16世紀)の遺構〈南半調査区〉……………	268

## 写真図版一覧

巻頭図版1	HZK1903地点A区調査区全景／HZK1903地点B区調査区全景
巻頭図版2	HZK1903地点C1区調査区全景／HZK1903地点C区調査区全景
巻頭図版3	HZK1904地点調査区全景／HZK1904地点完掘
巻頭図版4	HZK2101地点調査区全景／HZK2101地点北西柱穴群
巻頭図版5	HZK2101地点ST33遺物出土状況／HZK2101地点SE37
写真図版1	1-1 HZK1903地点A区 エリアⅠ完掘 1-2 HZK1903地点A区 エリアⅡ完掘 1-3 HZK1903地点A区 エリアⅢ完掘

1-4	HZK1903地点A区 井戸SE001・002 セクション
1-5	HZK1903地点A区 井戸SE006
1-6	HZK1903地点B区 エリアⅠ完掘
1-7	HZK1903地点B区 エリアⅢ完掘
1-8	HZK1903地点B区 土坑SK55周辺
写真図版2	2-1 HZK1903地点B区 井戸SE58 2-2 HZK1903地点B区 井戸SE59・75～77 2-3 HZK1903地点B区 井戸SE60～66 2-4 HZK1903地点C2区完掘 2-5 HZK1903地点C2区 溝SD44完掘 2-6 HZK1903地点C2区 溝SD55完掘

	2-7	HZK1903地点 C2区	SX88出土状況
	2-8	HZK1903地点 C2区	SX88出土土器
写真図版 3	3-1	HZK1904地点	調査区完掘
	3-2	HZK1904地点	土坑 SK09完掘
	3-3	HZK1904地点	ピット SP18完掘
	3-4	HZK1904地点	土坑 SK31完掘
	3-5	HZK1904地点	ピット SP44完掘
	3-6	HZK1904地点	井戸 SE55完掘
	3-7	HZK1904地点	井戸 SE55井戸枠
	3-8	HZK1904地点	SX60完掘
写真図版 4	4-1	HZK2101地点	調査区全景
	4-2	HZK2101地点	溝 SD03~09完掘
	4-3	HZK2101地点	墓 ST33出土遺物
	4-4	HZK2101地点	井戸 SE37底面
	4-5	HZK2101地点	井戸 SE37断面
	4-6	HZK2101地点	土坑SK86遺物出土状況
	4-7	HZK2101地点	土坑SK89遺物出土状況
	4-8	HZK2101地点	井戸 SE93上面
写真図版 5	5-1	HZK2101地点	井戸 SE93完掘
	5-2	HZK2101地点	溝 SD235完掘
	5-3	HZK2101地点	溝 SD255完掘
	5-4	HZK2101地点	石組土坑 SK200完掘
	5-5	HZK2101地点	石組土坑 SK200断面
	5-6	HZK2101地点	石組土坑 SK367周辺
	5-7	HZK2101地点	石組土坑 SK367完掘
	5-8	HZK2101地点	竪穴 SI418完掘

写真図版 6	I 章	HZK1903地点出土遺物
		第6図14 / 第6図16 / 第21図2 / 第21図1内 / 第21図1外 / 第25図12 / 第29図3 / 第30図13 内 / 第30図13外 / 第30図5 / 第31図2 / 第33 図4 / 第33図7 / 第35図1 / 第35図10 / 第37 図2 / 第49図16 / 第52図21 / 第55図20 / 第57図10 / 第60図15

写真図版 7	II 章	HZK1904地点出土遺物
		第5図10 / 第9図11 / 第15図1 / 第15図3 / 第15図11 / 第15図19 / 第15図22 / 第16図1 / 第19図6 / 第19図12 / 第21図3 / 第21図4
	III 章	HZK2101地点出土遺物
		第13図1 / 第13図2 / 第16図9 / 第16図16 / 第19図51 / 第25図4

写真図版 8	III 章	HZK2101地点出土遺物
		第44図7 / 第50図2 / 第50図4 / 第50図14 / 第50図16 / 第55図1 / 第55図2 / 第58図3 / 第59図2 / 第59図5 / 第78図21 / 第79図5 / 第93図4 / 第93図5 / 第94図1 / 第94図5 / 第94図6 / 第94図7 / 第94図8 / 第94図14 / 第94図16

# I HZK1903地点（応力研生産研本館地点第2次調査）

## 1. 調査の経緯

### （1）調査の目的と経過

本調査地点は、箱崎キャンパス南エリアに所在した応力研生産研本館に位置する。キャンパス全体の発掘調査グリッド（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集I章第2図）ではO39・Q・R39～41にあたる。応力研生産研本館の基礎撤去工事が計画されたが、本調査地点の東側には、HZK1703地点（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集第IV章）やHZK1904地点（本報告書第II章）が、そして、その南東側にはHZK1804地点（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集第II章）が位置している。これらの調査地点では、12世紀後半から16世紀代の遺構が見つかっており、遺構面が複数検出されている地点も存在する。

また、本調査地点の北西～西側では、福岡市教育委員会による発掘調査が実施されており（箱崎遺跡第92次・第102次調査）、中近世の井戸や埋葬遺構など複数の遺構が確認されていた（阿部編 2022）。

こうした周辺における発掘調査成果を踏まえると、本調査地点においても中近世の活動痕跡が良好な形で残されていることが予想された。箱崎キャンパス南エリアにおける土地利用史の復元を目的とした発掘調査を計画し、平成31年4月22日付の福岡県教育委員会あて「九大統統第8号」にてHZK1903地点の埋蔵文化財発掘届を提出した。これに対して、福岡県教育委員会より令和元年6月7日付「1教文第497号」にて許可通知があり、9月18日に現地調査を開始した。

応力研生産研本館建物跡の北西部分にA区、南西にB区、北東にC1区、南東にC2区の4調査区を設けた（第1図）。

A区は応力研生産研本館の北西側に、15m×20mの調査区を設定した。重機によって調査区内を掘り進めたが、近現代以降の攪乱層・造成土が地表下2m付近まで及んでおり、遺跡の大部分が破壊されていることが判明した。調査区の北西側と南西側、そして中央部付近の地表下1m付近において、かろうじて遺構が複数残存していた。この調査区北西側を「エリアⅠ」、南西側を「エリアⅡ」、中央部付近を「エリアⅢ」として、調査を進めることとした（第2図）。各エリアの調査成果については後述する。また、重機掘削の途中で、エリアⅢの北側において煉瓦構築物を検出した（第2図）。その形状から判断して、配管をおさめるための構造物だと考える。写真測量で記録をとったのちに除去した。発掘調査は10月23日に無事終了した。

B区は応力研生産研本館の南西側に、HZK1903地点A区の調査区に接する形で、18m×20mの調査区を設定した。重機によって調査区内を掘り進めたが、HZK1903地点A区と同様、近現代以降の攪乱層・造成土が地表下2m付近まで及んでおり、遺跡の大部分が破壊されていることが判明した。調査区の南西側と東側、そして南側の地表下1m付近において、かろうじて遺構が複数残存していた。この調査区南西側を「エリアⅠ」、東側を「エリアⅡ」、南側を「エリアⅢ」として、調査を進めることとした（第11図）。各エリアの調査成果については後述する。

近現代以降の攪乱層を除去したところ、調査区北側の複数箇所、平面プランが大型の円形を呈する暗褐色砂層の堆積を確認した。その大きさから、HZK1903地点A区と同様、複数の井戸が密集して構築された痕跡ではないかと推察された。慎重に検出作業を試みたものの、遺構の平面プランは不明瞭で、遺構の切り合い関係などを把握することは困難であった。そのため、サブトレンチを設定す

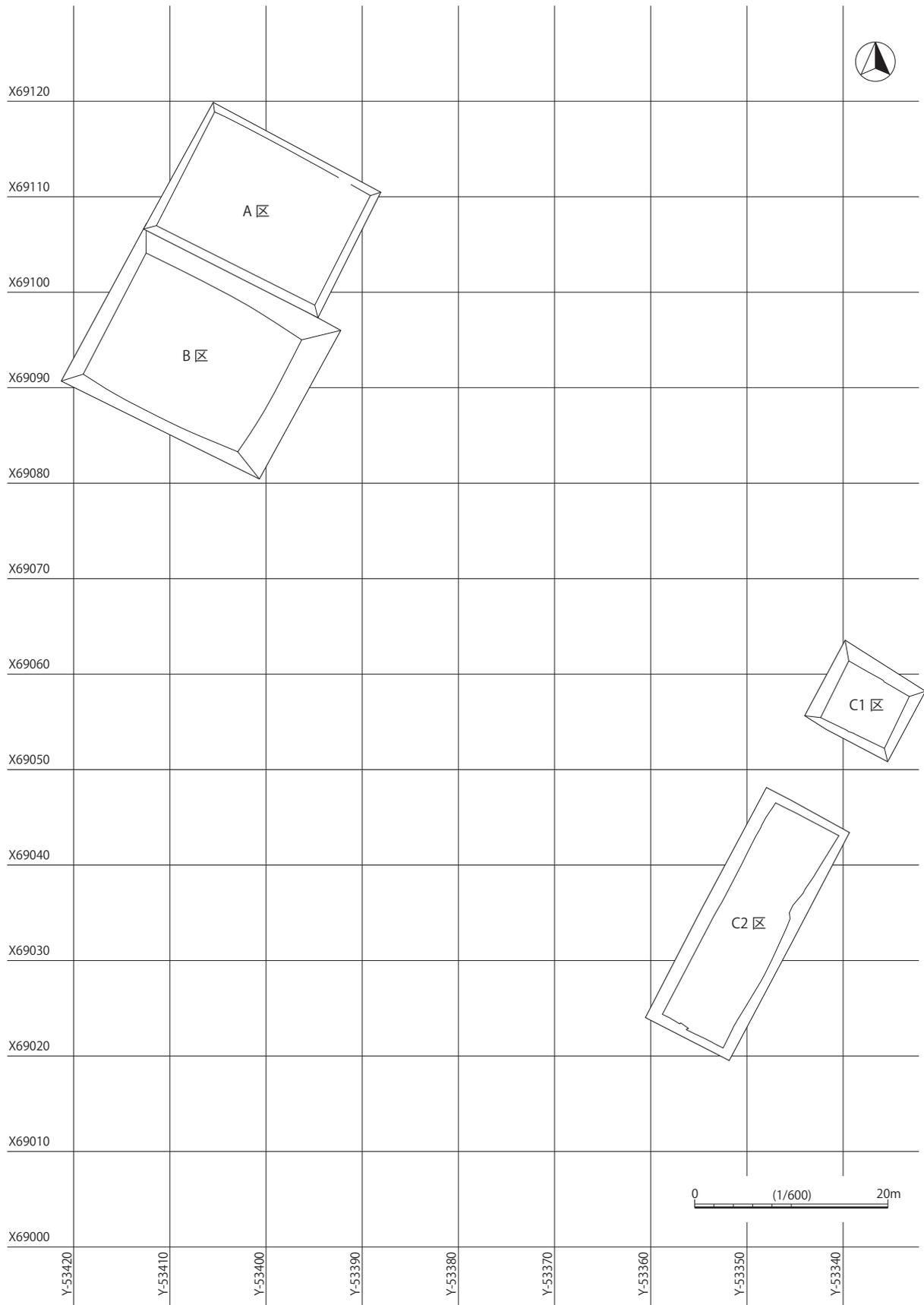
るなどして、土層断面の観察も併行して実施しながら、遺構の構造や切り合い関係の把握に努めた。  
発掘調査は令和2年1月24日に無事終了した。（福永将大）

C1区は応力研生産研本館の北東側に、10m × 9m の調査区、C2区は応力研生産研本館の南東側に10m × 27m の調査区を設定した。C1・C2区では100基を超える遺構が検出された。遺構の多くは土坑やピットで、中世の生活域と考えられる。位置的にも宮崎宮を中心に広がる中世箱崎遺跡の北端部にあつて、当時から地盤が安定していた地点と推測される。ほかに東西方向に延びる区画溝3条も検出された。一方でA・B区では合計20基以上の中世の井戸を検出したのに比べ、C1・C2区では1基にとどまった。これは浜堤及び鞍部の位置と関係すると考えられた。発掘調査は令和2年4月1日に無事終了した。

## （2）調査要項

遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス HZK1903地点 A 区（応力研生産研本館地点第2次調査）
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：HZK1903 福岡市調査番号：1923、箱崎遺跡第99次調査
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	1,170㎡（HZK1903地点全体の調査面積）
調査原因	開発事業（基礎撤去等）
調査期間	令和元年9月18日～令和2年4月1日
遺物量	コンテナ（内寸54cm × 34cm × 15cm）22箱
調査主体	九州大学埋蔵文化財調査室
発掘担当者	齋藤瑞穂、福永将大、三阪一徳
調査作業員	井上光江、浦崎てい子、大浦旗江、奥 敦子、大藺英美、門脇尚子、城野勝彦、 小林敏子、定永靖史、篠崎繁美、白石亜希子、節政善憲、竹本葉子、田代 薫、 田中悦子、田中ゆみ子、田野和代、堤 末子、永濱弘子、仲前富美子、中村尚美、 中山大輔、永瀬太平、西浦喜久子、西田和廣、東島真弓、松下さゆり、松下由希子、 三辻香奈子、宮原ゆかり、宮元亜希世、安里由利子、山田幹裕、吉田辰義
遺物整理担当	谷 直子
整理作業員	石井若香菜、犬山真弓、板倉佳代子、小名真理子、尾座本洋子、檜本真理、 坂口由美子、田邊八子、富田文代、富田麗子、濱古賀美和

（谷 直子）



第1図 HZK1903地点全体図

## 2. 遺構と遺物

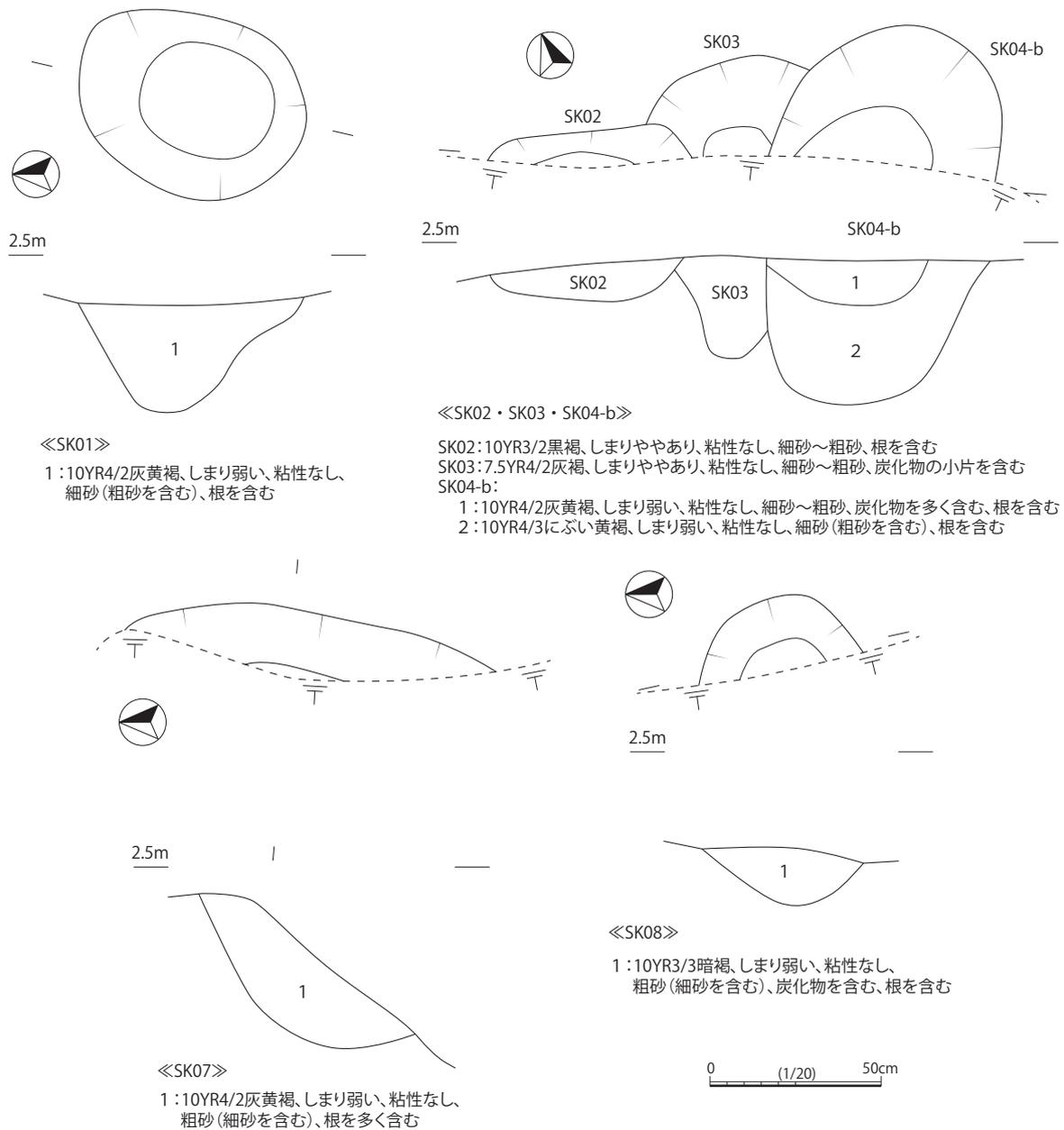
### A 区

#### (1) エリアI（第3～5図）

「エリアI」としたのは、調査区北西側の遺構が残存していたエリアである（第2図）。遺構の検出作業を行った結果、溝1条、土坑14基、ピット7基が見つかった。



第2図 HZK1903地点A区遺構配置図



第3図 HZK1903地点 A 区エリア I SK01～04-b・07・08 遺構平面・断面図

SK01 平面プランは楕円形を呈し、遺構北側の立ち上がりは、南側に比べて緩やかである。土師器片が出土したが、時期の特定は困難である。

SK02・SK03・SK04-b SK02・SK03・SK04-b は切り合い関係にあり、SK03→SK02・SK04-b の順番で構築されている。SK02とSK04-bの前後関係は不明。南側の大部分を近現代の攪乱により破壊されており、遺構の形状はよくわからない。SK04-bからは土師器の皿と坏、東播系捏鉢が出土している。捏鉢より遺構の時期は13世紀代か。SK02とSK03からは遺物は出土していない。

SK04-a・SK05・SK06 当初、SK04-aとSK04-bは一つの遺構として考えていたが、のちに二つの遺構が切り合っていることが判明した。しかし、SK04-aとSK04-b、また、SK04-aとSK06の切り合い関係を把握することができず、これらの前後関係は判然としない。SK05はSK06を切って構築





SP13 円形を呈するピットである。土師器鍋の小片が出土したが、時期は不明。

SK15 遺構南側の大部分を近現代の攪乱に破壊されており、様相は不明。遺物は出土していない。

SP16・SD17 SP16とSD17は切り合い関係にあり、SP16→SD17の順番で構築されている。SD17の遺構北側が、近現代の攪乱により破壊されている。SD17からは土師器小片が出土したが、時期の特定は困難である。SP16から遺物は出土していない。

SP19・SP20・SP21 切り合い関係にはないが、三つの円形を呈するピットが近接して構築されている。SP20から土師器小片が出土したのみで、SP19・SP21から遺物は出土していない。

SP22 エリアⅠの東端に存在しており、当該エリアの他の遺構とは空間的に離れた場所で検出された。遺構東側を近現代の攪乱によって破壊されているが、円形を呈するピットと考えられる。遺物は出土していない。（福永将大）

出土遺物と年代 第6図1～8はSK04-bの1層出土である。1～7は糸切り底の土師器で1は坏、2～7は皿である。8はやや軟質の須恵質の捏鉢である。玉縁状の口縁部外面は黒色を呈す。東播系と考えられ、東播系捏鉢は13世紀後半以降、在地の捏鉢に置き換わる（山本ほか 1997）

9～11はSK04出土である。9は陶器の磁竈窯産の黄釉盤である。大宰府編年の陶器盤Ⅱ類で、13世紀から14世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。10・11は糸切り底の土師器の坏である。

第6図12～15はSK05・06出土である。12は糸切り底の土師皿である。13は土師質の脚部である。14は滑石製石鍋を転用した石錘、15は滑石製石鍋の口縁部である。

第6図16～20はSK07出土である。16は青磁の小碗である。内面に片彫りの蓮華文を施す。胎土・釉調とも精良である。高台は低い角高台で、畳付と高台内面の釉を粗く掻き取り、掻き取った部分は赤みを帯びた茶褐色を呈す。これらの特徴から、13世紀中頃以降の所産と判断した。17は青磁碗で片彫りの分割線と飛雲文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。18～20は糸切り底の土師器で18・19は坏、20は皿である。（谷 直子）

## （2）エリアⅡ（第7図）

「エリアⅡ」としたのは、調査区南西側の遺構が残存していたエリアである（第2図）。遺構の検出作業を行った結果、土坑4基、ピット2基が見つかった。

SK24 遺構南側の大部分を近現代の攪乱によって破壊されており、様相は不明。遺物は出土していない。

SP25・SP26 切り合い関係にはないが、二つの円形を呈するピットが近接して構築されている。SP25・SP26ともに遺物は出土していない。

SK27 平面プランは長楕円形を呈する。遺物は出土しなかった。

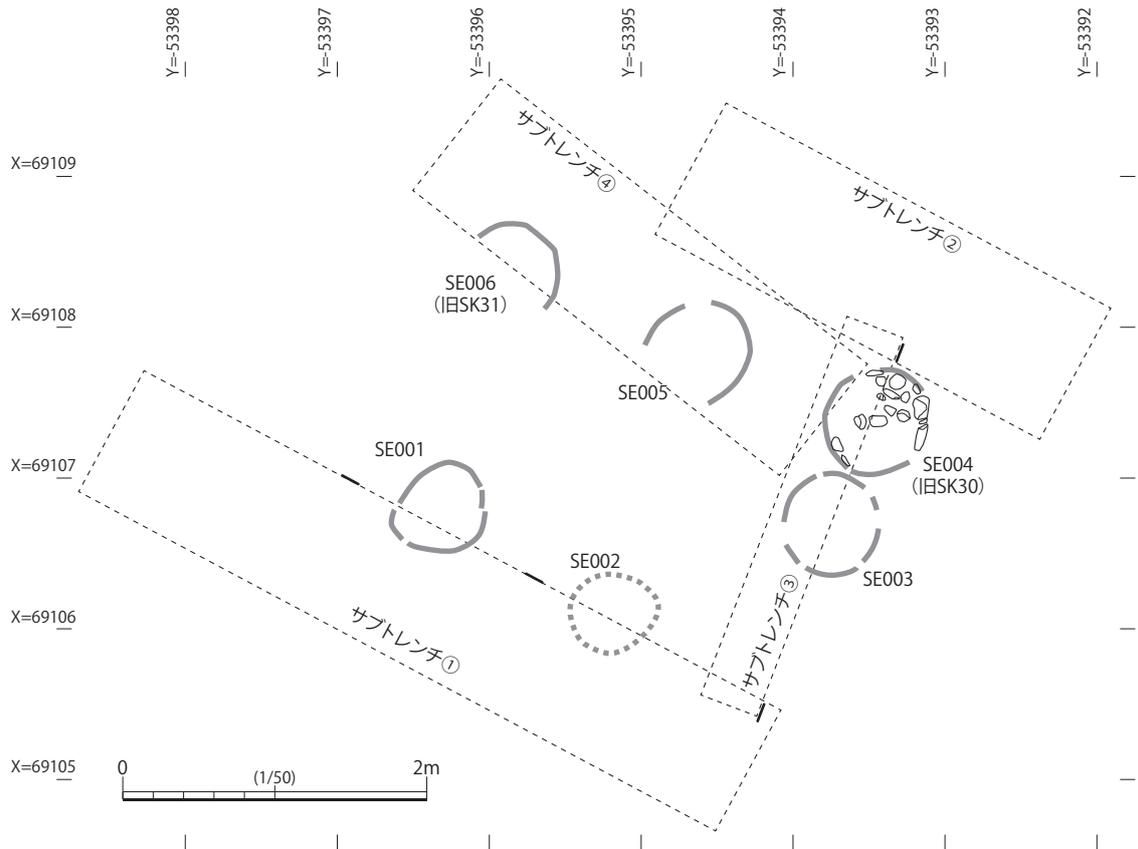
SK28 不整形の土坑である。出土遺物なし。

SK29 長楕円形を呈するが、遺構西側の大部分は調査区外に続いていると考えられ、遺構の形状は不明である。エリアⅠで検出されたSD17のような溝状遺構の可能性もある。遺物は出土していない。

## （3）エリアⅢ（第7～9図）

調査区南西側の遺構が残存していたエリアを「エリアⅢ」とした（第2図）。遺構の検出作業を行ったところ、7基の土坑を検出したが、当該エリアの東部分を中心に暗褐色砂が広がっており、明確な線引きができないものの、この付近にまだ遺構が存在している可能性があった。





第8図 HZK1903地点A区エリアⅢ井戸検出状況

SK35 平面プランは長楕円形を呈すると考えられるが、遺構北側の大部分を近現代の攪乱によって破壊されており、様相は不明。当初、近現代の攪乱と考えていたが、近現代の遺物は出土せず、攪乱と断ずることができなかった。青磁や陶器、瓦質土器、土師器の小片が出土している。

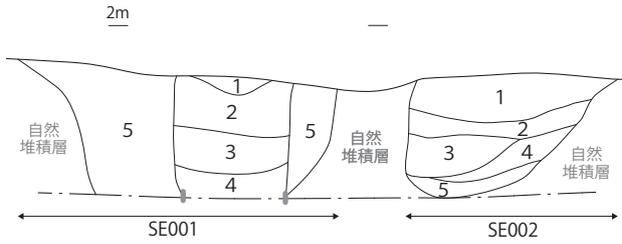
SK36 遺構南側の大部分を近現代の攪乱によって破壊されており、様相は不明。遺物は出土していない。

SE001・SE002 サブトレンチ①を設定して精査したところ検出した。SE001は主体部の木桶の痕跡を確認した。木材を採取できるほど残存状態は良くなかったが、幅1～1.5cm程度の有機質の痕跡が残っていた。木桶の直径は60cm程度。木桶の平面プランは正円形ではなく、やや三角形気味の円形を呈しており、一部で木材の継ぎ目がズレたような箇所も確認できる。1～4層とその両側に堆積している5層との境界に、縦幅1～1.5cm程度の黒褐色を呈する縦方向のラインを確認できる（第9図）。おそらくこれも主体部木桶の痕跡だと考えられる。5層は井戸の掘方の埋土に相当すると推察される。掘方に相当する部分からは13世紀後半から14世紀前半の龍泉窯系青磁や瓦質鍋が、井戸枠内部からは14世紀から15世紀代の陶磁器片が出土している。以上より、13世紀後半から14世紀前半に井戸が構築され、15世紀代まで利用されていた可能性がある。

SE002では木桶の痕跡を確認できなかったため、井戸と断定することはできないが、埋土の状況や周辺の井戸との比較から、当該遺構も井戸と判断した。土層断面でも木桶の痕跡などは確認できない（第9図）。土師器や陶器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SE003・SE004 サブトレンチ③を設定して精査したところ検出した。SE004は当初土坑と判断して調査していたが（旧SK30）、掘り進めても底面を検出することができなかった。そのため、サ

《サブトレンチ①北壁》



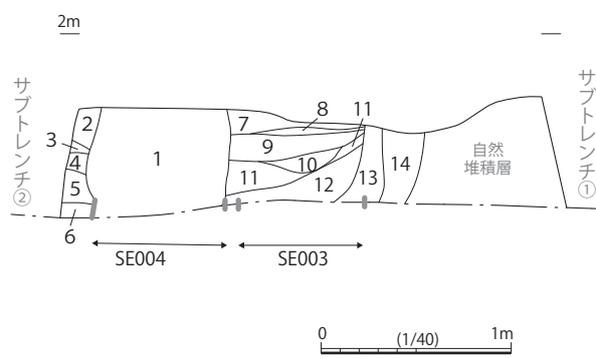
[SE001]

- 1: 10YR4/2 灰黄褐、しまりあり、粘性なし、粗砂(細砂を含む)、クサレ礫を多く含む
- 2: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(細砂を含む)、褐色の粗砂をブロック状に含む、炭化物を含む、クサレ礫を含む
- 3: 10YR4/2 灰黄褐、しまり強い、粘性なし、粗砂(細砂を含む)、炭化物を含む、クサレ礫を含む、水分を多く含む
- 4: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、細砂、部分的に褐色の粗砂を含む、水分を多く含む
- 5: 10YR4/4 褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(細砂を含む)、炭化物を含む

[SE002]

- 1: 10YR4/4 褐、しまりあり、粘性なし、粗砂(細砂を含む)、炭化物を含む
- 2: 7.5YR4/2 灰褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂、鉄分を含む
- 3: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(細砂を含む)、炭化物を含む、10YR4/2 の灰黄褐細砂をブロック状に含む
- 4: 10YR4/2 灰黄褐、しまり弱い、粘性なし、細砂(粗砂を含む)
- 5: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、細砂、部分的に褐色の粗砂を含む、水分を多く含む

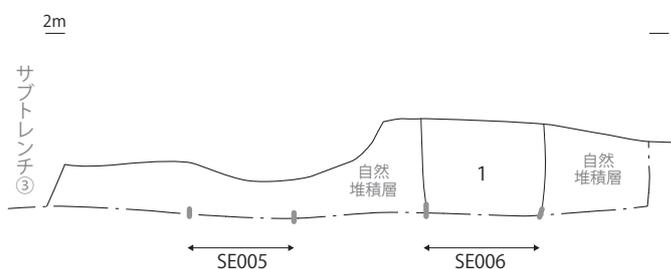
《サブトレンチ③東壁》



[SE003-SE004]

- 1: 10YR3/2 黒褐、しまりあり、粘性ややあり、細砂(粗砂を含む)、炭化物を含む、拳大の礫を多く含む
- 2: 10YR4/2 灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、粗砂(細砂を含む)
- 3: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、細砂(粗砂を多く含む)
- 4: 10YR4/2 灰黄褐、しまりあり、粘性なし、粗砂(細砂を多く含む)
- 5: 10YR3/2 黒褐、しまりあり、粘性なし、粗砂(細砂を多く含む)
- 6: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、細砂(粗砂を含む)
- 7: 10YR4/2 灰黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(細砂を含む)
- 8: 10YR3/1 黒褐、しまりあり、粘性ややあり、細砂
- 9: 10YR4/4 褐、しまり弱い、粘性なし、細砂(粗砂を含む)
- 10: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、細砂(粗砂を含む)
- 11: 10YR4/2 灰黄褐、しまり弱い、粘性なし、細砂~粗砂
- 12: 10YR4/3 にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、細砂~粗砂
- 13: 10YR3/2 黒褐、しまりややあり、粘性ややあり、細砂
- 14: 10YR4/2 灰黄褐、しまりややあり、粘性なし

《サブトレンチ④南壁》



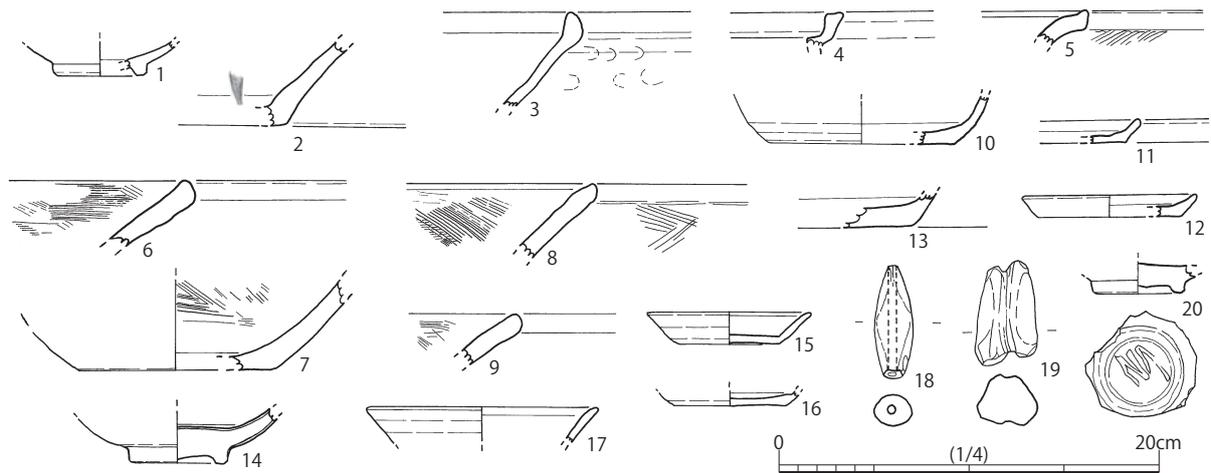
[SE006]

- 1: 10YR4/2 灰黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(細砂を含む)、炭化物を含む、10YR4/3 にぶい黄褐の粗砂をブロック状に含む

第9図 HZK1903地点 A 区エリアⅢサブトレンチ土層断面図

ブトレンチを設定してさらに深く掘り進めてみたところ、サブトレンチ底面で幅1~1.5cm程度の木桶の痕跡を確認し、当該遺構は井戸であったことが判明した。木桶の直径は70cm程度で、木桶の内側に相当する埋土からは拳大の礫が多量に出土した。木桶の痕跡はサブトレンチ底面のみで確認でき、SE001のように土層断面でその痕跡を確認することはできなかった。SE004からは、14世紀代と考えられる須恵器片が出土しているが、磨滅が著しく詳細不明である。

SE004の木桶の南隣から、もう一つ木桶を検出した。これをSE003とする。木桶の直径はSE004と同様で70cm程度。木桶の幅は1~1.5cm程度である。SE004は、サブトレンチ③東壁において、木桶を中心とした井戸の構造を把握することができたのに対し、SE003は検出した木桶に対応するような堆積状況を確認することができなかった(第9図)。こうした堆積状況から、SE003が先行して構築されていたが、その後、SE003を破壊して、SE004を構築したことが窺える。なお、SE003からは13世紀後半から14世紀前半の所産と考えられる口禿の白磁小片が出土している。



第10図 HZK1903地点A区出土遺物2

SE005・SE006 SE006は当初SK31として検出したものの、調査を進める中で埋土の状況などから近現代の攪乱と判断した。埋土は灰黄褐色の粗砂で、炭化物や褐色の粗砂をブロック状に含んでいた。しかし、埋土を掘り進めても底面を検出することができず、かつ、確実な近現代の遺物も出土しなかったため、サブトレンチ④を設定して精査することにした。その結果、攪乱として掘り進めていた旧SK31の平面プランに対応する位置で、サブトレンチ底面において幅1～1.5cm程度の木桶の痕跡を確認した。木桶の直径は60cm程度。旧SK31は井戸であったことが判明したため、旧SK31をSE006と呼称を改めた。サブトレンチ④南壁で土層断面を精査したものの、旧SK31の外側は自然堆積層のみが見られ、井戸の掘方の痕跡などを確認することはできなかった(第9図)。SE006からは、13世紀後半～14世紀前半の所産と考えられる白磁小片や、陶器片が複数出土している。

SE006の木桶の東側で、直径70cm程度の木桶の痕跡を確認した。これをSE005とする。サブトレンチ④南壁で土層断面を精査したものの、SE005の痕跡を確認することはできなかった。SE005からは15世紀～16世紀代と考えられる陶器片が少数出土している。

サブトレンチ④南壁では、自然堆積層の認定基準の一つである細砂と粗砂の縞状の互層堆積を確認できたが、一部で縞状構造のゆがみが認められるなど、他の地点で見られる自然堆積層とは異なる様相が見られた。直上まで近現代の攪乱が及んでいたことを踏まえると、攪乱に伴う何らかの営力によって、堆積状況が間接的に乱された可能性がある。SE005の痕跡やSE006の井戸掘方の痕跡を確認できなかった理由として、こうした堆積状況の攪乱が挙げられるかもしれない。(福永将大)

出土遺物と年代 第10図1～4はSE001出土である。1は青磁碗で、釉は白濁し発色が悪く、龍泉窯系青磁碗Ⅳ類である。時期は14世紀以降である。2は陶器の黄釉鉄絵盤である。磁竈窯の産で、11世紀後半から12世紀前半のものである(宮崎編 2000)。3は東播系須恵器の捏鉢である。固く焼き締まっており、玉縁状の口縁部外面は黒色を呈す。東播系捏鉢は13世紀後半以降、在地の捏鉢に置き換わる(山本ほか 1997)。4は瓦質土器の口縁部である。端部外面は黒色を呈す。

5はSE003出土の須恵質の口縁部である。強く外反し、端部をつまみ上げる。壺の口縁部か。

6～13はSE004出土である。6～9は瓦質土器の捏鉢で、6と7は同一個体の可能性が高い。捏鉢は13世紀以降在地化が進む(山本ほか 1997)。10～12は糸切り底の土師器で、10は坏、11・12は皿である。13は滑石製石鍋の底部である。

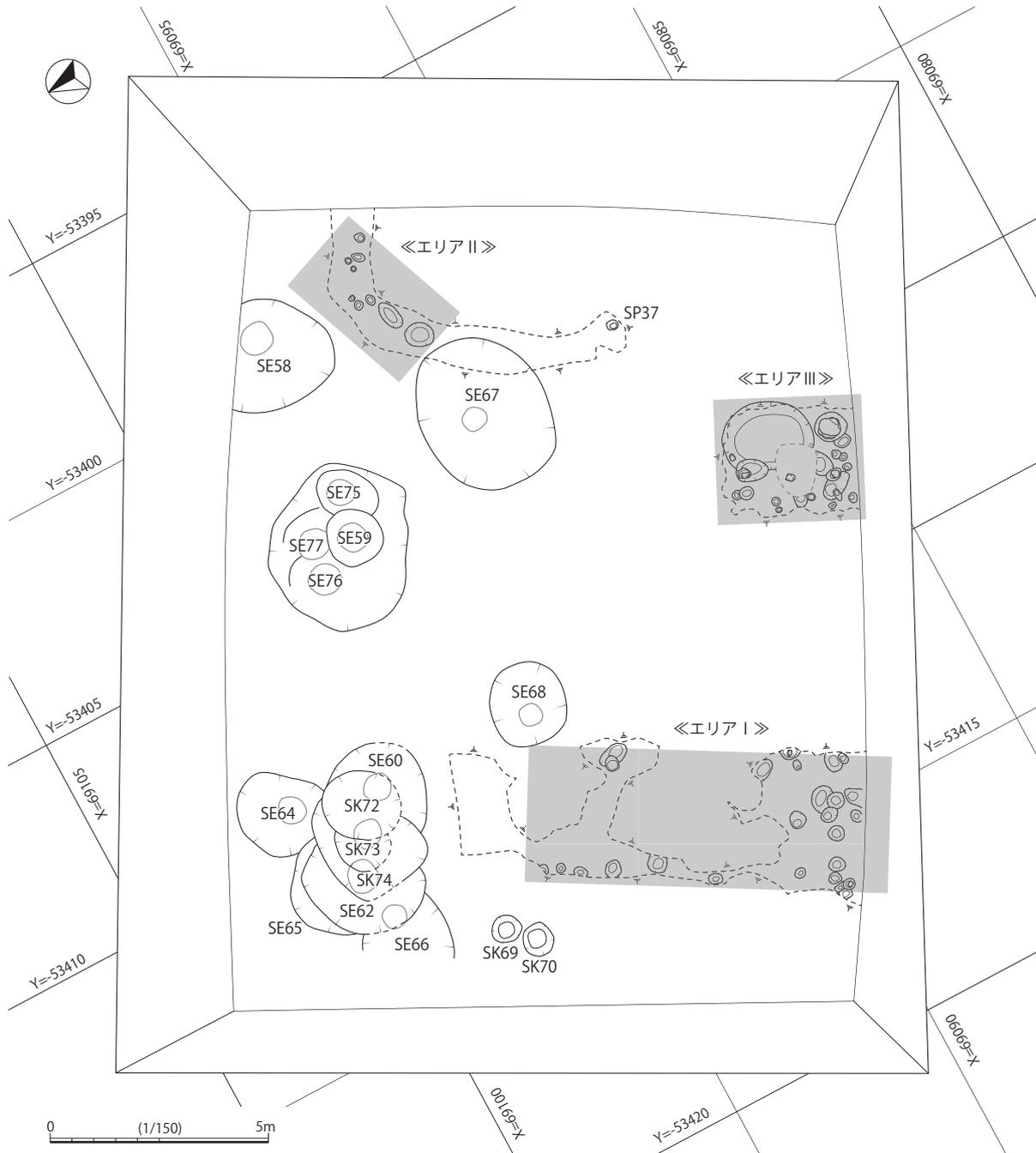
14～19はSE006出土である。14は青磁碗である。外面に鎬蓮弁文を施し、低い高台が付く。大宰府

編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ類で13世紀前半頃の所産である。15・16は白磁皿である。15は口禿で、大宰府編年の白磁皿Ⅸ-1a類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。17は土師器の坏口縁部である。18は土錘、19は滑石製石錘である。

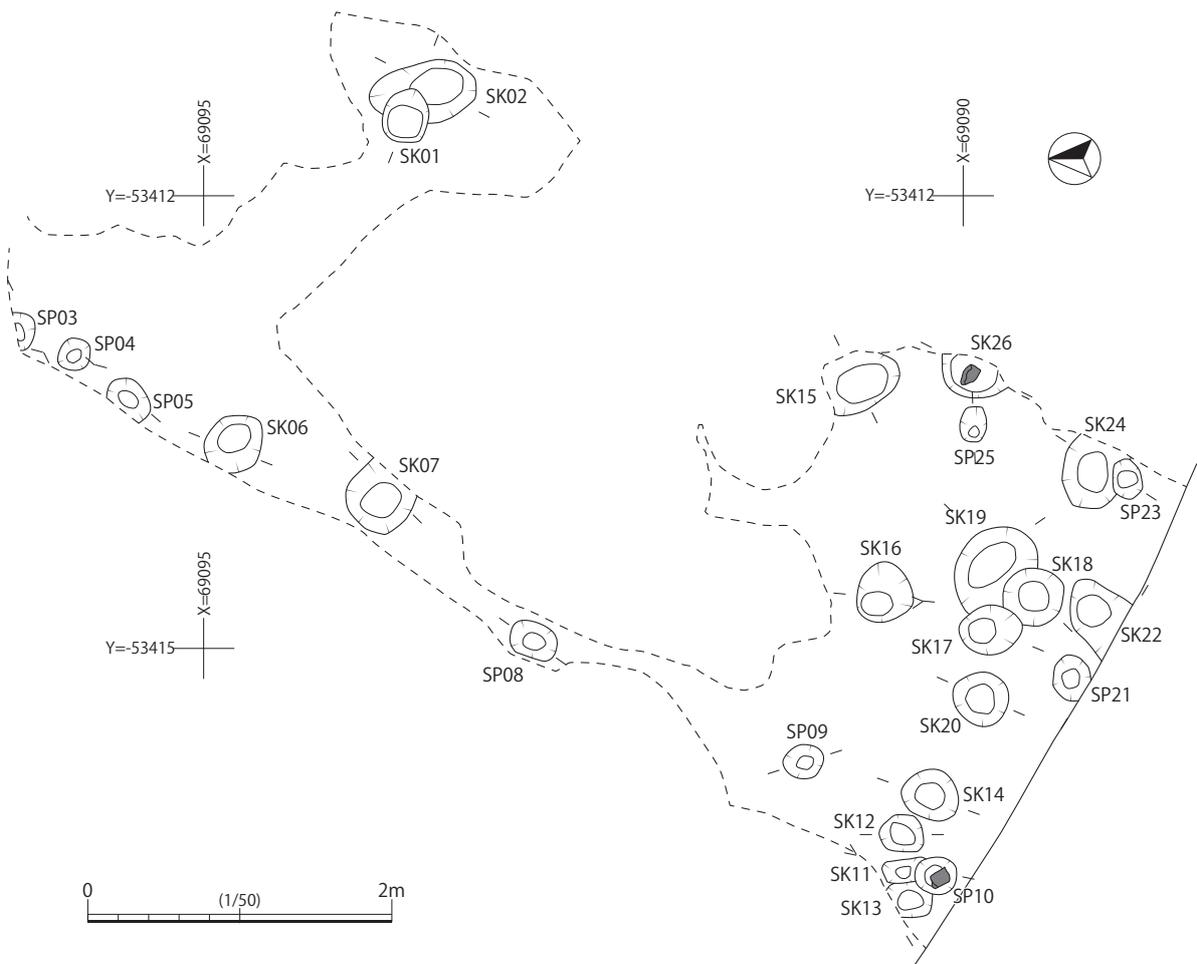
(4) 遺構外出土遺物

第10図20は遺構外出土の青磁碗である。高台部内面に墨書を施す。

(谷 直子)



第11図 HZK1903地点B区遺構配置図



第12図 HZK1903地点B区エリアI遺構配置図

## B区

### (1) エリアI（第12～14図）

「エリアI」としたのは、調査区南西側の遺構が残存していたエリアである（第11図）。遺構の検出作業を行った結果、土坑17基、ピット9基が見つかった。

SK01・SK02 SK01とSK02は切り合い関係にあり、SK02→SK01の順番で構築されている。SK01から土師器や陶器の小片、SK02から瓦質土器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SP03・SP04・SP05 切り合い関係にはないが、三つの円形を呈するピットが近接して構築されている。SP03とSP05の遺構西側は近現代の攪乱によって破壊されている。SP03から土師器坏の小片、SP05からは白磁碗の小片が出土した。SP04から遺物は出土していない。

SK06 平面プランは円形を呈する。土師器や瓦質土器の小片が出土した。

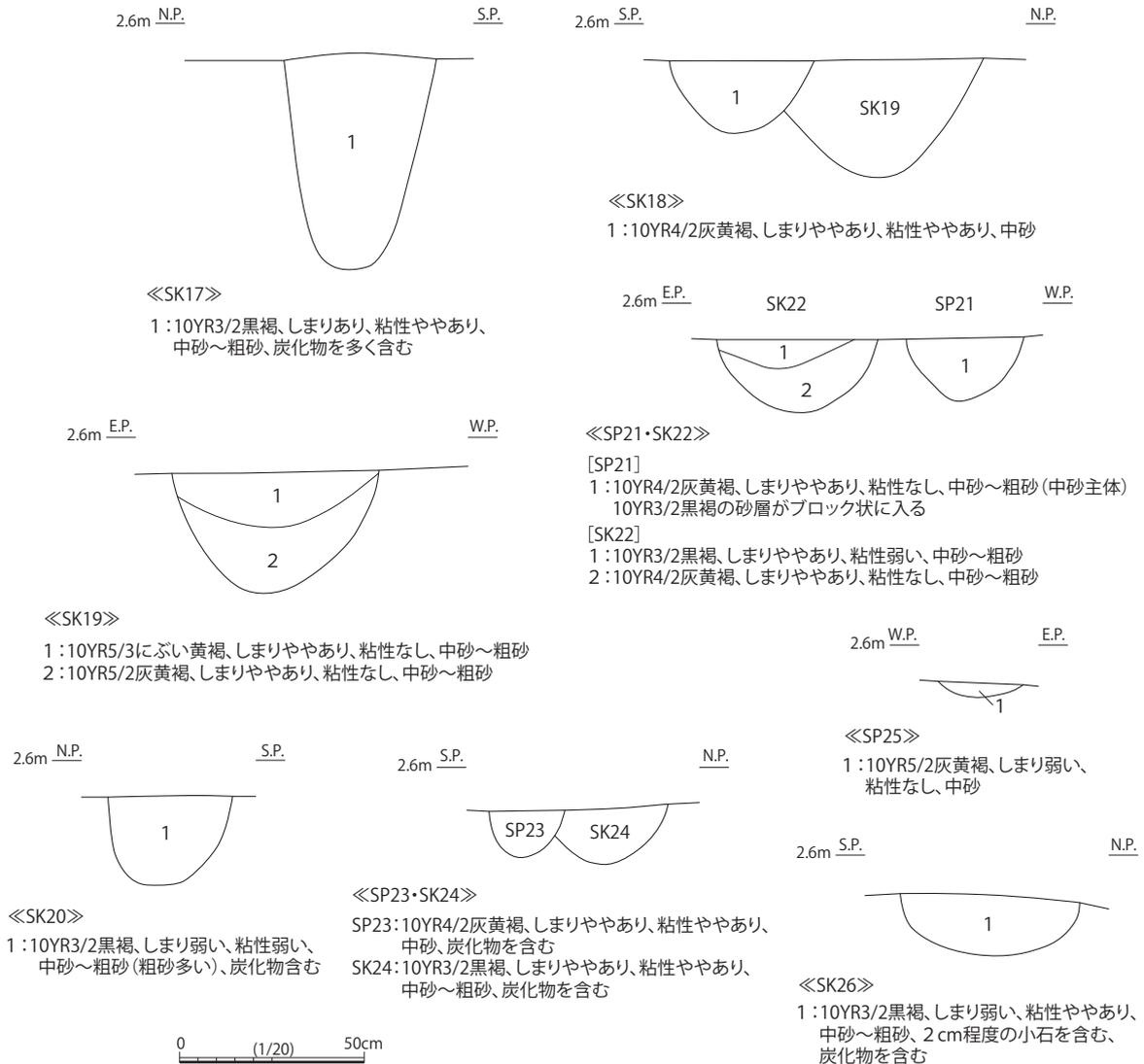
SK07 遺構東側を近現代の攪乱によって破壊されているが、おそらく平面プランは楕円形を呈すると考えられる。土師器や瓦質土器の小片が出土した。

SP08 円形を呈するピットである。遺物は出土していない。

SP09 円形を呈するピットである。遺物は出土していない。

SP10・SK11・SK13 SP10・SK11・SK13は切り合い関係にあり、SK13→SK11→SP10の順番





第14図 HZK1903地点 B 区エリア I SK17～20・SP21・SK22・SP23・SK24・SP25・SK26 遺構断面図

SK14 平面プランは円形を呈する。13世紀後半の龍泉窯系青磁碗が出土しており、遺構の時期を示すと考えられる。

SK15 遺構北側を近現代の攪乱によって破壊されているが、平面プランは楕円形を呈すると考えられる。土師器や瓦質の捏鉢が出土しているが、時期の特定は難しい。

SK16 平面プランは円形を呈する。土師器坏の小片が出土している。

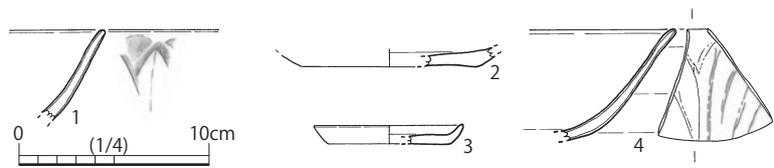
SK17・SK18・SK19 SK17・SK18・SK19は切り合い関係にあり、SK19→SK18→SK17の順番で構築されている。平面プランは円形を呈し、大きさも類似しているが、SK17は他の二つに比べて掘り込みが深い。いずれの遺構からも土師器小片などが出土しているが、時期の特定は困難である。

SK20 円形を呈する土坑である。土師器小片が出土した。

SP21 円形を呈するピットで、遺構南側は調査区外に続いている。遺物は出土していない。

SK22 平面プランは不整形で、遺構南側は調査区外に続いている。青磁や陶器、瓦質土器、土師器の小片が出土しているが、時期は特定できない。

SP23・SK24 SP23とSK24は切り合い関係にあり、SK24→SP23の順番で構築されている。SK24の遺構東側は近現代の攪乱によって破壊されている。SP23から土師器の小片が、SK24から白磁の小片や土師器の小片が出土している。



第15図 HZK1903地点 B 区 SK14・15・SP25出土遺物

SP25 円形を呈するピットである。13世紀後半の龍泉窯系青磁碗が出土しており、遺構の時期を示すと考えられる。

SK26 遺構東側は近現代の攪乱によって破壊されているが、平面プランは円形を呈すると考えられる。10cm 大のやや扁平な碟が出土しているが、遺構に伴うものか不明である。白磁や土師器の小片が出土している。(福永将大)

出土遺物と年代 第15図1はSK14出土の青磁碗である。外面に鎬蓮弁文を施す。釉調は青緑色で厚く施釉する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ-b類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である(宮崎編 2000)。

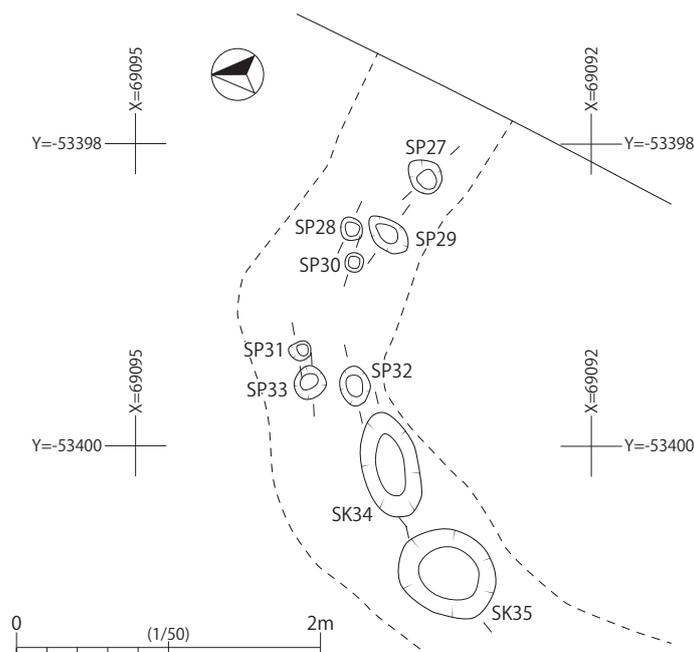
2・3はSK15出土の糸切り底の土師器で、2は坏、3は皿である。

4はSP25出土の鎬蓮弁文の青磁碗である。釉調は青緑色で厚く、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ類である。13世紀中頃から14世紀初頭の所産である(宮崎編 2000)。(谷 直子)

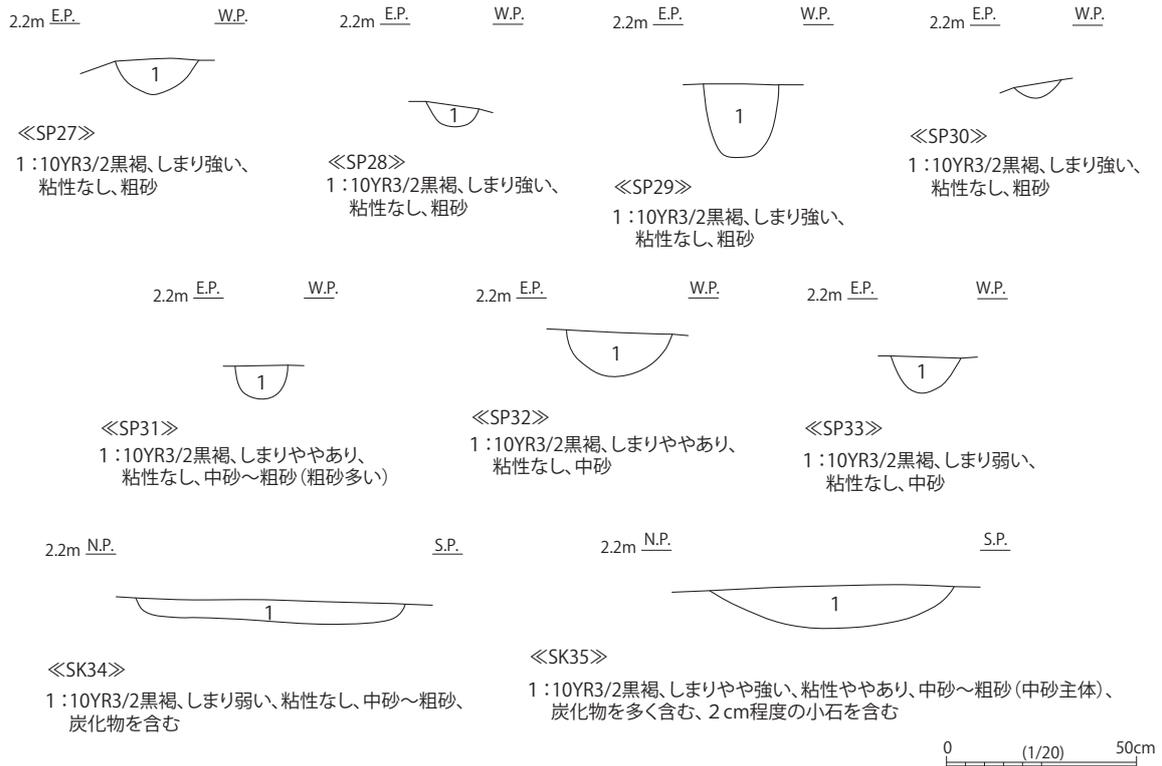
## (2) エリアⅡ (第16・17図)

「エリアⅡ」としたのは、調査区東側の遺構が残存していたエリアである(第11図)。遺構の検出作業を行った結果、土坑2基、ピット7基が見つかった。

SP27 円形を呈するピットである。遺物は出土していない。



第16図 HZK1903地点 B 区エリアⅡ 遺構配置図



第17図 HZK1903地点 B 区エリアII SP27~33・SK34・35遺構断面図

SP28・SP29・SP30 切り合い関係にはないが、三つのピットが近接して構築されている。SP29は楕円形を呈し、他の二つは円形を呈する。いずれからも遺物は出土していない。

SP31・SP32・SP33 切り合い関係にはないが、三つのピットが近接して構築されている。SP32は楕円形を呈し、他の二つは円形を呈する。いずれからも遺物は出土していない。

SK34 平面プランは長楕円形を呈する。検出面からの深さは7cm程度と浅い。土師器や瓦、石鍋の小片が出土したが、時期の特定は難しい。

SK35 楕円形を呈する土坑である。土師器鍋の小片が出土している。

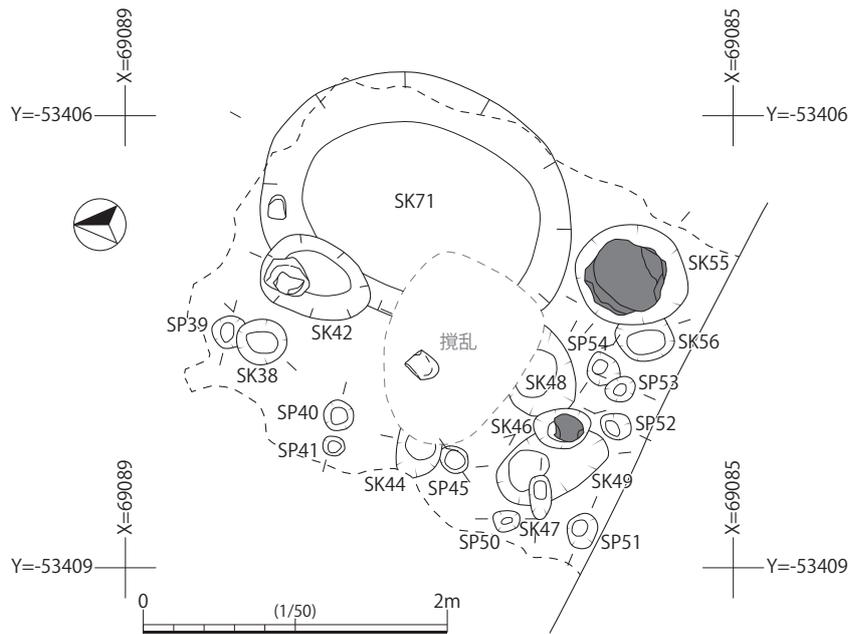
### (3) エリアIII (第18~20図)

「エリアIII」としたのは、調査区南側の遺構が残存していたエリアである(第11図)。遺構の検出作業を行った結果、土坑10基、ピット9基が見つかった。

SK38・SP39 SK38とSP39は切り合い関係にあり、SP39→SK38の順番で構築されている。ともに平面プランは円形を呈する。いずれからも遺物は出土していない。

SP40・SP41 切り合い関係にはないが、二つの円形を呈するピットが近接して構築されている。SP40から土師器小片が出土した。SP41から遺物は出土していない。

SK42・SK71 SK42とSK71は切り合い関係にあり、SK71→SK42の順番で構築されている。SK71は、当初、その大きさから井戸ではないかと考えていたが、調査を進めたところ、主体部の木桶なども確認できず、井戸ではなく土坑であると判断した。遺構上面北側で10cm大の扁平な礫を検出したが、遺構に伴うものではない。SK71からは、12世紀後半の所産と考えられる白磁皿や青磁碗が出土しているが、13世紀から14世紀前半のものと考えられる黄釉盤も出土している。遺構の年代は



第18図 HZK1903地点 B 区エリアⅢ遺構配置図

この黄釉盤が示していよう。

SK42は、底面から15cm程度上方から30cm大の扁平な礫が出土している。遺構北側に偏って出土しており、遺構平面プランの形状からみても柱穴の可能性は低いと考えられる。土師器小片が出土しているが、時期の特定は困難である。

SK44・SP45 SK44とSP45は切り合い関係にあり、SP45→SK44の順番で構築されている。

SK44は遺構東側を近現代の攪乱によって破壊されているが、平面プランは楕円形を呈すると考えられる。SK44からは土師器小片が出土している。SP45から遺物は出土していない。

SK46・SK47・SK48・SK49 SK46・SK47・SK48・SK49は切り合い関係にあり、SK48・SK49→SK46・SK47の順番で構築されている。SK48とSK49、SK46とSK47、SK47とSK48の前後関係は不明である。SK46は、底面付近で20cm大の扁平な礫が出土している。礎石を伴う柱穴の可能性もある。SK49は、遺構西側が深く掘り込まれており、遺構検出面から85cm程度の深さがある。柱穴の可能性もあるが、性格は不明である。SK46とSK47からは土師器小片などが出土しているが、時期の特定は難しい。SK48とSK49から遺物は出土していない。

SP50 円形を呈するピットである。遺物は出土していない。

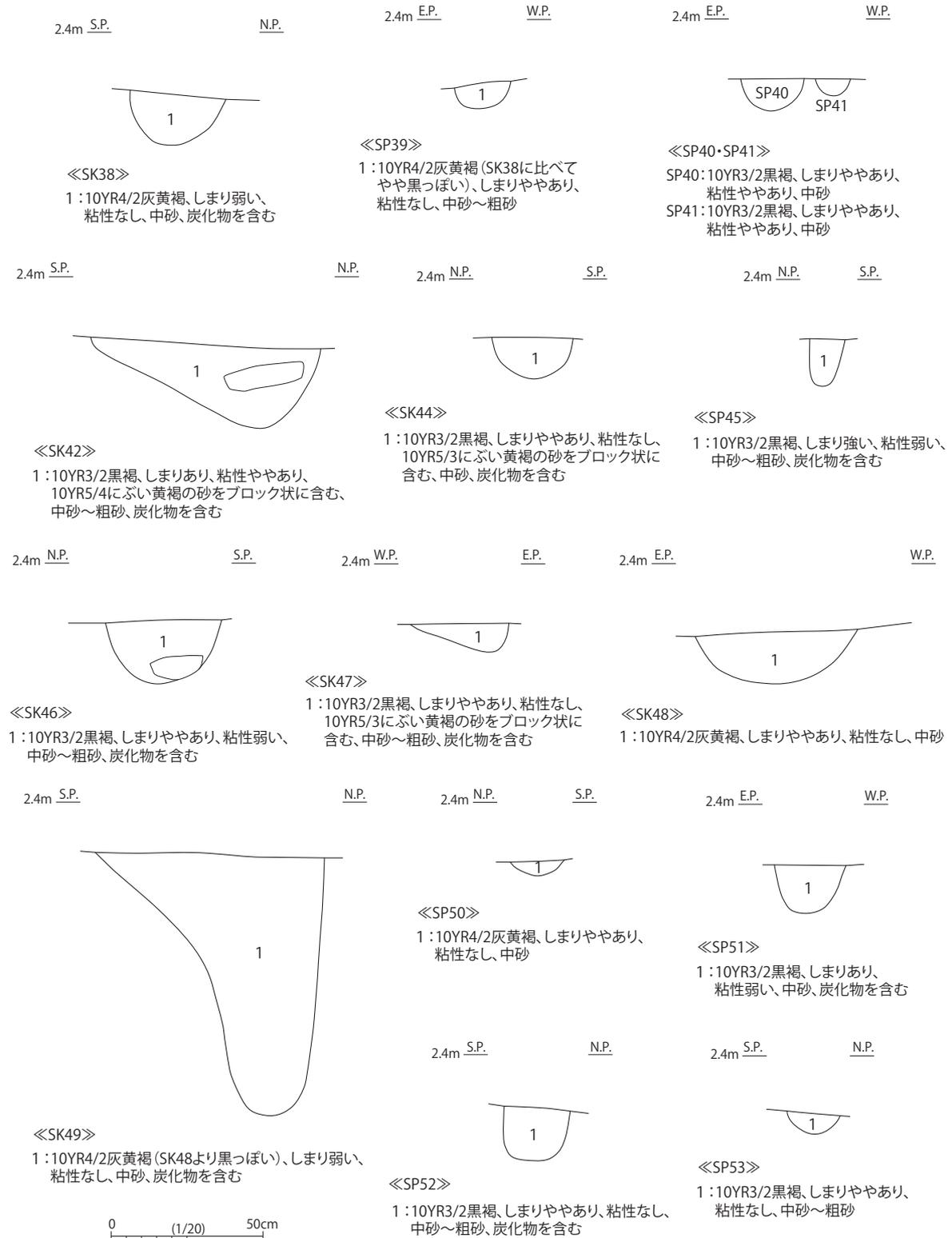
SP51 円形を呈するピットである。遺物は出土していない。

SP52 円形を呈するピットである。遺物は出土していない。

SP53・SP54 SP53とSP54は切り合い関係にあり、SP54→SP53の順番で構築されている。いずれからも遺物は出土しなかった。

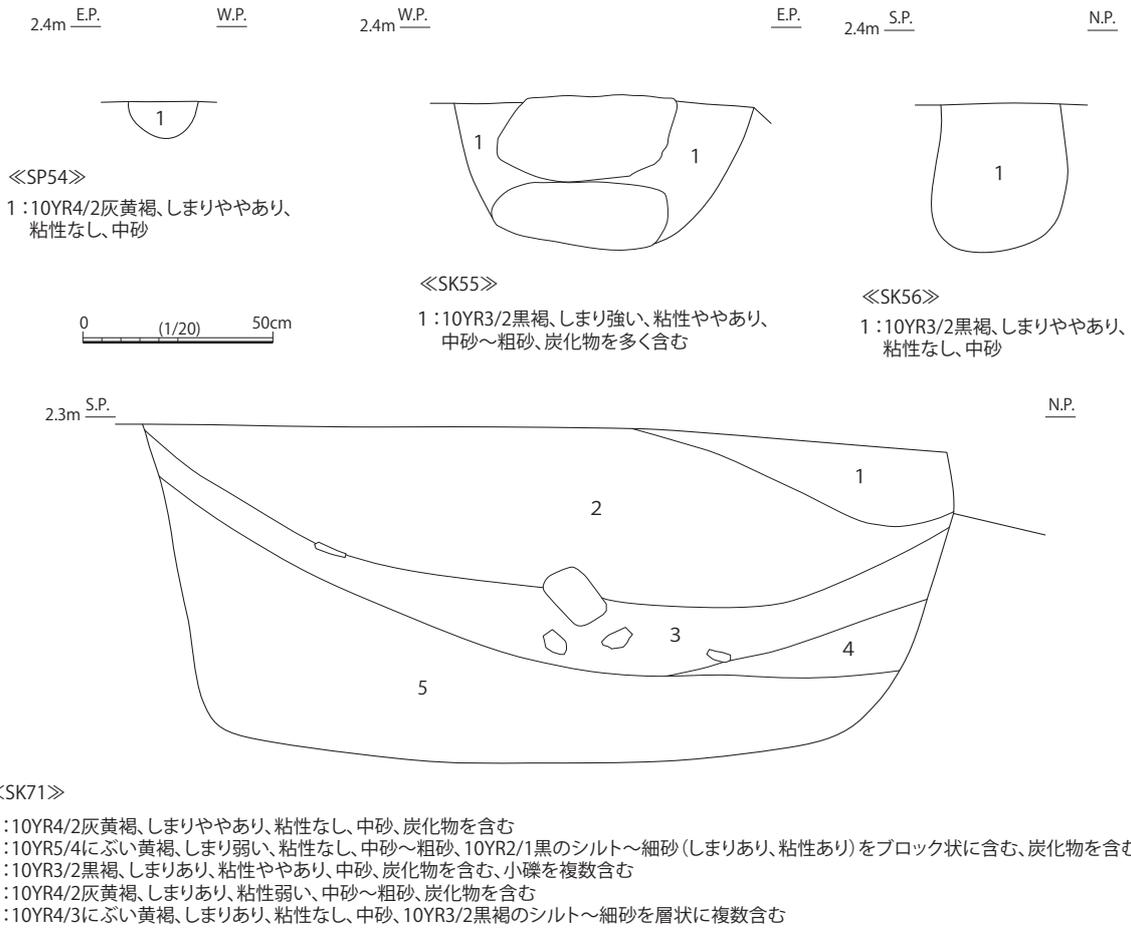
SK55・SK56 SK55とSK56は切り合い関係にあり、SK56→SK55の順番で構築されている。SK55からは、直径50cm程度、厚さ20cm程度の大型の礫が、二つ積まれた状況で出土している。下の礫は遺構底面に据えられており、礎石を伴う柱穴の可能性が高い。礫の大きさに加え、二つ積んで構築していることから、かなり大きな建築物だったのではないかと推察される。SK55からは瓦器碗が出土しており、12世紀代の所産と考えられる。底部ヘラ切りの土師器坏も出土しており、遺構の時

I HZK1903地点 (応力研生産研本館地点第2次調査)

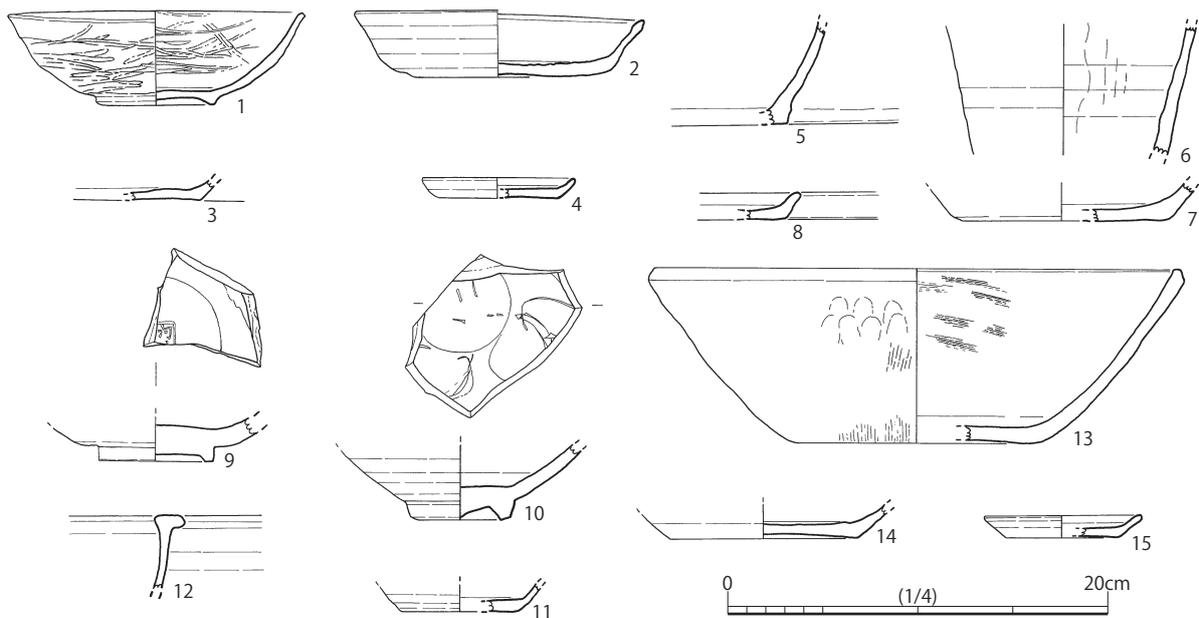


第19図 HZK1903地点 B区エリアIII SK38・SP39～41・SK42・44・SP45・SK46～49・SP50～53遺構断面図

期も12世紀代と考えると問題なからう。SK56からは青磁や土師器の小片が出土しているが、時期の特定は困難である。  
(福永将大)



第20図 HZK1903地点 B 区エリアⅢ SP54・SK55・56・71遺構断面図



第21図 HZK1903地点 B 区 SK55・71出土遺物

出土遺物と年代 第21図1～4はSK55出土である。1は瓦質土器の碗である。粘土紐を巻き付けた低い高台が付く。内外面ともミガキ調整。2は底部がヘラ切りの土師器の坏である。3は糸切り底の土師器の坏である。4は糸切り底の土師皿である。土師器の坏と皿は、12世紀中頃では糸切り・ヘラ切りが半々ほど共存するが、12世紀後半以降は糸切りのみになる（山本ほか 1997）。

5はSK71の1層出土の陶器の黄釉盤底部である。黄釉盤は11世紀以降流入する（宮崎編 2000）。

6・7はSK71の3層出土である。6は褐釉陶器の壺胴部である。内外面とも回転ヘラケズリで成形する。7は糸切り底の土師器の坏である。

8はSK71の4層出土の糸切り底の土師皿である。

9～15はSK71出土である。9・10は青磁碗である。断面四角の高台で、器壁は厚く、体部外面の高台部付近から高台内面まで露胎である。9は見込みに文字印文がある。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 I-1c 類。10は見込みに圈線がめぐり、内面に片彫りの草花文を施す。龍泉窯系青磁碗 I-2類。いずれも12世紀中頃から後半の所産である。11は白磁の皿である。内面屈曲部に沈線状の段を有し、小型品である。平底の底部外面の釉は施釉後に削り取る。白磁皿 VIII-1a 類で、12世紀中頃から後半の所産である。12は陶器の黄釉盤である。胎土に混入物が少なく、L字形の口縁部の釉を拭き取る。盤 II 類で13世紀から14世紀前半の所産（宮崎編 2000）。13は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本ほか 1997）。14・15は糸切り底の土師器で14は坏、15は皿。（谷 直子）

#### （4）井戸

SE58（第22図） 調査区北東部で見つかった井戸である。遺構検出時に、井戸主体部と推定される位置に、幅25cm程度の粘質土が帯状にまわっていることを確認していた（第22図上図）。遺構を半裁して土層断面を精査したところ、粘質土は幅25cm程度を保ちながら、井戸主体部の外側に沿うような形で下方まで続いており、間に暗褐色砂層を挟みつつ互層状に堆積していることがわかった。おそらく井戸主体部の木桶を固定するために、施した処置の痕跡だと考えられる。

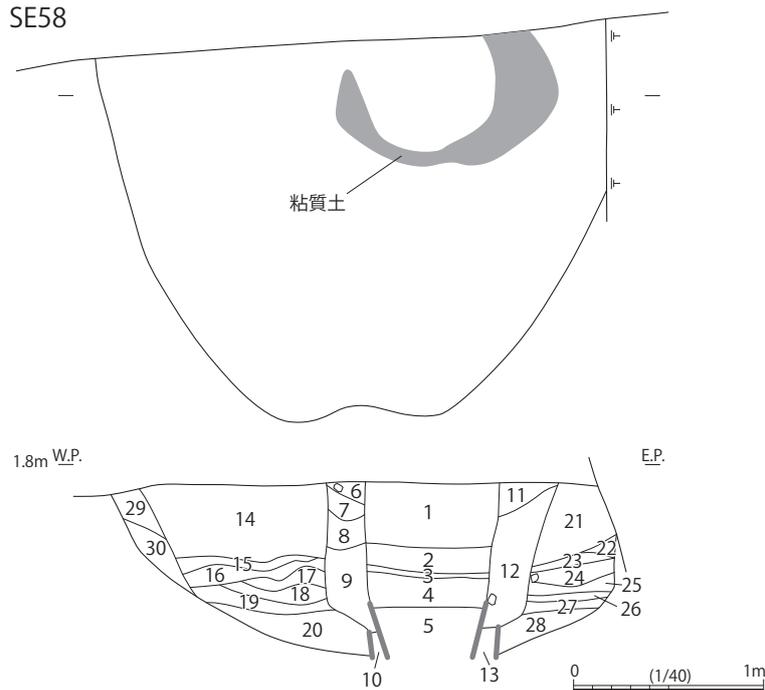
底面で円形木桶の痕跡が見つかっており、一部木材も残存していた。注目されるのは、円形木桶が二重をなして見つまっていることである。内側の木桶は、断面が逆「ハ」字状をなしており、上方は直径60cm程度、下方は50cm程度。外側の木桶は、内側の木桶ほど明確ではないが、逆「ハ」字状の断面をなしており、上方は直径70cm程度、下方は65cm程度を測る。内側と外側の木桶の間に隙間があり、砂が介在していることは気になるものの、複数の木桶を上下に重ねる形で連ねて、井戸の主体部としたことが窺える。

井戸主体部や掘方からは、13世紀後半から14世紀前半の所産と考えられる白磁や青磁、陶器が出土しており、これらの遺物が井戸の構築時期を表していると考えられる。ただ、井戸主体部からは15世紀後半以降のものと考えられる朝鮮雑釉陶器が出土しており、井戸の使用はその時期まで継続していた可能性がある。

なお、円形木桶の部材2点を対象に放射性炭素年代測定を実施したところ、1356-1392 cal AD (56.33%)、1076-1156 cal AD (55.12%) の測定値を示した<sup>1)</sup>。（福永将大）

出土遺物と年代 第23図1～3はSE58の15～19層出土である。1は平底の白磁皿で、釉調は空色を帯びた灰白色を呈す。底部外面にも施釉する。大宰府編年の白磁皿 IX 類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。2は土師器の坏、3は糸切り底の土師器の皿である。

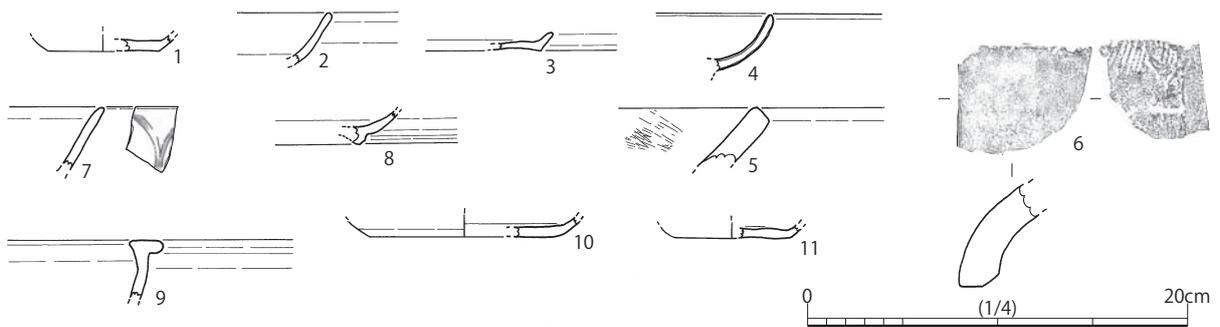
4～6はSE58中心部外側出土である。4は陶器の碗である。均一な胎土で、口縁部が口禿となり、透明度の高い灰色釉が厚くかかる。近世の所産と思われる。5は瓦質土器の捏鉢である。6は丸瓦で、



《SE58》

- 1: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂(粗砂含む)、炭化物を含む
- 2: 10YR3/2黒褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂(粗砂含む)、炭化物を含む
- 3: 2.5Y5/3黄褐、しまり弱い、粘性なし、シルト～細砂
- 4: 10YR3/2黒褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂(粗砂含む)、炭化物を含む ※2層と同質
- 5: 10YR3/1黒褐、しまりあり、粘性あり、細砂～粗砂、炭化物を含む
- 6: 5Y6/2灰オリーブ、しまり強い、粘性強い、シルト、鉄分を含む
- 7: 2.5Y3/3暗オリーブ褐、しまり強い、粘性ややあり、細砂～中砂、炭化物を含む
- 8: 5Y6/2灰オリーブ、しまり強い、粘性強い、シルト、鉄分を含む ※6層と同質
- 9: 2.5Y3/3暗オリーブ褐、しまり強い、粘性ややあり、細砂～中砂、炭化物を含む ※7層と同質
- 10: 2.5Y3/1黒褐、しまり弱い、粘性ややあり、中砂～粗砂
- 11: 5Y6/2灰オリーブ、しまり強い、粘性強い、シルト、鉄分を含む ※6層・8層と同質
- 12: 2.5Y3/3暗オリーブ褐、しまり強い、粘性ややあり、細砂～中砂、炭化物を含む ※7層・9層と同質
- 13: 2.5Y3/1黒褐、しまり弱い、粘性ややあり、中砂～粗砂 ※10層と同質
- 14: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む
- 15: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む
- 16: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む ※14層と同質
- 17: 2.5Y4/3オリーブ褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂(粗砂含む)、炭化物を含む
- 18: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む ※15層と同質
- 19: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む ※14層・16層と同質
- 20: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、粗砂(中砂含む)、鉄分を含む
- 21: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む ※14層・16層・19層と同質
- 22: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む ※15層・18層と同質
- 23: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂
- 24: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む ※14層・16層・19層・21層と同質
- 25: 2.5Y4/3オリーブ褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂(粗砂含む)、炭化物を含む ※17層と同質
- 26: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂 ※23層と同質
- 27: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性ややあり、中砂、炭化物を含む ※14層・16層・19層・21層・24層と同質
- 28: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、粗砂(中砂含む)、鉄分を含む ※20層と同質

第22図 HZK1903地点 B 区 SE58平面・断面図



第23図 HZK1903地点 B 区 SE58出土遺物

内面に布目と吊り紐痕が見られる。14世紀以降の所産である（松田ほか 2019）。

7～11はSE58中心部出土である。7は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗で、厚く施釉する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である。8は陶器碗である。白色砂粒の多い胎土で、透明度の高い灰色釉を底部全体にも施す。朝鮮雑釉陶器で、15世紀後半以降の所産である（佐藤 2008）。9は陶器の黄釉盤である。L字形の口縁部の釉を拭き取るなどの特徴から、大宰府編年の盤Ⅱ類で13世紀から14世紀前半の所産（宮崎編2000）。10・11は糸切り底の土師器で、10は坏、11は皿である。（谷 直子）

SE59・SE75・SE76・SE77（第24図） 調査区北側中央部で見つかった井戸である。当初、SE59が1基のみ存在していると考えていた。半裁して掘り進めると（第24図上図、断面X-X'の南側を掘削）、底面で円形木桶の痕跡が見つかり、土層断面の精査によって井戸の構造も把握することができた。円形木桶は直径70cm程度。

その後、断面X-X'の北側を掘削して完掘を目指したが、その過程でSE59とは別の円形木桶を三つ発見するに至った（第24図）。西側からSE76、SE77、SE75として精査して、井戸の切り合い関係の把握に努めた。既に水が湧いてきており、これ以上の深掘が不可能だったため、平面で切り合い関係を判断せざるを得なかった。SE59がSE76、SE77、SE75を切って構築されていることは容易に確認できたが、SE76、SE77、SE75の切り合い関係の把握は困難を極めた。微妙な土質や色調の違いから、SE77→SE75・SE76の前後関係を推定したもの、根拠は乏しいと言わざるを得ない。

SE76、SE77、SE75の精査を終えたのち、断面X-X'で作図した土層断面を見直したところ（第24図）、堆積状況や各層の標高などから、9層・10層・11層・12層はSE76に伴う埋土の、16層・15層はSE75に伴う埋土の可能性が高いと判断するに至った。

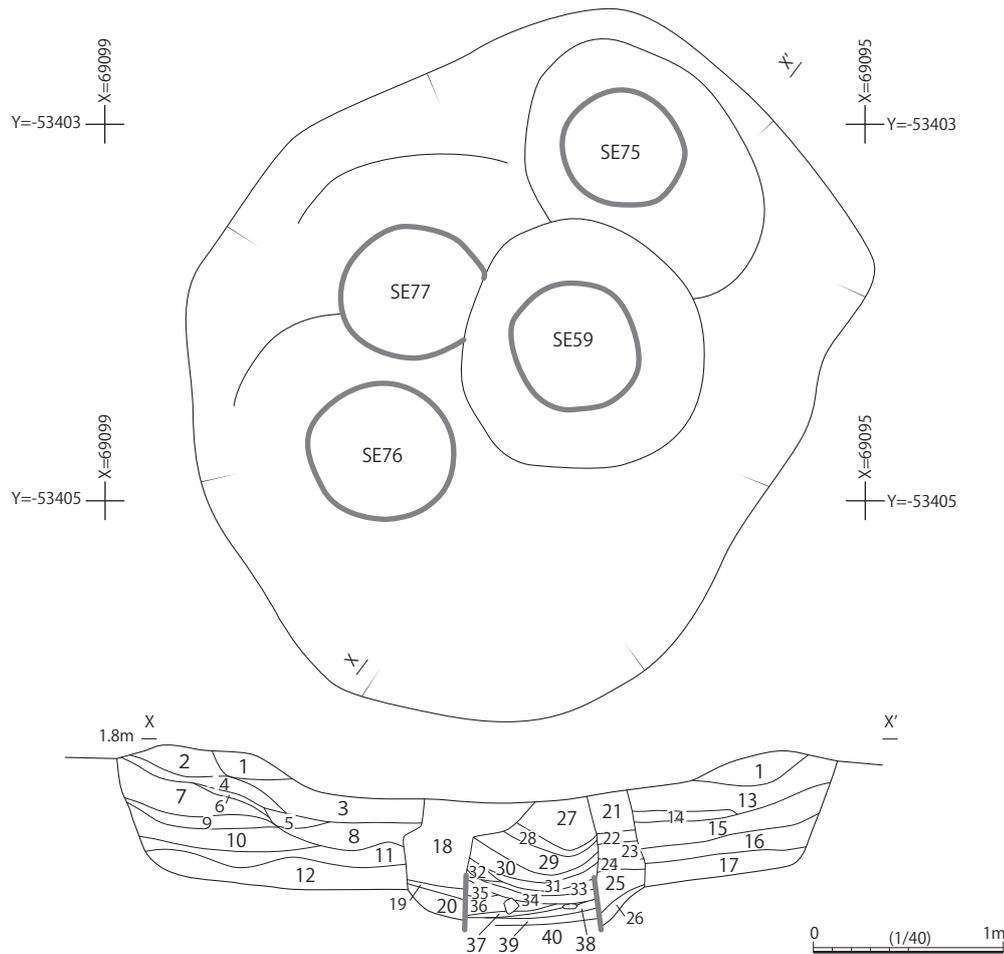
SE59からは、13世紀後半から14世紀前半の白磁碗や青磁坏が出土しているほか、井戸の掘方からは15世紀代の所産と考えられる播鉢、井戸主体部からは14世紀後半から15世紀前半の土師器鍋が出土している。以上の出土遺物より、井戸の年代は15世紀代と考えられよう。SE75から土師器小片、SE76からは青磁小碗、SE77からは白磁や瓦質土器、土師器の小片などが出土しているが、いずれも時期の特定は難しい。

なお、各井戸の円形木桶の部材を対象に放射性炭素年代測定を実施している。SE59は部材2点を測定して1156-1219 cal AD（89.65%）、1204-1266 cal AD（90.39%）の測定値を、SE75は部材1点を測定して1124-1215 cal AD（54.04%）の測定値を、SE76は部材2点を測定して1161-1226 cal AD（95.45%）、1303-1367 cal AD（75.61%）の測定値を、SE77は部材2点を測定して992-1027 cal AD（95.45%）、892-991 cal AD（95.45%）の測定値を示した。

SE59は、出土遺物から判断した井戸の年代と、木桶部材の年代測定値に齟齬が見られる。今回分析した木桶部材は、最終形成年輪以外であると判定されており、木取りした部位によっては著しく古い年代値が出る可能性も十分考えられる。木桶部材の年代測定値はあくまでも参考程度にとどめて、井戸の年代については出土遺物から最終的に判断するのが賢明であろう。（福永将大）

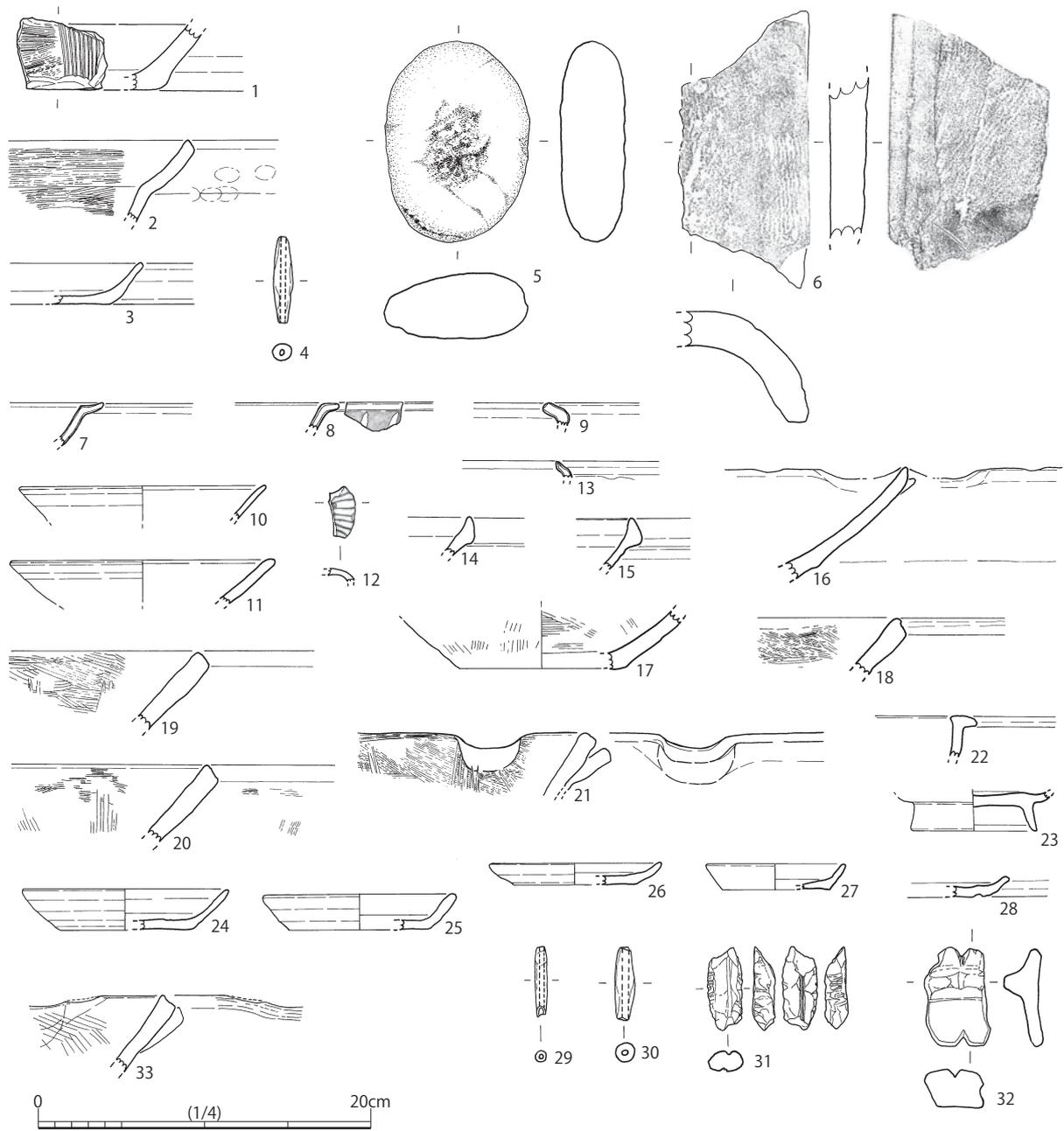
出土遺物と年代 第25図1～6はSE59中心部出土である。1は瓦質土器の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる。2は土師質の鍋である。口縁部と体部の境がややゆるく屈曲しており、14世紀後半から15世紀中葉の所産である（山本ほか 1997）。3は糸切り底の土師器の坏である。4は中央部がややふくらむ円筒形の土錘である。5は磨石である。6は丸瓦である。内面に布目とコビキAが見られる。

7～32はSE59出土である。7・8は青磁の坏で厚く施釉し、いずれも口縁端部は横に長く屈折さ



- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1: 10YR3/2黒褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、炭化物含む ※攪乱層?</p> <p>2: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、10YR5/4にぶい黄褐の砂と10YR3/1黒褐のシルト(粘性強い)をブロック状に含む、炭化物を含む</p> <p>3: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、10YR5/4にぶい黄褐の砂と10YR3/1黒褐のシルト(粘性強い)をブロック状に含む、炭化物を含む ※2層と同質</p> <p>4: 10YR7/6明黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂</p> <p>5: 10YR6/4にぶい黄橙、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂</p> <p>6: 10YR4/2灰黄褐、しまり弱い、粘性弱い、中砂</p> <p>7: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、10YR5/4にぶい黄褐の砂をブロック状に含む</p> <p>8: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂、鉄分を含む、3～4cm程度の石を含む</p> <p>9: 10YR5/6黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂(中砂含む)</p> <p>10: 10YR4/1褐灰、しまりややあり、粘性弱い、粗砂(中砂含む)、炭化物を含む、10YR5/6黄褐の砂を含む</p> <p>11: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂</p> <p>12: 10YR4/1褐灰、しまりややあり、粘性弱い、粗砂(中砂含む)、炭化物を含む、10YR5/6黄褐の砂を含む ※10層と同質</p> <p>13: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、10YR5/4にぶい黄褐の砂と10YR3/1黒褐のシルト(粘性強い)をブロック状に含む、炭化物を含む ※2層・3層と同質</p> <p>14: 10YR6/4にぶい黄橙、しまり弱い、粘性なし、中砂</p> <p>15: 10YR3/2黒褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、10YR5/4にぶい黄褐の砂をブロック状に含む、炭化物を含む</p> <p>16: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性弱い、粗砂(中砂含む)、炭化物を含む、10YR5/6黄褐の砂を含む ※10層・12層と同質</p> <p>17: 10YR4/1褐灰、しまりややあり、粘性弱い、粗砂(中砂含む)、炭化物を含む、10YR5/6黄褐の砂を含む ※10層・12層と同質</p> | <p>18: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂(中砂主体)、炭化物を含む</p> <p>19: 10YR5/4にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂主体)</p> <p>20: 10YR4/1褐灰、しまり弱い、粘性弱い、中砂～粗砂(粗砂多い)</p> <p>21: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂(中砂主体)、炭化物を含む ※18層と同質</p> <p>22: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりあり、粘性弱い、中砂</p> <p>23: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂(中砂主体)、炭化物を含む ※18層・21層と同質</p> <p>24: 10YR5/4にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂主体) ※19層と同質</p> <p>25: 10YR4/1褐灰、しまり弱い、粘性弱い、中砂～粗砂(粗砂多い) ※20層と同質</p> <p>26: 10YR4/3にぶい黄褐、しまり弱い、粘性なし、粗砂</p> <p>27: 2.5Y5/3黄褐、しまり弱い、粘性なし、細砂～中砂、2.5Y3/2黒褐の粘土を層状に含む、炭化物を含む</p> <p>28: 2.5Y5/3黄褐、しまりややあり、粘性なし、細砂～中砂</p> <p>29: 10YR4/1褐灰、しまりややあり、粘性弱い、中砂～粗砂、鉄分を含む、炭化物を含む</p> <p>30: 10YR5/2灰黄褐、しまりややあり、粘性弱い、中砂～粗砂</p> <p>31: 10YR3/1黒褐、しまりややあり、粘性弱い、中砂～粗砂、鉄分を含む</p> <p>32: 10YR5/2灰黄褐、しまりあり、粘性弱い、中砂～粗砂(粗砂多い)</p> <p>33: 2.5Y4/2暗灰黄、しまり強い、粘性ややあり、中砂～粗砂</p> <p>34: 10YR3/1黒褐、しまり弱い、粘性強い、細砂～中砂(シルト含む)</p> <p>35: 10YR4/1褐灰、しまり弱い、粘性弱い、中砂～粗砂(粗砂多い)</p> <p>36: 10YR4/1褐灰、しまり弱い、粘性弱い、中砂～粗砂</p> <p>37: 5Y4/4暗オリーブ、しまり強い、粘性ややあり、細砂～中砂</p> <p>38: 10YR4/1褐灰、しまり弱い、粘性弱い、中砂～粗砂 ※36層と同質</p> <p>39: 10YR5/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、粗砂</p> <p>40: 10YR4/1褐灰、しまり弱い、粘性弱い、中砂～粗砂</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第24図 HZK1903地点 B 区 SE59周辺平面・断面図



第25図 HZK1903地点 B 区 SE59出土遺物

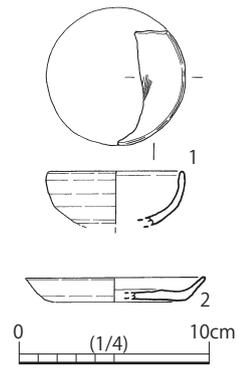
せる。7は無文でⅢ-3類。8は外面に鎬蓮弁文を施し、龍泉窯系青磁坏Ⅲ-4類である。いずれも13世紀中頃から14世紀初頭の所産である。9は青磁の容器口縁部である。10・11は白磁の碗である。10は口禿で、白磁碗Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。12は青白磁の菊花状の合子蓋である。13は青白磁の容器口縁部である。形態は9の青磁容器とよく似ている。博多遺跡群では青白磁は12世紀後半から14世紀まで見られる（田中 2008）。14・15は須恵質の捏鉢口縁部である。堅緻で、口縁端部外面は黒色を呈す東播系須恵器である。東播系捏鉢は13世紀後半以降、在地の捏鉢に置き換わる（山本ほか 1997）。16～18は瓦質土器の捏鉢である。16・18は素口縁で、16は片口部分が残る。19～21は瓦質土器の擗鉢である。擗鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くように

なる（山本ほか 1997）。22は土師器の甕である。小さなL字形の口縁部が付く。23は土師器の高台付坏である。高さのある高台脚で、14世紀前半頃まで存続する（山本ほか 1997）。24・25は糸切り底の土師器の坏である。26は板状圧痕のある土師皿、27・28は糸切り底の土師皿である。29・30は円筒形の土錘である。31・32は滑石製石錘で、32は石鍋を再加工しており、鏝部分が残る。33は貝と接して出土した瓦質土器の捏鉢の片口部分である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本ほか 1997）。

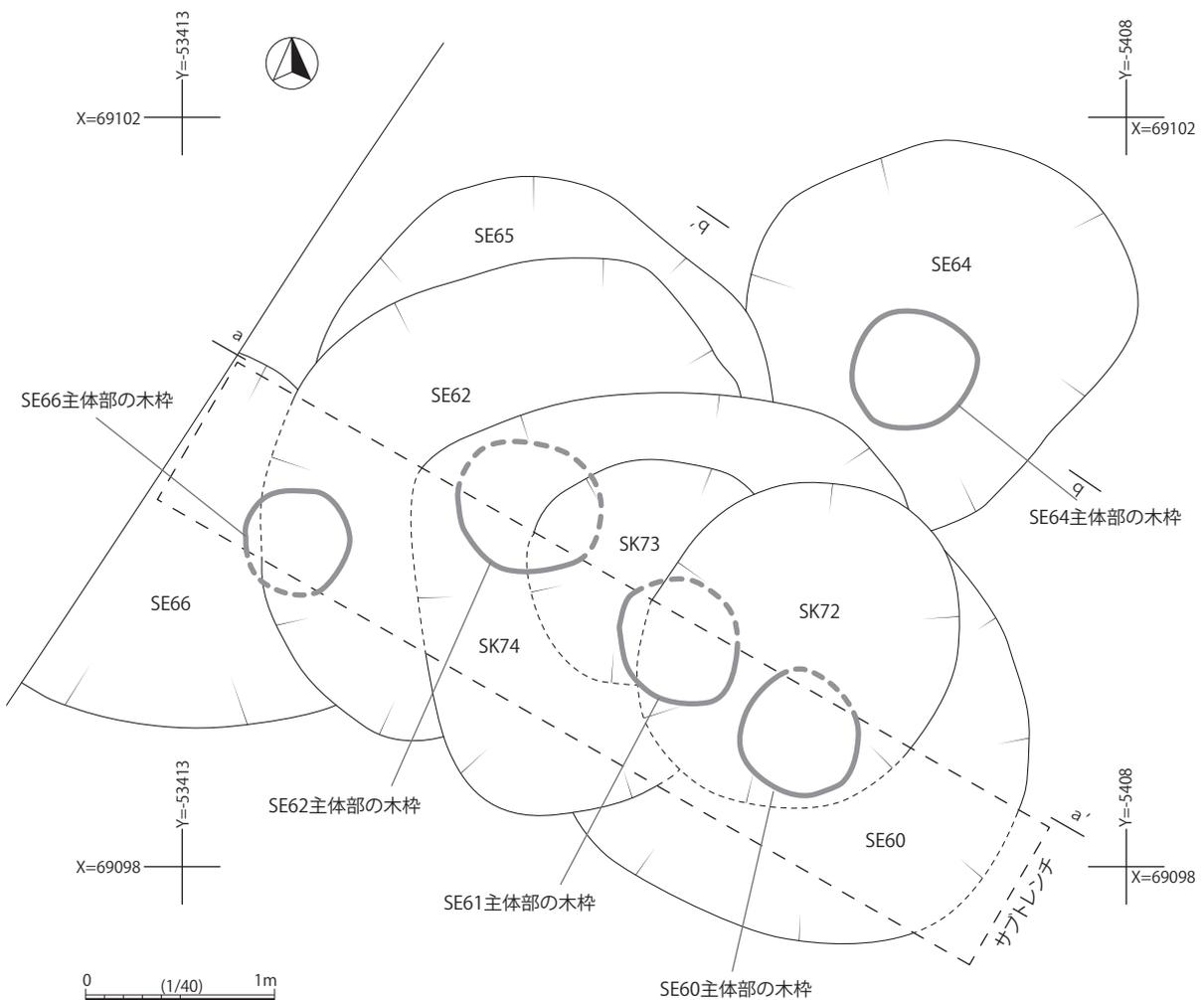
第26図は SE76出土である。1は青磁の小碗である。器形は龍泉窯系青磁小碗Ⅲ-1a であるが、釉調は碗Ⅱ類に似る。2は糸切り底の土師皿である。

（谷 直子）

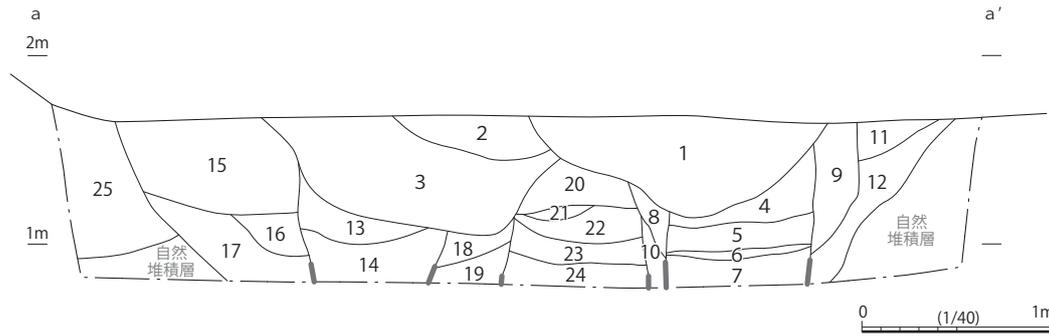
第26図 HZK1903地点 B区 SE76出土遺物



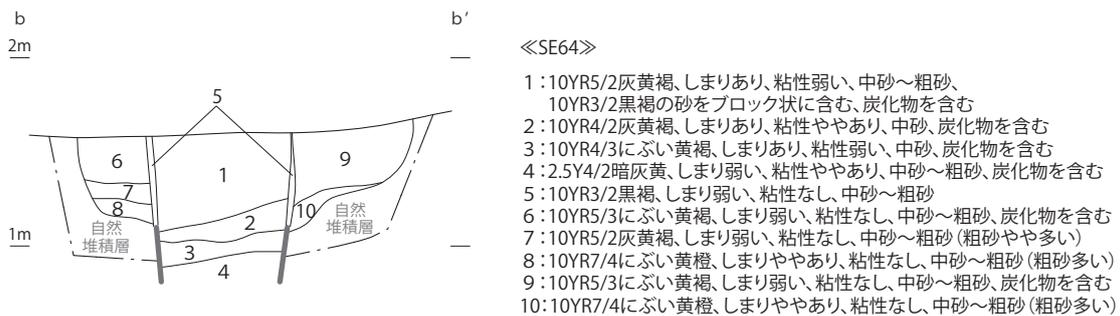
SE60周辺（第27・28図） 調査区北西隅付近で井戸と思われる暗褐色砂層の堆積を確認した。その大きさから、複数の井戸が密集して構築された痕跡ではないかと推察されたものの、遺構の平面プランは不明瞭で、遺構の切り合い関係などを把握することは困難であった。そのため、サブトレンチを設定して、土層断面の観察も併行して実施しながら、遺構の構造や切り合い関係の把握に努めた。



第27図 HZK1903地点 B区 SE60周辺平面図



- 《SK72》  
 1: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を多く含む、10YR5/3にぶい黄褐の砂をブロック状に含む、鉄分を含む、貝を含む  
 《SK73》  
 2: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を多く含む、鉄分を含む、貝を含む  
 《SK74》  
 3: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を多く含む、10YR5/3にぶい黄褐の砂をブロック状に含む、鉄分を含む、貝を多く含む  
 《SE60》  
 4: 10YR5/2灰黄褐、しまり弱い、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を含む、10YR5/3にぶい黄褐の砂と10YR4/2灰黄褐のシルト～細砂をブロック状に含む  
 5: 10YR5/2灰黄褐、しまりあり、粘性弱い、中砂～粗砂、10YR5/3にぶい黄褐の砂をブロック状に含む  
 6: 2.5Y4/2暗灰黄、しまり強い、粘性ややあり、中砂  
 7: 5Y3/1オリーブ黒、しまりややあり、粘性あり、中砂～粗砂、小礫や貝を含む、炭化物を含む  
 8: 2.5Y5/3黄褐、しまりあり、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を含む  
 9: 2.5Y5/3黄褐、しまりあり、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を含む（※8層と同質）  
 10: 2.5Y3/2黒褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂～粗砂（中砂主体）、炭化物を含む  
 11: 10YR5/3にぶい黄褐、しまり強い、粘性なし、中砂～粗砂  
 12: 2.5Y3/2黒褐、しまりあり、粘性ややあり、中砂～粗砂（中砂主体）、炭化物を含む（※10層と同質）  
 《SE62》  
 13: 10YR5/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂（粗砂多い）  
 14: 2.5Y4/2暗灰黄、しまりあり、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を含む  
 15: 2.5Y5/3黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂、2.5Y6/3にぶい黄の砂をブロック状に多く含む、炭化物を多く含む  
 16: 5Y3/1オリーブ黒、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む  
 17: 5Y4/3暗オリーブ、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂（粗砂多い）、炭化物を含む  
 18: 5Y5/3灰オリーブ、しまりあり、粘性弱い、中砂～粗砂（粗砂多い）、炭化物を含む  
 19: 5Y4/3暗オリーブ、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂（粗砂多い）、炭化物を含む（※17層と同質）  
 《SE61》  
 20: 10YR4/2灰黄褐、しまり強い、粘性弱い、中砂～粗砂、10YR6/3にぶい黄橙の粗砂を多く含む  
 21: 5Y3/2オリーブ黒、しまりあり、粘性ややあり、中砂～粗砂、鉄分を含む  
 22: 2.5Y6/3にぶい黄、しまり弱い、粘性なし、中砂～粗砂（粗砂多い）、炭化物を含む  
 23: 5Y5/2灰オリーブ、しまりややあり、粘性弱い、中砂～粗砂（中砂多い）  
 24: 5Y4/2灰オリーブ、しまりややあり、粘性弱い、中砂～粗砂（粗砂多い）  
 《SE66》  
 25: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を多く含む、10YR5/3にぶい黄褐の砂が層状に数条入る



第28図 HZK1903地点 B 区 SE60周辺サブトレンチ北壁土層断面図

精査の結果、井戸6基（SE60・SE61・SE62・SE64・SE65・SE66）と土坑3基（SK72・SK73・SK74）が切り合う複雑な状況を把握することができた（第27・28図）。SE61・SE65・SE66→SE60・SE62→SK74→SK73→SK72の順番で構築されており、SE64はSE65に切られているが、SE64とSE61、SE66との前後関係は不明である。

サブトレンチの底面で円形木桶を四つ発見した。平面上の位置関係や土層断面で、各円形木桶がど

の井戸に伴うものかどうかを精査したところ、サブトレンチ内の西側から SE66、SE62、SE61、SE60の円形木桶であることが判明した。SE64でも底面から円形木桶が見つまっている。円形木桶はどれも直径70cm 前後。

SE60からは、13世紀後半から14世紀前半に属する口禿の白磁や青磁が多数出土しているが、14世紀から15世紀代の所産と考えられる土師器鍋や捏鉢の出土も目立つ。出土遺物から推定される井戸の年代は14世紀から15世紀代と判断できよう。

SE62の掘方からは、15世紀前半の所産と考えられる土師質の鍋や粉青沙器の碗が出土している。出土遺物から判断すれば、SE62は SE60と比較的に近い時期に構築されたものと考えられる。

SE64は、3・4層から12世紀前半の耳壺が、井戸の掘方から12世紀後半から13世紀前半と考えられる陶器鉢が出土しており、井戸の構築年代は掘方出土の陶器鉢が示しているよう。

SE65からの出土遺物は少なく、13世紀後半代の所産と考えられる青磁碗の小片が出土しているが、井戸の年代を判断する根拠としては弱い。切り合い関係から SE65が SE64よりも構築年代が新しいことは確かである。

SE66も出土遺物は少なく、14世紀後半から15世紀前半の土師質の鍋の小片が出土しているが、この土師質の鍋が井戸の年代を示しているかどうか不明である。

SK73からは粉青沙器の皿が、SK74からは13世紀後半から14世紀前半の青磁坏のほか、14世紀後半から15世紀前半の土師質の鍋が出土している。切り合い関係より SK72・SK73・SK74の構築年代は SE62より新しいことは間違いないので、いずれも14世紀から15世紀代以降の遺構だと考えられる。

なお、各井戸の円形木桶の部材を対象に放射性炭素年代測定を実施している。SE64は部材1点を測定して1158-1220 cal AD (95.45%) の測定値を、SE66は部材1点を測定して1394-1422 cal AD (69.50) の測定値を示した。いずれも出土遺物から推定した井戸の年代と大きな齟齬は見られない。

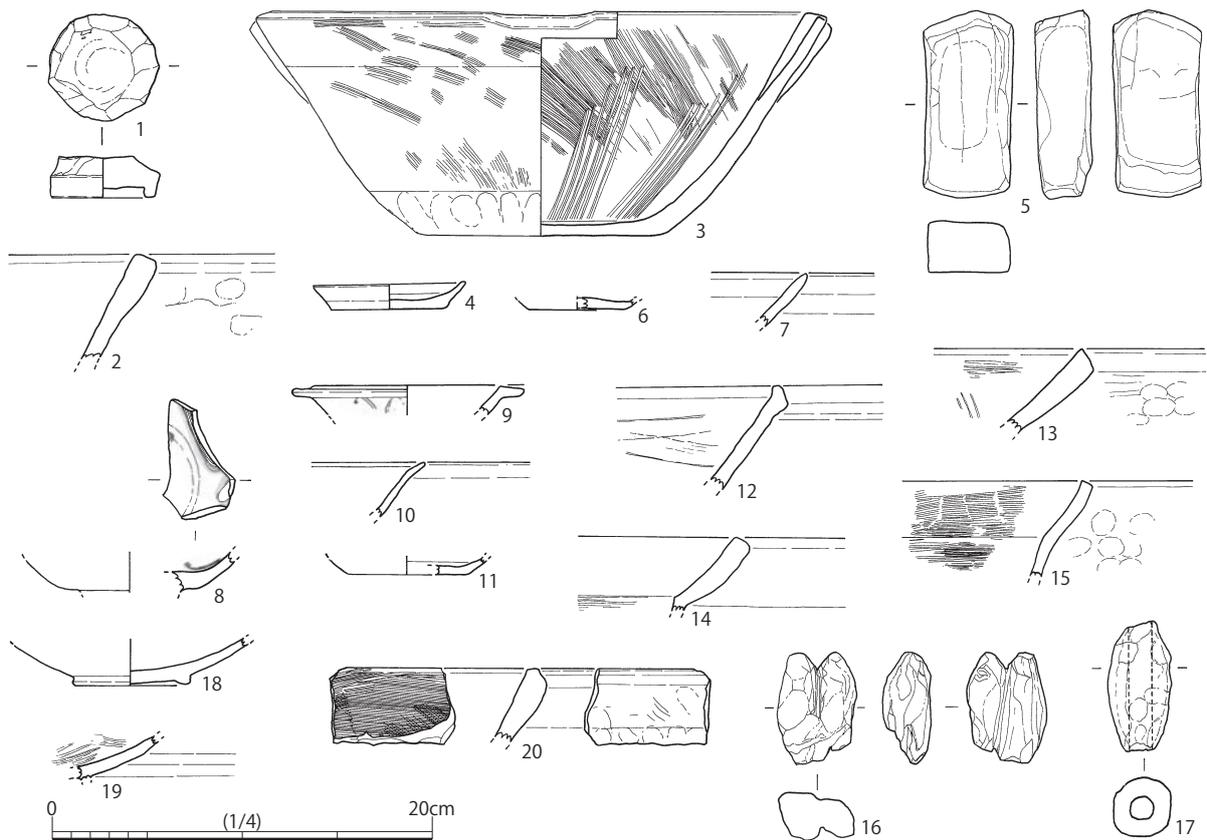
(福永将大)

出土遺物と年代 第29図1～5は SE60の7層出土である。1は青磁碗を再加工した瓦玉である。見込み部分の釉をはぎ取っており、高台には施釉しない。釉調は不透明である。龍泉窯系青磁碗Ⅳ類であろう。14世紀以降の所産である(宮崎編 2000)。2は瓦質土器の捏鉢、3は瓦質土器の播鉢で片口である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる(山本ほか 1997)。4は糸切り底の土師皿である。5は砥石で表・裏両面に研磨痕が残る。

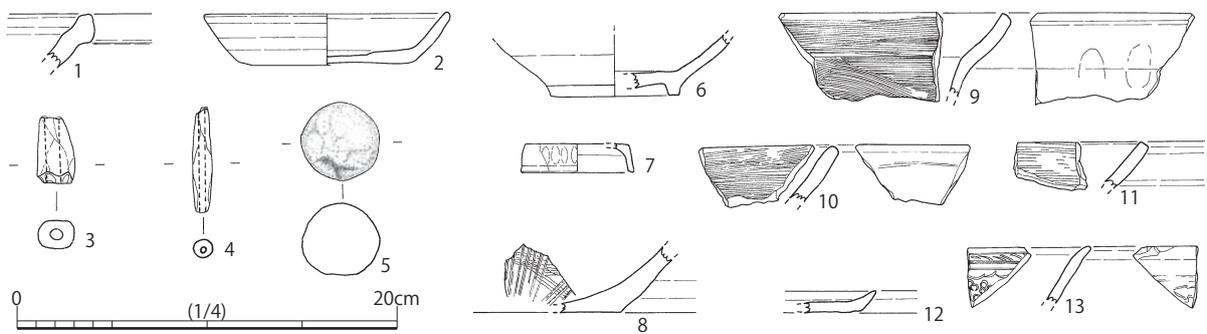
6・7は SE60の11・12層出土である。6は平底の白磁皿で、底部外面の釉を工具でのばしている。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。7は土師器の坏である。

8～17は SE60出土である。8は青磁碗で内面と見込み部分に片彫りで草花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類で、12世紀中頃から後半の所産である。9は青磁坏で外面に鎬蓮弁文を施す。口縁端部は横に長く屈折させる。龍泉窯系青磁坏Ⅲ-4類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である。10は口禿の白磁碗である。白磁碗Ⅸ類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する。11は平底の白磁皿である。12は須恵質の捏鉢である。よく焼き締まっており、玉縁状の口縁部外側に自然釉がかかり黒く発色する。東播系須恵器の捏鉢である。東播系捏鉢は13世紀後半以降、在地の捏鉢に置き換わる(山本ほか 1997)。13は瓦質土器の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる(山本ほか 1997)。14・15は土師質の鍋である。口縁部と体部の境がややゆるく屈曲しており、14世紀後半から15世紀中葉の所産である(山本ほか 1997)。16は滑石製石錘、17は紡錘形の土錘である。

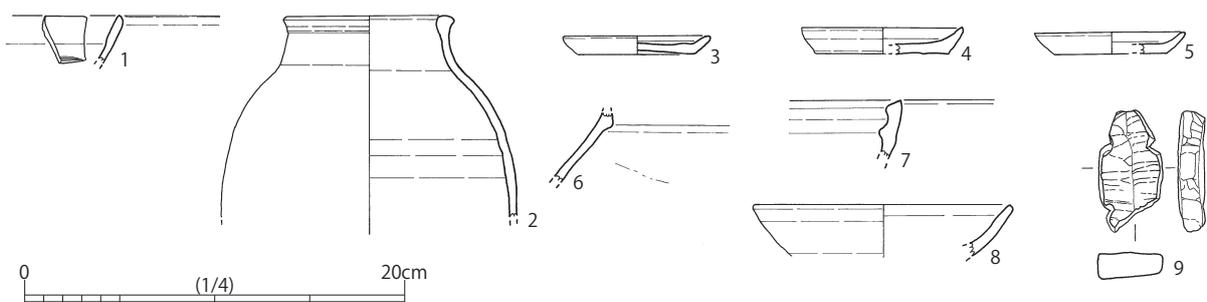
18～20は SE60掘方出土である。18・19は瓦質土器の碗である。18は粘土紐を巻き付けて高台とす



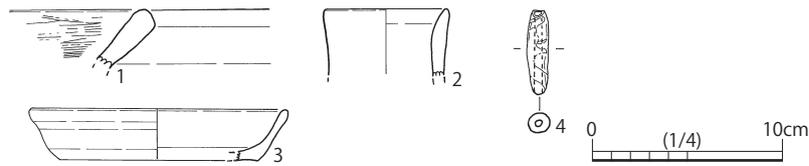
第29図 HZK1903地点 B 区 SE60出土遺物



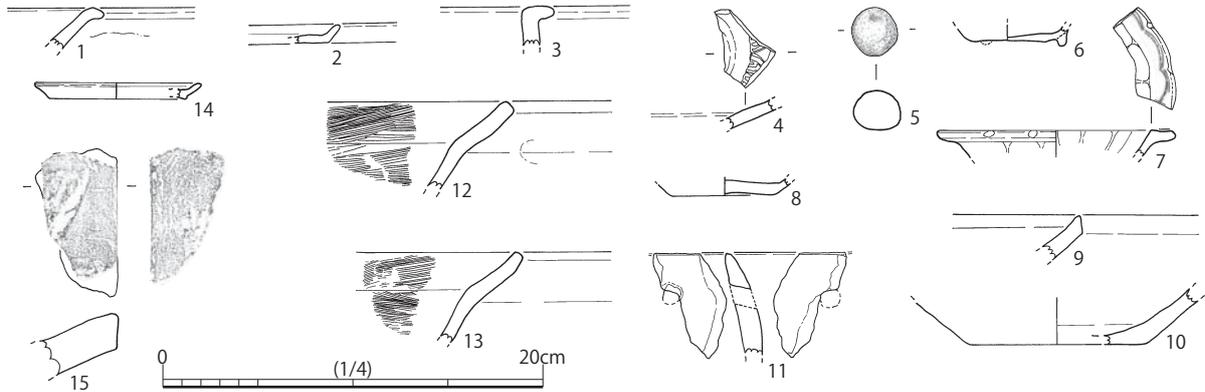
第30図 HZK1903地点 B 区 SE62出土遺物



第31図 HZK1903地点 B 区 SE64出土遺物



第32図 HZK1903地点 B 区 SE66出土遺物



第33図 HZK1903地点 B 区 SK72・73・74出土遺物

る。20は瓦質土器の捏鉢である。

第30図 1～5はSE62の14層出土である。1は瓦質土器の捏鉢で、13世紀以降在地化が進む（山本ほか 1997）。2は糸切り底の土師器の坏である。3・4は土錘、5は石球である。

6～12はSE62の15層出土である。6は白磁碗底部である。低いケズリ高台で外面は露胎である。7は白磁の合子蓋で菊花状に面取り加工する。8は瓦質土器の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる。9～11は土師質の鍋である。口縁部と体部の境がややゆるく屈曲しており、14世紀後半から15世紀中葉の所産である（山本ほか 1997）。12は糸切り底の土師皿である。

13はSE62掘方出土の粉青沙器の碗である。白色粘土の象嵌で外面に花文、内面に幾何学文と花文を施す。14世紀後半以降の所産である（佐藤 2008）。

第31図 1・2はSE64の3・4層出土である。1は青磁碗で、内面に片彫り文が見られる。2は褐釉陶器の壺で、水平に短く屈折する口縁部に、やや下方が開く頸部を有し、胴部との境は明瞭である。大宰府編年の耳壺V類で、11世紀後半から12世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。

3～5はSE64中心部出土の糸切り底の土師皿である。

6～9はSE64掘方出土である。6は玉縁口縁の白磁碗で、大宰府編年の白磁碗IV類。時期は11世紀の後半から12世紀の前半である。7は中国陶器の鉢で、内面に突帯が付く。大宰府編年の陶器鉢I-1b類で、13世紀から14世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。8は土師器の坏である。9は滑石製石鍋を再加工した石錘である。側面形が弧状を呈す。

第32図 1はSE66の木椀底出土の土師質の捏鉢である。素口縁で端部が肥厚する。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本ほか 1997）。

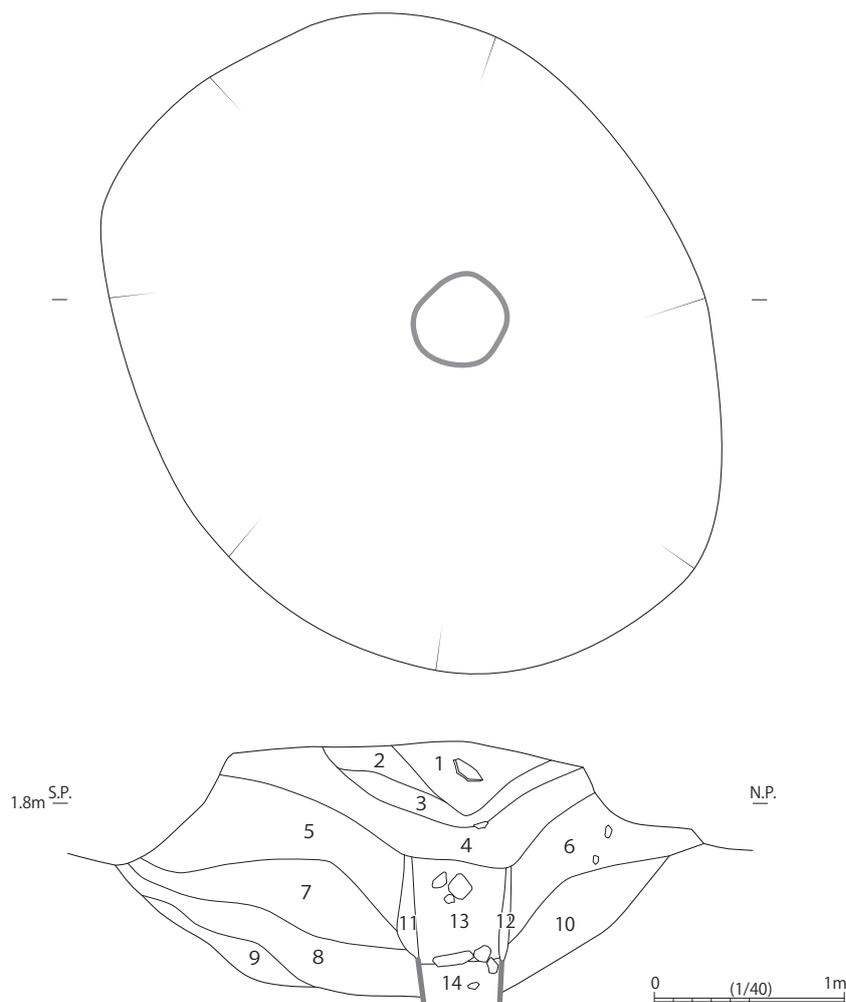
2～4はSE66出土で、2は土師質の飯蛸壺、3は糸切り底の土師器の坏、4は円筒形の土錘である。

第33図 1・2はSK72出土で、1は陶器の鉢で、内面は灰色釉を施し、外面は露胎である。2は糸切り底の土師皿である。

3・4はSK73出土である。3は短いL字状の口縁部を持つ土師器の甕である。4は粉青沙器の皿である。釉調は青灰色で、白色粘土の象嵌で幾何学文を施す。14世紀後半以降の所産である（佐藤2008）。

5・6はSK74の3層出土である。5は石球である。6は短い三足の付く土師器である。

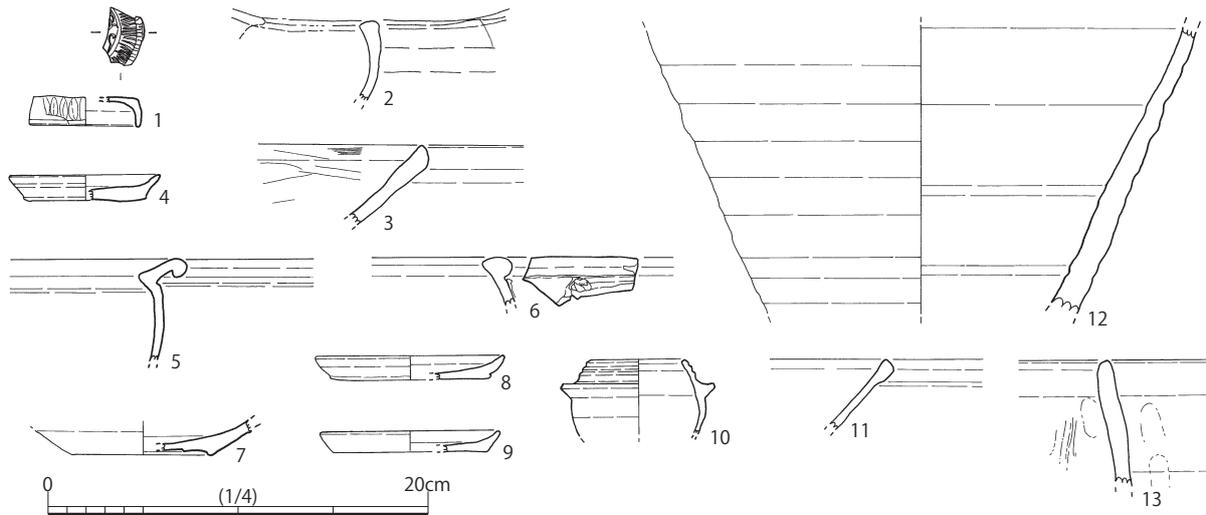
7～15はSK74出土である。7は青磁坏で、口縁端部を横に長く屈折させ、体部内面には凹面のケズリを入れ花卉形とする。大宰府編年の龍泉窯系青磁坏皿-3b類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。8は白磁の皿底部である。平底の底部外面の釉を拭き取っており、その部



《SE67》

- 1: 10YR4/2灰黄褐、しまりややあり、粘性弱い、中砂～粗砂、炭化物を含む
- 2: 10YR6/4にぶい黄橙、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、10YR4/2灰黄褐の砂層と互層堆積
- 3: 10YR5/3にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂
- 4: 10YR4/3にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む
- 5: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む
- 6: 10YR5/4にぶい黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂、炭化物を含む ※5層と同様
- 7: 10YR6/4にぶい黄橙、しまりややあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)、炭化物を含む
- 8: 10YR5/3にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)
- 9: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い)
- 10: 10YR5/3にぶい黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂～粗砂(粗砂多い) ※8層と同様
- 11: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂
- 12: 10YR4/2灰黄褐、しまりあり、粘性なし、中砂 ※11層と同様
- 13: 10YR5/2灰黄褐、しまりややあり、粘性なし、中砂、10cm程度の礫を複数含む、鉄分を含む、炭化物を含む
- 14: 10YR4/1褐灰、しまりややあり、粘性多い、中砂～粗砂、礫を複数含む、10YR6/3にぶい黄橙の粗砂を層状に複数含む

第34図 HZK1903地点 B 区 SE67平面・断面図



第35図 HZK1903地点B区SE67出土遺物

分が茶褐色を呈す。9・10は東播系の須恵質の捏鉢である。東播系捏鉢は13世紀後半以降、在地の捏鉢に置き換わる（山本ほか 1997）。11は土師質の飯蛸壺である。12・13は土師質の鍋で、口縁部と体部の境がややゆるく屈曲しており、14世紀後半から15世紀中葉の所産である（山本ほか 1997）。14は土師皿である。15は平瓦で、内外面ともナデ調整である。（谷 直子）

SE67（第34図） SE58とSE59の南側で見つかった井戸である。掘方の直径は30～35cm程度を測り、中心から円形木桶が見つかった。円形木桶は直径50cm程度。円形木桶内部の埋土からは磔が複数出土している。

土層断面を精査すると、円形木桶の痕跡と考えられる11層・12層、そして、円形木桶内部の埋土である13層を切って、1～4層が堆積していることがわかった。SE67が井戸としての機能を終えて廃絶された後、どこかのタイミングで上部から掘り込まれたと考えられる。この掘り込みの行為がSE67と関係しているかどうかは不明である。

井戸の掘方と考えられる5・6層からは、口禿の白磁や13世紀代の所産と考えられる陶器盤が、井戸主体部の13・14層からは、12世紀後半から13世紀前半の土釜が出土している。以上より、SE67の構築時期は13世紀後半代と考えられる。

なお、円形木桶の部材1点を対象に放射性炭素年代測定を実施したところ、1213-1268 cal AD (93.82%) の測定値を示した。出土遺物から推定した井戸の構築年代と大きな齟齬は見られない。

（福永将大）

出土遺物と年代 第35図1～4はSE67の4層出土である。1は青白磁の合子蓋で、菊花状に成形し、頂部外面の草花文を浮き彫りする。青白磁は博多遺跡群では青白磁は12世紀後半から14世紀まで見られる（田中 2008）。2は褐釉陶器の片口鉢である。3は土師質の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む（山本ほか 1997）。4は糸切り底の土師皿である。

5～7はSE67の5・6層出土である。5は陶器の黄釉盤で、口縁部上面が湾曲し、先端を曲げる。大宰府編年の盤I-1'a類で、13世紀から14世紀前半の所産である。6は褐釉陶器の甕である。7は碁笥底の陶器皿である。回転ヘラケズリで碁笥底を作り出す。

8はSE67の9層出土の糸切り底の土師皿である。

9・10はSE67の13・14層出土である。9は糸切り底の土師皿である。10は畿内の瓦質土器の土釜

で、有足の小型品である。口縁部が起き上がらず、体部は球形をなし、本来は三足の脚が付く。12世紀後半から13世紀前半の所産である(鋤柄1997)。

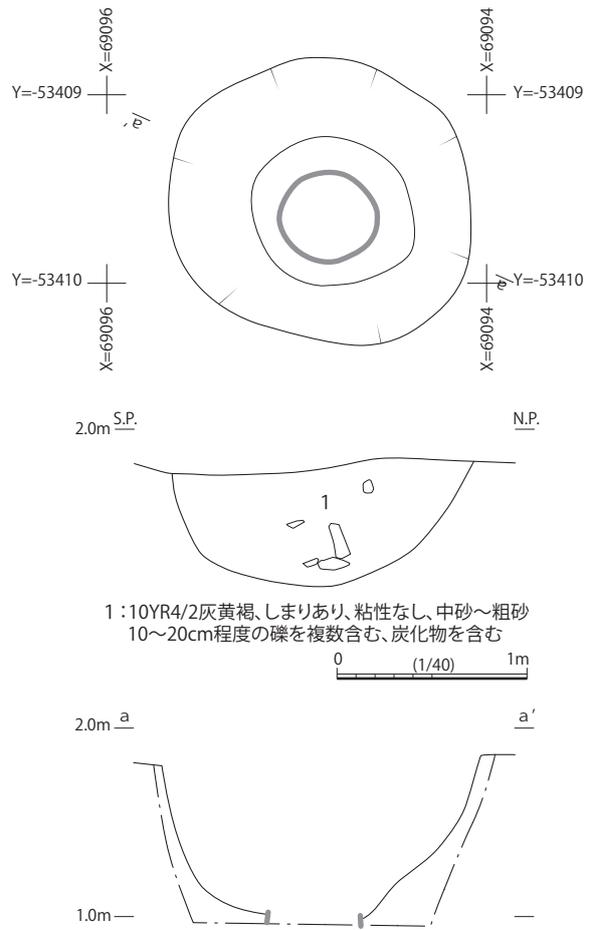
11~13はSE67出土である。11は玉縁口縁の白磁碗で、大宰府編年の白磁碗IV類である。12は陶器の甕胴部である。内外面とも回転ヘラケズリで成形する。13は土師質の飯蛸壺である。(谷 直子)

SE68(第36図) 調査区中央部付近で見つかった井戸である。当初、井戸と認識しておらず、大型の土坑と考えて調査を進めていた。半裁して土層断面を精査したところ、埋土中央部からやや大きな礫が複数出土したが、埋土は単一層で分層することもできず、特に礫群の存在も気にしていなかった。

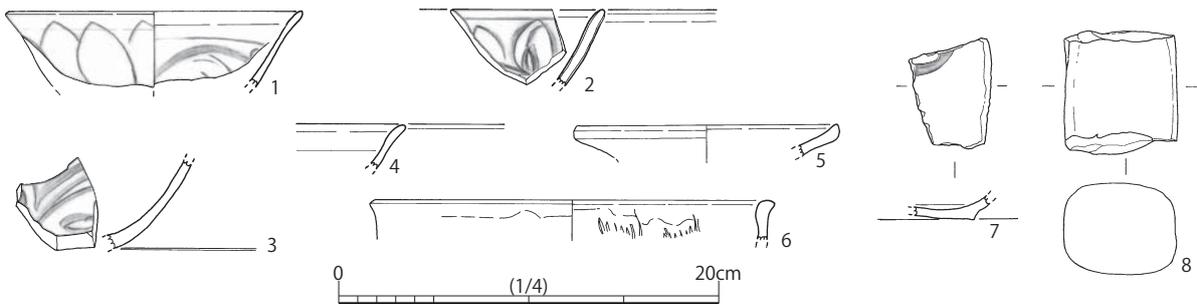
土層断面の記録を終え、完掘を目指して掘り進めたが、当初底面と認識していた堆積層は底面ではなく、さらに下に掘り進めることができることが判明した。水が湧きだし始めるまで掘削したところ、直径50cm程度の円形木桶を検出するに至り、当該遺構が井戸であることが判明した。上部で出土した礫群は、円形木桶内部の埋土に落ち込んで堆積したものである可能性がある。ただし、土層断面では円形木桶の痕跡や、その内外での堆積土の差異を見出すことはできなかったことは繰り返し述べておく。

井戸主体部の底部分から13世紀後半に属すると考えられる青磁碗が出土している。その他、12世紀後半の青磁碗などが出土しているが、出土遺物は少ない。井戸の年代としては13世紀後半代を考慮しておきたい。(福永将大)

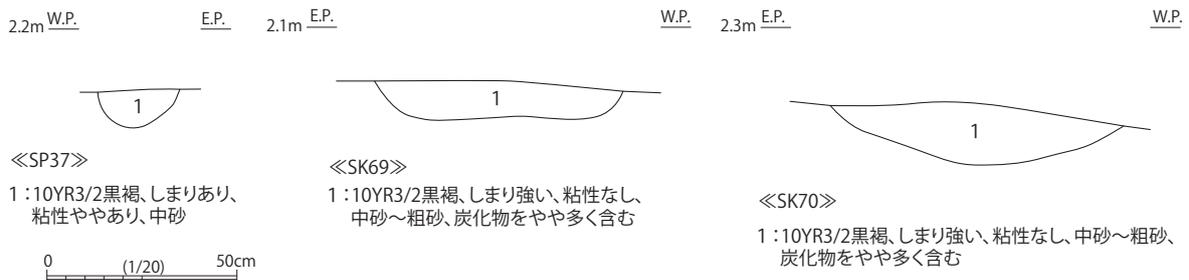
出土遺物と年代 第37図1はSE68中心部の底出土の青磁碗である。内面に片彫りの草花文を施し、外面には中央に稜を有す片彫り蓮弁文を施す。櫛描文は見られない。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-6c類で、12世紀中頃から後半の所産である(宮崎編 2000)。



第36図 HZK1903地点 B 区 SE68平面・断面図



第37図 HZK1903地点 B 区 SE68出土遺物



第38図 HZK1903地点 B 区 SP37・SK69・SK70遺構断面図

2～8はSE68出土である。2・3は内面に片彫りで草花文を施す碗で、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類、12世紀中頃から後半の所産である。4は青磁皿で、体部中位で屈曲し、口縁部はやや外反する。同安窯系青磁皿と考えられる（宮崎編 2000）。5は褐釉陶器の口縁部である。ラッパ状に開く口縁部で、皿あるいは水注と考えられる。6は陶器の播鉢である。小さく外反する口縁部で内面にスリ溝が見られる。7は陶器の黄釉葉鉄絵盤である。8は加工された棒状の石製品で、折れた石斧の可能性もある。（谷 直子）

#### (5) その他（第38図）

エリアⅠ～Ⅲ以外の箇所でも、遺構がいくつか見つかっている（第11図）。

SP37 エリアⅡとエリアⅢの中間に位置する円形を呈するピットである。土師器小片が出土したが、時期の特定は難しい。

SK69・SK70 調査区西端に位置する。SK69・SK70は切り合い関係にはないが、近接して構築されている。いずれも平面プランが円形を呈する土坑である。いずれからも遺物は出土していない。

## C1区

C1区からは土坑15基、ピット11基が検出された。以下土坑・ピットの順に記述する。

### 土坑（第40～42図）

土坑 SK01（第40図） 円形の土坑で径は35cm、確認面からの深さは12cmである。土師器の坏と陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK03（第40図） 長軸44cm、短軸36cmの楕円形土坑で、確認面からの深さは4cmである。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK04（第40図） 長軸58cm、短軸26cmの楕円形土坑で、確認面からの深さは14cmである。土師器の坏・捏鉢・瓦質土器の捏鉢が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK05（第40図） 径26cmの円形土坑である。確認面からの深さは6cmを測る。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK06（第40図） 長軸56cm、短軸30cmの土坑で、確認面からの深さは35cmを測る。（齋藤瑞穂）

第41図1～4はSK06出土である。1は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗で、釉は厚くかかる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ-2類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である。2は口禿の白磁皿である。

大宰府編年の白磁皿Ⅸ類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。3は陶器壺で、全体に薄く施釉し、口縁部のみ厚く褐釉がかかる。4は土師器の鉢である。（谷 直子）

土坑 SK07（第40図） 調査区北縁で検出した。東西38cm、南北は13cm 以上になる。確認面からの深さは4cm である。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK11（第40図） 調査区の北縁で検出された。西側は攪乱で失われている。東西72cm 以上、南北は20cm 以上になろう。確認面からの深さは13cm である。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK13（第40図） 不整形の土坑である。長軸58cm、短軸46cm、最も深い部分で確認面からの深さは27cm である。土師器の坏・皿・飯蛸壺・鍋、青磁碗、白磁片、陶器鉢、須恵器片、瓦質土器の捏鉢が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK14（第40図） 不整形の土坑として記録されている。長軸28cm、短軸20cm、確認面からの深さは8cm である。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK15・SK16（第40図） SK15が古く、SK16が新しい。SK15は径40cm ほどの円形土坑で、確認面からの深さは6cm を測る。SK16は長軸54cm、短軸40cm、確認面からの深さは14cm である。SK15からは遺物は出土していない。SK16からは土師器の坏・捏鉢、青磁片、白磁碗Ⅸ類、陶器鉢が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK21・土坑 SK22・ピット SP23・土坑 SX25（第42図） 調査記録によると、SX25が古く、SK21・SK22・SP23がそれを切る。SK21は長軸32cm、短軸22cm の楕円形土坑で、確認面からの深さは13cm である。土師器の坏、龍泉窯系青磁碗Ⅰ類片、陶器片、須恵器片が出土したが、小片で図化し得ない。SK22は不整形土坑で長軸43cm、短軸37cm を測る。確認面からの深さは13cm である。SK22からは土師器の坏・鍋、陶器片、須恵器片、軽石が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。SP23は23×20cm の円形土坑で、確認面からの深さは8cm。SP23からは陶器の鉢が出土したが、小片で図化し得ない。SX25は246cm×232cm の円形土坑。確認面からの深さは148cm に達する。（齋藤瑞穂・谷 直子）

第43図1～4はSX25の1層出土である。1は褐釉陶器の耳壺の耳部分である。縦方向に耳が付く。2～4は糸切り底の土師器で、2が坏、3・4が皿である。

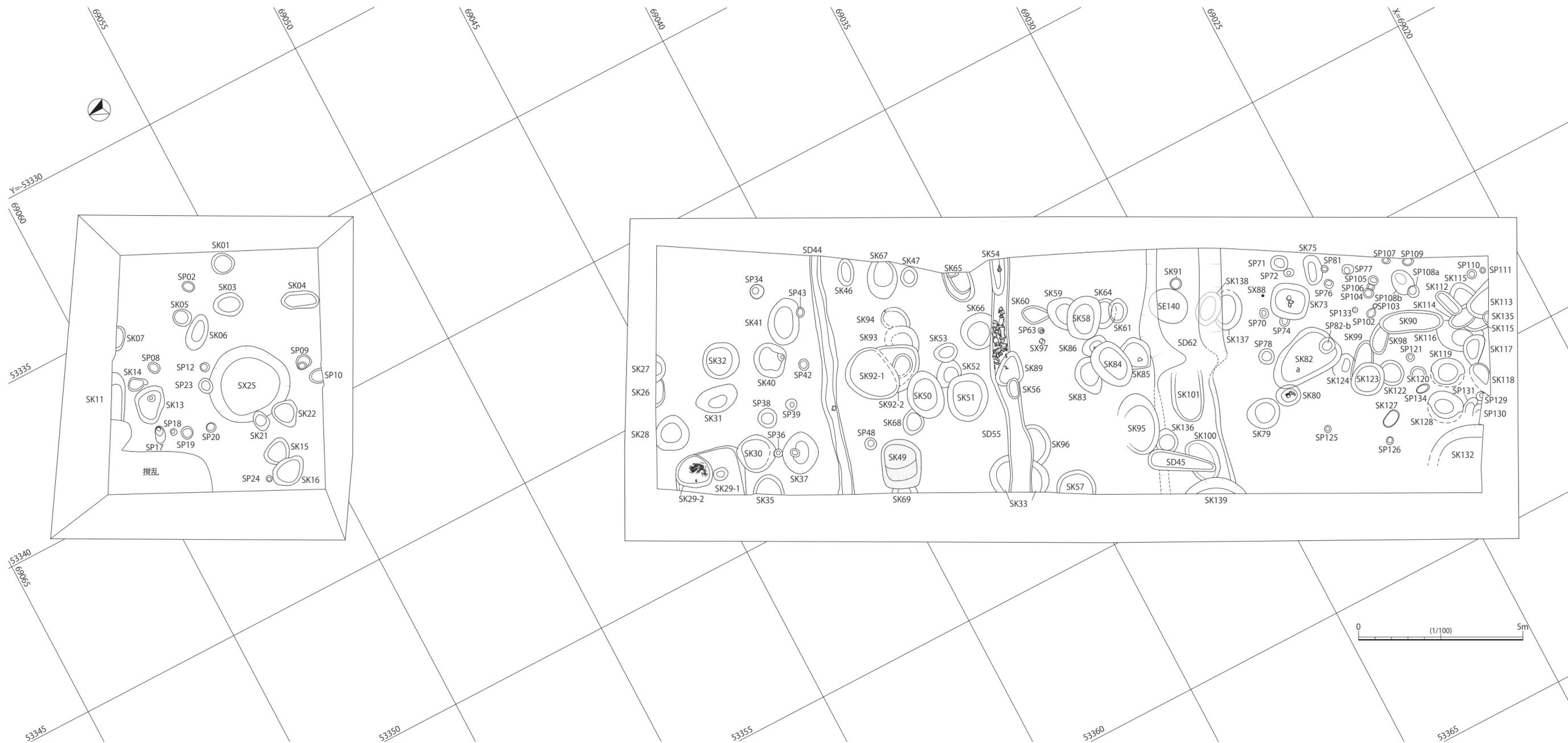
第43図5・6はSX25の2層出土である。5は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗である。蓮弁の幅は広く鎬はゆるやかである。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-a類で、13世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。6は糸切り底の土師皿である。

第43図7・8はSX25の3層出土である。7は内面に片彫りの草花文を施す青磁碗で、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類である。8は糸切り底の土師皿である。

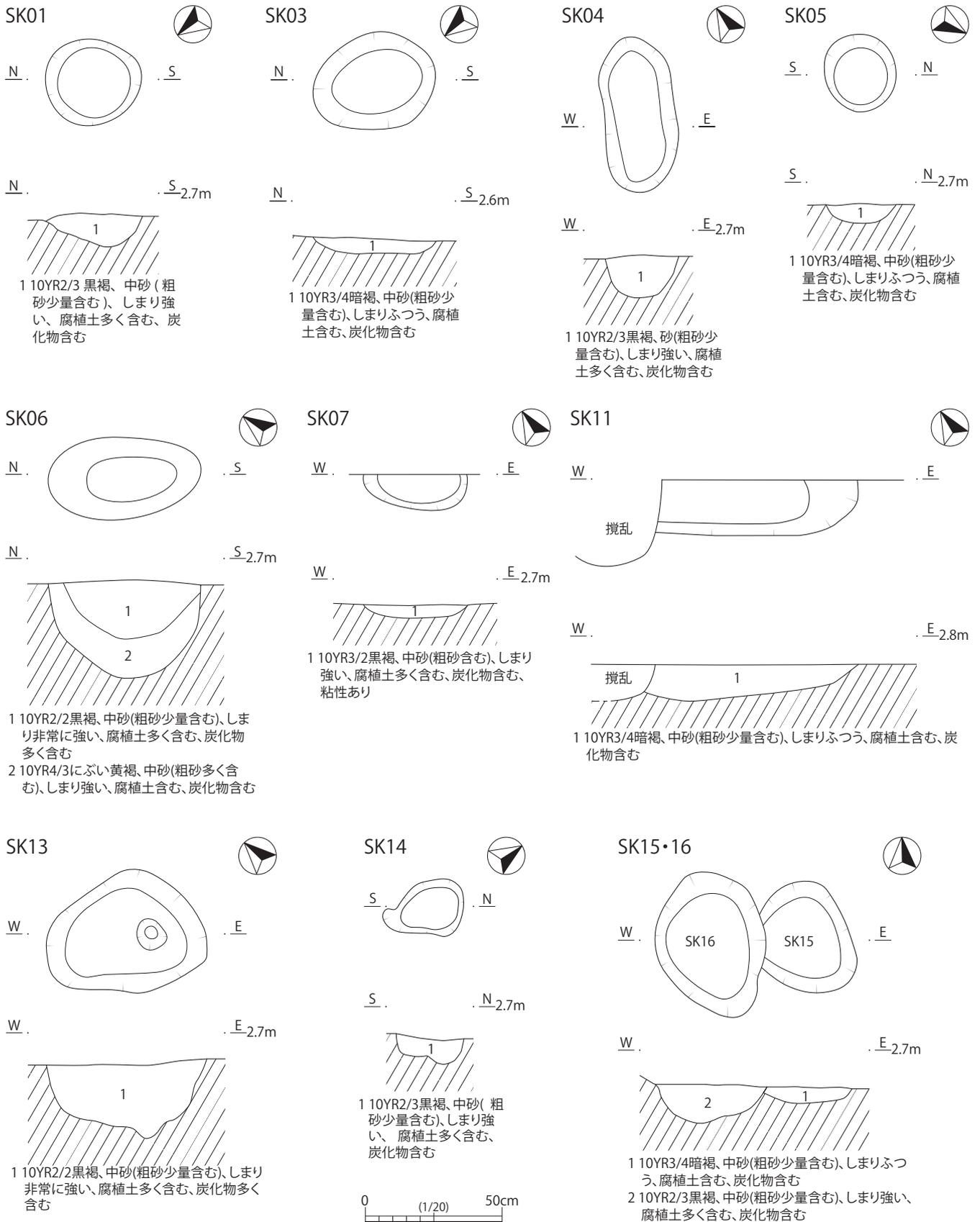
第43図9・10はSX25の7層出土である。9は瓦質土器の捏鉢である。10は土師器の坏である。

第43図11～14はSX25の8層上半出土である。11は外面に鎬蓮弁文を施す碗である。胎土は橙色に発色し、釉調は灰白色で濁る。かなり陶器に近いが、形態や釉調は龍泉窯系青磁碗と一致する。12は中国陶器の鉢で内面に突帯が付く。大宰府編年の陶器鉢Ⅰ-1b類で12世紀後半～13世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。13は瓦質土器の碗である。14は糸切り底の土師皿である。

第43図15～17はSX25の8層下半出土である。15は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗である。蓮弁の幅は広く鎬はゆるやかである。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-a類で、13世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。16は須恵質の捏鉢である。口縁部が暗灰色を呈す東播系捏鉢である。17は平瓦で、表面が被熱している。



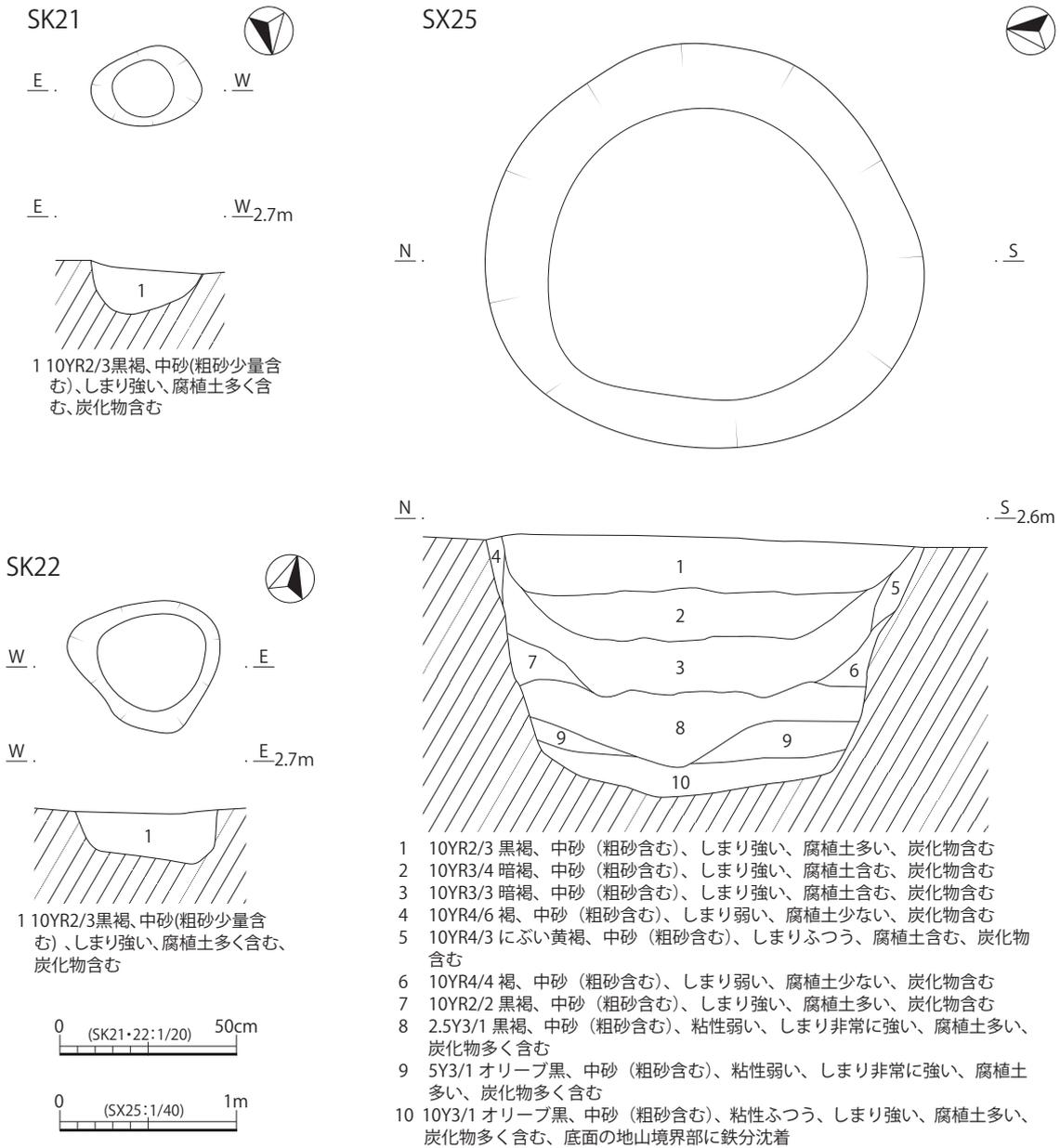
第39图 HZK1903地点 C1·C2区遗构配置图



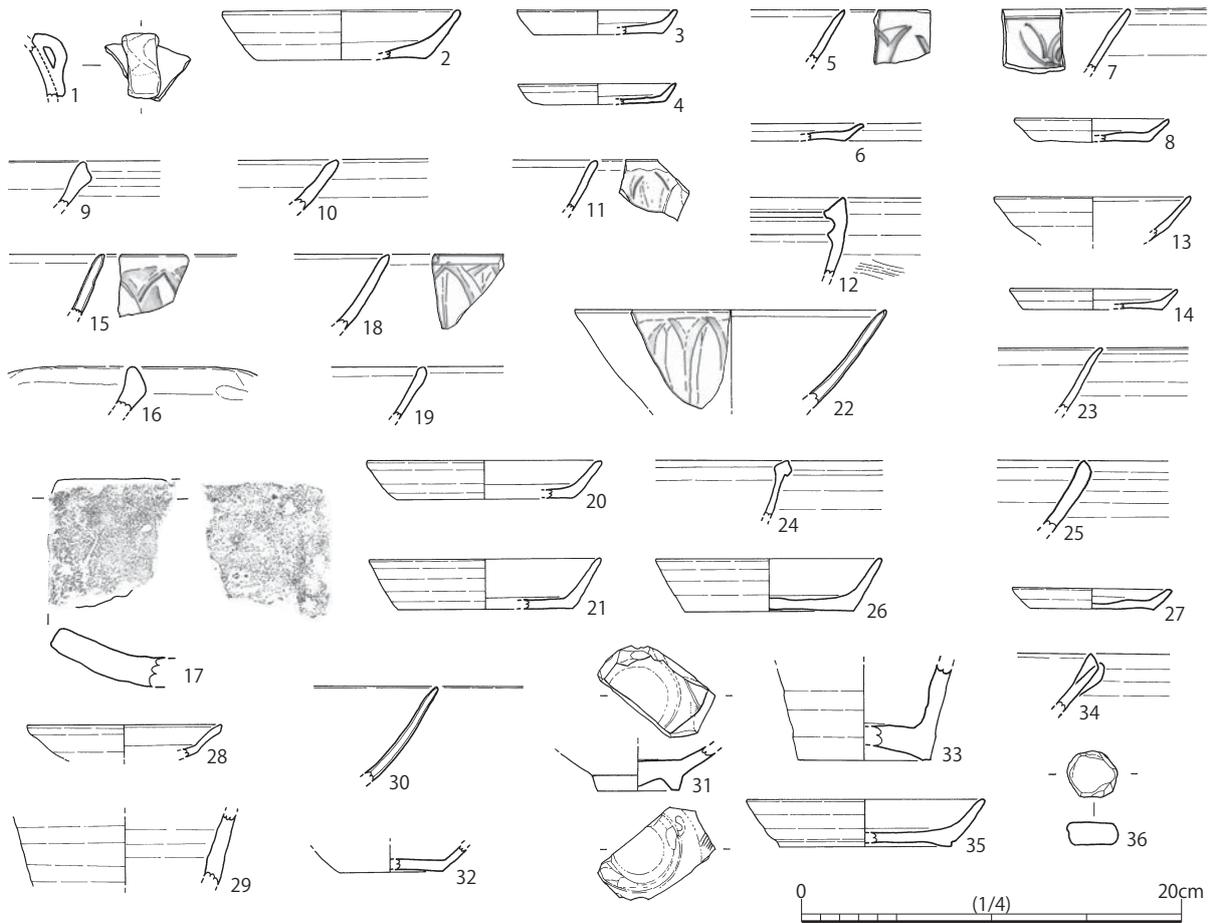
第40図 HZK1903地点 C1区 SK01・03~07・11・13~16平面・断面図



第41図 HZK1903地点 C1区出土遺物1



第42図 HZK1903地点 C1区 SK21・22・SX25平面・断面図



第43図 HZK1903地点C1区出土遺物2

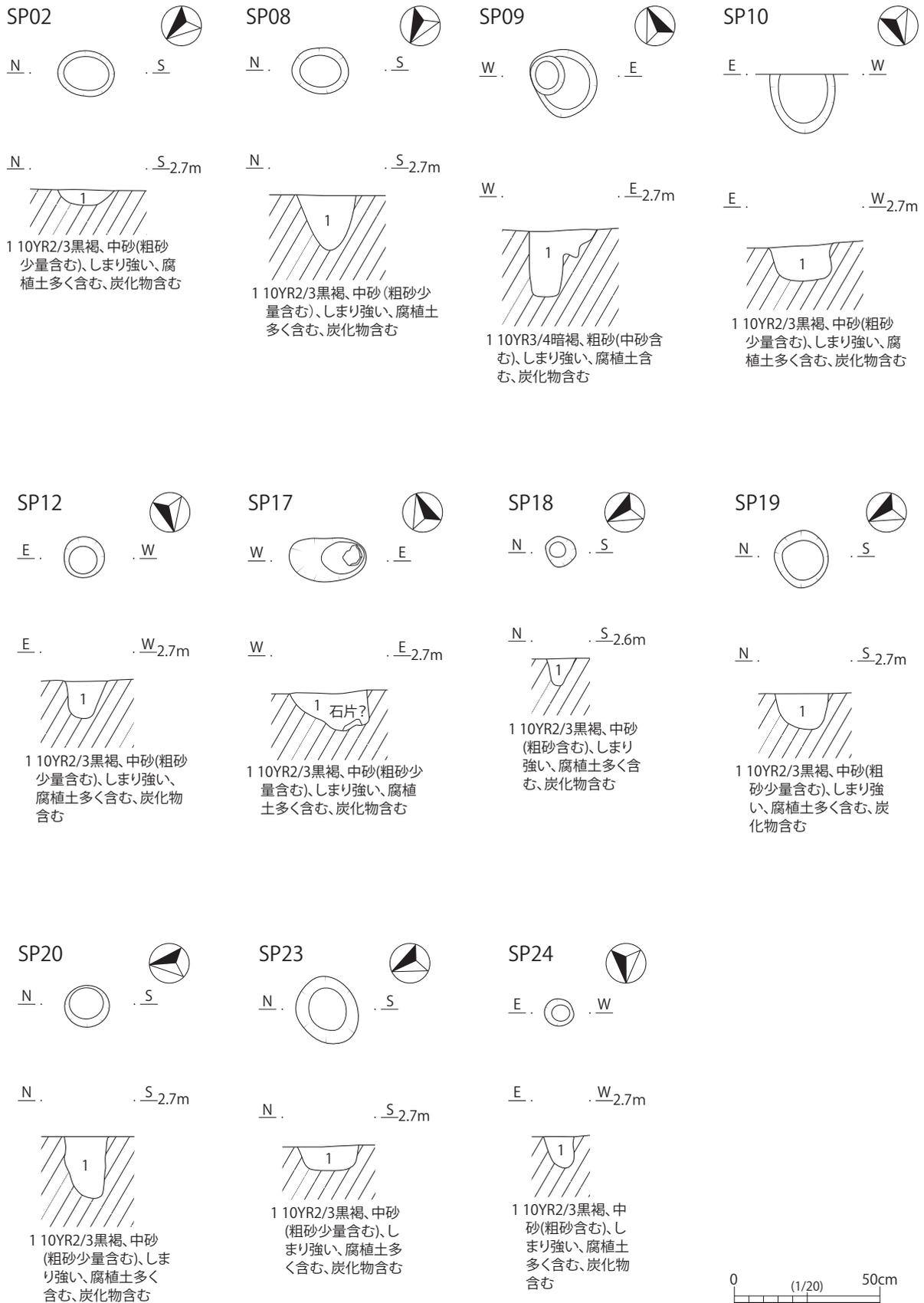
第43図18～21はSX25の9層出土である。18は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗である。蓮弁の幅は広く鎬はゆるやかである。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-a類で、13世紀前半の所産である（宮崎編2000）。19は瓦質土器の碗である。20・21は糸切り底の土師器の坏である。

第43図22～27はSX25の8～10層出土である。22は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗である。蓮弁の幅は広く鎬はゆるやかである。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-a類で、13世紀前半の所産である（宮崎編2000）。23は白磁碗である。口縁部内面に沈線がめぐり、大宰府編年のⅤあるいはⅧ類である。いずれにせよ12世紀中頃から後半の所産である。24は陶器の黄釉盤である。25は瓦質土器の捏鉢である。26・27は糸切り底の土師器で、26は坏、27は皿である。

第43図28・29はSX25の10層出土である。28は外反する口縁部をもつ青磁皿で、内面は段状になる。同安窯系青磁皿Ⅰ類で、時期は12世紀中頃から13世紀初頭である。29は陶器の壺胴部で、内外面とも回転ヘラケズリで調整する。

第43図30～36はSX25出土である。30・31は青磁碗である。30は内外面とも無文で、青緑色の釉が厚くかかる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ-1a類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である。31はケズリ高台で、内面に片彫り文、外面に櫛目文を有す。同安窯系青磁碗Ⅰ-b類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。32は白磁皿である。平底の底部から体部が直線的に開く。底部外面の釉は拭き取る。大宰府編年の白磁皿Ⅸ-2類と考えられ、13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編

I HZK1903地点 (応力研生産研本館地点第2次調査)



第44図 HZK1903地点 C1区 SP02・08～10・12・17～20・23・24平面・断面図

2000)。33は陶器壺である。内外面とも回転ヘラケズリ調整で、釉が薄くかかる。34は瓦質土器の捏鉢である。35は糸切り底の土師器の坏である。36は瓦玉である。(谷 直子)

#### ピット (第44図)

ピット SP02 長軸20cm、短軸15cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは5cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP08 径19cmの円形ピットである。確認面からの深さは19cmを測る。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP09 径24cmの円形ピットである。西側が深くなり、最も深い部分で確認面から23cmを測る。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP10 楕円形のピットとみられ、長軸は20cm以上となる。確認面からの深さは12cmである。土師器の坏・皿、龍泉窯系青磁碗 I類が出土した、小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP12 径14cmの円形ピットである。確認面からの深さは12cmを測る。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP17 長軸26cm、短軸16cmの楕円形ピットで、確認面からの深さは12cmである。土師器片の他、白磁片、陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP18 径10cmの円形ピットで、確認面からの深さは10cmである。土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP19 径20cmの円形ピットである。確認面からの深さは13cmを測る。土師器片の他、瓦質土器の碗が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP20 径14cmの円形ピットである。確認面からの深さは22cmを測る。(齋藤瑞穂)

第41図5はSP20出土の陶器の鉢底部である。内外面とも褐釉を施す。(谷 直子)

ピット SP24 径10cmの円形ピットで、確認面からの深さは12cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

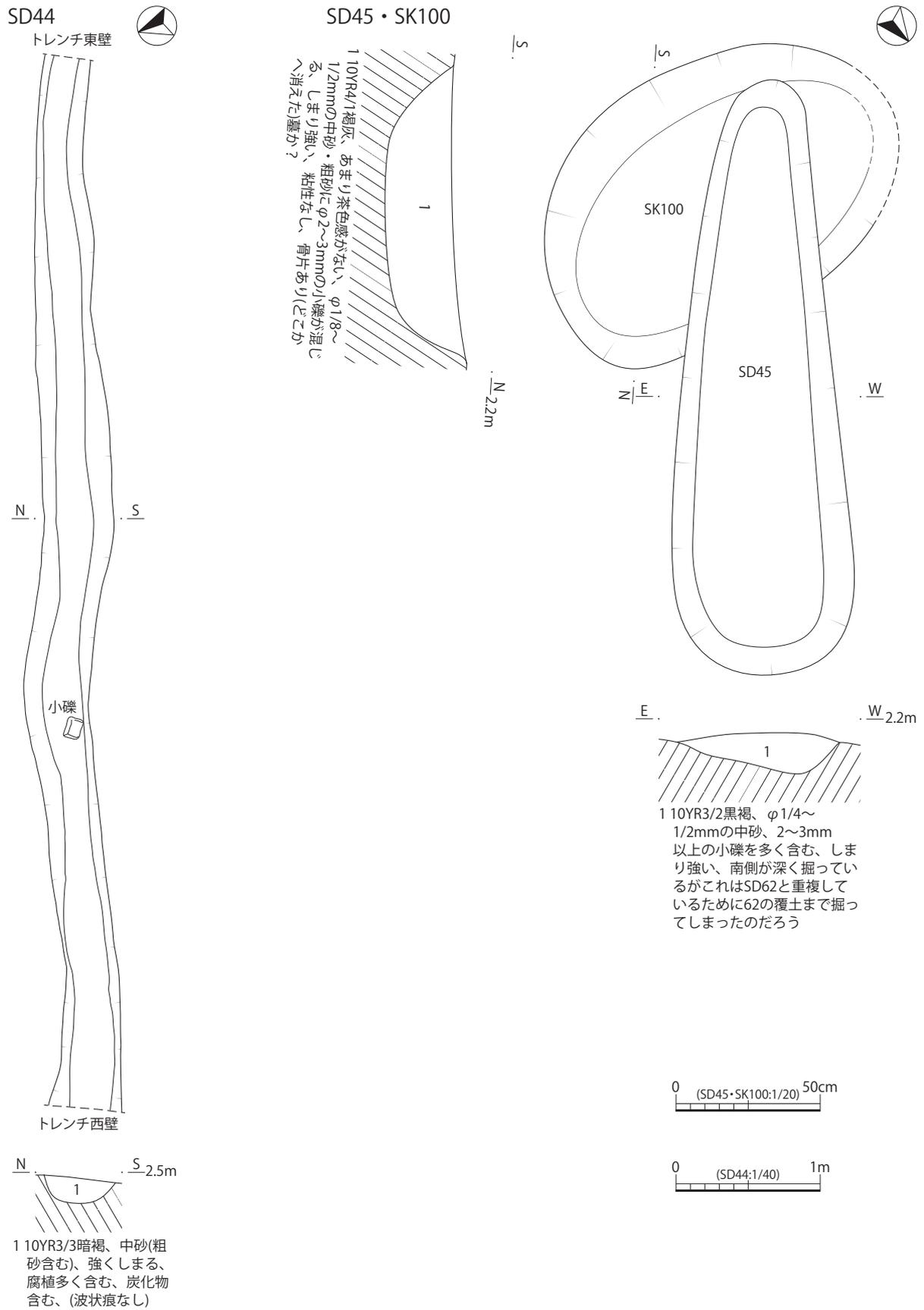
## C2区

C2区からは溝3基、井戸1基、土坑80基、ピット32基が検出された。以下、溝、土坑、ピットとその他の遺構、井戸の順に記述する。溝と切り合う土坑やピット・土坑と切り合うピットは、先述する遺構の所で詳細を述べる。

#### 溝 (第45・46・48図)

溝 SD44 (第45図) 調査区を横断する溝のうち、北側を走る溝である。幅は40~50cmほど、確認面からの深さは18cmである。わずかに蛇行するものの、ほぼ直線的である。SD44からは土師器の坏・皿、青磁碗・皿、瓦質土器の捏鉢が出土したが、小片で図化できない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

溝 SD45・土坑 SK95・土坑 SK100・土坑 SK136 (第39・45図) 切り合う4つの遺構として報告するが、正直に言えばこの場に遺された人類活動を正しく把握し得たか、報告者は確信をもてない。調査を引き継いだ際に、SD45・SK95・SK100のプランと関係性が未確定のまま同時に掘り進んでいたからである。また、SK100と後述するSK101は、溝SD62の幅内で検出されていた遺構であるが、



第45図 HZK1903地点 C2区 SD44・45・SK100平面・断面図

報告者の乏しい経験では、それをSD62とは別の遺構と認識することが難しかった。調査の経過と結果を報告するにあたり、以上の但書を付す。

SD45は、SK100と重複する。SD45は長さ206cm、幅56cmの溝で、確認面からの深さは14cmである。SK100がこれに先行するという。SD45との重複、SD62との重複は断面で確認されていない。また、SK100の西端は、プランを確認する前に掘削が進んでいて、把握しきれなかった。覆土は褐灰色砂と記録したが、重複するSD62の周囲の覆土と色味の上で大きな違いはなく、本「遺構」がSD62の一部である可能性は小さくない。

SK95とSD45とは間際で重複しないらしい。ただし、これも両遺構を跨ぐ断面で確認したわけではないから、確実でない。SK95の長軸は184cm、北側は攪乱を受けている。確認面からの深さは40cmである。この両遺構を完掘すると、わずかに底面が違ったSK136が検出された。径78cmで、確認面からの深さは24cmである。SD62より後に作られ、SD45やSK95に先行するものと推測される。

(齋藤瑞穂)

SD45からは土師器の坏、陶器片、瓦質土器片が出土したが、小片で図化できない。SK95からは土師器の坏・皿・鍋の他、白磁片、陶器鉢・壺、瓦質土器片が出土したが小片で図化できない。第63図1～4はSK100出土である。1は白磁皿である。平底の底部外面は露胎で、胎土は灰色を呈す。見込み部分は無文で、調整がやや粗い。大宰府編年の白磁皿Ⅷ-1'類で、13世紀に到り出土する傾向がある(宮崎編 2000)。2・3は糸切り底の土師器で、2が坏、3が皿である。4は円筒形の土錘。SK136からは土師器の坏・皿、白磁片が出土したが、小片で図化できない。

(谷 直子)

土坑SK33・土坑SK54・溝SD55・土坑SK56・土坑SK66・土坑SK89・土坑SK96(第46図)C2調査区を横断する3条の溝のうち、北から2番目がSD55である。SD55は西縁のSK33・SK96、東寄りのSK66を切り、SK56・SK89に切られる。SK54も、SD55を切るらしい。

SD55の幅は一定でないが、おおよそ70cmほどで、確認面からは40cm程度の深さがあった。東側に角礫が集まる箇所がある。角礫は流れついたものでなく、上から投棄ないし配置されたものであろう。同溝に先行するSK96とSK33のうち、SK96は径110cm余で楕円形のプランになると思われる。確認面からの深さは30cm。このSK96をSK33が切る。SK33は長軸180cm、短軸110cm以上で、確認面からの深さは58cmである。SK66は、径112cmの円形土坑である。確認面からの深さは40cmである。SD55より新しいSK56とSK89は、前者が後者を切る。SK56は長軸62cm、短軸36cmの土坑で、確認面からの深さは10cmにすぎないが、焼土のような赤褐色砂で充たされる。SK89は、長軸100cm、短軸84cmの不整形をなす。深さは30cmである。東縁で検出されたSK54は、長軸108cm、短軸44cm、確認面からの深さは26cmを測る。

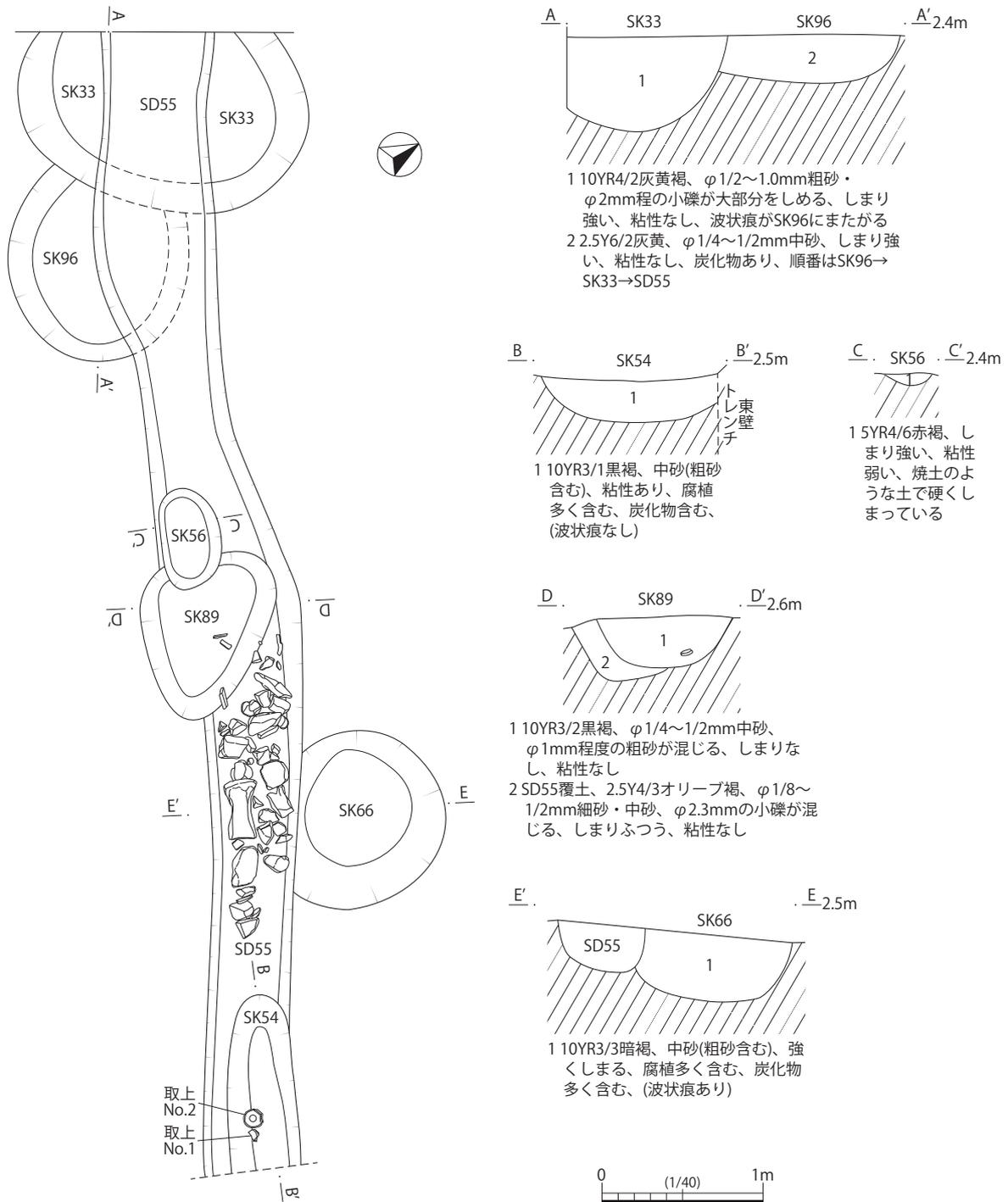
(齋藤瑞穂)

SK33からは土師器の坏・皿・鍋、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗、陶器鉢、瓦質土器の捏鉢、瓦、石鍋が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。

第55図22～24はSK54出土の糸切り底の土師器の坏である。他に、瓦質土器の碗、瓦が出土したが、小片で図化できない。

第47図はSD55出土である。1は陶器の天目碗である。口縁付近で角度を変えて立ち上がる鬚嘴である。灰白色の胎土に黒褐色の釉がかかるが光沢を失っており、二次被熱したと思われる。時期は12世紀後半から13世紀前半である(田中 2008)。2・4は平瓦、3は熨斗瓦である。いずれも内外面ともナデ調整。5～7は丸瓦である。いずれも表面に縄目タタキが残り、6・7は裏面に布目と吊り紐痕が残る。吊り紐痕は13世紀後半以降みられるようになる(松田他 2019)。

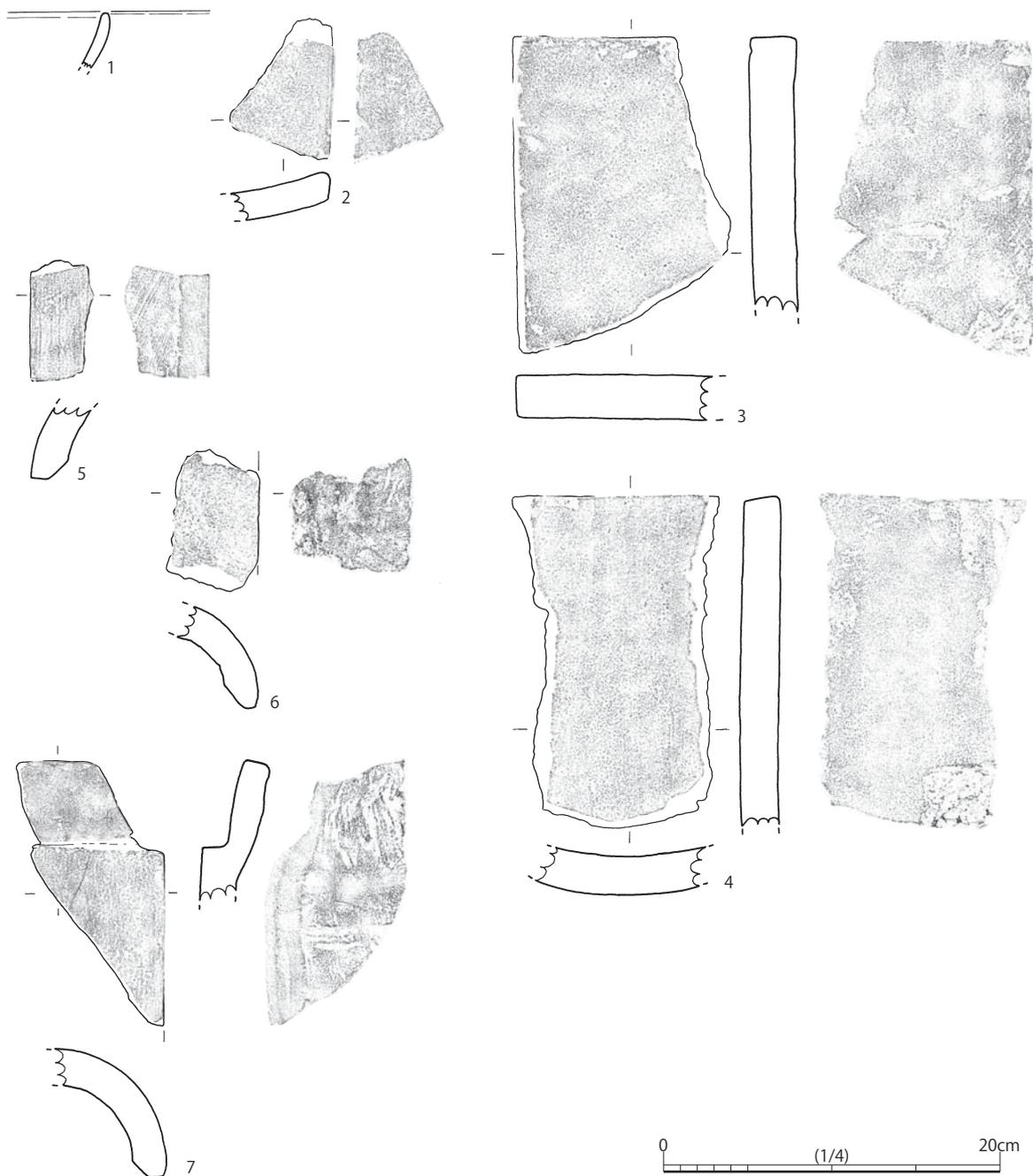
SK56からは土師器の坏の他、青磁片、瓦片が出土したが、小片で図化できない。



第46図 HZK1903地点 C2区 SK33・54・SD55・SK56・66・89・96平面・断面図

SK66からは土師器の坏の他、龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、同安窯系青磁皿Ⅰ類、白磁碗、天目碗が出土したが、小片で図化できない。

第60図10~13はSK89出土である。10は青磁碗で、口縁部外面に雷文と片彫り文、内面に片彫り文を施す。龍泉窯系青磁碗Ⅳ類で14世紀以降の所産である。11は糸切り底の土師皿である。12は平瓦で内外面ともナデ調整。13は丸瓦で表面に縄目タタキ、裏面に布目が残る。



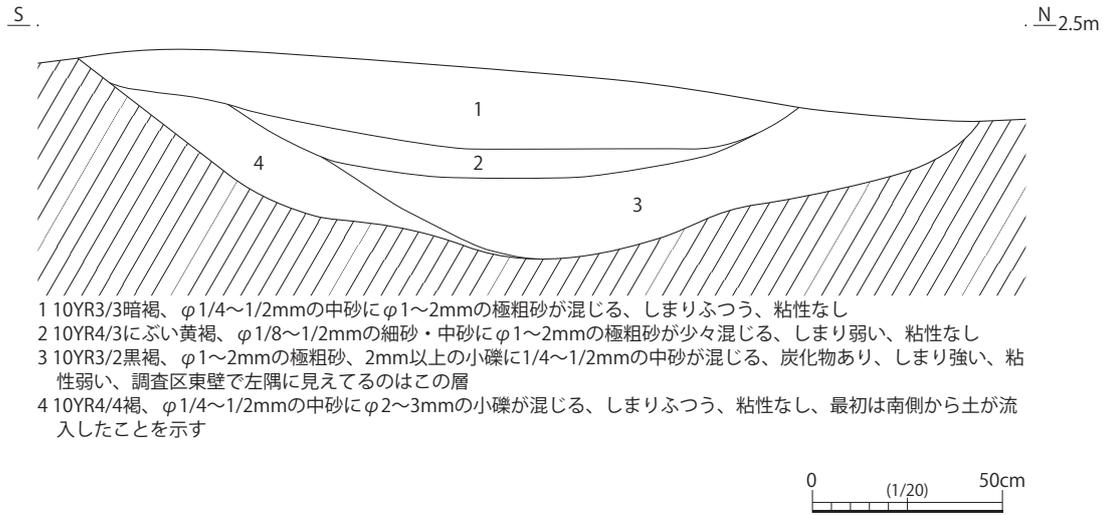
第47図 HZK1903地点 C2区 SD55出土遺物

SK96からは土師器の坏・皿、青磁碗、白磁碗Ⅸ類、陶器片が出土したが、小片で図化できない。

(谷 直子)

溝 SD62・SK91・SK101・SK137・SK138・SK139 (第48・56・61・62図) 報告者が調査を引き継いだ時点では、調査区中央を横断する溝としてSD62が検出されており、半分以上掘り進んだところで先述のSK100やSK101が確認されていた。前任担当者は東端、中央、西端にトレンチを入れて、同一の遺構と判断したようである。調査の手順として、この部分は問題がない。しかし最終的な所見をいうと、東側と西側とで別の遺構であった可能性が高い。根拠は、㊦東側から延びてくる溝

SD62



第48図 HZK1903地点 C2区 SD62断面図

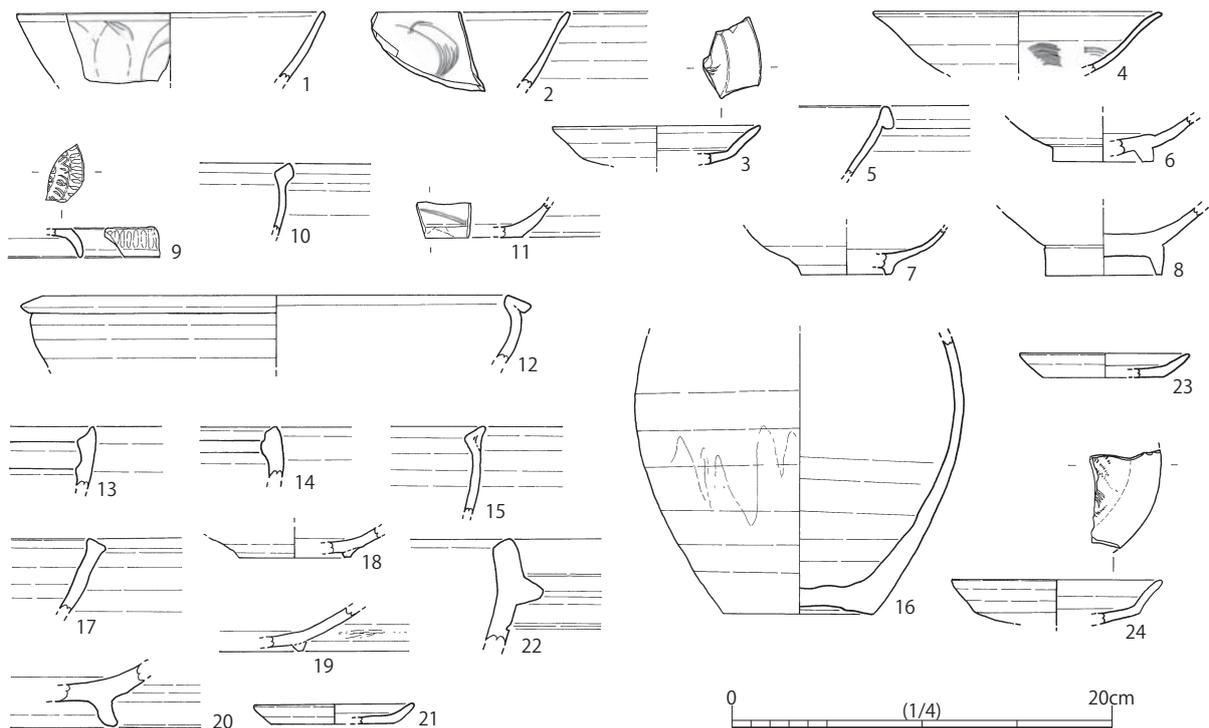
が中央付近で南に逸れる点、かつ、④東西で立ち上がりの形状や深さが異なる点である。第48図の断面図は、SD62東側の形状を反映している。すなわち、東側の幅は238cm、確認面からの深さは50cmである。

SK101の東端は、プランが確認される前に掘削が進んでいたため、把握できていない。褐灰色砂と記録したが、重複するSD62西側の覆土と色味の上で大きな違いはなく、本「遺構」がSD62の一部である可能性は小さくない。

SK139は調査区西側壁面において、SD62と一部重複する形で検出した土坑である。径188cm、確認面からの深さは44cmである。

SK91・SK137・SK138はSD62東側の底面で検出した土坑である。SD62の覆土精査時にはプランを視認できず、底面で初めて現れた。したがって、これらの土坑の上方はSD62を営む際に壊されたものと推測される。SK91の径は36cm、確認面（SD62底面）からの深さは6cmである。SK137・SK138の両楕円形土坑は、前者が先行する。長軸110cmほどになろう。SK138も長軸100cm、短軸70cmを測る。  
 （齋藤瑞穂）

第49図1~22はSD62出土である。1は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗である。蓮弁の彫りは浅く鎬も低い。釉調は黄味色を帯びる。2は口縁部がわずかに玉縁状になる青磁碗で、内面に片彫り文を施す。3は青磁皿で、体部中位で屈曲し口縁部に向かってやや外反する。同安窯系青磁皿I類と判断され、12世紀中頃から後半の所産である。4は白磁碗で、口縁はやや外反し端部を丸くおさめる。体部は下半に向かって丸みを持つ。内面に1条の圈線と短い櫛目文を持つ。白磁碗V-1c類で11世紀後半から12世紀の所産である。5は玉縁口縁の白磁碗で、白磁碗IV類に相当する。11世紀後半から12世紀の所産である。6はケズリ高台の白磁碗底部である。角高台で体部外面下半から底部外面にかけて露胎である。内面見込みと体部の境に段が付く。7は低く丸みを帯びた高台をもつ白磁碗底部である。内外面とも施釉し、高台内側のみ露胎する。8は細く高く直立する高台部をもつ白磁碗で、体部外面下半から底部外面にかけて露胎である。内面の見込みと体部の境に細い圈線が一条めぐる。大宰府編年の白磁碗V類で、11世紀後半から12世紀の所産である（宮崎編 2000）。9は青白磁の合子蓋で、菊



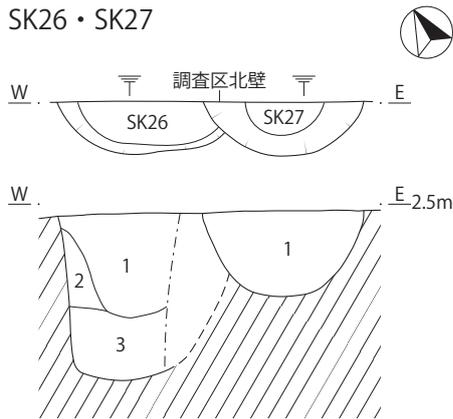
第49図 HZK1903地点 C2区 SD62・65出土遺物

花形に成形し、頂部にも施文する。青白磁は博多では12世紀後半代から14世紀まで出土する（田中2008）。10・11は陶器の黄釉盤である。10は口縁部の釉は拭き取り、外面は露胎。丸みを持つ体部に断面方形の口縁部が付く。大宰府編年の陶器盤 I-2類で、11世紀後半から12世紀前半の所産である。11は鉄絵を施す底部である。12～15は陶器鉢である。12は肥厚した玉縁状の口縁を持つ鉢で、体部は湾曲する。内面に濁黄灰色の釉がかかる。大宰府編年の陶器鉢 I-3類で、11世紀後半から12世紀前半の所産である。13は口縁部内面に2条の突帯が付く陶器鉢で、大宰府編年の陶器鉢 I-1b類である。12世紀後半から13世紀前半の所産。14は内面に1条の突帯を持つ陶器鉢で、大宰府編年の I-1a類である。12世紀中頃の所産。15は陶器の鉢で、口縁部の粘土を折り返して玉縁状にする。16は陶器壺の下半部で、内外面ともヘラケズリを施し、薄く釉がかかる。17は須恵質の捏鉢で、口縁端部が暗灰色を呈す。18・19は瓦質土器の碗で、いずれも粘土紐を巻き付けて成形した低い高台が付く。20は土師器の高台付坏で、粘土紐を成形した太い高台である。21は糸切り底の土師皿。22は石鍋で口縁部下に短い鋳が付く。

SK91からは土師器の皿・鍋が出土したが、小片で図化できない。

第63図5～10はSK101出土である。5・6は白磁碗底部である。5は高台が幅広で削り出しが浅く、器壁も厚い。釉は黄色味を帯び、底部外面は露胎である。内面は見込み部分よりやや上方に沈線が1条めぐり。大宰府編年の白磁碗IV-1a類で、11世紀後半から12世紀前半が主な時期で、12世紀後半まで一定量を占める。6は高台が小さく断面方形で、底部外面まで施釉する。内面見込み部分に圈線が1条めぐり。釉は空色を帯びた灰白色である。白磁碗IX-1類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する。7は白磁皿底部である。底部はわずかに抉り、器壁は薄い。底部外面は露胎である。8は口縁部内面に2条の突帯が付く陶器鉢で、大宰府編年の陶器鉢 I-1b類である。12世紀後半から13世紀前半の所産（宮崎編 2000）。9は瓦質土器の碗である。内面にミガキを施す。10は糸切り底の土師皿であ

SK26・SK27



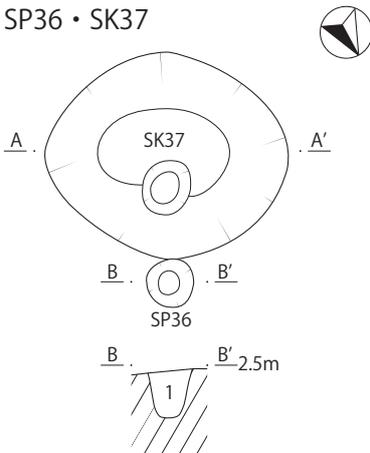
SK26

- 1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂少量含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、(波状痕なし)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕なし)
- 3 10YR3/1黒褐、中砂(粗砂少量含む)、強くしまる、腐植痕多く含む、炭化物含む、(波状痕なし)

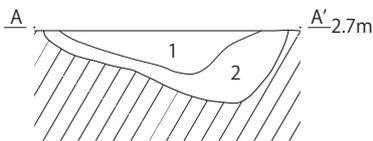
SK27

- 1 10YR3/2黒褐、強くしまる、中砂(粗砂含む)、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり

SP36・SK37

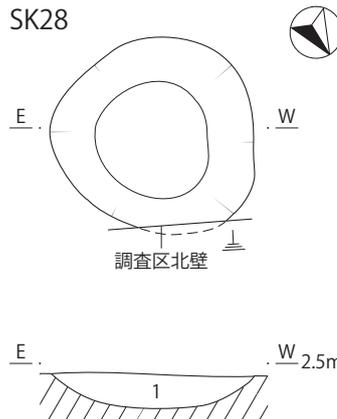


- 1 10YR3/2黒褐、強くしまる、中砂(粗砂含む)炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり



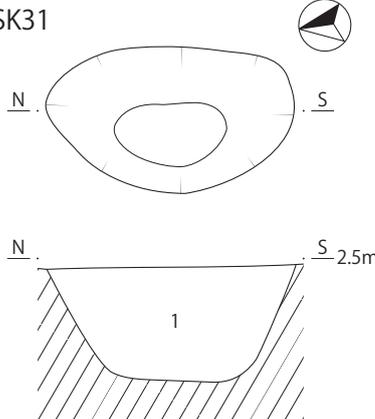
- 1 10YR2/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、粘性あり、腐植多く含む、炭化物多く含む、(波状痕みられず)
- 2 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕みられず)

SK28



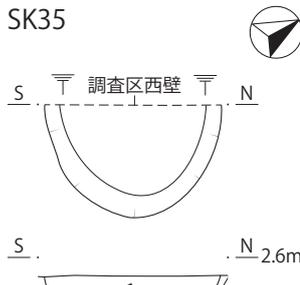
- 1 10YR3/2黒褐、強くしまる、中砂(粗砂含む)、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり

SK31



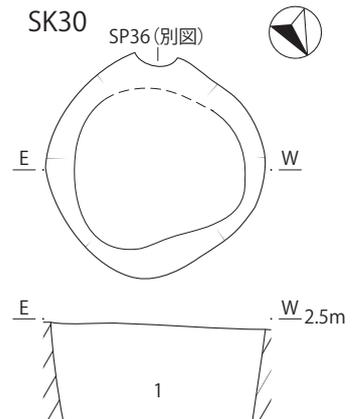
- 1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり

SK35



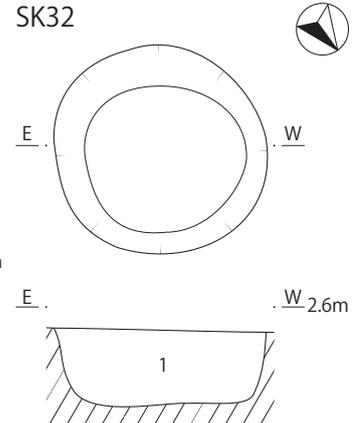
- 1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり

SK30



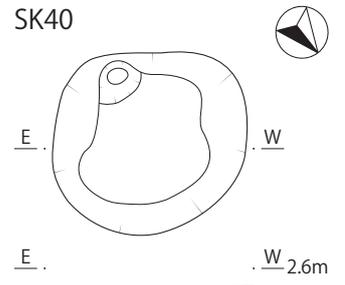
- 1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり

SK32

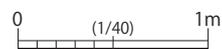


- 1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり

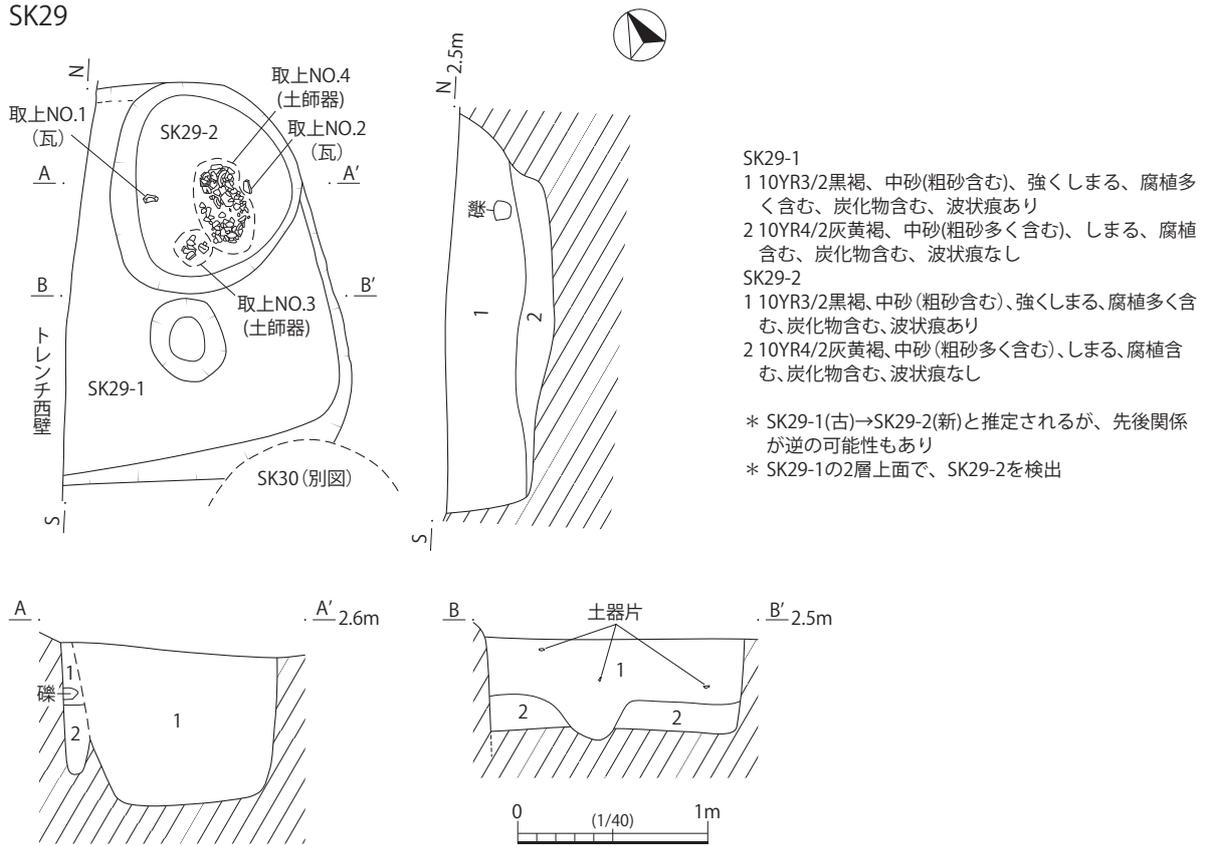
SK40



- 1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり



第50図 HZK1903地点 C2区 SK26~28・30~32・35・SP36・SK37・40平面・断面図



第51図 HZK1903地点 C2区 SK29平面・断面図

る。SK137からは遺物は出土していない。SK138からは遺物は出土していない。

第63図13～15はSK139出土である。13は土師質の三足器の脚部と考えられる。14・15は糸切り底の土師器の坏である。(谷 直子)

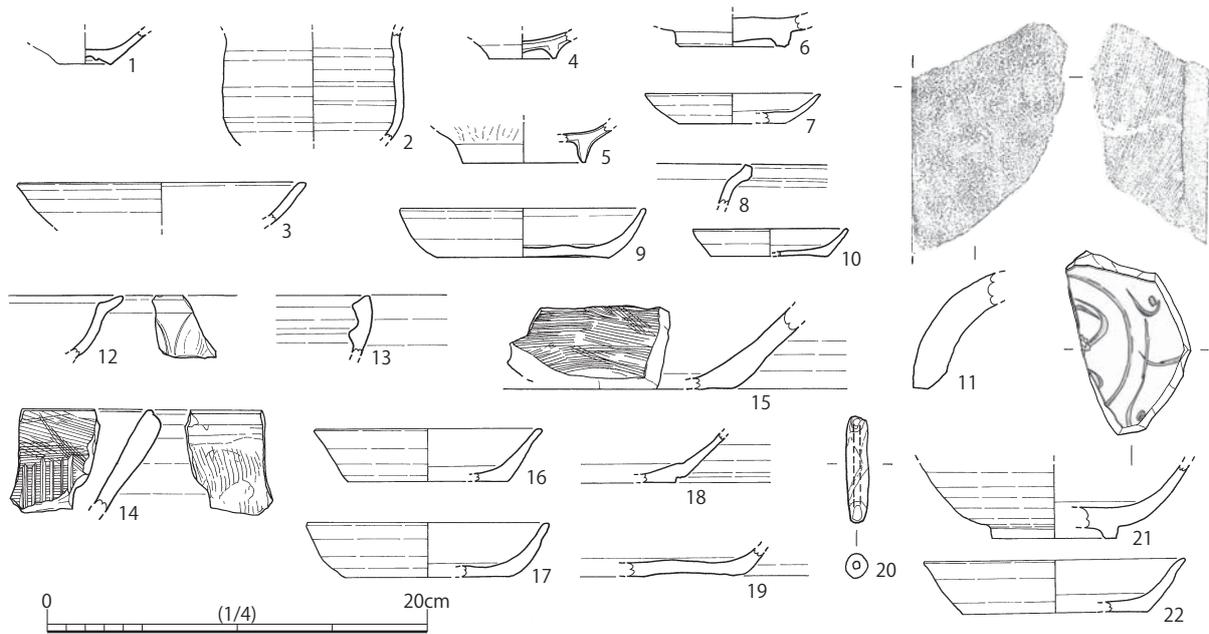
土坑(第50・51・53・54・56・58・59・61・62図)

土坑 SK26・SK27(第50図) 調査区の北縁で検出された遺構群で、記録によるとSK26が古く、SK27が新しい。SK26は完掘されなかったため、東側の立ち上がりは推定である。なお、SK26とSK27の土の色には違いがない。SK26は径80cm以上が見込まれ、深さは確認面から88cmを測る。SK27の径は88cmであるという。確認面からの深さは46cmである。(齋藤瑞穂)

SK26からは土師器の坏・皿・鍋が出土したが、小片で図化し得ない。第52図1～3はSK27出土である。1は小さい碁笥底の底部が付く陶器の碗である。底部のケズリは粗く、化粧土様の釉はごく薄くかかる。内面に指ナデの痕跡が残る。2は陶器の碗もしくは壺で、胴部下方に突線が3条めぐる。不透明の灰色釉で、胎土や釉調は朝鮮王朝時代の粉青沙器に似る。3は土師器の坏口縁部である。(谷 直子)

土坑 SK28(第50図) 径106cmの円形土坑である。確認面からの深さは18cmを測る。須恵器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK29・土坑 SK30・ピット SP36・土坑 SK37(第50・51図) 調査区の北縁で検出された。残されている記録には不自然な点があるが、記録と調査担当者への聞き取り結果にもとづいて報告する。SK29-1、SK29-2、SK30の3遺構をみとめ、SK29-1をSK29-2とSK30が切るらしい。SK29-1は隅丸方形の遺構と推測され、南北216cmを測る。2層からなる。SK29-2はそれを切る。110cm×100cmの



第52図 HZK1903地点 C2区 SK27・29・31出土遺物

円形プランをなす。ただし覆土はSK29-1と同一であり、なぜこのプランになるかを調査担当者に聞き取りしたが、報告者の乏しい経験では根拠を理解できなかった。SK30は、SP36とも重なる。SK29-1を切り、SP36に切られる。SK30は径116cmの円形土坑で、確認面からの深さは70cmである。なお、SK29-1とSK30の土の色には違いがない。SP36はSK37と接するものの重ならないらしい。径24cm、確認面からの深さは26cmである。本ピットもSK29-1とSK30の土の色には違いがない。SK37は、長軸128cm、短軸110cmの楕円形土坑で、確認面からの深さは40cmを測る。(齋藤瑞穂)

第52図4～11はSK29のa層出土である。4・5・6は青磁碗底部である。4・5は断面が細く尖り気味になる底部で、釉調は青緑色を呈し、5は外面に鎬蓮弁文を施す。いずれも大宰府編年の龍泉窯系青磁碗皿類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である。6は低いケズリ高台がつく。7は口禿の白磁皿である。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。8は陶器の鉢口縁部で、茶褐色の釉がかかる。9・10は糸切り底の土師器で、9が坏、10が皿である。11は丸瓦である。裏面にコビキAと布目が残る。

第52図12はSK29のb層出土の青磁坏である。体部が丸みを持ち内湾気味に立ち上がる。体部外面に鎬蓮弁文を施す。口縁部は外反し平坦になる。大宰府編年の龍泉窯系青磁坏Ⅲ-4類である。時期は13世紀中頃から14世紀初頭。

第52図13～20はSK29出土である。13は口縁部内面に2条の突帯が付く陶器鉢で、大宰府編年の陶器鉢Ⅰ-1b類である。12世紀後半から13世紀前半の所産。14は瓦質土器の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降スリ溝が付く(山本他 1997)。15は土師質の捏鉢底部である。16～19は糸切り底の土師器の坏である。20は円筒形の土錘である。

SK30からは、土師器の坏、白磁片、天目碗片が出土したが、小片で図化できない。SP36からは遺物は出土していない。SK37からは土師器の坏・皿の他、白磁片、陶器片、瓦質土器片、瓦が出土したが、小片で図化できない。(谷 直子)

土坑 SK31 (第50図) 長軸130cm、短軸78cmの楕円形土坑で、深さは60cmである。(齋藤瑞穂)

第52図21・22はSK31出土である。21は低いケズリ高台の青磁碗で、内面に片彫り文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類で12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。22は糸切り底の土師器の坏である。(谷 直子)

土坑 SK32 (第50図) 径114cmの円形土坑で、確認面からの深さは40cmを測る。土師器の坏・鍋、陶器片が出土したが、小片で図化できない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK35 (第50図) 調査区西縁で検出した土坑で、南北94cm、東西は60cm以上、確認面からの深さは16cmである。土師器の坏の他、陶器片が出土したが、小片で図化できない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK40 (第50図) 径100cm、確認面からの深さ26cmの円形土坑である。土師器の坏・皿の他、同安窯系青磁碗Ⅰ類、陶器片、須恵器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK41・ピット SP43 (第53図) 重複する2つの遺構である。当初、担当者はこの両遺構が重ならないものと捉えていたらしい。SK41を精査する過程で南側が広がり、SP43と新古の関係があることが判明したようである。残された図面はSP43が新しく、SK41が古いものとして記録されている。しかし両遺構の覆土は全く同一で、SK41が新しい可能性もあるといい、新古を確定する決め手はない。(齋藤瑞穂)

第55図1～7はSK41出土である。1は小さな玉縁状の口縁部を持つ白磁碗である。2は短く屈折した口縁部を有す白磁碗で、大宰府編年のⅤ-4類あるいはⅧ類である。いずれにせよ時期は12世紀中頃から後半である。3は口唇部に型押しする土師器甕である。12世紀後半から13世紀の所産である(山本他 1997)。4は土師器の高台付坏である。高台部分は欠損し、粘土紐を貼り付けた痕跡のみが残る。5・6は糸切り底の土師器で、5は坏、6は皿である。7は円筒形の土錘である。SP43からは遺物は出土していない。(谷 直子)

土坑 SK46 (第53図) 長軸84cm、短軸50cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは30cmである。SK46からは遺物は出土していない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK47 (第53図) 長軸60cm、短軸50cmの楕円形土坑である。確認面からの深さは6cmである。SK47からは龍泉窯系青磁碗Ⅰ類が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

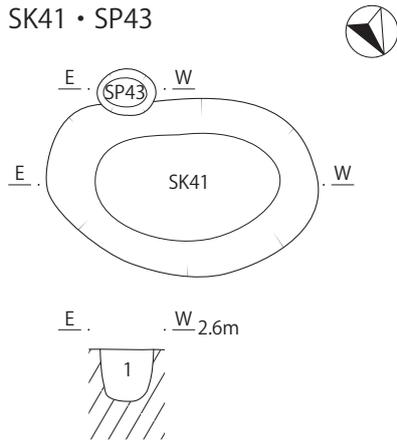
土坑 SK49・SK69 (第53・56図) 調査区西縁で検出された遺構群で、SK69をSK49が切る。SK49は隅丸方形を呈し、長軸152cm、短軸128cmを測る。確認面からの深さは54cmである。SK69のプランは詳らかでない。確認面からの深さは36cmを測る。(齋藤瑞穂)

第55図8～15はSK49出土である。8は鎬蓮弁文の青磁碗である。低い角高台で、内面見込み部分には「青」と陽刻する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-d類で、13世紀初頭から前半の所産である。9は口禿の白磁碗で、白磁碗Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する。10は細く高く直立する高台部をもつ白磁碗で、底部外面は露胎である。大宰府編年の白磁碗Ⅴ類で、11世紀後半から12世紀の所産である。11・12は平底の白磁碗で、底部は全面施釉である。11は底部外面の釉を工具でのばしている。12は見込みにレリーフ状の文様を施す。いずれも白磁皿Ⅸ類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。13・14は丸瓦である。13は表面に縄目タタキ、裏面に布目が残る。14は裏面に布目が残る。15は糸切り底の土師器の坏である。

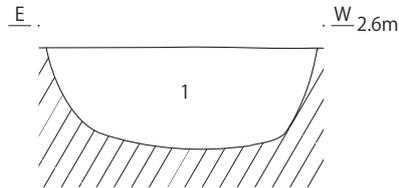
SK69からは土師器の坏・皿・鍋、瓦が出土したが、小片で図化できない。(谷 直子)

土坑 SK50・SK51・SK52・SK53・SK68 (第53・56図) SD55の北側に集中する土坑群である。追検証を促す断面図が設定・作成されていないが、SK50・51・53がSK52を切る、と記録されている。SK50は長軸148cm、短軸108cmの楕円形で、確認面からの深さは50cmである。SK51は長軸148cm、

SK41・SP43

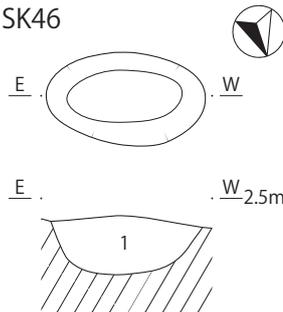


1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり



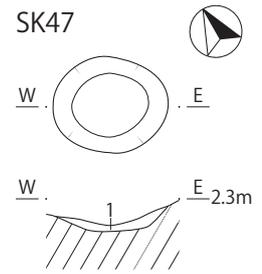
1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり

SK46



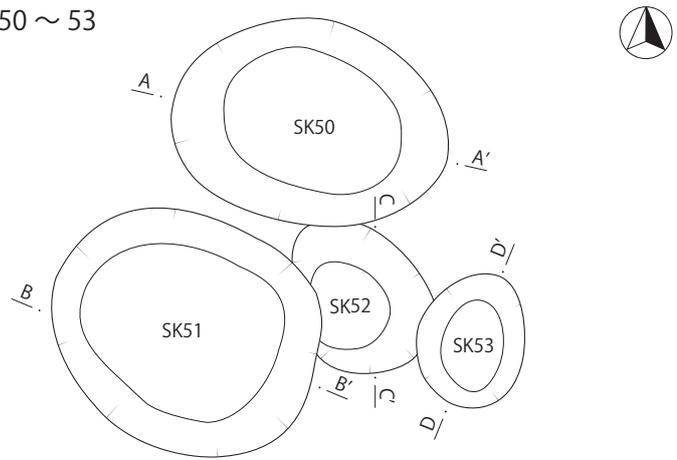
1 10YR4/2灰黄褐、粗砂(中砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物含む

SK47

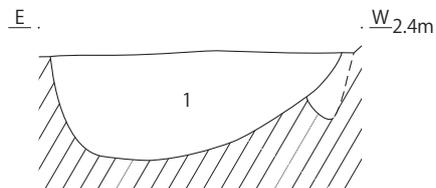
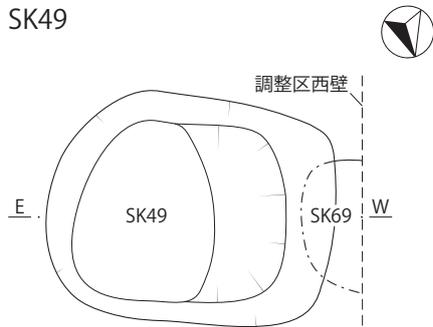


1 10YR4/2灰黄褐、弱くしまる、中砂(粗砂含む)、炭化物含む、腐植少量含む

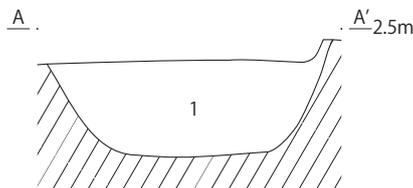
SK50 ~ 53



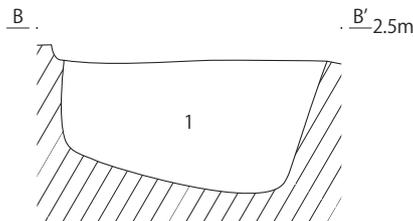
SK49



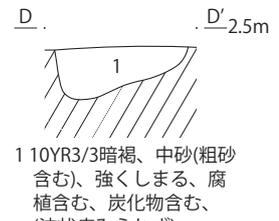
1 10YR3/2黒褐、強くしまる、中砂(粗砂含む)、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり



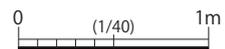
1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり



1 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり



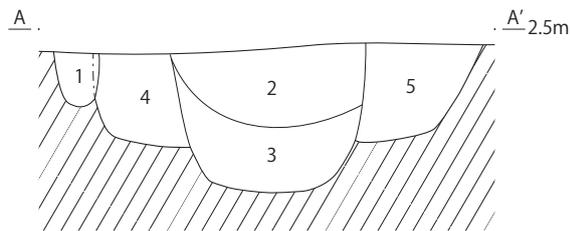
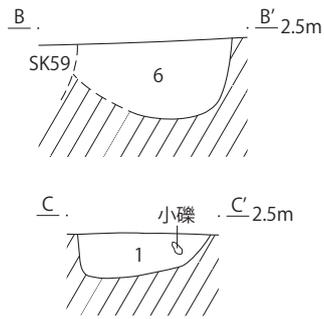
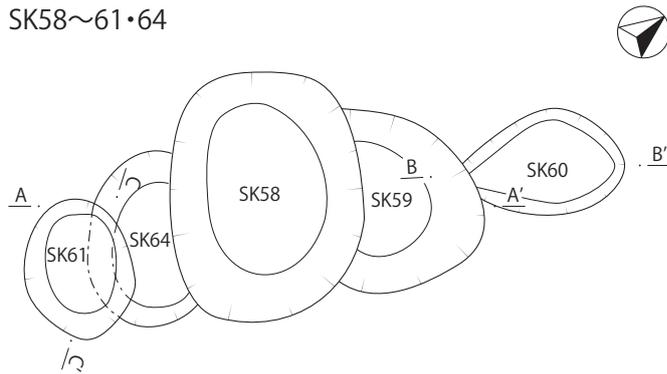
1 10YR3/3暗褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕みられず)



第53図 HZK1903地点 C2区 SK41・SP43・SK46・47・49・50~53平面・断面図

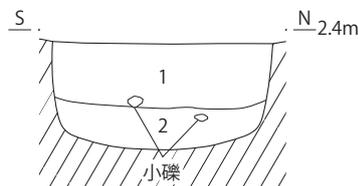
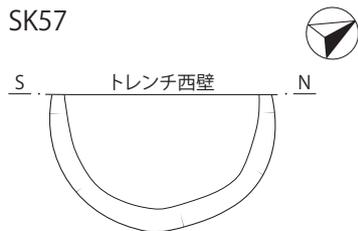
短軸124cmの楕円形土坑で、確認面からの深さは68cmである。SK52は径78cm、確認面からの深さは16cmである。SK53は長軸74cm、短軸56cm、確認面からの深さ26cmを測る。SK68はSK50に切られる。長軸80cm、短軸64cm、確認面からの深さは30cmである。(齋藤瑞穂)

SK58~61・64



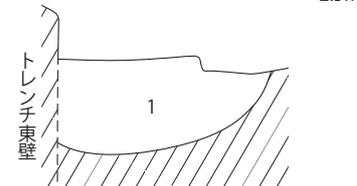
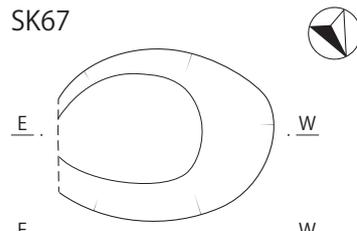
- 1 10YR3/2黒褐、強くしまる、中砂(粗砂含む)、炭化物含む、腐植多く含む、波状痕あり
- 2 10YR3/3暗褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物含む、波状痕あり
- 3 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、粘性あり、腐植多く含む、炭化物含む、波状痕あり
- 4 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物含む、(波状痕なし)
- 5 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、粘性あり、腐植多く含む、炭化物含む、波状痕あり
- 6 10YR3/3暗褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物含む、(波状痕なし)

SK57

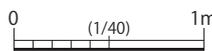


- 1 10YR4/2灰黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、波状痕
- 2 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、粘性あり、腐植多く含む、炭化物多く含む

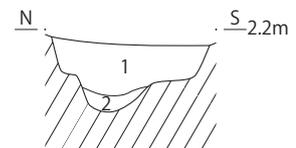
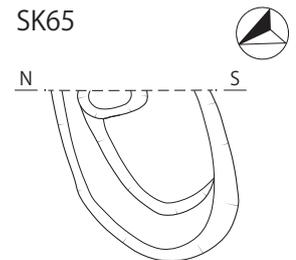
SK67



- 1 10YR4/2灰黄褐、中砂(粗砂多く含む)、しまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕なし)



SK65

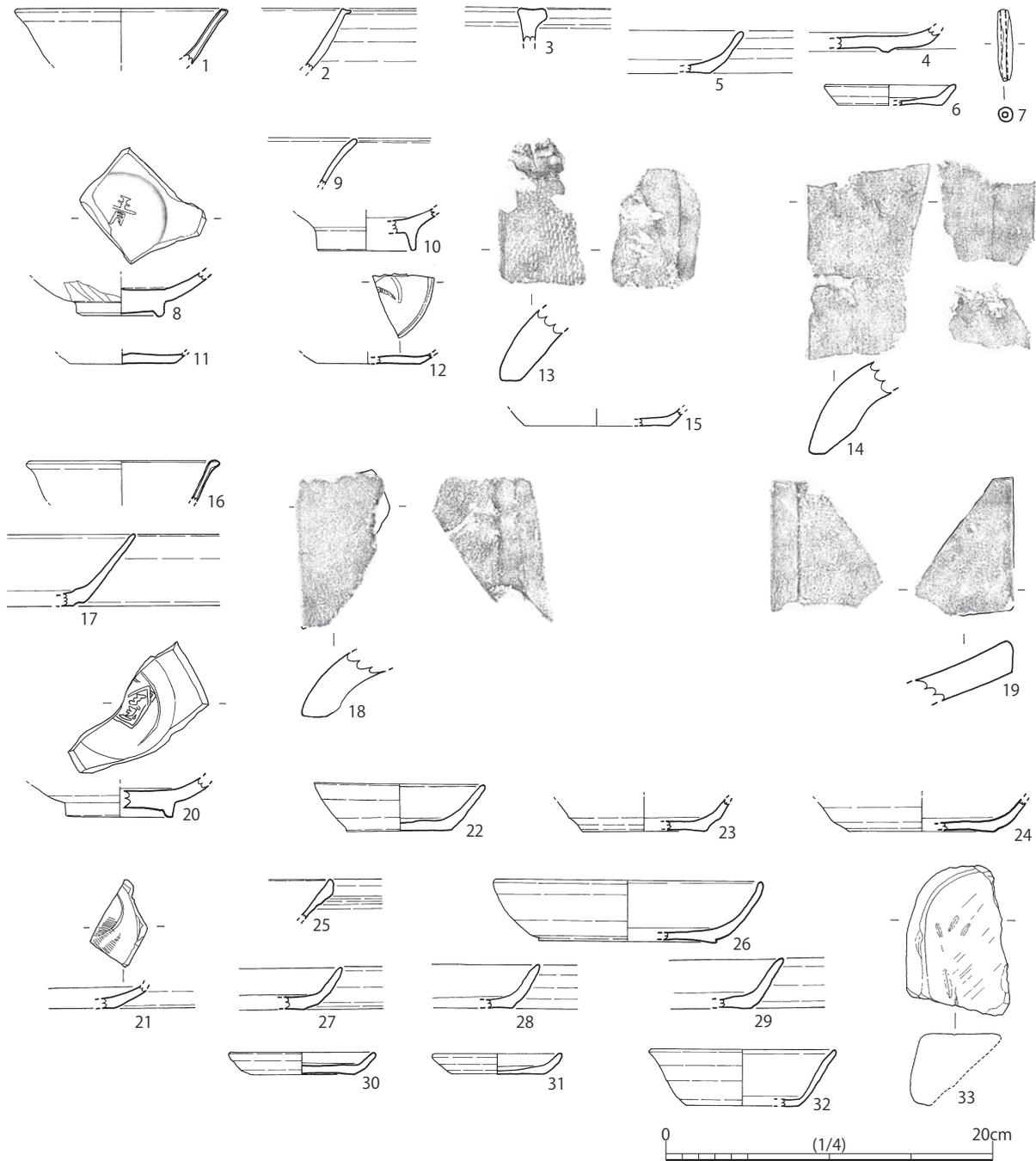


- 1 10YR4/2灰黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕なし)
- 2 10YR4/1褐灰、中砂(粗砂含む)、しまる、腐植多く含む、炭化物含む、(波状痕なし)

第54図 HZK1903地点 C2区 SK57~61・64・65・67平面・断面図

第55図16~19はSK50出土である。16は口縁端部を短く屈折させる青磁坏で、大宰府編年の青磁坏Ⅲ-1類である。13世紀中頃から14世紀初頭の所産である(宮崎編 2000)。17は糸切り底の土師器の坏である。18は丸瓦で、裏面に布目と吊り紐痕が残る。吊り紐痕は13世紀後半以降みられるようになる(松田他 2019)。19は平瓦である。他に同安窯系青磁碗、白磁碗、陶器鉢、瓦質土器の捏鉢、瓦も出土したが、これらは小片で図化し得ない。

第55図20・21はSK51出土である。20は青磁碗で、見込みに「金玉」の刻印がある。低い角高台をけずり出して成形している。外面は無文である。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1c類で、12世紀中



第55図 HZK1903地点 C2区 SK41・49・50・51・54・57・59・61出土遺物

頃から13世紀初頭の所産である。21は青磁皿で、見込みにジグザグ状の櫛点描文を施し、底部の釉を掻き取る。同安窯系青磁皿 I-2b 類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である (宮崎編 2000)。他に、青磁碗の I～IV 類、白磁碗Ⅷ類なども出土したが、いずれも小片で図化し得ない。

SK52からは土師器、陶器の破片が出土したが、小片で図化し得ない。SK53からは土師器の坏が出土したが、小片で図化できない。SK68からは土師器の皿・鍋が出土したが、小片で図化できない。

(谷 直子)

土坑 SK57 (第54図) 南北は116cm、東西は70cm 以上になる。深さは56cm である。(齋藤瑞穂)

第55図25～31はSK57出土である。25は玉縁口縁の白磁碗である。大宰府編年の白磁碗Ⅳ類で、11世紀後半から12世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。26～29は糸切り底の土師器の坏である。30・31は糸切り底の土師皿である。（谷 直子）

土坑 SK58・SK59・SK60・SK61・SK64（第54図） 調査区中央に集中する土坑群である。SK58がSK59とSK64を、さらにSK59はSK60を切るらしい。SK64はSK58とSK61とに切られるようである。ただし、SK58の下層覆土と両サイドのSK59・SK64の覆土は同じ色で、同じように「腐植」や「炭化物」を多く含む。SK59とSK64は底面のレベルもほぼ同じであり、覆土も同じであるとすればこれらが同一遺構の可能性も出てくるが、その目線では検討されなかった。（齋藤瑞穂）

SK58からは土師器の坏・皿、龍泉窯系青磁碗Ⅰ～Ⅲ類、青白磁片、陶器壺、瓦質土器の碗、捏鉢、須恵器片、瓦、土錘が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。

第55図32はSK59出土の白磁皿である。口縁部が口禿となり、大宰府編年の白磁皿Ⅸ-1c類で、13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。SK59からはほかに土師器の坏、青磁碗片、陶器片、瓦が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。SK60からは土師器片が出土したが、小片で図化できない。

第55図33はSK61出土の砥石である。ほかに土師器の坏・皿・陶器片、瓦質土器片、滑石が出土したが、小片で図化し得ない。

SK64からは土師器の坏・皿・鍋、青磁片、白磁片が出土したが、小片で図化し得ない。

土坑 SK65（第54図） 南北90cm、東西は96cm以上で段状に立ち上がる。深さは36cmを測る。

（齋藤瑞穂）

第49図23・24はSK65出土である。23は糸切り底の土師皿である。24は見込みにジグザグの点描文を施し、口縁部はやや外反する。大宰府編年の同安窯系青磁皿Ⅰ-2b類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。他に瓦質土器の碗、陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。（谷 直子）

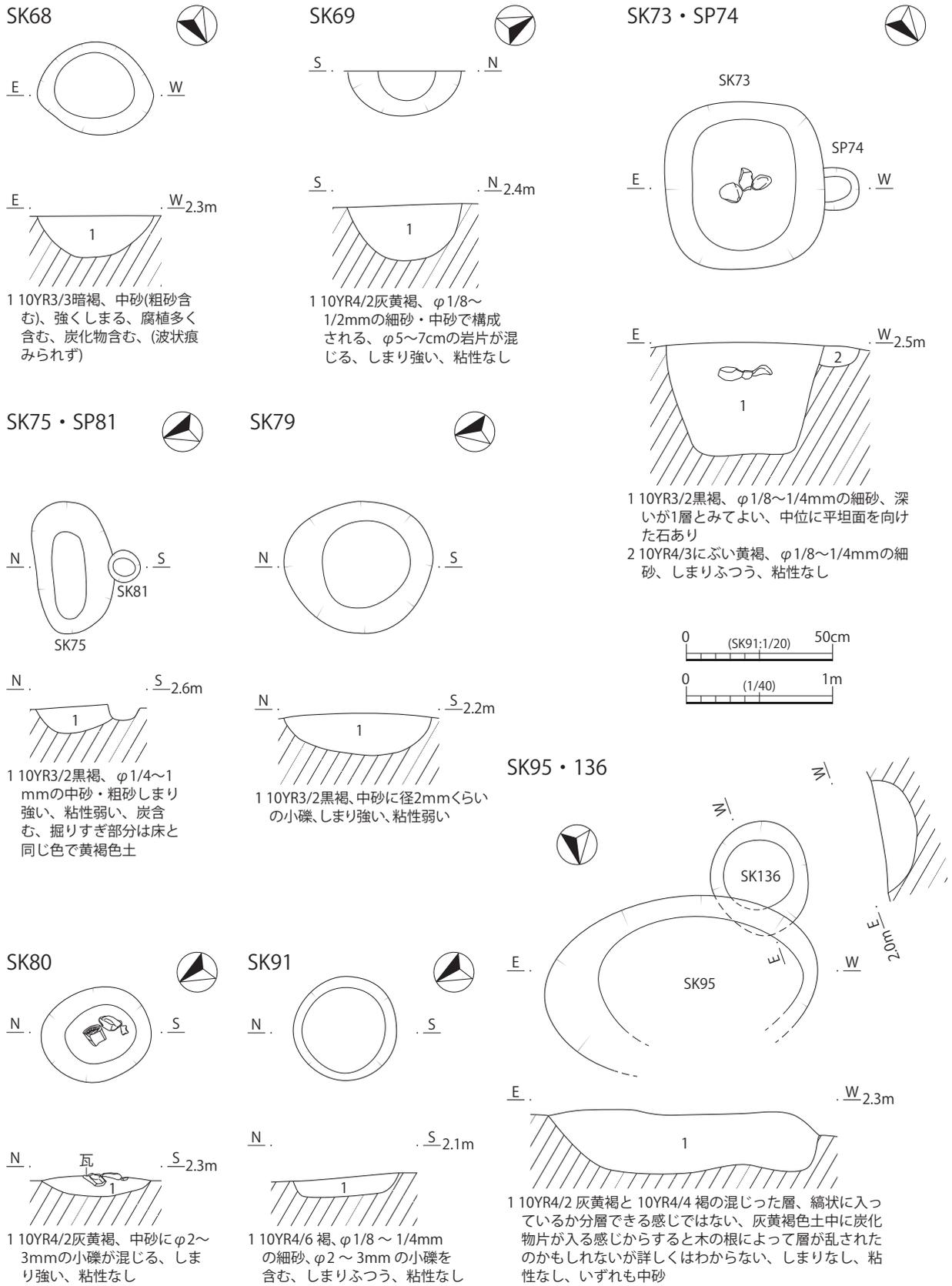
土坑 SK67（第54図） 長軸140cm、短軸90cmほどの楕円形になると見込まれる。確認面からの深さは42cmを測る。SK67からは土師器の坏・皿の他、白磁碗Ⅸ類、瓦質土器片が出土したが、小片で図化できない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK73・ピット SP74（第56図） SK73がSP74を切る。SK73は径54cmの隅丸方形を呈する。中位に礫のまとまる部分がある。確認面からの深さは38cmである。SP74は径14cmの小ピット。確認面からの深さは7cmである。（齋藤瑞穂）

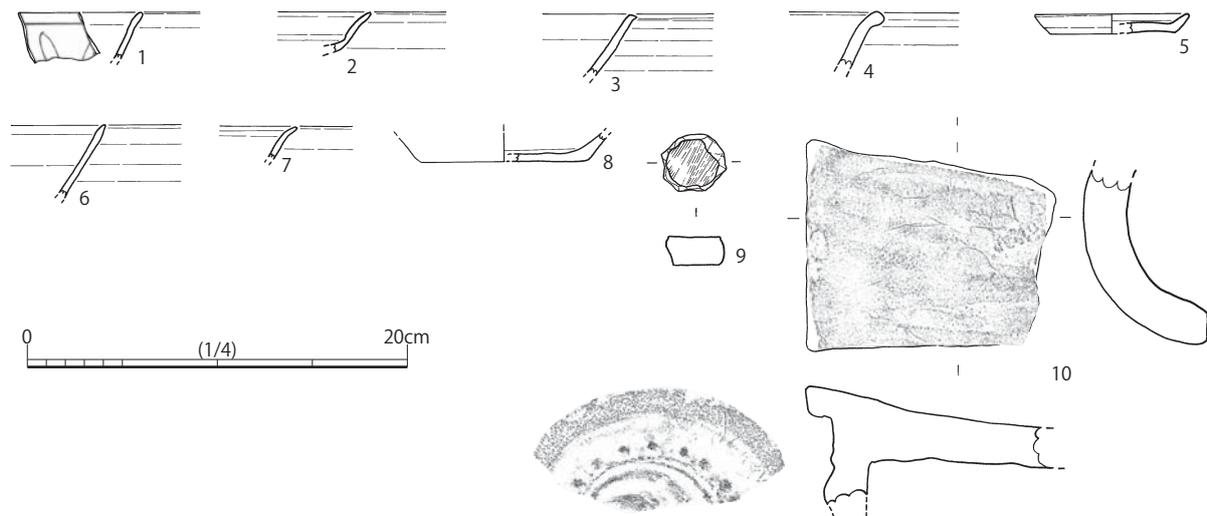
第57図1～5はSK73出土である。1は内面に片彫りで草花文を施す青磁碗で、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類である。時期は12世紀中頃から13世紀初頭である。2は外反する口縁部をもつ青磁皿で、内面は段状になる。同安窯系青磁皿Ⅰ類で、時期は12世紀中頃から13世紀初頭である。3は短く屈折する口縁部を持つ白磁碗である。口縁部内面に沈線がめぐり、大宰府編年のⅤあるいはⅧ類である。いずれにせよ12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。4は土師器の甕口縁部である。口縁端部外側を玉縁状に作る。5は糸切り底の土師皿である。SP74からは土師器片と瓦が出土したが、小片で図化できない。（谷 直子）

土坑 SK75・ピット SP81（第56図） SP81がSK75を切る。SP81は径20cmの円形ピットで、確認面からの深さは10cmである。先行するSK75は長軸90cm、短軸52cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは18cmである。SK75からは、土師器の坏・皿・鍋が出土したが、小片で図化できない。SP81からは遺物は出土していない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK79（第56図） 径100cmの円形土坑で、確認面からの深さは28cmを測る。（齋藤瑞穂）

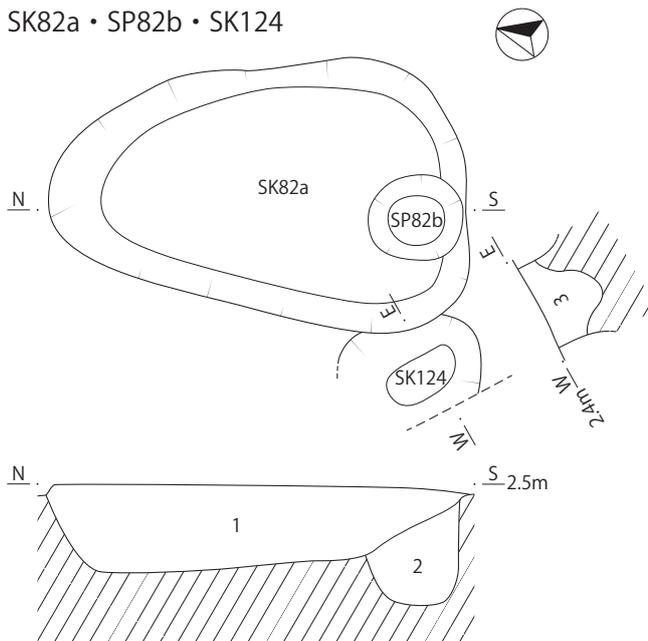


第56図 HZK1903地点 C2区 SK68・69・73・SP74・SK75・79・80・SP81・SK91・95・136 平面・断面図

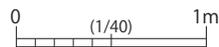


第57図 HZK1903地点 C2区 SK73・79・80出土遺物

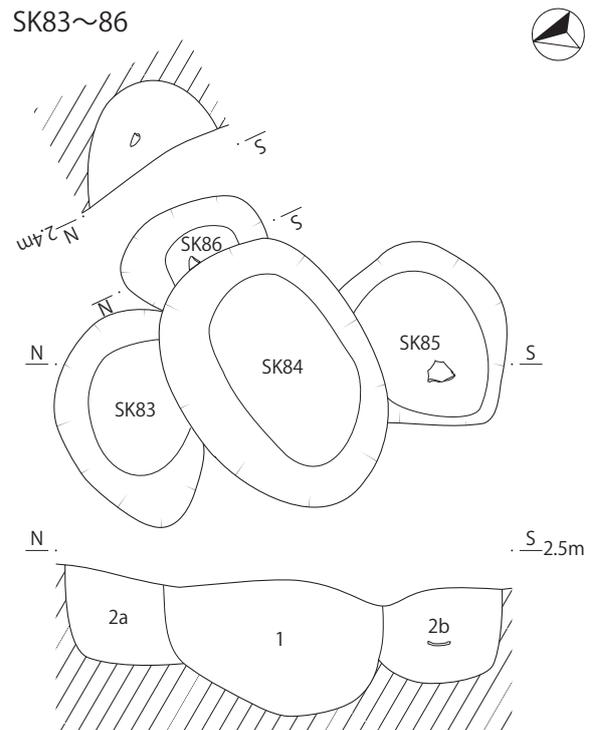
SK82a・SP82b・SK124



- 1 10YR4/2灰黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mmの中砂に $\phi 2$ mm程度の礫(石英粒)混じる、炭化物含む、しまり強い、粘性なし
- 2 10YR4/6褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2$ mmの細砂・中砂で礫の混じりは1層に比べて目立たない、1層よりも粒子が細かい、しまりふつう、粘性なし
- 3 10YR4/4褐、 $\phi 1/16 \sim 1/4$ mmの 極細砂・細砂に $\phi 2 \sim 3$ mmの小礫を含む、しまりふつう、粘性なし



SK83~86



- 1 10YR3/2黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mmの中砂に $\phi 2$ mm程度の礫含む、3cmくらいの炭化物も含む、しまり強い、粘性弱い
- 2a 10YR4/3にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/8$ mmの細砂、しまり強い、粘性なし
- 2b 10YR4/3にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/8$ mmの細砂、 $\phi 2$ mmくらいの礫含む、しまり普通、粘性なし

第58図 HZK1903地点 C2区 SK82a・SP82b・SK83~86・SK124平面・断面図

第57図6～9はSK79出土である。6・7は白磁碗である。いずれも口禿で大宰府編年の白磁碗Ⅹ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する。8は糸切り底の土師器の坏である。9は小型の瓦玉である。（谷 直子）

土坑 SK80（第56図） 径74cmの円形土坑である。確認面からの深さは16cmを測る。土坑 SK82と隣接するが、新旧関係は捉えられなかった。（齋藤瑞穂）

第57図10はSK80出土の軒丸瓦である。巴文に圈線と連珠がめぐる。裏面に布目と吊り紐痕が残る。他に土師器片、青磁片が出土したが、小片で図化できない。（谷 直子）

土坑 SK82a・ピット SP82b・土坑 SK124（第58図） SK80の東で接する。ただし、同土坑との新旧関係は捉えられなかった。SK82は不整形の土坑で、長軸218cm、短軸146cmを測る。確認面からの深さは48cmである。精査の過程で、ピットが土坑に先行して、直下に作られていたことが判明した。断面図の2層にあたり、これをSP82bと呼んでおこう。確認面からピットの底面まで62cmである。SK124もまた、SK82a形成以前に作られた土坑である。径76cmで、確認面からの深さは30cmである。（齋藤瑞穂）

SK82からは土師器の坏・皿・鍋のほか青磁碗、白磁碗Ⅳ類・Ⅴ-4類、陶器の甕、瓦質土器の捏鉢、瓦が出土したが、いずれも小片で図化できない。SK124からは土師皿、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、瓦質土器の捏鉢が出土したが小片で図化できない。（谷 直子）

土坑 SK83・SK84・SK85・SK86（第58図） SD62の北側に集中する土坑群で、SK84がSK83・85・86を切る。ただし、SK83とSK86の新旧判定は前任の調査担当者によって行われ、報告者は追検証できていない。最も新しいSK84は長軸144cm、短軸104cmの楕円形土坑である。確認面からの深さは72cmである。先行するSK83は長軸116cmで短軸は70cm以上となる。確認面からの深さは48cmである。SK85は長軸100cm余りで、円形をなすものと推測される。SK86は径78cm、確認面からの深さは38cmである。（齋藤瑞穂）

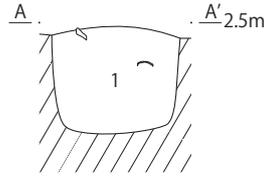
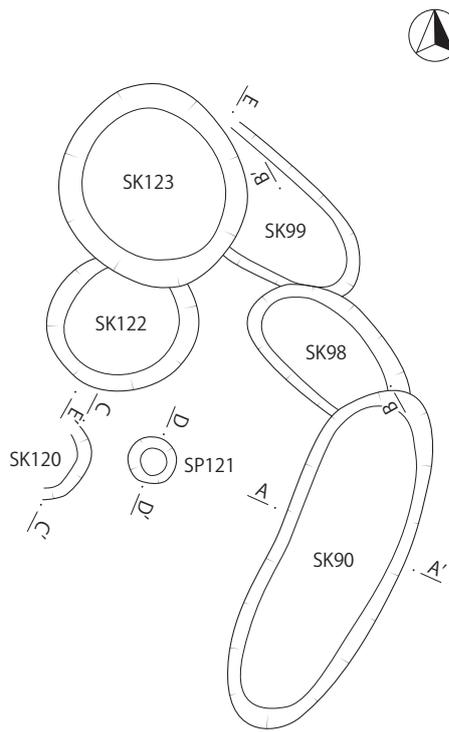
SK83からは、土師器の坏・皿・鍋のほか、青白磁の皿、瓦質土器の碗・捏鉢、瓦が出土したが、小片で図化できない。SK84からは土師器の坏・皿、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、同安窯系青磁碗Ⅰ類、陶器の壺・甕、瓦質土器の碗・捏鉢、瓦が出土したが、小片で図化できない。SK85からは土師器の坏・皿・鍋の他、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、陶器片、瓦質土器片、石鍋が出土したが、小片で図化できない。SK86からは土師器の坏・皿・鍋、瓦質土器の捏鉢が出土したが小片で図化できない。

（谷 直子）

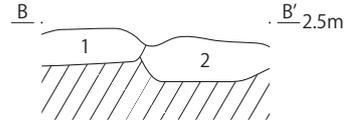
土坑 SK90・SK98・SK99・SK120・SP121・SK122・SK123（第59図） 調査区の南寄りでは集中する遺構群である。SK90はSK98を切る。長軸196cm、短軸68cmで、確認面からの深さは56cmである。SK98はSK99を切る。長軸は80cm以上、短軸は54cmになろう。確認面からの深さは20cmである。SK99はSK98・SK123に先行し、SK124（第59図）を切る。長軸100cm、短軸60cm以上、確認面からの深さ20cmである。SK123はSK99・SK122・SK124を切る。径100cm、確認面からの深さは50cmである。SK122は径74cmの円形土坑である。確認面からの深さは36cmを測る。SK120は、SK122の南方で検出された。西側は攪乱で失われている。径42cm、確認面からの深さは14cmである。SP121は径24cm、深さ16cmのピットである。（齋藤瑞穂）

第60図14～19はSK90出土である。14・15は青磁碗である。いずれも内面に片彫り文を施す15は低いケズリ高台で底部の器壁が厚い。いずれも大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類で、16は青磁皿である。見込みに櫛描文を施し、体部中位で屈曲し、口縁端部が丸みを持つ。龍泉窯系青磁皿Ⅰ-2類。青磁はいずれも12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。17は白磁碗である。短く屈折した口縁部を有

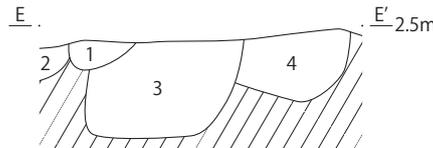
SK90・98・99・120・SP121・SK122・123



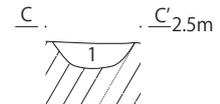
1 10YR3/2黒褐、 $\phi$ 1/8~1/4mmの細砂、粒子は細かい、 $\phi$ 2~3mmの礫が少し混じる、炭化物混じる、しまりふつう、所によって少し硬いところがあるが、ふつうでよい、粘性ふつう、他の遺構と比べてややある



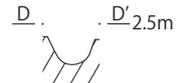
1 10YR3/3暗褐、 $\phi$ 1/4~1/2mmの中砂に $\phi$ 2mmの小礫を含む、しまり強い、粘性なし  
2 10YR4/3にぶい黄褐、 $\phi$ 1/8~1/2の細砂・中砂に $\phi$ 2~3mmの礫が混じる、しまり強い、粘性なし



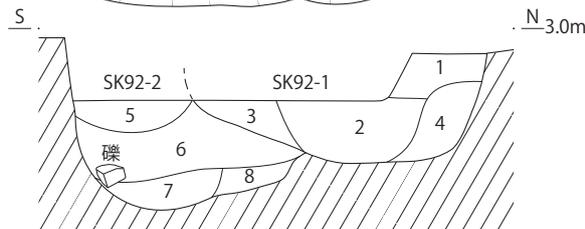
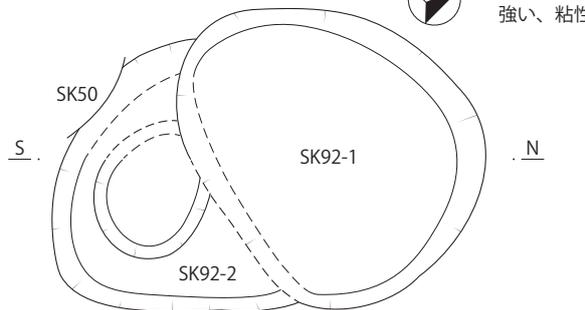
1 SK99の覆土、10YR4/3にぶい黄褐、 $\phi$ 1/8~1/2mmの細砂・中砂に $\phi$ 2~3mmの礫が混じる、しまり強い、粘性なし  
2 SK124の覆土、10YR4/4褐、 $\phi$ 1/16~1/4mmの極細砂・細砂に $\phi$ 2~3mmの小礫を含む、しまりふつう、粘性なし  
3 SK123の覆土、2.5Y3/3暗オリーブ褐、 $\phi$ 1/8~1/2mmの細砂・中砂で構成される、 $\phi$ 3mm大の小礫を含む、波状痕は1~4層にまたがる、しまり強い、粘性なし  
4 SK122の覆土、10YR3/2黒褐、 $\phi$ 1/8~1/2mmの細砂・中砂で構成、 $\phi$ 2~3mmの小礫を含む、しまり強い、粘性強い



1 10YR3/2黒褐、 $\phi$ 1/16~1/4mmの極細砂・細砂、見た目にも粒子は細かい、基盤の黄褐色砂が霜降り状に混じる、しまりふつう、粘性弱い

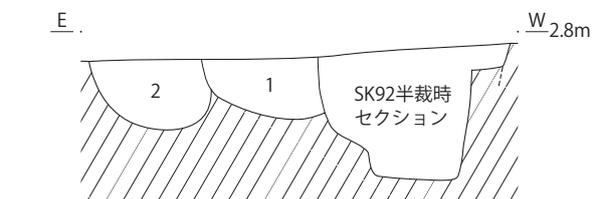
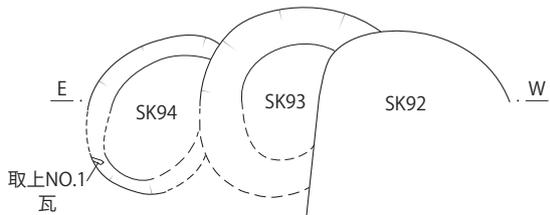


SK92

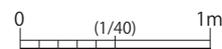


1 10YR3/4暗褐、中砂(粗砂含む多く)、しまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕なし)  
2 10YR3/2黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、(波状痕なし)  
3 10YR4/2灰黄褐、中砂(粗砂多く含む)、しまる、腐植含む、炭化物多く含む、(波状痕なし)  
4 10YR4/3にぶい黄褐、粗砂(中砂含む)、しまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕なし)  
5 10YR4/3にぶい黄褐、中砂(粗砂多く含む)、しまる、腐植含む、炭化物含む、(波状痕なし)  
6 10YR3/3暗褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、(波状痕なし)  
7 10YR3/1黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、粘性あり、腐植多く含む、炭化物多く含む、(波状痕なし)  
8 C層に基盤層(10YR5/4にぶい黄褐)、中砂(粗砂多く含む)がマダラに混入

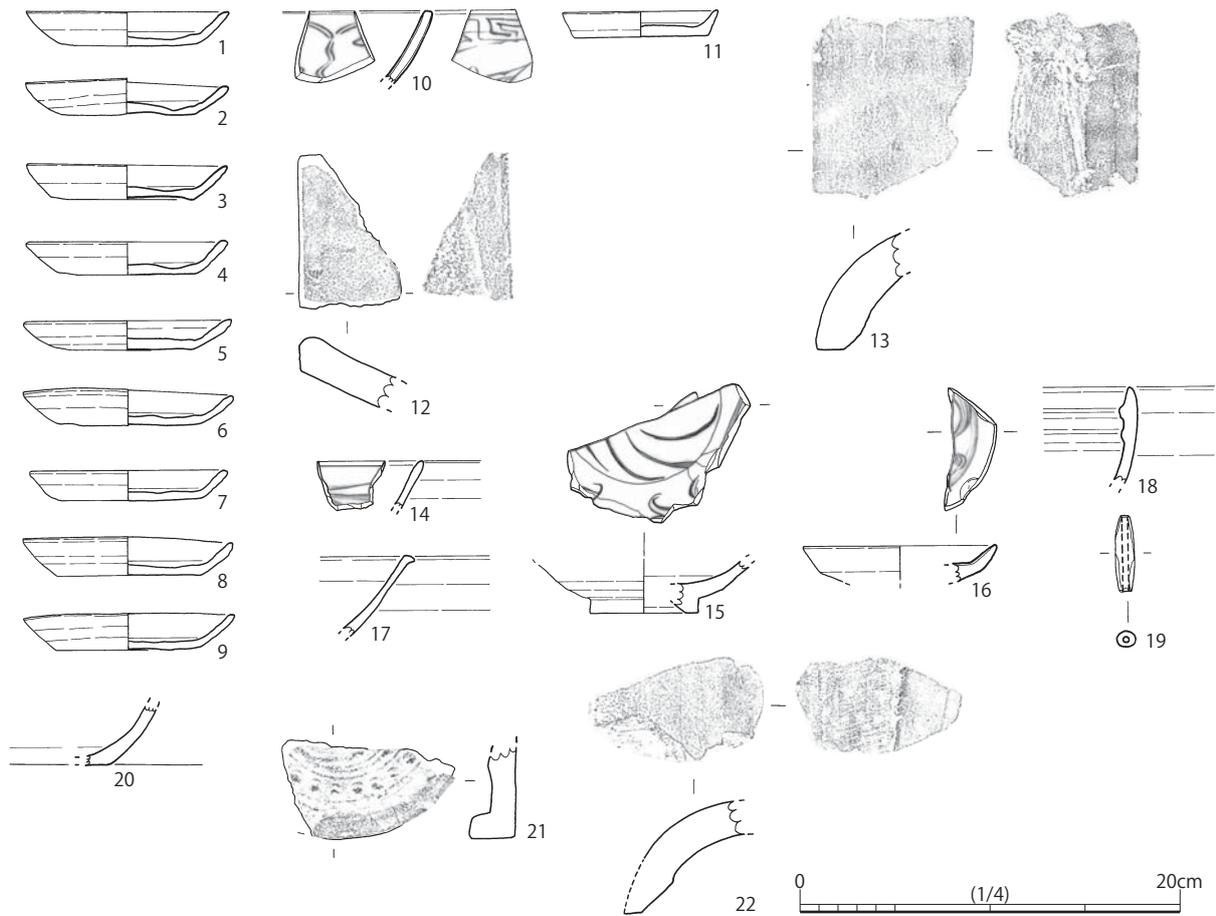
SK93・94



1 10YR3/3暗褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物含む、(波状痕なし)  
2 10YR4/2灰黄褐、中砂(粗砂含む)、しまる、腐植多く含む、炭化物含む、(波状痕なし)



第59図 HZK1903地点 C2区 SK90・92~94・98・99・120・SP121・SK122・123平面・断面図



第60図 HZK1903地点 C2区 SX88・SK89・90・92出土遺物

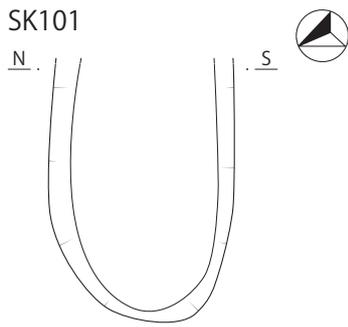
し、大宰府編年のV-4類あるいはⅧ類である。いずれにせよ時期は12世紀中頃から後半である。18は中国陶器の鉢である。内面に2条の突帯が付く。大宰府編年の陶器鉢I-1b類である。19は円筒形の土錘。

SK98からは土師器の坏・皿、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、須恵器片が出土したが、小片で図化できない。SK99からは、土師器の坏、白磁碗Ⅴ類、青磁片、須恵器片、瓦質土器片が出土したが小片で図化できない。SK120からは遺物は出土していない。SP121からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。SK122からは土師器片、白磁片、瓦質土器の捏鉢が出土したが、小片で図化し得ない。

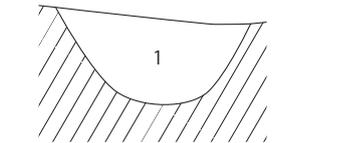
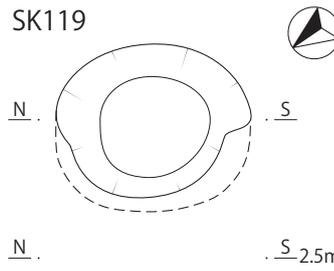
第63図11・12はSK123出土である。11は陶器鉢で、やや「く」の字状に外反した口縁部がつき、内傾した口縁部内面にメアトが付く。口縁部外面下に沈線が1条めぐり、釉は灰緑色を呈す。大宰府編年の陶器鉢Ⅲ類で、13世紀から14世紀前半の所産である(宮崎編 2000)。12は土師質の鍋である。口縁端部内面を強くナデる。外面にススが付着する。(谷 直子)

土坑 SK92-1・SK92-2・SK93・94 (第59図) 記録によるとSK92は、枝番1・2の両遺構から成り、92-1が新しい。92-2は92-1とSK50に先行し、SK93を切る。SK93がSK94を切る。

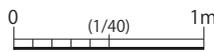
92-1と92-2については、担当した前任者に堆積状況について聞き取りを行って理解につとめたものの、例えば㊦ SK92-1の2層は再掘削した形跡なのか、㊩ SK92-1の3層とSK92-2の5層が切り合わないにも関わらず、3層が5層を切ると判定した根拠は何か、㊧ SK92-2の6層は再掘削した形跡を意



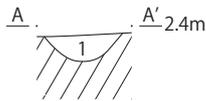
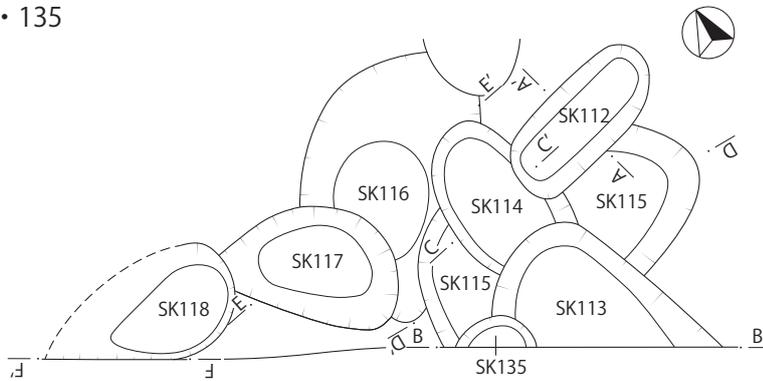
1 10YR5/1 褐灰、 $\phi$ 1/8mmの細砂に $\phi$ 2~3mmの小礫が混じる、しまりなし、粘性なし



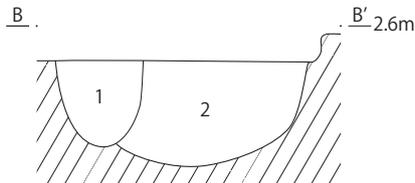
1 10YR4/3にぶい黄褐、 $\phi$ 1/8~1/2mmの細砂・中砂で構成され、 $\phi$ 2~3mmの小礫が混じる、瓦あり、しまり強い、粘性なし



SK112 ~ 118 · 135



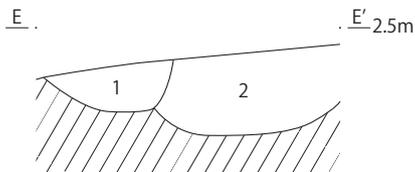
1 10YR3/3暗褐、 $\phi$ 1/4~1/2mmの中砂に $\phi$ 2~3mmの小礫含む、しまりふつう、粘性なし



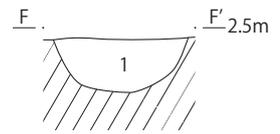
1 10YR3/4暗褐、 $\phi$ 1/8~1/2mmの細砂・中砂に $\phi$ 2~3mmの小礫が混じる、しまりふつう、粘性弱い  
2 7.5YR2/2黒褐、 $\phi$ 1/16~1/4の極細砂・細砂に $\phi$ 1~2mmの極粗砂が少量混じる、赤色粒子含む、しまり弱い~ふつう、粘性ふつう



1 2.5Y4/3オリーブ褐、波状痕入る、 $\phi$ 1/8~1/2mmの細砂・中砂に $\phi$ 1~2mmの極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性弱い

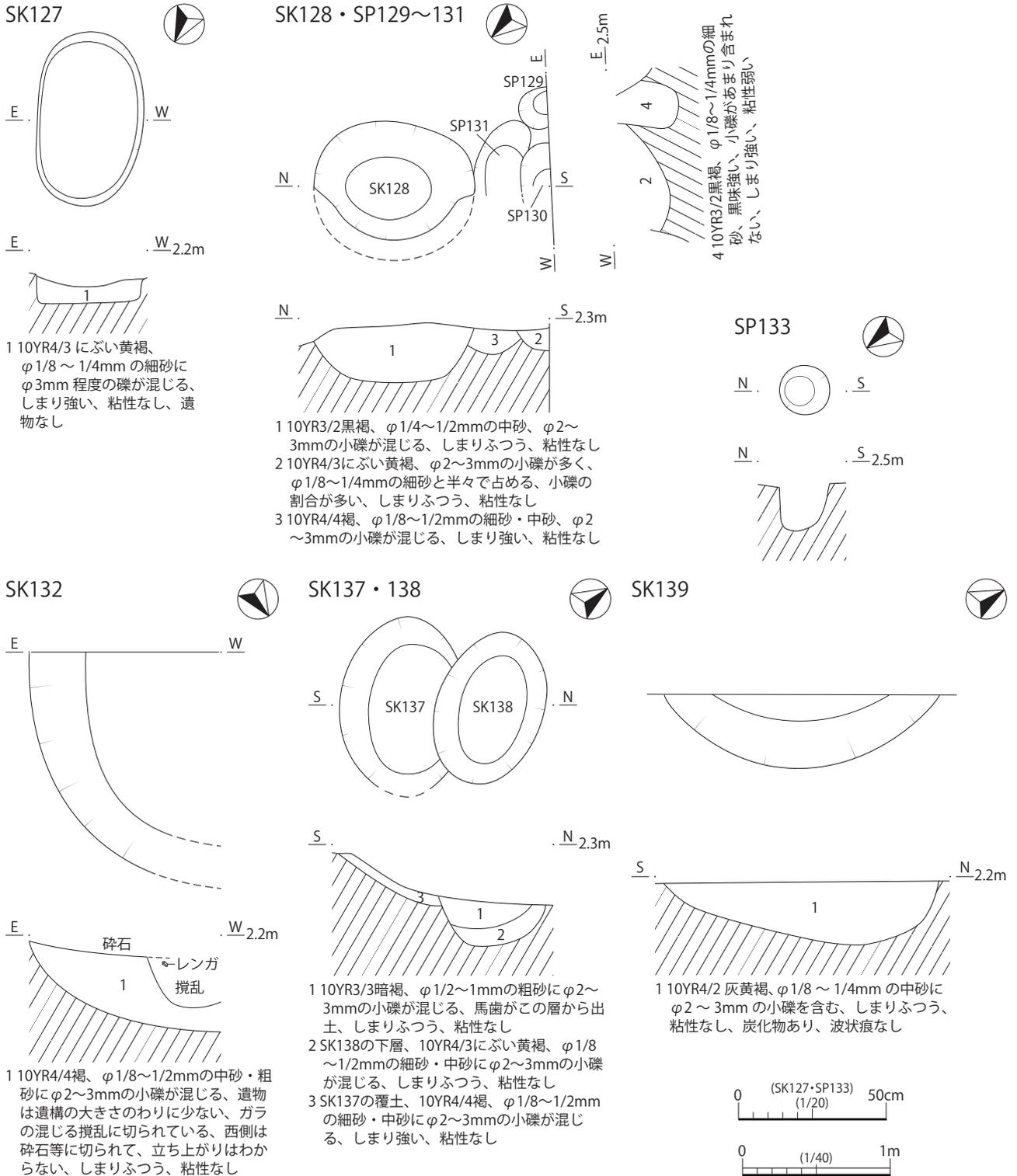


1 10YR3/4暗褐、 $\phi$ 1/8~1/2mmの細砂・中砂に $\phi$ 2~3mmの小礫含む、しまり強い、粘性なし  
2 記載なし

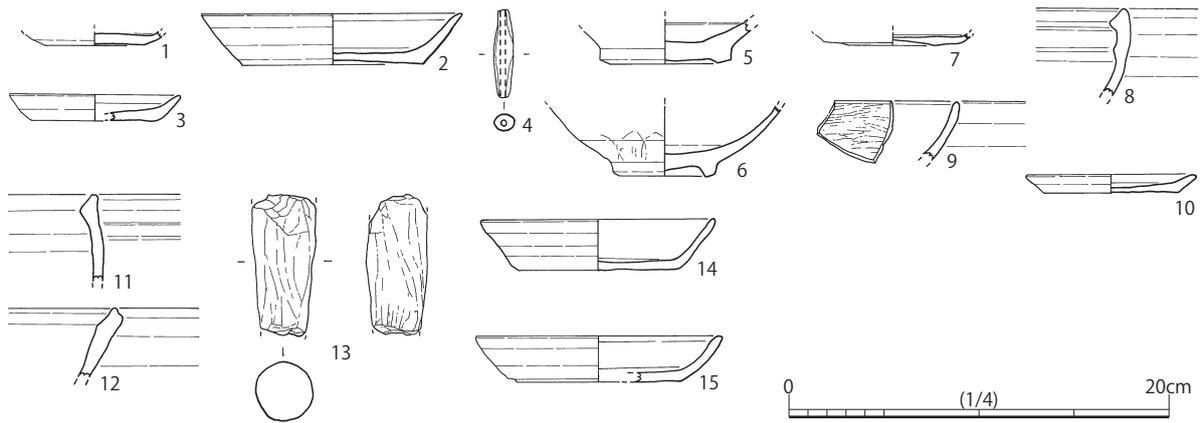


1 10YR3/3暗褐、 $\phi$ 1/8~1/4mmの細砂、粒子は細かい、 $\phi$ 2~3mmの小礫混じる、しまり強い、粘性なし

第61図 HZK1903地点 C2区 SK101 · 112~119 · 135平面・断面図



第62図 HZK1903地点 C2区 SK127・128・SP129~131・SK132・SP133・SK137~139平面・断面図



第63図 HZK1903地点 C2区 SK100・101・123・139出土遺物

味するのかなど、咀嚼できなかつた。ともあれ、記録に従うかぎりにはSK92-1は長軸170cm×短軸150cmの楕円形土坑が想定されているようである。また、SK92-2も長軸150cm余りの楕円形土坑らしい。SK93は径100cm、SK94は径80cmほどである。(齋藤瑞穂)

第60図20～22はSK92出土である。20は陶器の黄釉盤である。21は軒丸瓦の瓦当部分である。三つ巴文に連珠がめぐるものと思われるが、連珠とその内側の圏線、巴の尾の部分がわずかに残るのみである。22は丸瓦である。裏面にコビキAと布目が見られる。ほかに土師器の坏・皿、青磁碗、白磁碗、陶器の播鉢、陶器片、瓦が出土したが、小片で図化できない。SK93からは土師器の坏、陶器の甕、須恵器の壺、瓦が出土したが、小片で図化できない。(谷 直子)

土坑 SK112・SK113・SK114・SK115・SK116・SK117・SK118・SK135 (第61図) 調査区南縁で検出された遺構群である。楕円形の土坑が多い。SK112は長軸90cm、短軸40cm、深さ14cm、SK113は長軸120cm、短軸80cm以上、深さ56cmを測る。これらに先行するSK114は長軸70cm、短軸50cm以上、深さは22cmであった。SK115の長軸は160cmで、確認面からの深さは30cmである。SK116は最も早い段階に掘り込まれた土坑で、SK90、SK114、SK115、SK117に切られる。長軸140cm、確認面からの深さは40cmほどである。SK117はSK116を切り、SK118に切られる不整形の土坑で、長軸90cm、短軸60cm、深さは26cmである。SK118の西側は失われているが、これも楕円形になるものと推測される。長軸100cm以上になろう。深さは26cmを測る。SK135の全体は不明であるが、幅は44cm以上になり、確認面からの深さ44cmを測る。(齋藤瑞穂)

SK112からは土師器の坏、龍泉窯系青磁碗I類が出土したが小片で図化できない。SK113からは土師器の坏・皿・鍋、龍泉窯系青磁碗I類、陶器の鉢、瓦質土器の碗が出土したが、小片で図化できない。SK114からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。SK115からは土師器の坏、陶器の甕が出土したが、小片で図化できない。SK116からは遺物は出土していない。SK117からは土師器の坏・鍋、瓦質土器の碗が出土したが小片で図化できない。SK118からは土師器片、青磁片が出土したが小片で図化し得ない。(谷 直子)

土坑 SK119 (第61図) 西側は攪乱が入って、失われている。径104cmの円形土坑である。確認面からの深さは44cmである。SK119からは土師器の坏・皿、白磁片、瓦質土器の捏鉢、瓦が出土したが小片で図化できない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

土坑 SK127（第62図） 長軸118cm、短軸70cm の楕円形土坑である。確認面からの深さは10cm である。SK127からは遺物は出土していない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK128・ピット SP129・SP130・SP131（第62図） SK128の西側は、深く入った攪乱によって失われているが、径108cm の円形土坑とみられる。確認面からの深さは40cm である。SP129はSK118に切られ、SP130を切る。おそらくより高いレベルでは、SP131とも重複しているはずだが、同土坑との新旧を判定するには到らなかった。径30cm のピットで、確認面からの深さは40cm である。一見、SP129と SP130の平面図と断面図との間に齟齬があるようにみえるが、問題はない。断面を調査区壁面で計測し、遺構確認面より高いレベルで切り合いを判定し得たことの反映である。SP131は少なくとも SK128・SP130に先行する。楕円形のピットになるものと推測される。SK128からは土師器の坏・皿・甕、瓦質土器の捏鉢が出土したが、小片で図化できない。SP129からは土師皿、白磁片が出土したが、小片で図化できない。SP130からは土師器の坏・皿が出土したが、小片で図化できない。SP131からは青磁碗が出土したが、小片で図化できない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

土坑 SK132（第62図） 大型の土坑とみられるが、深い部分まで攪乱が入っていて西側が失われ、プランをつかむことができなかった。径は130cm 以上、確認面からの深さは46cm である。SK132からは土師器の坏・皿、龍泉窯系青磁碗 I 類が出土したが、小片で図化できない。

（齋藤瑞穂・谷 直子）

#### ピットとその他の遺構（第62・64～66図）

ピット SP34（第64図） 径44cm、深さ30cm の円形ピットである。土師器片の他、青磁片、陶器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP38（第64図） 手元の図面ではピットとして記録されているが、径は60cm に達し、土坑と分類するのが適切である。深さは6cm を測る。SP38からは土師器の坏、青磁片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP39（第64図） 径34cm、確認面からの深さ7cm の円形ピットである。SP39からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP42（第64図） 径36cm、確認面からの深さ42cm の円形ピットである。SP42からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP48（第64図） 径36cm の円形ピットで、確認面からの深さ76cm を測る。SP48からは遺物は出土していない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP63（第64図） 径18cm のピットで、確認面からの深さは50cm である。底面の礫は礎石であり、本土坑は柱穴と推測される。SP63からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。

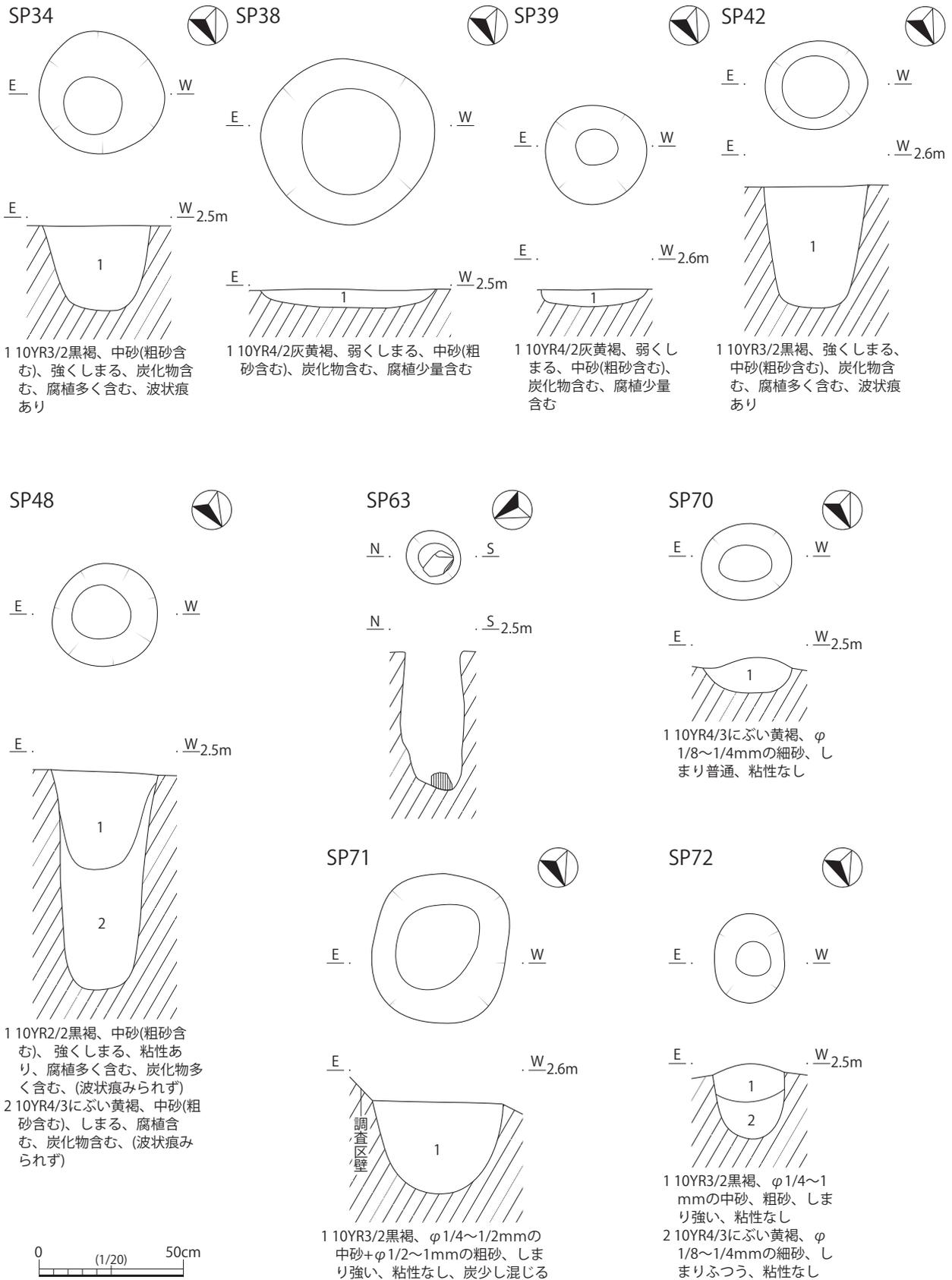
（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP70（第64図） 径30cm のピットで、確認面からの深さは13cm である。SP70からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

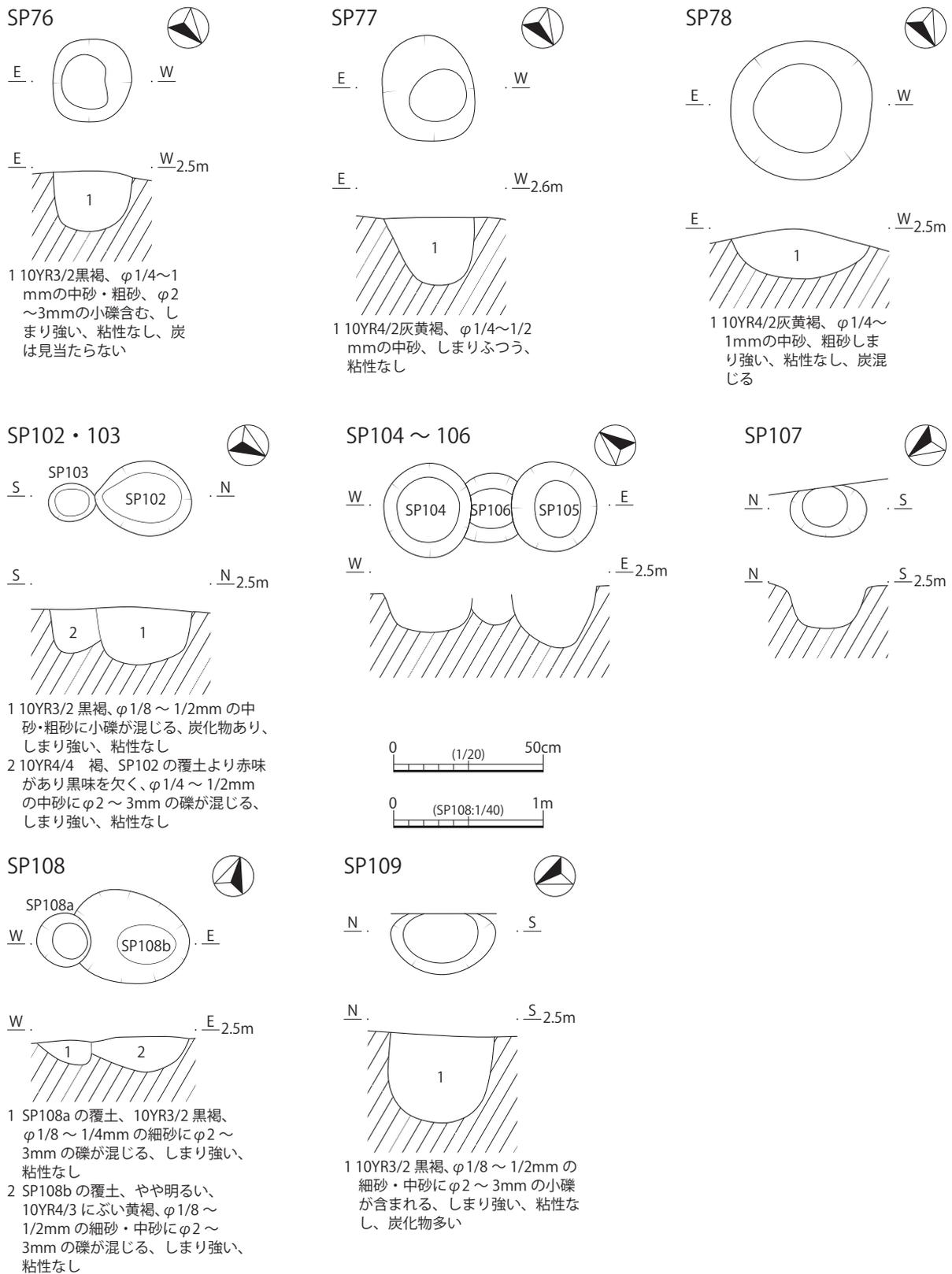
ピット SP71（第64図） 径46cm のピットで、確認面からの深さは32cm である。SP71からは土師器の坏・皿・鍋、瓦が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

ピット SP72（第64図） 30cm×25cm のピットで、確認面からの深さは26cm である。SP72からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）

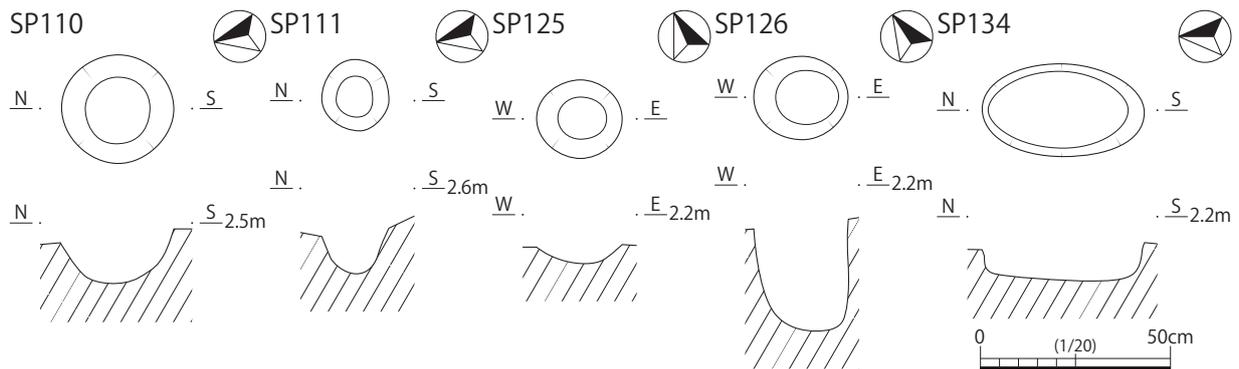
ピット SP76（第65図） 径26cm のピットで、確認面からの深さは20cm である。SP76からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。（齋藤瑞穂・谷 直子）



第64図 HZK1903地点 C2区 SP34・38・39・42・48・63・70~72平面・断面図



第65図 HZK1903地点 C2区 SP76~78・102~109平面・断面図



第66図 HZK1903地点 C2区 SP110・111・125・126・134平面・断面図

ピット SP77 (第65図) 35cm×30cm のピットで、確認面からの深さは22cm である。SP77からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP78 (第65図) 径46cm のピットで、確認面からの深さは16cm である。SP78からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP102・SP103 (第65図) SP102が SP103を切る。SP102は径32cm、深さ20cm、SP103は径・深さともに15cm である。SP102からは土師器の坏、龍泉窯系青磁碗皿類、瓦が出土したが、小片で図化し得ない。SP103からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP104・SP105・SP106 (第65図) SP104と SP105が中央の SP106を切る。SP104は径28cm、深さ13cm、SP105は径26cm、深さ20cm である。SP106は径22cm、深さは10cm である。SP104からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。SP105からは土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。SP106からは遺物は出土していない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP107 (第65図) 径25cm、確認面からの深さ13cm を測る。SP107からは白磁片が出土したが、小片で図化し得ない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP108a・SP108b (第65図) 1つの遺構として認識したが、精査の結果、2つの小ピットが重複していることが判明した。西側の SP108a が東側の SP108b を切る。SP108a の径は18cm、確認面からの深さは7cm で、SP108b の径は38cm、深さは10cm である。SP108からは土師器片、青磁碗、陶器鉢が出土したが、小片で図化できない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP109 (第65図) 径35cm、確認面からの深さは28cm を測る。SP109からは土師器片、陶器片が出土したが、小片で図化できない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP110 (第66図) 径28cm、確認面からの深さは14cm である。SP110からは土師器片、瓦質土器片が出土したが、小片で図化できない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP111 (第66図) 径18cm、確認面からの深さは12cm である。SP111からは土師器片が出土したが、小片で図化できない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP125 (第66図) 径22cm、確認面からの深さは6cm である。SP125からは土師器片が出土したが、小片で図化できない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP126 (第66図) 径24cm、確認面からの深さは28cm である。SP126からは土師器片が出土したが、小片で図化できない。

(齋藤瑞穂・谷 直子)

ピット SP133 (第66図) 径・深さともに17cm の小ピットである。

(齋藤瑞穂)

ピット SP134（第66図） 長軸42cm、短軸25cm の楕円形を呈する。確認面からの深さは8 cm であり、遺物は出土していない。

（齋藤瑞穂・谷 直子）

土器集積 SX88 坏が重なって出土した位置を、SX88として記録した。遺構埋納品であるうが、遺構プランは確認できていない。

（齋藤瑞穂）

第60図 1～9 は SK88出土の土師器の坏である。上から順に1・2・3と9枚が重なって出土した。いずれも内外面はナデ、底部外面はヘラ切りで、2以外は板状圧痕が見られる。筑前においては12世紀後半以降の土師器の坏底部は糸切りのみになるので、12世紀前半以前の所産である（山本他 1997）。

SX97 角礫を検出した地点を SX97として記録した。遺構の輪郭は把握できなかったものの、柱の礎石の可能性が高い。

（谷 直子）

（齋藤瑞穂）

### 井戸（第67図）

井戸 SE140 径118cm の井戸である。SD62の底面より60cm 余り低いレベルで検出した。これもSD62形成前に作られた遺構と考えて良い。

（齋藤瑞穂）

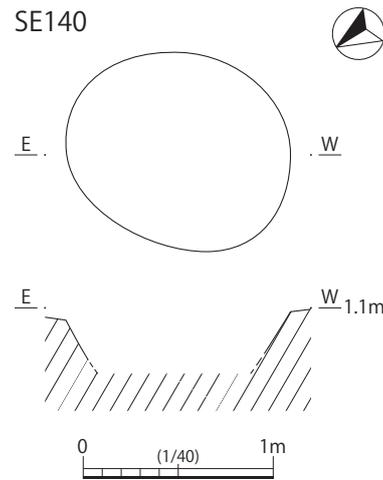
## 3. 小結

本調査地点 A 区は、応力研生産研本館の北西側で行われた発掘調査である。近現代以降の攪乱層・造成土が地表下 2 m 付近まで及んでおり、遺跡の大部分が破壊されていたが、調査区の北西側（エリア I）と南西側（エリア II）、そして中央部付近（エリア III）の地表下 1 m 付近において、かろうじて遺構が複数残存していた。時期が特定できた遺構は必ずしも多くないが、13世紀後半代以降の所産と考えられる土坑などが見つかった。

また、エリア III では井戸を 6 基検出した。SE001は、13世紀後半から14世紀前半に構築され、15世紀代まで利用されていた可能性がある。ほかの 5 基の井戸に関して年代の特定は困難だが、出土遺物から判断して SE001の年代と近い関係にあることは想定できよう。6 基の井戸は、3 m 四方の比較的限られた範囲に密集して構築されている。掘方の大きさなどを考慮すれば、これらの井戸が全て同時期に存在していたとは考え難い。13世紀後半代以降、当該地点において井戸の構築と廃絶が繰り返し行われていたことが想定される。

本調査地点 B 区は、応力研生産研本館の北西側で行われた発掘調査である。隣接する A 区と同様、近現代以降の攪乱層・造成土が地表下 2 m 付近まで及んでおり、遺跡の大部分が破壊されていたが、調査区の南西側（エリア I）と東側（エリア II）、そして南側（エリア III）の地表下 1 m 付近において、かろうじて遺構が複数残存していた。

時期を特定できた遺構は必ずしも多くないが、13世紀後半代以降の所産と考えられる土坑などが見



第67図 HZK1903地点 C2区 SE140平面・断面図

つかっている。中でも SK55は注目され、直径50cm 程度、厚さ20cm 程度の大型の礫が、二つ積まれた状況で出土している。礎石を伴う柱穴の可能性が高く、礫の大きさに加え、二つ積んで構築していることから、かなり大きな建築物が存在していたのではないかと推察される。遺構の年代は12世紀代と考えられ、当該地区で検出した遺構の中では比較的古い段階のものである。箱崎キャンパス地区で人々の明確な活動痕跡が確認されるのは12世紀後半以降とされており（福永 2022）、当該地域における土地利用の始まりの様相を考える上で、貴重な資料と言えよう。

また、近現代以降の攪乱層を除去したところ、調査区北半部において全部で13基の井戸を検出した。時期の特定が困難なものも存在するが、12世紀後半から13世紀前半（SE64）、13世紀代（SE67・SE68）、14世紀から15世紀（SE60）、15世紀代（SE58）の所産と考えられる井戸が見つまっている。当該地区において長期にわたって井戸の構築と廃絶が繰り返し行われていたことが想定される。

SE59・SE75・SE76・SE77や、SE60・SE61・SE62・SE64・SE65・SE66のように、同一地点に井戸が密集して構築・廃絶されている点は興味深い。同様のあり方は隣接する HZK1903地点 A 区でも確認できる。こうした井戸の密集単位は、当時の何らかの社会単位を反映している可能性も想定できるが、現状ではそうした考察をし得るだけの資料・データが不足している。今後の課題としたい。

（福永将大）

本調査地点 C 区は応力研生産研本館の東側で行われた調査で、北東側を C1区、南東側を C2区とした調査である。C1区は北西隅が攪乱を受けていたが、多くの土坑とピットが検出された。特に SX25は確認面からの深さが148cm をはかる大型の円形土坑で、13世紀を中心とした遺物が検出された。ピットの中には柱穴も含まれていると考えられ、このあたりに建物があった可能性が高い。C2区からは3本の区画溝が検出されたほか、ここからも多くの土坑、ピットが見つまっている。ピットは南側隅に多く一部は柱穴の可能性もあるため、このあたりに建物があった可能性が高い。また SX88は完形の土師器の坏が9枚重なって出土した遺構で、意図的に埋められたものと考えられるが、その性格は不明である。C 区は A 区・B 区に比べ、井戸が少なかった点も特徴的である。生活域内での土地利用の違いの他、湧水地点や深さなど地形的な特徴に起因する可能性がある。（齋藤瑞穂）

## 註

- 1) 放射性炭素年代測定値については、本報告書第Ⅷ章パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの報告に基づき、 $2\sigma$  暦年代範囲を示した。以下の測定結果も同様。

## 引用文献

- 阿部泰之（編）2022『箱崎64—第92次・第102次・第108次発掘調査報告書—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1457集、福岡市教育委員会
- 佐藤一郎2008「朝鮮半島陶磁器」『中世都市・博多を掘る』海鳥社 128～131頁
- 鋤柄俊夫1997「畿内周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 157～193頁
- 田中克子2008「中国陶磁器」『中世都市・博多を掘る』海鳥社 112～128頁
- 福永将大2022「箱崎砂州先端部におけるモンゴル襲来前後の土地利用史」福永将大（編）『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告5 箱崎キャンパス地区元寇防塁調査総括報告書』九州大学埋蔵文化財調査室報告第7集、九州大学埋蔵文化財調査室、111～127頁
- 松田麻里・桃崎祐輔2019「筑前・筑後・豊前・肥前」『中世瓦の考古学』中世瓦研究会編 237～254頁
- 宮崎亮一（編）2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編』太宰府市教育委員会
- 山本信夫・山村信榮1997「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 237～310頁

第1表 HZK1903地点A区出土遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
6-1	SK04-b 1層	土師器 坏		(13.0)	[2.1]	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR6/3にぶい褐 内: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
6-2	SK04-b 1層	土師器 皿	9.3	8.1	1.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-3	SK04-b 1層	土師器 皿	8.8	6.7	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-4	SK04-b 1層	土師器 皿	8.7	7.0	1.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-5	SK04-b 1層	土師器 皿	(8.6)	(7.0)	1.2	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-6	SK04-b 1層	土師器 皿	(8.4)	(7.4)	1.0	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-7	SK04-b 1層	土師器 皿	(9.2)	(8.0)	1.0	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-8	SK04-b 1層	須恵質 捏鉢			[6.5]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	2.5Y7/2灰黄	外: ナデ 内: ナデ	東播系
6-9	SK04	陶器 黄釉盤			[2.5]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	5YR2/2黒褐	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	大宰府編年 陶器盤II類
6-10	SK04	土師器 坏			2.6	緻密, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-11	SK04	土師器 坏	(15.0)	(8.8)	2.9	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む, 雲母片を少し含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-12	SK05・06	土師器 皿	(8.1)	(7.0)	1.2	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-13	SK05・06	土師質 脚部			[2.7]	緻密	良好	5YR6/6橙	外: ナデ	
6-14	SK05・06	滑石製 石錘	7.3	2.4	1.6					50.15 g
6-15	SK05・06	滑石製 石鍋			[2.4]				外: 工具痕, スス付着	
6-16	SK07	青磁碗	(10.2)	3.6	4.3	緻密	良好	5GY7/1明オリープ灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	
6-17	SK07	青磁碗			[5.2]	緻密	良好	5Y6/2灰オリープ	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-4類
6-18	SK07	土師器 坏	(14.3)	9.2	3.2	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-19	SK07	土師器 坏	(15.8)	(12.2)	2.8	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
6-20	SK07	土師器 皿	(8.6)	(6.6)	1.2	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を少し含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
10-1	SE001	青磁碗		(5.0)	[1.8]	緻密	良好	7.5Y7/2灰白	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 IV類
10-2	SE001	陶器 黄釉鉄絵 盤			[4.5]	やや緻密, 黒色粒子を含む	良好	外: 2.5YR4/4にぶい赤褐 内: 5Y6/3オリープ黄	外: 露胎 内: 施釉	磁竈窯
10-3	SE001	須恵質 捏鉢			[5.0]	緻密, 直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	外: N5/ 灰 内: N6/ 灰	外: ナデ 内: ナデ	東播系
10-4	SE001	瓦質土器 口縁部			[1.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を少し含む, 雲母片を多く含む	良好	外: N5/ 灰 内: 10YR7/1灰白	外: ナデ 内: ナデ	
10-5	SE003	須恵質 壺?			[1.8]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む, 黒色粒子を多く含む	良好	10YR7/1灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ナデ	
10-6	SE004	瓦質土器 捏鉢			[3.4]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 黒色粒子を含む	良好	外: N8/ 灰白 内: 7.5Y8/1灰白	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	7と同一個体?
10-7	SE004	瓦質土器 捏鉢		(10.6)	[3.7]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む, 黒色粒子を含む	良好	外: N8/ 灰白 内: 5Y8/1灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	6と同一個体?
10-8	SE004	瓦質土器 捏鉢			[4.9]	緻密, 黒色粒子を多く含む	良好	外: N8/ 灰白 内: 5Y8/1灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	
10-9	SE004	瓦質土器 捏鉢			[2.6]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外: 5Y7/1灰白 内: N4/ 灰	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	
10-10	SE004	土師器 坏		(9.6)	[2.6]	緻密	良好	外: 10YR5/2灰黄褐 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-11	SE004	土師器 皿			1.2	緻密, 直径1~4mmの黒色粒子を少し含む	良好	外: 7.5YR8/3浅黄橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
10-12	SE004	土師器 皿	(9.2)	(7.5)	1.2	緻密, 赤色粒子を多く 含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
10-13	SE004	滑石製 石鍋			[1.9]		良好		外: スス付着	
10-14	SE006	青磁 碗		(5.2)	[2.9]	緻密	良好	5Y5/3灰オリーブ	外: 施釉, 施文 内: 施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 II類
10-15	SE006	白磁 皿	8.7	5.3	1.7	緻密	良好	外: 10Y7/1灰白 内: 7.5Y7/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁皿 IX-1a類
10-16	SE006	白磁 皿		(6.0)	[0.9]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	
10-17	SE006	土師器 坏	(12.2)		[1.2]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/2灰褐	外: ナデ 内: ナデ	
10-18	SE006	土鍾	6.0	2.0	1.7	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外: 5YR6/6橙	外: ナデ	19.23 g
10-19	SE006	滑石製 石鍾	[5.6]	3.3	2.7					62.11 g
10-20	遺構外	青磁 碗		4.9	[1.6]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	墨書

第2表 HZK1903地点B区出土遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
15-1	SK14	青磁 碗			[4.7]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 III-b類
15-2	SK15	土師器 坏		(9.4)	[0.9]	緻密, 赤色粒子を多く 含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
15-3	SK15	土師器 皿	(7.9)	(6.4)	1.0	緻密	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
15-4	SP25	青磁 碗			[5.9]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗 III類
21-1	SK55	瓦質土器 碗	15.6	6.2	5.0	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を含む	良好	外: 5Y7/1灰白 内: 2.5Y5/1黄灰	外: ミガキ, ナデ 内: ミガキ, ナデ	
21-2	SK55	土師器 坏	(8.0)	(6.3)	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, ヘラ切り 内: ナデ	
21-3	SK55	土師器 坏			[1.1]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を少し含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
21-4	SK55	土師器 皿	15.2	9.4	3.6	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR6/2灰黄褐 内: 7.5YR7/6橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
21-5	SK71 1層	陶器 黄釉盤			[5.5]	緻密, 黒色・白色粒子 をわずかに含む	良好	外: 5YR5/3にぶい赤褐 内: 5Y6/3オリーブ黄	外: 露胎 内: 施釉	
21-6	SK71 3層	陶器 壺			[6.8]	緻密, 白色粒子をわず かに含む	良好	5Y4/2灰オリーブ	外: 施釉, ケズリ 内: 露胎, ケズリ	
21-7	SK71 3層	土師器 坏		(10.8)	[2.0]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒をわずかに含む, 雲 母片を含む	良好	外: 5YR6/6橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
21-8	SK71 4層	土師器 皿			1.4	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を少し含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
21-9	SK71	青磁 碗		(6.0)	[2.4]	緻密	良好	外: 10Y6/2オリーブ灰 内: 5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-1c類
21-10	SK71	青磁 碗		(5.3)	[4.1]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
21-11	SK71	白磁 皿		(6.0)	[1.5]	緻密	良好	5GY8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁皿 VIII-1a類
21-12	SK71	陶器 黄釉盤			[3.9]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 2.5Y6/2灰黄	外: 露胎 内: 施釉	陶器盤II類
21-13	SK71	瓦質土器 控鉢	(18.2)	(12.8)	9.3	緻密, 直径2~4mmの 砂粒を多く含む	良好	外: 10Y5/1灰 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	
21-14	SK71	土師器 坏		(10.0)	[1.8]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR7/2明褐灰	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
21-15	SK71	土師器 皿	(8.4)	(6.0)	1.2	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
23-1	SE58 15~19層	白磁 皿		(5.8)	[0.9]	緻密	良好	外: 7.5GY8/1明緑灰 内: 7.5GY7/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉	白磁皿 IX類

I HZK1903地点 (応力研生産研本館地点第2次調査)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
23-2	SE58 15~19層	土師器 坏			[2.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR6/6橙	外: ナデ 内: ナデ	
23-3	SE58 15~19層	土師器 皿			1.0	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
23-4	SE58 中心外側	陶器 碗			[3.0]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	
23-5	SE58 中心外側	瓦質土器 捏鉢			[3.1]	緻密	良好	外: N5/ 灰 内: N4/ 灰	外: ナデ 内: ハケメ, 摩滅	
23-6	SE58 中心外側	丸瓦	[6.2]	[5.0]	1.8	緻密, 黒色粒子を含む	良好	表: 7.5YR5/1褐灰 裏: 7.5YR6/1褐灰	表: ナデ 裏: ハケメ, 布目, 吊り紐痕	
23-7	SE58 中心部	青磁 碗			[3.4]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 III類
23-8	SE58 中心部	陶器 碗			[1.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 5Y5/1灰 内: 5Y5/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉	雑釉陶器
23-9	SE58 中心部	陶器 黄釉盤			[3.2]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 5YR6/3にぶい橙 内: 5YR8/2灰白	外: 露胎 内: 施釉	陶器盤 II類
23-10	SE58 中心部	土師器 坏	(10.0)		[1.1]	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を少し含む	良好	2.5YR5/6明赤褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
23-11	SE58 中心部	土師器 皿		(6.2)	[0.8]	緻密	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-1	SE59 中心部	瓦質土器 播鉢			[4.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR7/1灰白	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
25-2	SE59 中心部	土師質 鍋			[5.0]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: 10YR3/1黒褐 内: 7.5YR6/2灰褐	外: ナデ 内: ハケメ	
25-3	SE59 中心部	土師器 坏			2.5	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
25-4	SE59 中心部	土錘	5.3	1.2	1.1	緻密	良好		外: ナデ	4.79g
25-5	SE59 中心部	磨石	12.2	8.6	4.0		良好	7.5YR6/3にぶい褐		
25-6	SE59 中心部	丸瓦	[16.8]	[7.8]	2.1	緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	表: N6/ 灰 裏: N7/ 灰白	外: 縄目タタキ, ナデ 内: 布目, コビキ A	
25-7	SE59	青磁 坏			[2.6]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉	龍泉窯系青磁坏 III-3類
25-8	SE59	青磁 坏			[1.7]	緻密	良好	2.5GY4/1暗オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	龍泉窯系青磁坏 III-4類
25-9	SE59	青磁 容器			[1.4]	緻密	良好	7.5GY6/1緑灰	外: 施釉 内: 施釉	
25-10	SE59	白磁 碗	(14.8)		[2.1]	緻密	良好	5GY8/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁碗 IX類
25-11	SE59	白磁 碗	(16.0)		[2.7]	緻密	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外: ケズリ, 施釉 内: 施釉	
25-12	SE59	青白磁 合子蓋			[0.8]	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外: 施釉, 施文 内: 露胎	
25-13	SE59	青白磁 容器			[1.0]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉	
25-14	SE59	須恵質 捏鉢			[2.4]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	5Y5/1灰	外: ナデ 内: ナデ	東播系
25-15	SE59	須恵質 捏鉢			[3.1]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 7.5Y5/1灰 内: 5Y5/1灰	外: ナデ 内: ナデ	東播系
25-16	SE59	瓦質土器 捏鉢			[6.7]	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外: 10YR6/1褐灰 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
25-17	SE59	瓦質土器 捏鉢	(10.0)		[3.3]	緻密, 灰色粒子を含む	良好	外: 2.5Y8/1灰白 内: 2.5Y7/1灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ	
25-18	SE59	瓦質土器 捏鉢			[3.5]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y6/1黄灰 内: N6/ 灰	外: ナデ 内: ハケメ,	
25-19	SE59	瓦質土器 播鉢			[4.8]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 5Y5/1灰 内: 5Y6/1灰	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
25-20	SE59	瓦質土器 播鉢			[4.8]	緻密, 直径1mm大の砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ, スリ溝	
25-21	SE59	瓦質土器 播鉢			[3.8]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 2.5Y7/2灰黄 内: 5Y8/1灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
25-22	SE59	土師器 甕			[2.5]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR6/3にぶい褐 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, ハケメ 内: ナデ	
25-23	SE59	土師器 高台付坏		(7.7)	[2.3]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, ヘラ切り 内: ナデ	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
25-24	SE59	土師器 坏	(12.4)	(8.0)	2.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-25	SE59	土師器 坏	(11.7)	(8.5)	2.2	緻密	良好	5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-26	SE59	土師器 皿	(10.4)	(7.3)	1.3	緻密, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/6橙	外: ナデ, 板状圧痕 内: ナデ	
25-27	SE59	土師器 皿	(8.4)	(6.4)	1.6	緻密, 赤色粒子を多く含む	良好	外: 5YR6/4にぶい橙 内: 5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-28	SE59	土師器 皿			1.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR5/1褐灰 内: 10YR5/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-29	SE59	土錘	[4.2]	0.7	0.6	緻密	良好	外: 2.5YR6/6橙	外: ナデ	1.49g
25-30	SE59	土錘	4.5	1.2	1.2	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ	5.85g
25-31	SE59	滑石製 石錘	5.0	1.2	1.3					18.18g
25-32	SE59	滑石製 石錘	6.0	3.8	2.4					53.70g
25-33	SE59	瓦質土器 捏鉢			[4.7]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 5Y8/1灰白 内: 5Y7/1灰白	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	
26-1	SE76	青磁 小碗	(7.0)		[2.9]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁 小碗III-1a類
26-2	SE76	土師器 皿	(9.4)	(7.0)	1.3	緻密, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
29-1	SE60 7層	青磁 瓦玉	5.7	5.8	2.2	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 露胎	龍泉窯系青磁碗 IV類
29-2	SE60 7層	瓦質土器 捏鉢			[5.4]	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	外: 5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: 摩滅	
29-3	SE60 7層	瓦質土器 搗鉢	30.0	13.0	11.9	やや粗い, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/2明褐灰	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, ナデ, スリ溝	
29-4	SE60 7層	土師器 皿	8.0	6.1	1.5	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外: 5YR7/4にぶい橙 内: 5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
29-5	SE60 7層	砥石	11.0	4.7	2.9					
29-6	SE60 11・12層	白磁 皿		(5.2)	[0.6]	緻密	良好	7.5Y8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁皿IX類
29-7	SE60 11・12層	土師器 坏			[2.9]	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外: 10YR7/2にぶい黄橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
29-8	SE60	青磁 碗			[2.2]	緻密	良好	10Y6/1灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
29-9	SE60	青磁 坏	(12.2)		[1.5]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	龍泉窯系青磁坏 III-4類
29-10	SE60	白磁 碗			[2.9]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁碗 IX類
29-11	SE60	白磁 皿		(6.2)	[1.0]	緻密	良好	10YR7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁皿 IX類
29-12	SE60	須恵質 捏鉢			[5.4]	緻密, 白色粒子を多く含む	良好	N6/ 灰	外: ナデ 内: ナデ	東播系
29-13	SE60	瓦質土器 搗鉢			[4.4]	緻密, 白色粒子を多く含む	良好	外: 5Y6/1灰 内: 7.5Y7/1灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
29-14	SE60	土師質 鍋			[3.9]	緻密, 白色粒子を多く含む	良好	外: 5YR6/3にぶい橙 内: 5YR7/4にぶい橙	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	
29-15	SE60	土師質 鍋			[5.1]	緻密, 白色粒子を多く含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR2/1黒	外: ナデ, スヌ附着 内: ハケメ	
29-16	SE60	滑石製 石錘	6.0	4.2	2.5					64.44g
29-17	SE60	土錘	[6.9]	3.5	3.2	緻密, 直径1~3mmの白色粒子を多く含む	良好	外: 2.5YR6/3にぶい橙	外: ナデ	76.00g
29-18	SE60 掘方	瓦質土器 碗		(6.2)	[2.5]	緻密, 雲母片を含む	良好	外: 10YR5/1褐灰 内: 10YR7/1灰白	外: ナデ 内: ミガキ, 摩滅	
29-19	SE60 掘方	瓦質土器 碗			[2.3]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 7.5Y8/1灰白 内: 7.5Y6/1灰	外: ナデ 内: ミガキ	
29-20	SE60 掘方	瓦質土器 捏鉢			[4.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	2.5Y7/1灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
30-1	SE62 14層	瓦質土器 捏鉢			[2.9]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5Y7/1灰白	外: ナデ 内: ナデ	

I HZK1903地点 (応力研生産研本館地点第2次調査)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
30-2	SE62 14層	土師器 坏	(13.0)	(8.8)	2.7	緻密, 直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
30-3	SE62 14層	土錘	[3.6]	2.0	1.6	緻密	良好	外: 10YR5/2灰黄褐	外: ナデ	10.89 g
30-4	SE62 14層	土錘	5.6	1.0	1.0	緻密	良好	外: 10YR5/2灰黄褐	外: ナデ	4.61 g
30-5	SE62 14層	石球	4.1	4.1	3.8					75.20 g
30-6	SE62 15層	白磁 碗		(6.8)	[3.3]	緻密	良好	5Y6/1灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
30-7	SE62 15層	白磁 合子蓋	(6.0)	(5.4)		緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 露胎, 施文 内: 施釉	
30-8	SE62 15層	瓦質土器 播鉢			[3.5]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外: 7.5Y6/1灰 内: 5Y7/1灰白	外: ナデ 内: ナデ, スリ溝	
30-9	SE62 15層	土師質 鍋			[4.5]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を多く含む	良好	10YR1.7/1黒	外: ナデ 内: ハケメ	
30-10	SE62 15層	土師質 鍋			[3.0]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を含む	良好	外: N2/ 黒 内: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ	
30-11	SE62 15層	土師質 鍋			[2.5]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を少し含む	良好	外: N1.5/ 黒 内: 7.5YR5/3にぶい褐	外: ナデ, スス付着 内: ハケメ	
30-12	SE62 15層	土師器 皿			1.2	緻密, 直径1mm弱の砂 粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
30-13	SE62 掘方	粉青沙器 碗			[3.0]	緻密	良好	2.5Y4/1黄灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉, 施文	
31-1	SE64 3・4層	青磁 碗			[2.5]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉, 施文	
31-2	SE64 3・4層	陶器 耳壺	(9.0)		[10.6]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を多く含む	良好	外: 2.5YR3/2暗赤褐 内: 2.5YR4/2灰赤	外: 施釉 内: 施釉	大宰府編年 陶器耳壺V類
31-3	SE64 中心部	土師器 皿	(7.9)	(6.1)	1.0	緻密, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
31-4	SE64 中心部	土師器 皿	(8.6)	(7.0)	1.4	緻密, 直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
31-5	SE64 中心部	土師器 皿	(8.0)	(6.0)	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂 粒・雲母片を含む	良好	外: 10YR6/2灰黄褐 内: N2/ 黒	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
31-6	SE64 掘方	白磁 碗			[3.8]	緻密	良好	5Y8/1灰白	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	白磁碗 IV類
31-7	SE64 掘方	陶器 鉢			[3.2]	粗い, 直径1~3mmの 砂粒を多く含む	良好	外: 5YR5/3にぶい赤褐 内: 5YR4/4にぶい赤褐	外: 露胎 内: 露胎	陶器鉢 I-1b類
31-8	SE64 掘方	土師器 坏	(13.8)		[2.7]	緻密	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
31-9	SE64 掘方	滑石製 石錘	[6.4]	2.4	1.4					石錘転用 45.72 g
32-1	SE66 木枠内(底)	土師質 捏鉢			[3.1]	緻密, 直径1mm大の砂 粒を多く含む	良好	10YR8/2灰白	外: ハケメ, ナデ 内: ハケメ	
32-2	SE66	土師質 飯蛸壺	(6.7)		[3.5]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を多く含む	良好	外: 10YR8/6黄橙 内: 10YR8/3浅黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
32-3	SE66	土師器 坏	(13.7)	(10.5)	2.7	緻密, 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR6/3にぶい褐 内: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
32-4	SE66	土錘	4.5	1.2	1.1	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	10YR5/2灰黄褐	外: ナデ	5.16 g
33-1	SK72	陶器 鉢			[2.2]	やや粗い, 直径1mm大 の砂粒を多く含む	良好	外: 2.5Y7/2灰黄 内: 2.5Y8/1灰白	外: 施釉, 露胎 内: 化粧土	
33-2	SK72	土師器 皿			[1.0]	緻密, 赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
33-3	SK73	土師器 甕			[2.1]	緻密, 直径1~2mmの 砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR3/1黒褐 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, ハケメ, スス付着 内: ナデ	
33-4	SK73	粉青沙器 皿			[1.5]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	5GY6/1オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	
33-5	SK74 3層	石球	2.6	2.4	2.1					12.21 g
33-6	SK74 3層	土師器 足付皿		3.9	[3.9]	緻密, 直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
33-7	SK74	青磁 坏	(12.6)		[1.4]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁坏 III-3b類
33-8	SK74	白磁 皿		(5.5)	[0.8]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外: 露胎 内: 施釉	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
33-9	SK74	須恵質捏鉢			[2.4]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	N7/ 灰白	外: ナデ 内: ナデ	東播系
33-10	SK74	須恵質捏鉢		(9.2)	[3.0]	緻密, 直径1mm大の砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	N6/ 灰	外: ナデ, ヘラ切り 内: ナデ	東播系
33-11	SK74	土師質飯蛸壺			[5.4]	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒を多く含む	良好	外: 2.5YR7/4淡赤橙 内: 2.5YR7/3淡赤橙	外: ナデ 内: ナデ	
33-12	SK74	土師質鍋			[4.6]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 2.5YR2/1赤黒 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, スス附着 内: ハケメ, ナデ	
33-13	SK74	土師質鍋			[4.6]	緻密	良好	外: 5YR2/1黒褐 内: 5YR5/1褐灰	外: ナデ, スス附着 内: ハケメ	
33-14	SK74	土師器皿	(8.8)	(7.2)	0.9	緻密, 赤色粒子を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
33-15	SK74	平瓦	[7.9]	[4.3]	2.1	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	表: 5YR7/2明褐 裏: 7.5YR6/2灰褐	表: ナデ 裏: ナデ	
35-1	SE67 4層	青白磁合子蓋	(6.0)		1.6	緻密	良好	外: 10GY8/1明緑灰 内: 7.5Y8/1灰白	外: 施釉, 露胎, 施文 内: 施釉, 露胎	
35-2	SE67 4層	陶器鉢			[4.3]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 5YR3/1黒褐 内: 5YR4/2灰褐	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	片口
35-3	SE67 4層	土師質捏鉢			[4.3]	緻密, 直径1~2mmの砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	外: 5YR7/2明褐灰 内: 5YR6/2灰褐	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	
35-4	SE67 4層	土師器皿	(8.0)	(6.5)	1.4	緻密, 直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を多く含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
35-5	SE67 5・6層	陶器黄釉盤			[5.4]	やや粗い, 直径1mm大の砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	外: 5YR6/3にぶい橙 内: 2.5Y5/3黄褐	外: 露胎 内: 施釉	大宰府編年 陶器盤 I-1'a類
35-6	SE67 5・6層	陶器甕			[2.7]	緻密, 直径1~3mmの砂粒をわずかに含む	良好	外: 5YR2/3極暗赤褐 内: 7.5YR5/3にぶい褐	外: 露胎, 施釉 内: 施釉	
35-7	SE67 5・6層	陶器皿		(7.2)	[1.8]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	5Y5/1灰	外: 施釉 内: 施釉	碁笥底
35-8	SE67 9層	土師器皿	(10.0)	(8.5)	1.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
35-9	SE67 13・14層	土師器皿	(9.5)	(8.2)	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外: 10YR6/2灰黄褐 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
35-10	SE67 13・14層	瓦質土器土釜	(5.0)		[4.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: N/3暗灰 内: N4/ 灰	外: ナデ 内: ナデ	畿内系
35-11	SE67	白磁碗			[3.7]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁碗 IV類
35-12	SE67	陶器甕			[15.3]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 2.5YR3/2暗赤褐 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, 施釉, ケズリ 内: ナデ, 施釉, ケズリ	
35-13	SE67	土師質飯蛸壺			[6.7]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 7.5YR5/3にぶい褐 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
37-1	SE68 中心部	青磁碗	(15.6)		[4.0]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-6c類
37-2	SE68	青磁碗			[4.0]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
37-3	SE68	青磁碗			[4.6]	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
37-4	SE68	青磁皿			[2.4]	緻密	良好	5Y6/1灰	外: 施釉 内: 施釉	同安窯系
37-5	SE68	陶器口縁部	(14.0)		[1.6]	緻密	良好	5Y2/1黒	外: 施釉 内: 施釉	
37-6	SE68	陶器播鉢	(21.3)		[2.1]	緻密, 赤色・白色粒子を含む	良好	外: 5YR3/1黒褐 内: 7.5YR3/1黒褐	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, スリ溝	
37-7	SE68	陶器黄釉鉄絵盤			[1.3]	やや粗い, 1mm大の砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR7/1明褐灰 内: 5Y7/1灰白	外: 露胎 内: 施釉, 施文	
37-8	SE68	石斧	[6.5]	6.0	4.8					

第3表 HZK1903地点C区出土遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
41-1	C1 SK06	青磁碗			[2.4]	緻密	良好	5GY7/1明オリブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 Ⅲ-2類
41-2	C1 SK06	白磁皿	(11.0)		[2.0]	緻密	良好	5Y6/1灰	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁皿 Ⅸ類
41-3	C1 SK06	陶器壺			[3.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：5YR3/2暗赤褐 内：5YR3/1黒褐	外：施釉 内：施釉	
41-4	C1 SK06	土師器鉢			[3.3]	やや緻密，直径1～5mmの砂粒，雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ 内：ナデ	
41-5	C1 SP20	陶器鉢		(11.0)	[2.8]	緻密，直径1mm弱の砂粒を少し含む	良好	10YR3/2黒褐	外：施釉 内：施釉	
43-1	C1 SX25 1層	陶器耳壺			[3.4]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR4/2灰褐 内：10YR3/2黒褐	外：ナデ 内：ナデ	
43-2	C1 SX25 1層	土師器坏	(12.6)	(8.8)	2.6	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-3	C1 SX25 1層	土師器皿	(8.4)	(6.9)	1.3	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-4	C1 SX25 1層	土師器皿	(8.4)	(7.1)	1.1	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外：2.5Y6/2灰黄 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-5	C1 SX25 2層	青磁碗			[2.8]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリブ灰	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 Ⅱ-a類
43-6	C1 SX25 2層	土師器皿			[0.9]	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/3にぶい褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-7	C1 SX25 3層	青磁碗			[3.3]	緻密	良好	10Y6/2オリブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-2類
43-8	C1 SX25 3層	土師器皿	(8.2)	(6.0)	1.3	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-9	C1 SX25 7層	瓦質土器捏鉢			[2.4]	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む	良好	2.5Y6/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
43-10	C1 SX25 7層	土師器坏			[2.7]	やや粗い，直径1～4mm弱の砂粒・雲母片を多く含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
43-11	C1 SX25 8上層	陶器碗			[2.7]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外：施釉，施文 内：施釉	鎗蓮弁文
43-12	C1 SX25 8上層	陶器鉢			[4.2]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：10R5/3赤褐 内：2.5YR5/4にぶい赤褐	外：ナデ 内：ナデ	陶器鉢 Ⅰ-1b類
43-13	C1 SX25 8上層	瓦質土器碗	(10.4)		[2.4]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR1.7/1黒	外：ナデ 内：ナデ	
43-14	C1 SX25 8上層	土師器皿	(8.8)	(7.4)	1.1	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-15	C1 SX25 8下層	青磁碗			[3.3]	緻密	良好	10YR7/1灰白	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 Ⅱ-a類
43-16	C1 SX25 8下層	須恵質捏鉢			[2.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	2.5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	東播系
43-17	C1 SX25 8下層	平瓦	[6.9]	[6.4]	1.6	やや粗い，直径1～4mmの砂粒を多く含む	良好	表：10YR8/3浅黄橙 裏：7.5YR8/4浅黄橙	表：被熱 裏：ナデ	
43-18	C1 SX25 9層	青磁碗			[4.0]	緻密	良好	5Y6/2灰オリブ	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 Ⅱ-a類
43-19	C1 SX25 9層	瓦質土器碗			[2.8]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5Y6/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
43-20	C1 SX25 9層	土師器坏	(12.4)	(9.2)	2.1	緻密，直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-21	C1 SX25 9層	土師器坏	(12.2)	(9.2)	2.7	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/2明褐灰	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-22	C1 SX25 8～10層	青磁碗	(16.4)		[5.2]	緻密	良好	2.5GY5/1オリブ灰	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 Ⅱ-a類
43-23	C1 SX25 8～10層	白磁碗			[3.4]	緻密	良好	N7/ 灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 ⅤかⅧ類
43-24	C1 SX25 8～10層	陶器黄釉盤			[3.1]	やや粗い，直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：露胎 内：施釉	
43-25	C1 SX25 8～10層	瓦質土器捏鉢			[3.8]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	2.5Y6/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	
43-26	C1 SX25 8～10層	土師器坏	(12.0)	(9.0)	2.8	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
43-27	C1 SX25 8～10層	土師器皿	(8.4)	(6.6)	1.1	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/2明褐灰	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
43-28	C1 SX25 10層	青磁皿	(10.3)		[1.8]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉 内：施釉	大宰府編年 同安窯系青磁皿 I類
43-29	C1 SX25 10層	陶器壺			[3.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：5YR3/1黒褐 内：2.5Y5/2暗灰黄	外：回転ナデ, 施釉 内：回転ヘラケズリ, 施釉	
43-30	C1 SX25	青磁碗			[5.0]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 III-1a
43-31	C1 SX25	青磁碗	(4.4)		[2.3]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉, 施文 内：施釉, 施文	同安窯系青磁碗 I-b類
43-32	C1 SX25	白磁皿	(5.4)		[1.4]	緻密	良好	外：2.5GY8/1灰白 内：5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁皿 IX-2類
43-33	C1 SX25	陶器壺		(7.0)	[5.1]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR4/1褐灰 内：10YR5/2灰黄褐	外：回転ナデ, 施釉 内：回転ヘラケズリ, 施釉	
43-34	C1 SX25	瓦質土器 捏鉢			[3.1]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR6/1褐灰 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ 内：ナデ	
43-35	C1 SX25	土師器 坏	(12.6)	(9.0)	2.5	緻密, 直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ, 糸切り 内：ナデ	糸切り底
43-36	C1 SX25	瓦玉	2.4	2.7	1.3	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	表：7.5YR7/4にぶい橙 内：2.5Y5/1黄灰	表：ナデ 裏：ナデ	
47-1	C2 SD55	陶器碗			[3.4]	緻密	良好	10YR1.7/1黒	外：施釉 内：施釉	天目碗
47-2	C2 SD55	平瓦	[8.5]	[6.1]	1.8	やや粗い, 直径1~5mmの砂粒を多く含む	良好	2.5Y7/2灰黄	表：ナデ 裏：ナデ	
47-3	C2 SD55	熨斗瓦	[20.0]	[13.0]	2.7	やや粗い, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	表：2.5Y7/1灰白 裏：2.5Y6/1黄灰	表：ナデ 裏：ナデ	
47-4	C2 SD55	平瓦	[19.9]	[12.3]	2.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	表：10YR6/2灰黄褐 裏：10YR6/3にぶい黄橙	表：ナデ 裏：ナデ	
47-5	C2 SD55	丸瓦	[7.3]	[3.7]	2.0	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	表：N6/ 灰 裏：2.5Y6/1黄灰	表：縄目タタキ, ナデ 裏：コビキ A, 布目	
47-6	C2 SD55	丸瓦	[8.5]	[5.5]	2.0	やや粗い, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	表：N5/ 灰 裏：N7/ 灰白	表：縄目タタキ, ナデ 裏：布目, 吊り紐痕	
47-7	C2 SD55	丸瓦	[16.0]	[8.9]	2.2	緻密, 直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	表：5YR6/6橙 裏：2.5YR6/6橙	表：縄目タタキ, ナデ 裏：布目, 吊り紐痕, ナデ	
49-1	C2 SD62	青磁碗	(16.2)		[3.7]	緻密	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外：施釉, 施文 内：施釉	
49-2	C2 SD62	青磁碗			[4.1]	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉, 施文	
49-3	C2 SD62	青磁皿	(11.0)		[2.1]	緻密	良好	2.5GY6/1オリーブ灰	外：施釉 内：施釉, 施文	同安窯系青磁皿 I類
49-4	C2 SD62	白磁碗	(15.2)		[3.2]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉, 露胎 内：施釉, 施文	白磁碗 V-1c類
49-5	C2 SD62	白磁碗			[3.8]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗 IV類
49-6	C2 SD62	白磁碗	(5.2)		[2.4]	緻密	良好	7.5Y6/1灰	外：施釉, 露胎 内：施釉	
49-7	C2 SD62	白磁碗	(4.8)		[2.5]	緻密	良好	7.5GY8/1明緑灰	外：施釉, 露胎 内：施釉	
49-8	C2 SD62	白磁碗		6.1	[3.6]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：施釉, 露胎 内：施釉	白磁碗 V類
49-9	C2 SD62	青白磁 合子蓋			1.6	緻密	良好	7.5Y8/1灰白	外：施釉, 露胎, 施文 内：施釉	
49-10	C2 SD62	陶器 黄釉盤			[3.8]	やや粗い, 1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：10Y6/2オリーブ灰	外：露胎 内：施釉	陶器盤 I-2類
49-11	C2 SD62	陶器 黄釉鉄絵盤			[1.9]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR5/1褐灰 内：2.5Y7/2灰黄	外：露胎 内：施釉, 施文	
49-12	C2 SD62	陶器 鉢	(26.8)		[3.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：2.5Y4/2暗灰黄 内：5Y7/3浅黄	外：施釉 内：薄く施釉	陶器鉢 I-3類
49-13	C2 SD62	陶器 鉢			[3.3]	やや緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	10YR6/2灰黄褐	外：ナデ 内：ナデ	陶器鉢 I-1b類
49-14	C2 SD62	陶器 鉢			[2.8]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：7.5YR5/2灰褐 内：10YR5/2灰黄褐	外：ナデ 内：ナデ	陶器鉢 I-1a類
49-15	C2 SD62	陶器 鉢			[4.7]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR4/2灰黄褐	外：ナデ 内：ナデ	
49-16	C2 SD62	陶器 壺	(8.0)		[14.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：5Y6/2灰オリーブ 内：2.5Y6/2灰黄	外：回転ナデ, 施釉, 露胎 内：回転ヘラケズリ, 施釉	
49-17	C2 SD62	須恵質 捏鉢			[4.0]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	2.5Y6/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	東播系

I HZK1903地点 (応力研生産研本館地点第2次調査)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
49-18	C2 SD62	瓦質土器碗		(5.9)	[1.7]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y7/1灰白 内: 2.5Y7/2灰黄	外: ナデ 内: ナデ	
49-19	C2 SD62	瓦質土器碗			[2.3]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	
49-20	C2 SD62	土師器高台付坏			[3.4]	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外: 2.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
49-21	C2 SD62	土師器皿	(8.4)	(6.4)	1.1	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
49-22	C2 SD62	滑石製石鍋			[5.6]					
49-23	C2 SK65	土師器皿	(9.0)	(6.4)	1.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
49-24	C2 SK65	青磁皿	(11.0)		[2.4]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉, 施文	大宰府編年 同安窯系青磁皿 I-2b類
52-1	C2 SK27	陶器碗		2.8	[1.8]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR4/2灰褐	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, ナデ	基筈底
52-2	C2 SK27	陶器碗			[5.9]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y5/2暗灰黄 内: 2.5Y6/2灰黄	外: 施釉 内: 施釉	
52-3	C2 SK27	土師器坏	(15.2)		[2.3]	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
52-4	C2 SK29 a層	青磁碗		(3.5)	[1.5]	緻密	良好	10GY6/1緑灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗 III類
52-5	C2 SK29 a層	青磁碗		(4.6)	[2.1]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外: 施釉, 露胎, 施文 内: 施釉	龍泉窯系青磁碗 III類
52-6	C2 SK29 a層	青磁碗		(6.0)	[1.7]	緻密	良好	2.5Y6/2灰黄	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
52-7	C2 SK29 a層	白磁皿	(9.3)	(5.6)	1.6	緻密	良好	5GY8/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁皿 IX類
52-8	C2 SK29 a層	陶器鉢			[2.2]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR5/4にぶい黄褐	外: 施釉 内: 施釉	
52-9	C2 SK29 a層	土師器坏	(13.0)	(9.0)	2.6	緻密, 直径1~3mmの砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
52-10	C2 SK29 a層	土師器皿	(8.2)	(6.2)	1.5	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
52-11	C2 SK29 a層	丸瓦	[12.3]	[4.9]	1.8	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	5Y6/1灰	表: ナデ 裏: コビキ A, 布目, 吊り紐痕, ナデ	
52-12	C2 SK29 b層	青磁坏			[3.3]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	龍泉窯系青磁坏 III-4類
52-13	C2 SK29	陶器鉢			[3.2]	やや粗い, 直径2mm大の砂粒を含む	良好	外: 5YR6/3にぶい橙 内: 2.5YR6/6橙	外: ナデ 内: ナデ	陶器鉢 I-1b類
52-14	C2 SK29	瓦質土器播鉢			[5.5]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	N4/ 灰	外: ナデ 内: ハケメ, スリ溝	
52-15	C2 SK29	土師質捏鉢			[4.3]	緻密, 直径1~2mmの砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: ハケメ	
52-16	C2 SK29	土師器坏	(12.0)	(8.4)	2.8	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
52-17	C2 SK29	土師器坏	(12.8)	(9.0)	2.9	緻密, 直径1~3mmの砂粒, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
52-18	C2 SK29	土師器坏			[2.7]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
52-19	C2 SK29	土師器坏			[1.6]	緻密, 直径1~3mmの砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
52-20	C2 SK29	土師器	5.6	1.2	1.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 10YR4/2灰黄褐	外: ナデ	8.56g
52-21	C2 SK31	青磁碗		(6.6)	[4.4]	緻密	良好	2.5GY6/1オリーブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-4類
52-22	C2 SK31	土師器坏	(13.8)	(9.7)	2.8	緻密, 直径1~2mmの砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR8/2灰白 内: 10YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-1	C2 SK41	白磁碗	(13.0)		[3.4]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	
55-2	C2 SK41	白磁碗			[3.9]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁碗 V-4類かVIII類
55-3	C2 SK41	土師器甕			[2.0]	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 型押し 内: ナデ	
55-4	C2 SK41	土師器高台付坏			[1.5]	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒を少し含む	良好	外: 5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
55-5	C2 SK41	土師器 坏			2.5	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-6	C2 SK41	土師器 皿	(8.0)	(6.2)	1.3	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を少し含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-7	C2 SK41	土鍾	4.4	0.9	0.9	緻密	良好	5Y4/1灰	外: ナデ	3.20g
55-8	C2 SK49	青磁碗		5.4	[2.7]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉, 施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 II-d 類
55-9	C2 SK49	白磁碗			[2.9]	緻密	良好	5GY8/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁碗 IX類
55-10	C2 SK49	白磁碗		(6.0)	[2.7]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外: 露胎 内: 施釉	白磁碗 V類
55-11	C2 SK49	白磁碗		(6.2)	[0.7]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁皿 IX類
55-12	C2 SK49	白磁碗		(6.4)	[0.6]	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	白磁皿 IX類
55-13	C2 SK49	丸瓦	[7.6]	[4.0]	2.0	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を含む	良好	表: N5/ 灰 裏: N6/ 灰	表: 縄目タタキ, ナデ 裏: 布目, ナデ	
55-14	C2 SK49	丸瓦	[12.5]	[5.4]	2.2	やや粗い, 直径1~4mmの砂粒を多く含む	良好	表: 2.5Y7/1灰白 裏: N6/ 灰	表: ナデ 裏: 布目, ナデ	
55-15	C2 SK49	土師器 坏		(8.8)	[1.2]	緻密	良好	5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-16	C2 SK50	青磁坏	(11.8)		[2.5]	緻密	良好	7.5GY7/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉	龍泉窯系青磁坏 III-1類
55-17	C2 SK50	土師器 坏			4.4	緻密, 赤色粒子を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-18	C2 SK50	丸瓦	[9.8]	[5.5]		緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	表: 5Y8/1灰白 裏: 5Y6/1灰	表: ナデ 裏: 布目, 吊り紐痕, ナデ	
55-19	C2 SK50	平瓦	[8.6]	[5.9]	2.0	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	表: N5/ 灰 裏: N6/ 灰	表: ナデ 裏: ナデ	
55-20	C2 SK51	青磁碗		(6.6)	[2.4]	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-1c 類
55-21	C2 SK51	青磁皿			[1.4]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	同安窯系青磁皿 I-2b 類
55-22	C2 SK54	土師器 坏	10.5	6.5	3.1	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-23	C2 SK54	土師器 坏		(7.6)	[2.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-24	C2 SK54	土師器 坏		(8.8)	[2.1]	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
55-25	C2 SK57	白磁碗			[2.5]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁碗 IV類
55-26	C2 SK57	土師器 坏	(16.4)	(10.8)	3.8	緻密, 直径1~4mmの砂粒, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-27	C2 SK57	土師器 坏			2.6	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を少し含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-28	C2 SK57	土師器 坏			2.7	緻密, 直径1~3mmの砂粒, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-29	C2 SK57	土師器 坏			3.1	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を少し含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-30	C2 SK57	土師器 皿	(9.0)	(6.4)	1.4	やや緻密, 1~5mmの砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
55-31	C2 SK57	土師器 皿	(8.0)	(5.7)	1.3	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-32	C2 SK59	白磁皿	(11.4)	(6.8)	3.5	緻密	良好	10Y7/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁皿 IX-1c 類
55-33	C2 SK61	砥石	[9.3]	[6.3]	[4.4]					
57-1	C2 SK73	青磁碗			[2.5]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
57-2	C2 SK73	青磁皿			[2.3]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉	同安窯系青磁皿 I類
57-3	C2 SK73	白磁碗			[3.4]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁碗 VかVII類
57-4	C2 SK73	土師器 甕			[3.0]	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR6/3にぶい橙 内: 5YR6/4にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	

I HZK1903地点 (応力研生産研本館地点第2次調査)

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
57-5	C2 SK73	土師器 皿	(8.2)	(6.6)	1.1	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	10YR5/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
57-6	C2 SK79	白磁 碗			[3.9]	緻密	良好	10Y7/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	大宰府編年 白磁碗 IX類
57-7	C2 SK79	白磁 碗			[1.8]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁碗 IX類
57-8	C2 SK79	土師器 杯		(8.8)	[1.5]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
57-9	C2 SK79	瓦玉	3.1	3.3	1.6	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	表: 5Y6/1灰 裏: 5Y7/1灰白	表: ハケメ 裏: ナデ	
57-10	C2 SK80	軒丸瓦	[13.2]	[11.2]	1.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	表: N4/ 灰 裏: N5/ 灰	表: ナデ 裏: 布目, 吊り紐痕, ナデ	巴文
60-1	C2 SX88 No.1	土師器 杯	10.7	7.2	1.8	緻密, 直径1~2mmの砂粒, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR6/4にぶい黄橙 内: 10YR7/2にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-2	C2 SX88 No.2	土師器 杯	10.6	7.0	2.0	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り 内: ナデ	
60-3	C2 SX88 No.3	土師器 杯	10.6	7.5	1.9	緻密, 直径1~3mmの砂粒, 雲母片を少し含む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-4	C2 SX88 No.4	土師器 杯	10.6	7.3	1.8	緻密, 直径1~2mmの砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-5	C2 SX88 No.5	土師器 杯	11.0	6.9	1.6	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR5/4にぶい黄褐 内: 10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-6	C2 SX88 No.6	土師器 杯	11.1	7.4	2.0	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を少し含む	良好	外: 2.5Y6/2灰黄 内: 2.5Y6/3にぶい黄	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-7	C2 SX88 No.7	土師器 杯	10.5	7.7	1.6	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 2.5Y6/3にぶい黄 内: 10YR6/4にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-8	C2 SX88 No.8	土師器 杯	11.2	7.6	2.1	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-9	C2 SX88 No.9	土師器 杯	11.1	7.5	2.0	緻密, 直径1~2mmの砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR6/4にぶい黄橙 内: 10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ, ヘラ切り, 板状 圧痕 内: ナデ	
60-10	C2 SK89	青磁 碗			[3.8]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 IV類
60-11	C2 SK89	土師器 皿	(8.2)	(7.0)	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
60-12	C2 SK89	平瓦	[8.1]	[5.4]	1.8	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	表: 10YR6/2灰黄褐 裏: 10YR8/3浅黄橙	表: ナデ 裏: ナデ	
60-13	C2 SK89	丸瓦	[10.4]	[5.6]	2.3	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	表: 7.5YR6/1褐灰 裏: 7.5YR7/1明褐灰	表: 縄目タタキ, ナデ 裏: 布目, ナデ	
60-14	C2 SK90	青磁 碗			[2.5]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
60-15	C2 SK90	青磁 碗		(5.8)	[2.9]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
60-16	C2 SK90	青磁 皿	(10.2)		[1.9]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁皿 I-2類
60-17	C2 SK90	白磁 碗			[4.2]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外: 施釉 内: 施釉	白磁碗 V-4かVIII類
60-18	C2 SK90	陶器 鉢			[5.2]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 7.5Y7/1灰白 内: N7/ 灰白	外: ナデ 内: ナデ	陶器鉢 I-1b類
60-19	C2 SK90	土錘	4.0	1.0	0.9	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 5YR6/4にぶい橙	外: ナデ	2.70g
60-20	C2 SK92	陶器 黄釉盤			[3.0]	やや粗い, 砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 5Y7/2灰白	外: 露胎 内: 施釉	
60-21	C2 SK92	軒丸瓦	[9.1]	[5.3]		やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	表: 2.5Y6/1黄灰 裏: 5Y5/1灰	表: ナデ 裏: ナデ	三巴文
60-22	C2 SK92	丸瓦	[6.4]	[7.2]	1.8	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	表: N4/ 灰 裏: N6/ 灰	表: ナデ 裏: コビキA, 布目, ナデ	
63-1	C2 SK100	白磁 皿		(5.0)	[0.8]	緻密	良好	5Y6/1灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	白磁皿 VIII-1'類
63-2	C2 SK100	土師器 杯	13.7	9.6	2.7	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
63-3	C2 SK100	土師器 皿	(9.0)	(6.6)	1.4	緻密	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
63-4	C2 SK100	土錘	4.7	1.1	1.0	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 2.5YR6/6橙	外: ナデ	3.46g
63-5	C2 SK101	白磁碗		7.0	[2.4]	緻密	良好	外: 10YR7/2にぶい黄橙 内: 10YR8/3浅黄橙	外: 露胎 内: 施釉	大宰府編年 白磁碗 IV -1a類
63-6	C2 SK101	白磁碗		5.4	[3.8]	緻密	良好	外: 10GY8/1明緑灰 内: 7.5GY8/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉	白磁碗 IX -1類
63-7	C2 SK101	白磁皿		(4.4)	[0.7]	緻密	良好	7.5GY6/1緑灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
63-8	C2 SK101	陶器鉢			[4.7]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR6/2灰褐	外: ナデ 内: ナデ	陶器鉢 I -1b類
63-9	C2 SK101	瓦質土器碗			[3.2]	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR8/2灰白 内: 10YR7/1灰白	外: ナデ 内: ナデ, ミガキ	
63-10	C2 SK101	土師器皿	(9.0)	(7.2)	1.0	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
63-11	C2 SK123	陶器鉢			[4.6]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y6/2灰黄 内: 2.5Y7/2灰黄	外: 施釉 内: 施釉	陶器鉢 III類
63-12	C2 SK123	土師質鍋			[3.7]	緻密, 直径1mm弱の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 10YR5/1褐灰 内: 7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, スス附着 内: ナデ	
63-13	C2 SK139	土師質脚部	[7.5]	3.4	3.2	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒, 雲母片を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ	
63-14	C2 SK139	土師器坏	(12.4)	(8.5)	2.7	緻密, 直径1~2mmの砂粒, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
63-15	C2 SK139	土師器坏	(13.0)	8.6	2.5	緻密, 直径1mm大の砂粒, 雲母片を含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR7/2明褐灰	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底

## Ⅱ HZK1904地点（保存図書館地点）

### 1. 調査の経緯

#### (1) 調査の目的と経過

本調査地点は、九州大学箱崎キャンパスの南地区の旧保存図書館東側に位置する。キャンパス全体の発掘調査グリッドでは（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集I章第2図）、P37区、P38区にあたる。旧保存図書館の解体撤去にともない、基礎撤去工事を行うこととなったが、同じP38区の南側ではHZK1703（応力研生産研本館北地点）の調査時（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集第IV章）に、土坑墓、石積み土坑、土坑、ピットなどの遺構とそれに伴う土師器、陶磁器、瓦、漁労具、銭貨などが出土し、箱崎遺跡に居住していた人々の居住環境や社会生活領域の一端が解明された。

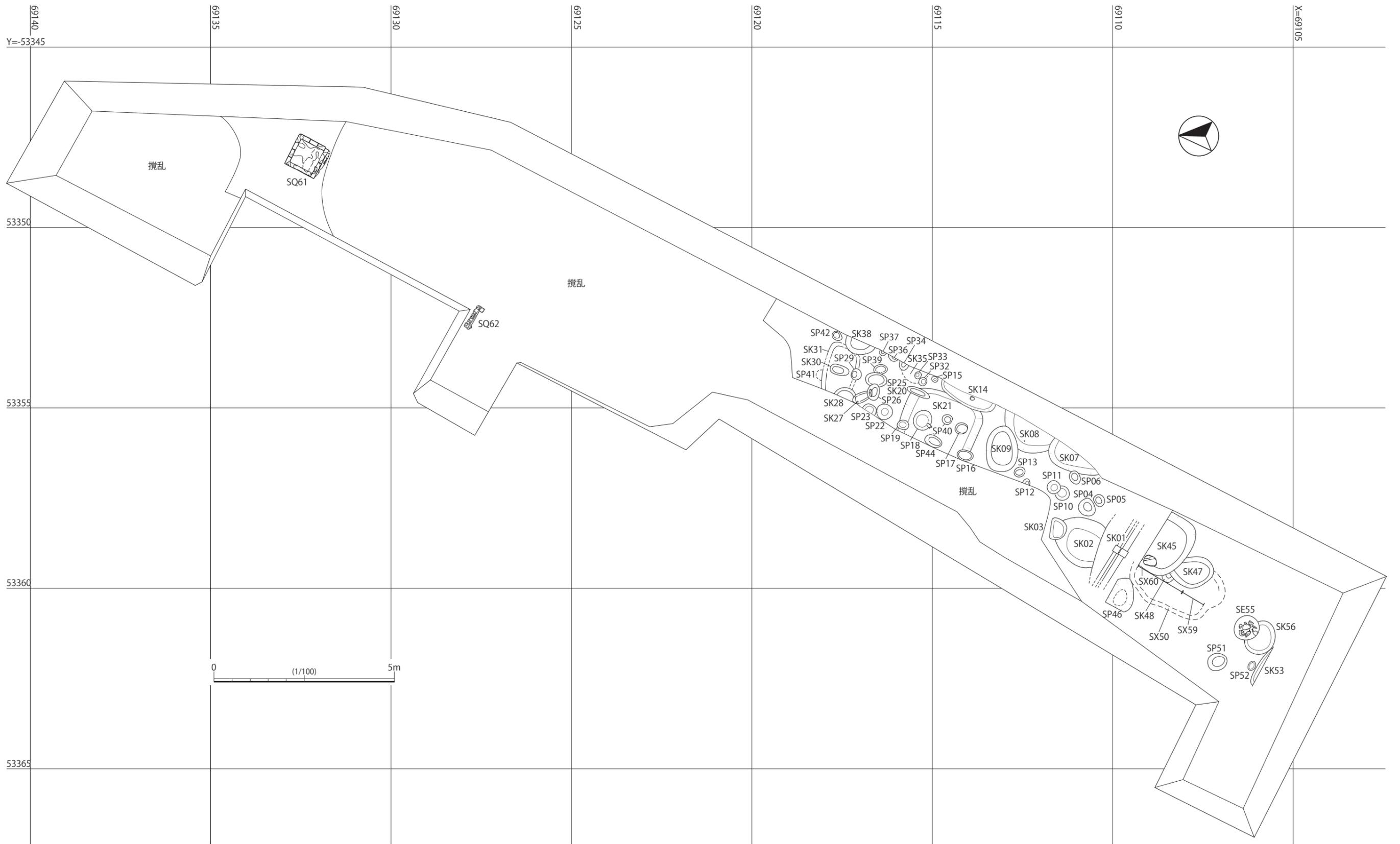
また保存図書館南側外灯立て替えに伴い福岡市による試掘調査が行われ、GL40cm～100cmほどで中世の遺構や青磁が散見されており、本地点にも良好な遺物包含層が遺存していることが想定され、引き続き、箱崎遺跡における中世から近世にかけての土地利用や社会生活といった活動を解明することを目的とし、発掘調査を計画した。

九州大学埋蔵文化財調査室は、令和元年9月3日付の福岡県教育委員会あて「九大統統第40号」にて、HZK1904地点の埋蔵文化財発掘届を提出した。これに対して、福岡県教育委員会より令和元年9月30日付「1教文第795号」にて許可通知があり、10月2日に現地調査を開始した。

本調査では、保存図書館の北・西・南側は配管が巡らされており、東側のみ遺構残存の可能性が高いという調査担当者の判断により、東側のみを調査することとし、旧保存図書館の建物東側に、南北方向に長い調査区を設定した。調査区北半は近代以降の攪乱や造成が深部まで及んでおり、近世以前の遺構は確認されなかった。一方調査区南半では中世を中心とした良好な遺構・遺物を検出した。調査成果の詳細については後述する。なお調査から報告に至るまで数年が経過し、その間の異動により調査担当者と報告者が異なっている。報告については調査担当者の記録を基に、報告者の責任において文章執筆を行い、報告者については各文末に記す。調査は順調に進み、令和元年11月6日に無事終了した。

#### (2) 調査要項

遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス HZK1904地点（保存図書館地点）
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：HZK1904 福岡市調査番号：1945、箱崎遺跡第104次調査
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	300㎡
調査原因	開発事業（基礎撤去等）
調査期間	令和元年10月2日～11月6日
遺物量	コンテナ（内寸54cm×34cm×15cm）10箱
調査主体	九州大学埋蔵文化財調査室
発掘担当	三阪一徳・齋藤瑞穂



第1図 HZK1904地点遺構配置図

調査作業員 井上光江、浦崎てい子、大浦旗江、奥 敦子、大藺英美、門脇尚子、城野勝彦、  
小林敏子、定永靖史、篠崎繁美、白石亜希子、節政善憲、竹本葉子、田代 薫、  
田中悦子、田中ゆみ子、田野和代、堤 末子、永濱弘子、仲前富美子、中村尚美、  
中山大輔、永瀬太平、西浦喜久子、西田和廣、東島真弓、松下さゆり、松下由希子、  
三辻香奈子、宮原ゆかり、宮元亜希世、安里由利子、山田幹裕、吉田辰義

遺物整理担当 谷 直子

整理作業員 石井若香菜、板倉佳代子、犬山真弓、尾座本洋子、小名真理子、榎本真理、  
坂口由美子、田邊八子、富田文代、富田麗子、濱古賀美和

(谷 直子)

## 2. 遺構と遺物

土坑 SK01・土坑 SK02・土坑 SK03 (第2図)

SK02を SK01と SK03が切るといふ。SK02は短軸133cm で、長軸は150cm 前後になると見込まれる。SK03は径57cm の土坑である。(齋藤瑞穂)

第3図1～5はSK01出土である。1は土師質の鍋である。外面にススが付着している。口縁上部のみ残存しており、屈曲の有無や程度は不明であるが、14世紀以降の所産と考える(山本他 1997)。2・3は糸切り底の土師器で、2は皿、3は坏である。4は土錘である。中央がやや膨らむ円筒形を呈す。5は多孔質の石錘と考えられる。両側縁を打ち欠いて紐かけの袂りとする(谷 直子)。

第3図6～12はSK02出土である。6・7は白磁の皿で、6は口縁端部が口禿となり、大宰府編年の白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。8は染付碗である。手描きで口縁部内面に圏線、外面に圏線とハの字状の模様を施す。近世の所産と考えられる。9は土師質の鍋である。口縁部が屈曲し、外面にススが付着する。13世紀後半から14世紀前半の所産である(山本他 1997)。10は土師質の播鉢である。在地産の鉢にスリ目が入り「播鉢」となるのは14世紀後半以降である(山本他 1997)。11は糸切り底の土師器の坏である。12は円筒形の土錘である。

SK03からは瓦質土器片が出土したが、小片で図化できない。(谷 直子)

ピット SP04 (第2図)

50×42cm の円形ピットである。確認面からの深さは17cm である。遺物は出土していない。

(齋藤瑞穂)

ピット SP05 (第2図)

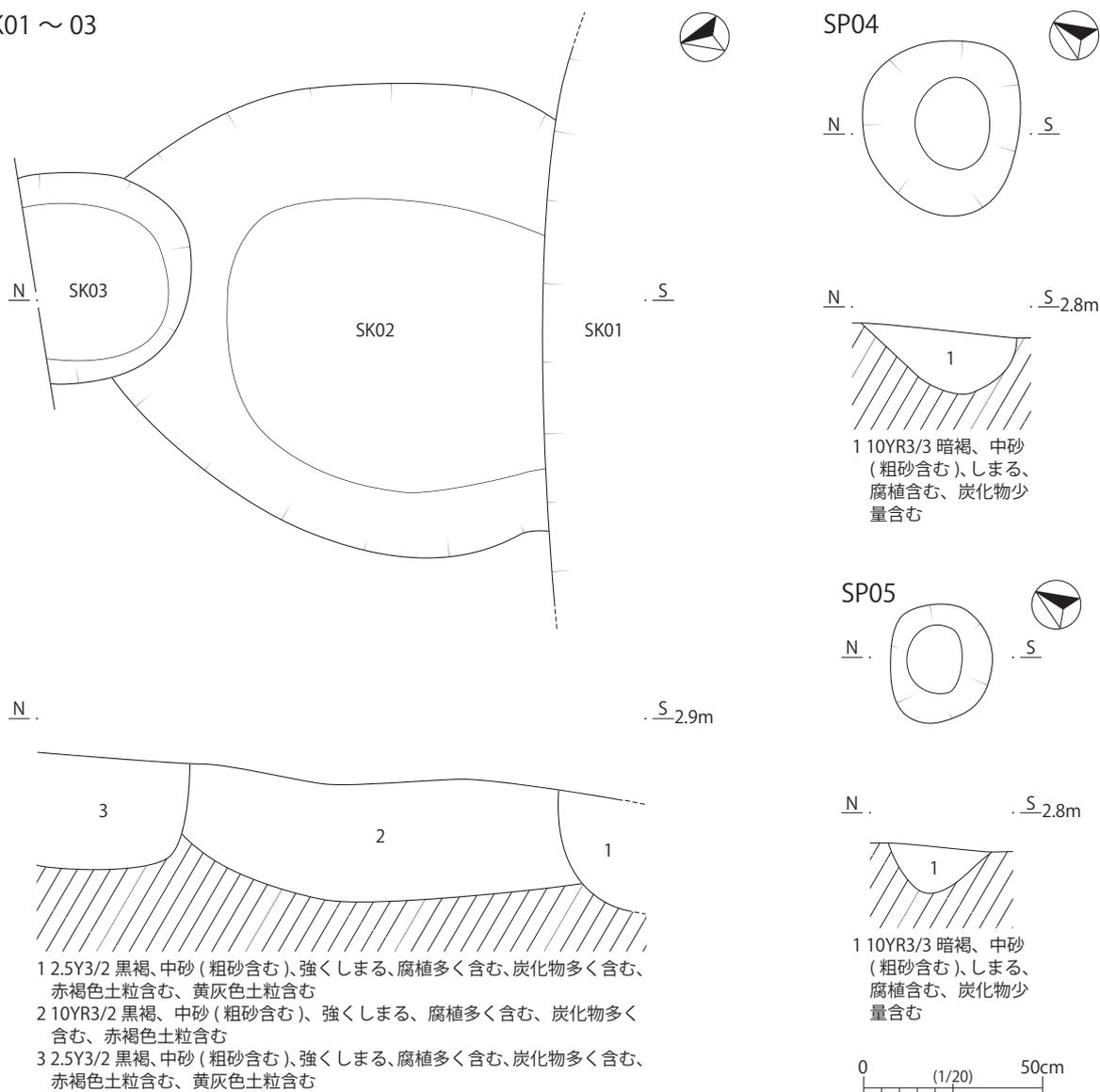
32×28cm の円形ピットである。確認面からの深さは12cm である。遺物は出土していない。

(齋藤瑞穂)

ピット SP06・土坑 SK07・土坑 SK08 (第4図)

担当者の日誌に従うと、SP06がSK07を切り、SK07がSK08を切るといふ。SP06は長軸38cm、短軸28cm のピットである。確認面からの深さは11cm である。SK07は南北156cm、確認面からの深さは44cm である。SK08も南北160cm 以上になる。確認面からの深さは30cm である。(齋藤瑞穂)

SK01 ~ 03



第2図 HZK1904地点 SK01~03・SP04・05平面・断面図

第5図1~3はSK07出土である。1は土師質の鍋で、口縁部が屈曲する。13世紀後半から14世紀前半の所産である（山本他 1997）。2は糸切り底の土師皿である。3は紡錘形を呈する土錘で、下半を欠損する。

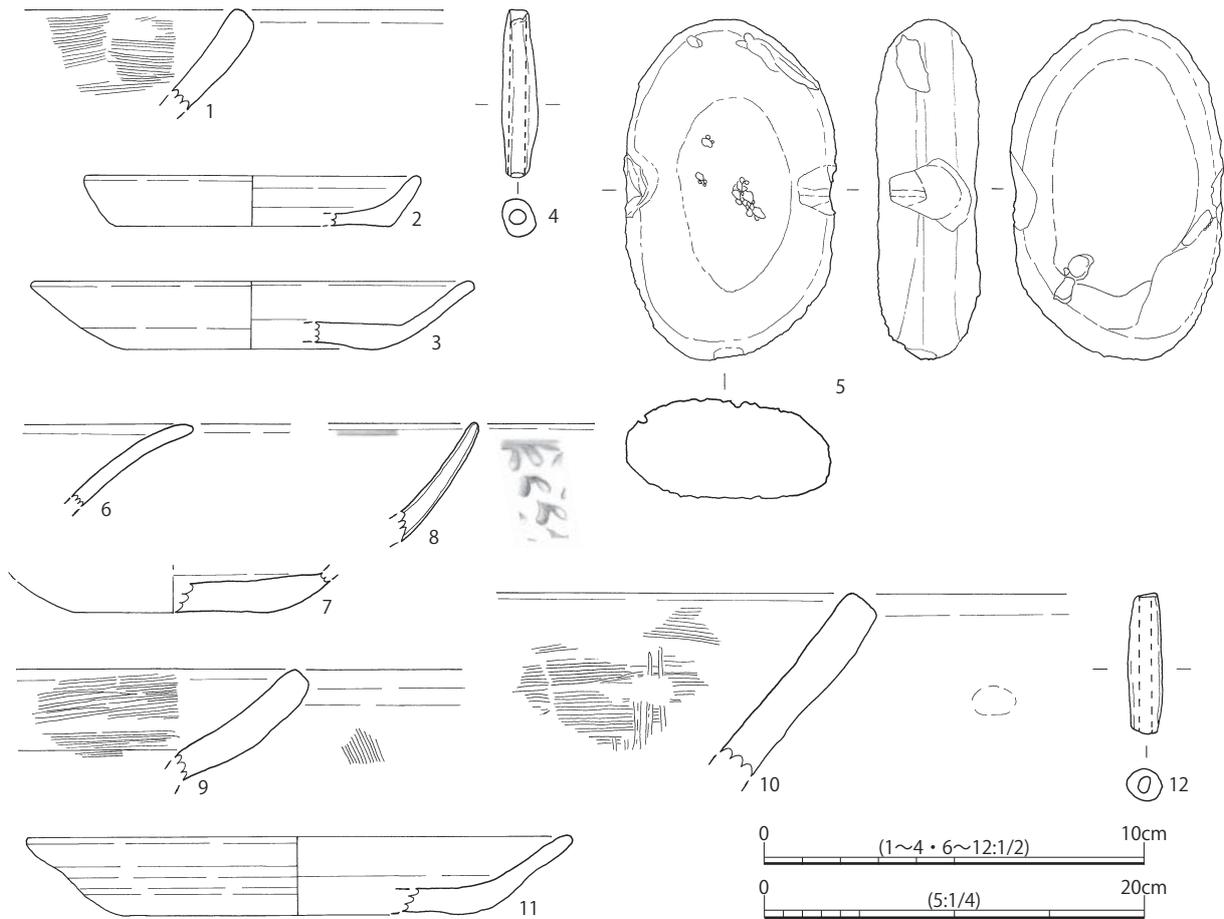
第5図4~6はSK08出土である。4は瓦質土器の捏鉢、5は土師質の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地化する（山本他 1997）。6は糸切り底の土師皿の底部である。

SP06からは小片で図化し得なかったが、土師器片が出土した。（谷 直子）

土坑 SK09（第4図）

長軸127cm、短軸88cmの土坑である。確認面からの深さは18cmである。（齋藤瑞穂）

第5図7~10はSK09出土である。7・8は土師質の鍋で、7はやや口縁部の屈曲が残るが、8は屈曲の痕跡はなく、直口縁になっている。15世紀後半以降の所産である（山本他 1997）。9は糸切り底の土師皿である。10は嘉祐通寶である。北宋銭で初鑄は1056年。（谷 直子）



第3図 HZK1904地点 SK01・02出土遺物

## ピット SP10・ピット SP11 (第4図)

担当者の日誌によれば、SP11がSP10を切るらしい。SP10は径38cm、確認面の深さは10cmである。SP11は径36cm、確認面の深さは8cmである。(齋藤瑞穂)

SP10からは図化し得なかったが、土師器片が出土している。SP11からは遺物は出土していない。

(谷 直子)

## ピット SP12 (第6図)

短軸20cmのピットで、楕円形になるものと推測される。確認面からの深さは18cmである。遺物は出土していない。(齋藤瑞穂)

## ピット SP13 (第6図)

径28cmの円形ピットである。確認面からの深さは28cmである。遺物は出土していない。

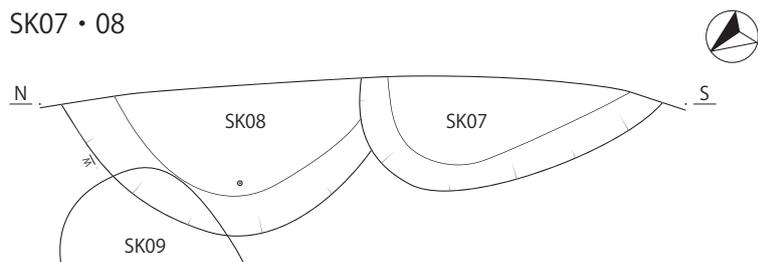
(齋藤瑞穂)

## 土坑 SK14・土坑 SK21 (第6・8図)

SK14がSK21を切る。SK14は南北163cmの土坑で、遺構は調査区の東方に延びていく。確認面からの深さは17cmである。SK21は南北218cmを測り、確認面からの深さは46cmである。(齋藤瑞穂)

第7図はSK14出土である。1は白磁碗で、口縁端部が口禿となり、大宰府編年の白磁碗区類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する(宮崎編 2000)。2は土師質の鍋で、口縁部が屈曲する。

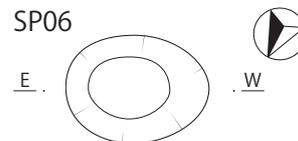
SK07・08



1 SK07 10YR3/2 黒褐、中砂（粗砂含む）、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む  
 2 SK08 10YR3/2 黒褐、中砂（粗砂含む）、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む

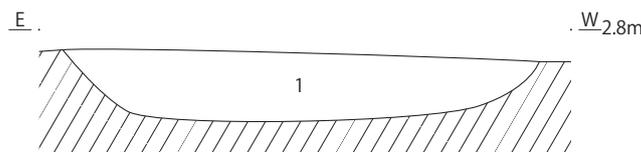
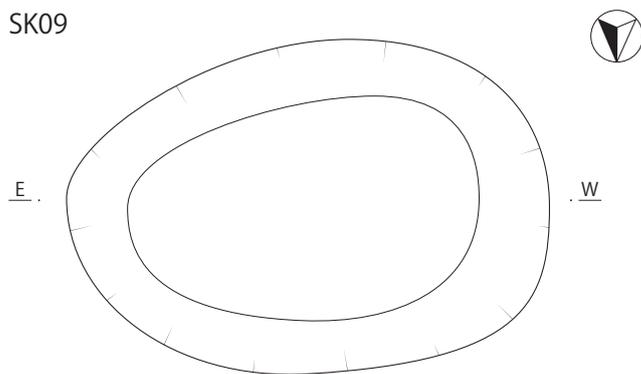


SP06



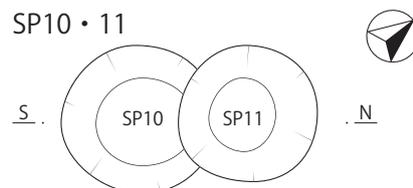
1 10YR3/3 暗褐、中砂（粗砂含む）、しまる、腐植含む、炭化物少量含む

SK09

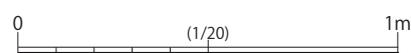


1 2.5Y3/2 黒褐、中砂（粗砂含む）、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む、黄灰色土粒含む

SP10・11



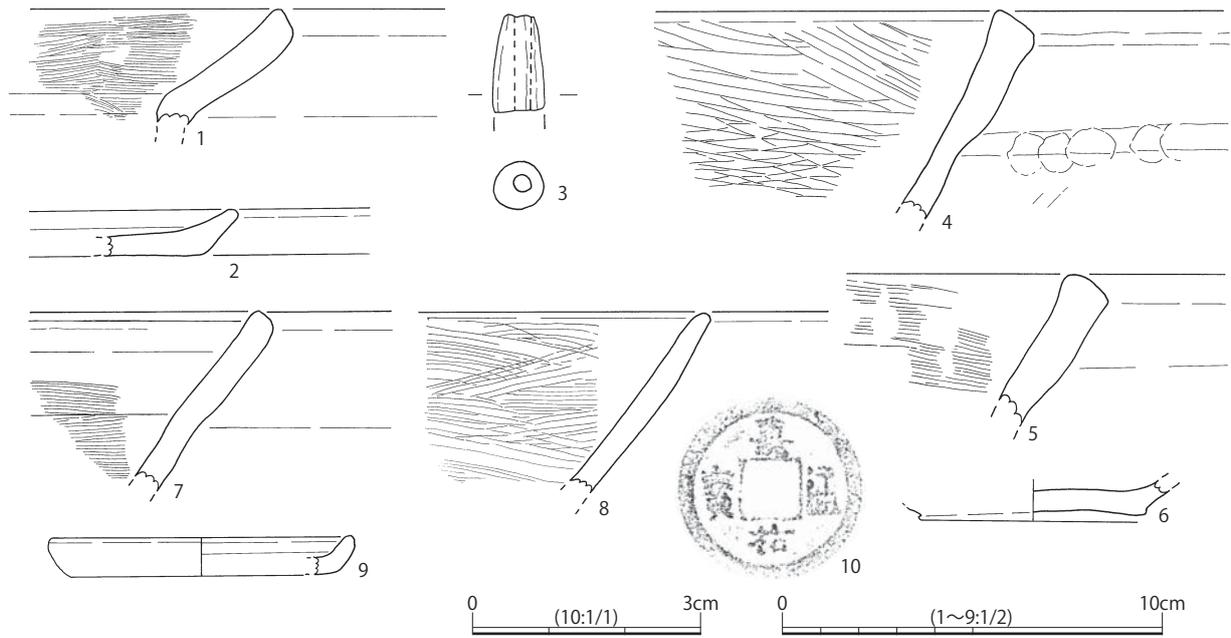
1 SP10 10YR3/3 暗褐、中砂（粗砂含む）、しまる、腐植含む、炭化物少量含む  
 2 SP11 10YR3/3 暗褐、中砂（粗砂含む）、しまる、腐植含む、炭化物少量含む



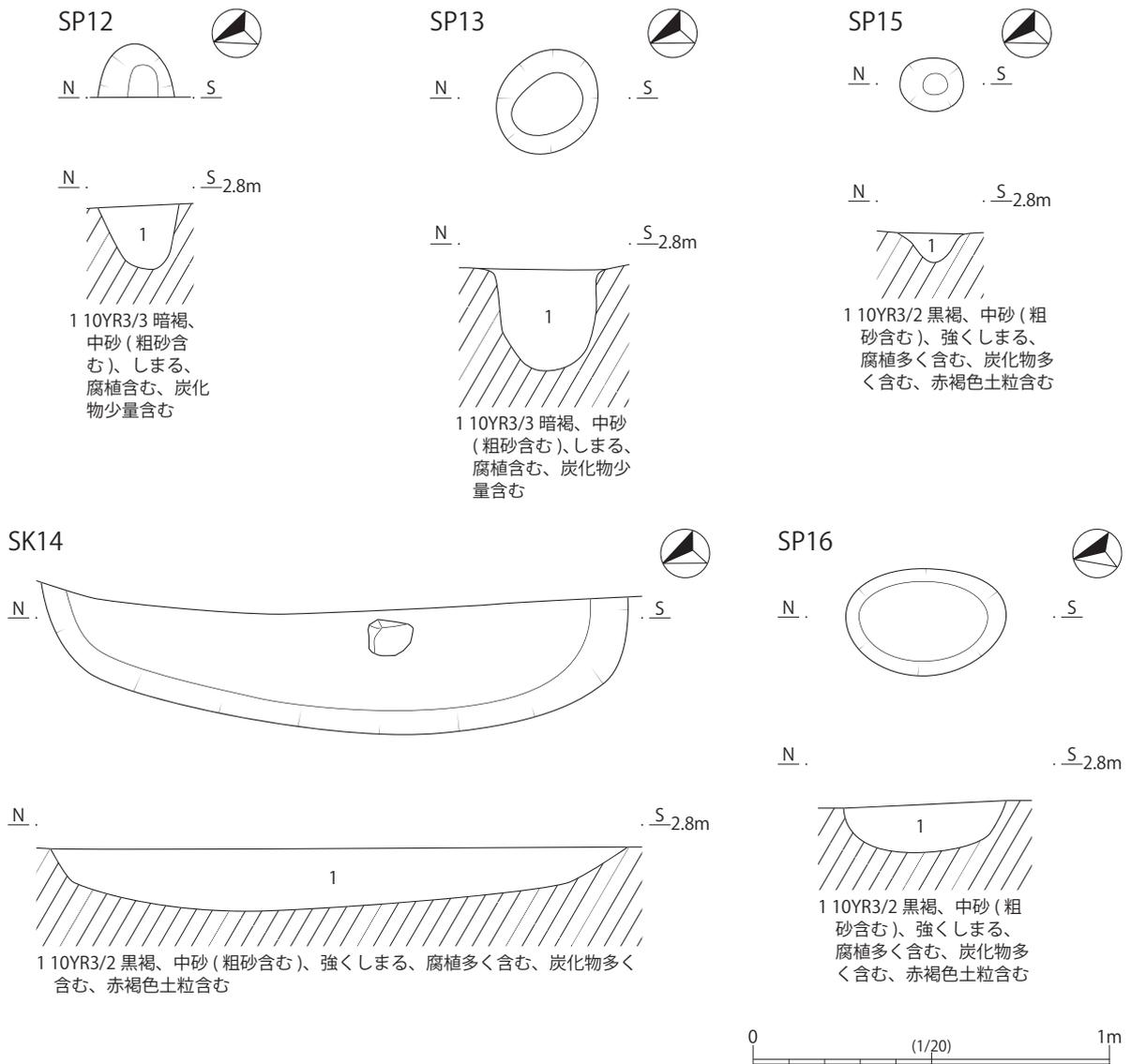
第4図 HZK1904地点 SP06・SK07～09・SP10・11平面・断面図

13世紀後半から14世紀前半の所産である（山本他 1997）。3は糸切り底の土師器の坏である。

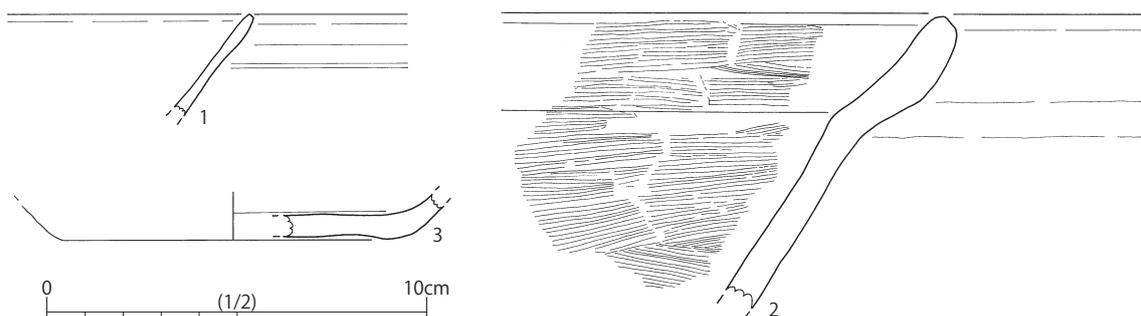
第9図1～10はSK21出土である。1～3は白磁碗である。1は素口縁、2は玉縁口縁の碗である。いずれも釉調はやや黄みを帯びており、胎土にもぶい橙色を呈する。二次被熱したものであろう。3はケズリ高台の底部で、外面は露胎である。4は白磁皿である。釉調は空色を帯びており、平底で底部外面にも施釉する。いずれも大宰府編年の白磁皿Ⅹ類の特徴を有しており、13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。5は陶器の壺底部である。平底で釉が薄くかかる。6は土師質の鍋の胴部下半である。7・8は糸切り底の土師器の坏、9は糸切り底の土師皿である。10は紡錘形を呈する土錘で下半を欠損する。（谷 直子）



第5図 HZK1904地点 SK07~09出土遺物



第6図 HZK1904地点 SP12・13・SK14・SP15・16平面・断面図



第7図 HZK1904地点 SK14出土遺物

ピット SP15（第6図）

径18cmの円形の小ピットで、確認面からの深さは8cmである。遺物は出土していない。

（齋藤瑞穂）

ピット SP16（第6図）

45m×30cmの楕円形ピットで、SK21を切る。確認面からの深さは13cmである。SP16からは図化し得ないが土師器片が出土した。

（齋藤瑞穂）

ピット SP17（第8図）

径32cmの円形ピットで、SK21を切る。確認面からの深さは24cmである。

（齋藤瑞穂）

第9図11はSP17とSK21出土が接合している。瓦器の小形三足羽釜である。有脚で口縁部が内傾し、外面に沈線が数条めぐり、京都など畿内産で12世紀後半から13世紀前半頃のものと考えられる（鋤柄1997）。

（谷直子）

ピット SP18（第8図）

56cm×50cmの円形ピットで、SK21を切る。確認面からの深さは39cmである。小片で図化し得なかったが、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類の青磁碗片、土師器片が出土した。

（齋藤瑞穂・谷直子）

ピット SP19（第8図）

32cm×26cmの円形ピットで、SK21を切る。確認面からの深さは33cmである。

（齋藤瑞穂）

第9図12・13はSP19出土の青銅製金具である。12は菊型の金具中央に孔が開いており、小型の釘隠しや飾り金具として使用されたものであろう。13は木の葉型の金具の中央に円形の孔が二つ開いたものである。

（谷直子）

土坑 SK20（第8図）

長軸67cm、短軸20cmの楕円形土坑で、SK21を切る。確認面からの深さは26cmである。SK20からは図化し得ないが土師器片が出土した。

（齋藤瑞穂・谷直子）

ピット SP22（第8図）

径44cmの円形ピットである。確認面からの深さは17cmである。遺物は出土していない。

（齋藤瑞穂）

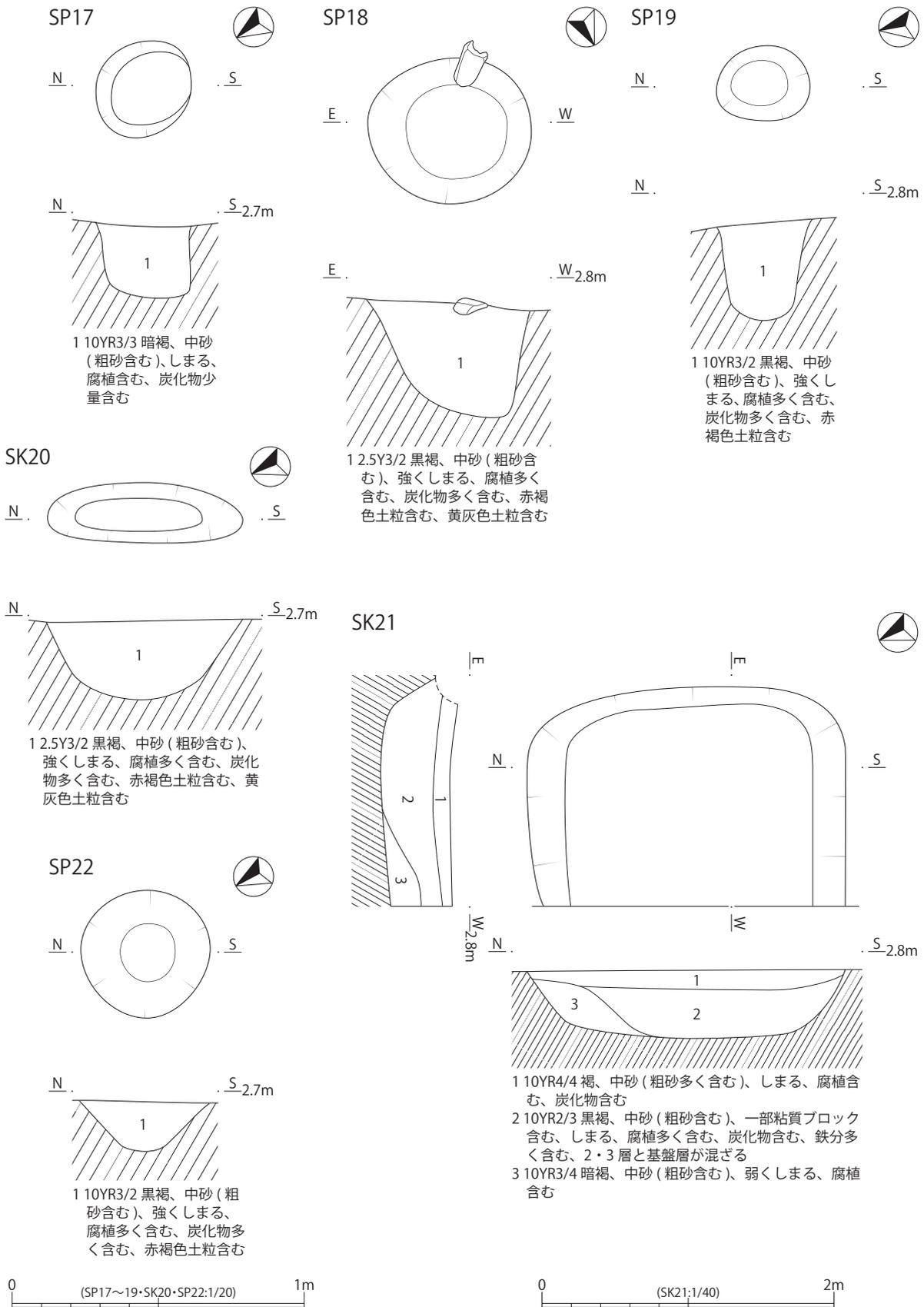
ピット SP23（第10図）

南北38cmのピットで、遺構の半分ほどを検出できた。確認面からの深さは28cmである。SP23からは図化し得ないが土師器片が出土した。

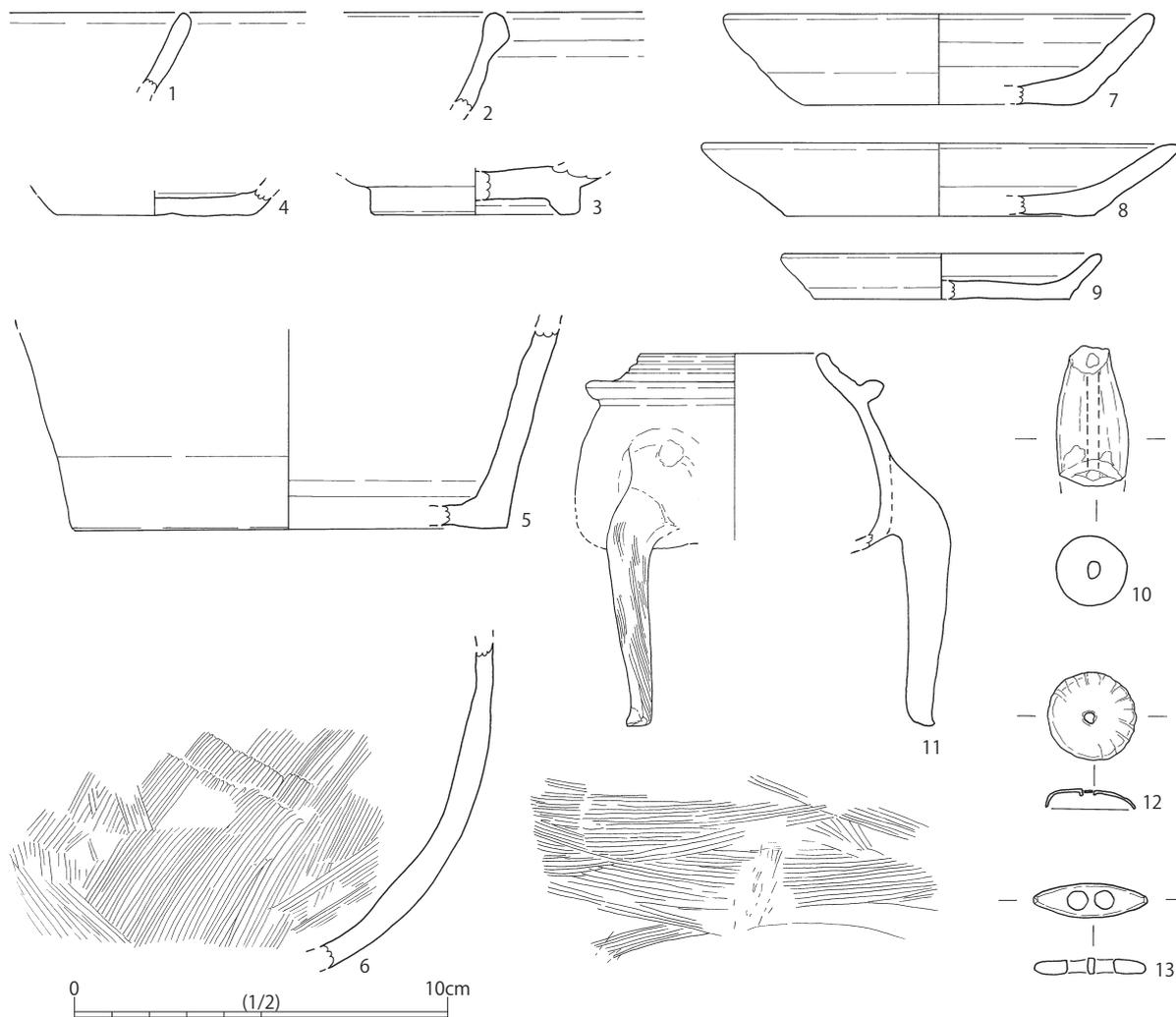
（齋藤瑞穂・谷直子）

ピット SP25・ピット SP26・ピット SP39（第10図）

SP26がSP25を切る。そうしてSP25はSP39を切るという。担当者の日誌に従っているが、根拠は



第8図 HZK1904地点 SP17~19・SK20・21・SP22平面・断面図



第9図 HZK1904地点 SK21・SP17・19出土遺物

書き記されていない。SP25は長軸60cm、短軸は40cmほどと推測される。確認面からの深さは25cmである。SP26は長軸45cm、短軸34cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは18cmである。

SP39は長軸38cm、短軸26cmの楕円形ピットである。確認面からの深さは12cmである。

（齋藤瑞穂）

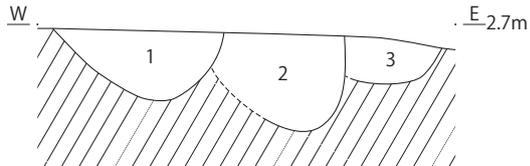
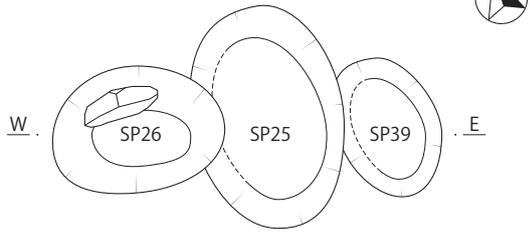
第11図2・3はSP25出土である。2は外反する口縁部を持つ青磁碗である。3は瓦質土器の搗鉢である。在地産の鉢にスリ目が入り「搗鉢」となるのは14世紀後半以降である（山本他 1997）。

第11図4はSP26出土の瓦質土器の搗鉢である。SP25出土の搗鉢と良く似る。14世紀後半以降の所産である（山本他 1997）。

SP39からは土師皿や瓦質土器の捏鉢が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。（谷 直子）  
土坑 SK27・土坑 SK28（第10図）

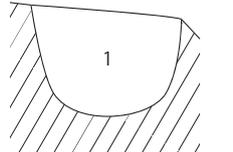
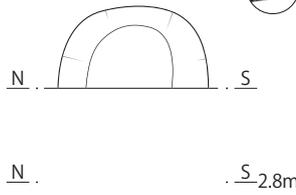
担当者の日誌に従うと、SP26がSK27を切り、SK27がSK28を切るといふ。根拠は書き記されていない。この土坑群では礫が検出されている。礫の1つはSP26に、1つはSK27にとまうらしい。SK27は短軸26cm、長軸は60cm余が想定されている。確認面からの深さは5cmほどである。SK28は径70cm程の土坑で、確認面からの深さは22cmを測る。（齋藤瑞穂）

SP25・26・39



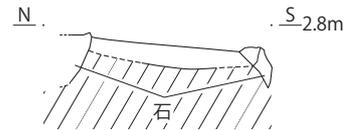
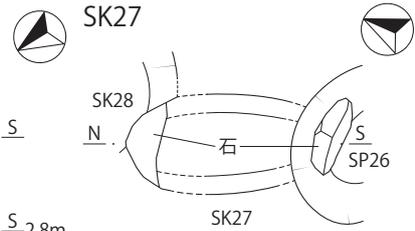
- 1 SP26 2.5Y3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む、黄灰色
- 2 SP25 10YR3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む、黄灰色
- 3 SP39 10YR3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む

SP23



- 1 10YR3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む

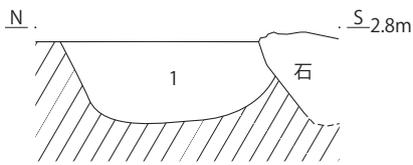
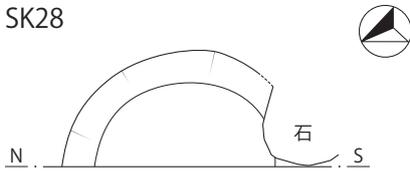
SK27



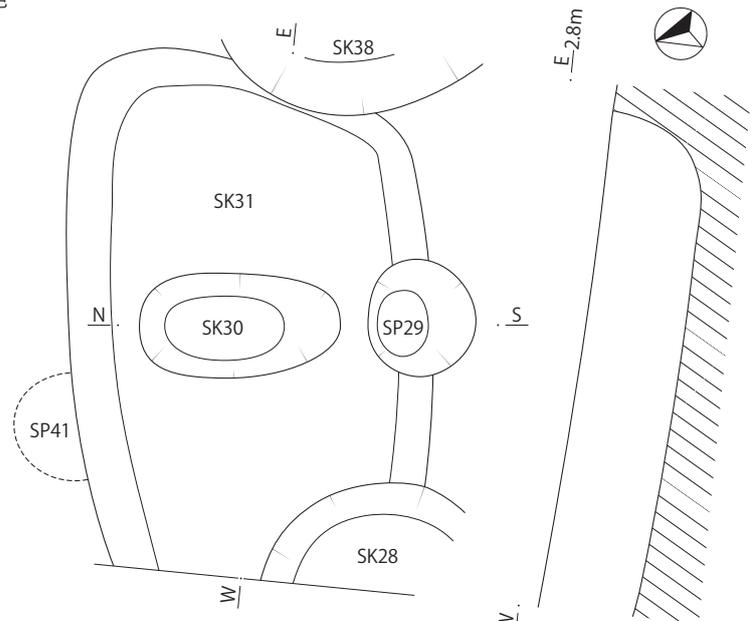
- 1 2.5Y3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む、黄灰色土粒含む

SP29・SK30・31・SP41

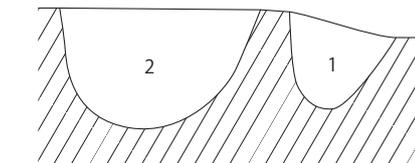
SK28



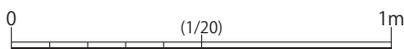
- 1 2.5Y3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む、黄灰色土粒含む



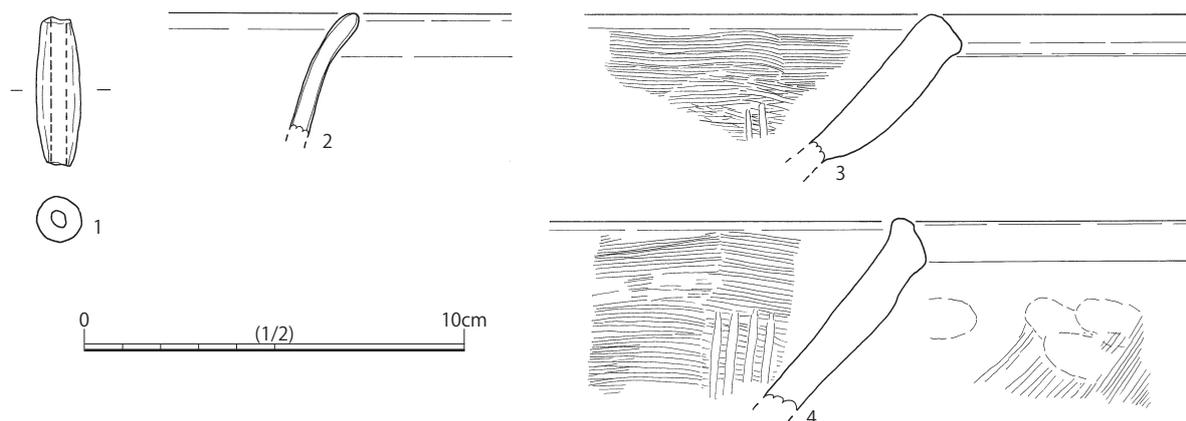
SP29



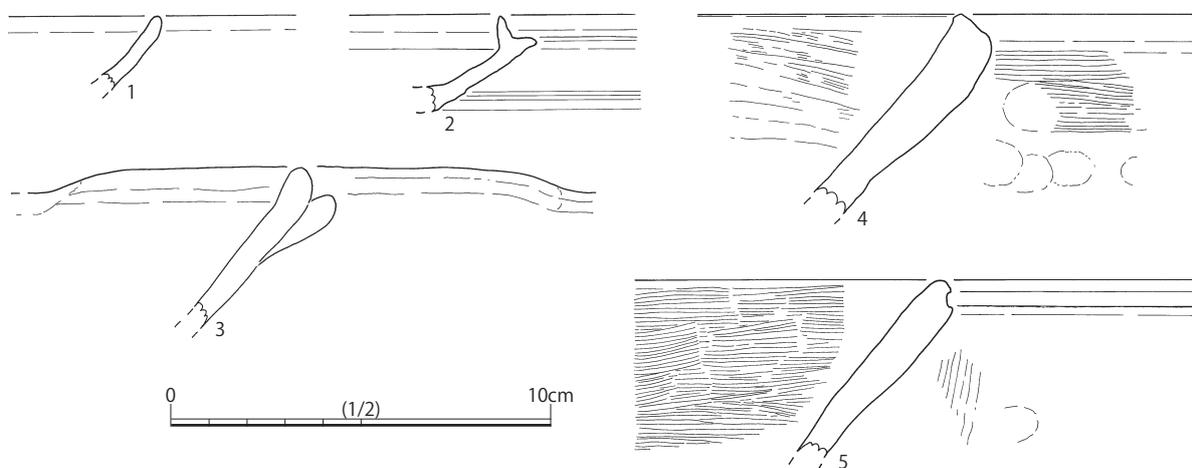
- 1 SP29 2.5Y3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む、黄灰色土粒含む
- 2 SK30 2.5Y3/2 黒褐、中砂(粗砂含む)、強くしまる、腐植多く含む、炭化物多く含む、赤褐色土粒含む、黄灰色土粒含む



第10図 HZK1904地点 SP23・25・26・SK27・28・SP29・SK30・31・SP39・41平面・断面図



第11図 HZK1904地点 SK27・SP25・26出土遺物



第12図 HZK1904地点 SK31・SP29出土遺物

第11図 1 は SK27 出土の土錘である。中央がやや膨らむ円筒形を呈す。

SK28からは図化し得ないが土師器片が出土した。

（谷 直子）

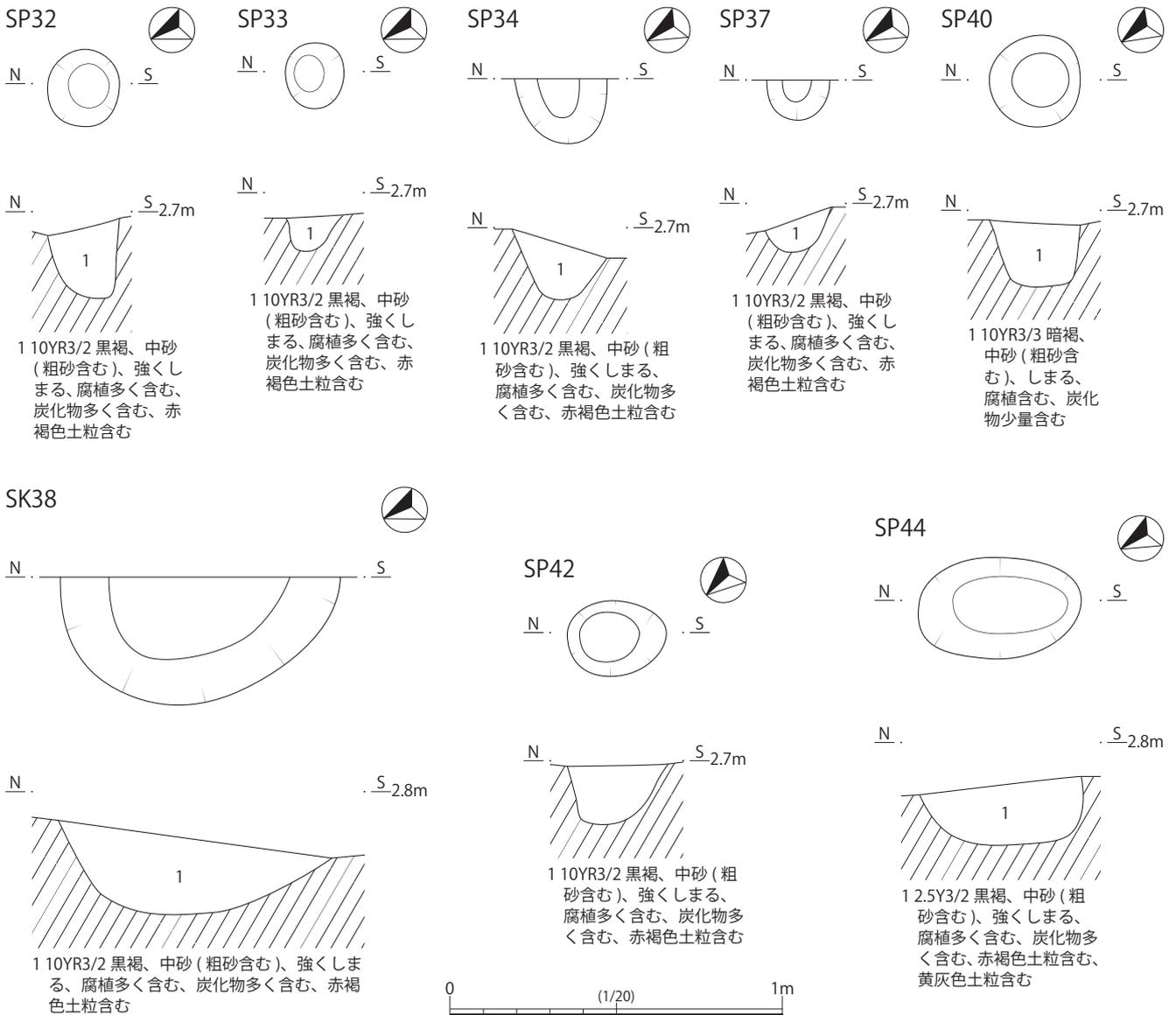
ピット SP29・土坑 SK30・土坑 SK31・ピット SP41（第10図）

SK31をSK28、SP29、SK30、38が切る。このSK31はSP41を切っているらしいが詳しくはわからない。SP29は、30cm×28cmの円形ピットである。確認面からの深さは23cmである。SK30は、長軸52cm、短軸27cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは32cmである。なお、SK28・SP29・SK30を埋めた土はことごとく同じ特徴をそなえていたと記録されている。しかし、これらの関係は今のところわからない。

（齋藤瑞穂）

第12図 1～4 は SK31 出土である。1 は白磁の皿である。口縁端部が口禿となり、大宰府編年の白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。2 は須恵器の坏である。TK209段階に相当する。3 は須恵質の捏鉢である。東播系須恵器と考えられ、11世紀中葉以降～13世紀前半までは主体となる。また、4 は瓦質土器の捏鉢で、13世紀以降、在地生産体制が確立して以降の所産である（山本他 1997）。

第12図 5 は SP29 出土の土師質の鍋である。口縁端部に沈線を施し、口縁部の屈曲はわずかである。15世紀後半以降の所産である（山本他 1997）。



第13図 HZK1904地点 SP32～34・37・SK38・SP40・42・44平面・断面図

SK30・SP41からは土師器が出土したが、いずれも小片で図化できない。(谷 直子)

ピット SP32・SP33・SP34・土坑 SK35 (第13図)

SK35を他のピット群が切る。SP32は24cm × 22cmの円形ピットである。確認面からの深さは22cmである。SP33は、20cm × 18cmの円形ピット。確認面からの深さは10cmである。SP34は南北28cmを測る。確認面からの深さは18cmである。(齋藤瑞穂)

SP32～34・SK35から一括で土師器の坏・皿・陶器の壺が出土したが、小片で図化し得ない。

(谷 直子)

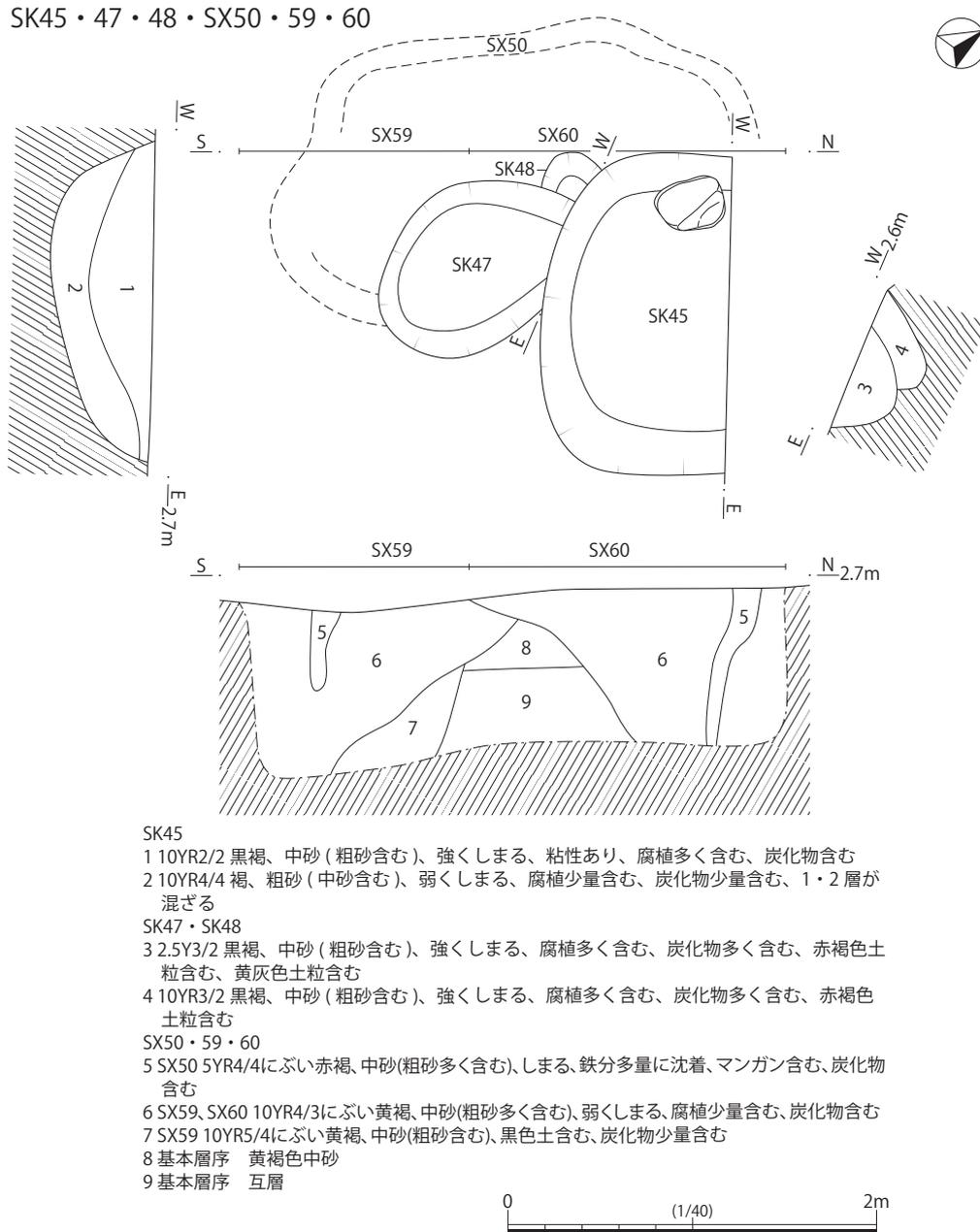
ピット SP36 (第18図)

南北30cmのピットである。確認面からの深さは5cmにすぎない。(齋藤瑞穂)

(齋藤瑞穂)

第21図1はSP36出土の青磁碗である。内面に細い片彫りで施文する。他に土師器片が出土したが、小片で図化し得ない。(谷 直子)

(谷 直子)



第14図 HZK1904地点 SK45・47・48・SX50・59・60平面・断面図

ピット SP37（第13図）

南北18cmのピットである。確認面からの深さは10cmである。

（齋藤瑞穂）

SP37からは土師器の坏や甕、白磁片が出土したが、小片で図化し得ない。

（谷直子）

土坑 SK38（第13図）

SK31を切る。南北84cmのピットであるという。確認面からの深さは24cmである。

（齋藤瑞穂）

SK38からは土師器の坏や瓦質土器の捏鉢・土錘が出土したが、いずれも小片で図化し得ない。

（谷直子）

ピット SP40（第13図）

径27cm、確認面からの深さ18cmの円形ピットである。

（齋藤瑞穂）

SP40からは土師器の坏が出土したが、小片で図化し得ない。(谷 直子)

ピット SP42 (第13図)

30cm × 23cm の円形ピットである。確認面からの深さは18cm を測る。(齋藤瑞穂)

SP42からは遺物は出土していない。(谷 直子)

ピット SP44 (第13図)

長軸48cm、短軸30cm の楕円形ピットで、SK21を切る。確認面からの深さは18cm である。

(齋藤瑞穂)

SP44からは土師器の坏や土師質の鍋が出土したが、小片で図化できない。(谷 直子)

土坑 SK45・土坑 SK47・土坑 SK48・「不明遺構 SX50」・「不明遺構 SX59」・「不明遺構 SX60」<sup>1)</sup>  
(第14図)

これらの遺構群で最も新しいのはSK45である。東西86cm で隅丸方形の土坑で、確認面からの深さは28cm である。SK47はこのSK45に切られ、他方SK48を切るという。SK47は東西60cm の土坑で、確認面からの深さは13cm を測る。SK48は深さ18cm である。「SX50」・「SX59」・「SX60」は不明遺構と評価され、SXの番号が与えられた遺構である。これらについては筆者の理解をSE55・「SK56」の項でまとめて述べることとする。(齋藤瑞穂)

第15図1～19・22はSK45出土である。1・2は青磁碗である。1は内面に片彫りで施文し、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である。2は外面に鎬蓮弁文を施し、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。1は12世紀の中頃から13世紀初頭、2は13世紀前半の所産である(宮崎編 2000)。3は土師器の高坏脚部である。時期は11世紀後半から13世紀前半と考えられる。4は土師質の鍋である。口縁部の屈曲はわずかで、外面にススが付着する。15世紀後半以降の所産である(山本他 1997)。5は土師質の捏鉢底部である。6・7は糸切り底の土師器の坏である。8・9は糸切り底の土師皿である。10は丸瓦である。外面に格子タタキを施す。11は瓦を転用した瓦玉である。12～17は土錘である。12～15は円筒形、16・17は紡錘形を呈する。18は石錘である。中央部に溝を切って紐かけとする。19は滑石製石鍋である。鑿が短く、加工痕が残る。

第15図20・21はSK47出土である。20は瓦質土器の捏鉢である。13世紀以降の所産である(山本他 1997)。21は土師質の鍋である。22は銅銭である。欠損しているが「宋」「通」と読める。

SK48からは土師器の坏や皿が出土したが、小片で図化し得ない。

第16図1～3はSX50出土である。1は青磁碗で、内面に片彫りで施文する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である。12世紀中頃から13世紀初頭の所産である(宮崎編 2000)。2は高台付の土師器の坏である。粘土紐を巻いて高い高台を作る。3は陶器の壺で、平底の底部外面に砂メアトが付く。

第16図4～6はSX60下層出土である。4は東播系須恵質の鉢である。11世紀中葉以降から13世紀前半までは主体となる(山本 1997)。5は糸切り底の土師器の坏である。6は糸切り底の土師皿である。(谷 直子)

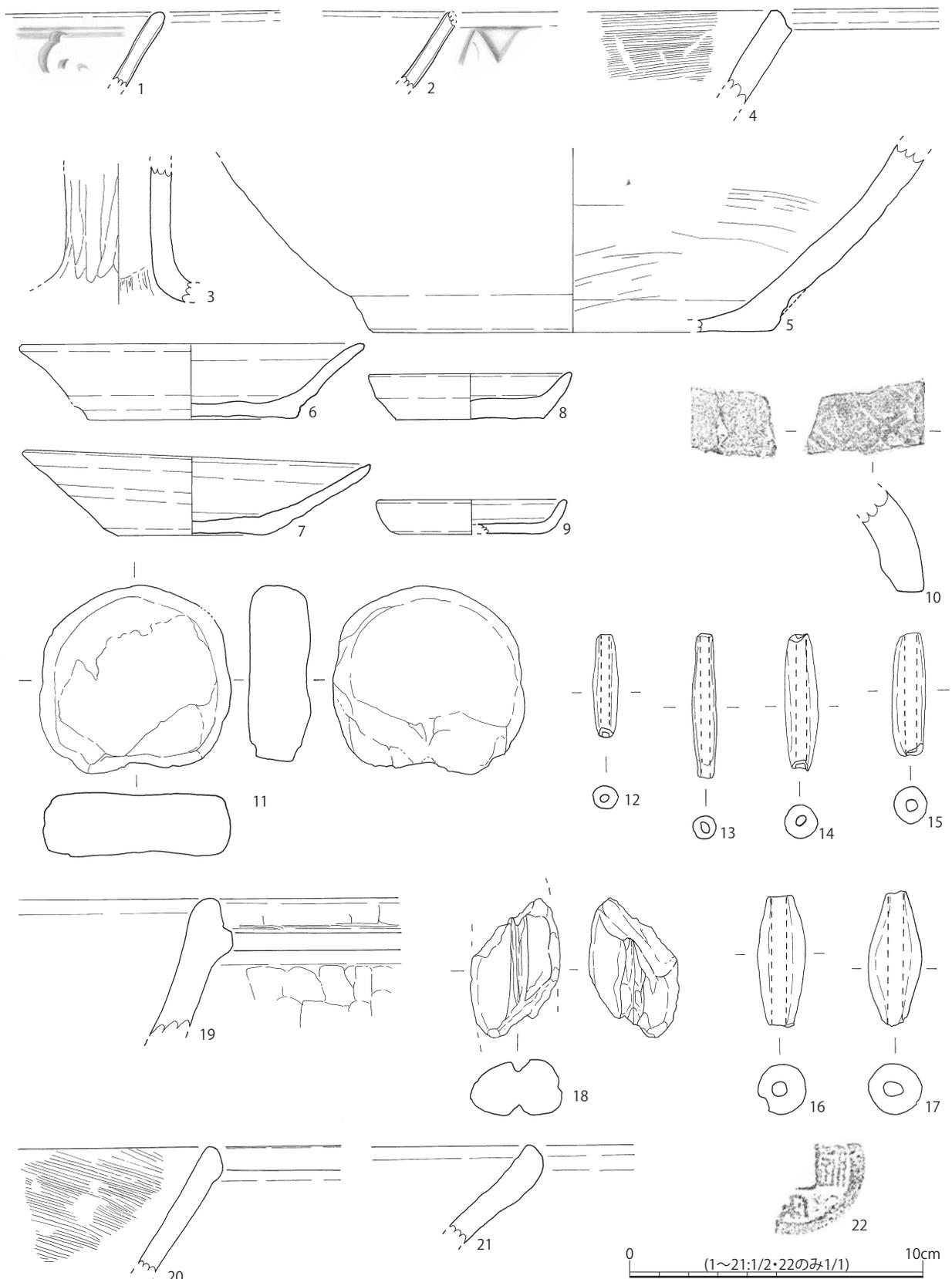
ピット SP46 (第1図)

残存80cm × 60cm の楕円形ピットである。一部を配管に切られている。

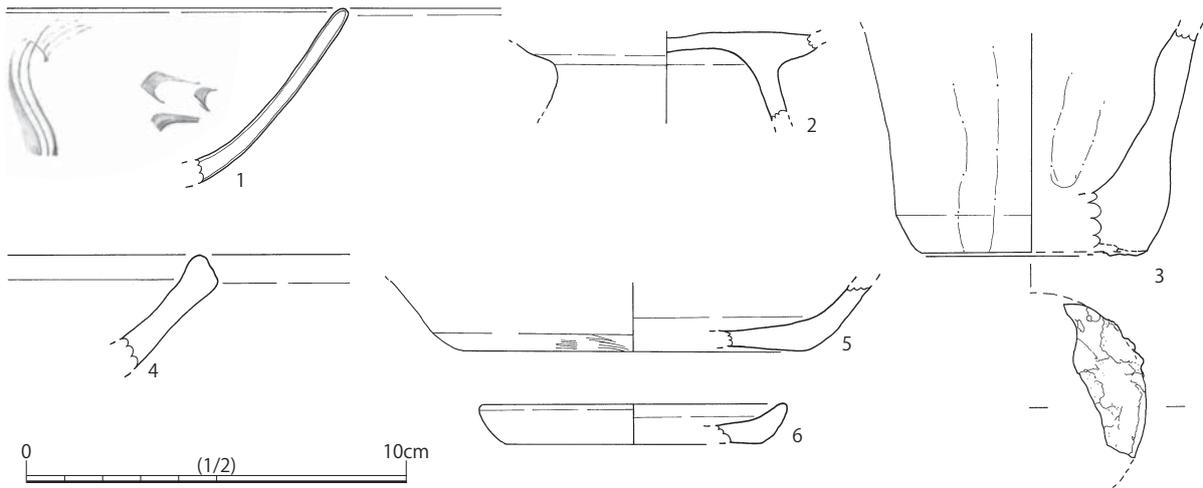
第17図はSP46出土遺物である。1は瓦質土器の捏鉢である。13世紀以降の所産である(山本他 1997)。2は糸切り底の土師器の坏である。3は糸切り底の土師皿である。4・5は丸瓦である。4は玉縁部分に固定用の孔がある。(谷 直子)

ピット SP51 (第18図)

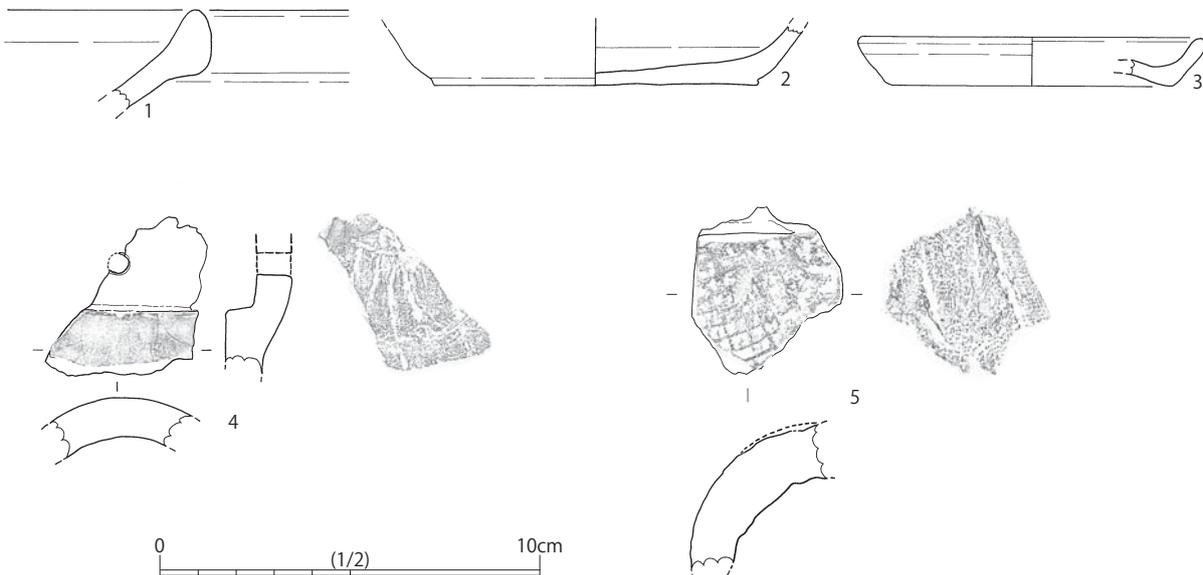
55cm × 47cm の円形ピットである。確認面からの深さは33cm である。(齋藤瑞穂)



第15図 HZK1904地点 SK45・47出土遺物



第16図 HZK1904地点 SX50・60出土遺物



第17図 HZK1904地点 SP46出土遺物

SP51からは土師器の坏が出土したが、小片で図化できない。

(谷 直子)

ピット SP52 (第18図)

27cm × 19cm の円形ピットである。確認面からの深さは23cm である。

(齋藤瑞穂)

SP52からは土師器片が出土したが、小片で図化できない。

(谷 直子)

土坑 SK53 (第18図)

一部のみ確認できた遺構で、東西幅は118cm 以上になる。確認面からの深さは14cm である。

(齋藤瑞穂)

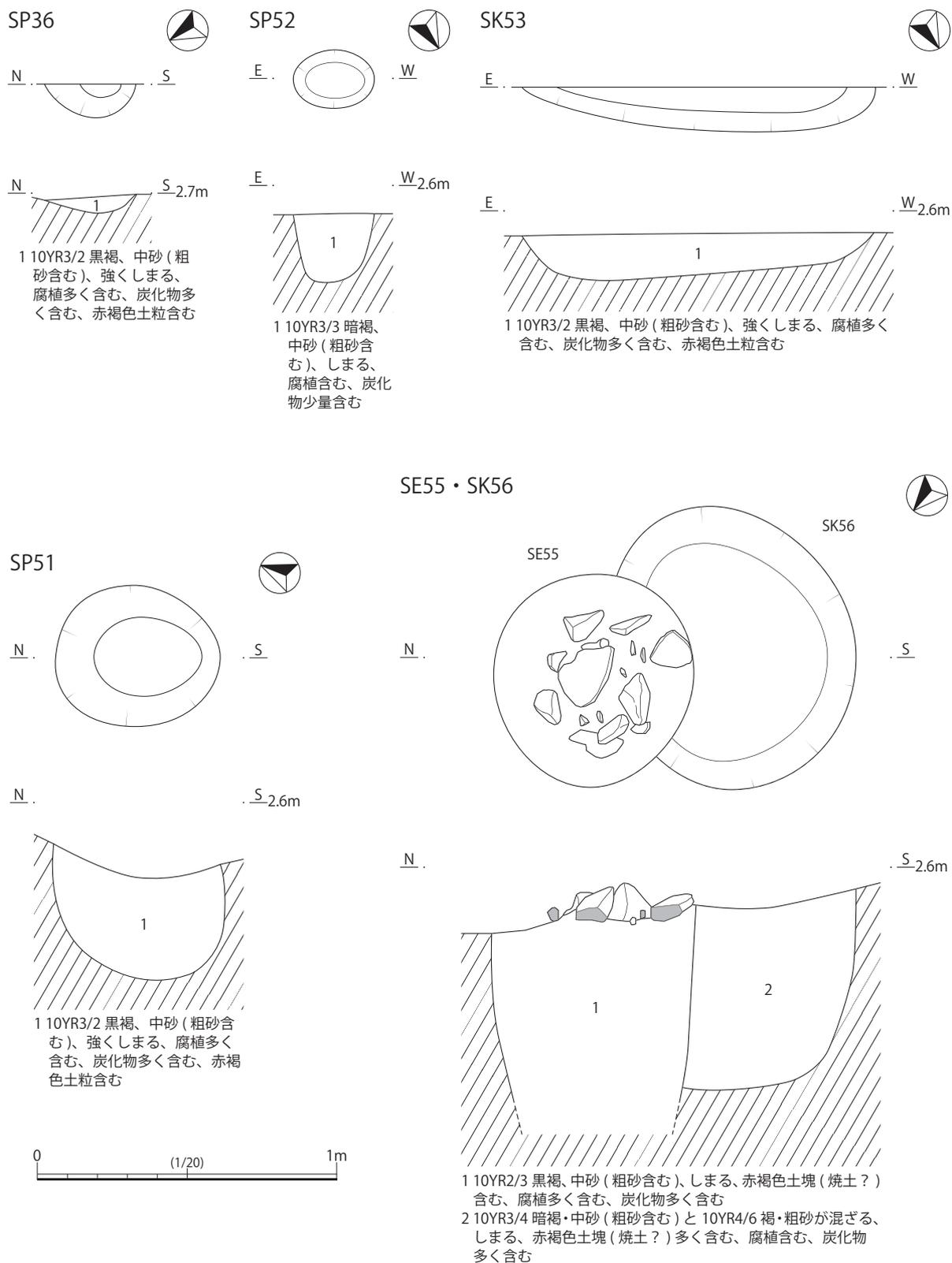
第21図 2 は SK53出土の糸切り底の土師皿である。SK53からは他に土師器の坏、瓦質土器の捏鉢、青磁片が出土したが、小片で図化できない。

(谷 直子)

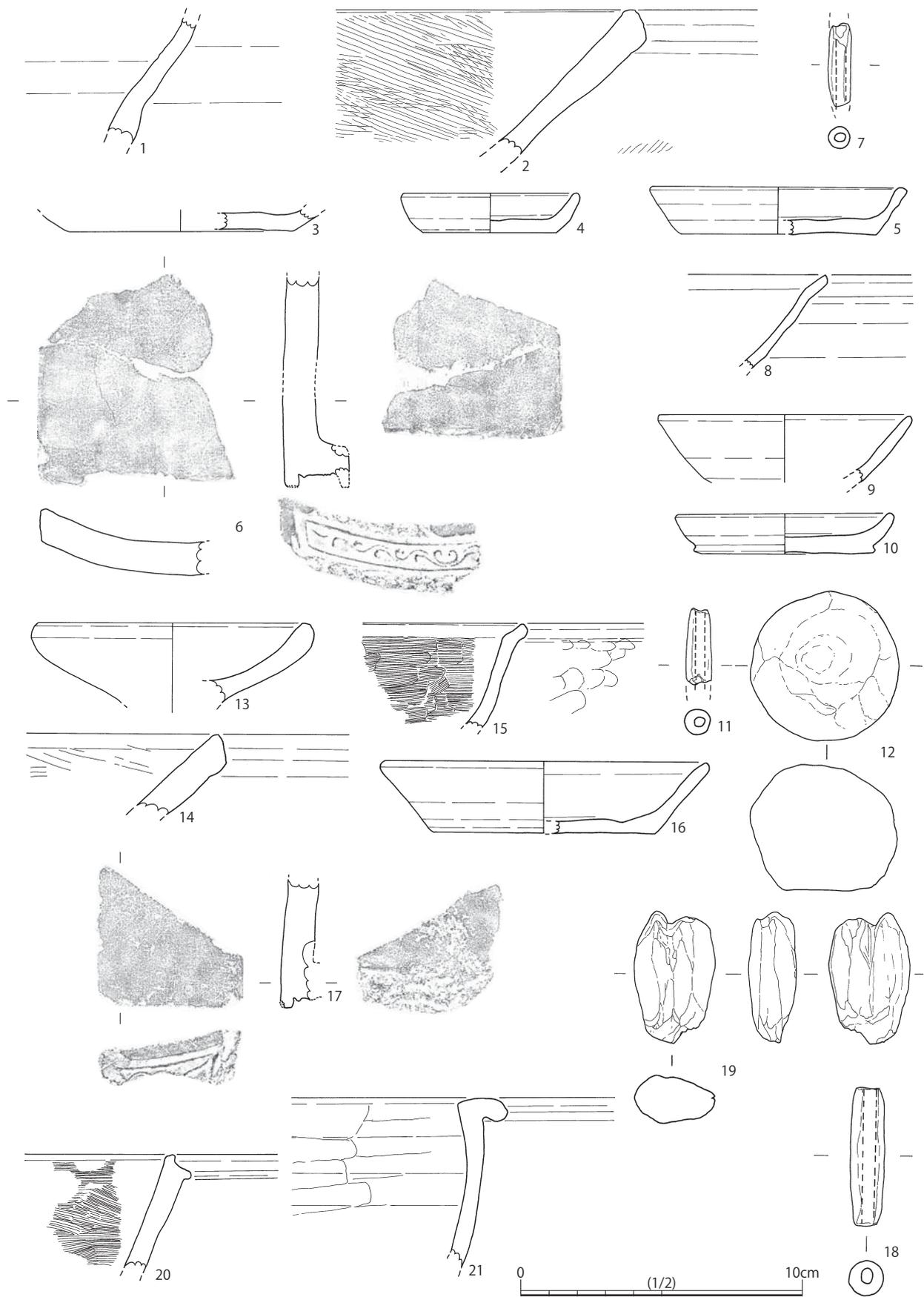
井戸 SE55・「土坑 SK56」(第18図)

切り合う2つの遺構で、SE55が新しく、SK56が古いという関係で記録されている。これは本 HZK1904 地点の調査担当者2名のうち一方の見解である。1つの見方として尊重し、先に提示しておきたい。

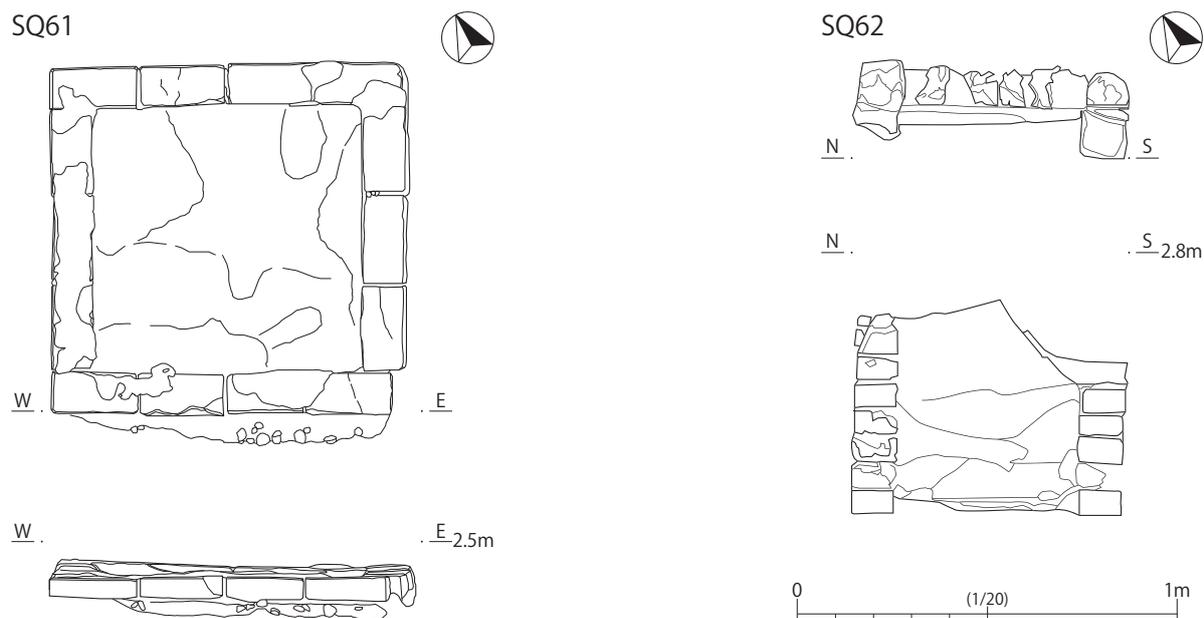
II HZK1904地点 (保存図書館地点)



第18図 HZK1904地点 SP36・51・52・SK53・SE55・SK56平面・断面図



第19図 HZK1904地点 SE55・SK56出土遺物



第20図 HZK1904地点 SQ61・62平面・断面図

ここでは合わせて、もう1人の担当であった筆者の理解も示しておこうと思う。

SE55は井戸とみてよい。井戸枠は径67cmほどで、確認面には礫が集中していた。他方、SE55に先行する土坑として記録された「SK56」を、筆者は井戸に先行する別の土坑でなく、SE55の掘方と理解した。SE55構築時に掘った大穴の南側が「SK56」にあたり、北側が上掲の「不明遺構 SX59」であると考え。 「不明遺構 SX60」は別の井戸の掘方の可能性が高く、この一帯に1基以上の井戸が作られたことを推知させる。輪郭の不鮮明な「不明遺構 SX50」が認識されているのは、筆者の理解の蓋然性を高めるものであろう。（齋藤瑞穂）

第19図1～7はSE55の1層出土である。1は陶器の鉢である。内外面とも施釉する。2は瓦質土器の捏鉢である。13世紀以降、在地生産体制が確立して以降の所産である（山本他 1997）。3は糸切り底の土師器の坏である。4・5は糸切り底の土師皿である。6は軒平瓦で、蓮華唐草文を施す。14世紀初頭から末期頃の所産である（松田他 2019）。7は円筒形の土錘である。

第19図8～10はSE55の4層出土である。8・9は白磁碗である。8は口縁部がゆるく外反し大宰府編年の白磁碗VまたはⅧ類である。いずれにせよ12世紀中頃以降増加する。9は小型の白磁碗である口縁端部が口禿となり、白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。10は糸切り底の土師皿である。

第19図11・12はSE55最深部出土である。11は円筒形の土錘である。12は石球で全体に楕円形に加工し、裏面は平坦に加工している。

第19図13～19はSE55出土である。13は陶器の小型碗である。全体に器壁が厚く口縁端部が肥厚する。14は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地化する（山本他 1997）。15は口縁部が屈曲する土師質の鍋である。13世紀後半から14世紀前半の所産である（山本他 1997）。16は糸切り底の土師器の坏である。17は軒平瓦である。残存状況は良くないが、蓮華唐草文を施す。14世紀初頭から末期頃の所産である（松田他 2019）。18は円筒形の土錘である。19は滑石製石錘で上下端に溝を彫りこんで紐かけとする。

第19図20・21はSK56出土である。20は瓦質土器の鍋である。21は土師器の甕である。口縁端部にハケメを施し、外面にススが付着している。

(谷 直子)

近代遺構 SQ61・SQ62 (第20図)

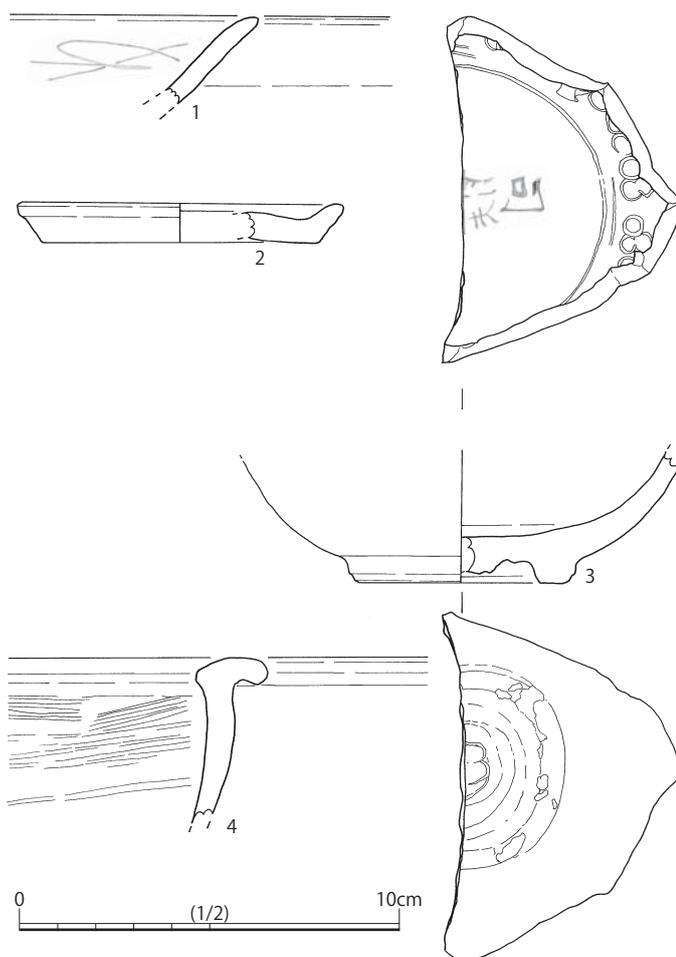
SQ61は九州大学設置後に設けられたマス。SQ62は建物の基礎部分にあたる。

(齋藤瑞穂)

遺構外出土遺物

第21図3は粉青沙器の碗である。内面に白色粘土の象嵌で圏線と円形の文様が施される。見込みに黒色粘土で「司膳」の銘が施される。文様は高麗系陶磁の伝統を引くもので、「司膳」銘の粉青沙器は慶尚北道尚州上板里窯跡で出土している。14世紀末から15世紀前半の所産である。4は土師器の甕である。口縁端部にハケメを施す。

(谷 直子)



第21図 HZK1904地点 SP36・SK53遺構外出土遺物

### 3. 小結

HZK1904地点の北側部分は、深い部分まで攪乱が及んでいた。中世遺物は近代の煉瓦や現代のゴミに混じって出土したものばかりである。一方、南側部分は配管等の隙間に、いくつかの遺構が辛うじて検出された。井戸は1基検出されている。他の地点の検出例と構造や年代を比較することで、この周辺での土地利用の実態により詳しく迫ることができるであろう。

(齋藤瑞穂)

註

1) 遺構番号24・43・49・54・58は欠番。SK57は現代の攪乱坑であったため、記載を省略した。

引用文献

鋤柄俊夫1997「畿内周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 157～193頁

張起熏2018「朝鮮前期陶磁器様式の展開における製作技術と形式の変化」『那覇市立壺屋焼物博物館紀要』第19号 那覇市立壺屋焼物博物館

松田麻里・桃崎祐輔2019「筑前・筑後・豊前・肥前」『中世瓦の考古学』中世瓦研究会編 237～254頁

宮崎亮一(編)2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編』太宰府市教育委員会

山本信夫・山村信榮1997「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 237～310頁

第1表 遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
3-1	SK01	土師質鍋			[2.7]	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR4/3褐 内: 7.5YR5/3にぶい褐	外: ナデ, スス付着 内: ハケメ	
3-2	SK01	土師器皿	(8.8)	(7.4)	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
3-3	SK01	土師器坏	(11.6)	(7.0)	1.8	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
3-4	SK01	土錘	4.4	0.9	1.0	緻密	良好	2.5YR5/6明赤褐	外: ナデ	3.17g
3-5	SK01	石錘	18.1	11.2	5.2				側面中央に打ち欠き	688.18g
3-6	SK02 (ベルト)	白磁皿			[2.2]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	大宰府編年 白磁皿IX類
3-7	SK02	白磁皿		(5.1)	[1.1]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
3-8	SK02	染付碗			[3.1]	緻密	良好	7.5GY8/1明緑灰	外: 施釉, 施文 内: 施釉	近世
3-9	SK02	土師質鍋			[3.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	外: 7.5YR4/3褐 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, ハケメ, スス付着 内: ハケメ	
3-10	SK02	土師質搥鉢			[4.9]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ 内: ハケメ	
3-11	SK02	土師器坏	(14.4)	(9.5)	2.1	緻密, 直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
3-12	SK02 (ベルト)	土錘	3.8	1.0	0.9	緻密	良好	7.5YR6/2灰褐	外: ナデ	3.10g
5-1	SK07	土師質鍋			[3.0]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 5YR6/6橙 内: 2.5YR6/6橙	外: ナデ 内: ハケメ	
5-2	SK07	土師器皿			1.2	緻密, 直径1~2mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 5YR7/6橙 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
5-3	SK07	土錘	[2.5]	1.4	1.3	緻密, 黒色粒子を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ	3.65g
5-4	SK08	瓦質土器捏鉢			[5.5]	緻密, 直径1mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 2.5Y8/2灰白 内: 2.5Y7/2灰黄	外: ナデ 内: ハケメ	
5-5	SK08	土師質捏鉢			[4.0]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	2.5Y8/2灰白	外: ナデ 内: ハケメ	
5-6	SK08	土師器皿		(6.2)	[1.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 10YR7/4にぶい黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
5-7	SK09	土師質鍋			[4.8]	緻密, 直径2mm弱の赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR4/1褐灰 内: 7.5YR8/4浅黄橙	外: ナデ 内: ハケメ, ナデ	
5-8	SK09	土師質鍋			[4.8]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR3/2黒褐 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, ハケメ, スス付着 内: ハケメ	
5-9	SK09	土師器皿	(8.1)	(7.0)	1.0	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
5-10	SK09	銅銭	2.3	2.4	0.1					嘉祐通寶
7-1	SK14	白磁碗			[2.7]	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外: 施釉, 口禿 内: 施釉	白磁碗 IX類
7-2	SK14	土師質鍋			[7.7]	緻密, 直径1~2mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 10YR1.7/1黒 内: 5YR3/2暗赤褐	外: ナデ, ハケメ, スス付着 内: ハケメ	
7-3	SK14	土師器坏		(8.9)	[1.2]	緻密, 直径1~3mmの砂粒・雲母片を含む	良好	外: 10YR7/3にぶい黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
9-1	SK21 b層ベルト	白磁碗			[2.1]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	2.5Y7/3浅黄	外: 施釉 内: 施釉	
9-2	SK21	白磁碗			[2.7]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外: 施釉 内: 施釉	
9-3	SK21	白磁碗		(5.6)	[1.2]	緻密	良好	外: 7.5Y8/1灰白 内: 10Y8/1灰白	外: ケズリ, 露胎 内: 施釉	
9-4	SK21 b層ベルト	白磁皿		(5.2)	[0.7]	緻密, 黒色粒子を含む	良好	7.5GY8/1明緑灰	外: 施釉 内: 施釉	白磁皿 IX類
9-5	SK21	陶器壺		(11.7)	[5.4]	緻密, 直径1mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: N5/ 灰 内: 2.5Y4/3オリーブ褐	外: 露胎 内: 施釉	
9-6	SK21 b層ベルト	土師質鍋			[9.0]	緻密, 直径1~5mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 5YR5/3にぶい赤褐	外: ナデ, ハケメ 内: ナデ, ハケメ	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
9-7	SK21	土師器 坏	(11.5)	(7.5)	2.5	緻密、直径1～5mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	10YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
9-8	SK21	土師器 坏	(12.8)	(8.4)	1.9	緻密、直径1～3mmの砂粒を多く含む	良好	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
9-9	SK21 b層ベルト	土師器 皿	(8.6)	(6.8)	1.2	緻密、直径1～2mmの砂粒を含む	良好	10YR5/2灰黄褐	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
9-10	SK21	土錘	[3.8]	2.0	1.9	緻密、直径1mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ	12.67 g
9-11	SP17+SK21 c層ベルト	瓦器 三足羽釜	(5.0)		10.5	緻密、雲母片を含む	良好	10YR8/3浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	畿内産
9-12	SP19西側 骨付近	青銅製 金具	1.2	1.2	0.5					
9-13	SP19西側 骨付近	青銅製 金具	1.0	3.0	0.4					3.92 g
11-1	SK27 (ベルト)	土錘	3.9	1.2	1.2	緻密、黒色粒子を含む	良好	2.5YR5/3にぶい赤褐	外：ナデ	5.0 g
11-2	SP25	青磁 碗			[3.3]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	
11-3	SP25	瓦質土器 搦鉢			[4.0]	緻密、直径1～3mmの砂粒・黒色粒子を含む	良好	外：2.5Y7/3浅黄 内：2.5Y8/2灰白	外：ナデ 内：ハケメ、スリ溝	
11-4	SP26 (ベルト)	瓦質土器 搦鉢			[5.0]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	2.5Y8/3淡黄	外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ、スリ溝	
12-1	SK31 (ベルト)	白磁 皿			[1.9]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：施釉、口禿 内：施釉	大宰府編年 白磁皿 IX類
12-2	SK31 (ベルト)	須恵器 坏			[2.6]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	N5/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
12-3	SK31 (ベルト)	須恵質 搦鉢			[4.2]	緻密、黒色粒子を含む	良好	N5/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	東播系
12-4	SK31 (ベルト)	瓦質土器 捏鉢			[5.2]	緻密、直径1～2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	外：N6/ 灰 内：2.5Y8/1灰白	外：ナデ、ハケメ 内：ハケメ	
12-5	SP29	土師質 鍋			[4.7]	緻密、直径1～2mmの砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	外：5YR4/2灰褐 内：5YR6/6橙	外：ナデ、ハケメ、スス付着 内：ハケメ	
15-1	SK45	青磁 碗			[2.5]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 I類
15-2	SK45	青磁 碗			[2.6]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉、施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 II類
15-3	SK45	土師器 脚部			[4.7]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ミガキ 内：ナデ	
15-4	SK45	土師質 鍋			[3.3]	緻密、直径1～2mmの砂粒を多く含む	良好	外：10YR4/1褐灰 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、スス付着 内：ハケメ	
15-5	SK45	土師質 捏鉢		(13.8)	[6.4]	やや緻密、直径1～4mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
15-6	SK45 a層ベルト	土師器 坏	(11.8)	(7.2)	2.6	緻密、直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：5YR7/4にぶい橙 内：5Y2/1黒	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底・灯明 皿
15-7	SK45+ SK45-a層	土師器 坏	11.9	5.0	3.0	緻密、黒色粒子を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
15-8	SK45	土師器 皿	(7.0)	(5.0)	1.1	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
15-9	SK45	土師器 皿	(6.6)	(5.0)	1.2	緻密、赤色粒子を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
15-10	SK45	丸瓦	[2.7]	[1.3]	1.5	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	表：2.5Y7/1灰白 裏：2.5Y7/2灰黄	表：格子タタキ 裏：ナデ	
15-11	SK45	瓦玉	6.5	6.5	2.1	やや緻密、直径1～4mmの砂粒を多く含む	良好	表：5Y6/1灰 裏：N8/ 灰白	表：ナデ 裏：摩滅	97.19 g
15-12	SK45	土錘	[3.5]	0.9	0.8	緻密	良好	5YR4/1褐灰	外：ナデ	2.40 g
15-13	SK45	土錘	4.9	0.9	0.7	緻密	良好	5YR5/3にぶい赤褐	外：ナデ	2.63 g
15-14	SK45	土錘	[4.7]	1.2	1.2	緻密、直径1～2mmの砂粒を含む	良好	2.5Y7/3浅黄	外：ナデ	5.89 g
15-15	SK45	土錘	4.2	1.2	1.3	緻密	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	6.38 g
15-16	SK45	土錘	4.5	1.6	1.7	緻密、直径1～2mmの砂粒を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	11.03 g
15-17	SK45	土錘	4.7	1.9	1.7	緻密、直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	2.5YR6/6橙	外：ナデ	11.70 g

II HZK1904地点（保存図書館地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
15-18	SK45	滑石製石錘	[4.8]	3.1	1.9					33.10g
15-19	SK45	滑石製石鍋			[4.6]		良好		加工痕あり，スス付着	
15-20	SK47	瓦質土器捏鉢			[4.3]	緻密	良好	外：N5/ 灰 内：N6/ 灰	外：ナデ 内：ハケメ	
15-21	SK47	土師質鍋			[3.4]	緻密，直径1～2mmの砂粒を多く含む	良好	外：N4/ 灰 内：N6/ 灰	外：ナデ 内：ハケメ，摩滅	
15-22	SK45	銅銭	[1.5]	[1.3]	0.1					「宋」「通」
17-1	SP46	瓦質土器捏鉢			[2.6]	緻密，直径1～3mmの砂粒を含む	良好	外：2.5Y7/1灰白 内：10YR7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
17-2	SP46	土師器坏		(8.6)	[1.5]	やや緻密，直径1～4mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
17-3	SP46	土師器皿	(9.1)	(7.4)	1.3	緻密，直径1mm大の砂粒・赤色粒子を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
17-4	SP46	丸瓦	[8.4]	[8.6]	2.6	緻密，直径1～3mmの黒色粒子を含む	良好	表：10YR6/1褐灰 裏：7.5YR5/3にぶい褐	表：縄目タタキ，ナデ 裏：布目	
17-5	SP46	丸瓦	[8.9]	[8.0]	2.7	やや緻密，直径1～8mmの砂粒を含む	良好	表：5Y5/1灰 裏：N5/ 灰	表：格子タタキ 裏：布目	
16-1	SX50	青磁碗			[4.6]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 I類
16-2	SX50	土師器高台付坏			[2.4]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ 内：ナデ	
16-3	SX50	陶器壺		(6.0)	[6.0]	緻密，黒色粒子を含む	良好	外：7.5YR3/2黒褐 内：2.5Y5/1黄灰	外：施釉，メアト 内：施釉	
16-4	SX60下層	須恵質鉢			[3.0]	緻密，黒色粒子を含む	良好	2.5Y6/1黄灰	外：ナデ 内：ナデ	東播系
16-5	SX60下層	土師器坏		(9.3)	[1.8]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕あり 内：ナデ	糸切り底
16-6	SX60下層	土師器皿	(8.1)	(6.8)	1.1	緻密	良好	外：5YR6/3にぶい橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-1	SE55 1層 遺物①	陶器鉢			[4.5]	緻密，直径1～3mmの砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	2.5Y4/3オリーブ褐	外：施釉 内：施釉	
19-2	SE55 1層 中層	瓦質土器捏鉢	(30.2)		[5.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：5Y7/1灰白 内：2.5Y5/1黄灰	外：ナデ 内：ハケメ	
19-3	SE55 1層	土師器坏		(7.8)	[0.8]	緻密，赤色粒子・雲母片を含む	良好	5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-4	SE55 1層 遺物②	土師器皿	(6.4)	(4.8)	1.5	緻密，直径1～3mmの砂粒・赤色粒子を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-5	SE55 1層	土師器皿	(9.1)	(7.0)	1.7	緻密，赤色粒子・雲母片を含む	良好	外：7.5YR7/2明褐灰 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-6	SE55 1層	軒平瓦	[15.0]	[11.8]	2.2	緻密，直径1～3mmの砂粒・黒色粒子を含む	良好	表：N7/ 灰白 裏：N6/ 灰	表：布目，コピキ 裏：ナデ	蓮華唐草文
19-7	SE55 1層上層	土錘	[3.0]	0.8	0.8	緻密，直径2mm大の砂粒を少し含む	良好	2.5YR6/6橙	外：ナデ	1.76g
19-8	SE55 4層	白磁碗			[3.4]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉	白磁碗 VかVIII類
19-9	SE55 4層	白磁小碗	(9.0)		[2.4]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉，露胎，口禿 内：施釉，露胎	白磁碗 IX類
19-10	SE55 4層	土師器皿	(7.8)	(6.4)	1.5	緻密，直径1～2mmの砂粒・赤色粒子・雲母片を含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-11	SE55 最深部	土錘	[2.7]	0.9	1.0	緻密	良好	2.5YR6/6橙	外：ナデ	2.15g
19-12	SE55 最深部	石球	5.3	5.2	4.5					153.40g
19-13	SE55	陶器碗	(10.1)		[2.8]	緻密	良好	外：7.5YR3/3暗褐 内：7.5YR2/1黒	外：施釉 内：施釉	
19-14	SE55 取り上げ No.11	瓦質土器捏鉢			[2.9]	緻密，直径1～2mmの砂粒を多く含む	良好	外：5Y6/1灰 内：N5/ 灰	外：ナデ 内：ハケメ	
19-15	SE55 取り上げ No.13	土師質鍋			[7.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を多く含む	良好	外：5YR5/1褐灰 内：5YR7/6橙	外：ナデ 内：ハケメ	
19-16	SE55 取り上げ No.10	土師器坏	(11.8)	(7.8)	2.6	緻密，赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
19-17	SE55 取り上げ No.15	軒平瓦	[10.1]	[9.9]	2.2	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒・黒色粒子を多く含む	良好	表: 5Y6/1灰 裏: 7.5Y5/1灰	表: ナデ 裏: ナデ	蓮華唐草文
19-18	SE55 取り上げ No.9	土鍾	5.0	1.3	1.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	5YR5/1褐灰	外: ナデ	7.51 g
19-19	SE55	滑石製石鍾	4.7	2.8	1.7					26.75 g
19-20	SK56	瓦質土器鍋			[4.0]	緻密	良好	外: 2.5Y6/1黄灰 内: 2.5Y7/1灰白	外: ナデ 内: ハケメ	
19-21	SK56	土師器甕			[5.0]	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, スス付着 内: 工具ナデ, ハケメ	
21-1	SP36	青磁碗			[2.4]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉, 施文	
21-2	SK53	土師器皿	(8.6)	(7.3)	1.1	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
21-3	攪乱坑一括-1	粉青沙器碗		(5.4)	[3.5]	緻密	良好	外: 2.5Y5/2暗灰黄 内: 2.5Y4/2暗灰黄	外: 施釉 内: 施釉, 施文	「司膳」銘あり
21-4	取り上げ No.1	土師器甕			[4.3]	緻密, 直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ, ハケメ	

### Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

#### 1. 調査の経緯

##### （1）調査の目的と経過

本調査地点は、九州大学箱崎キャンパス正門正面に位置する。キャンパス全体の発掘調査グリッドでは（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集I章第2図）、P～R37・38区にあたる。HZK1703（応力研生産研本館北）地点（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集第IV章）に北接し、HZK1904（保存図書館）地点（本報告書第II章）の東側に位置する。

HZK1703（応力研生産研本館北）地点の調査時（九州大学埋蔵文化財調査室報告第9集第IV章）には、土坑墓、石積み土坑、土坑、ピットなどの遺構とそれに伴う土師器、陶磁器、瓦、漁労具、銭貨などが出土し、箱崎遺跡に居住していた人々の居住環境や社会生活領域の一端が解明された。HZK1904（保存図書館）地点の調査時（本報告書第II章）には、南側で井戸、土坑、ピットなどの遺構とそれに伴う土師器、陶磁器、瓦、漁労具、銭貨、動物骨などが出土し、主に12～15世紀における箱崎遺跡の広がりや土地利用を検討するうえで重要な成果が得られた。こうした成果から、本調査地点においても中世の箱崎遺跡を解明するうえで重要な遺構・遺物の存在が想定された。

九州大学埋蔵文化財調査室は、令和3年2月26日付の福岡県教育委員会あて「九大統統第85号」にて、HZK2101地点の埋蔵文化財発掘届を提出した。これに対して、福岡県教育委員会より令和3年3月8日付「2教文第561号－7」にて許可通知があり、5月24日に現地調査を開始した。

本調査では、九州大学設置以降の造成土が堆積しているものの、遺構は良く残っていた。

調査成果の詳細については後述する。調査は順調に進み、令和4年3月11日に無事終了した。

##### （2）調査要項

遺跡名	箱崎遺跡
地点名	九州大学箱崎キャンパス HZK2101地点（正門前地点）
調査名	九州大学埋蔵文化財調査室調査番号：HZK2101 福岡市調査番号：2101、箱崎遺跡第117次調査
所在地	福岡市東区箱崎6-10-1
調査面積	1900㎡
調査原因	学術研究
調査期間	令和3年5月24日～令和4年3月11日
遺物量	コンテナ（内寸54cm×34cm×15cm）44箱
調査主体	九州大学埋蔵文化財調査室
発掘担当	齋藤瑞穂
調査作業員	浅田ふえ、穴井淳子、安部みゆき、有井みずえ、伊藤未紀、井上光江、岩田亜希子、浦崎てい子、奥敦子、春日ゆかり、門脇尚子、金子伸子、川口裕子、川崎美保子、岸本佐知子、城野勝彦、釘崎知子、高武奈美、古閑美智子、定永靖史、真田明、節政善憲、竹本葉子、田尻倫也、田代薫、田中裕子、手島由美、永濱弘子、仲前富美子、中村尚美、中山大輔、西浦喜久子、西田和廣、日並ゆみ子、深野人美、

藤田房佳、松尾美恵、松下さゆり、松下由希子、三辻香奈子、美濃洋子、見藤素子、  
宮元亜希世、武藤マリ子、守 治美、山下聡子、山田幹裕、吉田辰義、渡辺みゆき、  
遺物整理担当 谷 直子  
整理作業員 石井若香菜、板倉佳代子、伊藤未紀、岩田亜希子、尾座本洋子、小名真理子、  
甲斐千秋、檜本真理、門脇美徳、坂口由美子、白井恭子、田中えみ、田邊八子、  
富田文代、藤田房佳

(谷 直子)

## 2. 遺構と遺物

本調査区は面積が広く遺構数も559基に上るため、遺構観察表を掲載する(第1表)。各遺構の計測値や形状、図化し得なかった出土遺物については、遺構観察表を参照されたい。そのうえで特徴のある遺構や切り合いのある遺構、図を掲載した出土遺物については、調査区を3つのエリアに分け特徴を述べ、遺物観察表も掲載する(第2表)。(谷 直子)

### エリア1(南東部分)

ここでは、本書の编者によるエリア分けに従って、特筆すべき遺構の概要を述べる。

エリア1は本調査区の南東部分を指す。本エリアには、排水桝など九州大学設置以降に掘り込まれた攪乱坑が点在し、前近代の遺構のいくつかはこれらによって損なわれていた。

溝SD03、SD09a・09b、SD10、SD11、SD12は併行して南北に掘りこまれた細い溝である。断面はV字形で、SD09a・09bは切り合う関係にあり、09aが新しい。向きが若干東に振れたSD403・SD405もこれらと関係する可能性がある。畝間のようにもみえるが、性格を判定する決め手を欠く。なお、SD03では小さな貝ブロックが検出された。SK22も中央に貝ブロックが検出されている。SD03とは貝種が異なることを指摘しておく。

SK27は、白色の粘土を薄く貼った遺構である。ST33は墓坑である。覆土は2層に分かれる。1層上位の、確認面から少し下げたばかりの部分で青銅製の鈴や釘などが出土している。1層下端で歯・釘と完形の碗2例を検出した。

SK51・SK52はサイズの大きい土坑である。SK72は、SK52の底面でプランが初めて現れる。したがって、SP71とともにSK52に先行するらしい。SK70はSK51に先行する。SK51・SK52も前後する関係にあるとみられるが、両土坑が接するあたりにSK69が構築されたことで、その把握が難しくなっている。(齋藤瑞穂)

溝SD03(第3図) 平面長楕円形、断面V字状を呈する。貝のブロック(貝溜り)が検出された。

#### SD03出土遺物

第6図1～5はSD03出土である。1～3は青磁碗である1は櫛刀で体部内面を分割した文様で、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-4a類である。2は内面に片彫りで草花文を施し、龍泉窯系青磁碗I-2類である。1・2はいずれも12世紀中頃～13世紀初頭の所産である。3は外面に鎬蓮弁文を施し、龍泉窯系青磁碗II類で13世紀前半の所産である(宮崎編 2000)。4は褐釉陶器の水注の把手である。5は瓦質土器の碗で、内面にミガキを施す。

ピットSP06 楕円形を呈するピットである。

#### SP06出土遺物

第7図1はSP06出土の砥石である。楕円形を呈し、表面がややくぼむ。  
土坑SK08（第3図）楕円形を呈する土坑である。

#### SK08出土遺物

第7図2～5はSK08出土である。2は瓦質土器の碗である。外面にミガキを施す。3～5は糸切り底の土師器の坏である。

溝SD09・土坑SK35（第4・10図）断面はV字形で、SD09a・09bは切り合う関係にあり、09aが新しい。SD09とSK35はSD09をSK35が切っている。

#### SD09出土遺物

第6図6～12はSD09a出土である。6は白磁の壺胴部である。7は青磁碗で内面に片彫りで草花文を施し、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-2類である。8は青磁皿で見込みに片彫りで施文する。龍泉窯系青磁皿I-1b類である。7・8はいずれも12世紀中頃～13世紀初頭の所産である（宮崎編2000）。9は褐釉の陶器壺である。10は瓦質土器の釜である。口縁部下に短い鏝が付く。13世紀から14世紀前半の所産である（山本他1997）。11・12は糸切り底の土師器で、11は坏、12は皿である。図1-13はSD09b出土の青磁碗である。低い角高台で、釉調は茶色味を帯びる。龍泉窯系青磁碗I-1類で、12世紀中頃～13世紀初頭の所産である（宮崎編2000）。

溝SD10（第4図）断面はV字形の溝である。

#### SD10出土遺物

第6図14はSD10出土の糸切り底の土師皿である。

溝SD11（第4図）断面V字形の溝である。

溝SD12（第4図）断面V字形の溝である。

ピットSP13・SP14（第4図）SP13とSP14はSP13をSP14が切っている。

SP13からは図化し得なかったが、土師器の小片が出土した。

#### SP14出土遺物

第8図17・18はSP14出土である。17は白磁皿で見込み部分に蓮華のスタンプ文が施される。大宰府編年の白磁皿Ⅷ-2類で、12世紀中頃から12世紀後半の所産である。18は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗である。

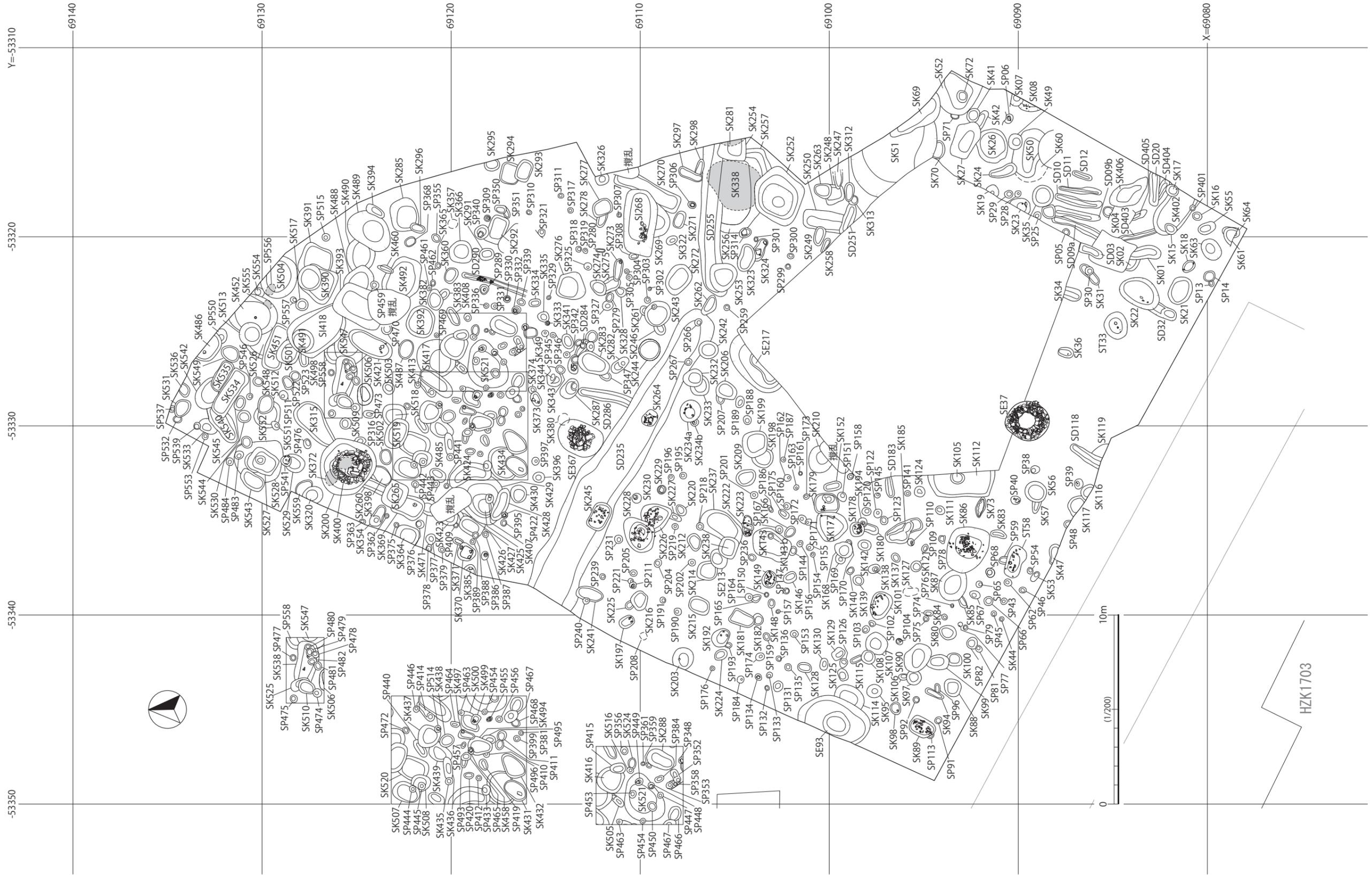
土坑SK15・SK17・ピットSP401・土坑SK402・溝SD403・SD404（第4・12図）SK15・SK17・SP401・SK402・SD403は、SD403をSK402が切り、SK402をSK15・SK17・SP401が切っている。SK17がSD404を切る。

#### SK17出土遺物

第8図1はSK17出土の滑石製石錘である。上下端に切れ込みを入れて紐かけとする。滑石製石鍋の再加工品で、外面にススが付着する。

#### 土坑SK18（第5図）

第8図2～4はSK18出土である。2は褐釉陶器壺である。短い口縁部が付く、肩が張る。大宰府編年の陶器壺Ⅳ-1類で、13世紀頃の所産である（宮崎編2000）。3は陶器の耳壺である。口縁は折り曲げて肥厚させ肩部に縦長の耳が付く。長胴であることや釉調なども大宰府編年の耳壺ⅩⅡ-2類に似る（宮崎編2000）。13世紀頃の所産であろう。4は糸切り底の土師器の坏である。

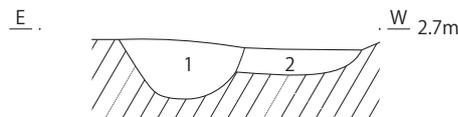
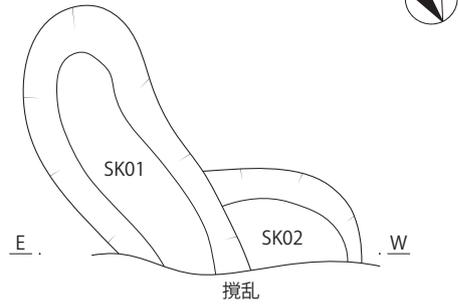


第1图 HZK2101地点遺構配置圖



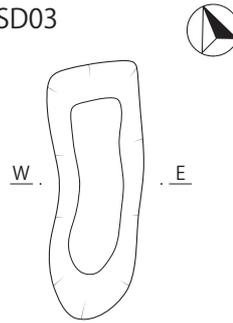
第2図 HZK2101地点遺構配置図

SK01・02



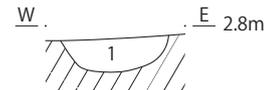
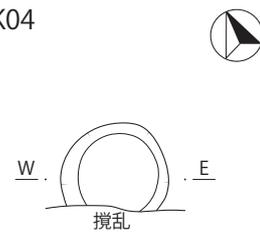
1 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$  の細砂・中砂に  $\phi 1/2 \sim 1\text{mm}$  の粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度  $14\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$   
 2 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/16 \sim 1/4\text{mm}$  の極細砂・細砂に  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が少量混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度  $10\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$

SD03



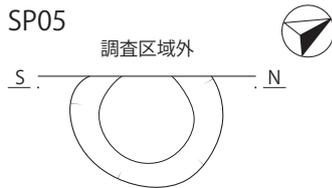
1 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂、しまりふつう、粘性なし、硬度  $14\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$

SK04

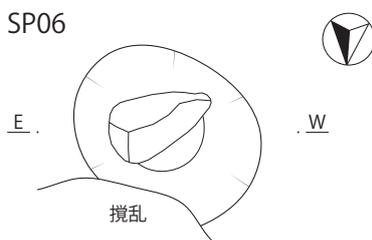


1 10YR3/2 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 2\text{mm}$  の中砂～極粗砂、 $\phi 3 \sim 5\text{mm}$  の炭化粒多い、波状痕なし、しまり強い、粘性なし、硬度  $24\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$

SP05

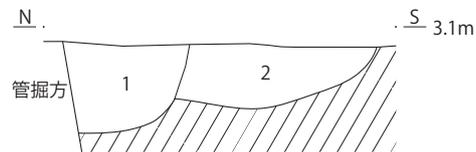
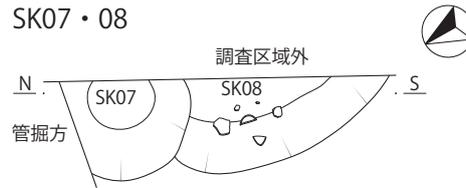


SP06

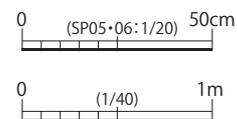


1 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂、しまり弱い、粘性なし、硬度  $18\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$

SK07・08

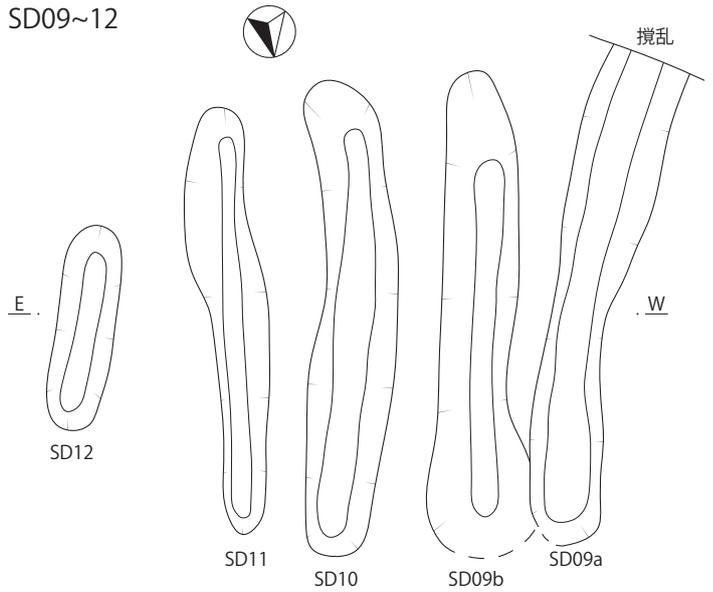


1 2.5Y3/2 黒褐、黄色味のある黒褐、炭化物混じる、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂に  $\phi 2\text{mm}$  以上の小礫が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度  $24\text{mm}10\text{kg}/\text{cm}^2$   
 2 10YR3/2 黒褐、同じ黒褐でも容易に判別できる、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$  の細砂・中砂に  $\phi 1\text{mm}$  以上の極粗砂・小礫が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$

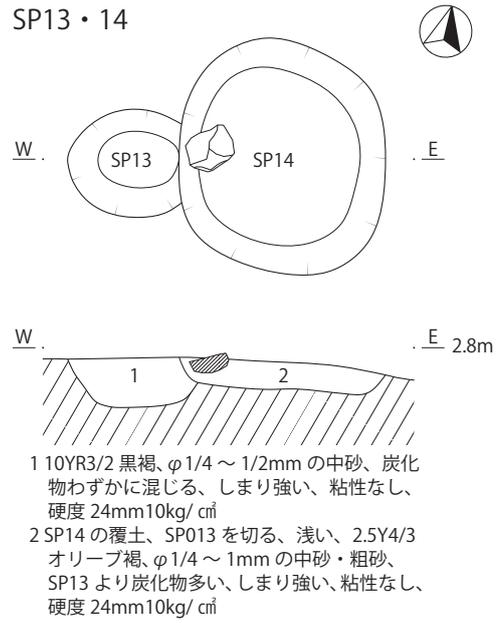


第3図 HZK2101地点南東エリア SK01・02・SD03・SK04・SP05・06・SK07・08平面・断面図

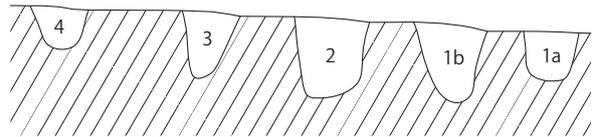
SD09~12



SP13・14

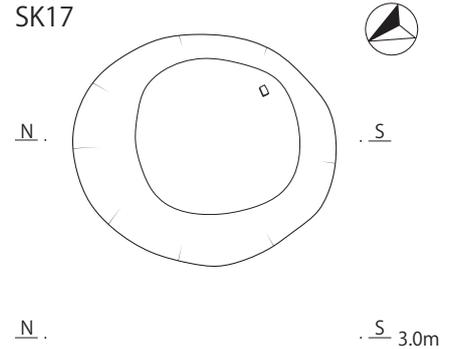


E . . . W 3.0m

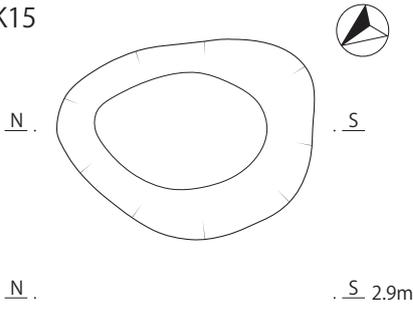


- 1a 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2$ mm の細砂・中砂に $\phi 1$ mm 以上の極粗砂が混じる、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 1b 10YR3/3 暗褐、1a と色味の違いはそんなにない、ただし 1b 層に若干炭化物が多い点、1a・1b 接合部セクションの溝底形態など
- 2 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mm の中砂に $\phi 1/2 \sim 2$ mm の粗砂・極粗砂が混じる、炭化物はみあたらない、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>から 1a→1b と判断した
- 3 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1$ mm の中砂・粗砂、しまり強い、粘性なし、硬度 26mm10-50kg/cm<sup>2</sup>
- 4 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1$ mm の中砂・粗砂、しまり強い、粘性なし、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>

SK17

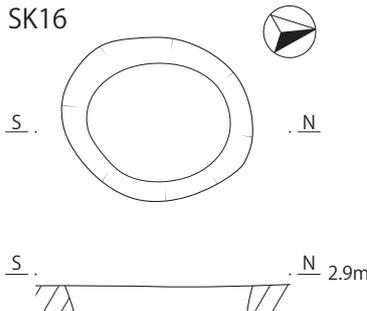


SK15

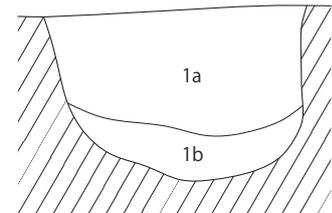


- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mm の中砂に $\phi 1 \sim 2$ mm の極粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>

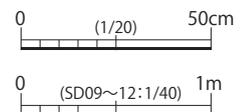
SK16



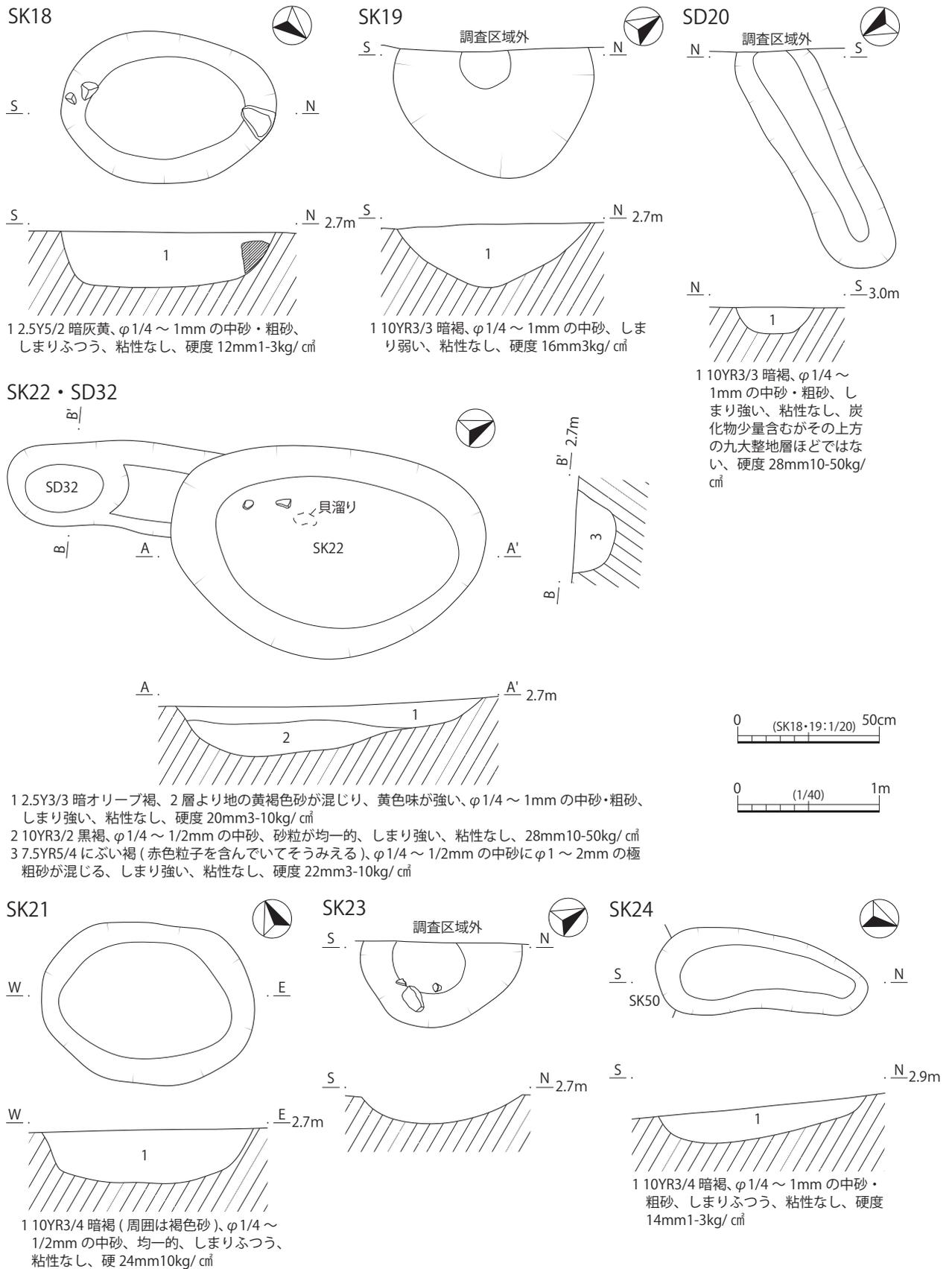
- 1 10YR3/2 黒褐ながらすこし明るめなイメージ、 $\phi 1/8 \sim 1/2$ mm の細砂・中砂に $\phi 1 \sim 2$ mm の粗砂が少量混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>  
土管状に掘られてしまったが、本来はもう少し椀状であろう



- 1a 10YR4/2 灰黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1$ mm の中砂・粗砂、遺物多い、しまり強い、粘性なし、炭化物なし、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 1b 10YR4/2 灰黄褐、 $\phi 1 \sim 2$ mm の極粗砂  
1a と違いを明瞭に見てとれる、evidence は地の砂層がブロック状に入るのと粒子が大きい、遺物は 1a 層が多い



第4図 HZK2101地点南東エリア SD09~12・SP13・14・SK15・16・17平面・断面図



第5図 HZK2101地点南東エリア SK18・19・SD20・SK21～24・SD32平面・断面図

土坑 SK21（第5図）

SK21出土遺物

第8図5～9はSK21出土である。5は素口縁の白磁碗で、内面口縁部下に沈線が1条めぐり、体部に櫛描文が見られる。6は口禿の白磁皿である。大宰府編年の白磁皿IX-1類で13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。7は白磁の合子蓋である。口縁端部はフリル状になり、外面頂部付近にレリーフ状の施文が見られる。8は瓦質土器の捏鉢である。9は糸切り底の土師器の坏である。土坑 SK22・溝 SD32（第5図） SK22とSD32はSK22がSD32を切っている。SK22の中央に貝溜りが検出された。

SK22出土遺物

第8図10はSK22出土の褐釉陶器壺である。口縁部は断面三角形で横に引き出す。茶褐色の釉を内外面に施す。大宰府編年の陶器壺II-1類で、13世紀の所産である。

土坑 SK23（第5図）

SK23出土遺物

第7図6は陶器の小型鉢で、口縁部は肥厚させ玉縁状に作り、体部はハの字状に開く。茶褐色の釉を薄く施す。大宰府編年の陶器小鉢VI-1類で、12世紀中頃～後半の所産である（宮崎編 2000）。

土坑 SK24・SK49・SK50（第5・10図） SK24・SK49・SK50はSK60をSK50が切り、SK50をSK49とSK24が切っている。

SK49出土遺物

第7図7・8はSK49出土である。7は口縁部と肩部に透かしのある瓦質土器の風炉である。8は糸切り底の土師皿である。

SK50出土遺物

第7図9・10はSK50出土である。9は低い角高台の青磁碗で、釉調は不透明で半濁化した灰青色を呈す。高台内と畳付の釉を拭き取り、拭き取ったところが暗赤色に発色する。龍泉窯系青磁碗IV類で、14世紀の所産である。10は平底の白磁皿で、内面は光沢のある灰白色の釉を施す。底部外面は露胎でやや赤みを帯びる。

SK60出土遺物

第7図11はSK60出土の滑石製石鍋である。小型で鉢形を呈し、全体に加工痕が明瞭でススが附着する。

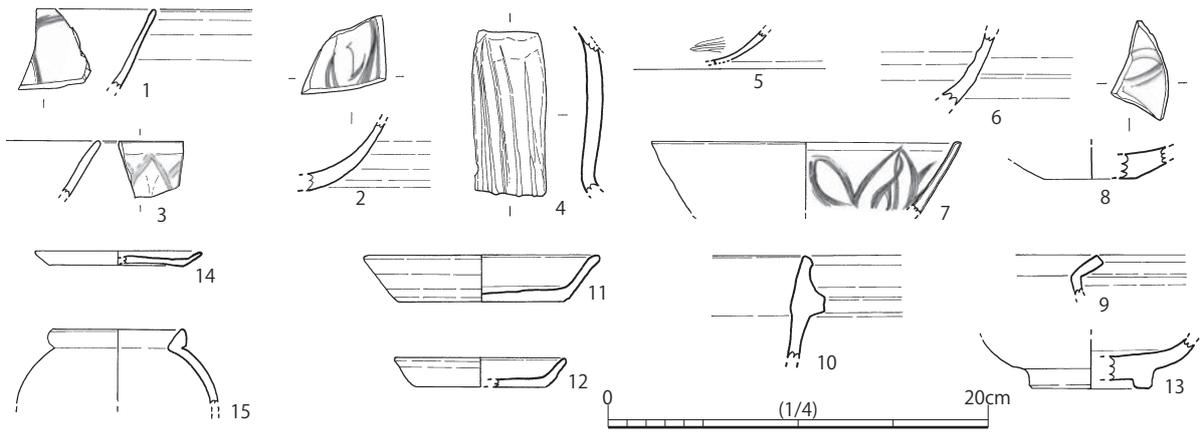
土坑 SK26・SK27・SK41・SK42（第9・10図） SK26・27・41・42は、SK26・41・42をSK27が切っている。SK27は白色粘土を薄く貼った遺構である。

ピット SP30・土坑 SK31（第9図） SP30とSK31はSK31をSP30が切っている。

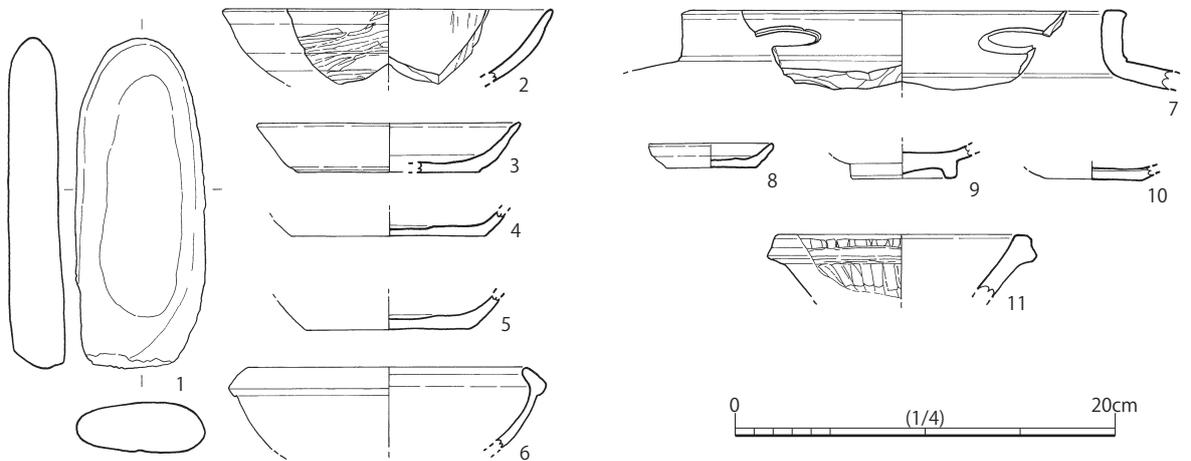
墓坑 ST33（第9図） 覆土は2層に分かれる。1層上位の、確認面から少し下げたばかりの部分で青銅製の鈴や釘などが出土している。1層下端で歯・釘と完形の碗2例を検出した。

ST33出土遺物

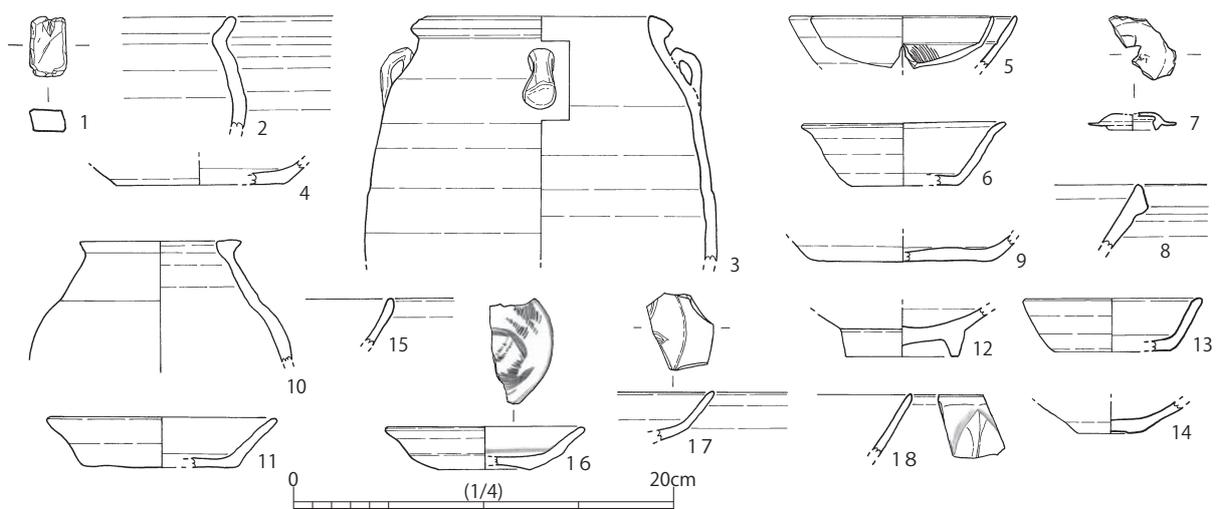
第13図1～3はST33出土である。1は青磁碗で、見込みに花文のスタンプを施し、外面は片彫りで口縁部に雷文、体部に蓮弁文を施す。文様は簡略化が著しい。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗IV類で14世紀の所産である。2は粉青沙器の小碗で、内外面に象嵌で施文する内面には「長興庫」の銘が見られる。15世紀の所産である（佐藤 2008）。3は糸切り底の土師器の坏である。



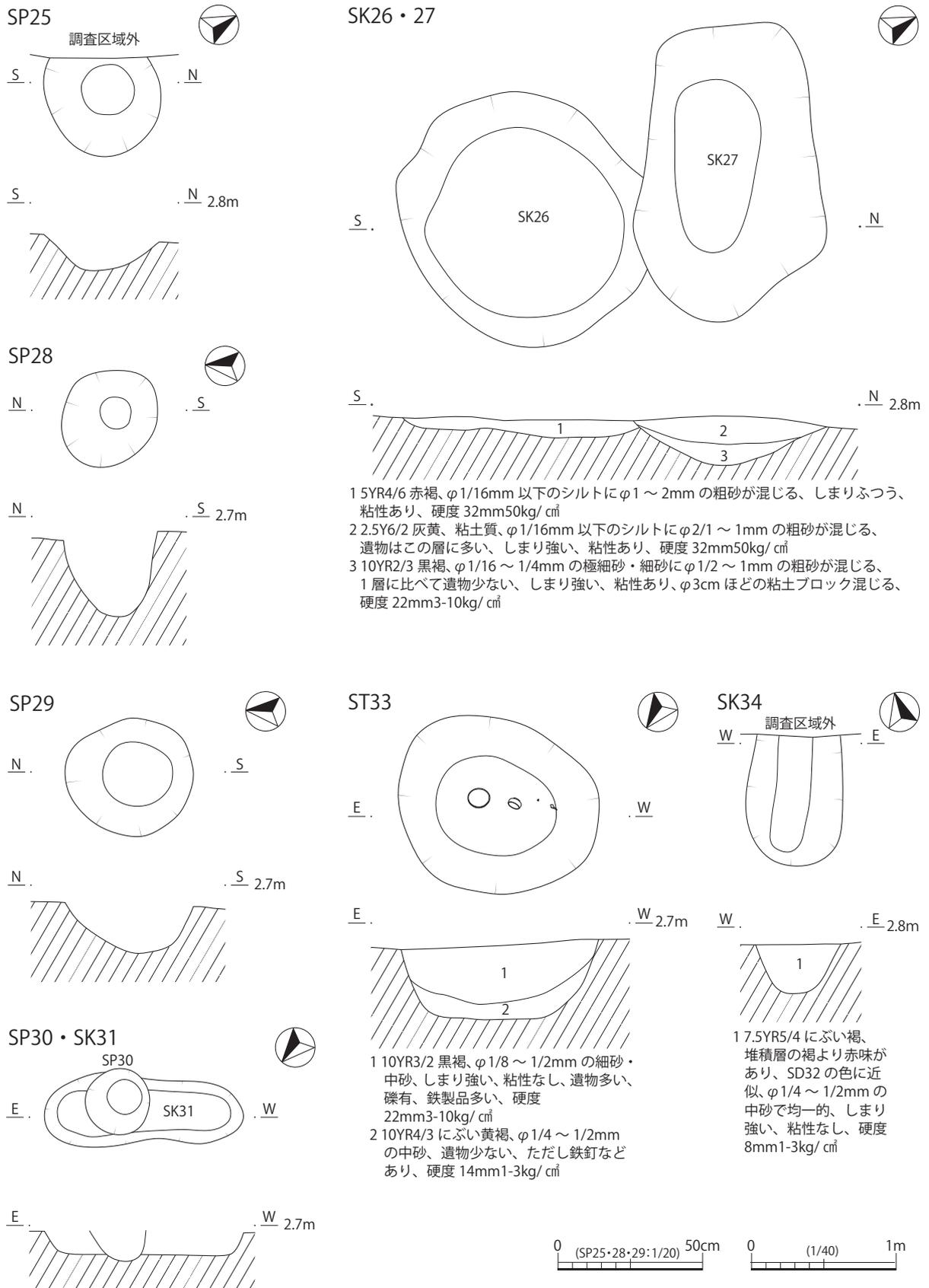
第6図 HZK2101地点出土遺物1



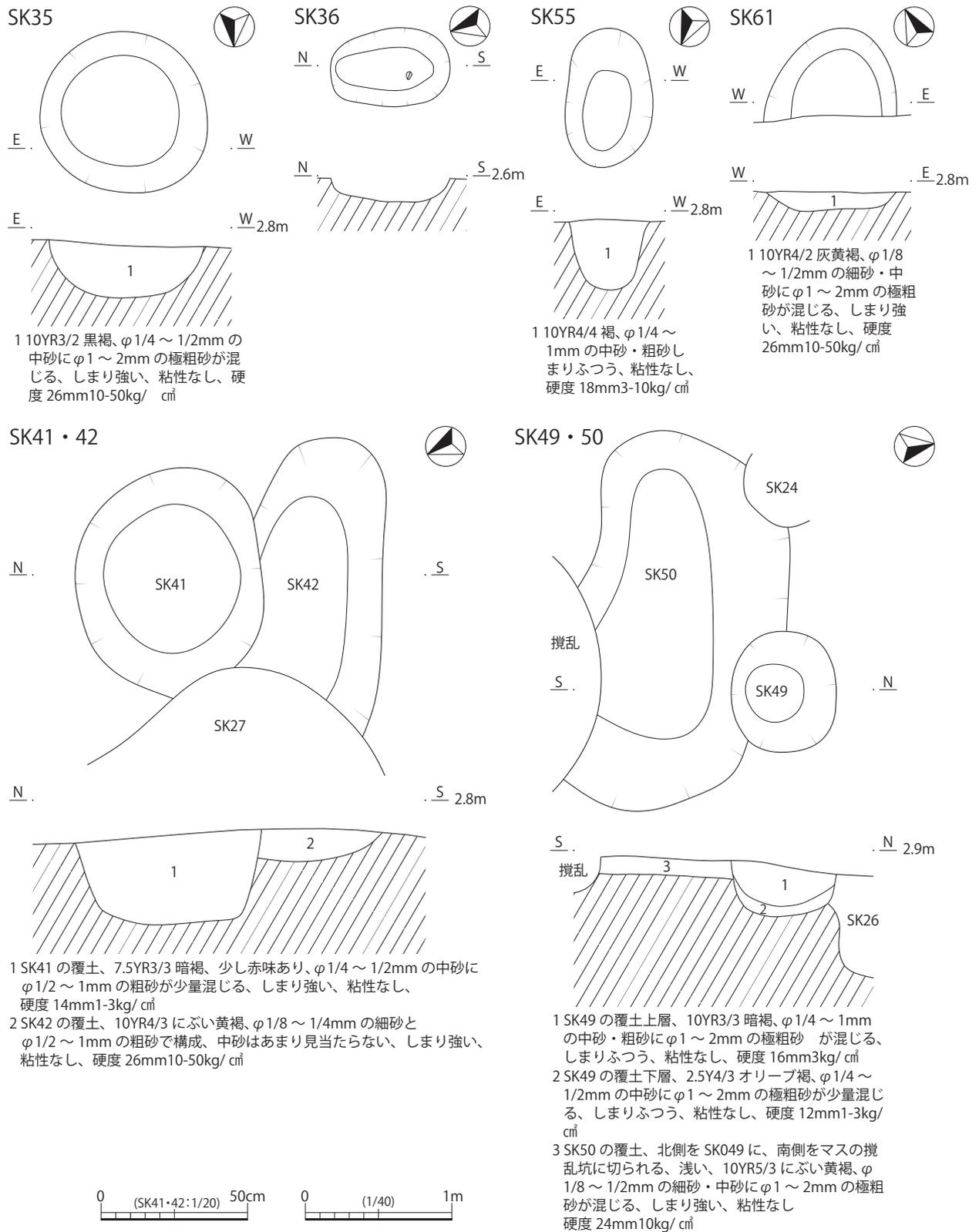
第7図 HZK2101地点出土遺物2



第8図 HZK2101地点出土遺物3

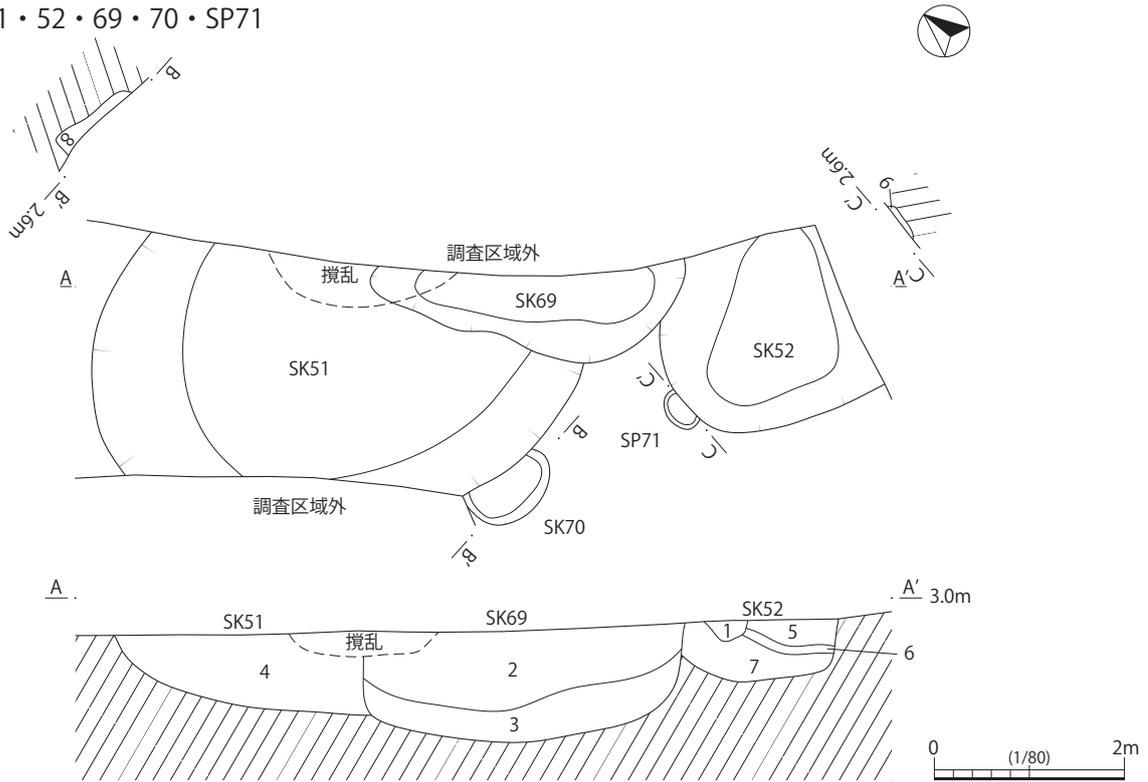


第9図 HZK2101地点東南エリア SP25・SK26・27・SP28～30・SK31・ST33・SK34 平面・断面図



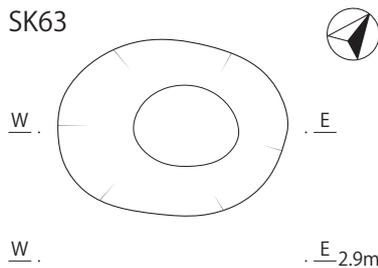
第10図 HZK2101地点南東エリア SK35・36・41・42・49・50・55・61平面・断面図

SK51・52・69・70・SP71



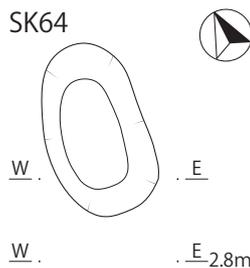
- 1 表土層、九大整地層、遺物も含まれるが上方にレンガ配管もみられる
- 2 SK69の覆土上層、10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂に $\phi 2\text{mm}$ の極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 3 SK69の覆土下層、10YR5/3 にぶい黄褐、 $\phi 1\text{mm}$ 以上の粗砂・極粗砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 10mm1kg/cm<sup>2</sup>
- 4 SK51の覆土、7.5YR3/4 黒褐、 $\phi 1/8 \sim 1/4\text{mm}$ の細砂・中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂が混じるが、概して粒は細かくそろっている印象、しまりふつう、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 5 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、 $\phi 1\text{cm}$ の粘土ブロックが混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1/16\text{mm}$ 以下のシルト質の砂に $\phi 1/2 \sim 1\text{mm}$ の粗砂が少量混じる、しまり弱い、粘性あり、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 7 2.5Y3/2 若干黄色じみた黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 8 SK70の覆土、10YR3/2 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂と $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 9 10YR3/1 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂、しまり強い、粘性なし、焼成粘土塊あり、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK63



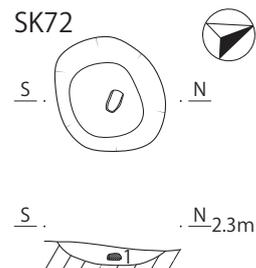
- 1 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂に $\phi 2\text{mm}$ 以上の小礫が混じる、しまりふつう、粘性なし、遺物多い、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 10YR4/6 褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK64

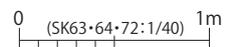


- 1 10YR4/6 褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

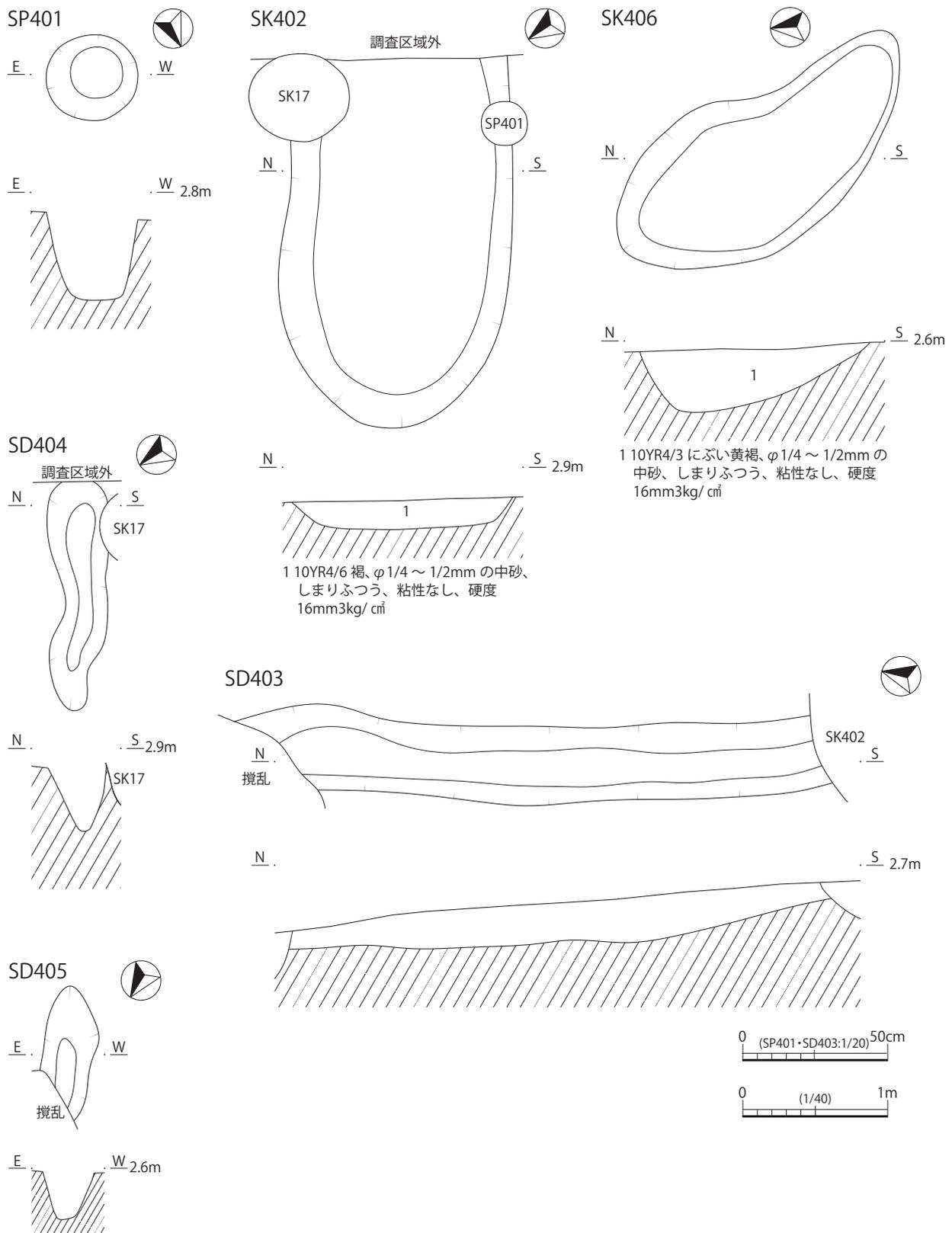
SK72



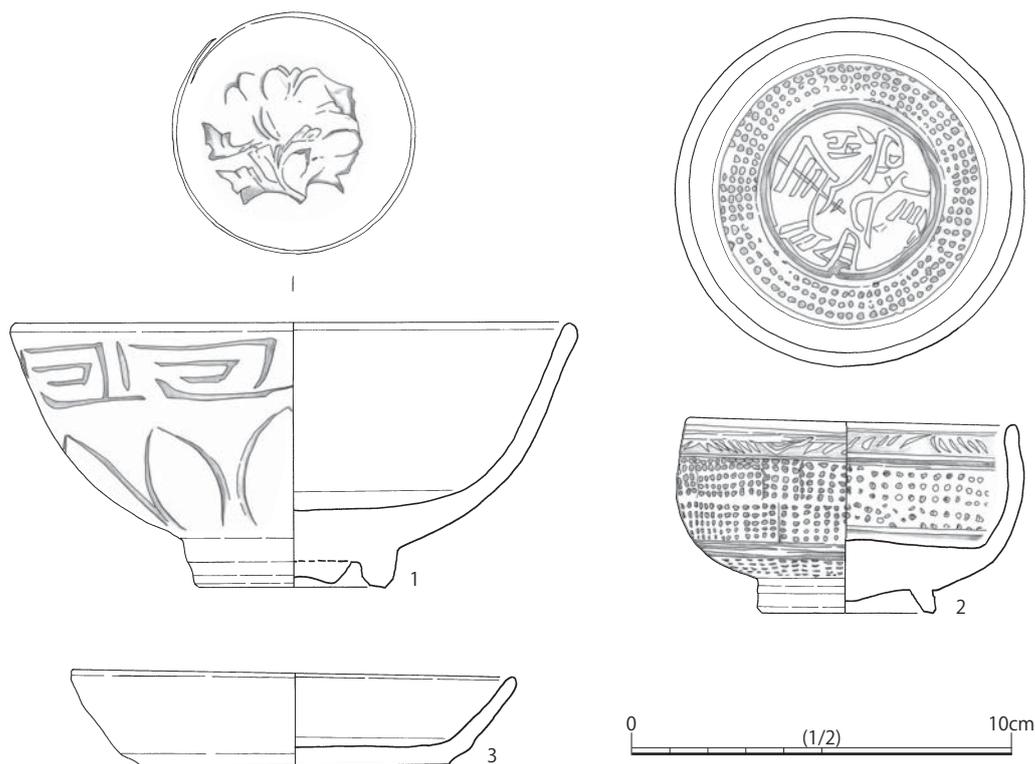
- 1 10YR3/2 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度 22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>



第11図 HZK2101地点東南エリア SK51・52・63・64・69・70・SP71・SK72平面・断面図



第12図 HZK2101地点東南エリア SP401・SK402・SD403~405・SK406平面・断面図



第13図 HZK2101地点出土遺物4

土坑 SK34（第9図）

SK34出土遺物

第8図11はSK34出土の土師器の坏である。底部は摩滅している。

土坑 SK36（第10図）

SK36出土遺物

第8図12～14はSK36出土である。12は高いケズリ高台の白磁碗である。大宰府編年の白磁碗V類である。13は口禿の白磁皿である。白磁皿Ⅸ-1類で13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編2000）。14は陶器碗の底部である。平底で外面は無釉、内面に黄褐色の釉がかかる。第94図1はSK36出土の熙寧元寶である。北宋銭で初鑄は1068年。

土坑 SK51・SK52・SK69・SK70・ピット SP71・土坑 SK72（第11図） SK51・SK52・SK69・SK70・SP71・SK72は、SK70をSK51が切り、SP71をSK52が切り、SK51・52をSK69が切り、SK52をSK72が切っている。つまり構築順はSK70・SP71→SK51・52→SK69・72となる。SK72は浅い遺構である。

土坑 SK61・SK64（第10・11図） SK61と64はSK64をSK61が切っている。

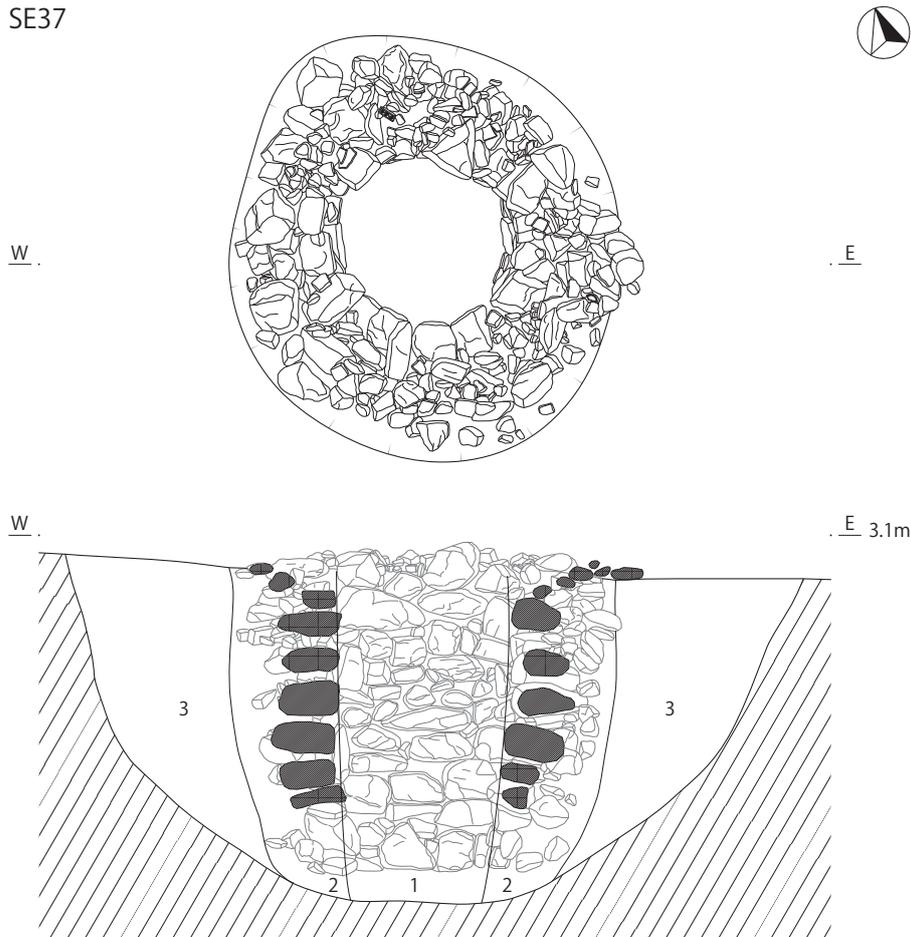
土坑 SK63（第11図） 楕円形を呈する。

SK63出土遺物

第8図15・16はSK63出土である。15は瓦質土器の碗で、口縁端部は黒色を呈す。16は青磁皿で、内面にジグザグの櫛点描文と片彫りの草花文を施す。同安窰系青磁皿Ⅰ-2b類で、12世紀中頃～13世紀初頭の所産である（宮崎編2000）

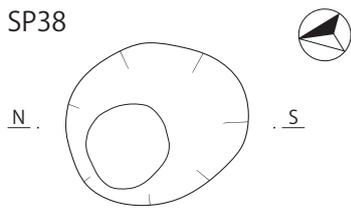
（谷 直子）

SE37

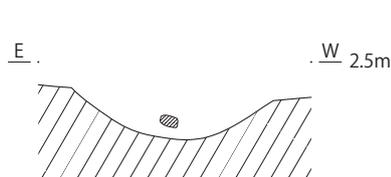
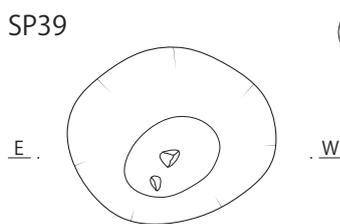


- 1 SE37の井戸内部、10YR2/2 黒褐、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂主体、わずかに $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度  $4\text{mm}0\text{-}1\text{kg}/\text{cm}^2$
- 2 SE37の石組部分、10YR3/3 暗褐、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂と $\phi 1/8 \sim 1/4\text{mm}$ の細砂が目立つ、しまり強い、粘性なし、硬度  $18\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$
- 3 SE37の掘方、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂と $\phi 1/8 \sim 1/4\text{mm}$ の細砂が目立つ、しまりふつう、粘性なし、硬度  $24\text{mm}10\text{kg}/\text{cm}^2$

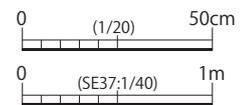
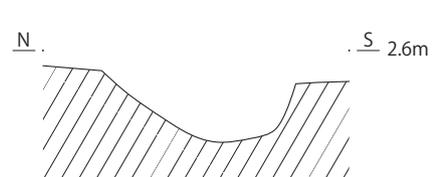
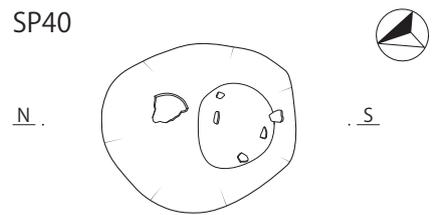
SP38



SP39



SP40



第14図 HZK2101地点南西エリア SE37・SP38～40平面・断面図

## エリアⅡ（南西部分）

井戸 SE37は表土を剥いだ時点で把握された検出した石組井戸である。井戸枠部分が半円状に検出されたことを受け、北側に拡張してまずはサイズの確定に努めた。そうして、内部を掘り下げていくと、石組みに使用している角礫よりもやや細かい礫が詰まっていた。この時点までに出土した遺物を検出面（1面）と呼んでいる。この面での出土品は、井戸廃絶後に投棄されたものと判断してよい。

それらを外していくと、井戸内部の大部分を塞ぐ大石が2つ検出された。ここを2面と呼び、これらの大石の直上出土品を2面直上遺物として取り上げている。これらもまた井戸廃絶後に投棄されたものである。その2石の下には同程度の大石3石が詰まり、さらにその3石の下にもまた大石の重なりが見てとれた。それぞれを3面・4面と呼び、大石－大石間遺物を分けて取り上げているが、ただし大石の岩種に違いは見られない。サイズもよく似通う。4面の大石を除くといよいよ覆土は湿り気を帯びる。4面の石の下には梵字を刻んだ石塔の部材などがあり、それらのほかは浄水を目的とする小砂利が詰まっていた。この面を5面と呼ぶ。5面の出土品は、使用時～廃絶直前の年代に属する遺物であり、この井戸の年代を示すものであろう。

2面・3面・4面と呼んで整理した大石類は、上述のとおり岩種やサイズに共通性を認めうる。これからすると、大石の投棄は一度の機会でなされた可能性が高い。つまり、この井戸はまず石塔の部材を投棄し、そのあと大石を次々に投棄して井戸仕舞いをした、ということになる。石組みは上方では円形を呈するが、小砂利が出る集水部分では、方形に組まれている。まずは基盤を方形に作り、その後円形に積んでいったことが推察される。

ST58は墓坑で、SP59を切って構築されている。骨片を含み、同一のレベルで遺物が検出される。SK73は巻貝が詰まった小土坑。廃棄の単位は視認できなかった。貝の下の底面に礫2点があった。

SK86は、当初井戸の可能性を考慮しつつ、精査に臨んだ。確認面に近代以降の遺物が散見されたものの攪乱は浅く（1層）、元々の埋積時の状況は比較的よく遺っている。埋土はレンズ状に堆積しており、遺物は3層に集中する。土師器の埴皿類の上に獣骨や珪化木が重なっており、先に投げ込んだ土師器を人為的に埋めていったようである。3層覆土の黒味が強いのは、有機質の投棄が多かったことを推知させる。

SK89は覆土中に遺物と礫が集中する。本土坑と SP113の接する辺りで銅環が出土している。いずれに帰属するかは確定できなかったが、おそらく他の多くの遺物とともにSK89に属するであろう。礫と遺物とが出土する土坑として、他にSK149、SK178、SK245などがある。

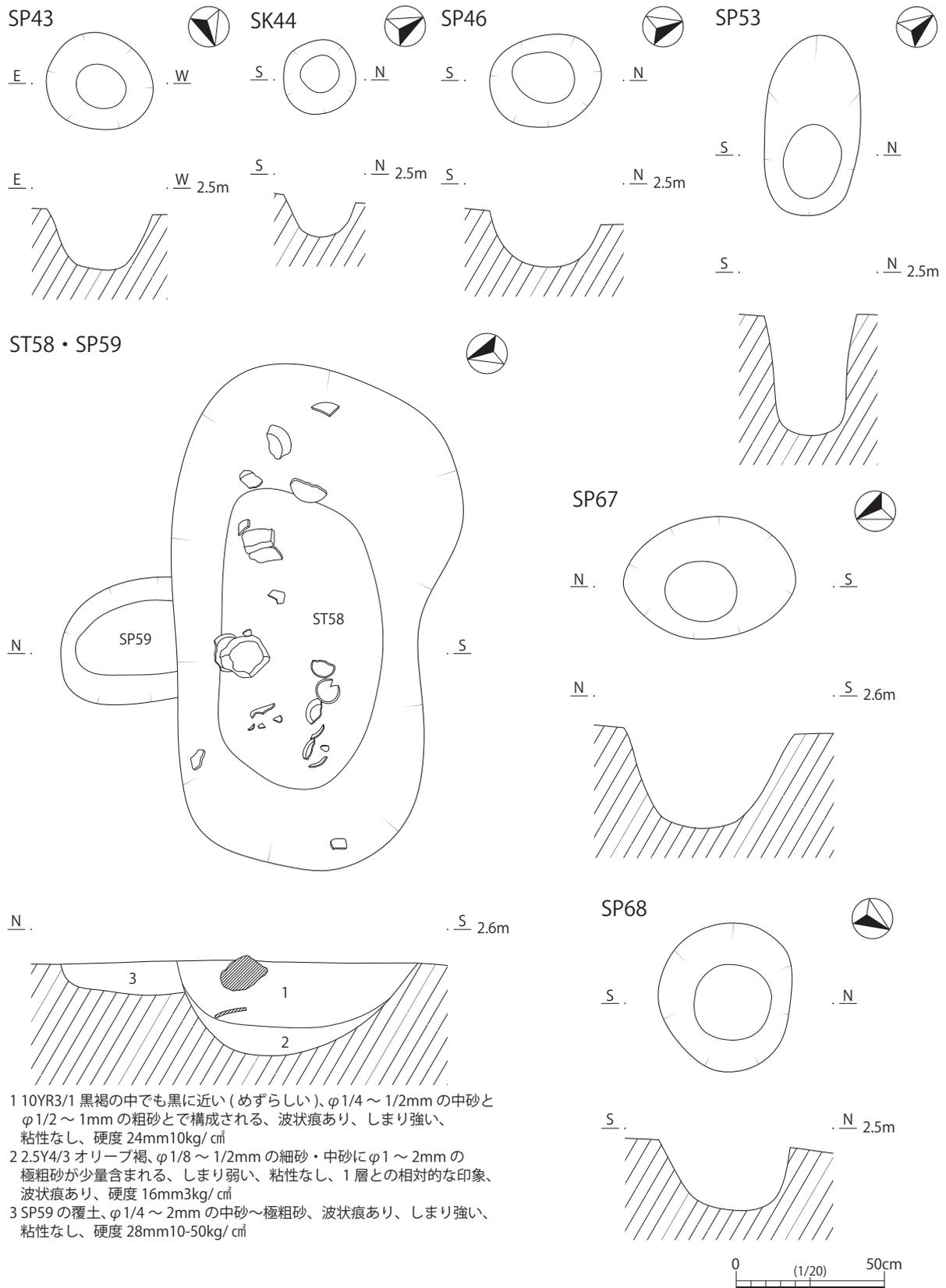
SE93は木質の井戸枠をそなえた井戸。SK114を切って、構築された。上が開き、漏斗状に窄まる。井戸内部には廃絶後に投棄された角礫が詰まっていた。角礫は何層にも積み重なる。ただし礫のサイズは拳大で、この点でSE37と異なる。

SE213も木質の井戸枠をそなえた井戸である。調査時はSK214を切って構築しているように見え、その判断のもとに記録したが、同土坑が井戸掘方の内部に形成されていることをふまえば、調査担当者である筆者が、調査時に新古の判断を誤った可能性が高い。SE37やSE93のように大石や角礫は詰められておらず、井戸仕舞いの作法が異なるらしい。井戸本体は掘方のやや南に寄っている。

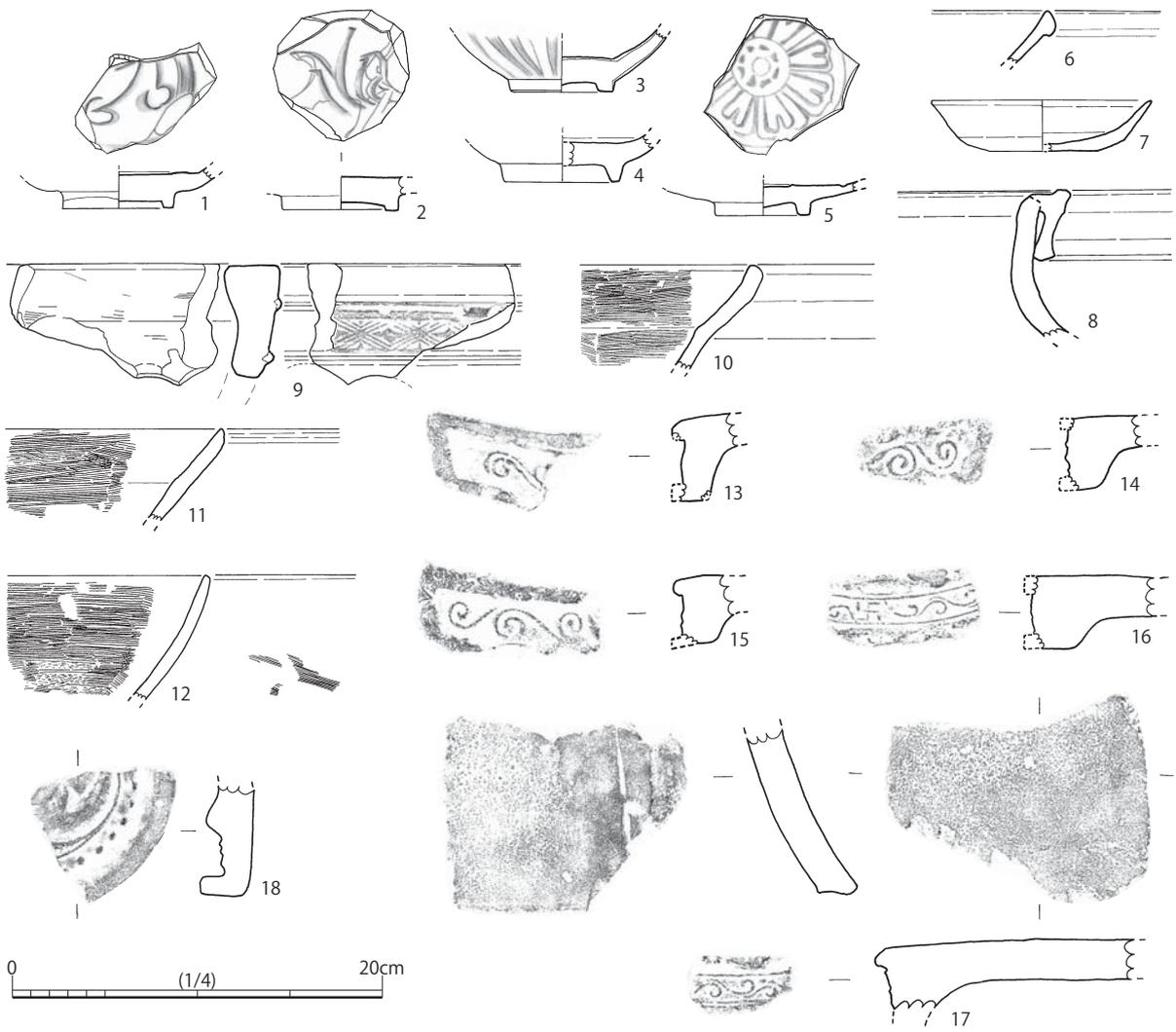
SE217は、井戸の可能性のある遺構である。掘削を進めていくと、下方で井戸埋土にみられる青灰色砂が堆積していたが、井戸の中心が調査区の外に及ぶため、掘削を途中で中止した。

SK226では、拳大の粘土塊を多く出土した。用途は不明であるが、SK226が粘土の保管施設であり、各々の粘土塊が土器製作上の単位である、との想定は許されるであろう。

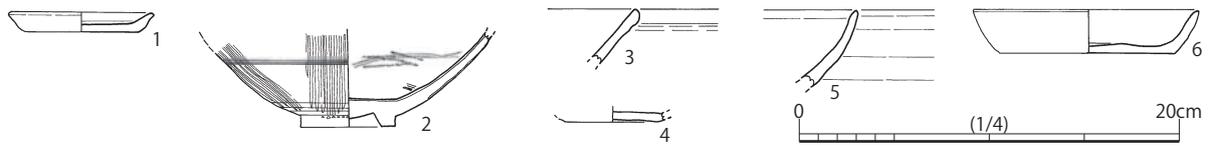
本エリアでは、礎石をそなえた柱穴がいくつも検出されている。調査終了後に、編者によって建物



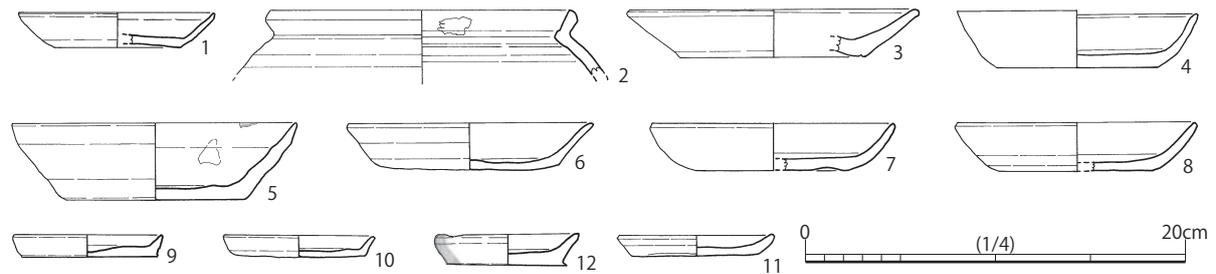
第15図 HZK2101地点南西エリア SP43・SK44・SP46・53・ST58・SP59・67・68平面・断面図



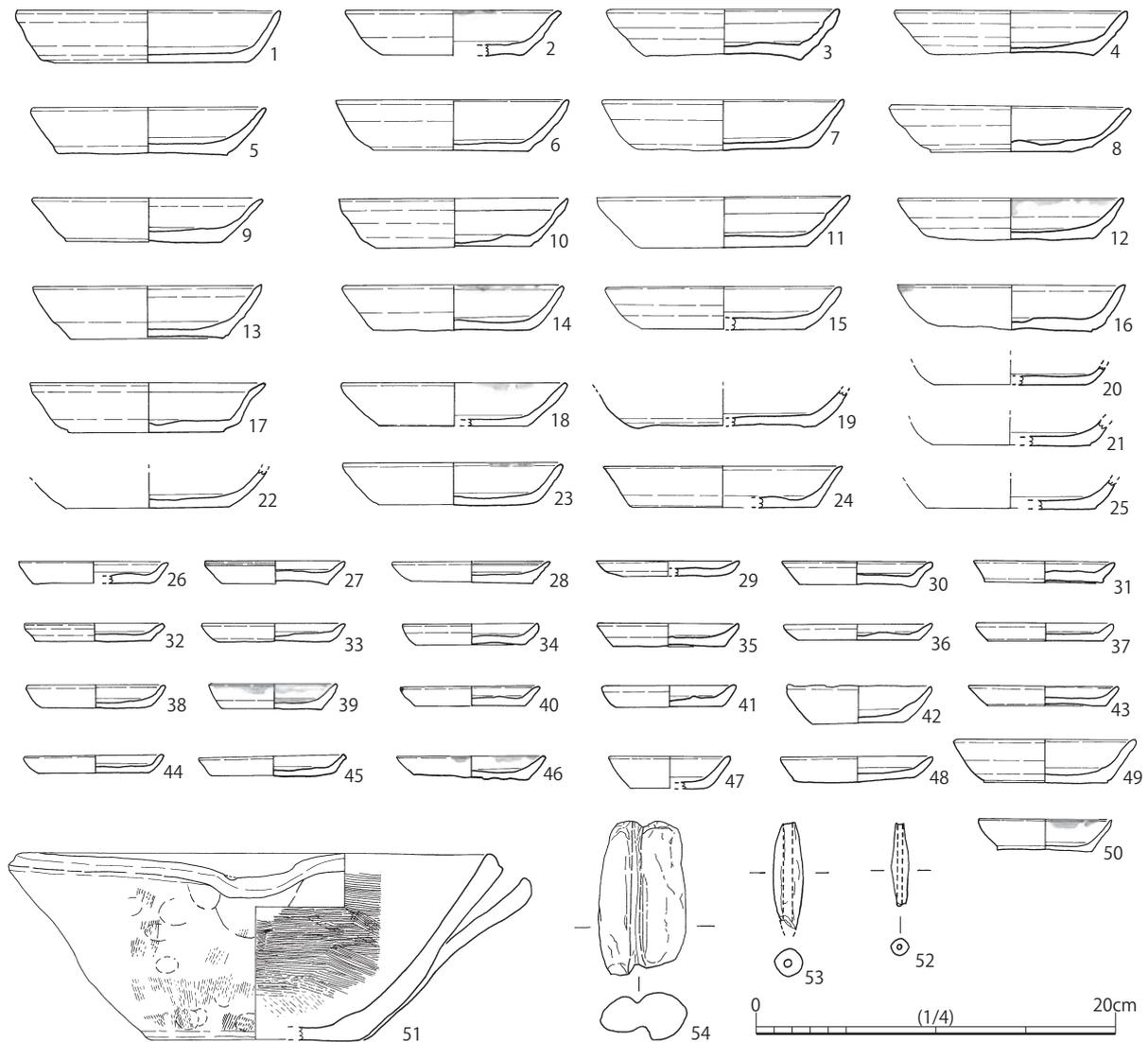
第16図 HZK2101地点出土遺物5



第17図 HZK2101地点出土遺物6



第18図 HZK2101地点出土遺物7



第19図 HZK2101地点出土遺物8

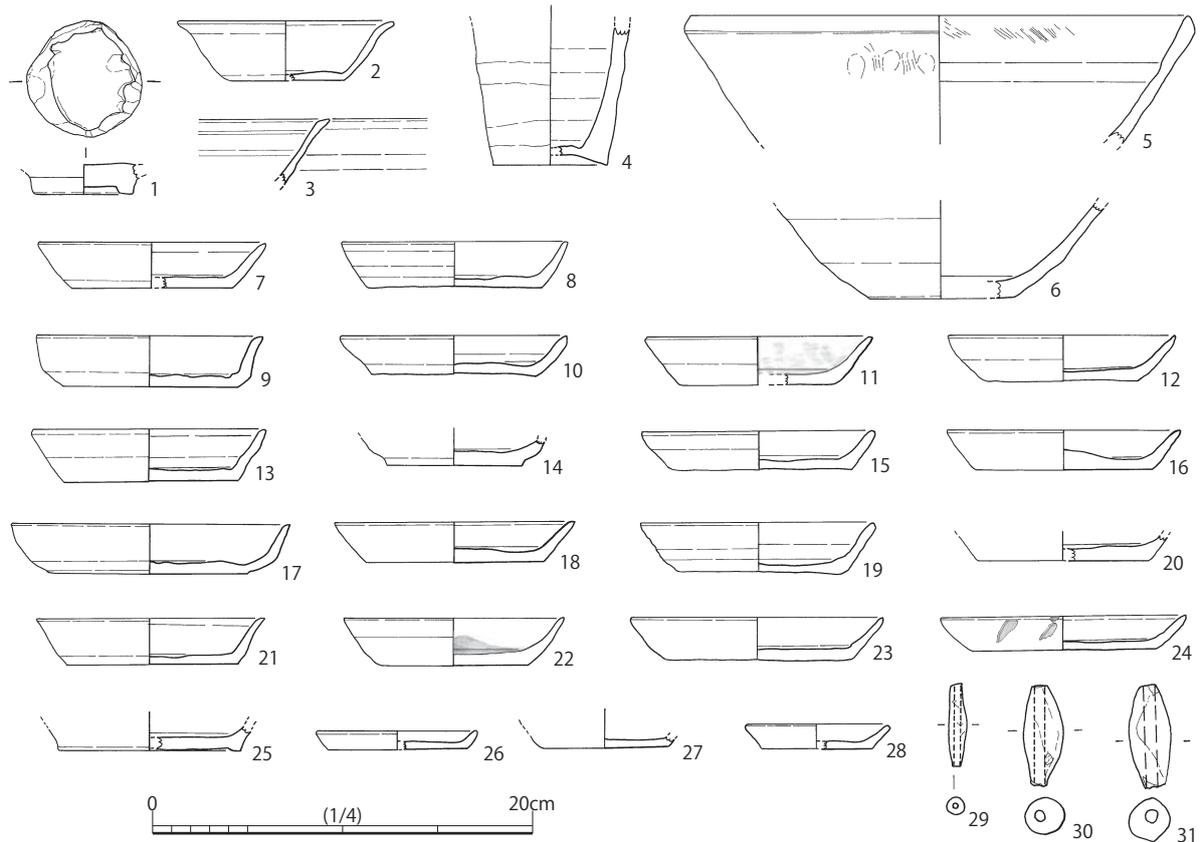
の構造が検討され、SB-A～Dの4棟の存在が推測されている。

(齋藤瑞穂)

井戸 SE37 (第14図) 石組井戸で詳細は先に述べたとおりである。

#### SE37出土遺物

第16図は SE37出土の遺物である。1～4は青磁碗である。1・2は見込みに片彫りで草花文を施し、角高台の刳りは浅い。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類で、いずれも12世紀中頃～13世紀初頭の所産である。3は外面に鎬蓮弁文を施す碗で、刳りの浅い角高台が付く。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ類で、13世紀前半の所産である(宮崎編 2000) 4は青磁碗底部である。5は青白磁碗である。見込みに蓮華文を型押しする。博多遺跡群では12世紀後半から14世紀に出土する(田中 2008)。6は玉縁口縁の白磁碗である。大宰府編年の白磁碗Ⅳ類で、11世紀後半から12世紀前半の所産である。7は平底の白磁皿である。口縁は直口で、体部は鈍角に内側へ屈曲する。見込みに草花文をスタンプで施す。白磁皿Ⅷ-2b類で、12世紀中頃から後半の所産である。8は須恵質の大甕である。口縁部は大きく折り返す。9は瓦質土器の風炉である。口縁部下に突帯を施し、連続の菱文を型押しする。文様下にも突帯をめぐらせ、雲形の透かしが付く。10～12は土師質の鍋である。いずれも口縁部の屈曲は



第20図 HZK2101地点出土遺物9

弱く、12では素口縁になる。15世紀から16世紀末の所産である（山本他 1997）。13～17は軒平瓦である。いずれも瓦当に唐草文を施し、14世紀以降の所産である（松田他 2019）。16は中心部に逆卍文を配し、両側にのびる唐草の表現も精緻である。18は軒丸瓦である。尾の長い巴文の外側に圏線が1条めぐり、連珠文で飾る。

ピット SP39（第14図） 楕円形を呈する。

SP39出土遺物

第17図5はSP39出土の天目碗である。口縁端部が立ち上がる。釉は赤みを帯びる。

ピット SP40（第14図） 楕円形を呈する。

SP40出土遺物

第17図6はSP40出土の糸切り底の土師器の坏である。ほかに図化し得ない小片の白磁が出土した。

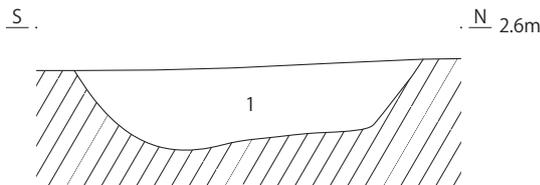
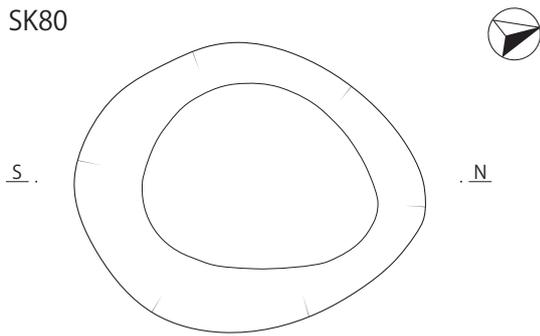
掘立柱建物 A（SB-A）（第2図）

掘立柱建物 A は2間×5間の長方形建物として復元した。桁行の柱間の間隔が一定ではないが梁行の間隔はそろっている。SK44・SP46・SP53・SP67・SP68・SK80・SP81・SK95・SK98は掘立柱建物 A を構成する柱穴である。またST58・SK86・SK89・SK90は柱の想定される位置にある。ST58はSP59を切る。SP81はSP82を切っている。SK86はSK87を切っており、SK87はSK85を切る。SK89はSK113を切っている。SK90はSK97・99を切っており、SK97はSK106を切る。またSK99はSK100を切っている。

ST58出土遺物

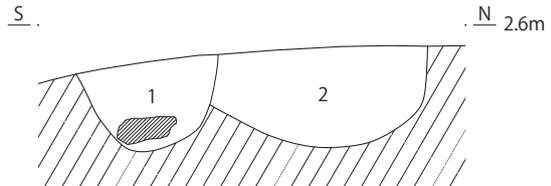
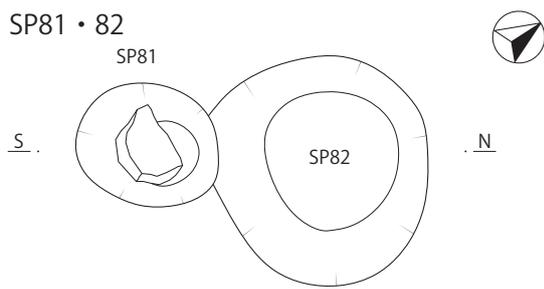
第18図1～10はST58出土である。1は口禿の白磁皿で、底部外面は工具で釉をのばしている。大

SK80



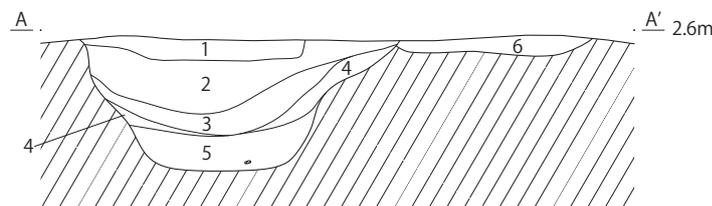
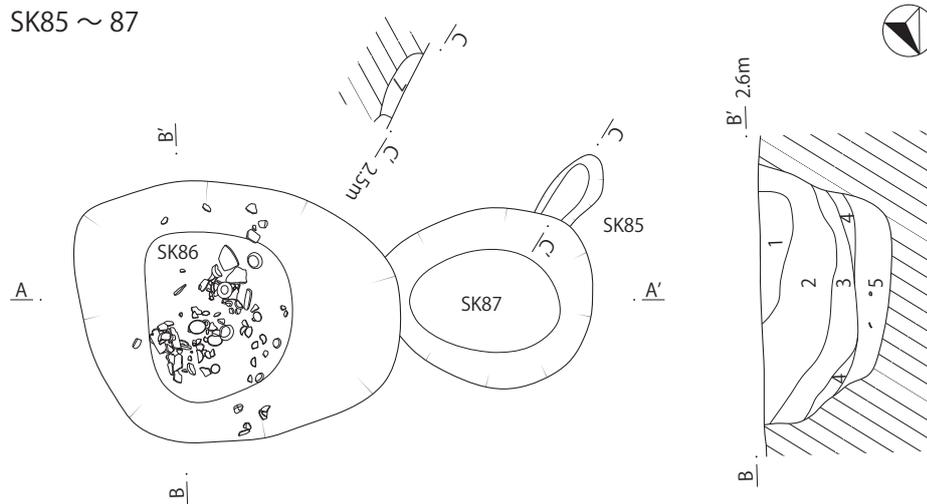
1 10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4 ~ 1mm の中砂・粗砂、しまり弱い、粘性なし、波状痕あり、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SP81・82

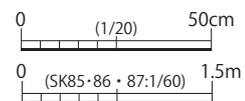


1 SP81 柱穴の埋土、2.5Y3/3 暗オリーブ褐、φ1/4 ~ 1/2mm の中砂、しまりふつう、粘性なし、波状痕あり、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SP82 の埋土、10YR4/4 褐、φ1/4 ~ 1/2mm の中砂、しまりふつう、粘性なし、硬度 10mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK85 ~ 87

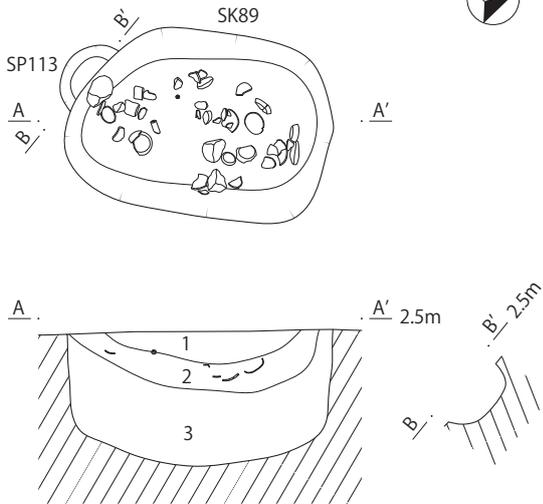


1 攪乱層  
 2 10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/8 ~ 1/4mm の細砂にφ1 ~ 2mm の極粗砂が少量混じる、しまり強い、粘性なし、波状痕あり、炭含む、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>  
 3 10YR3/1 黒褐、φ1/8 ~ 1/2mm の中砂・粗砂、土師器包含層、しまり強い、粘性なし、硬度 26mm10-50kg/cm<sup>2</sup>  
 4 10YR4/4 褐、φ1/8 ~ 1/2mm の中砂・粗砂にφ1 ~ 2mm の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>  
 5 10YR3/3 暗褐、φ1/8 ~ 1/4mm の細砂とφ1 ~ 2mm の極粗砂で構成、しまりふつう、粘性少々あり、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>  
 6 SK87 の覆土、10YR3/3 暗褐、φ1/8 ~ 1/4mm の細砂にφ1/2 ~ 1mm の粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 28mm10-50kg/cm<sup>2</sup>  
 7 SK85 の覆土、10YR4/2 灰黄褐、φ1/4 ~ 1/2mm の中砂にφ1 ~ 2mm の極粗砂が混じる、しまりなし、粘性なし、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>



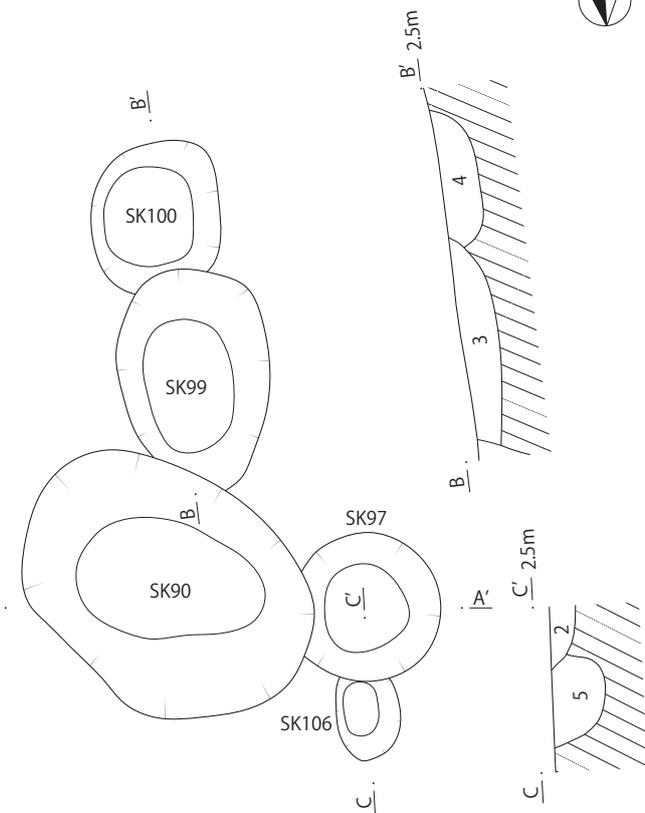
第21図 HZK2101地点南西エリア SK80・SP81・82・SK85~87平面・断面図

SK89・SP113

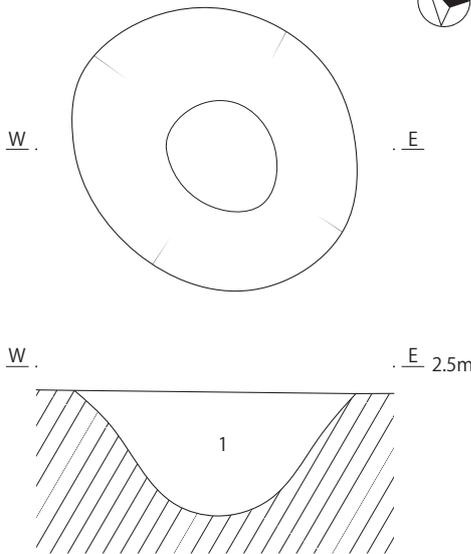


- 1 7.5YR3/1 少し赤味かった黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の粗砂を含む、しまり強い、粘性弱い、硬度  $20\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$
- 2 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂に  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の小礫含む、しまりふつう、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$
- 3 10YR2/2 黒褐、 $\phi 1/8 \sim 1/4\text{mm}$  の細砂と  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂から成る、しまりふつう、粘性弱い、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$

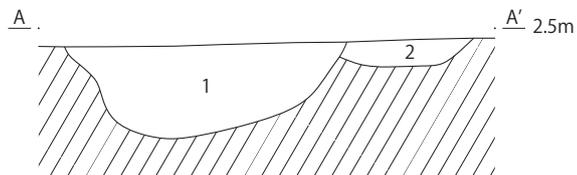
SK90・97・99・100・106



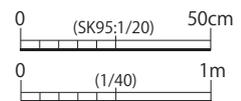
SK95



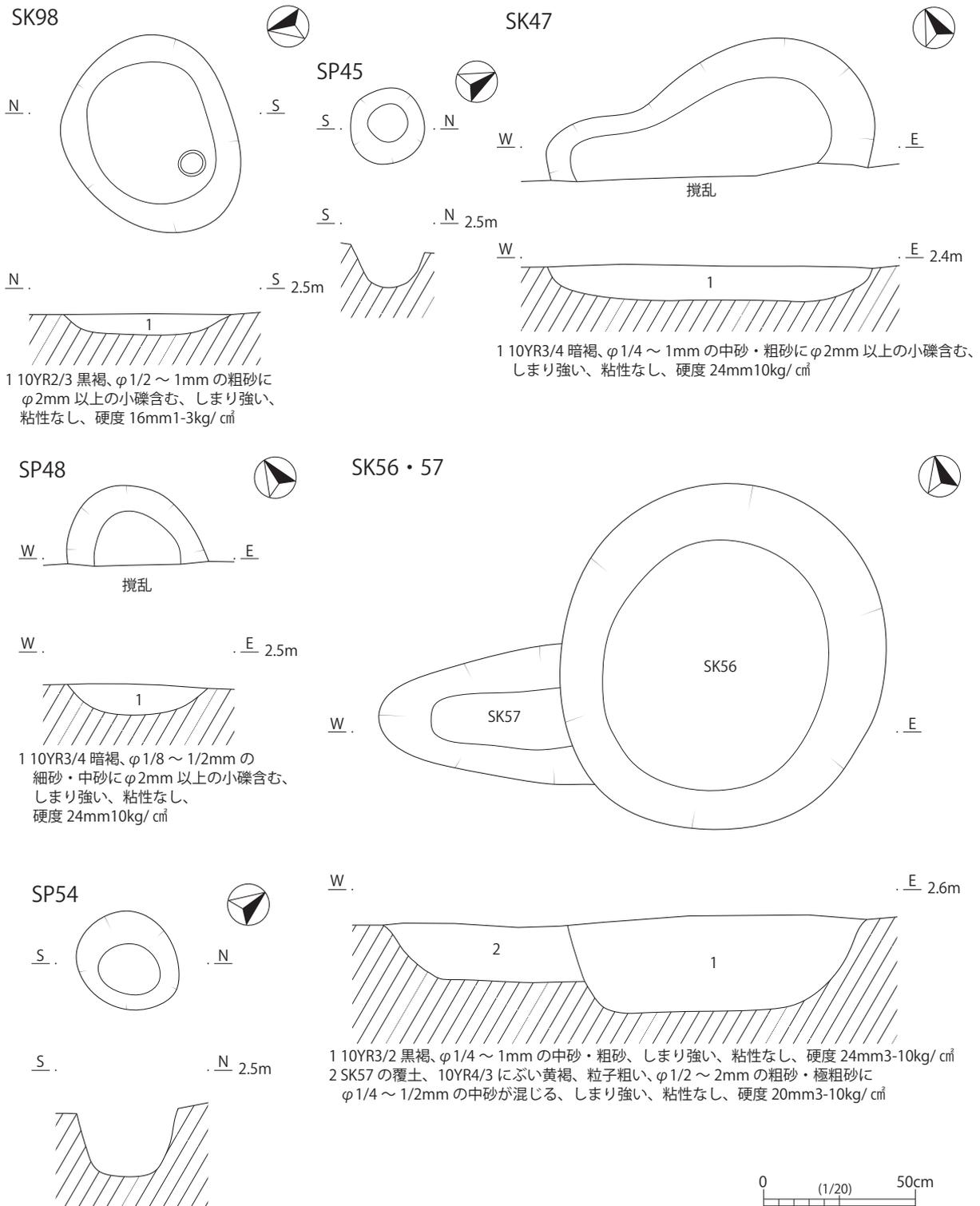
- 1 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に  $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$  の粗砂・極粗砂が混じる、しまりなし、粘性なし、硬度  $14\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$



- 1 7.5YR3/2 黒褐（少し赤味あり）、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に  $\phi 1/2 \sim 1\text{mm}$  の粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$
- 2 SK97 の覆土、2.5Y3/2 灰黄混じりの黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂、しまりふつう、粘性あり、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$
- 3 10YR4/4 褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、波状痕あり、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$
- 4 2.5Y4/3 オリーブ褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂と  $\phi 2\text{mm}$  以上の小礫で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度  $8\text{mm}0\text{-}1\text{kg}/\text{cm}^2$
- 5 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に  $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度  $12\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$



第22図 HZK2101地点南西エリア SK89・90・95・97・99・100・106・SP113平面・断面図



第23図 HZK2101地点南西エリア SP45・SK47・SP48・54・SK56・57・98平面・断面図

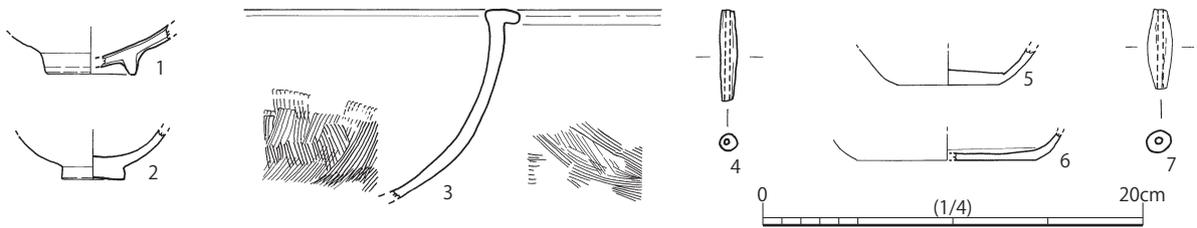
宰府編年の白磁皿Ⅸ-1類で13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。2は薄い釉のかかる陶器壺で、短い口縁部内面にメアトが付く。3～8は糸切り底の土師器の坏である。9・10は糸切り底の土師皿である。

SK86出土遺物

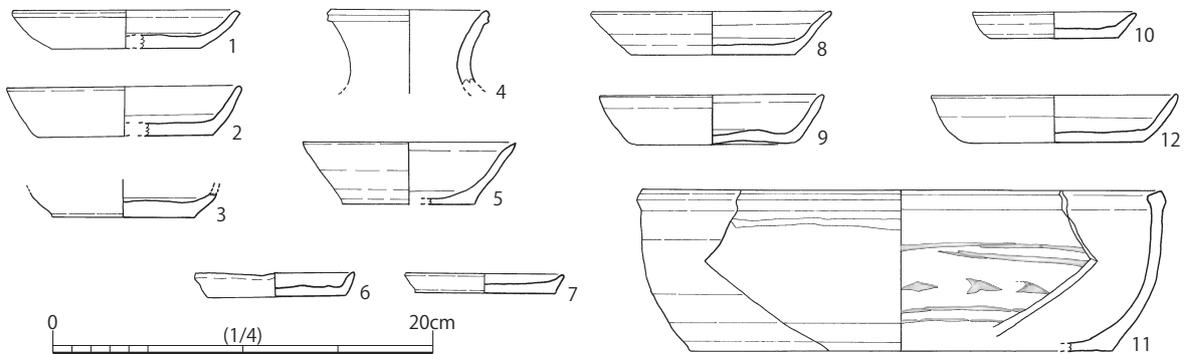
第19図はSK86出土である。1～25は糸切り底の土師器の坏である。概ね、口径14.8cm 底径10.3cm 器高2.9cm の範囲に収まる。26～50は糸切り底の土師皿である。概ね、口径8.6cm 底径6.9cm 器高2.4cm の範囲に収まる。51は片口の付く瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀後半以降在地生産が確立する（山本他 1997）。52・53は中央が膨らむ円筒形の土錘である。54は滑石製石錘である。

SK89出土遺物

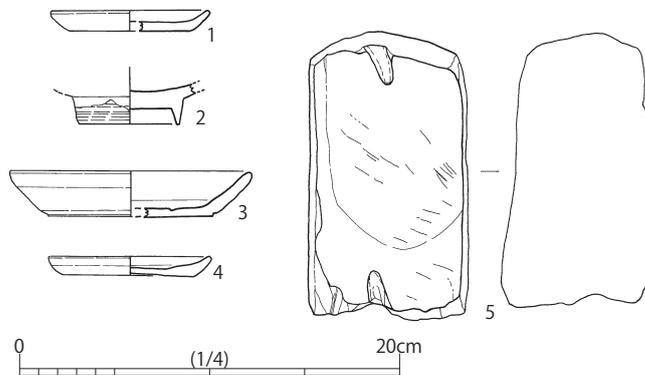
第20図はSK89出土である。1は刹りの浅い角高台の青磁碗の底部を打ち欠いて瓦玉としている。高台の形態から青磁碗Ⅰ類あるいはⅡ類で、12世紀中頃から13世紀前半の所産である。2は口禿の白磁皿で、口縁部にススが付着する。大宰府編年の白磁皿Ⅸ-1類で13世紀後半から14世紀前半に増加す



第24図 HZK2101地点出土遺物10



第25図 HZK2101地点出土遺物11



第26図 HZK2101地点出土遺物12

る（宮崎編 2000）。3は白磁碗で、口縁部がゆるく外反する。4は陶器壺の下半部で、内外面とも回転ヘラケズリで成形する。5・6は瓦質土器の捏鉢である。7～25は糸切り底の土師器の坏である。概ね、口径14.7cm 底径10.4cm 器高2.7cm の範囲に収まる。26～28は糸切り底の土師皿である。29～31は土錘である。

#### SK90出土遺物

第18図12は SK90出土の糸切り底の土師皿である。外面にススが付着しており、灯明皿として使用された。

#### SK98出土遺物

第18図11は SK98出土の糸切り底の土師皿である。

土坑 SK56・SK57（第23図） SK56は SK57を切る。

#### SK56出土遺物

第17図1は SK56出土の糸切り底の土師皿である

土坑 SK73・SK105・SK112（第27図） SK73は SK112を切っており、SK112は SK105に切られる。

井戸 SE93・土坑 SK114（第28図） SE93は SK114を切っている。

#### SE93出土遺物

第24図1～4は SE93出土である。1は青磁碗で厚く施釉し、露胎の畳付との境が赤く発色する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ類で、13世紀中頃から14世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。2は円盤状の平底の高台が付く青磁碗である。3は土師器の甕である。口縁部はL字状を呈し、上面はナデ成形。体部はゆるく丸みを持つ。12世紀後半から13世紀前半の所産である（山本他 1997）。4は円筒形の土錘である。

#### SK114出土遺物

第24図5～7は SK114出土である。5は白磁皿である。6は糸切り底の土師器の坏である。7は中央部が膨らむ円筒形の土錘である。

土坑 SK94・ピット SP96（第29図） SK94は SP96を切っている。

土坑 SK101（第29図）

#### SK101出土遺物

第25図1～3は SK101出土の糸切り底の土師器の坏である。

土坑 SK107・SK108・SK115（第29図） SK107と SK115は SK108に切られている。

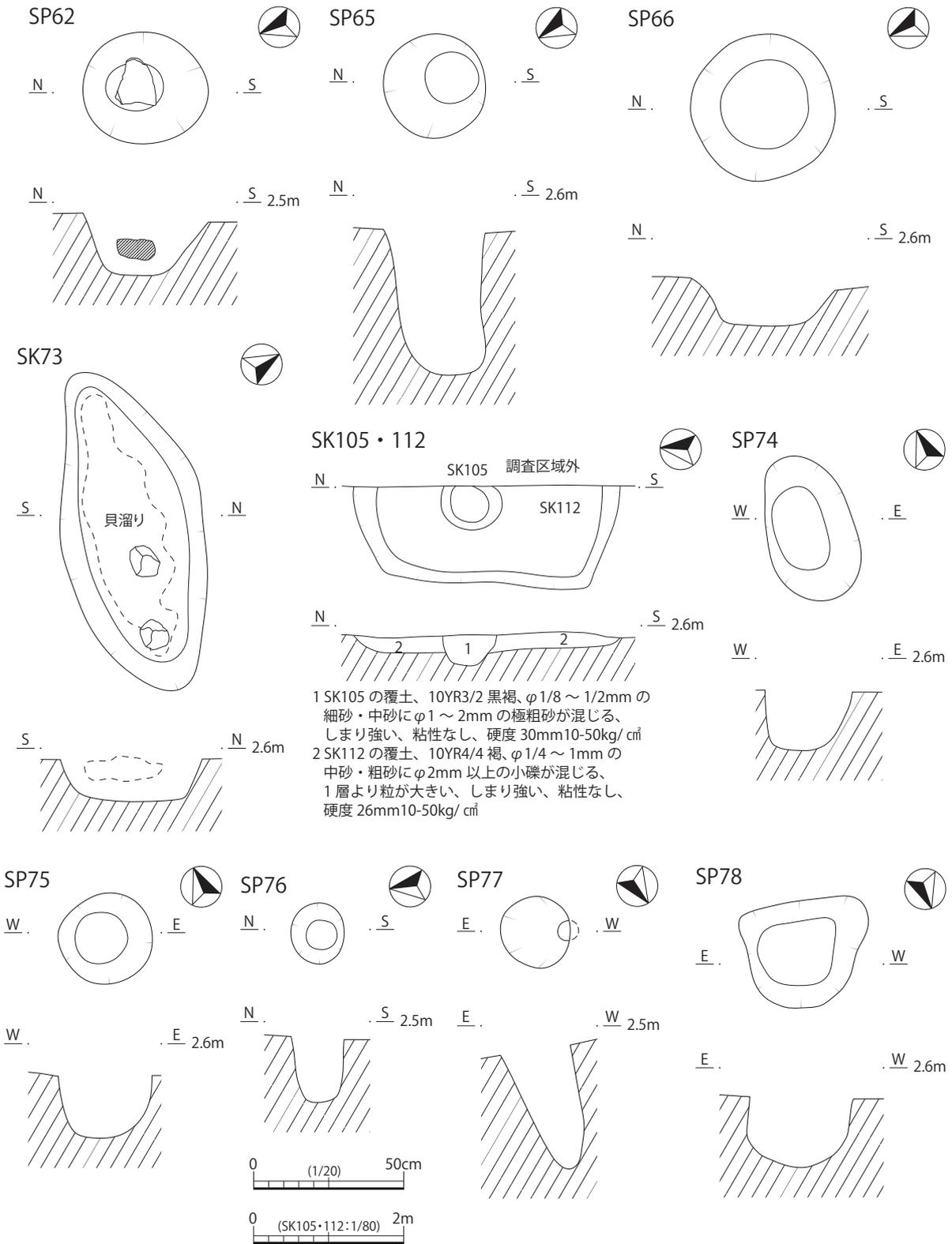
土坑 SK117（第30図）

#### SK117出土遺物

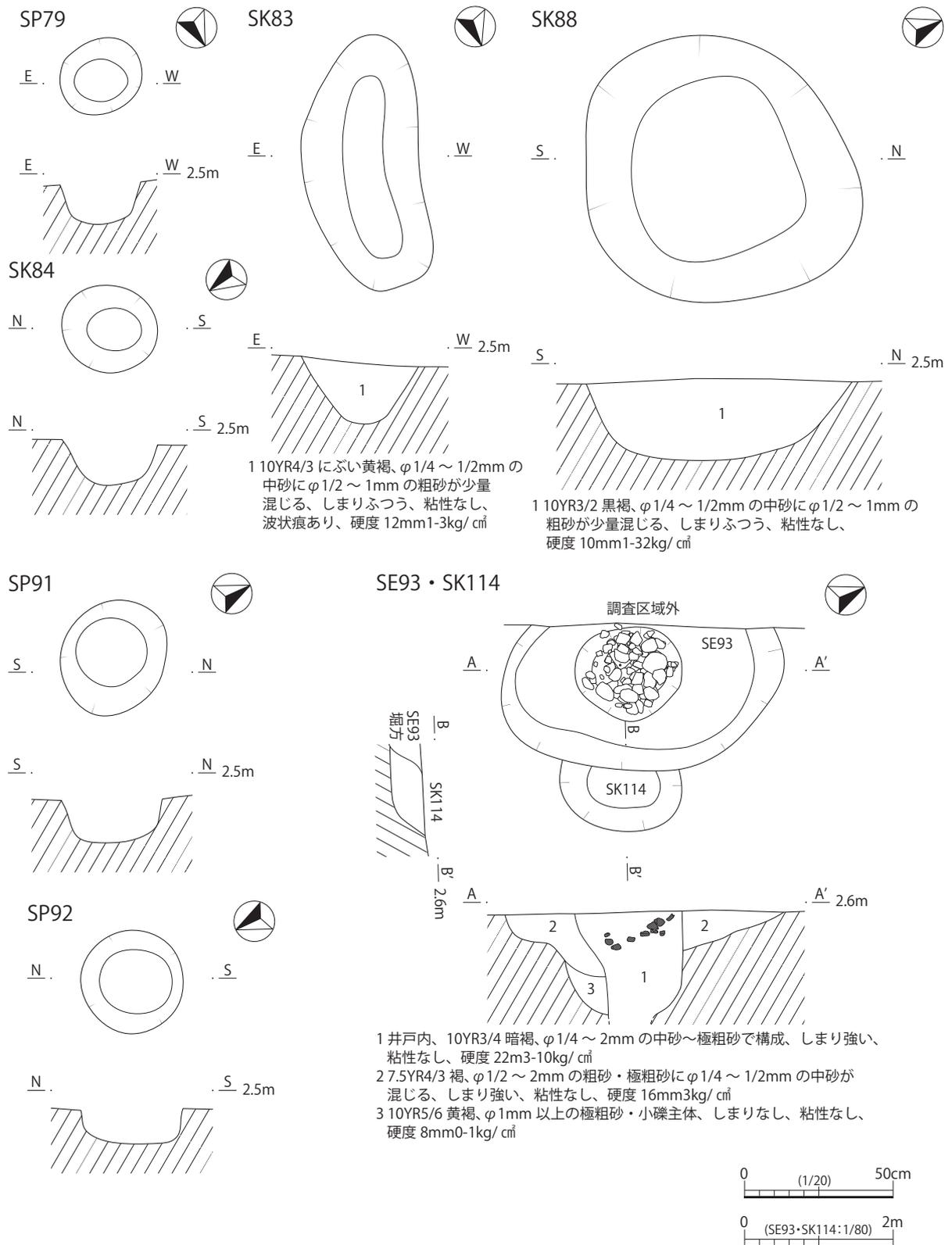
第17図2～4は SK117出土である。2は青磁碗で外面に細かい縦の櫛目文、内面にジグザグ状の点描文を有する。同安窯系青磁碗Ⅰ-1b類で、12世紀中頃～13世紀初頭の所産である。3は玉縁口縁の白磁碗で、口縁部下外面を強くナデる。白磁碗Ⅳ類で11世紀後半から12世紀前半の所産で、12世紀後半まで一定量を占める。4は白磁皿で、平底の底部外面に工具で釉をのばした跡があり、白磁皿Ⅸ類である。13世紀後半から14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。

#### 掘立柱建物 B（SB-B）（第2図）

掘立柱建物 B は 2 間 × 2 間の正方形建物として復元した。SK121・SK124・SK138・SK140・SP145・SP151は掘立柱建物 B を構成する柱穴である。また SK177は柱の想定される位置にある。SK177は SK179を切っている。

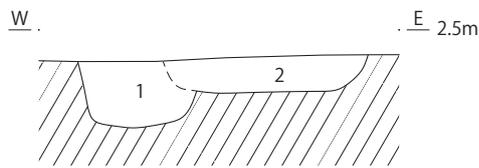
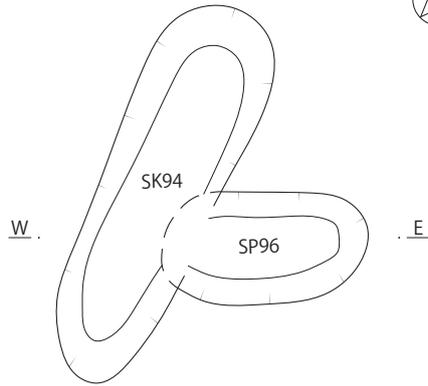


第27図 HZK2101地点南西エリア SP62・65・66・SK73・SP74～78・SK105・112  
平面・断面図



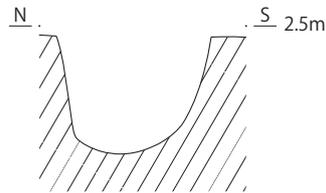
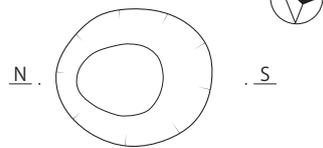
第28図 HZK2101地点南西エリア SP79・SK83・84・88・SP91・92・SE93・SK114平面・断面図

SK94・SP96

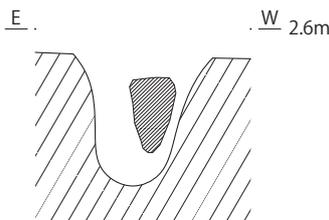
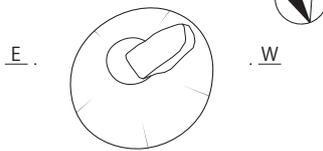


- 1 10YR3/4 暗褐、φ1/2～2mmの粗砂～極粗砂にφ1/4～1/2mmの中砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、しまり弱い、粘性なし、硬度10mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

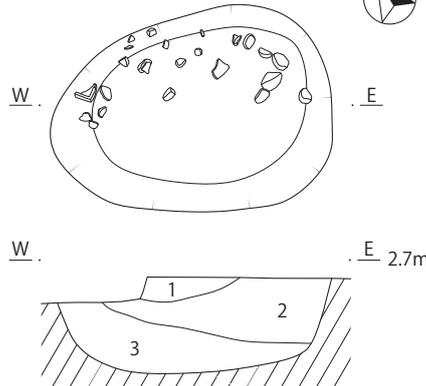
SP103



SP110

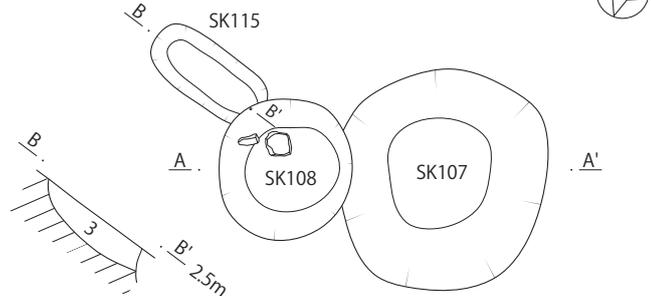


SK101



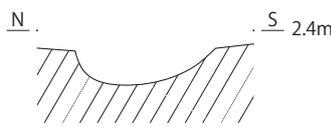
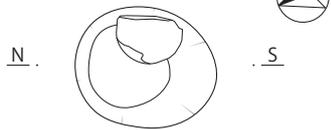
- 1 10YR3/2 黒褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐、φ1～2mmの極粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度16mm3kg/cm<sup>2</sup>
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、φ1/8～1/2mmの細砂・中砂にφ1～2mmの極粗砂混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK107・108・115

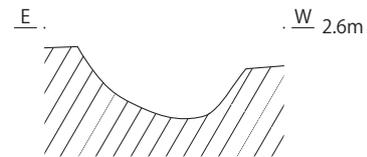
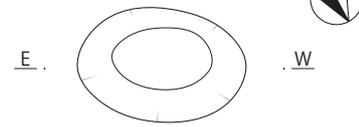


- 1 SK108の覆土、10YR3/3 暗褐、φ1/2～2mmの極粗砂・粗砂、炭化物含む、しまり強い、粘性なし、硬度24mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 SK107の覆土、7.5YR3/2 黒褐（少し赤味がある黒）、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ1～2mmの極粗砂を含む、しまり強い、粘性なし、硬度24mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 3 10YR4/4 褐、φ2mm以上の小礫とφ1/4～1/2mmの中砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度26mm10-50kg/cm<sup>2</sup>

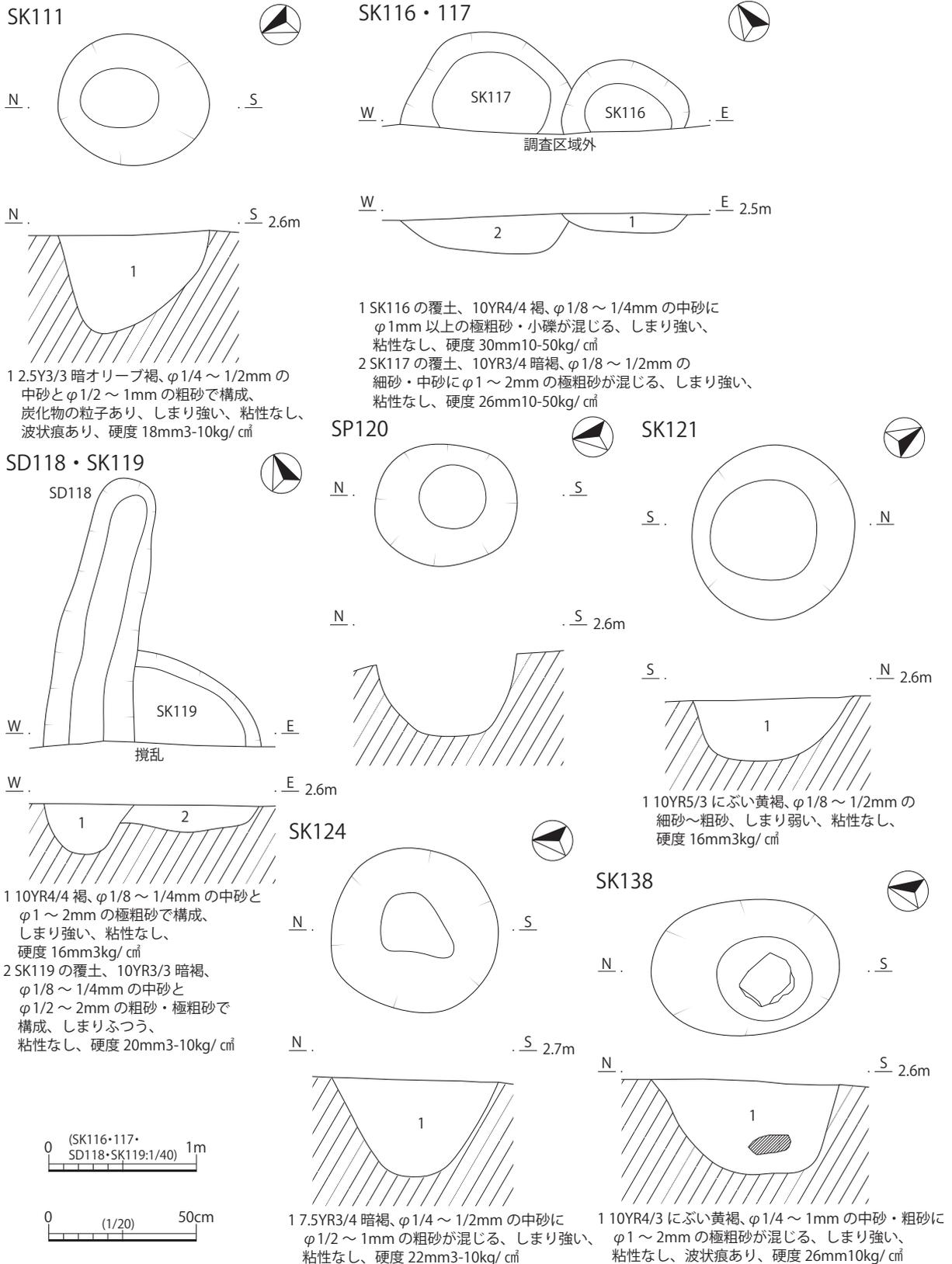
SP104



SP109

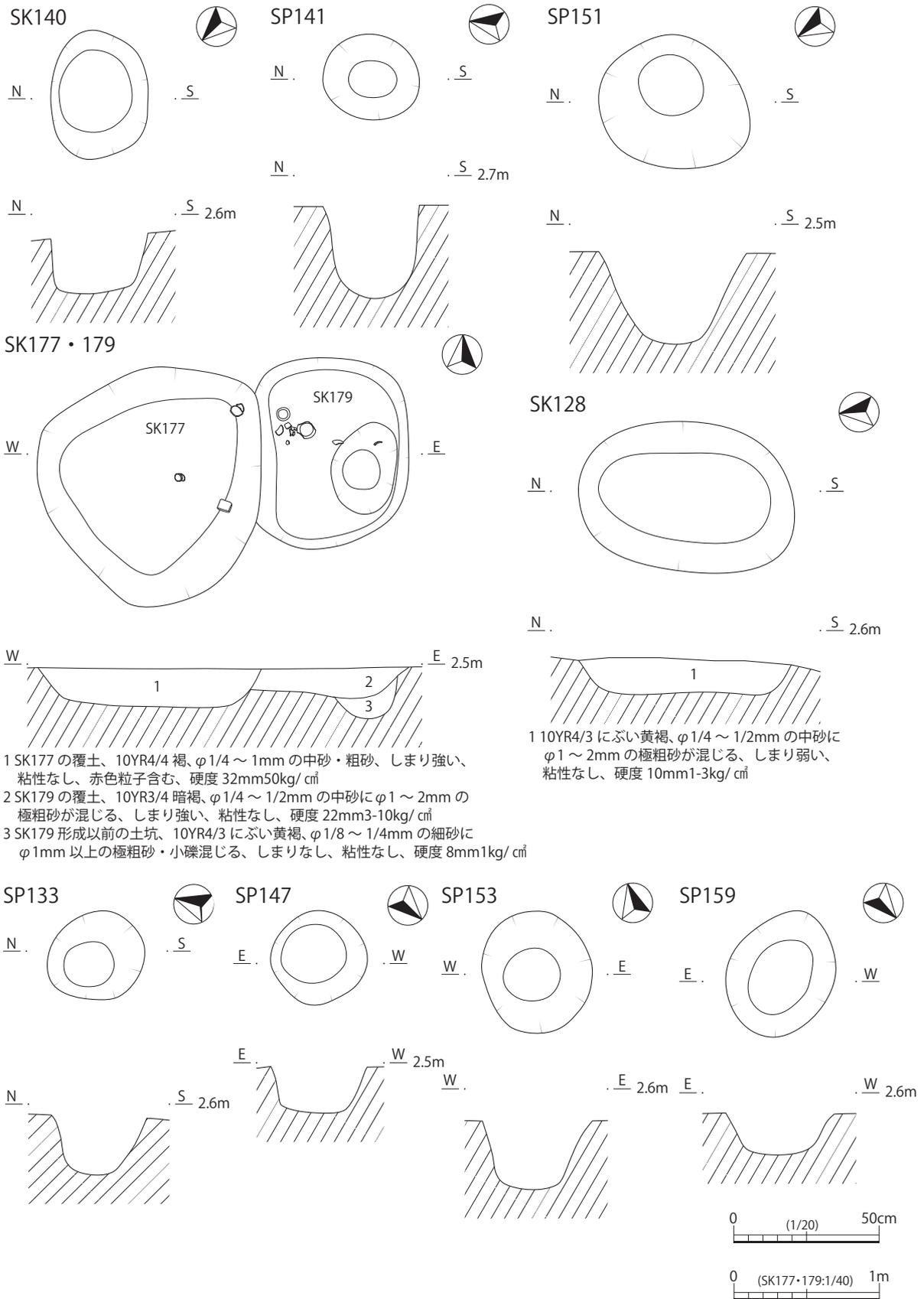


第29図 HZK2101地点南西エリア SK94・SP96・SK101・SP102～104・SK107・108・SP109・110・SK115平面・断面図



第30図 HZK2101地点南西エリア SK111・116・117・SD118・SK119・SP120・SK121・124・138平面・断面図

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



第31図 HZK2101地点 南西エリア SK128・SP133・SK140・SP141・147・SP151・153・159・SK177・179平面・断面図

## SK140出土遺物

第26図1はSK140出土の糸切り底の土師皿である。

## SK177出土遺物

第26図2～5はSK177出土である。2は高く細いケズリ高台の白磁碗で、大宰府編年の白磁碗V類である。3・4は糸切り底の土師器で、3が坏、4が皿である。5は砥石である。中央部がすり減ってくるぼむ。

## SK179出土遺物

第25図8～10はSK179出土で、8・9は糸切り底の土師器の坏、10は皿である。

## 掘立柱建物C (SB-C) (第2図)

掘立柱建物Cは2間×5間の長方形建物として復元した。桁行の柱間の間隔が一定ではないが梁行の間隔はそろっている。SK128・SP133・SP147・SP153・SP159・SP165・SP167・SP175・SP184・SP236は掘立柱建物Bを構成する柱穴である。またSE213・SK222・SK223・SK237は柱の想定される位置にあり、SP218とSK237・SK238とSE213・SK214は切り合い関係にある。SP165はSP164に切られる。SE213掘方にSK214が形成され、SE213とSK237をSK238が切っている。SP218はSK237を切る。SK222とSK223は切り合い関係にある。SK222がSK223に切られている。

## SK128出土遺物

第44図1・2はSK128出土の糸切り底の土師器である。1は坏、2は皿である。

## SP147出土遺物

第44図7はSP147出土の硯である。泥岩質の石を彫り込んで成形する。

## SE213出土遺物

第45図1・2はSK213出土の糸切り底の土師器である。1は坏、2は皿である。

## SK214出土遺物

第45図3はSK214とSK237・SK238が接合した。糸切り底の土師器の坏である。

## SK237・SK238出土遺物

第45図4～9はSK237・SK238出土である。4は白磁の皿である。5は陶器の黄釉盤である。口縁部を肥厚させ、断面方形にする。大宰府編年の陶器盤I-2類で、11世紀後半以降出現する(宮崎編2000)。6・7は高台付の土師器の坏である。6は幅広の粘土紐を帯状に貼り付け、ハの字状に広がる高い高台とする。7は粘土紐を帯状にした高台が付く。8は糸切り底の土師器の坏である。9は白磁の皿である。第94図5はSK237・238出土の熙寧元寶である。北宋銭で初鑄は1068年。

## SK223出土遺物

第44図3～6はSK223出土糸切り底の土師器である。3・4は坏、5・6は皿である。

土坑SK143・ピットSP144(第35図) SK143とSP144は切り合い関係にある。SK143がSP144をわずかに切っている。

## 土坑SK148(第35図)

## SK148出土遺物

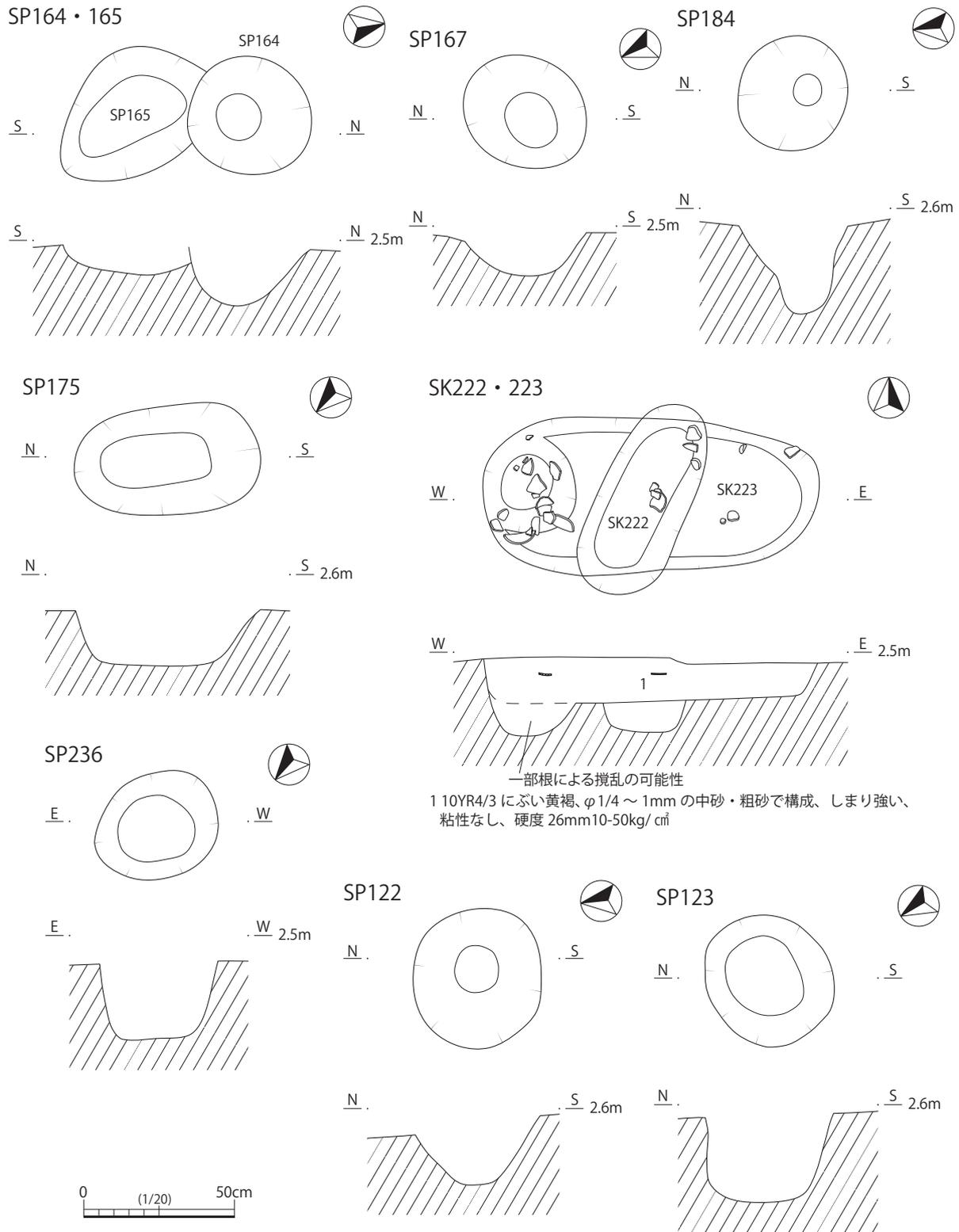
第46図1・2はSK148出土の糸切り底の土師器の坏である。

## 土坑SK149(第35図)

## SK149出土遺物

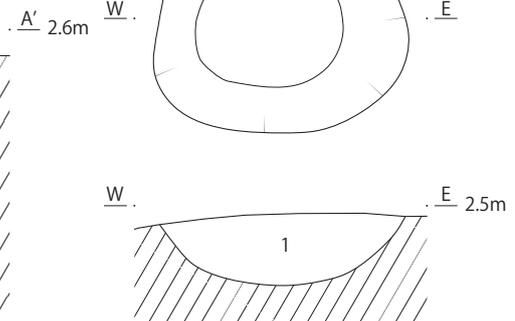
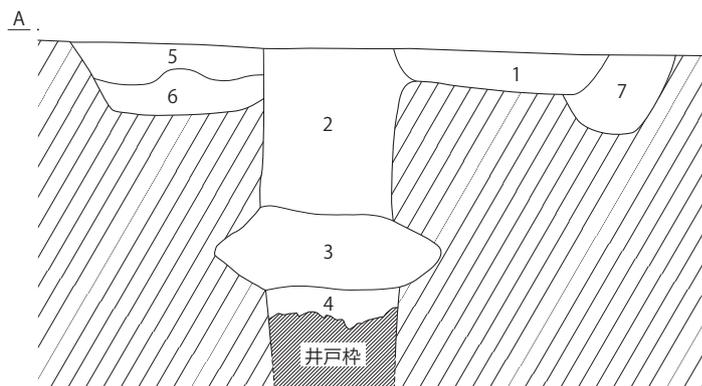
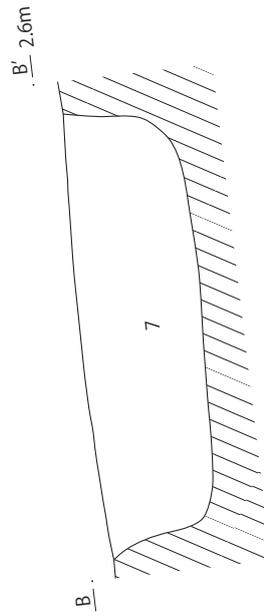
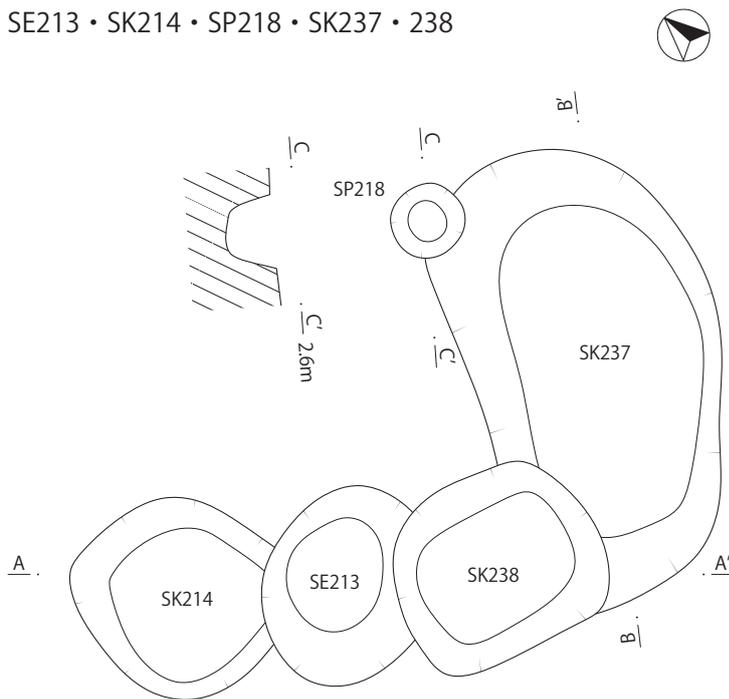
第46図3～6はSK149出土である。3は高台付の土師器の坏で、底部に粘土紐を帯状に貼り付けて高台とする。4～6は糸切り底の土師器の坏である。4は小ぶりで、口径に比して器高が高い。

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



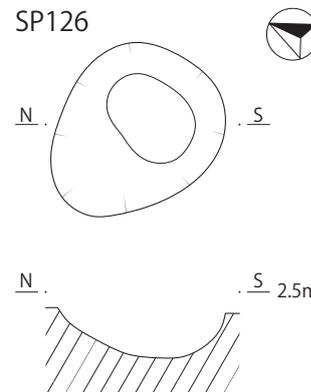
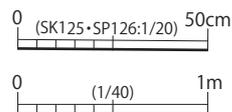
第32図 HZK2101地点南西エリア SP122・123・164・165・167・175・184・SK222・223・SP236平面・断面図

SE213・SK214・SP218・SK237・238

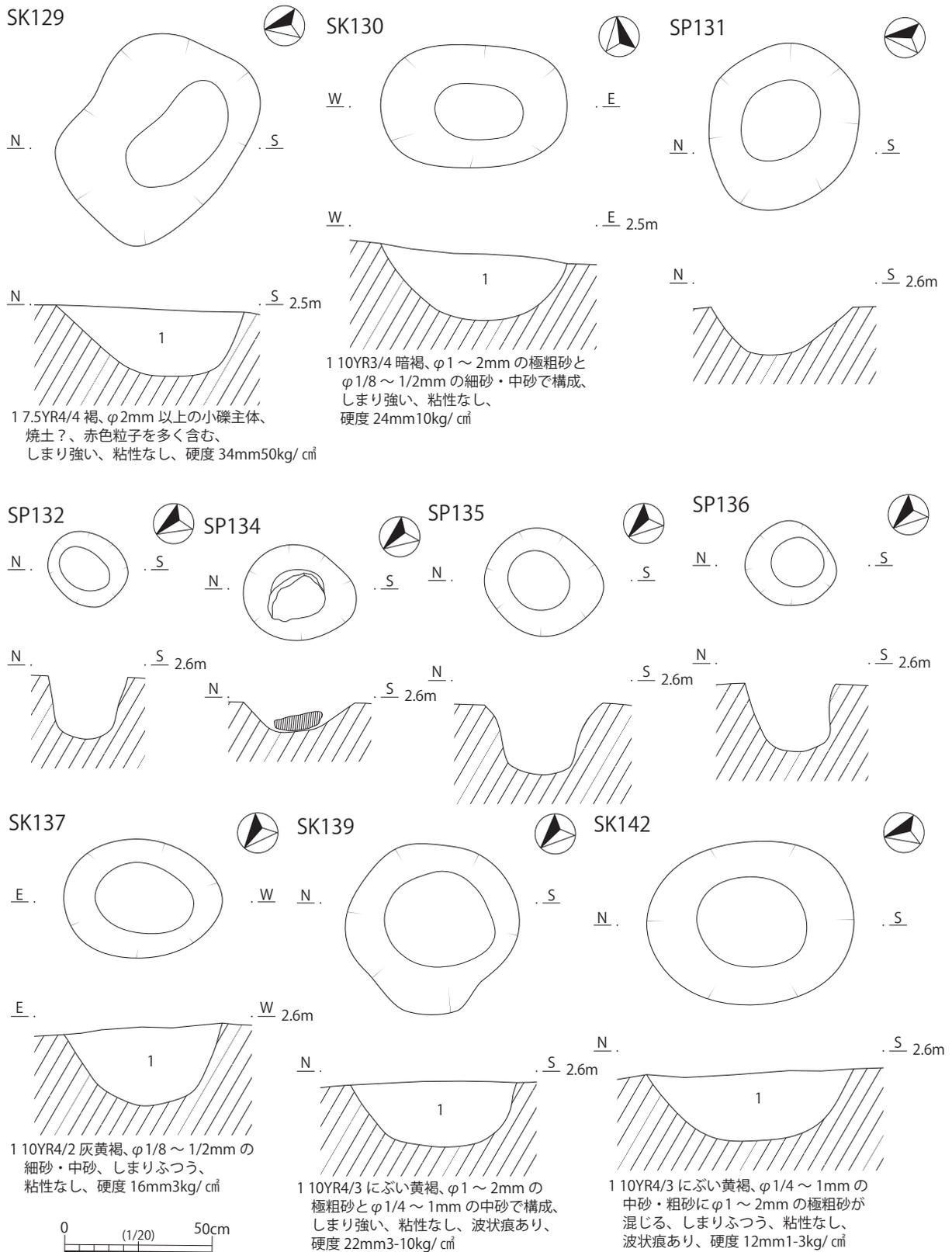


1 7.5YR4/4 褐 (少し赤味あり)、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  以上の極粗砂・小礫が主体、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm3kg/  $\text{cm}^3$

- 1 SK238、10YR4/2 灰黄褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$  の細砂・中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 22mm3-10kg/  $\text{cm}^3$
- 2 SE213、10YR3/3 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、根が特に多い、硬度 24mm10kg/  $\text{cm}^3$
- 3 SE213、10YR3/1 黒褐、 $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$  の粗砂・極粗砂主体、しまり強い、粘性なし、炭化物が1層より多い、硬度 28mm10-50kg/  $\text{cm}^3$
- 4 SE213、10YR4/1 褐灰、 $\phi 1/8 \sim 1/4\text{mm}$  の細砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 8mm1kg/  $\text{cm}^3$
- 5 SK214、10YR4/2 灰黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$  の粗砂・極粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 22mm3-10kg/  $\text{cm}^3$
- 6 SK214、10YR5/3 にぶい黄褐 (にぶい黄褐の中でも淡い)、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/  $\text{cm}^3$
- SE213 掘方、2.5Y5/2 暗灰黄、 $\phi 1\text{mm}$  以上の極粗砂・小礫で構成、縞状堆積が途切れる、しまり弱い、粘性なし、硬度 8mm1kg/  $\text{cm}^3$
- 7 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$  の細砂・中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、波状痕あり、硬度 16mm3kg/  $\text{cm}^3$

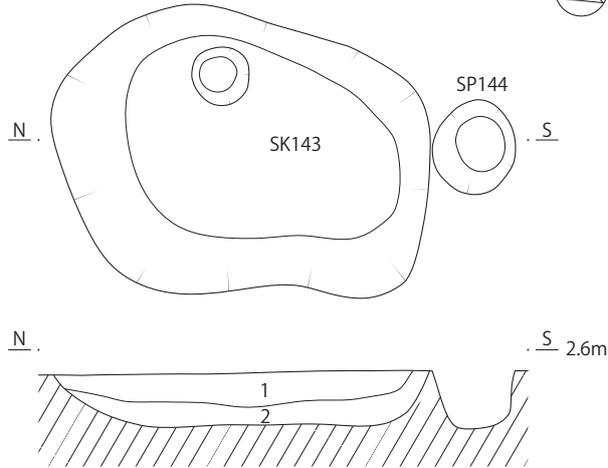


第33図 HZK2101地点南西エリア SK125・SP126・SE213・SK214・SP218・SK237・238  
平面・断面図



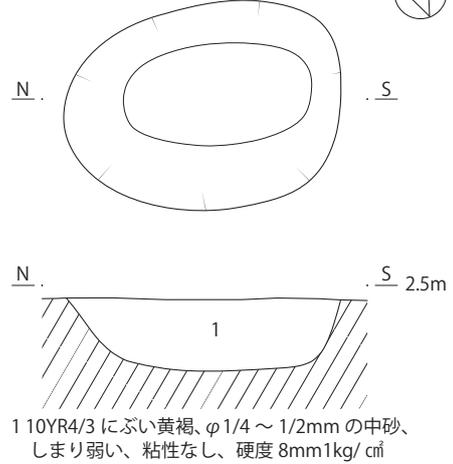
第34図 HZK2101地点南西エリア SK129・130・SP131・132~136・SK137・  
 139・142平面・断面図

SK143・SP144



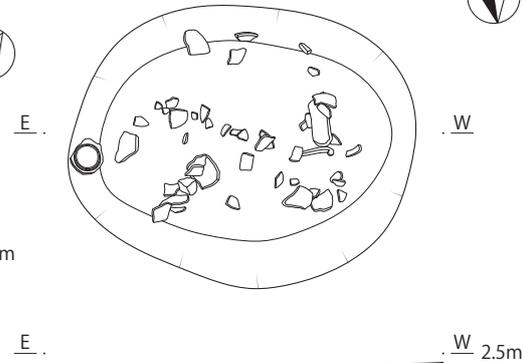
1 2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1/8 \sim 1/4$ mm の細砂にわずかに $\phi 1 \sim 2$ mm の粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、波状痕あり、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>  
 2 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1$ mm の中砂・粗砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 4mm0-1kg/cm<sup>2</sup>

SK146



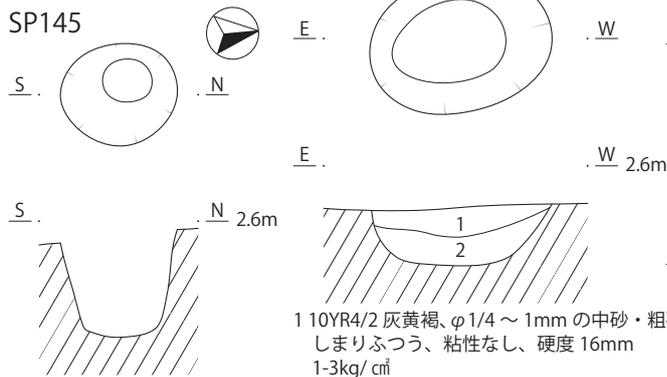
1 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mm の中砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 8mm1kg/cm<sup>2</sup>

SK149



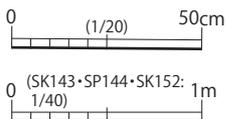
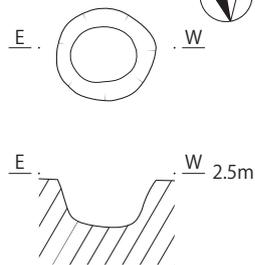
1 10YR3/4 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mm の中砂に $\phi 2$ mm 以上の小礫混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

SK148

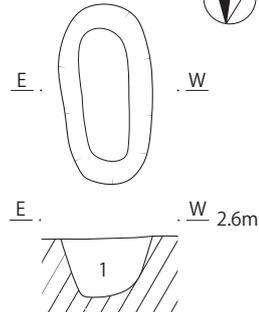


1 10YR4/2 灰黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1$ mm の中砂・粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm1-3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 10YR5/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1$ mm の中砂・粗砂に $\phi 2$ mm 以上の小礫混じる、硬度 8mm1kg/cm<sup>2</sup>

SP150

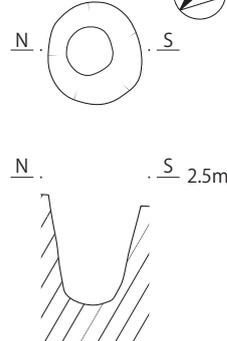


SK152

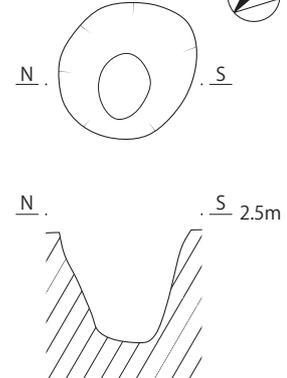


1 10YR4/3、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mm の中砂に $\phi 2$ mm 以上の小礫含む、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>

SP154

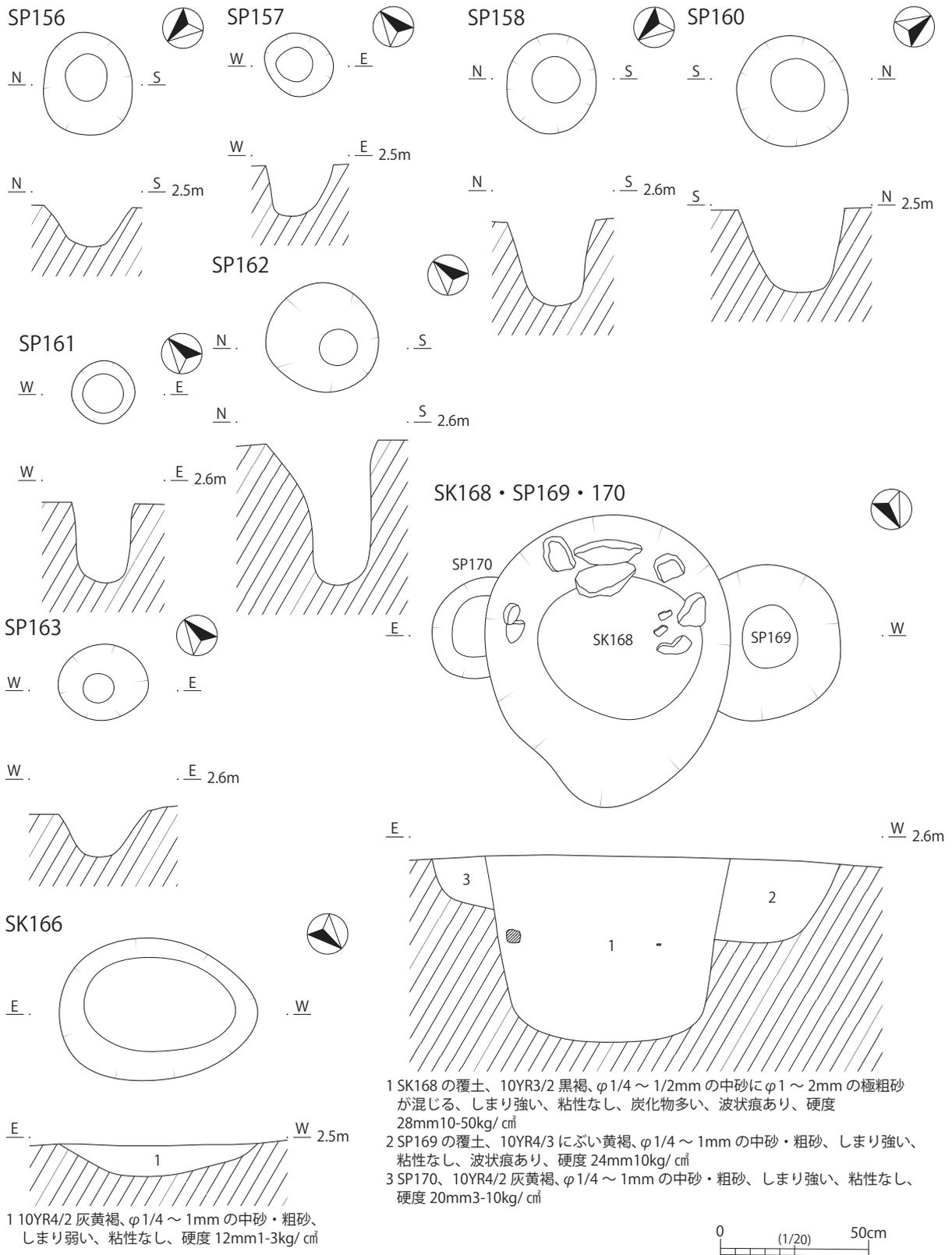


SP155

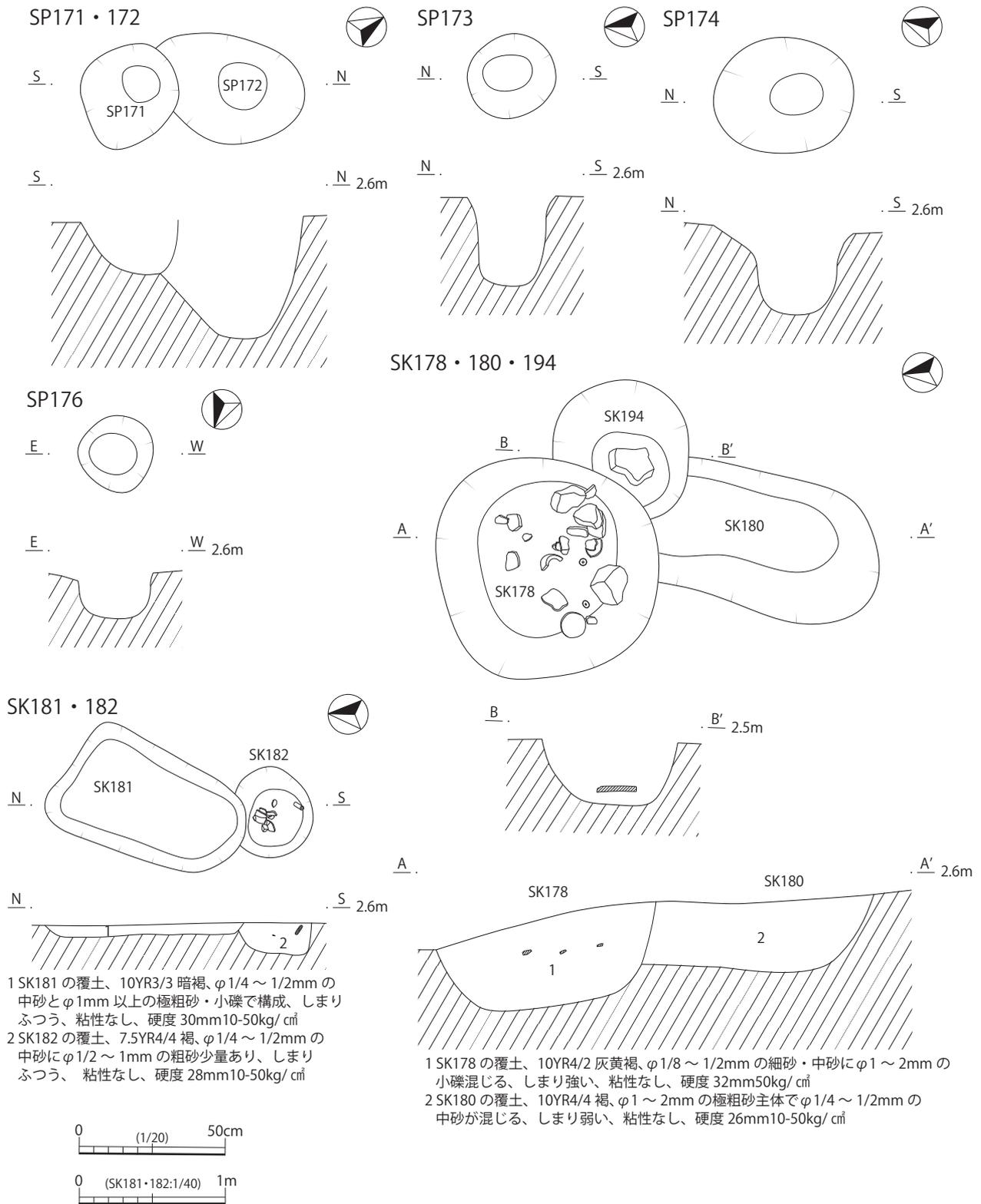


第35図 HZK2101地点南西エリア SK143・SP144・145・SK146・148・149・SP150・SK152・SP154・155平面・断面図

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



第36図 HZK2101地点南西エリア SP156～158・160～163・SK166・168・SP169・170  
平面・断面図



第37図 HZK2101地点南西エリア SP171~174・176・SK178・180・SK181・182・194平面・断面図

土坑 SK168・ピット SP169・SP170（第36図） SK168・SP169・SP170は切り合い関係にある。SP169と SP170を SK168が切っている

ピット SP171・SP172（第37図） SP171と SP172は切り合い関係にある。SP172を SP171が切っている。

土坑 SK178・SK180・SK194（第37図） SK178は SK180・SK194と切り合い関係にある。SK194を SK180が切り、SK194と SK180を SK178が切っている。

#### SK178出土遺物

第25図 4～7は SK178出土である。4は須恵器の口縁部から頸部で、横瓶などの口縁部である。口縁端部に沈線がめぐる。5は糸切り底の土師器の坏、6・7は糸切り底の土師皿である。第94図 2～4は SK178出土の北宋銭である。2は元豊通寶で初鑄は1078年。3は皇宋通寶で初鑄は1039年。4は大観通寶で初鑄は1107年である。

土坑 SK181・SK182（第37図） SK181と SK182は SK181が SK182を切っている。

#### SK182出土遺物

第46図 7は SK182出土の糸切り底の土師器の坏である。

土坑 SK192・ピット SP193（第39図） SK192と SP193は切り合い関係にあり、SK192が SP193を切っている。

#### SK192出土遺物

第46図 9・10は SK192出土の糸切り底の土師器で、9が坏、10が皿である。

#### 掘立柱建物 D（SB-D）（第2図）

掘立柱建物 D は 1 間×3 間の長方形建物として復元した。桁行の柱間の間隔が一定ではないが梁行の間隔はそろっている。SK197・SP204・SK216・SK227・SK230・SP231・SP239・SP240は掘立柱建物 D を構成する柱穴である。SP204・SK230は礎石を持つ。また SK226・SK228は柱の想定される位置にある。SK216と SK225は切り合い関係にある。SK225を SK216が切っている。SK226・SK227・SK228は切り合い関係にあり、SK227を SK226が切り、SK226を SK228が切っている。SP240と SK241は切り合い関係にある。SP240が SK241を切っている。また SK241は SD235を切る。

#### SK197出土遺物

第47図 1・2は SK197出土である。1は糸切り底の土師器の坏で、口縁部にススが付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。2は糸切り底の土師皿である。

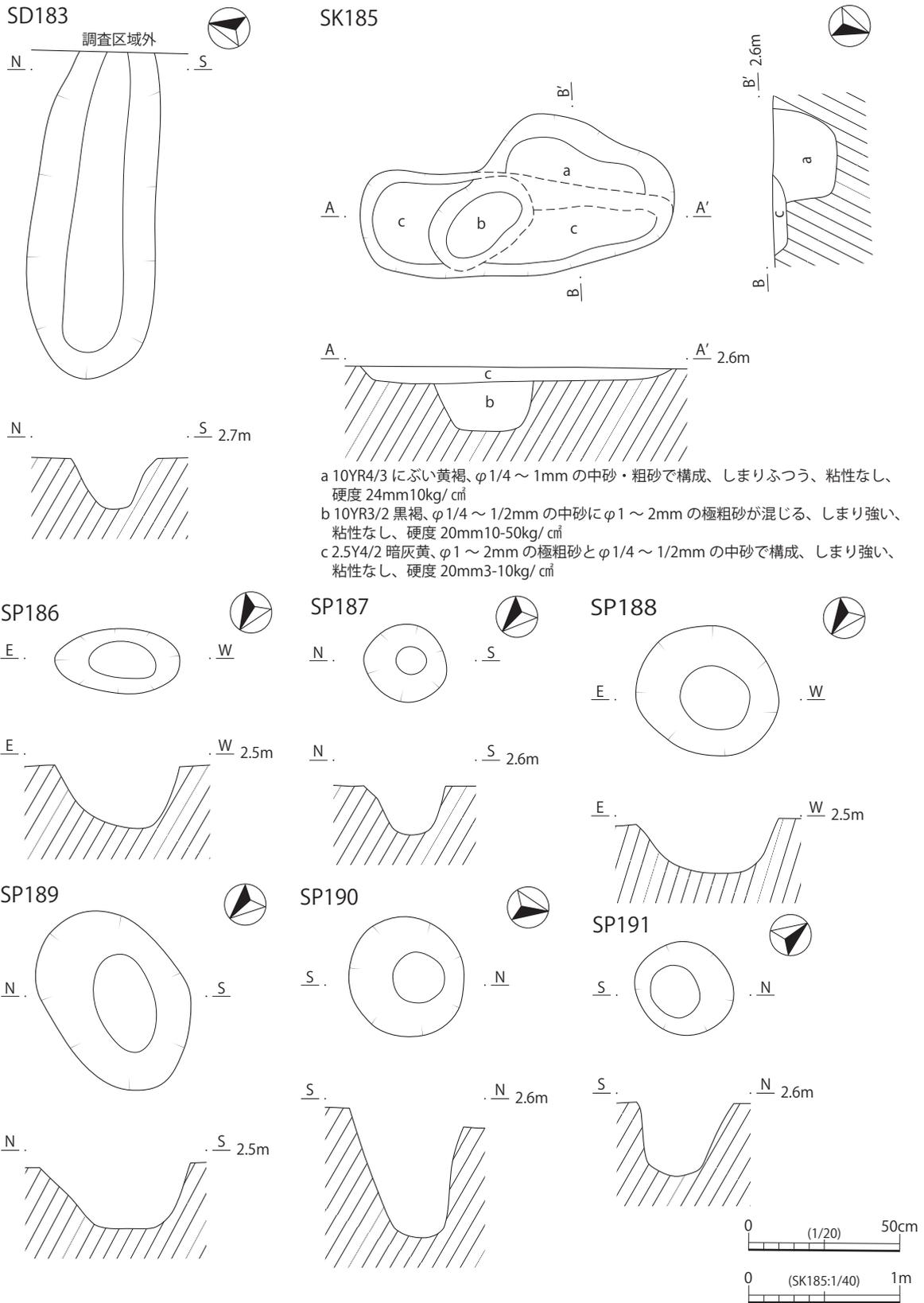
#### SK226出土遺物

第47図 3は SK226出土の糸切り底の土師皿である。

#### SK228出土遺物

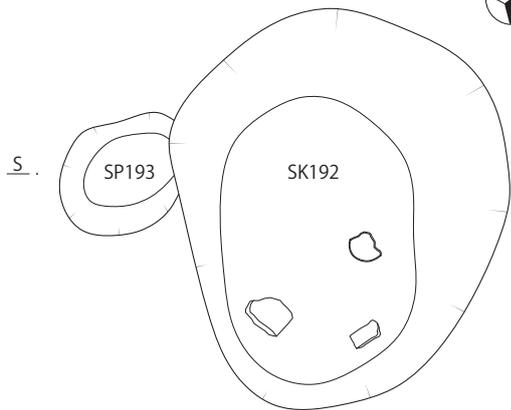
第47図 4～10は SK228出土である。4は八角形の青磁の小鉢で、口縁部が波状になる。釉調は不透明で濁り、厚くかかる。内外面とも貫入が見られる。5は青磁皿である。体部中位で屈曲し、口縁部は直に引き出す。大宰府編年の龍泉窯系青磁皿 I 類で、12世紀中頃～13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。6は瓦質土器の湯釜で、口縁部下に菱形のスタンプ文を施す。15世紀後半～16世紀末の所産である（山本辺 1997）。7・8は糸切り底の土師皿である。9は紡錘形の土錘、10は滑石製石錘である。第94図 8・9は SK228出土の銅銭である。鑄出しが悪く銭の種類は判別できない。

土坑 SK198・SK199（第41図） SK198と SK199は切り合い関係にある。SK198を SK199が切っている。

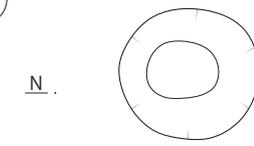


第38図 HZK2101地点南西エリア SD183・SK185・SP186～191平面・断面図

SK192・SP193

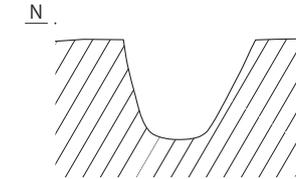


SP195

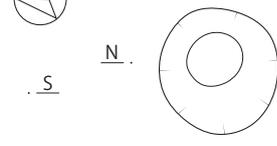


N

N



SP196

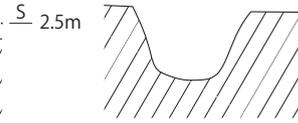


N

S

N

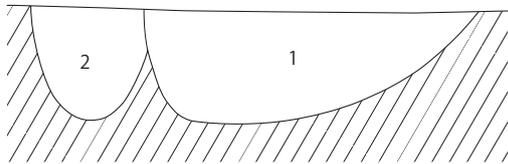
S



S 2.5m

S 2.5m

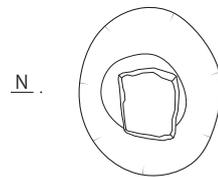
S N 2.6m



1 SK192の覆土、10YR3/2 黒褐、φ1/4～1/2mmの中砂にφ1/2～1mmの粗砂が少量混じる、しまり強い、粘性なし、炭化物含む、硬度28mm10-50kg/cm<sup>2</sup>

2 SP193の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/2～1mmの粗砂にφ1/4～1/2mmの中砂が少量混じる、しまり強い、粘性なし、硬度24mm10kg/cm<sup>2</sup>

SP204

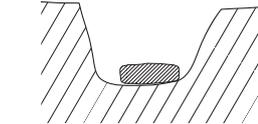


N

S

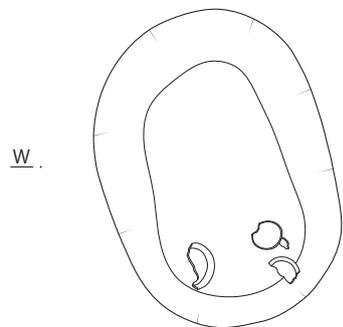
N

S



S 2.6m

SK197



W

E

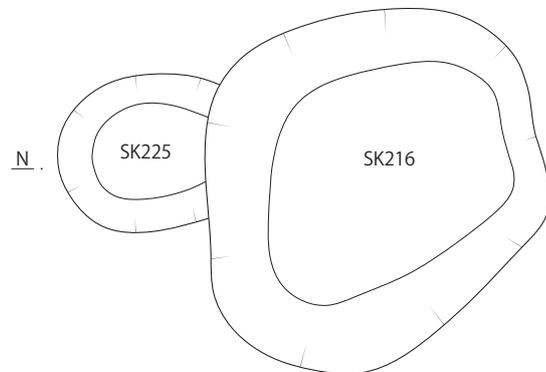
W

E



E 2.6m

SK216・SK225

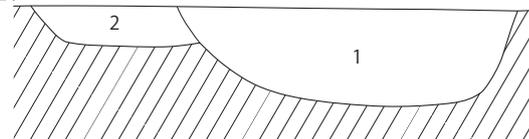


N

S

N

S



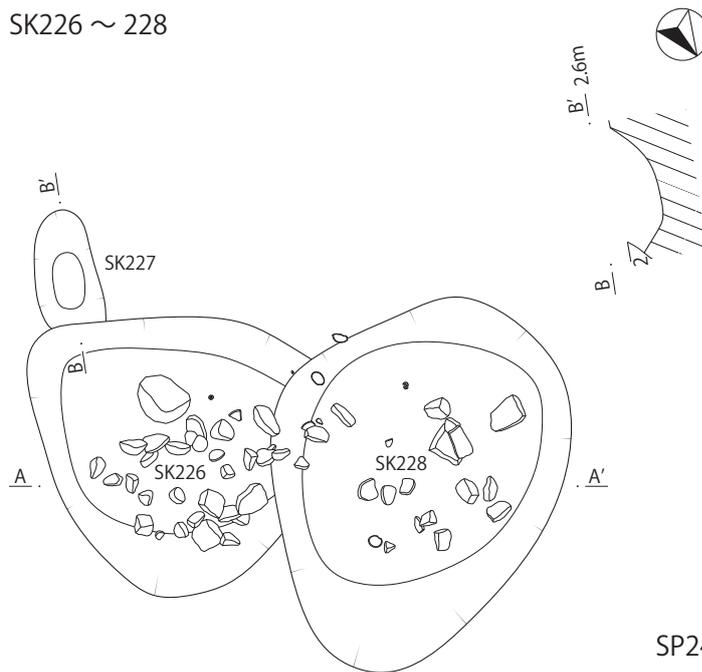
S 2.6m



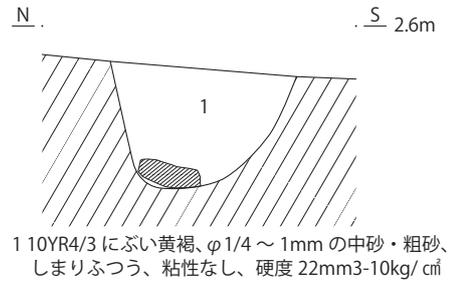
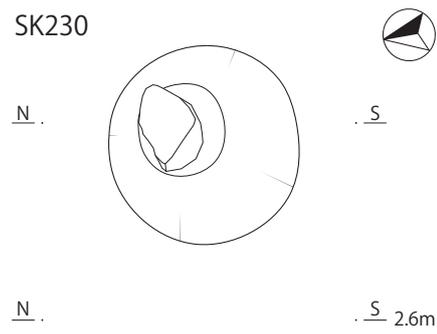
1 10YR4/4 褐、φ1/4～1/2mmの中砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>  
 2 10YR2/3 黒褐、φ1/4～1/2mmの中砂とφ1～2mmの極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

第39図 HZK2101地点南西エリア SK192・SP193・195・196・SK197・SP204・SK216・SK225平面・断面図

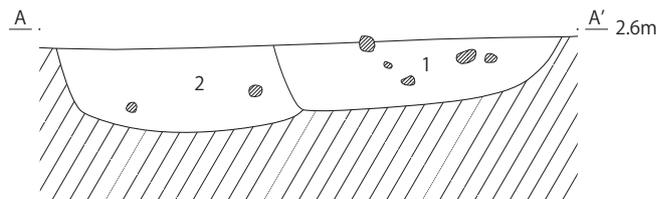
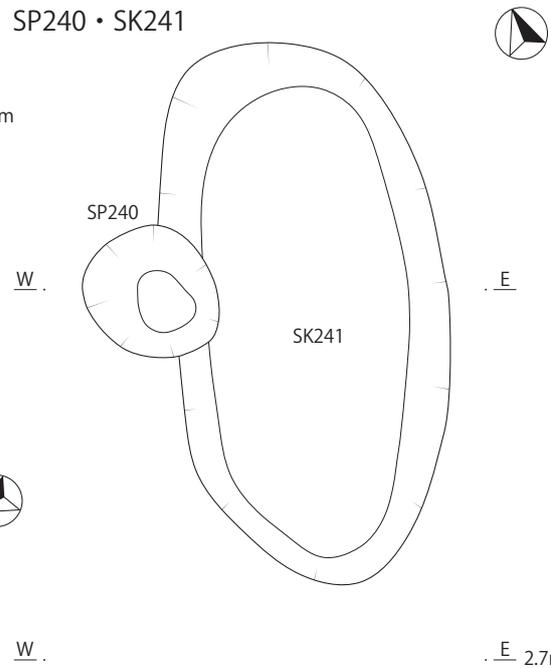
SK226 ~ 228



SK230

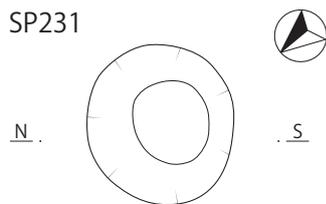


SP240・SK241

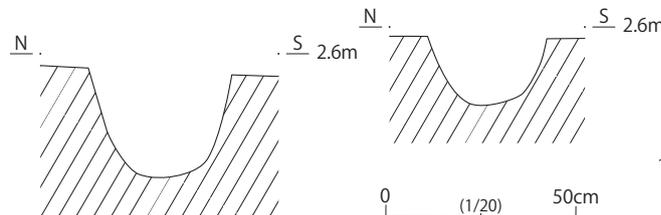
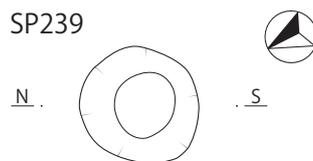


1 2.5Y3/2 黒褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$  の細砂・中砂、しまり強い、粘性なし、  
硬度 30mm10-50kg/cm<sup>2</sup>  
2 2.5Y4/4 オリーブ褐、1層と比べて黄色味が強い、粘土ブロックを含む、  
オリーブ状を呈する、 $\phi 1/8 \sim 1/4\text{mm}$  の細砂で成る、しまり強い、  
粘性ふつう、硬度 22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

SP231

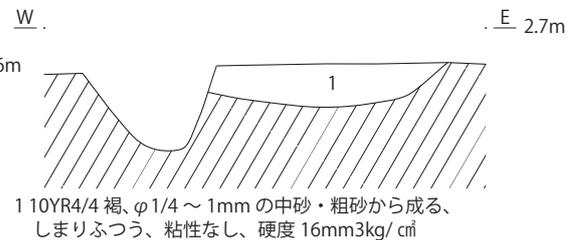


SP239



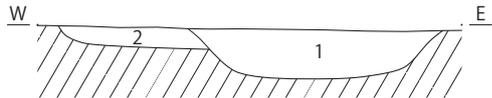
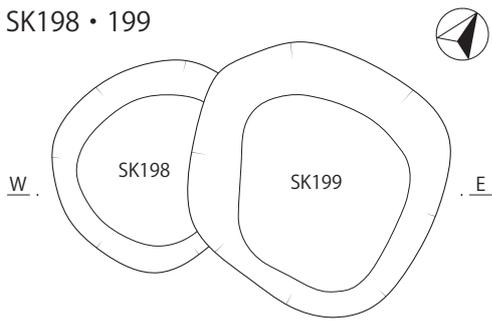
0 (1/20) 50cm

0 (SK226~228:1/40) 1m



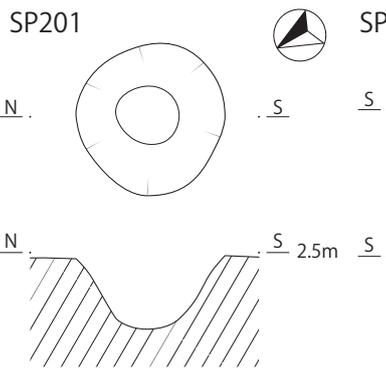
第40図 HZK2101地点 南西エリア SK226~228・230・SP231・239・240・SK241  
平面・断面図

SK198・199

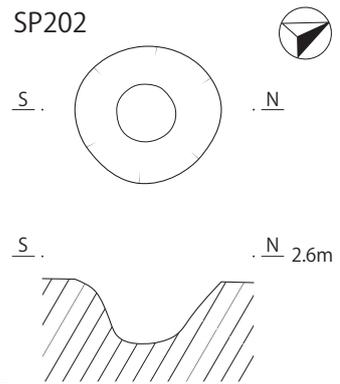


1 SK199の覆土、2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂と $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SK198の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$ の細砂・中砂と $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>

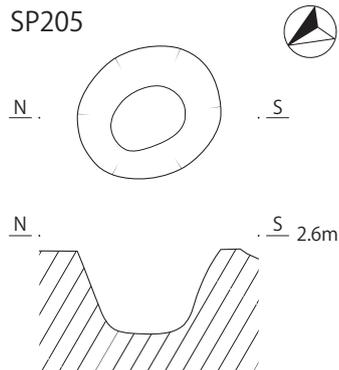
SP201



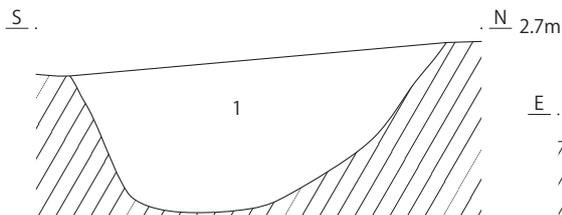
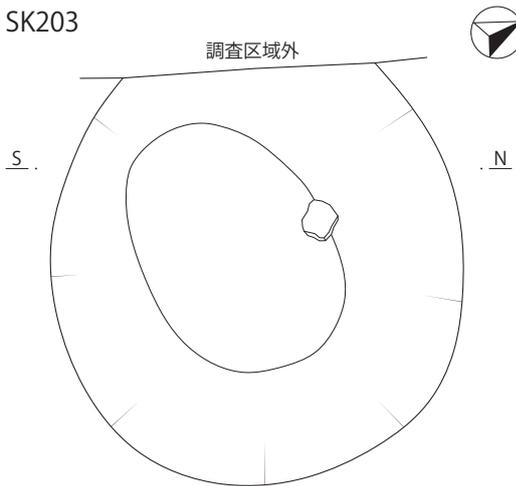
SP202



SP205

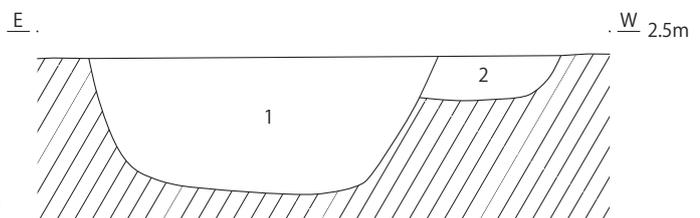
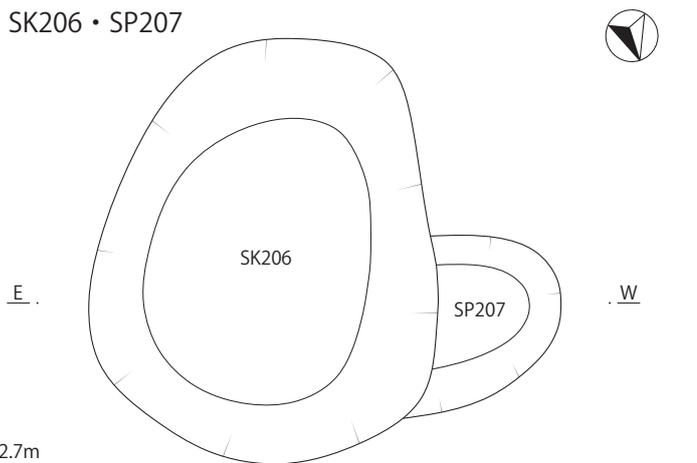


SK203

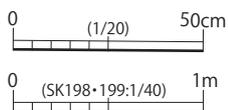


1 2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂に $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>

SK206・SP207

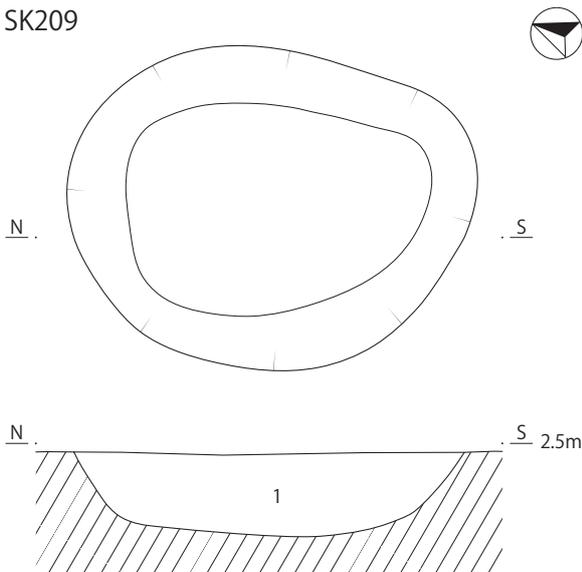


1 SK206の覆土、10YR3/4 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SP207の覆土、10YR4/4 褐、 $\phi 1\text{mm}$ 以上の極粗砂・小礫主体、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂が少量混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>



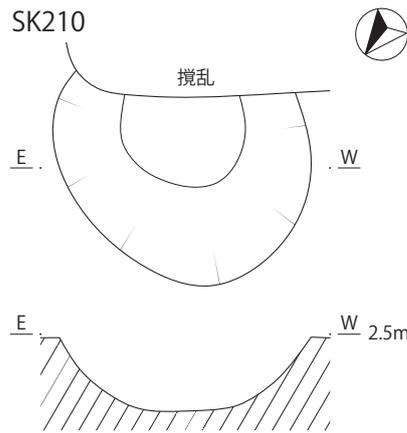
第41図 HZK2101地点南西エリア SK198・199・SP201・202・SK203・SP205・SK206・SP207平面・断面図

SK209

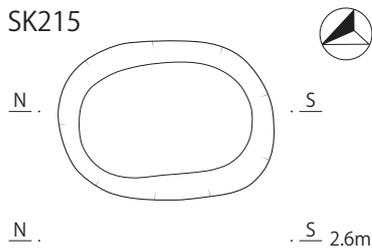


1 10YR4/4 褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$  の細砂・中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度  $22\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$

SK210

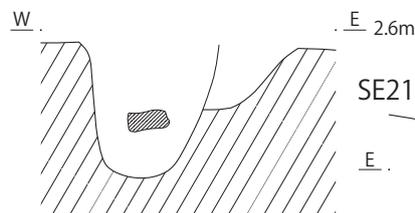
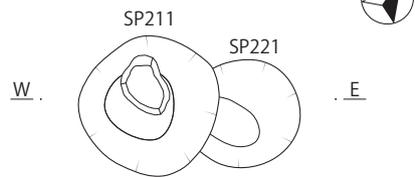


SK215

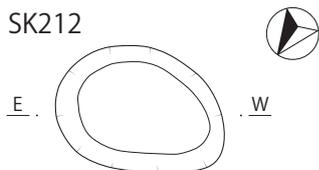


1 10YR5/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/8 \sim 1/4\text{mm}$  の細砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度  $14\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$

SP211・221

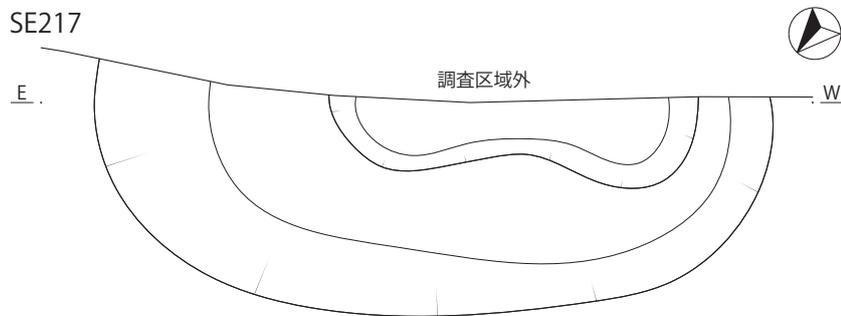


SK212

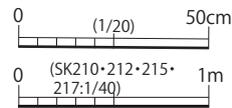


1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が少量混じる、しまり強い、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$

SE217

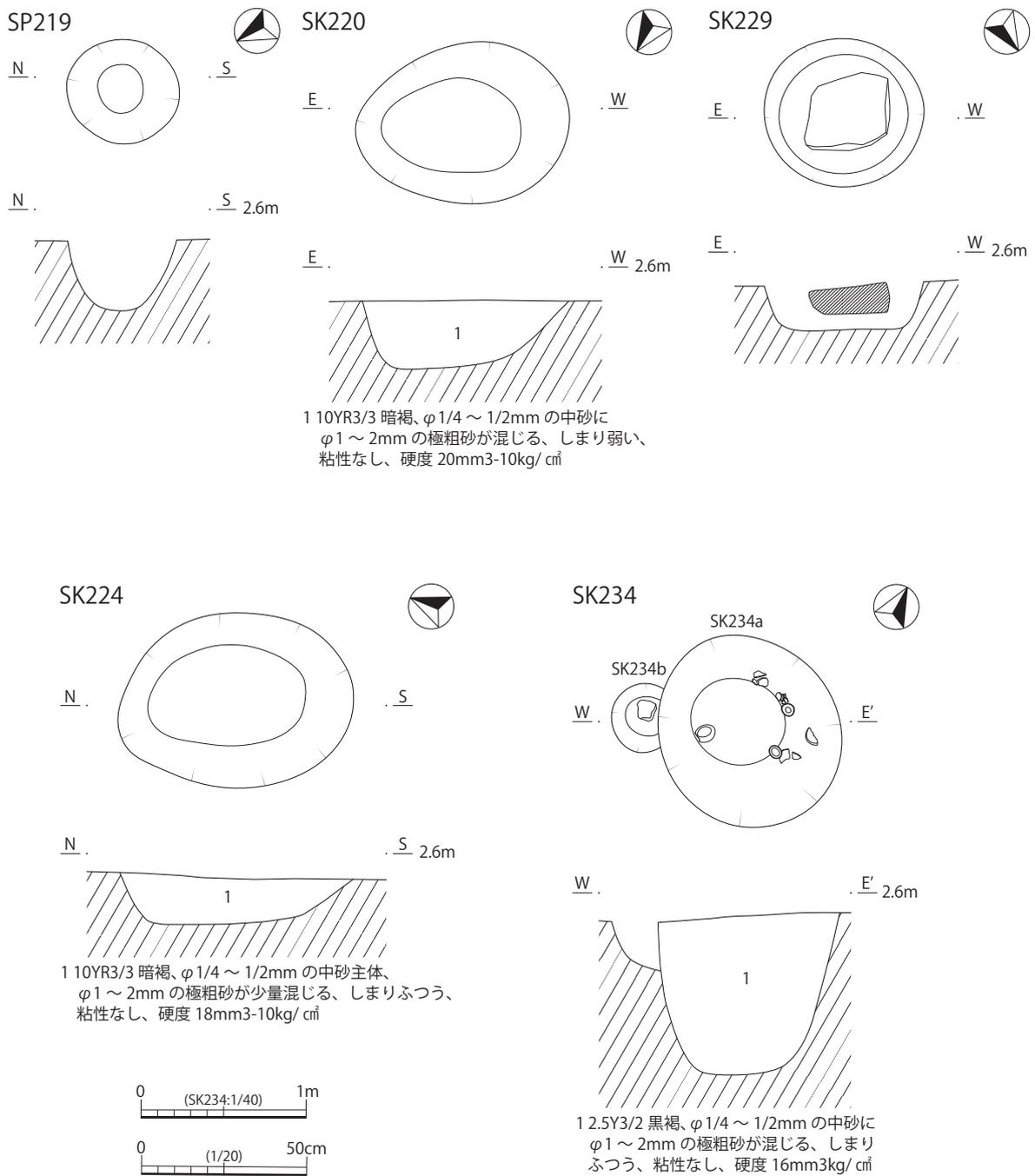


1 10YR4/4 褐、 $\phi 1/2 \sim 1\text{mm}$  の粗砂と $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度  $14\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$   
2 10YR4/2 灰黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$



第42図 HZK2101地点南西エリア SK209・210・SP211・SK212・215・SE217・SP221  
平面・断面図

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



第43図 HZK2101地点南西エリア SP219・SK220・224・229・234平面・断面図

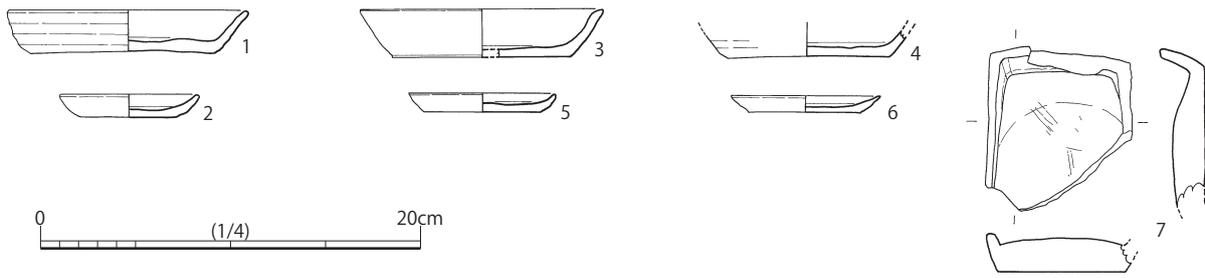
SK199出土遺物

第46図8はSK199出土の糸切り底の土師器の坏である。

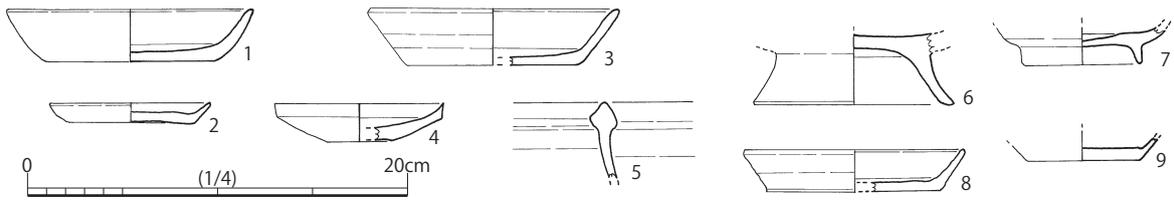
土坑 SK203（第41図）

SK203出土遺物

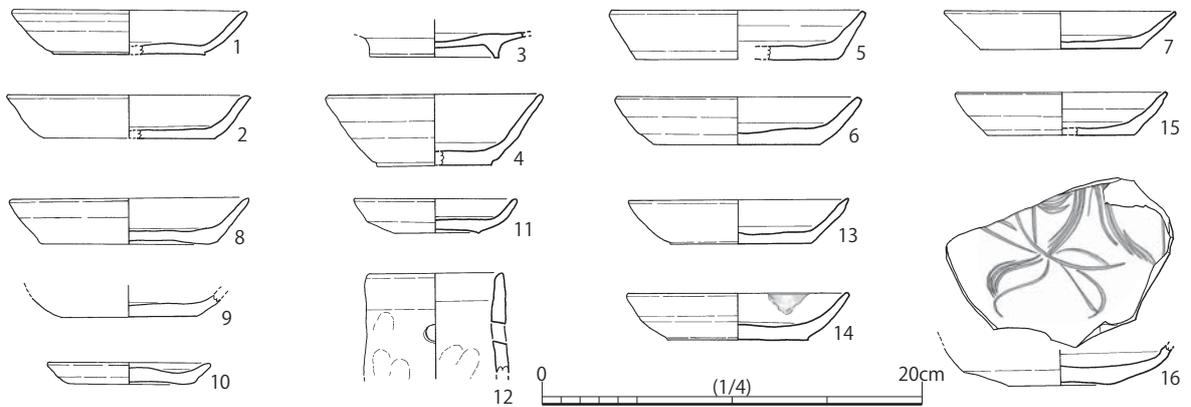
第46図11～15はSK203出土である。11は白磁皿である。素口縁で、体部はゆるく内湾し、平底である。大宰府編年の白磁皿Ⅷ-1'類で、13世紀に到って出土する傾向がある（宮崎編 2000）。12は土師質の飯蛸壺である。口縁部下に丸く穿孔する。13～15は糸切り底の土師器の坏である。14の口縁部



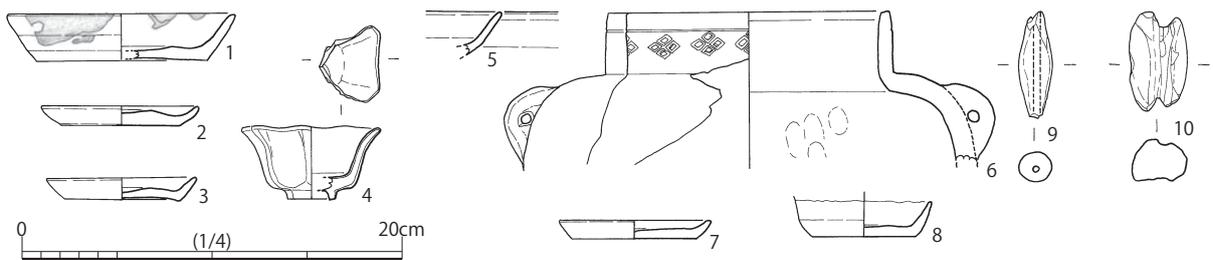
第44図 HZK2101地点出土遺物13



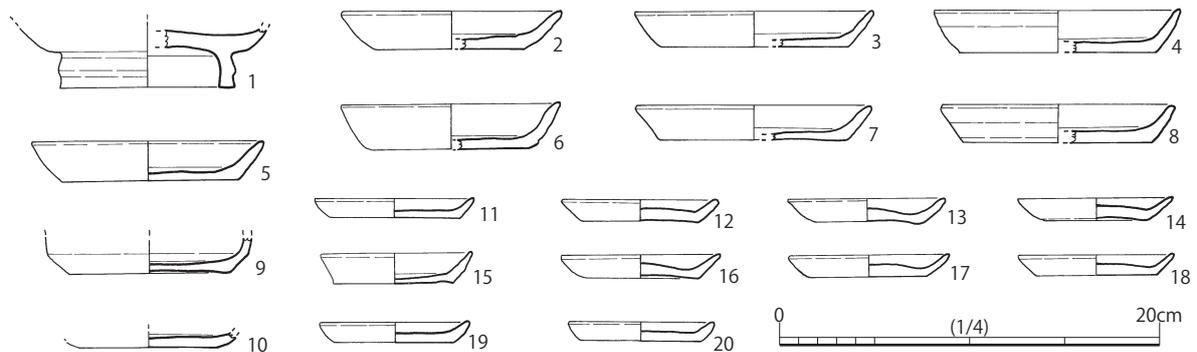
第45図 HZK2101地点出土遺物14



第46図 HZK2101地点出土遺物15



第47図 HZK2101地点出土遺物16



第48図 HZK2101地点出土遺物17

内面にはススが付着しており、灯明皿として使用された。

土坑 SK206・ピット SP207（第41図） SK206・SP207は切り合い関係にある。SK206が SP207を切っている。

土坑 SK209（第42図）

SK209出土遺物

第46図16は SK209出土の青磁皿である。見込みに片彫りで草花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁皿 I-1b 類で、12世紀中頃～13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。

土坑 SK210（第42図）

SK210出土遺物

第25図11・12は SK210出土である。11は陶器の黄釉鉄絵盤である。口縁部は肥厚し、断面四角形を呈する。大宰府編年の陶器盤 I-2b 類で、11世紀後半から12世紀前半に出現する（宮崎編 2000）。12は糸切り底の土師器の坏である。

ピット SP211・SP221（第42図） SP211と SP221は切り合い関係にある。SP211が SP221を切っている。

井戸 SE217（第42図） 井戸の可能性はある。楕円形を呈する。

土坑 SK234（第43図） 不整円形を呈する。

SK234出土遺物

第48図は SK234出土である。1は高台付の土師器の坏である。幅広い粘土帯を巻き付けて高台とし、節高台状になる。全体に器壁が厚い。2～10は糸切り底の土師器の坏である。11～20は糸切り底の土師皿である。（谷 直子）

### エリアⅢ（北西部分）

エリアⅢは、遺構の密度が最も高い。柱穴群と、サイズが大きくかつ深い土坑群が特に集中する。また、南接する HZK1703地点の石室 SX20と共通する施設も検出された。それが SK200である。当初の想定は、石組井戸であった。円形のプランが確認され、その中央に石組みが検出されたことから井戸の可能性を考えたものの、石組みを出していくなかで、内側は隅丸方形をなすことが判明する。石材には、防塁などで使われる礫岩などがあり、五輪塔の火輪も組み込んでいた。石組みの内部を掘削していくと、南半分に角礫の集中がみとめられた。角礫には石臼の破片などを含む。石組みは確認面からの深さ94cmで、床に石は敷かれぬ。ムロのような施設としての利用が想像される。

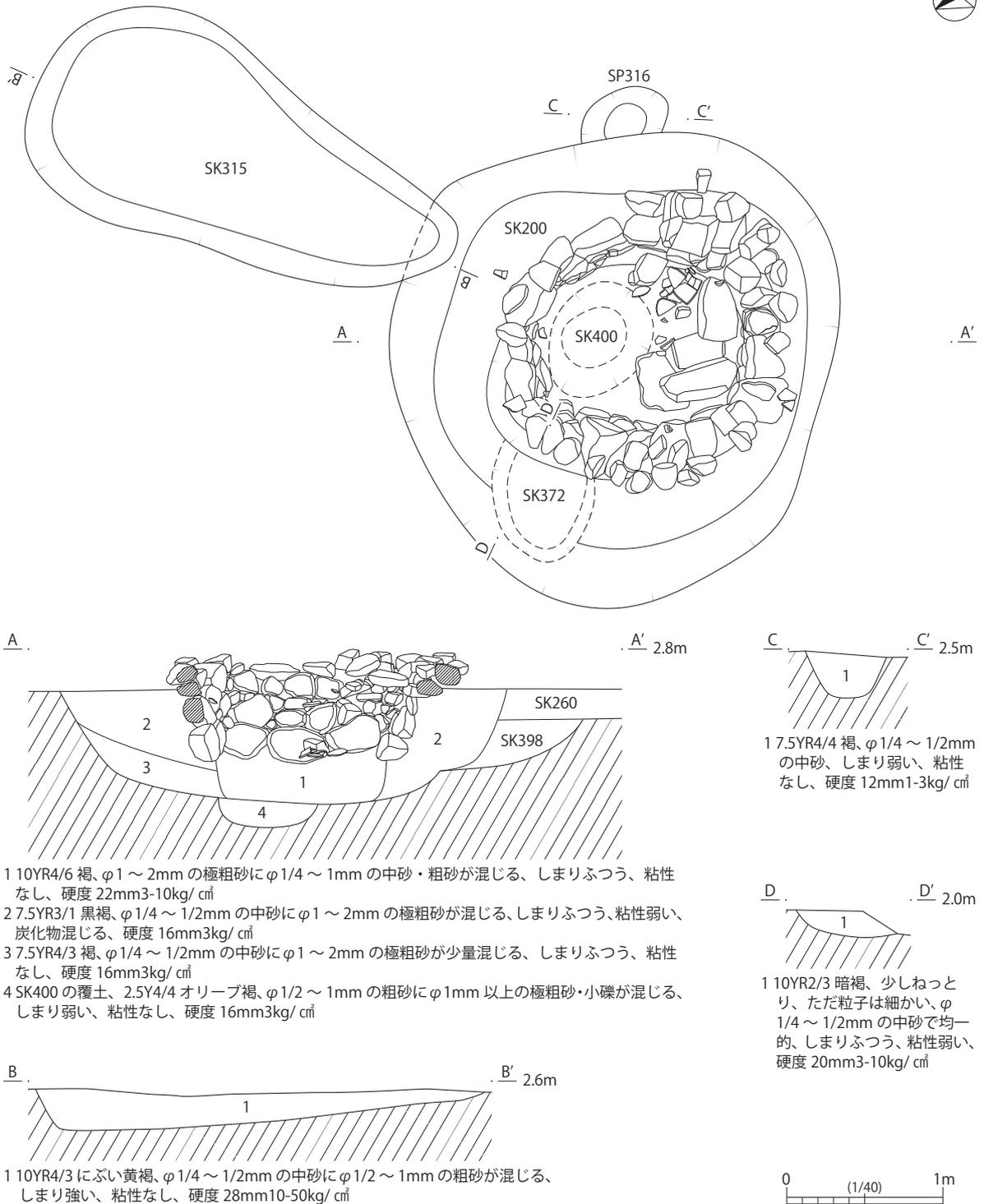
SD235は、調査区を東西に横断する大溝である。覆土は固く、鉄分が沈着しており、多少なりとも水が溜まっていた可能性を想像させる。

SK252は検出時に、瓦など大量の遺物が角礫に混じる状態で確認された遺構である。方形のプランで、中央も隅丸方形の掘り込みが認められる。

東から調査区中央に向かって延びる SD255は、調査区の中央に西端がある。西から延びてくる SD235の東端に近づくが、確認面においては接していない。他方 SD290は、南北に走る溝である。土師器碗皿類が中央部にまとまって出土した。

SE367は、SK245に先行して営まれた石組井戸で、サイズはやや小ぶりである。石組みは最も低い位置まで続いている。これは井戸枠を組んだあと、釣瓶の入るスペース分をさらに掘り下げたことを想像させる。あるいは枯渇等のトラブルにより、一定期間使用した後に再掘削したことも考えられよう。いずれにせよ、使用後は角礫を詰めて、井戸仕舞いをする。投げ込まれた礫の中には石塔の部

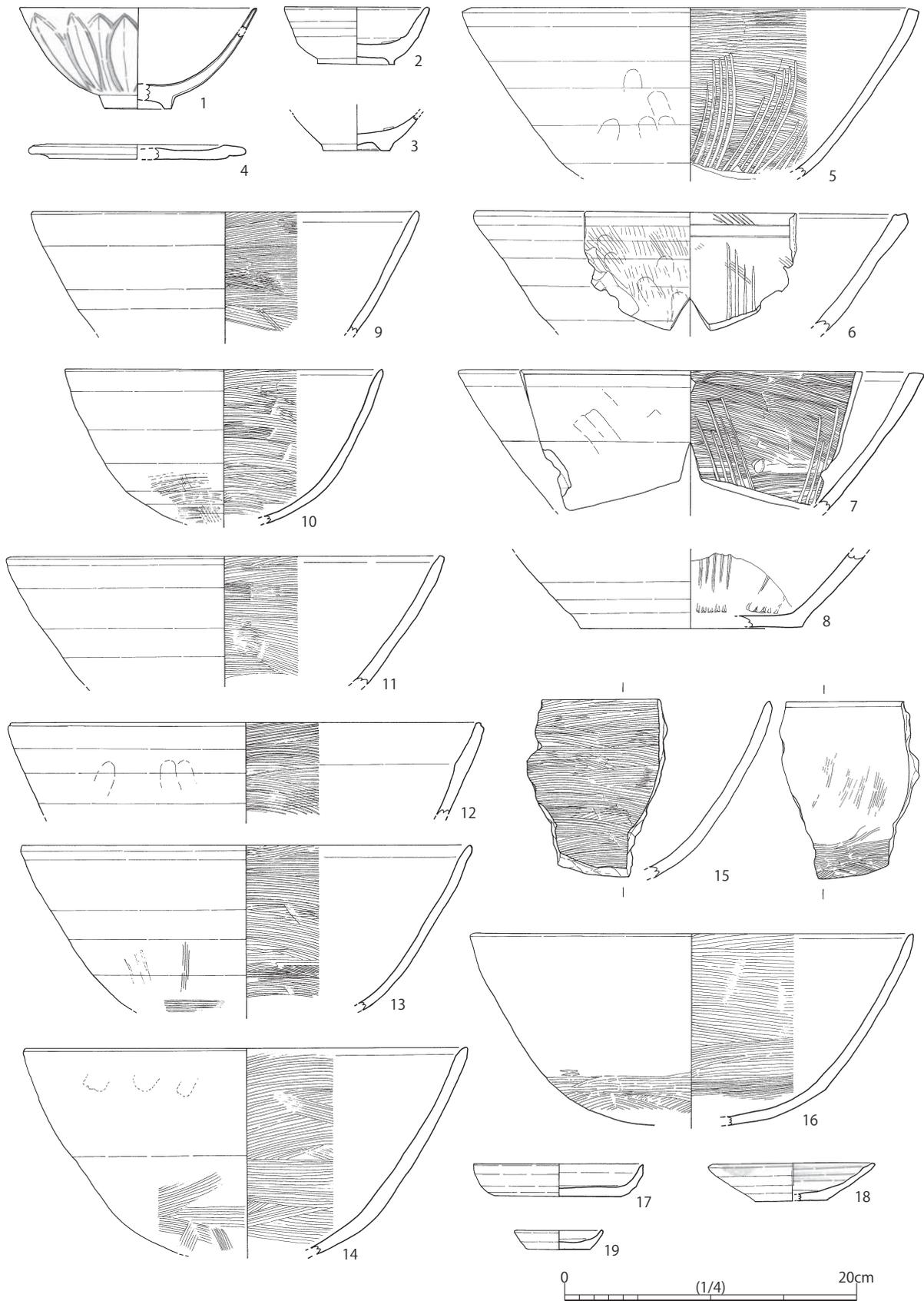
SK200・315・SP316・SK372・400



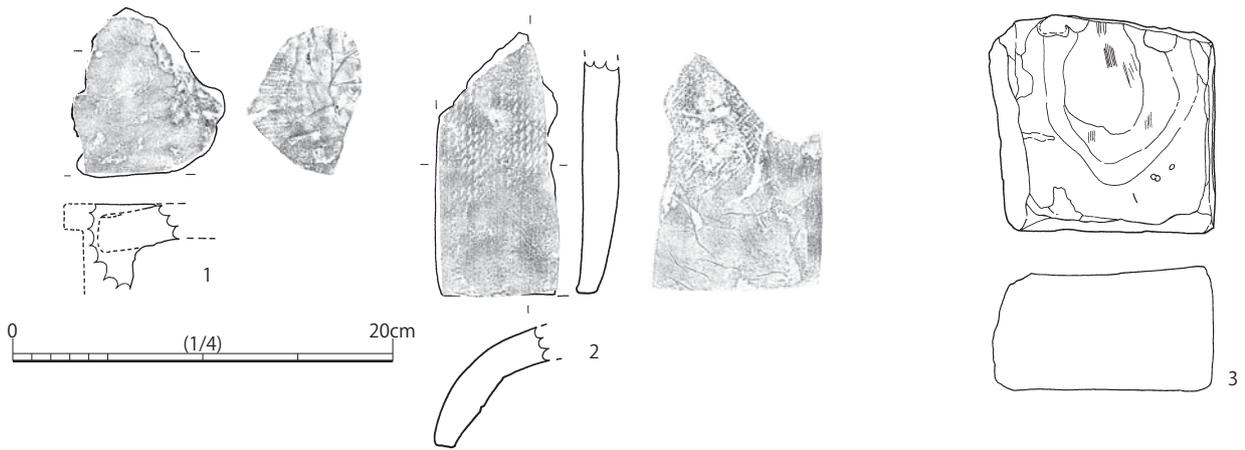
第49図 HZK2101地点北西エリア SK200・315・SP316・SK372・400平面・断面図

材を含む。

本エリアでも、エリアⅡと同様に礎石をそなえた柱穴が、いくつも検出されている。調査終了後に、编者により建物の復原が試みられ、SB-E～Kまでの7棟の建物の存在が推測されている。建物を復原する際に重要な遺構は、SP514とSK437の重複である。いずれも礎石を敷く柱穴であり、この重複



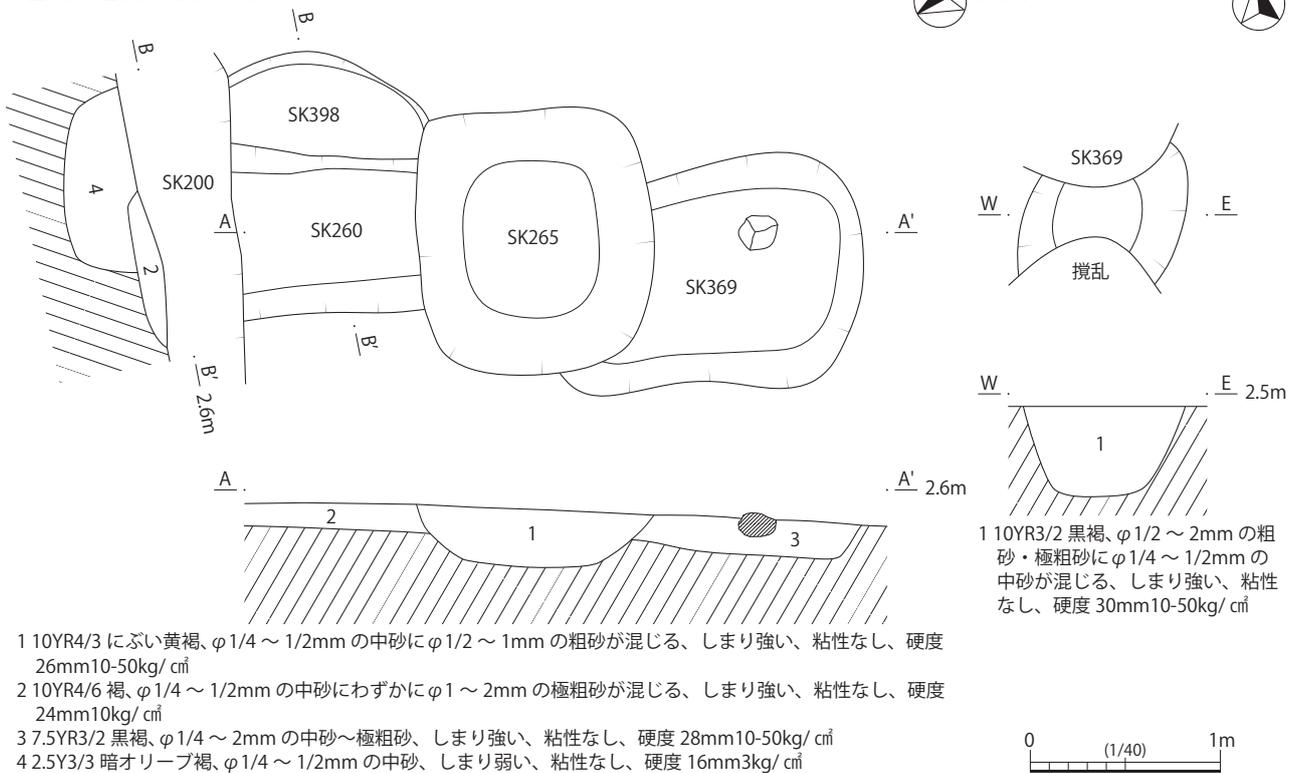
第50図 HZK2101地点出土遺物18



第51図 HZK2101地点出土遺物19

SK260・265・369・398

SK471

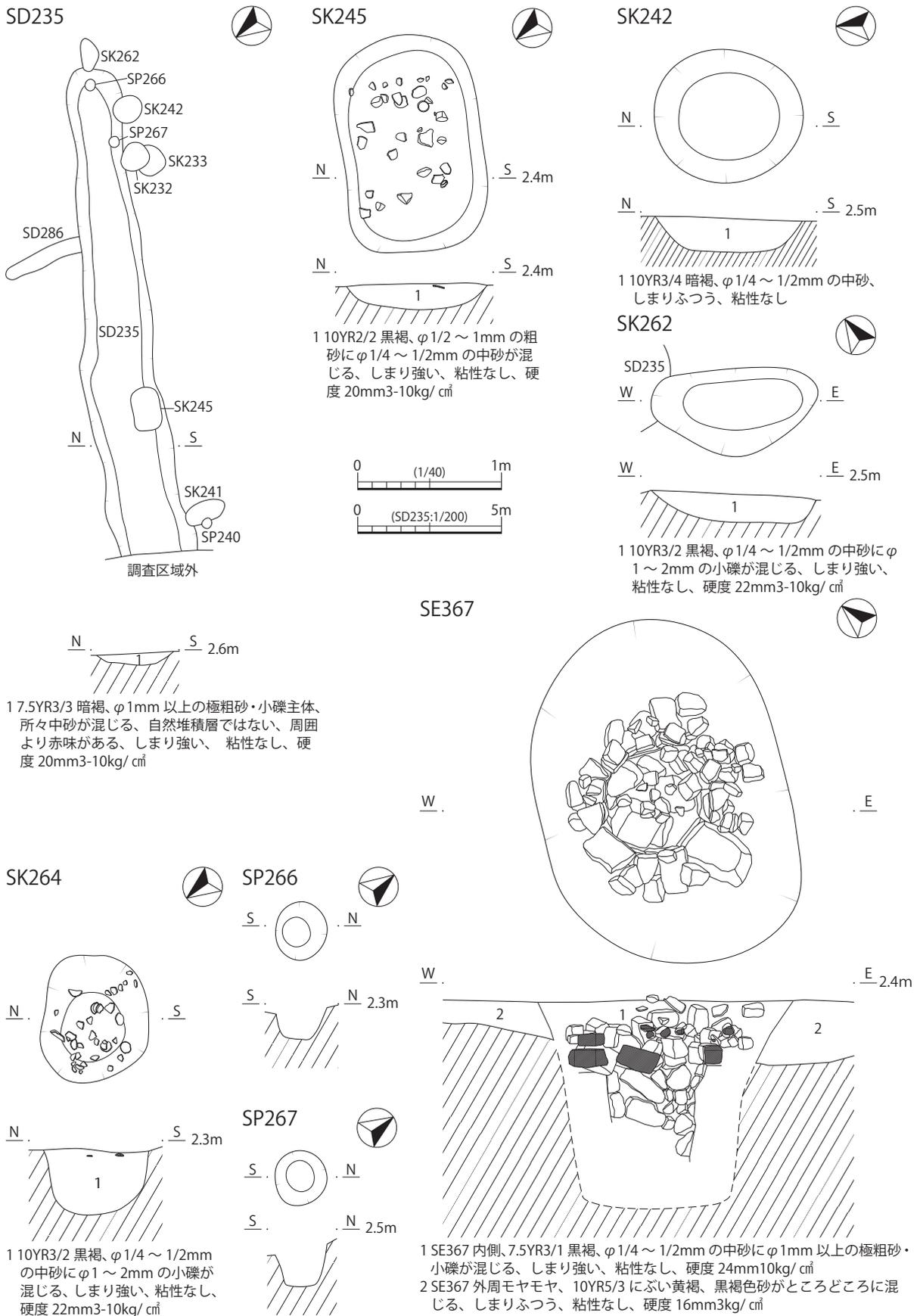


第52図 HZK2101地点北西エリア SK260・265・369・398・471平面・断面図

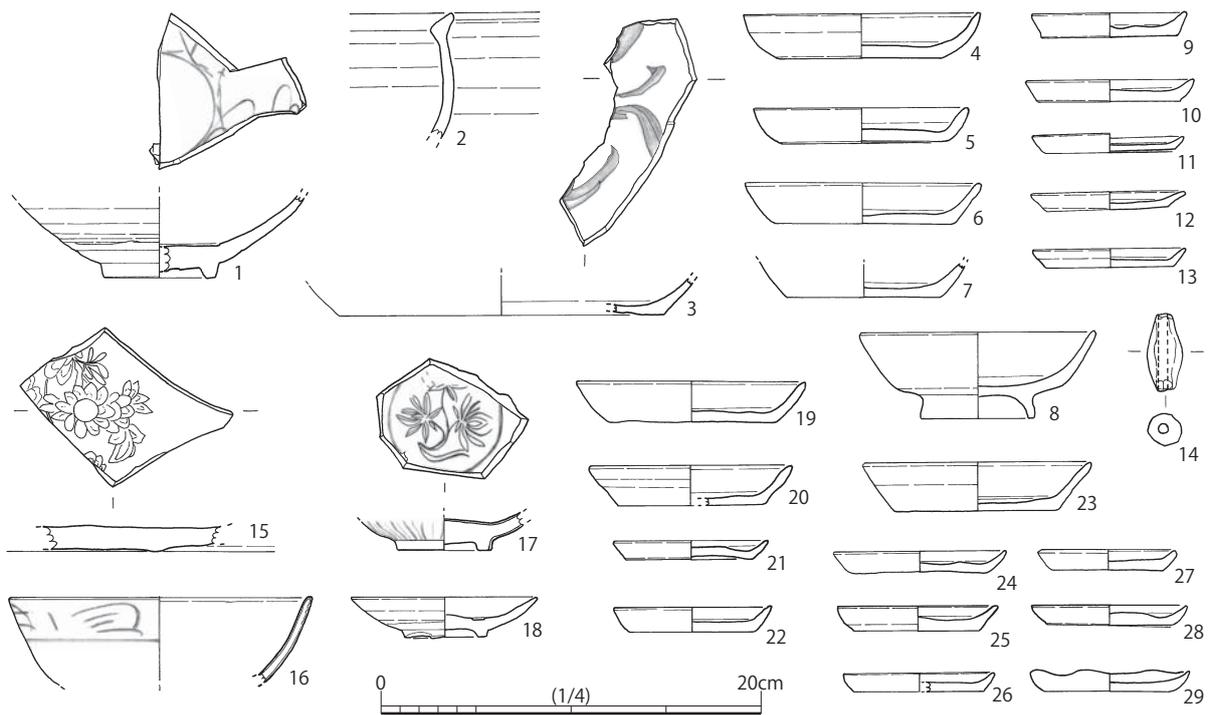
が建物の建替えが行われたことを証示する。

(齋藤瑞穂)

土坑 SK200・土坑 SK260・SK265・ピット SP316・土坑 SK369・SK372・SK398・SK400・SK471 (第49・52図) SK200は石組のムロで、その下にSK372・SK400がある。SK200はSK315・SP316・SK260を切っている。またSK200とSK260はSK398を切っている。SK265はSK260とSK369を切っており、SK369はSK471を切る。



第53図 HZK2101地点北西エリア SD235・SK242・245・262・264・SP266・267・SE367 平面・断面図



第54図 HZK2101地点出土遺物20

## SK200出土遺物

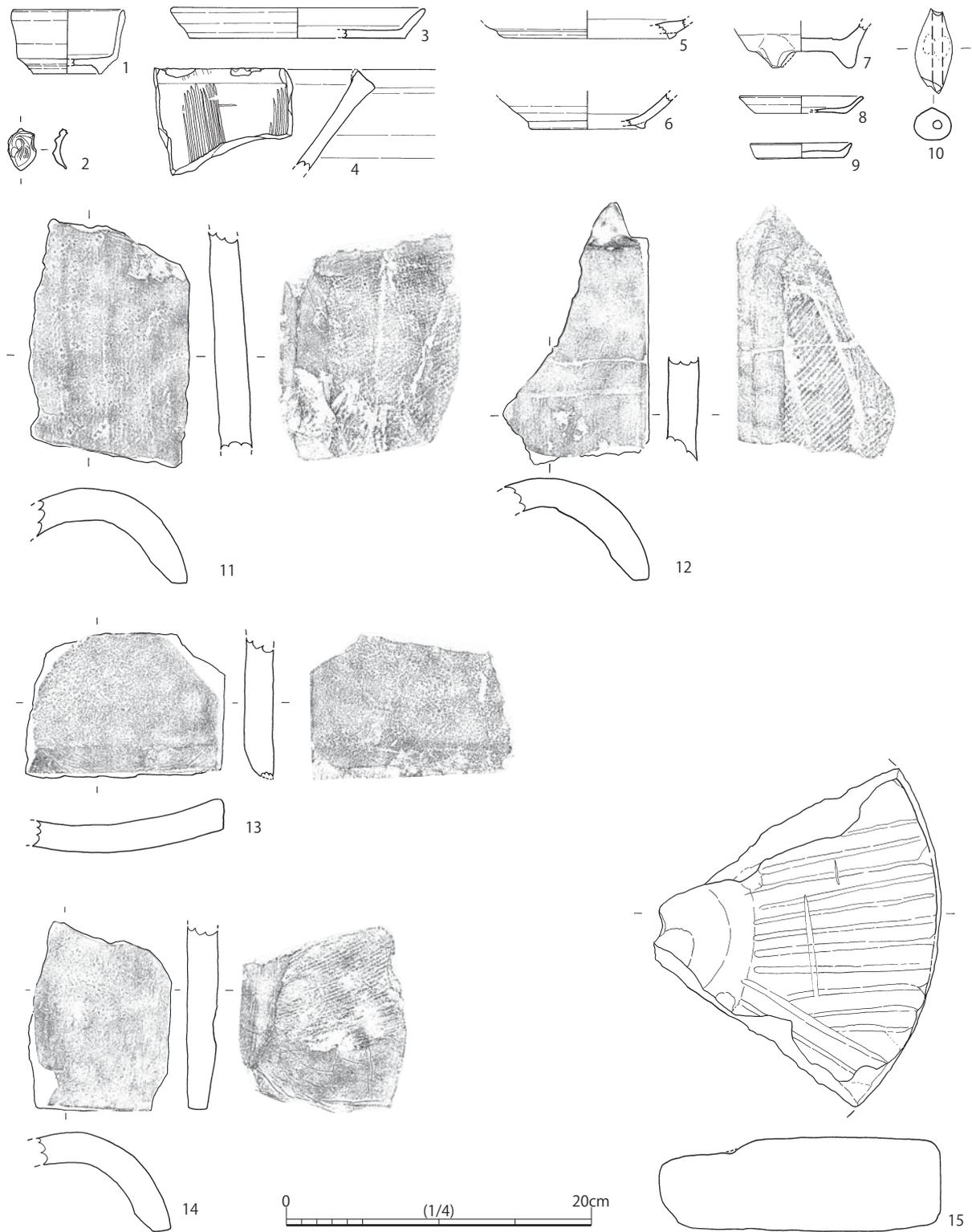
第50・51図はSK200出土である。第50図1は鎬蓮弁文の青磁碗である。低い角高台が付く。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ類で13世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。2・3は陶器である。2は浅い陶器の鉢で、体部と見込みの間に段が付き、見込みにメアトが残る。畳付のみ露胎で、体部外面には沈線状の強いナデが見られる。3は碗で畳付と見込み部分にメアトが見られる。ケズリ高台で、灰色の粗い胎土の上に透明釉をかける。2・3とも朝鮮王朝の雑釉陶器で、15世紀後半以降の所産である（佐藤 2008）。4は円盤状の瓦質土器で、容器の蓋と考えられる。5～8は土師質の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他 1997）。9～16は土師質の鍋である。いずれも素口縁で、外面にススの付く例が多い。15世紀後葉から16世紀末の所産である（山本他 1997）。17・18は糸切り底の土師器の坏である。19は糸切り底の土師皿である。第51図1は軒丸瓦である。瓦当部分はほとんど残っていない。2は丸瓦である。表面に縄目タタキ、裏面に布目と吊り紐痕が残る。3は砥石である。

溝 SD235・土坑 SK232・SK233・SK242・SK245・SK262・SK264・SK380・ピット SP266・SP267・井戸 SE367（第53図） SD235はSE367を切り、SK232・SK242・SK245・SK262・SK264・SP266・SP267に切られている。SK232はSK233を切る。SE367はSD235・SK380に切られる。

## SD235出土遺物

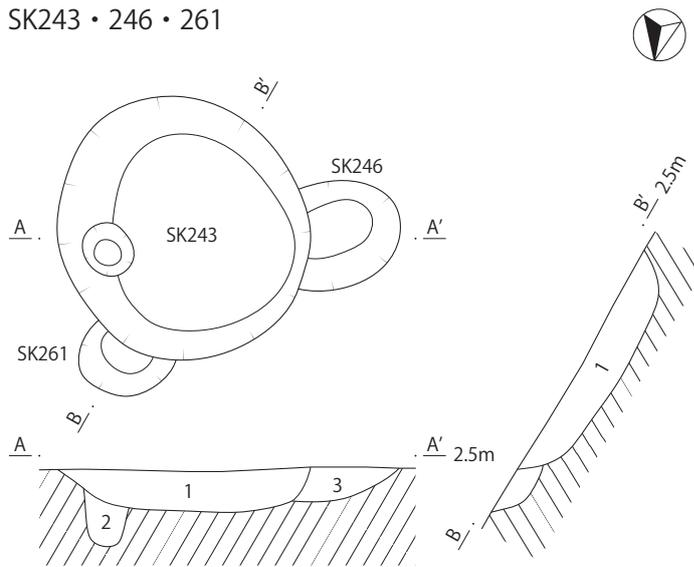
第54図1～14はSD235出土である。1は青磁碗である。低い角高台に作りは粗く、体部外面下半から高台内面まで露胎。体部内面に片彫り草花文を施す。釉は青みがかった透明釉である。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。2は陶器の鉢である。短く外反する口縁がつき、内外面とも褐釉がかかる。陶器鉢Ⅲ類で12世紀後半頃の所産である。3は陶器の黄釉葉鉄絵盤である。見込み部分に施文する。黄釉鉄絵盤は11世紀後半以降出現する（宮崎編

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



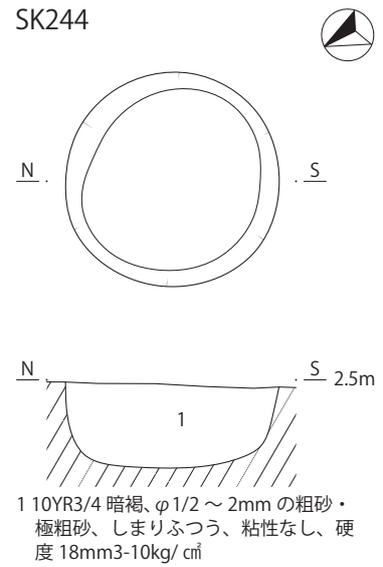
第55図 HZK2101地点出土遺物21

SK243・246・261

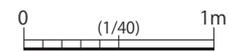


- 1 10YR4/4 褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂にφ1～2mmの極粗砂含む、しまりふつう、粘性なし
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4～1/2mmの中砂で粗砂をほとんど含まない、しまりふつう、粘性なし
- 3 SK246の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまり強い、粘性なし

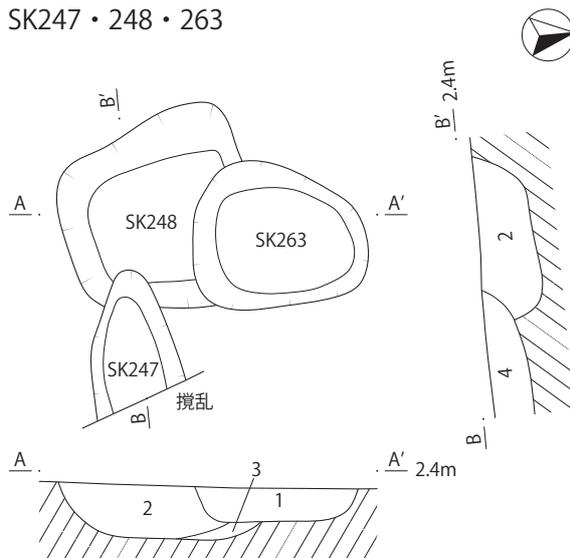
SK244



- 1 10YR3/4 暗褐、φ1/2～2mmの粗砂・極粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>



SK247・248・263



- 1 SK263の覆土、2.5Y4/2 暗灰黄、φ1/4～1/2mmの中砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 2 SK248の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/8～1/2mmの細砂・中砂、しまり強い、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂
- 4 SK247の覆土、10YR4/2 灰黄褐、φ1/4～1/2mmの中砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

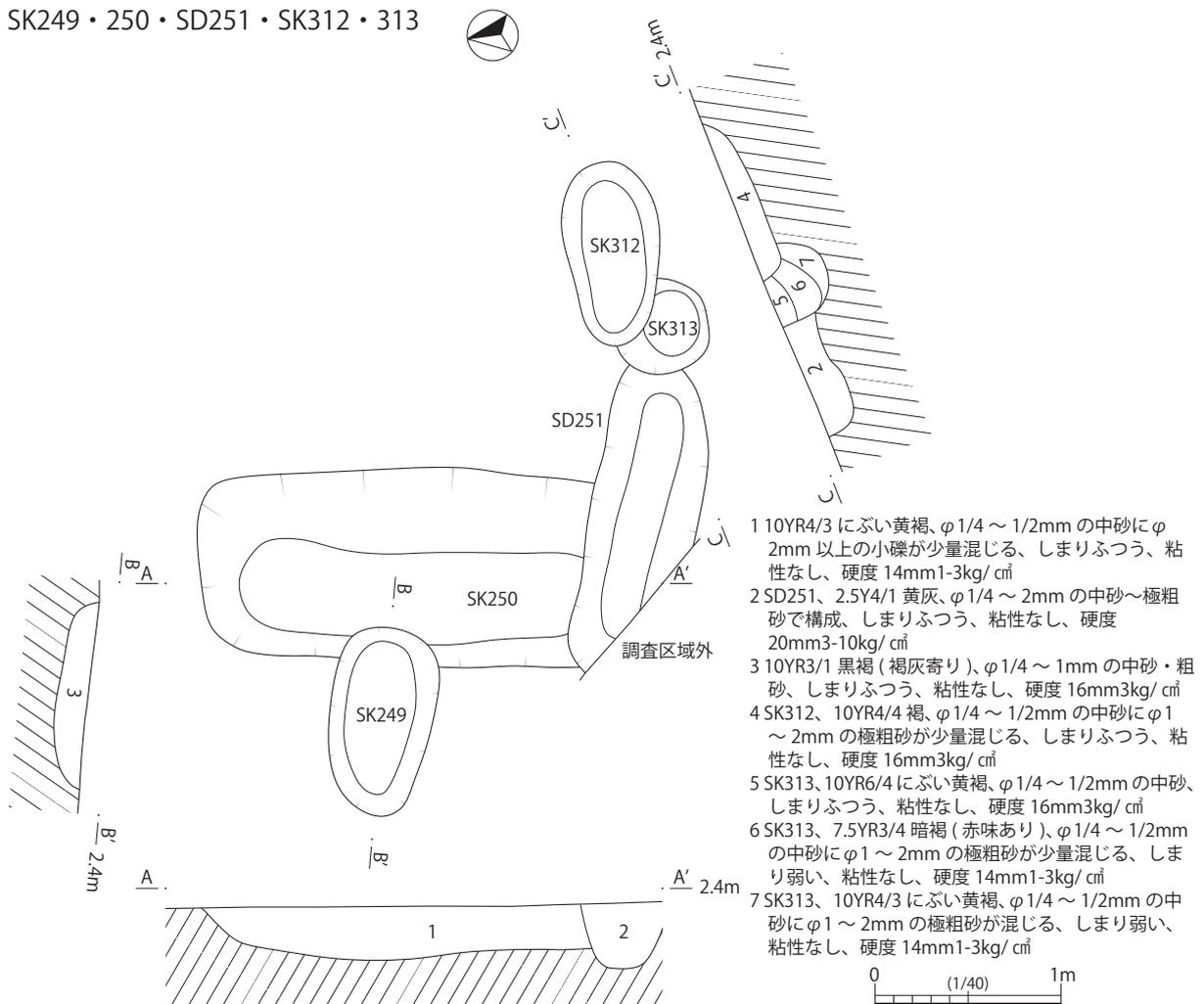
第56図 HZK2101地点北西エリア SK243・244・246～248・261・263平面・断面図

2000)。4～7は糸切り底の土師器の坏である。8は高台付の土師器の坏である。9～13は糸切り底の土師皿である。14は紡錘形を呈す土錘。

SK245出土遺物

第54図15～22はSK245出土である。15は青磁の皿底部である。見込み部分にレリーフ状に草花文

SK249・250・SD251・SK312・313



第57図 HZK2101地点北西エリア SK249・250・SD251・SK312・313平面・断面図

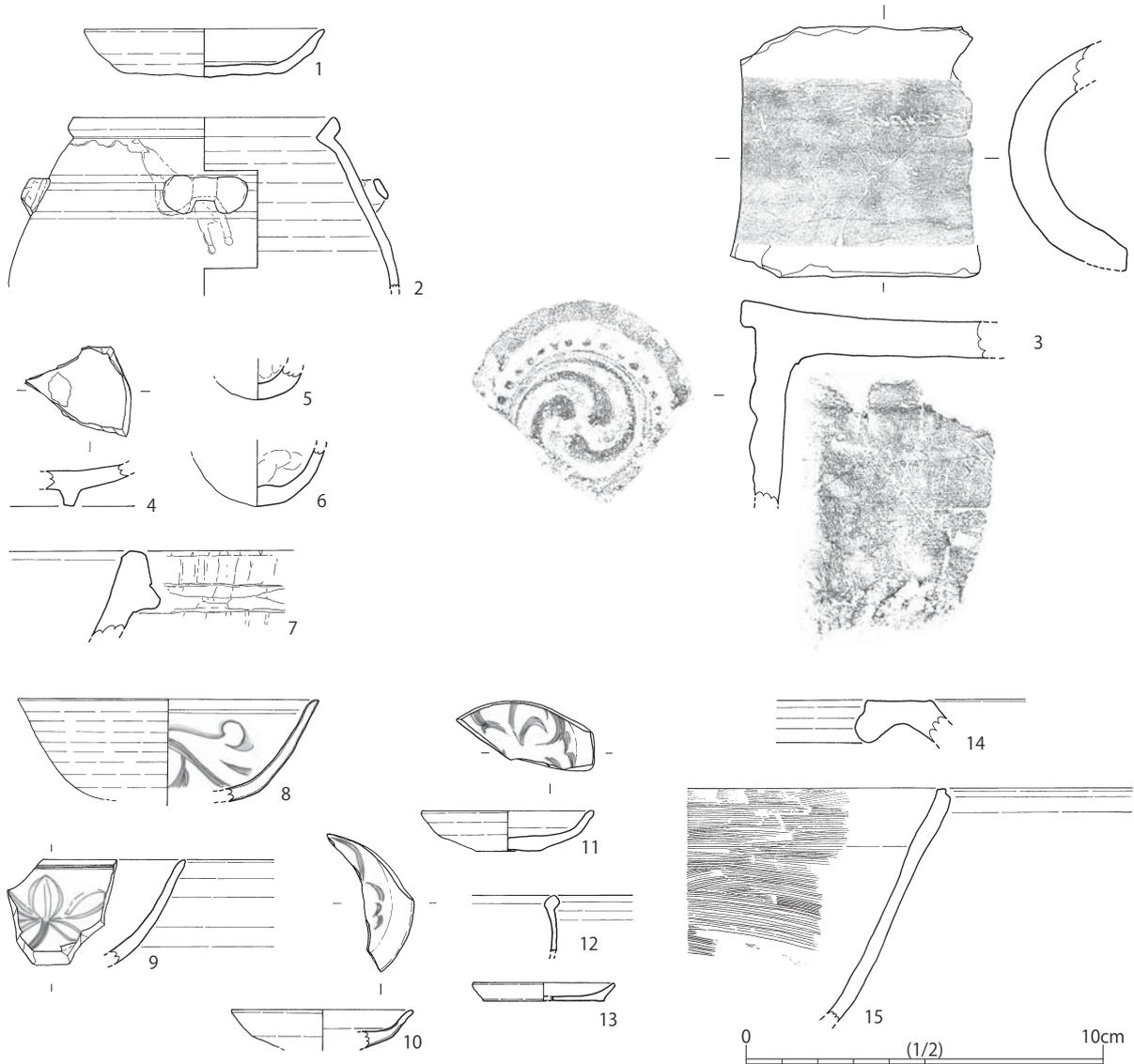
を施文する。釉は不透明で半濁し、龍泉窯系青磁皿Ⅳ類と共通している。外面には環状に露胎部分がある。14世紀以降の所産とみて良い。16は青磁碗である。口縁部外面に雷文から変化した文様を施す。龍泉窯系青磁碗Ⅳ類で14世紀以降の所産である。17は外面に鎬蓮弁文を施す青磁碗で、見込み部分に細い草花文様を印刻する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ-c類である。草花文印の例は遅れて出土する傾向があり、17も釉調や鎬蓮弁文は皿類に似るが、高台は低い角高台でⅡ類の特徴を持つ。13世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。18は白磁皿である。高台の暈付に刳り込みを入れており、接地面は4か所となる。体部下半から高台内面まで露胎で、4か所の接地面のみ施釉。内面は施釉で見込み部分に四角のメアトが4か所残る。19・20は糸切り底の土師器の坏である。21・22は糸切り底の土師皿である。

#### SK264出土遺物

第54図23～29はSK264出土である。23は糸切り底の土師器の坏である。24～29は糸切り底の土師皿である。

#### SE367出土遺物

第55図はSE367出土である。1は白磁の小碗である。全体に削り出して成形しており、口縁部内面

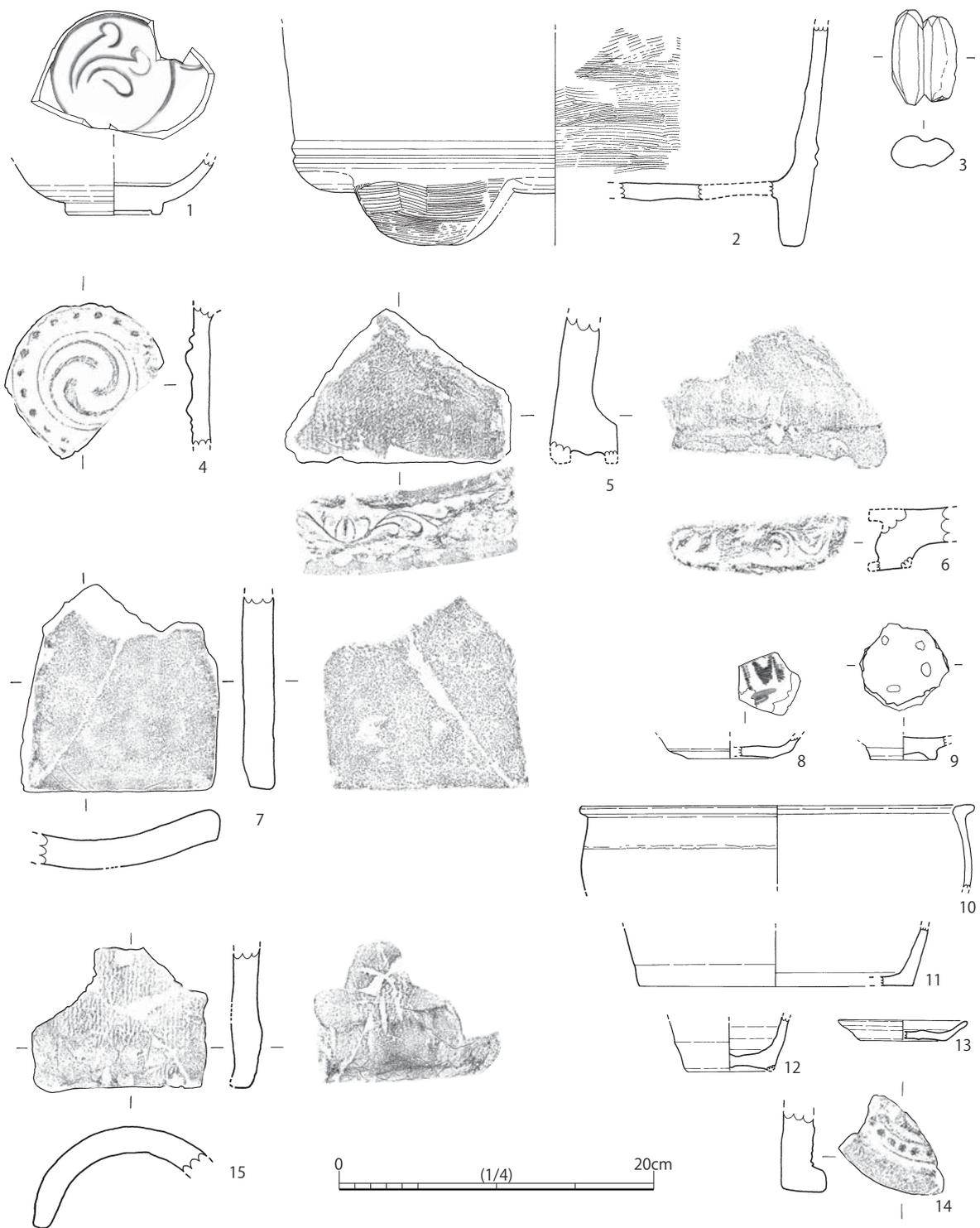


第58図 HZK2101地点出土遺物22

と体部外面上半に施釉し、口禿である。胎土や成形技法、釉調は大宰府編年の白磁碗区類と大差ない。白磁碗区類は13世紀後半～14世紀前半に増加する（宮崎編 2000）。2は白磁で、外面にレリーフ状の文様が付く。器外面の装飾に貼り付けたものが剥離したと思われる。3は須恵器の坏である。平底で口径に比して器高は低い。8～9世紀の所産であろう。4は土師質の播鉢である。化粧土がかかりスリ溝が付く。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他 1997）。5・6は瓦質土器の碗で、粘土紐を巻き付けて低い高台とする。7は土師器の三足器で、坏状の底部外面に糸切り痕が付く。脚部は断面三角形を呈する。8・9は糸切り底の土師皿である。10は紡錘形を呈する土錘。11・12・14は丸瓦である。いずれも表面に縄目タタキ、裏面にコビキAと布目が残る。13は平瓦で、端部を面取りする。15は石臼の固定臼である。中央に軸受けがあり、放射状にスリ溝が付く。

土坑 SK243・SK246・SK261（第56図） SK243・SK246・SK261は切り合い関係にある。SK243がSK246とSK261を切っている。

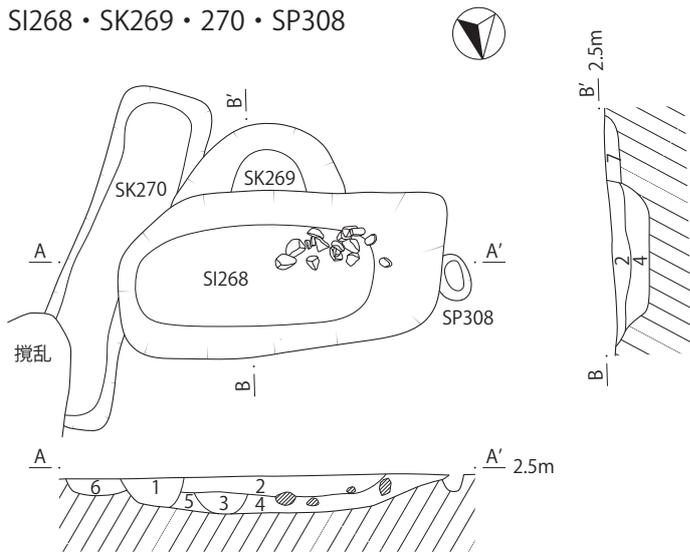
土坑 SK247・SK248・SK263（第56図） SK247・SK248・SK263は切り合い関係にある。SK248をSK247とSK263が切っている。



第59図 HZK2101地点出土遺物23

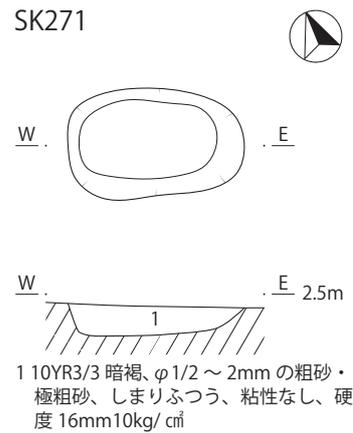
土坑 SK249・SK250・溝 SD251・土坑 SK312・SK313（第57図） SK249・SK250・SD251・SK313・SK312は切り合い関係にある。SK250をSK249とSD251が切っており、SK313がSD251を切る。SK313はSK312に切られている。

SI268・SK269・270・SP308



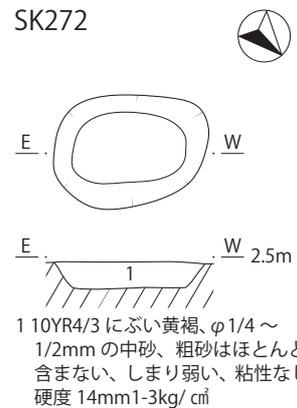
- 1 SI268の覆土、10YR3/1 黒褐、φ1/8～1/2mmの細砂・中砂、しまりふつう、粘性なし、硬度22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 SI268の覆土、10YR3/1 黒褐、φ1/2～1mmの中砂・粗砂にφ1mm～2mmの極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 3 SI268の覆土、10YR4/1 褐灰、φ1/8～1/2mmの細砂・中砂にφ1mm以上の極粗砂・小礫が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度24mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 4 SI268の覆土、10YR4/4 褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 5 SI268の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4～1/2mmの中砂にφ1mm以上の極粗砂・小礫含む、しまり弱い、粘性なし、硬度12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 6 SK270の覆土、10YR3/4 暗褐、φ1/4～1/2mmの均一の中砂に、φ2mm以上の小礫を含む、しまりふつう、粘性なし、硬度14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 7 SK269の覆土、7.5YR3/1 黒褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、粘性なし

SK271



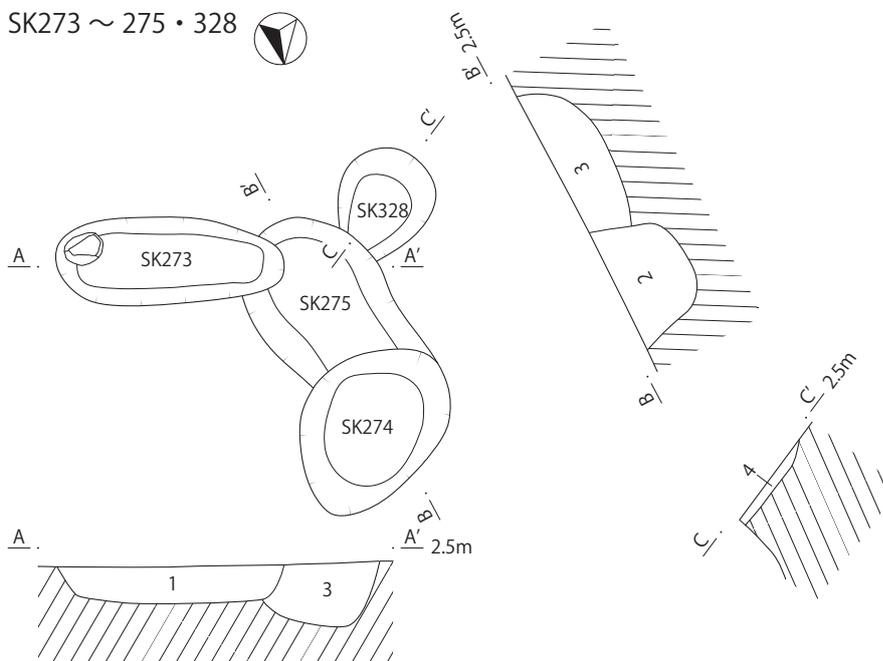
- 1 10YR3/3 暗褐、φ1/2～2mmの粗砂・極粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度16mm10kg/cm<sup>2</sup>

SK272

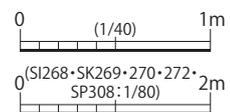


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4～1/2mmの中砂、粗砂はほとんど含まない、しまり弱い、粘性なし、硬度14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK273～275・328



- 1 SK273の覆土、10YR2/2 黒褐（黒褐の中でも濃い茶色寄り）、φ1/4～1/2mmの中砂、しまりふつう、粘性なし、硬度22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 SK274の覆土、10YR3/2 黒褐、φ1/4～1/2mmの中砂とφ1～2mmの極粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、硬度22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 3 SK275の覆土、7.5YR2/3 極暗褐、少し赤味あり、φ1/4～1/2mmの中砂、しまりふつう、粘性なし、硬度14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 4 SK328の覆土、10YR4/4 褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、しまり弱い、粘性なし、硬度8mm1kg/cm<sup>2</sup>



第60図 HZK2101地点北西エリア SI268・SK269～275・SP308・SK328平面・断面図

SK312出土遺物

第58図3はSK312出土の軒丸瓦である。瓦当は三巴文の外に圈線が1条めぐり、連珠文で飾る。表面は縄目タタキの後、工具でナデる。裏面はコビキAと布目が見られる。

土坑SK252・SK253・SK254・SD255・SK256・SK257・SK281・SP314・SK338（第70図）SK252・SK253・SK254・SD255・SK256・SK257・SK281・SP314・SK338は切り合い関係にある。SK338が最初に構築された後、SK257→SK256→SD255→SK253の順に構築される。SD255の北東部隅では、SK281→SD255→SK254の順に構築される。またSK256はSP314に切られる。

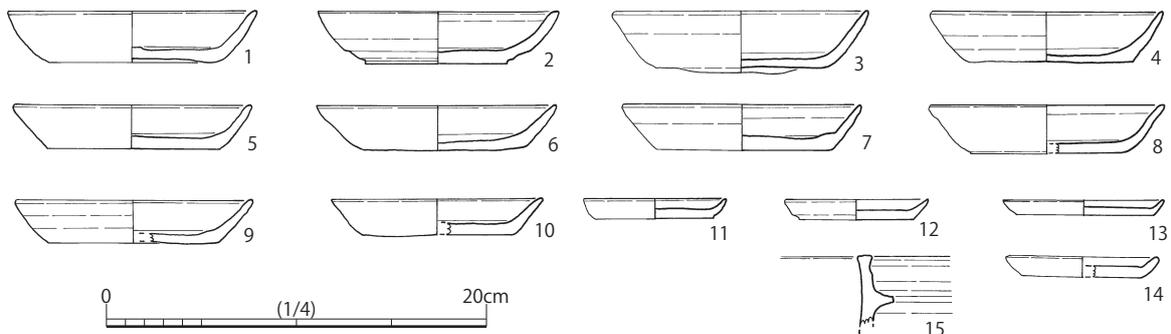
SK252出土遺物

第59図1～7はSK252出土である。1は見込みに片彫り草花文を施す青磁碗である。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-2類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。2は土師質の火鉢である。半円形の足が三足付き、底部付近に2条の突帯がめぐる。3は滑石製石錘である。4は軒丸瓦の瓦当部分である。三巴文の外に圈線が1条めぐり、連珠文で飾る。5・6は軒平瓦である。5は蓮華唐草文で、中心部につばみ状の表現が見られる。隅切瓦の可能性が高い。

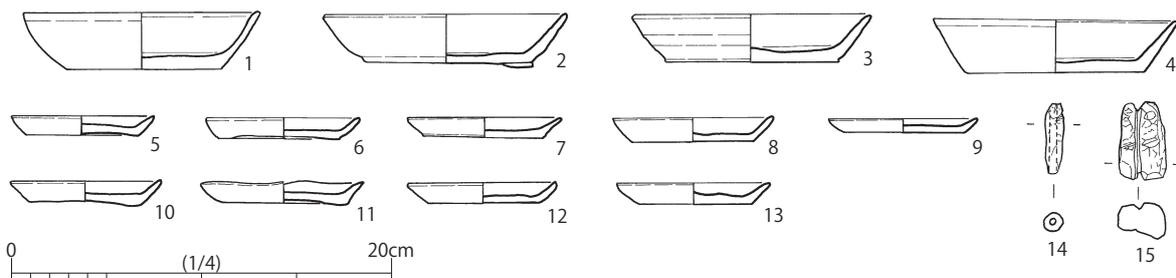
14世紀初頭から末の所産である（松田他 2019）。6は唐草文のみが残存する。7は平瓦である。

SK338出土遺物

第59図8～15はSK338出土である。8は青磁皿で、見込み部分にジグザグの点描文を施す。大宰府編年の同安窯系青磁皿I類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。9は陶器碗で見込み部分にメアトが見られる。ケズリ高台で、灰色の粗い胎土の上に透明釉をかける。朝鮮王朝の雑釉陶器で、15世紀後半以降の所産である（佐藤 2008）。10・11は同一個体の陶器の黄釉盤である。11は遺構外出土。短いL字状口縁部外面下から内面にかけて施釉する。12は陶器壺底部で、回転ヘラケズリで成形する。13は糸切り底の土師皿である。14は軒丸瓦である。巴文の一部が残存し、

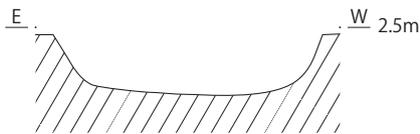
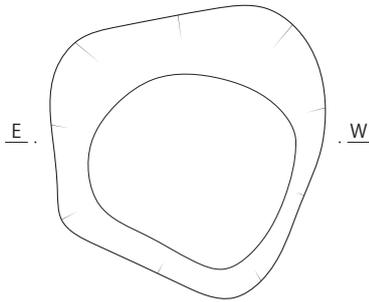


第61図 HZK2101地点出土遺物24

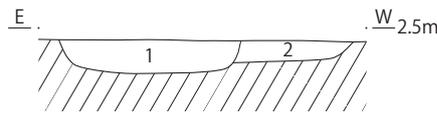
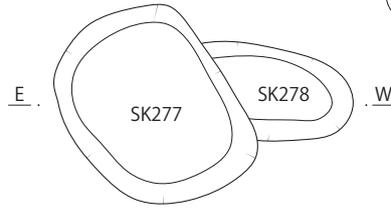


第62図 HZK2101地点出土遺物25

SK276

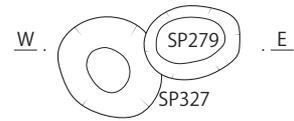


SK277・278



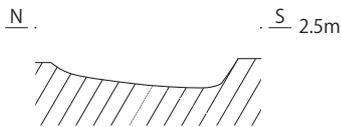
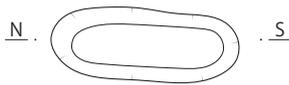
1 SK277の覆土、10YR4/2 灰黄褐、 $\phi$  1mm 以上の極粗砂・小礫主体で $\phi$ 1/4 ~ 1/2mmの中砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SK278の覆土、2.5Y4/4 オリーブ褐、 $\phi$ 1 ~ 2mmの極粗砂と $\phi$ 1/4 ~ 1/2mmの中砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>

SP279・327

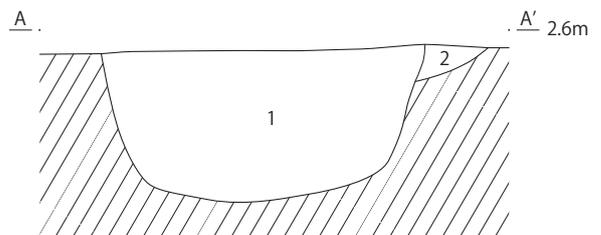
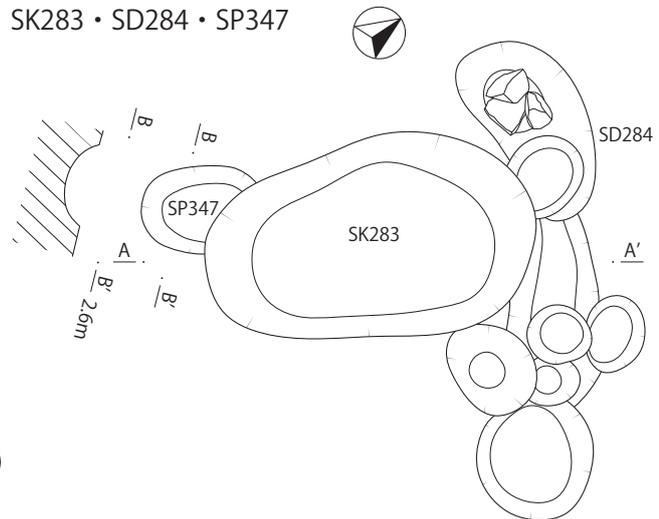


1 10YR3/1 黒褐、 $\phi$ 1/4 ~ 1/2mmの中砂に $\phi$ 1 ~ 2mmの極粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 24mm3-10kg/cm<sup>2</sup>  
 2 10YR4/2 灰黄褐、 $\phi$ 1/4 ~ 1/2mmの中砂、しまりふつう、粘性なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SP280

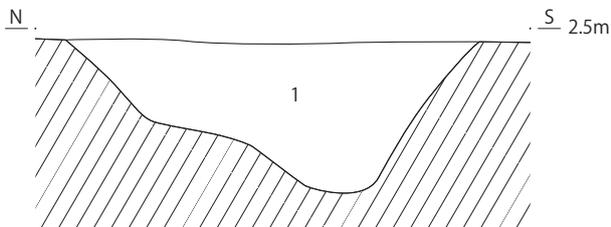
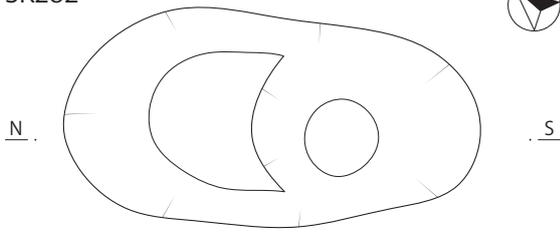


SK283・SD284・SP347

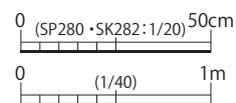


1 SK283の覆土、 $\phi$ 1/8 ~ 1/2mmの細砂・中砂に $\phi$ 1/2 ~ 1mmの粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SD284の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/4 ~ 2mmの中砂~極粗砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

SK282

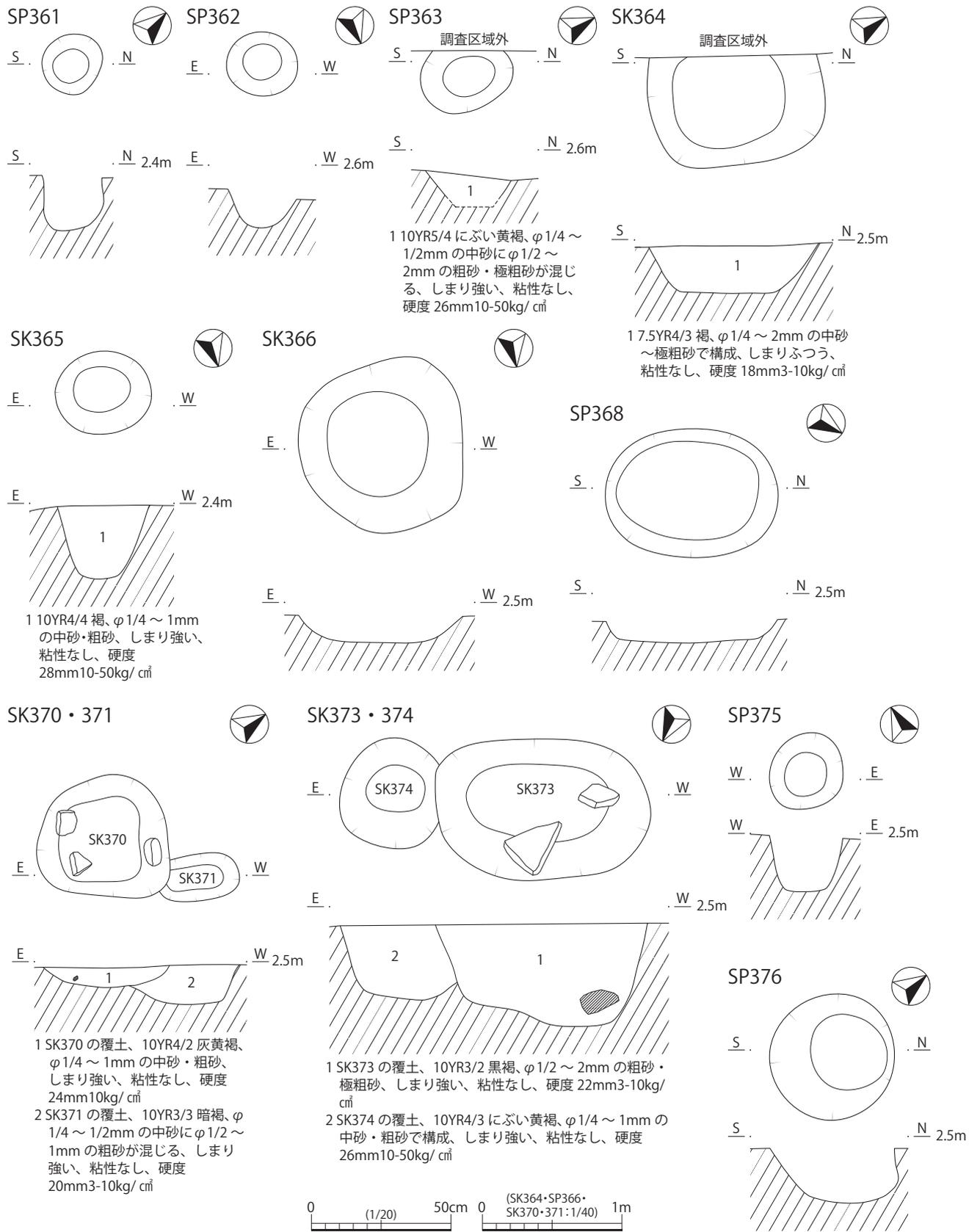


1 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/4 ~ 1/2mmの中砂に $\phi$ 1 ~ 2mmの極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 10mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

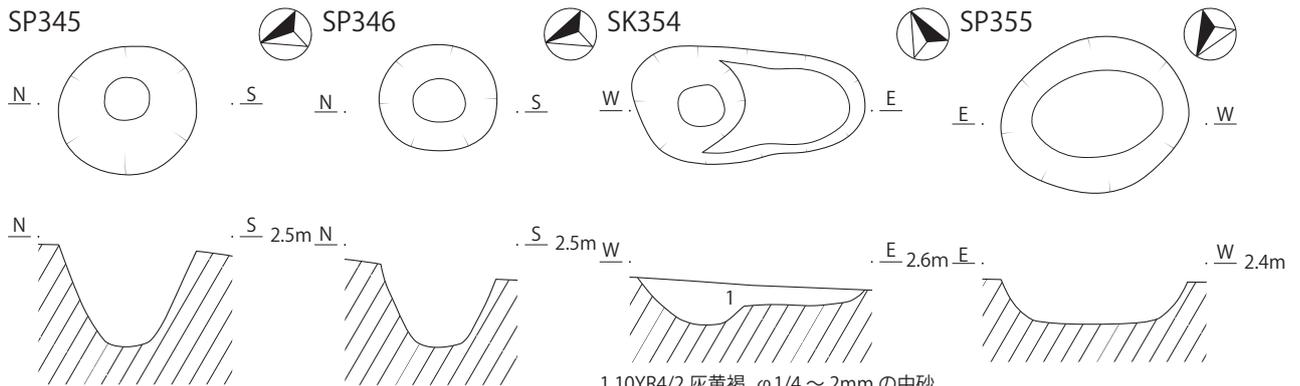


第63図 HZK2101地点北西エリア SK276~278・SP279・280・SK282・283・SD284・SP327・347平面・断面図

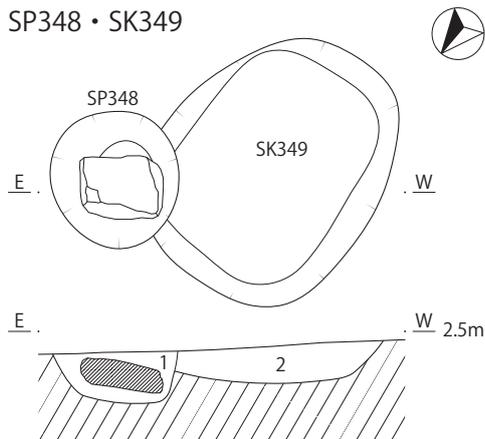
Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



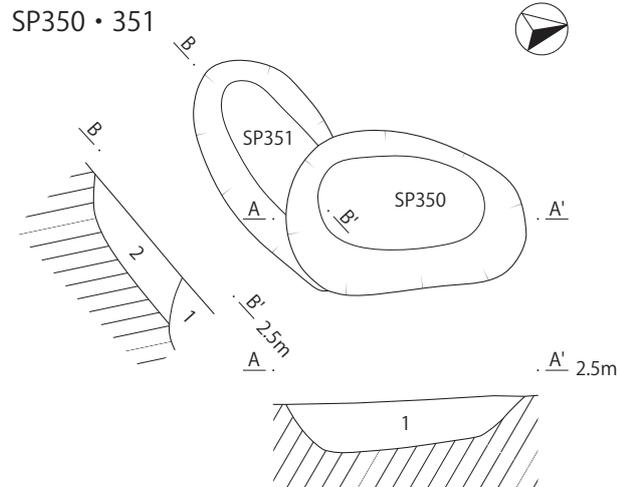
第64図 HZK2101地点北西エリア SP361～363・SK364～366・SP368・SK370・371・373・374・SP375・376平面・断面図



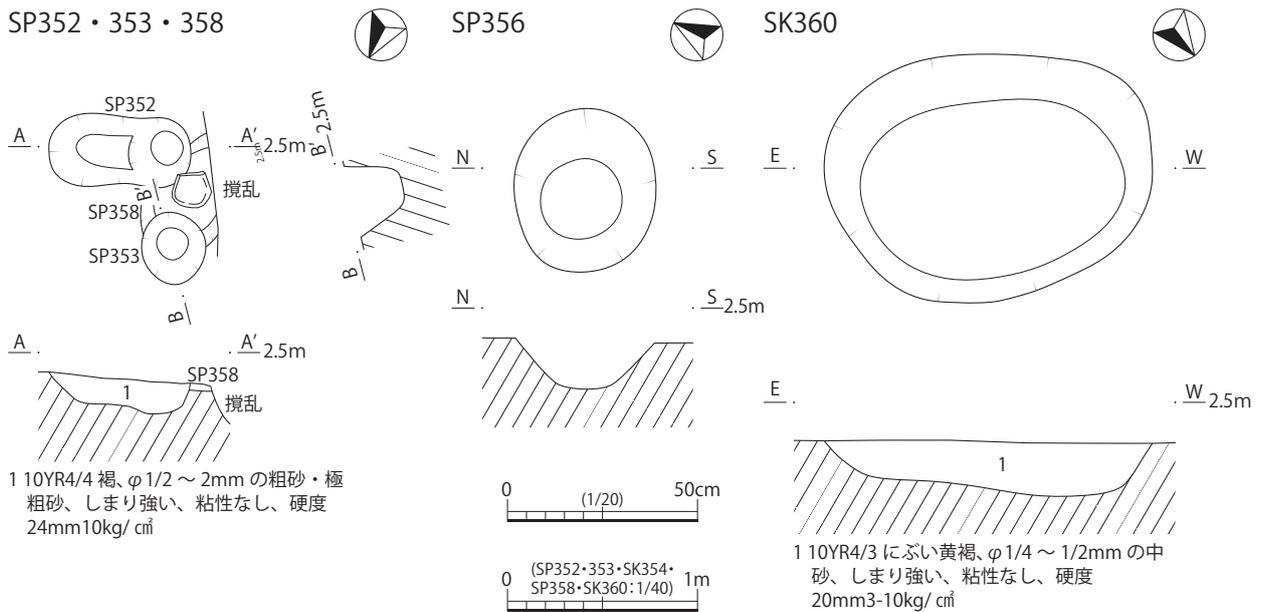
1 10YR4/2 灰黄褐、 $\phi$ 1/4 ~ 2mm の中砂 ~ 極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>



1 10YR4/2 灰黄褐、 $\phi$ 1/4 ~ 1/2mm の中砂に $\phi$ 2mm 以上の小礫混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 12mm3-3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SK349 の覆土、2.5Y4/3 オリーブ褐、 $\phi$ 1/4 ~ 1mm の中砂・粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>



1 SP350 の覆土、10YR4/4 褐、 $\phi$ 1/4 ~ 1/2mm の中砂に $\phi$ 1/2 ~ 2mm の粗砂・極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SP351 の覆土、10YR5/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/2 ~ 2mm の粗砂・極粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度 12mm3-3kg/cm<sup>2</sup>

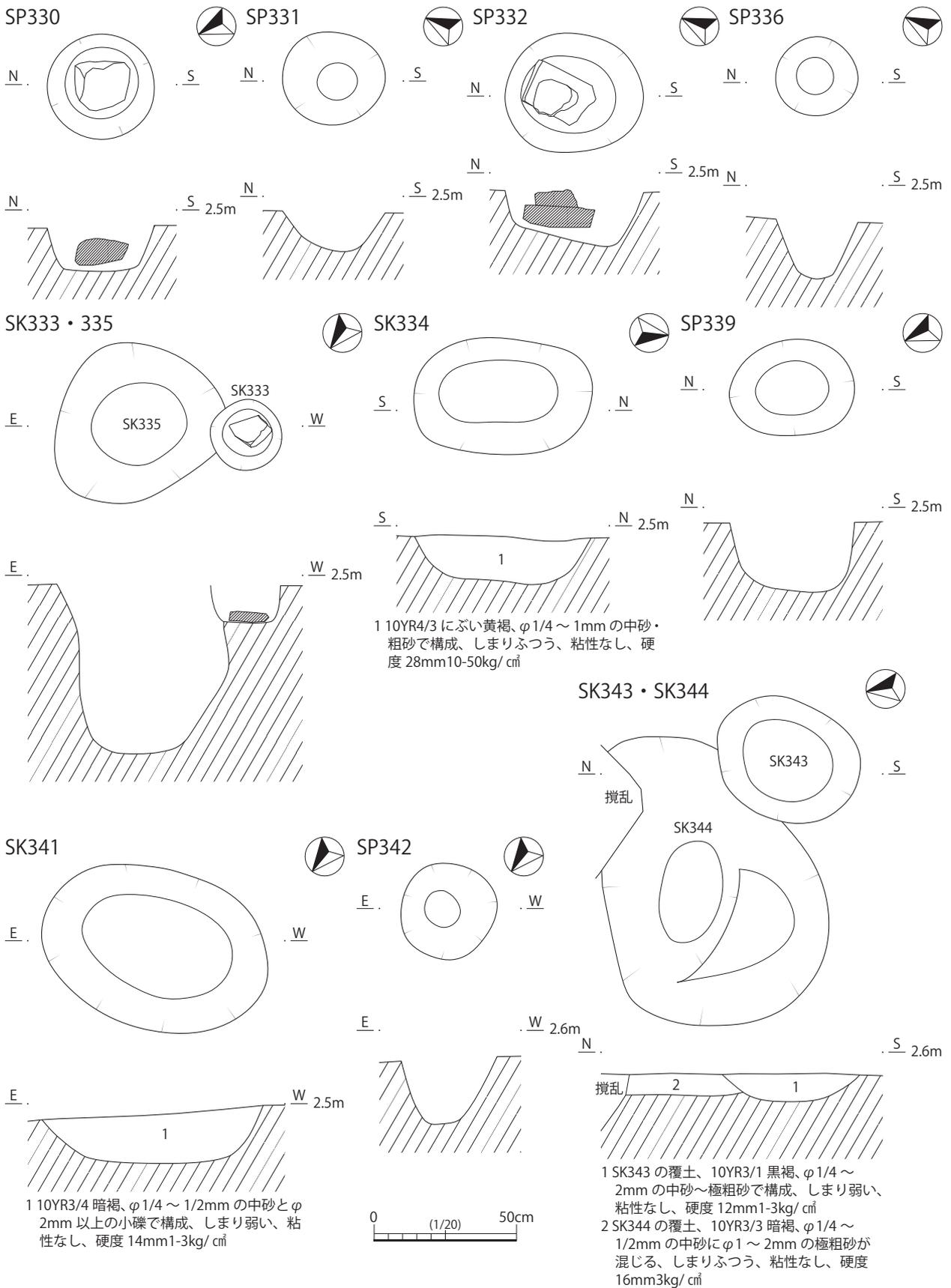


1 10YR4/4 褐、 $\phi$ 1/2 ~ 2mm の粗砂・極粗砂、しまり強い、粘性なし、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>

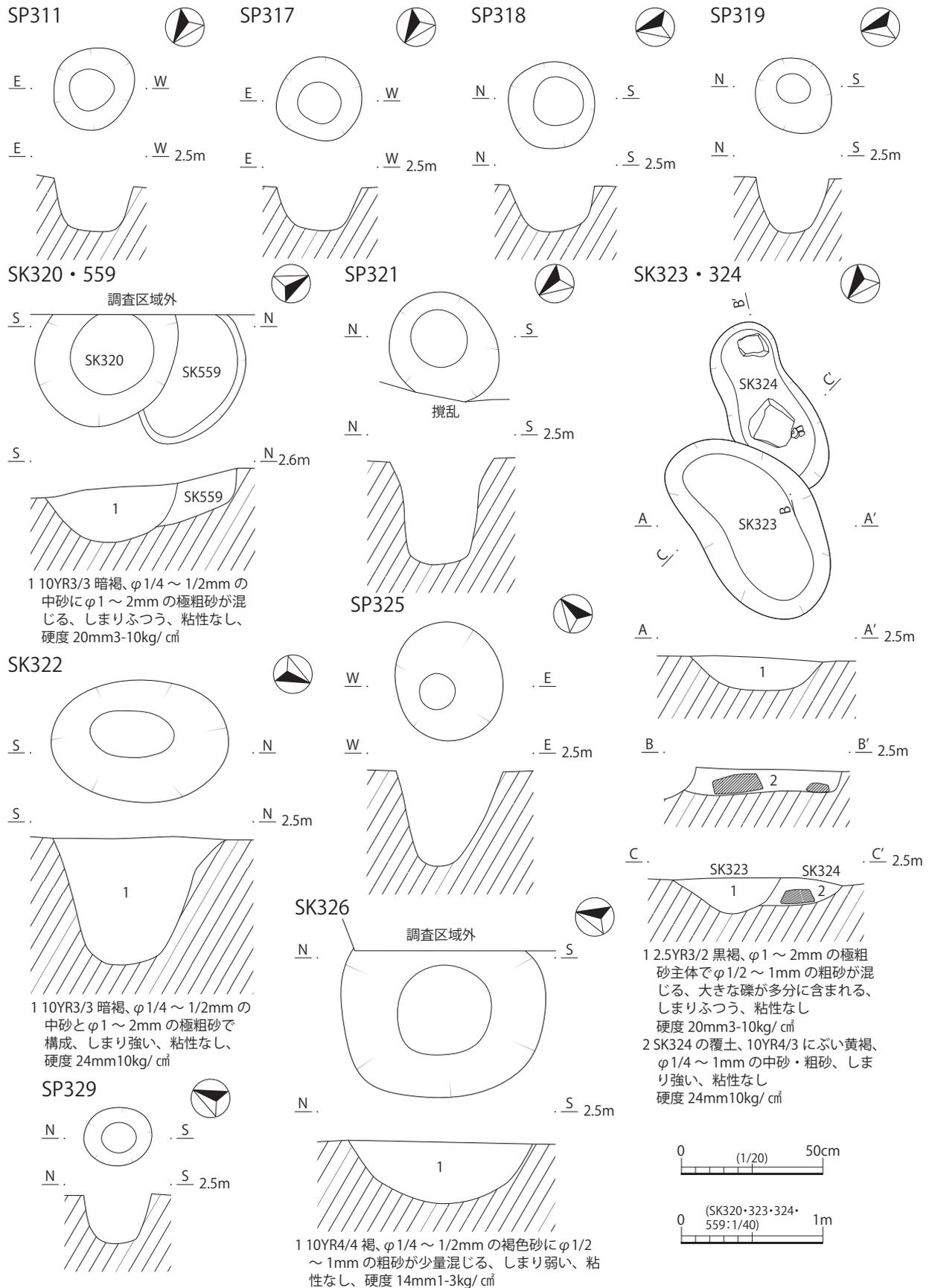
1 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/4 ~ 1/2mm の中砂、しまり強い、粘性なし、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

第65図 HZK2101地点北西エリア SP345・346・348・SK349・SP350~353・SK354・SP355・356・358・SK360平面・断面図

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



第66図 HZK2101地点北西エリア SP330～332・SK333～335・SP336・339・SK341・SP342・SK343・344平面・断面図



第67図 HZK2101地点北西エリア SP311・317～319・SK320・SP321・SK322～324・SP325・SK326・SP329・SK559平面・断面図

その外側に圈線が1条めぐる。その周りを連珠で飾り、さらに圈線が1条めぐる。15は丸瓦で端部を面取りし、やや反るように加工する。

竪穴 SI268・土坑 SK269・SK270・SP308（第60図） SI268・SK269・SK270・SP308は切り合い関係にある。SK270→SK269→SI268の順に構築され、SK268はSK308を切る。

土坑 SK273・SK274・SK275・SK328（第60図） SK273・SK274・SK275・SK328は切り合い関係にある。SK328→SK275→SK273・SK274の順に構築される。

#### SK275出土遺物

第61図はSK275出土である。1～10は糸切り底の土師器の坏である。11～14は糸切り底の土師皿である。15は瓦質土器の釜口縁部で、鐙がめぐる。13世紀後半から14世紀前半の所産である（山本他1997）。

土坑 SK277・SK278（第63図） SK277はSK278と切り合い関係にあり、SK277はSK278を切る。

ピット SP279・SP327（第63図） SP327はSP279を切る。

土坑 SK282（第63図）

#### SK282出土遺物

第58図1はSK282出土の糸切り底の土師器の坏である。

土坑 SK283・溝 SD284・ピット SP347（第63図） SK283とSD284・SP347は切り合い関係にあり、SD284とSP347をSK283が切っている。

土坑 SK285・SK296（第69図） SK285はSK296と切り合っている。SK285をSK296が切る。

土坑 SK288・ピット SP359（第69図） SK288はSP359を切っている。

第94図6・7はSK288出土の銅銭である。6は正隆元寶である。金朝銭で初鑄は1158年である。7は残存が悪く判別できないが、開元通寶の可能性はある。

溝 SD290（第69図） 長楕円形を呈する。土師器がまとまって出土した。

#### SD290出土遺物

第62図はSD290出土である。1～4は糸切り底の土師器の坏である。5～13は糸切り底の土師皿である。14は円筒形の土錘。15は滑石製石錘である。

土坑 SK292・ピット SP340（第68図） SK292はSP340に切られる。

土坑 SK293・SK294（第68図） SK293は294を切る。

土坑 SK295（第68図）

#### SK295出土遺物

第58図2はSK295出土の陶器の四耳壺である。胴部外面上位に沈線がめぐる。大宰府編年の陶器耳壺Ⅶ類で、13世紀の所産である（宮崎編2000）。

土坑 SK297・SK298（第68図） SK297はSK298を切る。

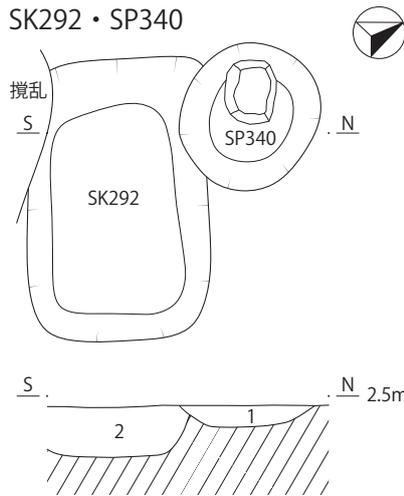
土坑 SK320・SK559（第67図） SK320はSK559を切る。

土坑 SK323・SK324（第67図） SK323はSK324を切る。

#### SK323出土遺物

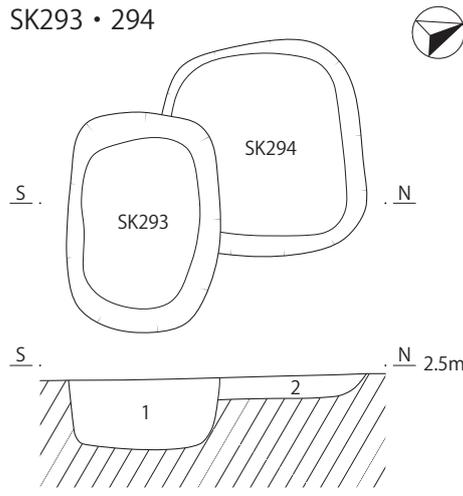
第58図4～7はSK323出土である。4は陶器碗の底部で、見込みにメアトが付く。内外面とも全面に施釉する。朝鮮王朝の雑釉陶器で、15世紀後半以降の所産である（佐藤2008）。5・6は土師質の丸底の底部で、手捏ねである。飯蛸壺の底部と考えられる。7は滑石製石鍋で、短い鐙がめぐる。

SK292・SP340



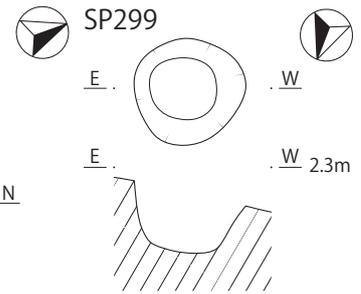
1 SP340の覆土、10YR4/4 褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$ の細砂・中砂、しまり強い、粘性なし、硬度  $24\text{mm}10\text{kg}/\text{cm}^2$   
 2 SK292の覆土、10YR2/3 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 2\text{mm}$ の中砂～極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$

SK293・294

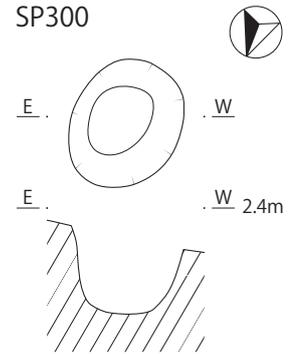


1 SK293の覆土、7.5YR3/1 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂と $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂で構成、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$   
 2 SK294の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$ の細砂・中砂に $\phi 2\text{mm}$ 以上の小礫が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$

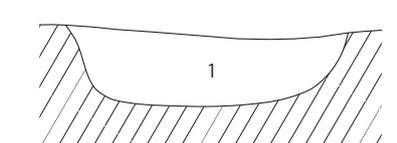
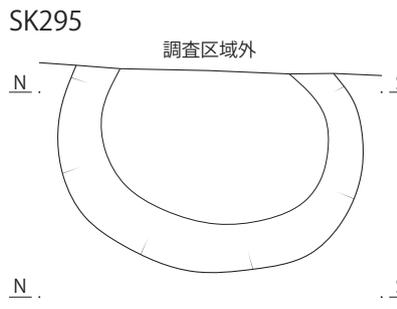
SP299



SP300

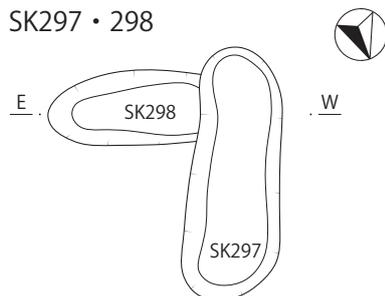


SK295



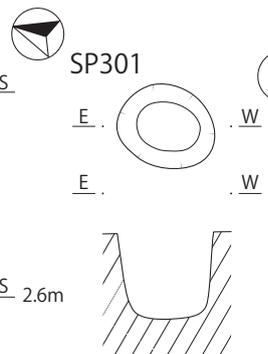
1 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂、しまり弱い、粘性なし、硬度  $10\text{mm}1-3\text{kg}/\text{cm}^2$

SK297・298

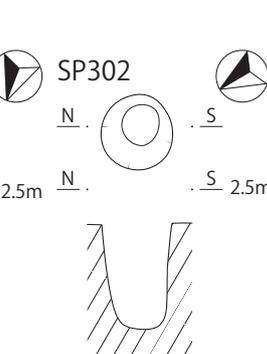


1 SK298の覆土、10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂に $\phi 1\text{mm}$ 以上の極粗砂・小礫が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度  $22\text{mm}3-10\text{kg}/\text{cm}^2$   
 2 SK297の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂、しまり弱い、粘性なし、硬度  $14\text{mm}1-3\text{kg}/\text{cm}^2$

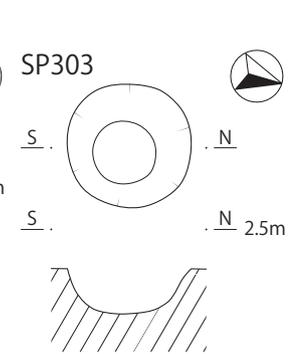
SP301



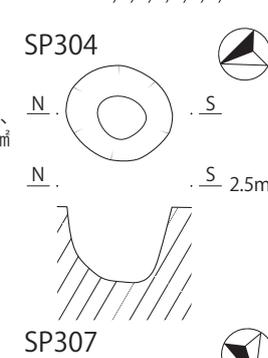
SP302



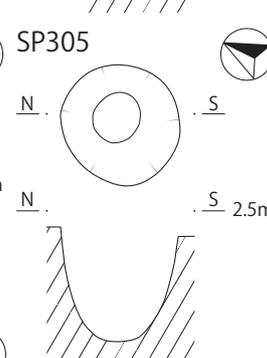
SP303



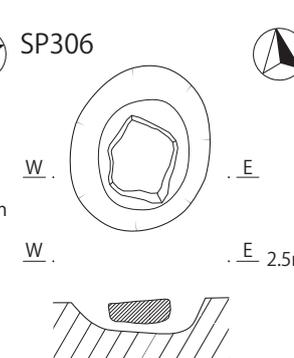
SP304



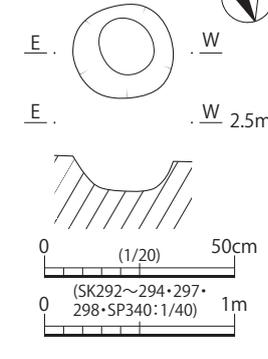
SP305



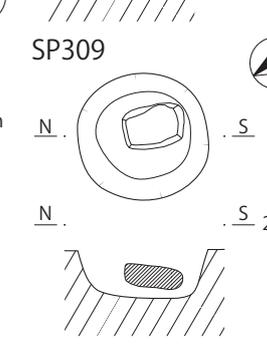
SP306



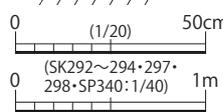
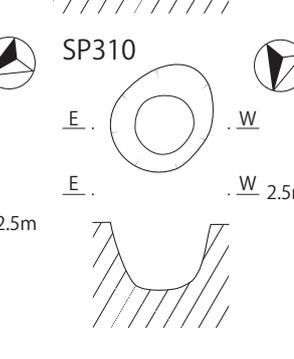
SP307



SP309

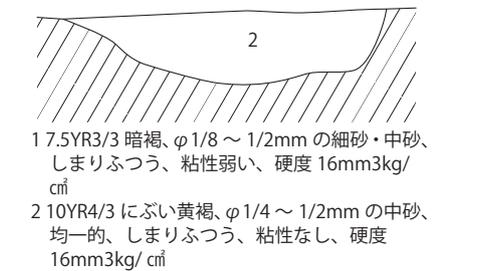
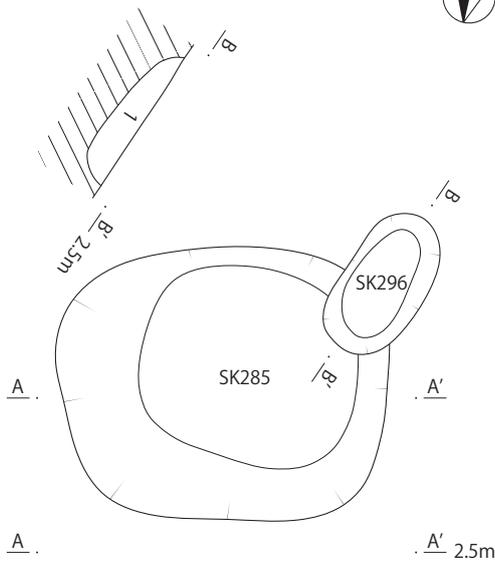


SP310

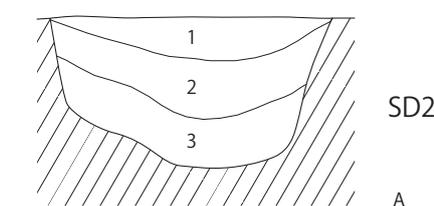
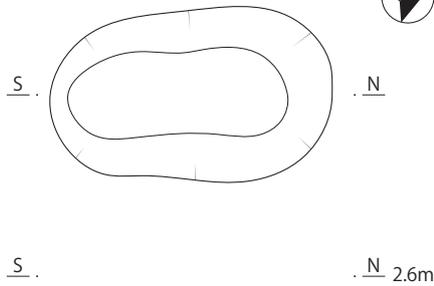


第68図 HZK2101地点北西エリア SK292~295・297・298・SP299~307・309・310・340  
 平面・断面図

SK285・296

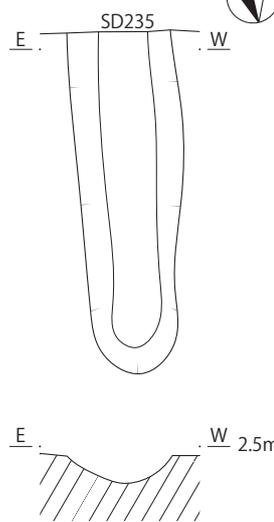


SK288

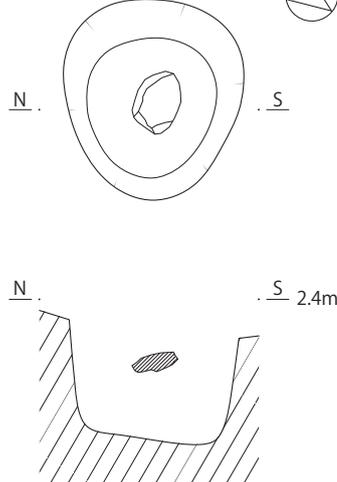


- 1 10YR2/3 黒褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1/2～1mmの粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、波状痕あり、硬度18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂で均一的、しまりふつう、粘性なし、波状痕あり、硬度18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 3 10YR4/1 褐灰、 $\phi$ 1/2～2mmの粗砂・極粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度16mm3kg/cm<sup>2</sup>

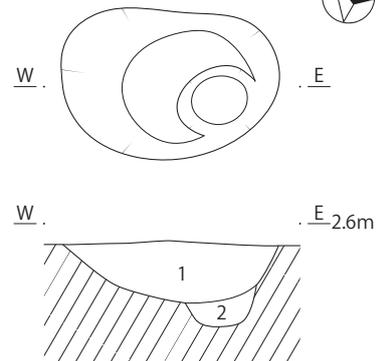
SD286



SP289

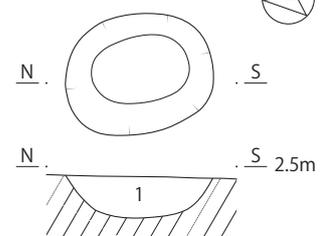


SK287



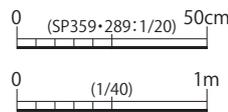
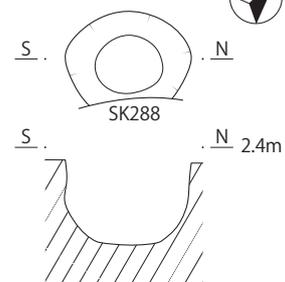
- 1 10YR3/2 黒褐、 $\phi$ 1/2～2mmの粗砂・極粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 別遺構？赤い粘土塊が多数出土、7.5YR4/2 灰褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1/2～2mmの粗砂・極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度10mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK291

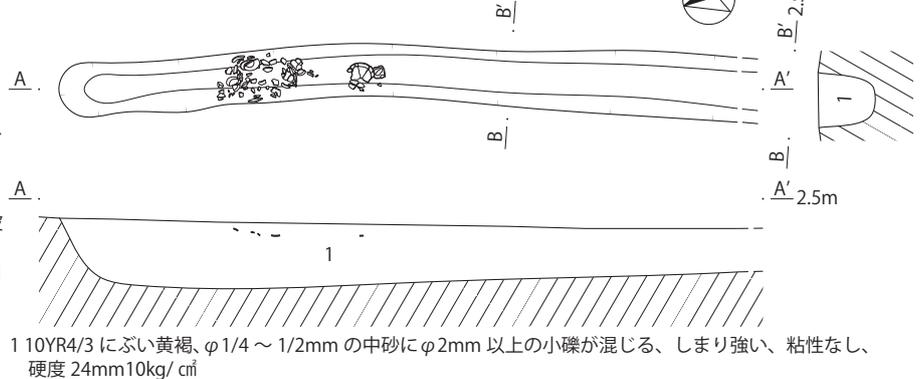


- 1 10YR3/3 暗褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1～2mmの極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

SP359



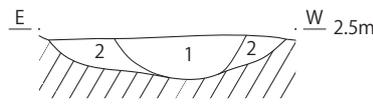
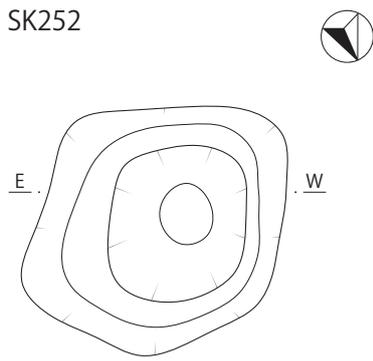
SD290



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 2mm以上の小礫が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度24mm10kg/cm<sup>2</sup>

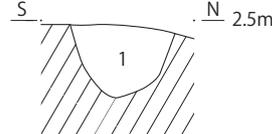
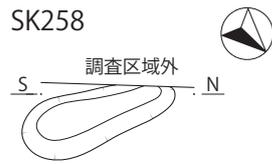
第69図 HZK2101地点北西エリア SK285・SD286・SK287・288・SP289・SD290・SK291・296・SP359平面・断面図

SK252



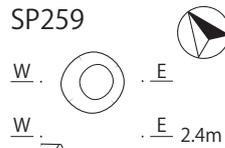
- 1 10YR3/3 暗褐、φ1/8～1mmの細砂～粗砂、大きな河原石を大量に含む、しまりふつう、粘性あり、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 10YR4/6 褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK258

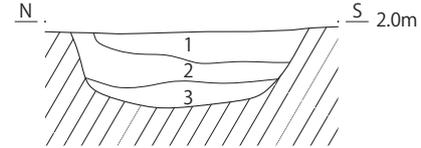
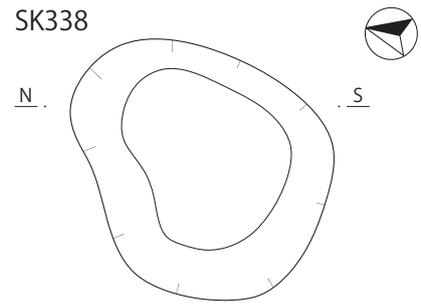


- 1 10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4～1/2mmの中砂にφ1～2mmの極粗砂が混じる、しまりなし、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SP259

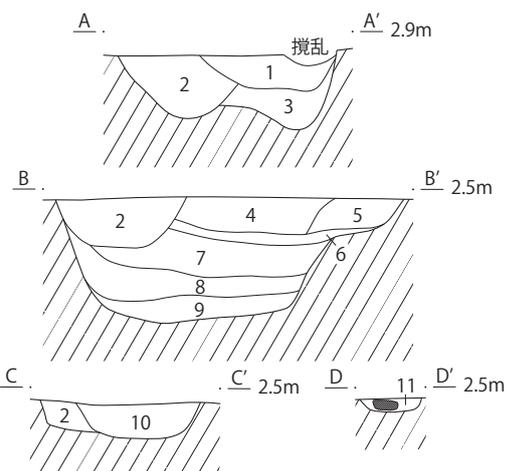
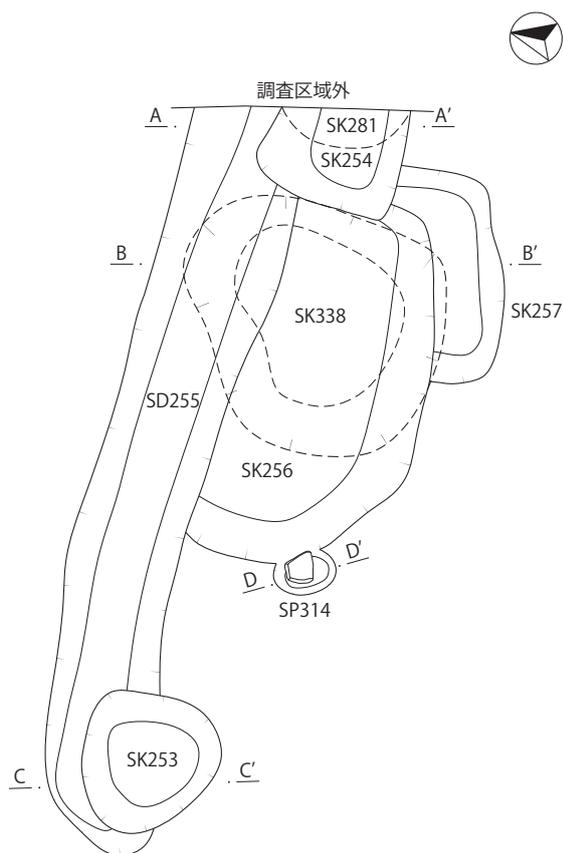


SK338

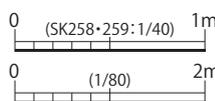


- 1 10YR5/2 灰黄褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 5YR4/3 にぶい赤褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 3 10YR6/3 にぶい黄橙、φ1/2～2mmの粗砂・極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

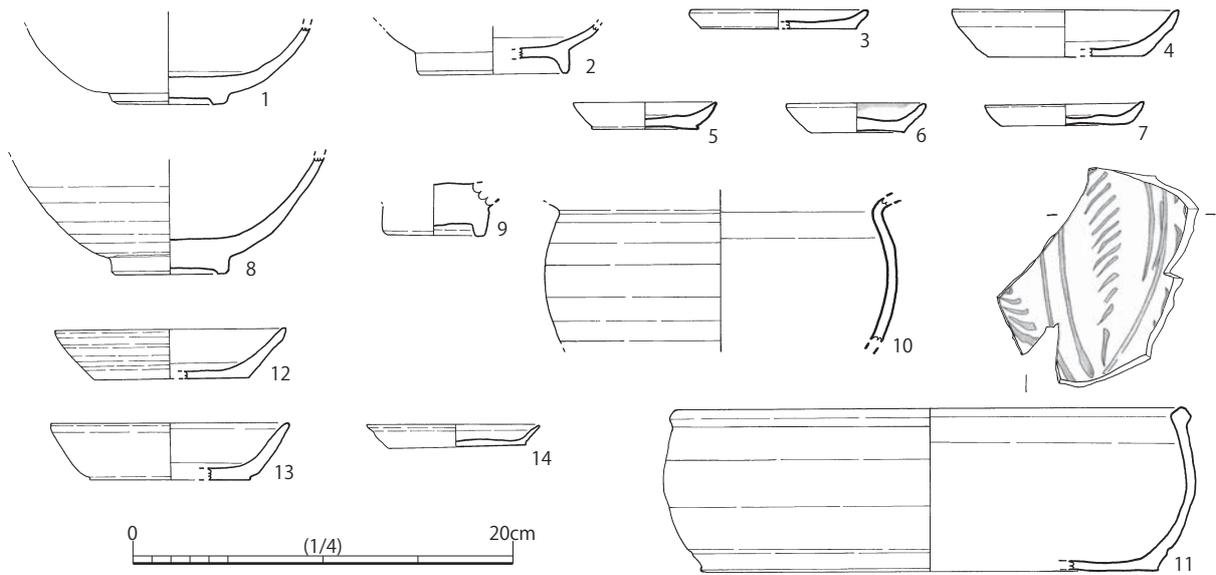
SK253・254・SD255・SK256・257・281・SP314



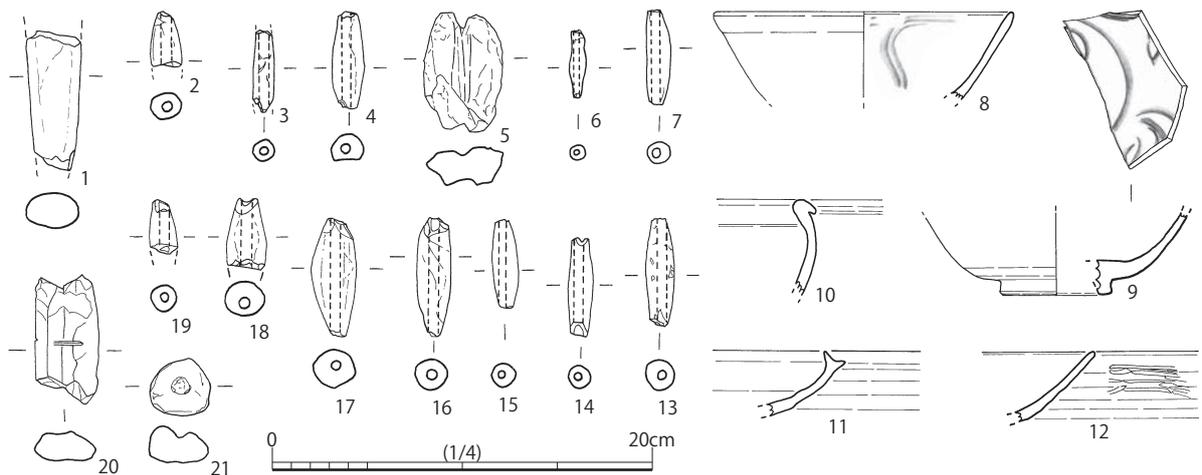
- 1 SK254の覆土、2.5Y4/3 オリーブ褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂、しまり強い、粘性なし、硬度 24mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 2 SD255の覆土、7.5YR3/2 黒褐、φ1mm以上の粗砂・極粗砂主体でφ1/4～1/2mmの中砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 26mm10-50kg/cm<sup>2</sup>
- 3 SK281の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、φ1/4～1/2mmの中砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>
- 4 SK256の覆土、10YR3/3 暗褐、φ1/4～1/2mmの中砂とφ2mm以上の小礫で構成、しまりなし、粘性なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 5 SK257の覆土、10YR3/2 黒褐、φ1/4～1/2mmの均質な中砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 6 SK257の覆土、7.5YR4/3 褐、φ1/4～1/2mmの中砂と、φ2mm以上の小礫で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 7 SK338の覆土、10YR5/2 灰黄褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 8 SK338の覆土、5YR4/3 にぶい赤褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm10kg/cm<sup>2</sup>
- 9 SK338の覆土、10YR6/3 にぶい黄橙、φ1/2～2mmの粗砂・極粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>
- 10 SK253の覆土、10YR2/2 黒褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂で構成、しまりふつう、粘性なし、硬度 22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>
- 11 SP314の覆土、10YR2/3 黒褐、φ1～2mmの極粗砂主体、φ1/4～1mmの中砂・粗砂が少量混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>



第70図 HZK2101地点北西エリア SK252～254・SD255・SK256～258・SP259・SK281・SP314・SK338平面・断面図



第71図 HZK2101地点出土遺物26



第72図 HZK2101地点出土遺物27

土坑 SK335（第66図）

SK335出土遺物

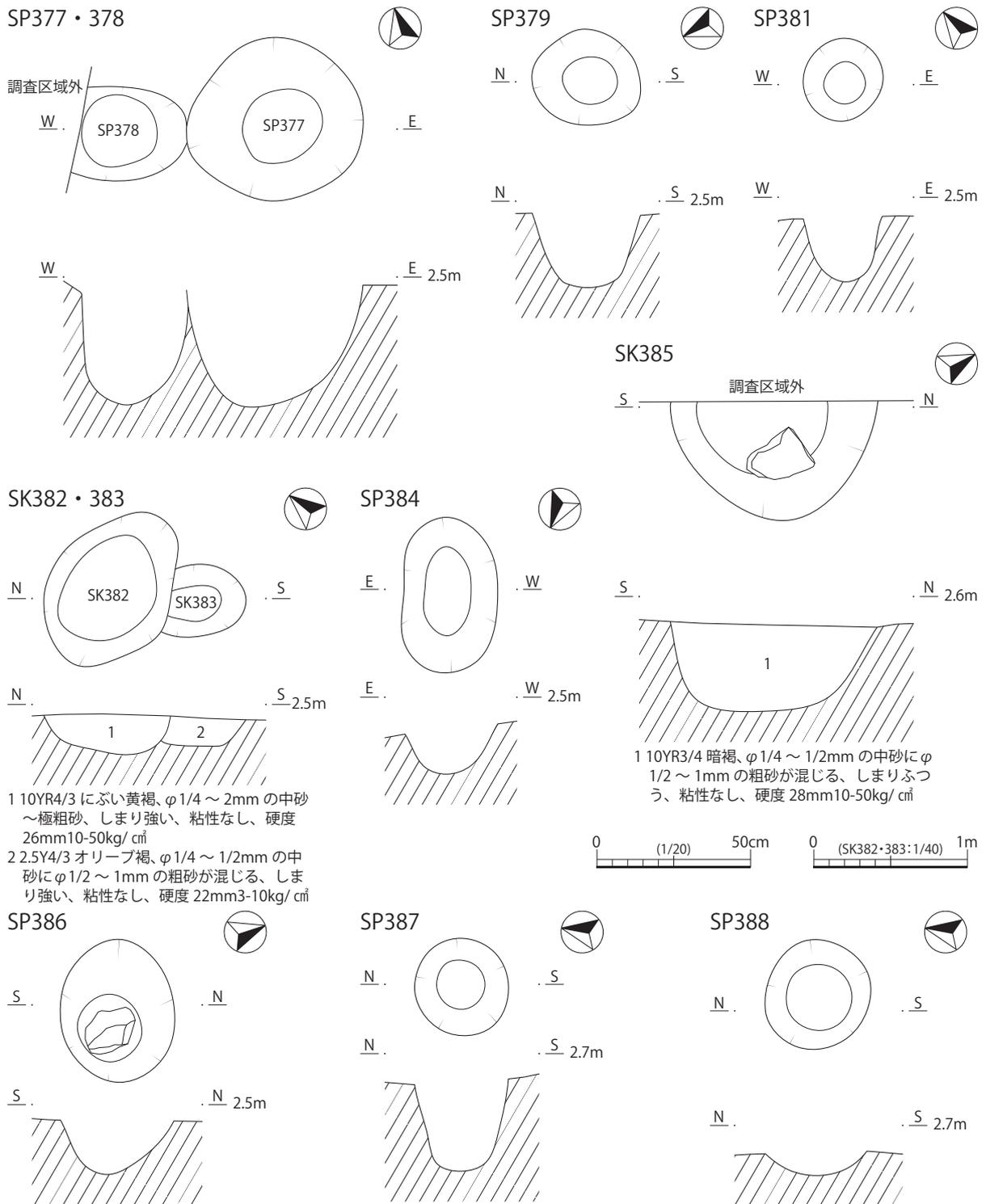
第58図 8～13はSK335出土である。8・9は内面に片彫り草花文を施す青磁碗で、龍泉窯系青磁碗 I-2類である。10・11は内面に片彫りで草花文を施す青磁皿で、大宰府編年の龍泉窯系青磁皿 I-1b類である。いずれも12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。12は陶器の黄釉小盤である。口縁部は丸く玉縁状を呈し、内面のみ施釉する。陶器小盤 I-2'類である（宮崎編 2000）。13は糸切り底の土師皿である。

土坑 SK343・SK344（第66図） SK343はSK344を切る。

ピット SP348・土坑 SK349（第65図） SP348はSK349を切る。

ピット SP350・SP351（第65図） SP350はSP351を切る。

ピット SP352・SP353・SP358（第65図） SP352・SP353・SP358は切り合い関係にあり、SP358をSP352・SP353が切る。



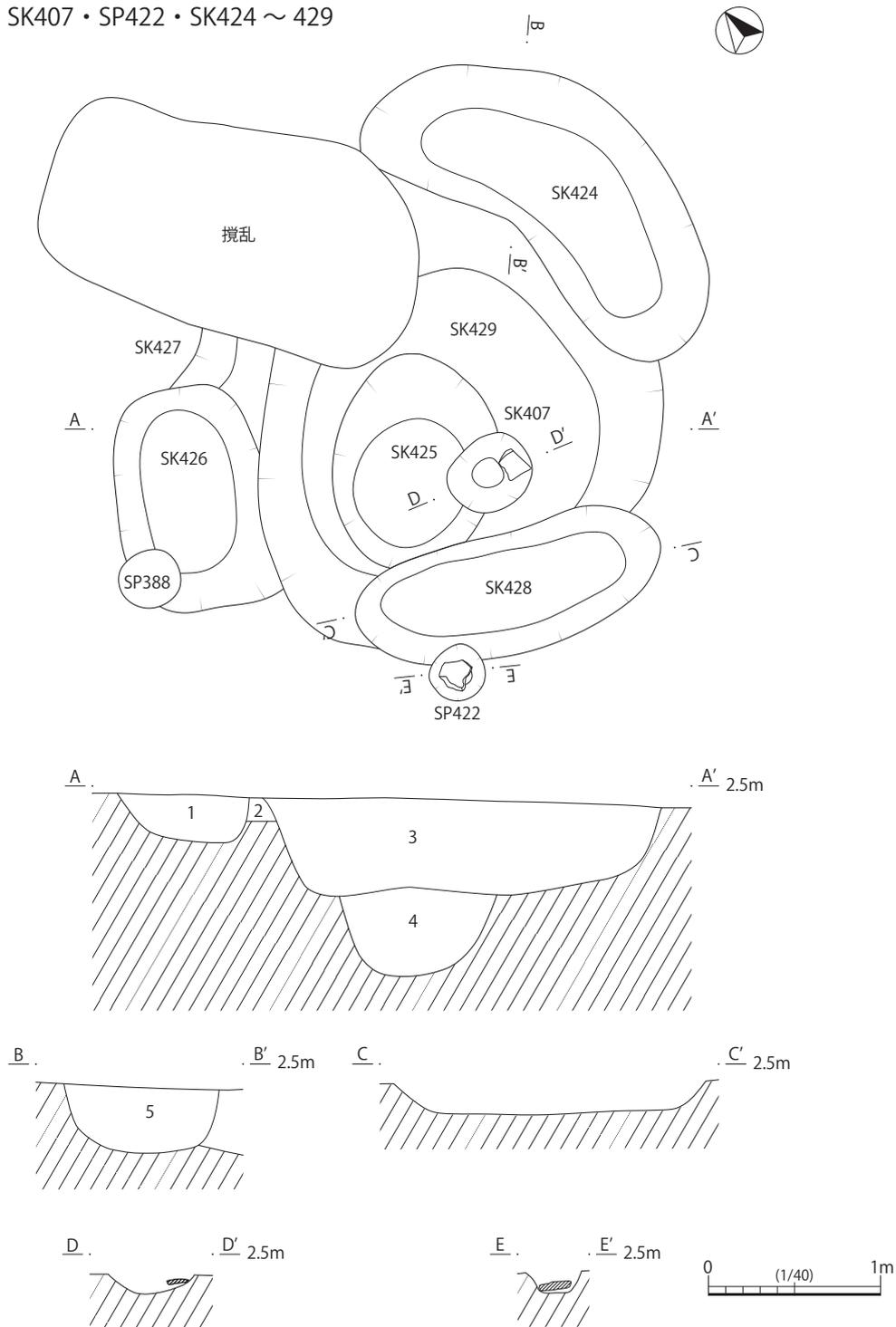
第73図 HZK2101地点北西エリア SP377~379・381・SK382・383・SP384・SK385・SP386~388平面・断面図

土坑 SK360 (第65図)

SK360出土遺物

第58図14・15はSK360出土である。14は陶器の甕である。口縁部は内側に屈折し外面に稜線を作る。

SK407・SP422・SK424～429



- 1 SK426の覆土、7.5YR4/2 灰褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度  $28\text{mm}10\text{-}50\text{kg}/\text{cm}^2$
- 2 SK427の覆土、7.5YR4/3 褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂で均一的、しまりふつう、粘性なし、硬度  $14\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$
- 3 SK429の覆土、10YR3/4 暗褐色砂と 10YR5/6 黄褐色砂がマーブル状に入り込む、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂で黄褐色砂は構成され、暗褐色砂は $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$ の細砂・中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度  $20\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$
- 4 SK425の覆土、7.5YR2/3 極暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂で均一的、しまりふつう、粘性弱い、硬度  $16\text{mm}3\text{kg}/\text{cm}^2$
- 5 SK424の覆土、10YR2/2 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂、しまりふつう、粘性なし、硬度  $20\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$

第74図 HZK2101地点北西エリア SK407・SP422・SK424～429平面・断面図

大宰府編年の陶器甕Ⅰ類で、13世紀の所産である（宮崎編 2000）。15は土師質の鍋である。口縁部の屈曲はゆるく、素口縁に近い。15世紀後葉遺構の所産である（山本他 1997）。

土坑 SK364（第64図）

SK364出土遺物

第71図1はSK364出土の青磁碗である。削りの浅い角高台で、畳付およびその内部は露胎である。底部外面にヘラケズリが見られる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1a類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。

土坑 SK370・SK371（第64図） SK370はSK371を切る。

SK370出土遺物

第71図2はSK370出土の高台付の土師器の坏である。幅広の粘土紐を貼り付けて高台とする。ほかに土師器の甕、陶器、土錘が出土したが小片で図化し得ない。

土坑 SK373・SK374（第64図） SK373はSK374を切る。

ピット SP377・SP378（第73図） SP377とSP378は切り合う。

土坑 SK382・SK383（第73図） SK382はSK383を切る。

ピット SP388・土坑 SK407・ピット SP422・土坑 SK424・SK425・SK426・SK427・SK428・SK429（第74図） SP388はSK426を切っており、SK426はSK427を切る。またSK427はSK429に切られ、その下にはSK425がある。SK429はSK407・SK424・SK428に切られ、SK428はSP422に切られる。

SK424出土遺物

第72図1～5はSK424出土である。1は土師質で、三足鍋の脚部と考えられる。2～4は円筒形の土錘である。5は滑石製石錘。

SK425出土遺物

第72図6・7はSK425出土の円筒形の土錘である。

SK429出土遺物

第72図8～21はSK429出土である。8・9は内面に片彫り文を施す青磁碗である。8は片彫りで分割線を施し、大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類、9は片彫りで草花文を施しており1-2類である。いずれも12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。10は陶器の黄釉小盤である。口縁部は丸く玉縁状を呈し、内面のみ施釉する。陶器小盤Ⅰ-2'類である（宮崎編 2000）。11は須恵器の坏である。口縁部の形態からTK209段階である。12は瓦質土器の碗である。外面にミガキを施す。13～19はやや中央部が膨らむ円筒形の土錘である。20は滑石製石錘である。21は滑石製品で中央部がへこんでいる。

土坑 SK390・SK391（第75図） SK390はSK391を切る。

SK390出土遺物

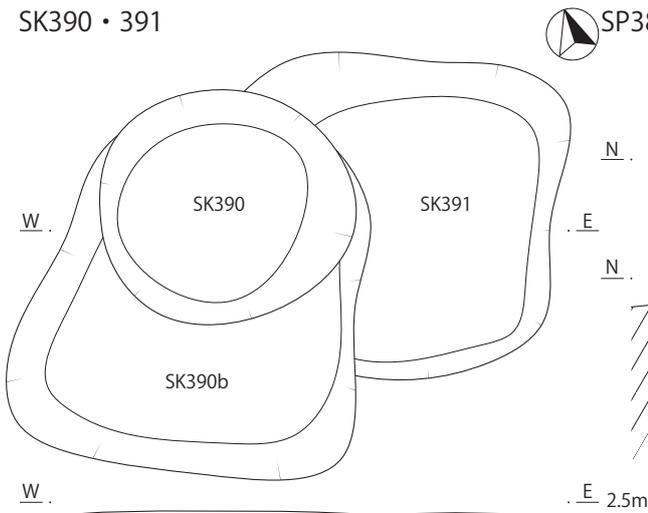
第78図1はSK390出土の土師質の鍋である。素口縁で、外面にススが付着する15世紀後葉から16世紀末の所産である（山本他 1997）。

SK391出土遺物

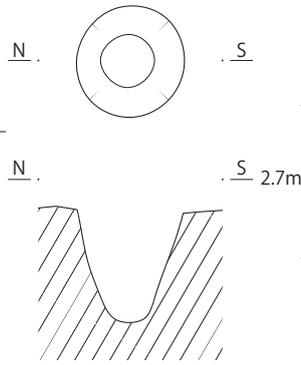
第78図2・3はSK391出土である。2は青磁皿で、見込みに櫛状の工具で花文を施す。龍泉窯系青磁皿Ⅰ-2b類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。3は中央部が少し膨らむ円筒形の土錘である。

土坑 SK393・SK394・竪穴 SI418・土坑 SK421・SK451・SK452・ピット SP459・SP478～482・土坑 SK488～491・SK498・SK501・SK513・SK526・SK538・SK547・SK554・SK555・

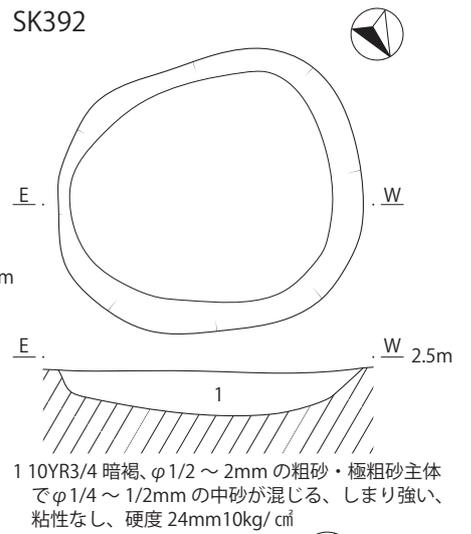
SK390・391



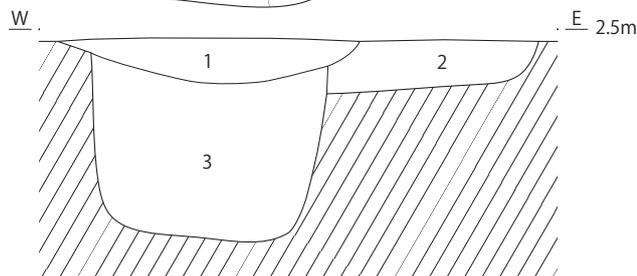
SP389



SK392

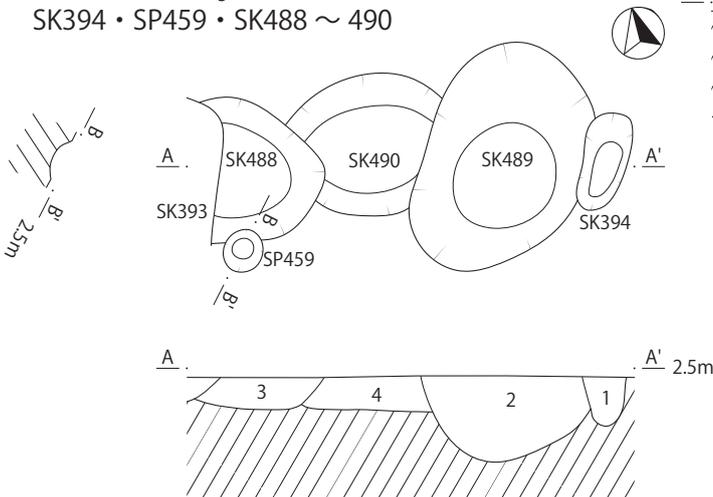


1 10YR3/4 暗褐、 $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$  の粗砂・極粗砂主体で $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 24mm10kg/  $\text{cm}^2$

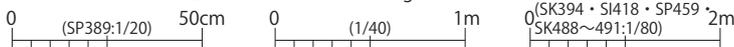


- 1 7.5YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂に $\phi 1\text{mm}$  以上の極粗砂・小礫が混じる、しまり強い、粘性弱い  
硬度 24mm10kg/  $\text{cm}^2$
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし  
硬度 20mm3-10kg/  $\text{cm}^2$
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1/8 \sim 1/2\text{mm}$  の細砂・中砂に $\phi 1/2 \sim 1\text{mm}$  の粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし  
硬度 18mm3-10kg/  $\text{cm}^2$

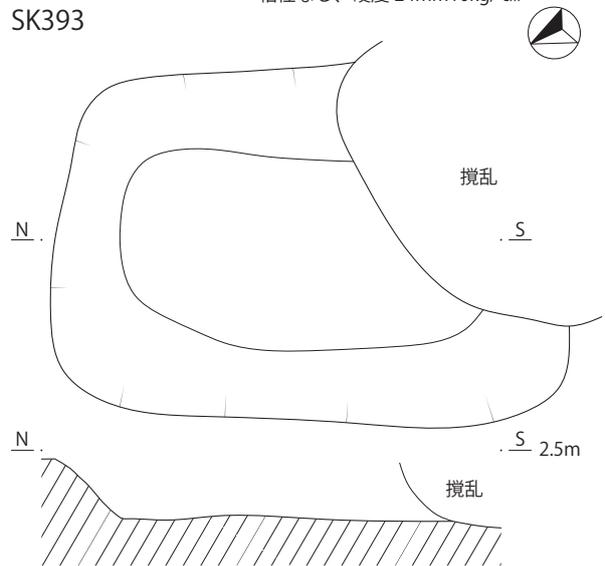
SK394・SP459・SK488～490



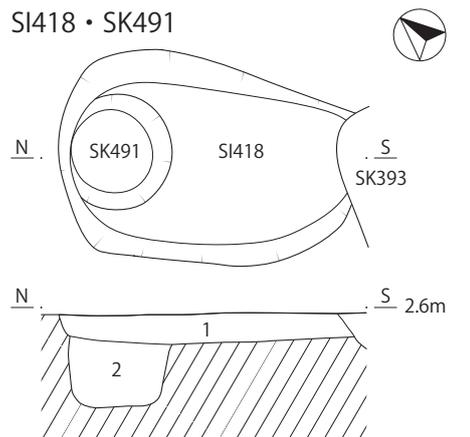
- 1 10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$  の粗砂・極粗砂が混じる、しまり強い、粘性弱い、硬度 18mm3-10kg/  $\text{cm}^2$
- 2 SK489 の覆土、2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に $\phi 2\text{mm}$  以上の小礫含む、しまりふつう、粘性なし、硬度 18mm3-10kg/  $\text{cm}^2$
- 3 SK488 の覆土、7.5YR4/4 褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$  の中砂・粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、硬度 28mm10-50kg/  $\text{cm}^2$
- 4 SK490 の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂、しまり強い、粘性なし、硬度 22mm3-10kg/  $\text{cm}^2$



SK393



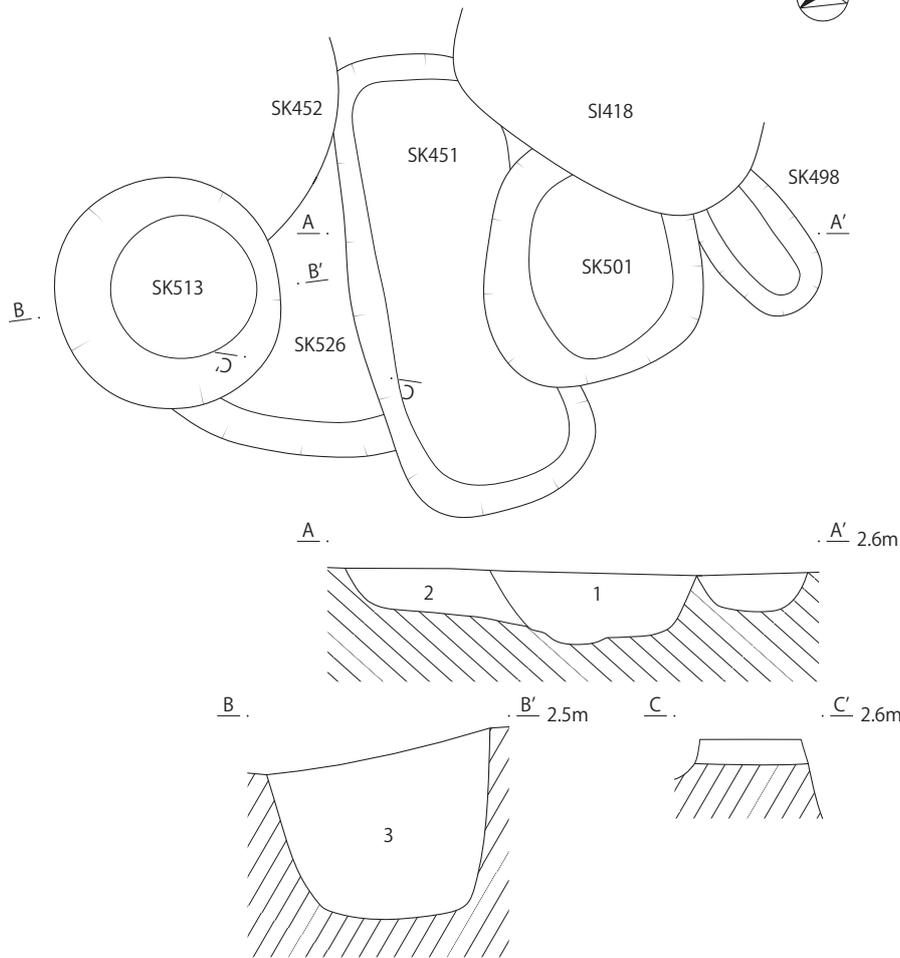
SI418・SK491



- 1 10YR3/1 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂と $\phi 1 \sim 2\text{mm}$  の極粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、硬度 28mm10-50kg/  $\text{cm}^2$
- 2 SK491 の覆土、2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$  の中砂に $\phi 1/2 \sim 1\text{mm}$  の粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 20mm3-10kg/  $\text{cm}^2$

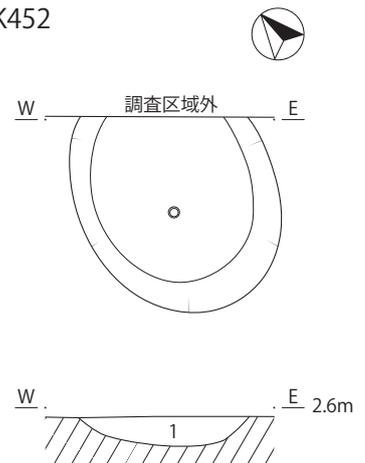
第75図 HZK2101地点北西エリア SP389・SK390～394・SI418・SP459・SK488～491  
平面・断面図

SK451・498・501・513・526

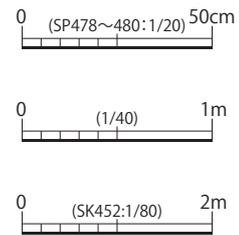


- 1 SK501 の覆土、10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mm の中砂に  $\phi 1/2 \sim 1$ mm の粗砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 30mm10-50kg/cm<sup>2</sup>
- 2 SK451 の覆土、7.5YR3/4 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1$ mm の中砂・粗砂、しまり強い、粘性なし、硬度 26mm10-50kg/cm<sup>2</sup>
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mm の中砂に  $\phi 1 \sim 2$ mm の極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、波状痕あり、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>

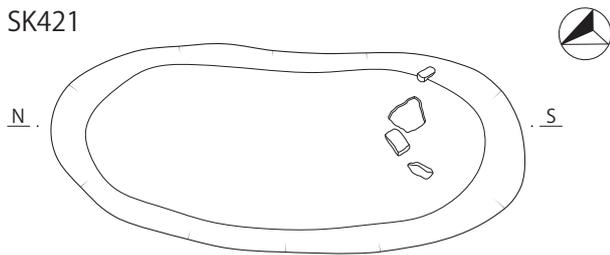
SK452



1 10YR4/4 褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2$ mm の細砂・中砂に  $\phi 2$ mm 以上の小礫含む、しまり強い、粘性なし、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

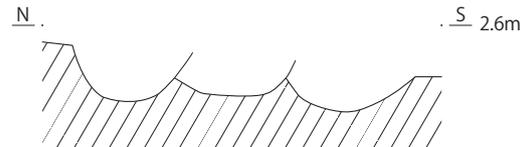
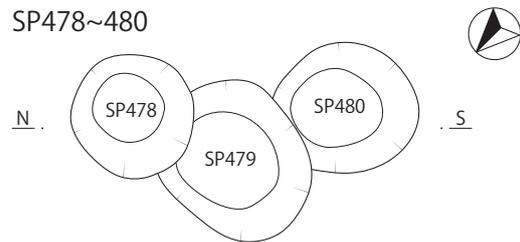


SK421



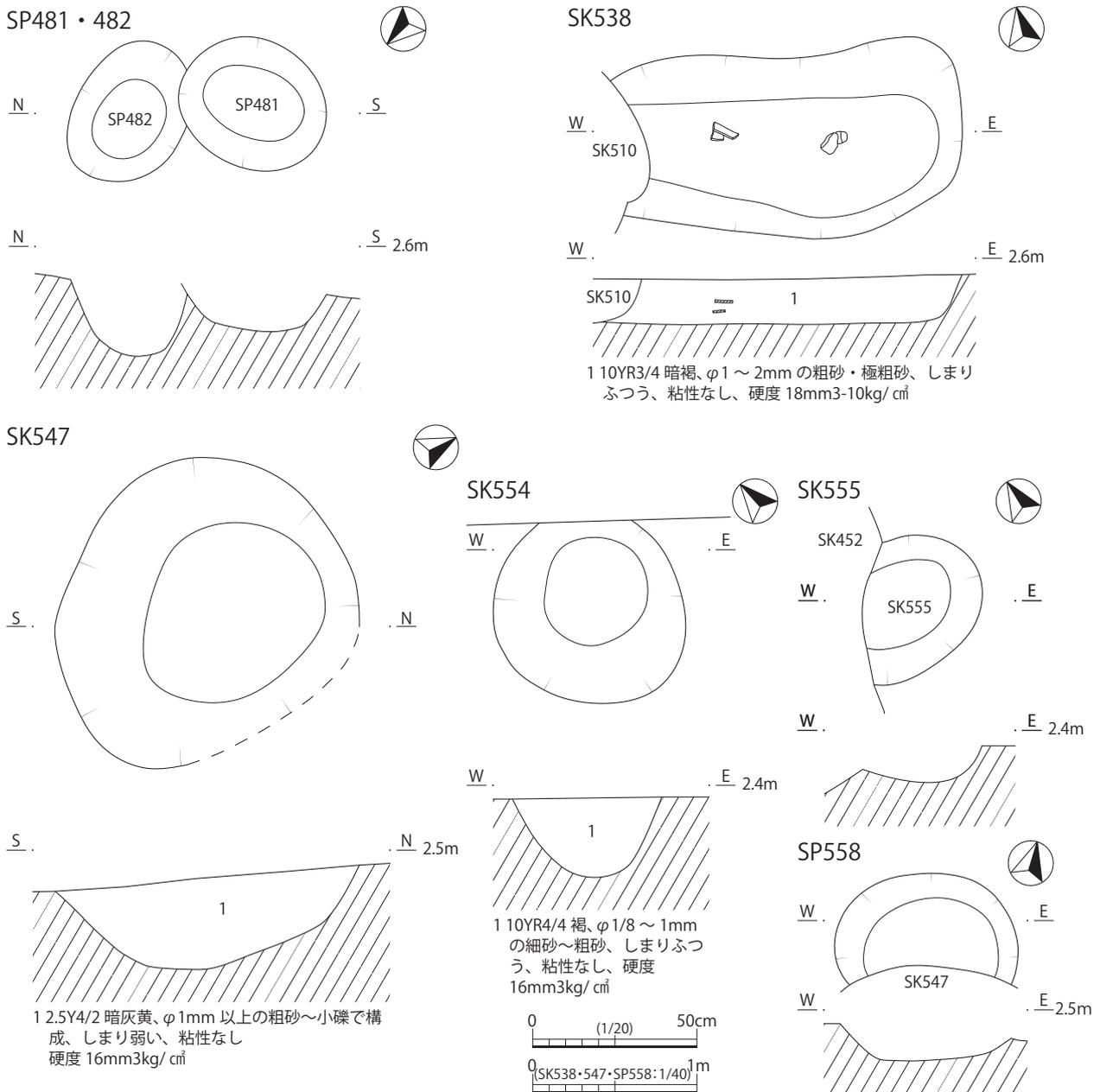
1 10YR3/2 黒褐、 $\phi 1/2 \sim 2$ mm の粗砂・極粗砂で構成、赤色粒子含む、しまり強い、粘性なし、硬度 30mm10-50kg/cm<sup>2</sup>

SP478~480



第76図 HZK2101地点北西エリア SK421・451・452・SP478~480・SK498・501・513・526 平面・断面図

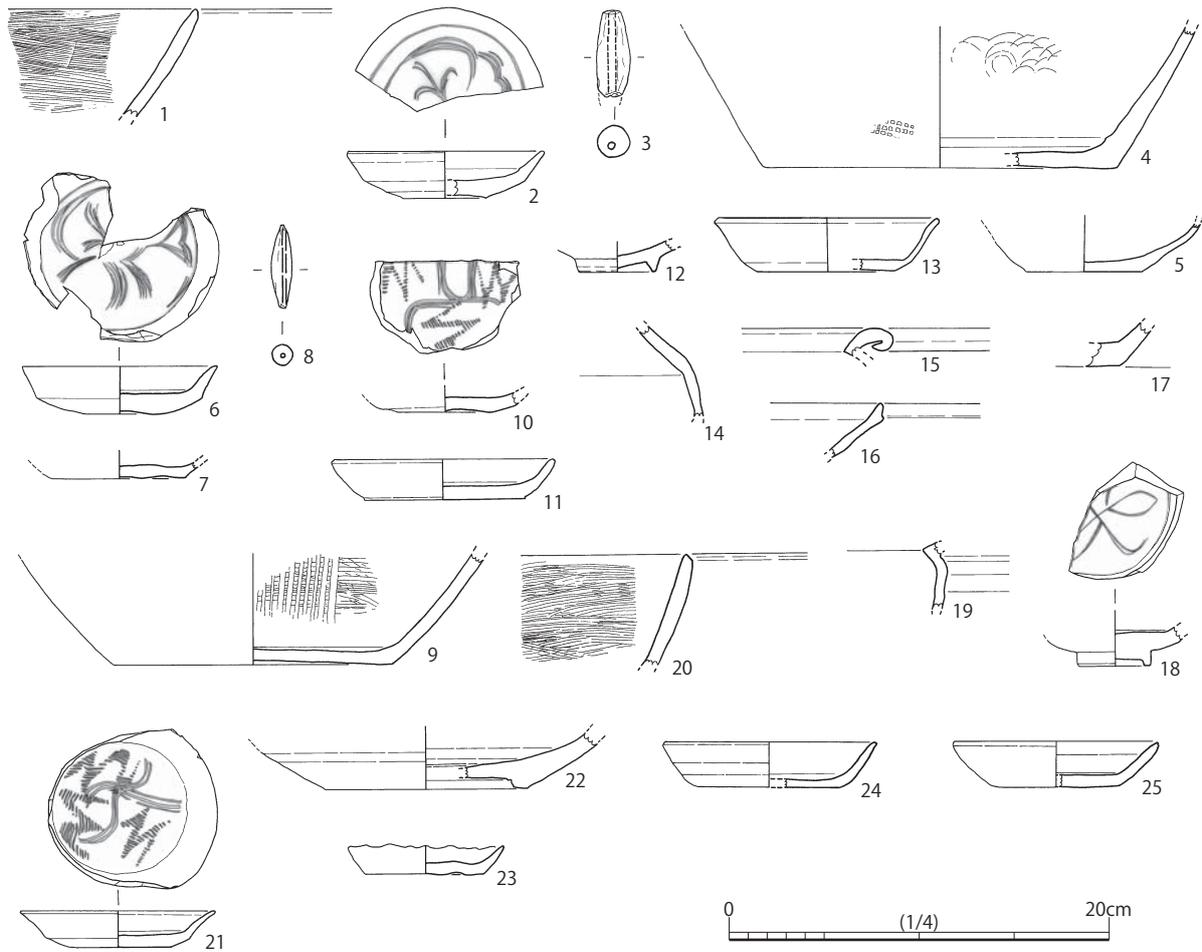
Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



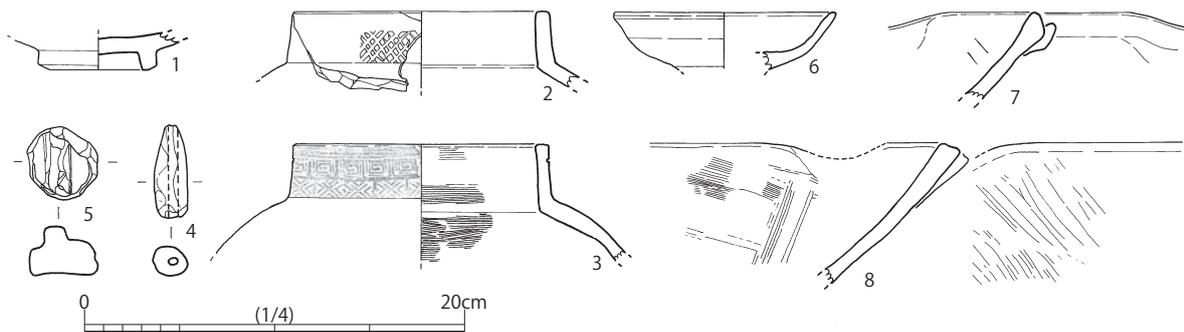
第77図 HZK2101地点北西エリア SP481・482・SK538・547・554・555・SP558  
平面・断面図

ピット SP558（第75～77図） SK393・SK394・SI418・SK421・SK451・SK452・SP459・SP478～482・SK488～491・SK498・SK501・SK513・SK526・SK538・SK547・SK554・SK555・SP558は切り合い関係にある。

SK393はSI418・SK488を切る。SI418はSK491に切られ、SK451・SK498・SK501・SK547・SP558を切る。SK488はSP459に切られ、SK490を切る。SK490はSK488・SK489に切られる。SK489はSK394に切られる。SK501はSK498・SK451を切る。SK451はSK452に切られSK526を切る。SK452はSK513に切られ、SK526・SK554・SK555を切る。SK547はSK421・SK538に切られ、SP558を切る。SP558はSI418・SK547・SK538に切られる。SK538はSP478～SP482・SK510に切られる。SP480→



第78図 HZK2101地点出土遺物28



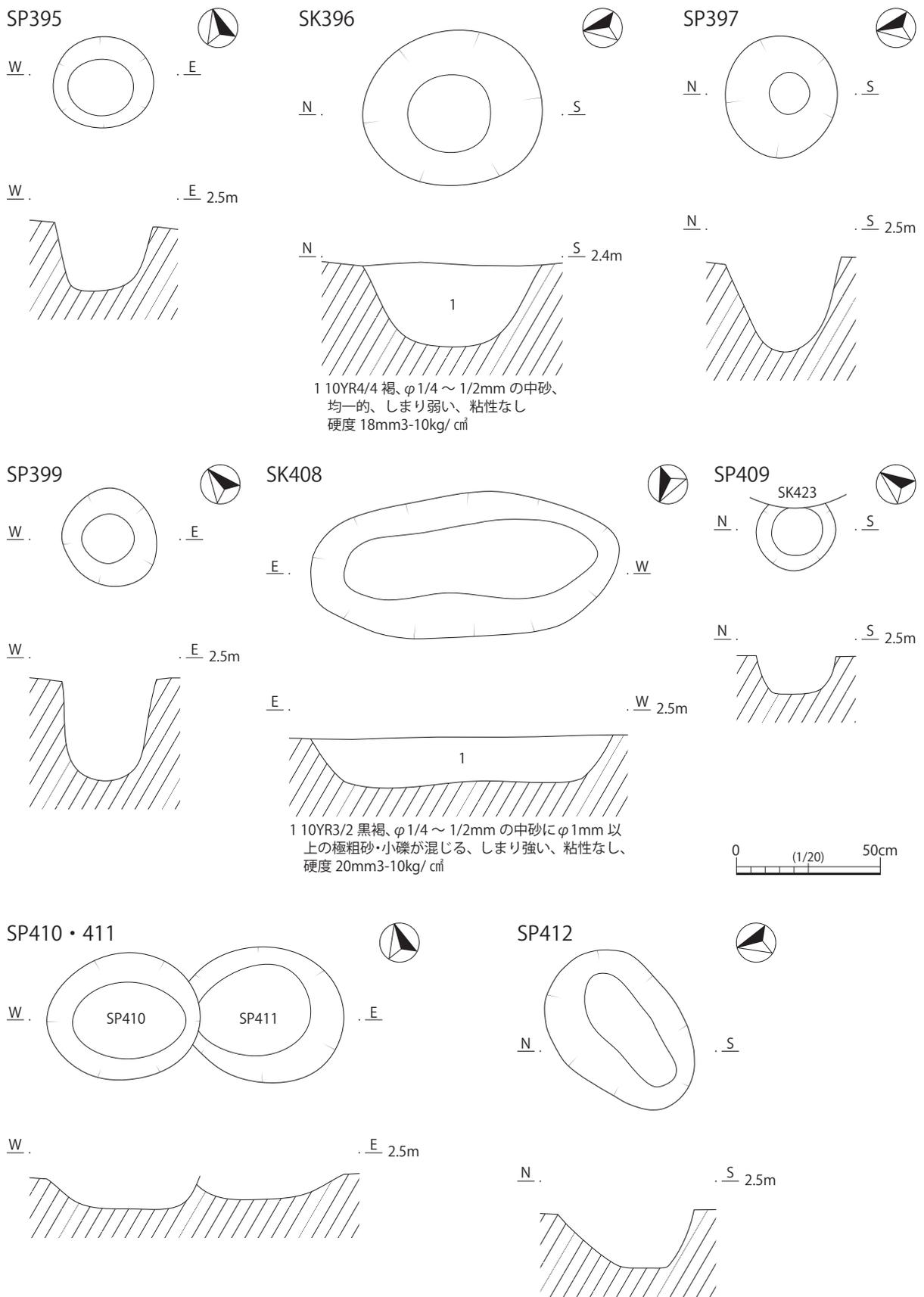
第79図 HZK2101地点出土遺物29

479→478の順で構築され、SP482より SP481が新しい。

SK393出土遺物

第78図 4・5はSK393出土である。4は陶器の甕底部である。内外面とも施釉し、外面に格子タタキ、内面に同心円タタキが残る。5は糸切り底の土師器の坏である。

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）



第80図 HZK2101地点北西エリア SP395・SK396・SP397・399・SK408・SP409～412  
 平面・断面図

## SI418出土遺物

第78図6～8はSI418出土である。6は青磁皿で、見込みに櫛状の工具で施文する。龍泉窯系青磁皿I-2b類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。7は糸切り底の土師器の坏である。8は中央部が少し膨らむ円筒形の土鍾。

## SK421出土遺物

第78図9はSK421出土の土師質の播鉢である。播鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他 1997）。

## SK452出土遺物

第78図10・11はSK452出土である。10は青磁皿で、見込みに篋による文様とジグザグの点描文を施す。同安窯系青磁皿I-2類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。11は糸切り底の土師器の坏である。

## SK489出土遺物

第78図12～17はSK489出土である。12はケズリ高台の白磁碗である。小さく鋭利な高台が付く。13は口禿の白磁皿で、大宰府編年の白磁皿IX-1類である。13世紀後半～14世紀前半に増加する。14は褐釉陶器の壺肩部である。内外面とも施釉する。15は陶器の黄釉盤である。口縁上面が湾曲し先端を曲げる。陶器盤I-1'a類で、13世紀から14世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。16は須恵質の捏鉢である。口縁端部をつまみ上げる。口縁端部外面は暗灰色を呈す。17は滑石製石鍋の底部である。

## SK491出土遺物

第78図18～20はSK491出土である。18は青磁碗で、低い角高台が付き、見込みに片彫りで花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗I-2類で、2世紀中頃から13世紀初頭の所産である。19は陶器の黄釉盤である。陶器の盤は11世紀後半以降出現する（宮崎編 2000）。20は素口縁の土師質の鍋である。15世紀後半から16世紀末の所産である（山本他 1997）。

## SK538出土遺物

第78図21・22はSK538出土である。21は青磁皿で、見込みにヘラによる文様とジグザグの点描文を施す。同安窯系青磁皿I-2類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。22は陶器の鉢で、軟質の胎土に薄く釉がかかる。底部は碁笥底気味で、内外面とも回転ヘラケズリで成形する。

## SK547出土遺物

第78図23はSK547出土の糸切り底の土師皿である。

## SP558出土遺物

第78図24・25はSP558出土の糸切り底の土師器の坏である。

## ピット SP409（第80図）

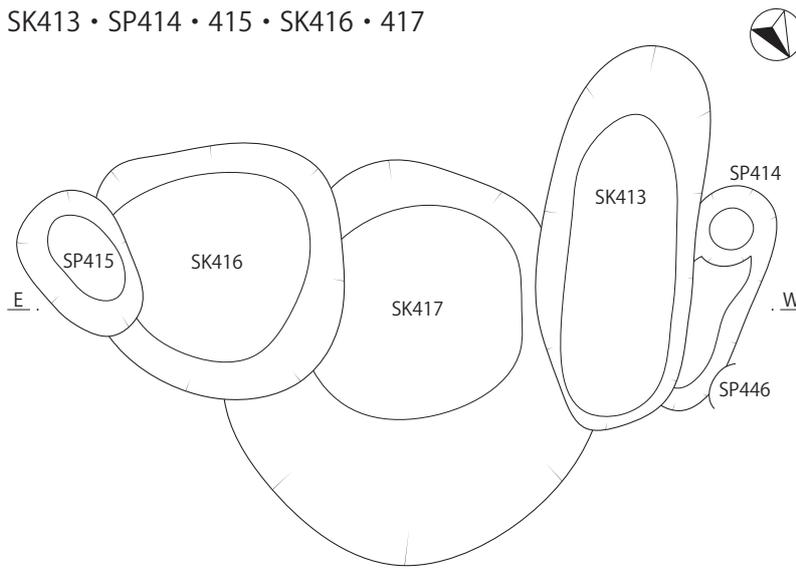
## SP409出土遺物

第71図9はSP409出土の青磁碗である。見込みに施文があるが判然としない。釉調は不透明で半濁する。高台内側の釉は施釉後環状に削り取り、露胎となった部分が赤く発色する。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗IV類で、14世紀以降の所産である（宮崎編 2000）。

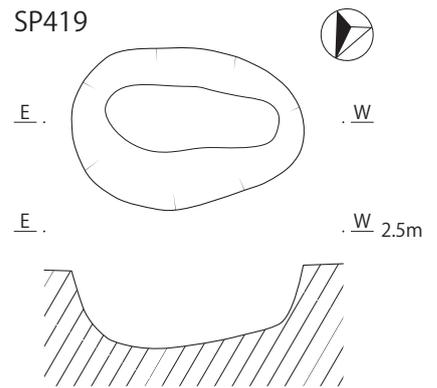
ピット SP410・SP411（第80図） SP410はSP411を切る。

土坑 SK413・ピット SP414・SP415・土坑 SK416・SK417・ピット SP446・土坑 SK505（第81図） SK413はSP414とSK417を切っている。SK417はSK505を切り、またSK416に切られ、SK416はSP415に切られる。SP414はSP446に切られる。

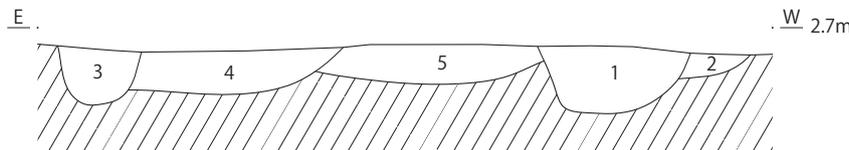
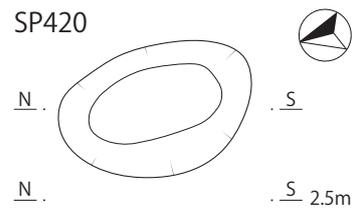
SK413・SP414・415・SK416・417



SP419

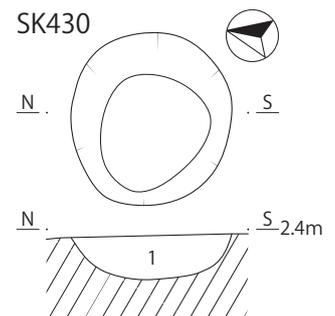


SP420

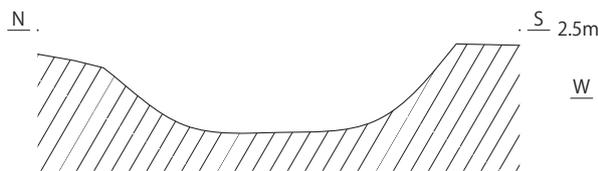
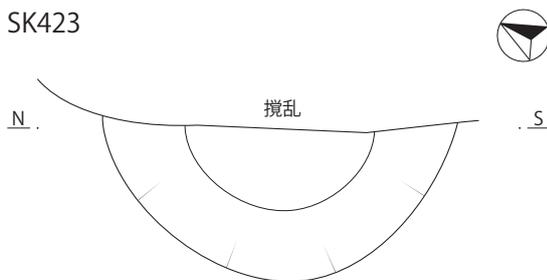


- 1 SK413の覆土、10YR3/1 黒褐、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂に $\phi 1/2 \sim 1\text{mm}$ の粗砂が混じる、しまり強い、粘性弱い、硬度  $32\text{mm}50\text{kg}/\text{cm}^2$
- 2 SP414の覆土、7.5YR3/1 黒褐、 $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$ の粗砂・極粗砂、しまりふつう、粘性弱い、硬度  $14\text{mm}1\text{-}3\text{kg}/\text{cm}^2$
- 3 SP415の覆土、2.5Y5/2 暗灰黄、 $\phi 1/8\text{mm}$ 以下のシルト質～極細砂に $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂が混じる、しまり強い、粘性強い、硬度  $30\text{mm}10\text{-}50\text{kg}/\text{cm}^2$
- 4 SK416の覆土、10YR4/4 褐、 $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ の極粗砂、そこに黒色の $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂が波状に入り込む、しまり弱い、粘性なし、波状痕あり、硬度  $18\text{mm}3\text{-}10\text{kg}/\text{cm}^2$
- 5 SK417の覆土、10YR3/4 暗褐、 $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$ の中砂～極粗砂で構成、炭化物よく混じる、しまりなし、粘性なし、硬度  $28\text{mm}10\text{-}50\text{kg}/\text{cm}^2$

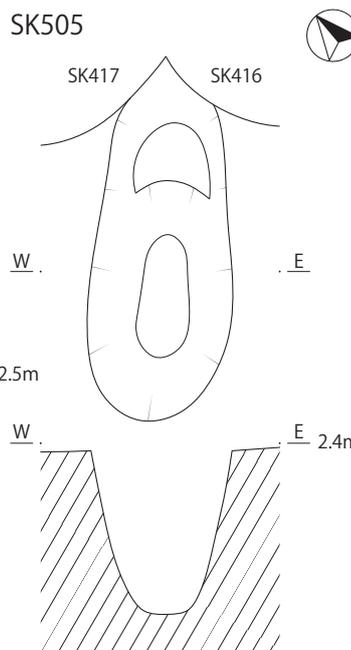
SK430



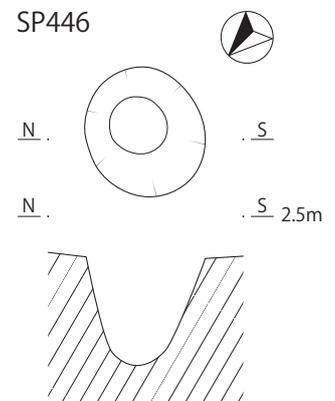
SK423



SK505

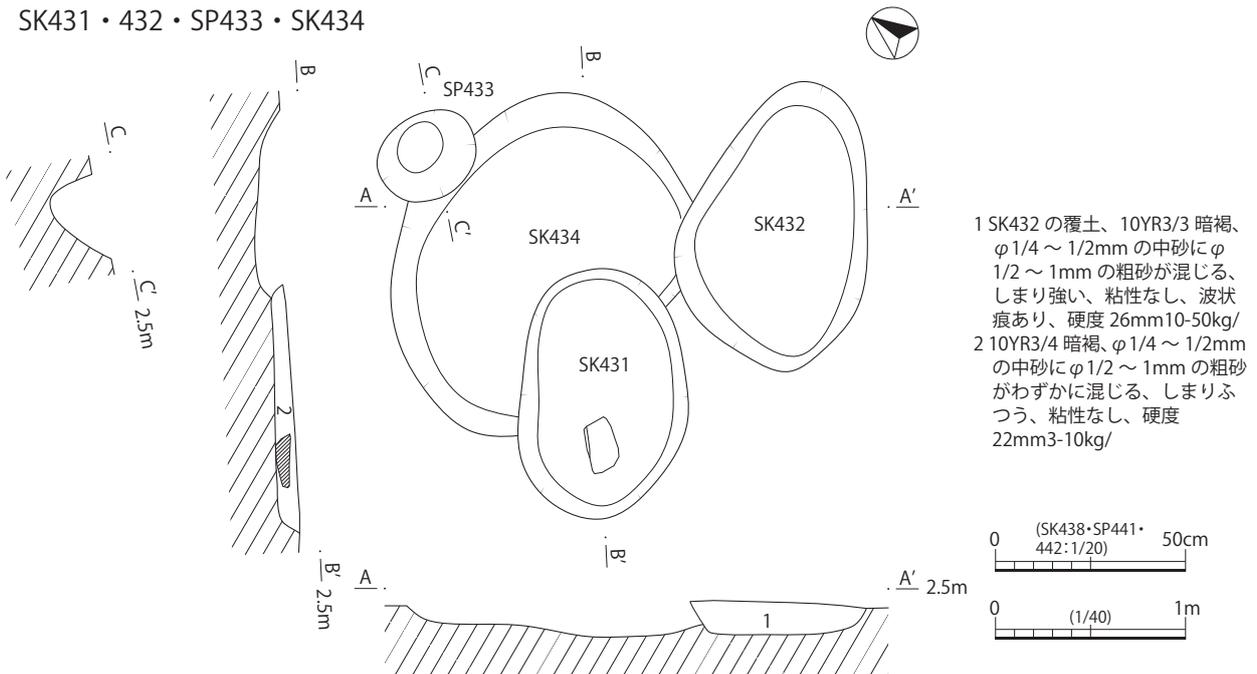


SP446

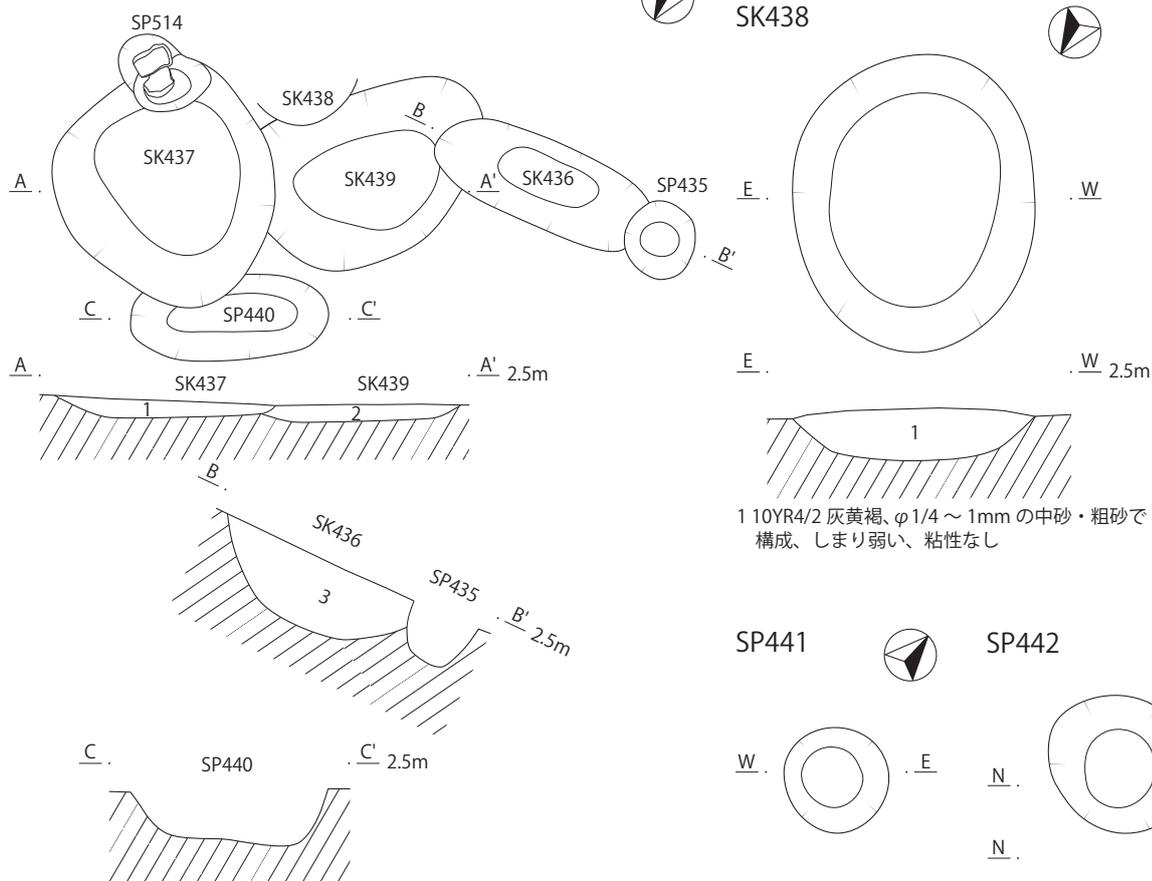


第81図 HZK2101地点北西エリア SK413・SP414・415・SK416・417・SP419・420・SK423・430・SP446・SK505平面・断面図

SK431・432・SP433・SK434



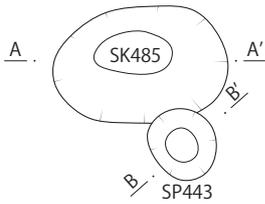
SP435・SK436・437・439・SP440・514



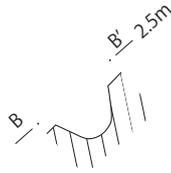
- 1 10YR3/2 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂に $\phi 1/2 \sim 2\text{mm}$ の粗砂・極粗砂が混じる、しまりふつつ、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/  $\text{cm}^2$
- 2 SK439の覆土、10YR3/3 暗褐、 $\phi 1/4 \sim 1\text{mm}$ の中砂・粗砂で構成、しまりふつつ、粘性なし、硬度 16mm3kg/  $\text{cm}^2$
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2\text{mm}$ の中砂、しまり弱い、粘性なし、硬度 14mm1-3kg/  $\text{cm}^2$

第82図 HZK2101地点北西エリア SK431・432・SP433・SK434・SP435・SK436～439・SP440～442・514平面・断面図

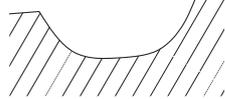
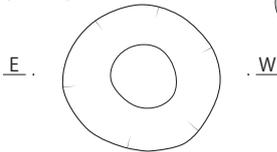
SP443・SK485



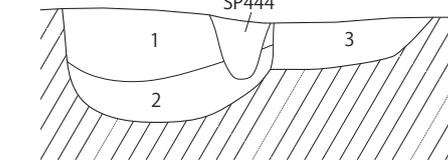
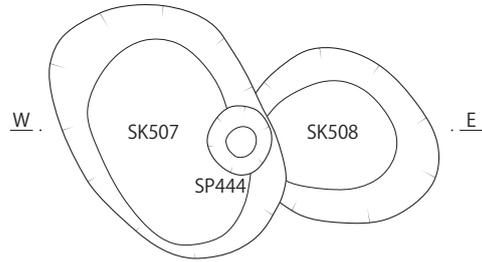
1 2.5Y3/2 黒褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に赤色粒子が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度22mm 3-10kg/cm<sup>2</sup>



SP445



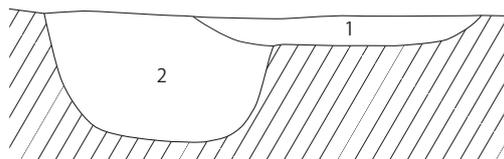
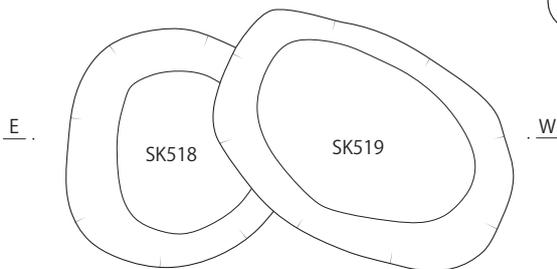
SP444・SK507・508



1 SK507の上層、7.5YR3/1 黒褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1/2～1mmの粗砂が混じる、しまり強い、粘性弱い、硬度18mm 3-10kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SK507の下層、10YR3/4 暗褐色砂と10YR5/6 黄褐色砂の混合層、 $\phi$ 1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度14mm 1-3kg/cm<sup>2</sup>  
 3 SK508の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1～2mmの極粗砂をわずかに含む、しまり弱い、粘性なし、硬度12mm 1-3kg/cm<sup>2</sup>

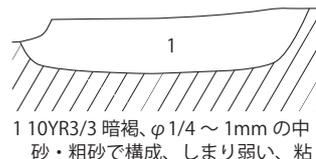
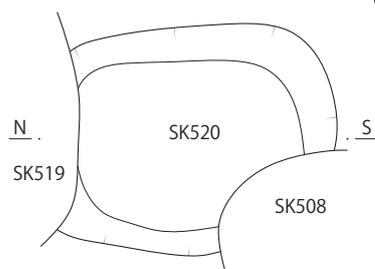


SK518・519



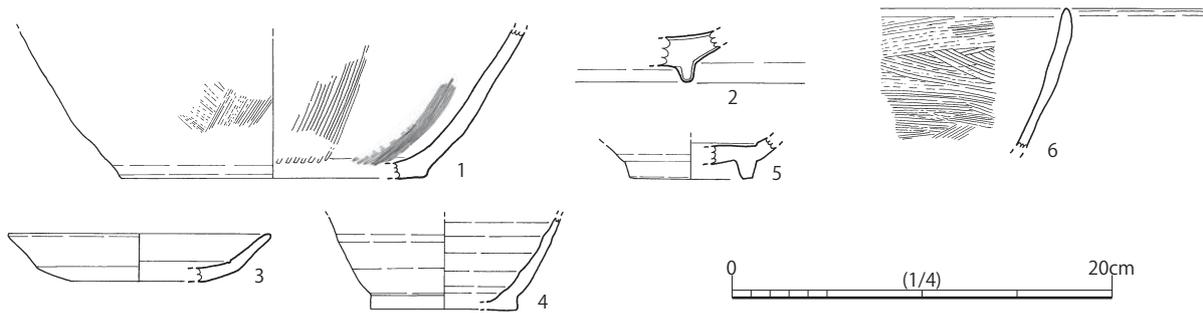
1 SK519の覆土、2.5Y4/3 オリーブ褐、 $\phi$ 1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまり弱い、粘性なし、硬度14mm 1-3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 SK518の覆土、10YR4/3 にぶい黄褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1/2～1mmの粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし、硬度14mm 1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK520



1 10YR3/3 暗褐、 $\phi$ 1/4～1mmの中砂・粗砂で構成、しまり弱い、粘性なし、波状痕あり、硬度16mm 3kg/cm<sup>2</sup>

第83図 HZK2101地点北西エリア SP443～445・SK485・507・508・518～520平面・断面図



第84図 HZK2101地点出土遺物30

## SK413出土遺物

第79図1～5はSK413出土である。1は青磁碗である。角高台の畳付から高台内まで露胎である。2・3は瓦質土器の湯釜である。2は口縁部外面に格子文のスタンプを施す。3は口縁部外面を雷文と菱文を組み合わせたスタンプで飾る。いずれも15世紀後葉から16世紀末の所産である（山本他1997）。4は中央部が膨らむ円筒形の土錘である。5は滑石製石鍋の再加工品である。

## SK416出土遺物

第79図6・7はSK416出土である。6は器高の低い陶器の碗で、内外面とも灰色釉がかかる。外面底部付近の釉はカイラギ状に縮れる。朝鮮王朝の雑釉陶器で、15世紀後半以降の所産である（佐藤2008）。7は瓦質土器の掬鉢である。口縁部に片口が付く。

## SK417出土遺物

第79図8はSK417出土の土師質の片口の付く掬鉢である。SK413出土の破片が接合した。掬鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他1997）。

## ピット SP419（第81図）

## SP419出土遺物

第71図3はSP419出土の土師皿である。

土坑 SK431・SK432・ピット SP433・土坑 SK434（第82図） SK431とSK432・SP433はSK434を切っている。

ピット SP435・土坑 SK436・SK437・SK438・SK439・ピット SP440・SP514（第82図） SP435はSK436を切っている。SK436・SK437・SK438はSK439を切っている。SK437はSP440を切り、SP514に切られる。

ピット SP443・土坑 SK485（第83図） SP443はSK485を切る。

ピット SP444・SP445・土坑 SK507・SK508・SK518・SK519・SK520（第83図） SP444はSK507・SK508を切る。SK508はSK520を切りSP445に切られる。SK520はSK519に切られる。SK519はSK518を切る。

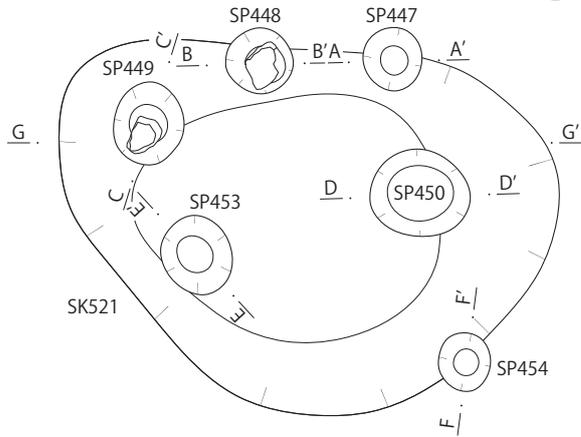
## SP444出土遺物

第84図6はSP444出土の土師質の鍋である。素口縁で、外面にススが付着する15世紀後葉から16世紀末の所産である（山本他1997）。

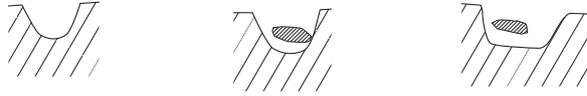
## SK507出土遺物

第84図1はSK507出土の土師質の掬鉢である。掬鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる（山本他1997）。

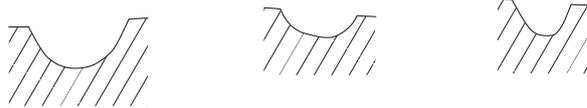
SP447~450・453・454・SK521



A. A' 2.6m B. B' 2.6m C. C' 2.6m



D. D' 2.8m E. E' 2.7m F. F' 2.8m

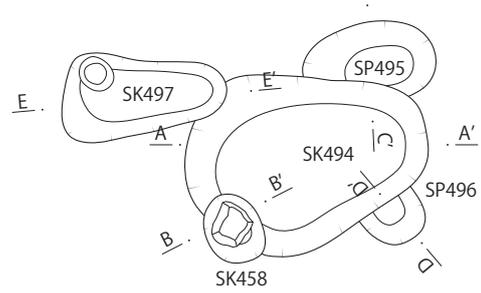


G. G' 2.5m

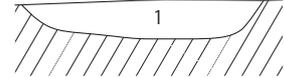


1 2.5Y4/3 オリーブ褐、 $\phi 1/8 \sim 1/2$ mmの細砂・中砂に $\phi 1/2 \sim 1$ mmの粗砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 20mm3-10kg/cm<sup>2</sup>

SK458・494・SP495・496・SK497



A. A' 2.5m



B. B' 2.5m C. C' 2.5m

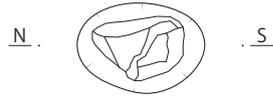


D. D' 2.5m E. E' 2.5m



2 1.2.5Y3/2 黒褐、 $\phi 1/4 \sim 1/2$ mmの中砂に $\phi 1/2 \sim 1$ mmの中砂が混じる、しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm1-3kg/cm<sup>2</sup>  
 2 10YR4/4 暗褐、 $\phi 1/2 \sim 2$ mmの粗砂・極粗砂主体で $\phi 1/4 \sim 1/2$ mmの中砂が混じる、しまり強い、粘性なし、硬度 30mm10-50kg/cm<sup>2</sup>

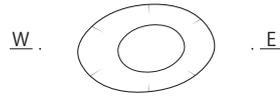
SP455



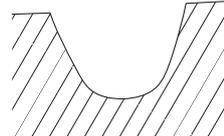
N. N' 2.5m



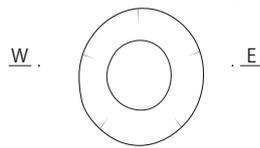
SP457



W. W' 2.5m



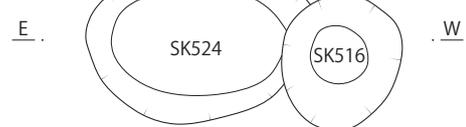
SP456



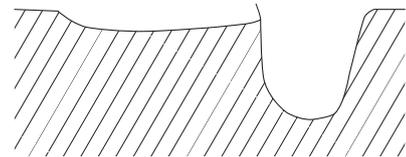
W. W' 2.5m



SK516・524

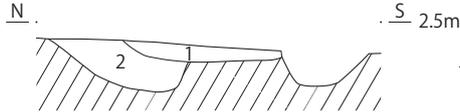
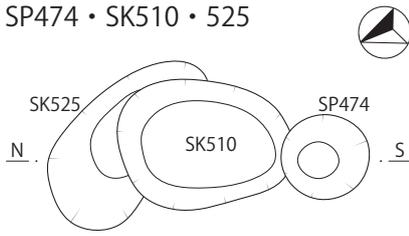


E. E' 2.4m



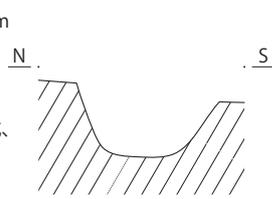
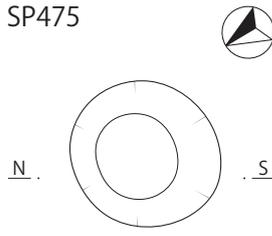
第85図 HZK2101地点北西エリア SP447~450・453~457・SK458・494・SP495・496・SK497・516・521・524平面・断面図

SP474・SK510・525

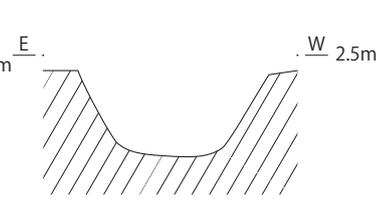
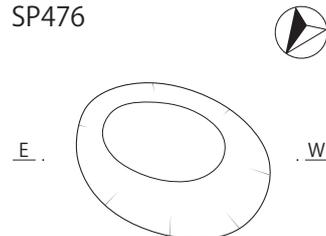


1 10YR3/3 暗褐、 $\phi$ 1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、  
しまりふつう、粘性なし、硬度 16mm3kg/cm<sup>2</sup>  
2 10YR4/4 褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1～2mm  
の極粗砂が混じる、しまり弱い、粘性なし  
硬度 8mm1kg/cm<sup>2</sup>

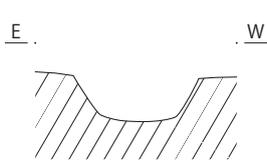
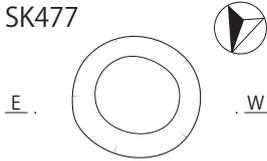
SP475



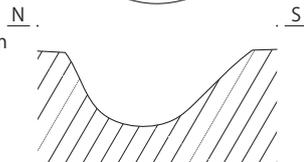
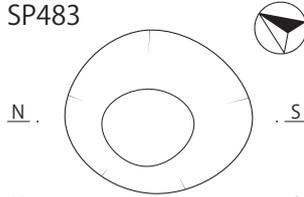
SP476



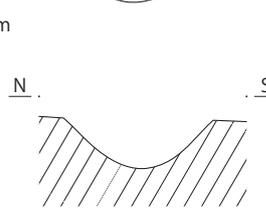
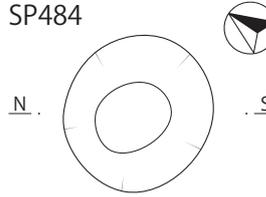
SK477



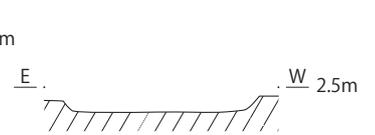
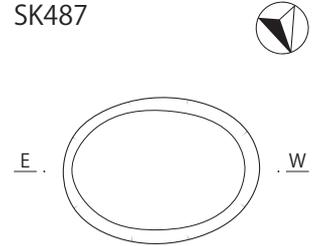
SP483



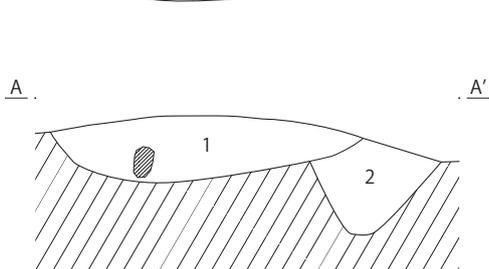
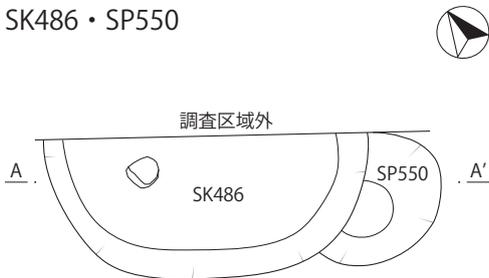
SP484



SK487

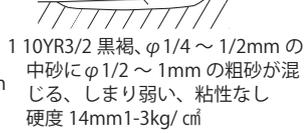
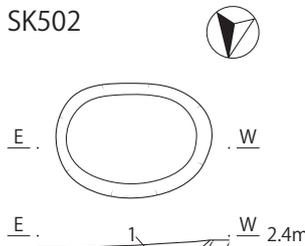


SK486・SP550



1 10YR3/2 黒褐、 $\phi$ 1/4～1mmの中砂・粗砂で構成、  
しまりふつう、粘性なし  
硬度 22mm3-10kg/cm<sup>2</sup>  
2 2.5Y4/2 暗灰黄、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂に $\phi$ 1～  
2mmの極粗砂が混じる、しまりふつう、粘性  
なし、硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK502

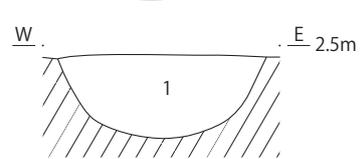
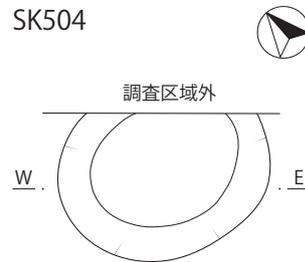


SK503

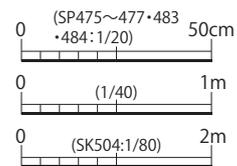


1 7.5YR4/3 褐、 $\phi$ 1/4～1/2mm  
の中砂、しまり弱い、粘性な  
し、硬度 16mm1-3kg/cm<sup>2</sup>

SK504

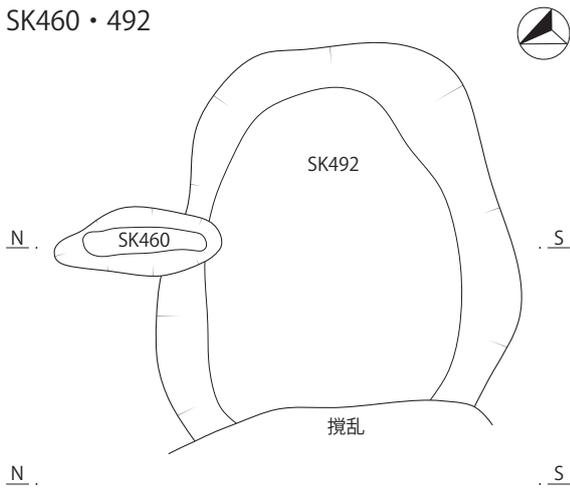


1 10YR3/3 暗褐、 $\phi$ 1/4～1/2mmの中砂  
に $\phi$ 1/2～2mmの粗砂・極粗砂が混  
じる、しまりふつう、粘性なし  
硬度 12mm1-3kg/cm<sup>2</sup>



第86図 HZK2101地点北西エリア SP474～476・SK477・483・484・486・487・  
502～504・510・525・SP550平面・断面図

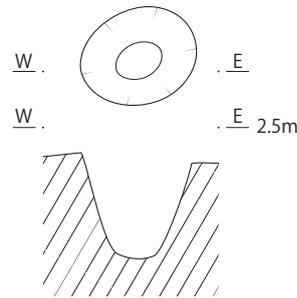
SK460・492



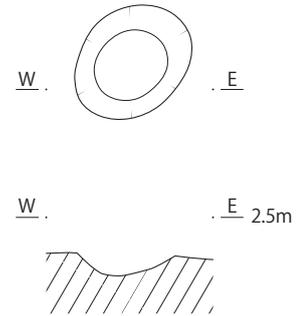
1 110YR3/2 黒褐、φ1/4～2mmの中砂～極粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、硬度32mm50kg/cm<sup>2</sup>  
 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐、φ1/4～1mmの中砂・粗砂で構成、しまり強い、粘性なし、硬度28mm10-50kg/cm<sup>2</sup>



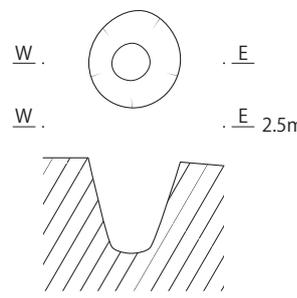
SP461



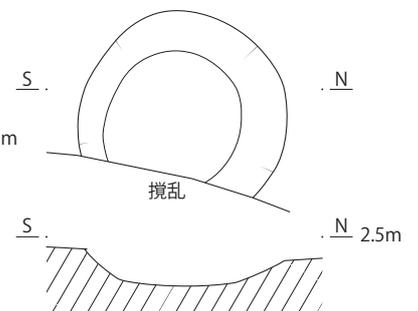
SP462



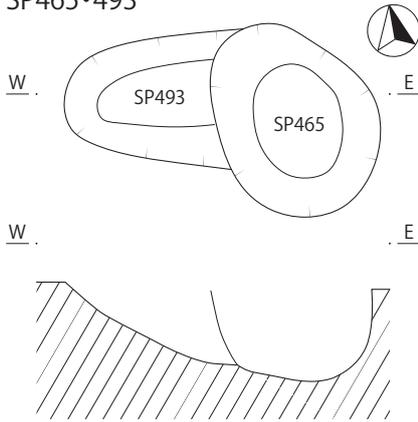
SP469



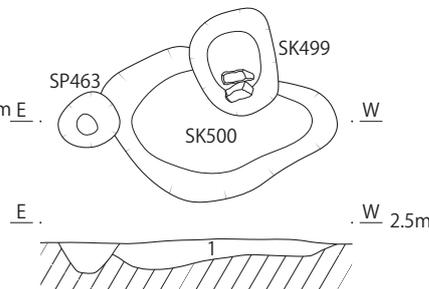
SP470



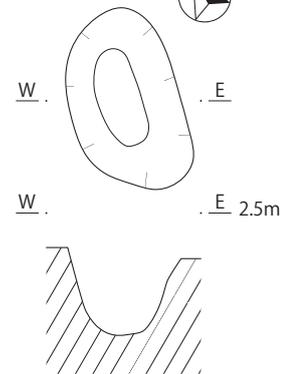
SP465・493



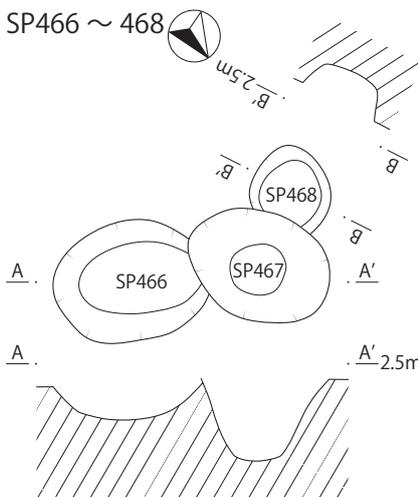
SP463・SK499・500



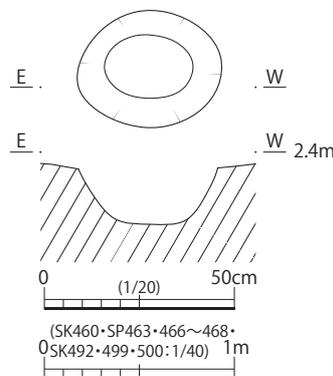
SP464



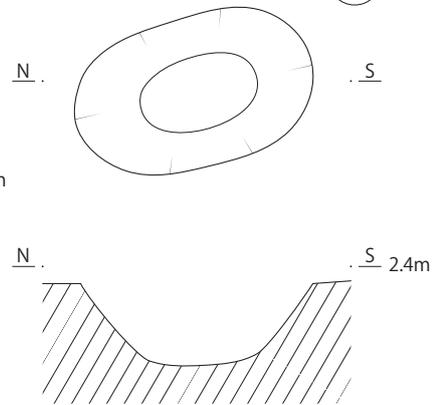
SP466～468



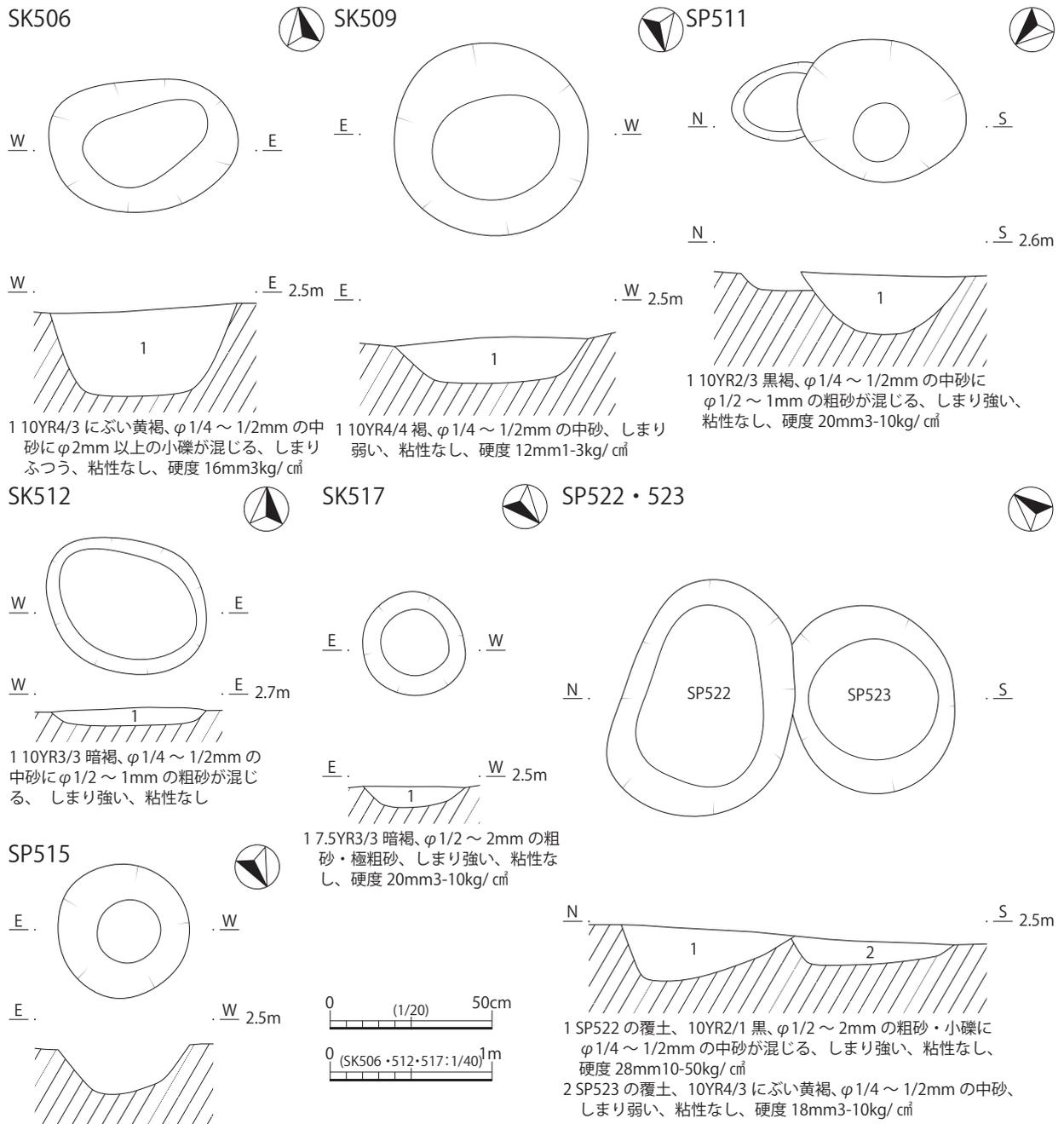
SP472



SP473



第87図 HZK2101地点北西エリア SK460・SP461～470・472・473・SK492・SP493・SK499・500平面・断面図



第88図 HZK2101地点北西エリア SK506・509・SP511・SK512・SP515・SK517・SP522・523平面・断面図

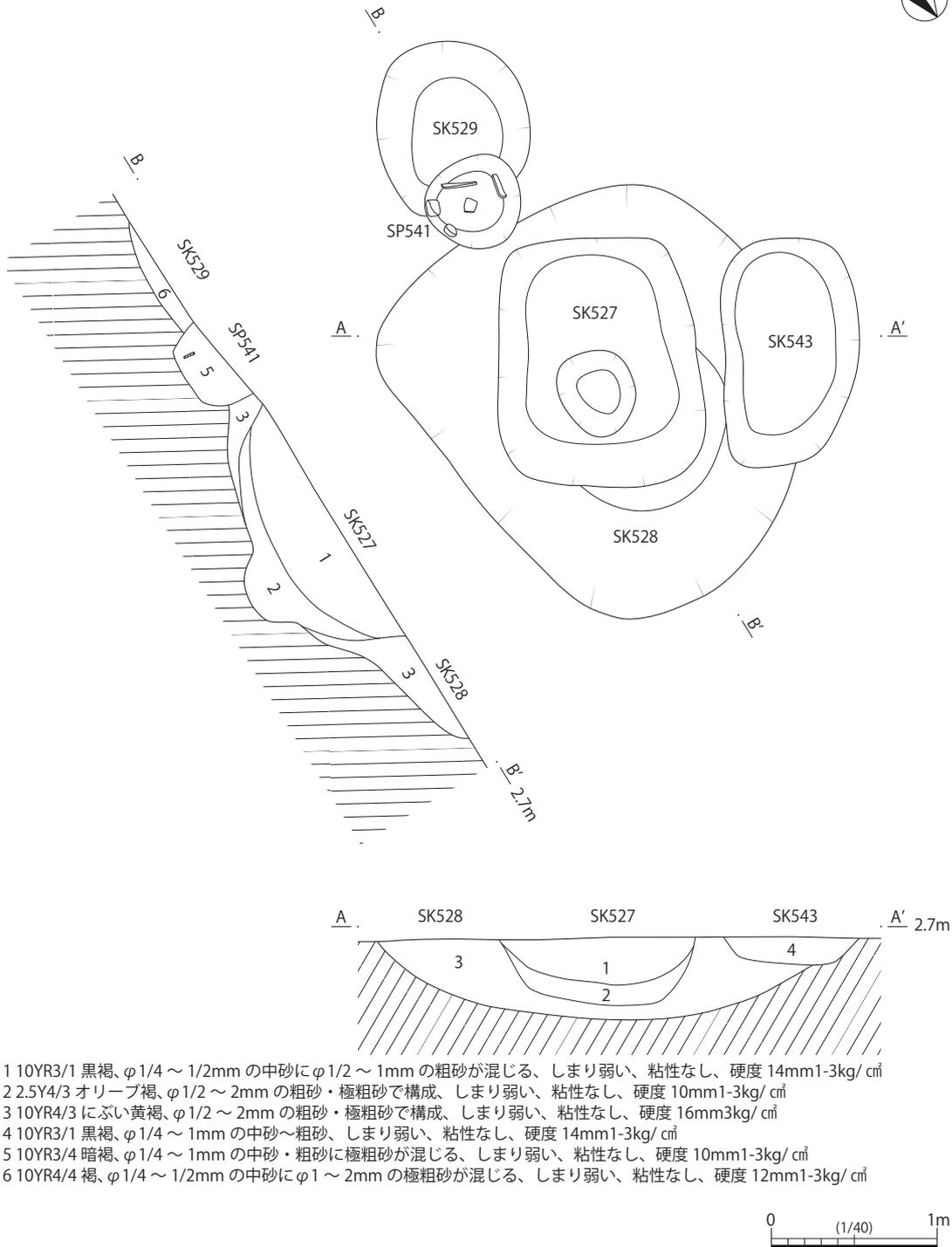
SK508出土遺物

第84図 2 は SK508出土の青磁碗である。胎土は橙色を呈し、釉調は不透明で半濁する。龍泉窯系青磁碗Ⅳ類で、14世紀以降の所産である（宮崎編 2000）。

SK518出土遺物

第84図 3・4 は SK518出土である。3 は白磁皿で体部は鈍角に内側へ屈曲する。見込みと体部の境に沈線状の段を有する。大宰府編年の白磁皿Ⅷ-1a 類で12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。4 は褐釉陶器の鉢である。回転ヘラケズリで成形し、内外面に釉を施す。

SK527~529・SP541・SK543



第89図 HZK2101地点北西エリア SK527~529・SP541・SK543平面・断面図

SK520出土遺物

第84図 5 は SK520出土の白磁碗である。見込み部分の釉を環状に掻き取る。大宰府編年の白磁碗Ⅷ類で、12世紀中頃から後半の所産である（宮崎編 2000）。

ピット SP447・SP448・SP449・SP450・SP453・SP454・土坑 SK516・SK521・SK524

(第85図) SP447・SP448・SP449・SP450・SP453・SP454はSK521を切る。SK516はSK524を切る。土坑SK458・SK494・ピットSP495・SP496・土坑SK497(第85図) SK458はSK494を切る。SK494はSP495・SP496を切りSK497に切られる。

土坑SK460・SK492(第87図) SK460がSK492を切る。

ピットSP463・土坑SK499・SK500(第87図) SP463はSK500を切り、SK500はSK499に切られる。

ピットSP465・SP493(第87図) SP465はSP493を切る。

ピットSP466・SP467・SP468(第87図) SP466はSP467に切られる。SP467はSP468を切る。

#### SP466出土遺物

第71図8はSP466出土の青磁碗である。削りの浅い角高台の外端を面取りする。畳付およびその内部は露胎である。露胎部は暗赤色に発色し、釉薬は不透明で濁る。底部外面にヘラケズリが見られる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類で、14世紀以降の所産である(宮崎編 2000)。

ピットSP474・土坑SK510・SK525(第86図) SP474はSK510を切る。SK510はSK525を切る。

土坑SK486・ピットSP550(第86図) SK486はSP550を切る。

土坑SK506(第88図)

#### SK506出土遺物

第71図4～7はSK506出土である。4は糸切り底の土師器の坏、5～7は糸切り底の土師皿である。ピットSP522・SP523(第88図) SP522はSP523を切る。

土坑SK527・SK528・SK529・ピットSP541・土坑SK543(第89図) SK527はSK528を切る。SK528はSP541・SK543に切られる。SP541はSK529を切る。

#### SK527出土遺物

第92図1はSK527出土の玉縁の付く丸瓦である。表面に縄目タタキ、内面に布目が残る。

#### SK528出土遺物

第92図2～12はSK528出土である。2～5は青磁碗である。2は見込みに片彫りで草花文を施し、低い角高台が付く。3・4は内面に片彫り草花文を施す。いずれも大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である。5は見込み部分に片彫り文を施すが、全体に粗雑であり、釉調は不透明で濁る。高台の内面は赤色を呈す。龍泉窯系青磁碗Ⅳ類で、14世紀以降の所産である。6は白磁の壺胴部である。内面は強くナデ段が付く。7は陶器の壺肩部である。内外面とも薄く釉がかかる。8は平底の陶器の底部で、内面に黒褐色の釉がかかる。天目碗の底部である。9は陶器の黄釉鉄絵盤の底部である。見込み部分に鉄絵で文字を書く。10は須恵器の坏蓋である。11・12は瓦質土器の捏鉢である。捏鉢は13世紀以降在地化が進む(山本他 1997)。

#### SK543出土遺物

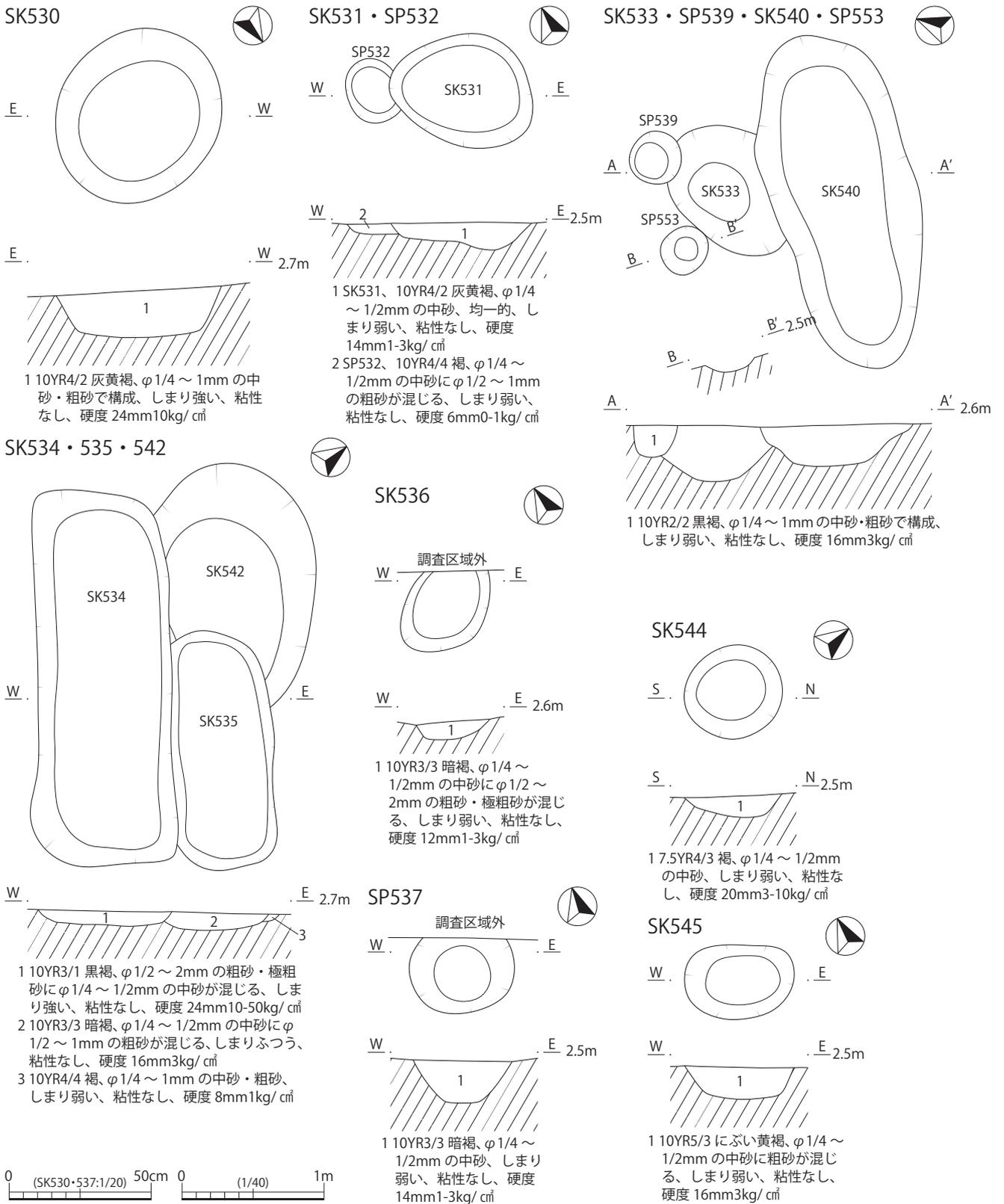
第92図13～17はSK543出土である。13は灰色の胎土に透明釉がかかる碗で、見込みにメアトが残る。朝鮮王朝の雑釉陶器で、15世紀後半以降の所産である(佐藤 2008)。14・15は白磁皿である。14は平底の底部である。15は口縁が直口で体部は鈍角に内側へ屈折する。大宰府編年の皿Ⅷ類で12世紀中頃から後半の所産である。16は瓦質土器の捏鉢、17は搗鉢である。搗鉢は14世紀後半以降、櫛状のスリ目が付くようになる(山本他 1997)。

土坑SK531・ピットSP532(第90図) SK531はSP532を切る。

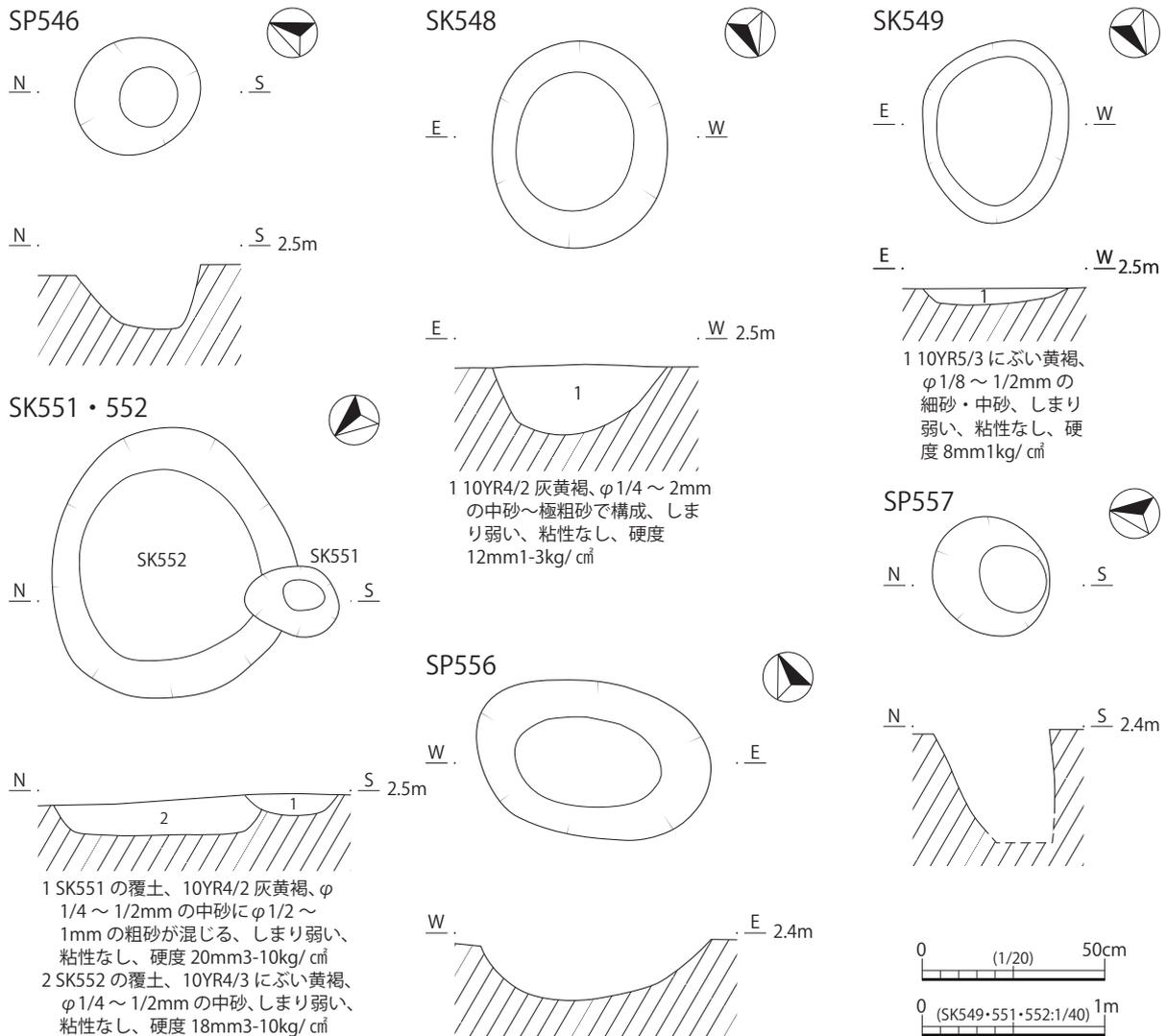
#### SK531出土遺物

第93図1～5はSK531出土である。1は褐釉陶器の耳壺である。口縁部は玉縁状で、口縁部下外

Ⅲ HZK2101地点 (正門前地点)



第90図 HZK2101地点北西エリア SK530・531・SP532・SK533～536・SP537・539・SK540・542・544・545・SP553平面・断面図



第91図 HZK2101地点北西エリア SP546・SK548・549・551・552・SP556・557平面・断面図

面に沈線がめぐる。2は小型の灰白釉を施す陶器鉢で、口縁部は折り曲げて玉縁状にする。大宰府編年の陶器鉢IV-1類で13世紀から14世紀前半の所産である。3は褐釉の陶器鉢で、口縁部はくの字状になる。4は大型の陶器甕で、口縁部は二又に分かれてY字状をなす。大宰府編年の陶器甕Ⅲ類で、13世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。5は須恵器の大甕口縁部で、強く外反する。

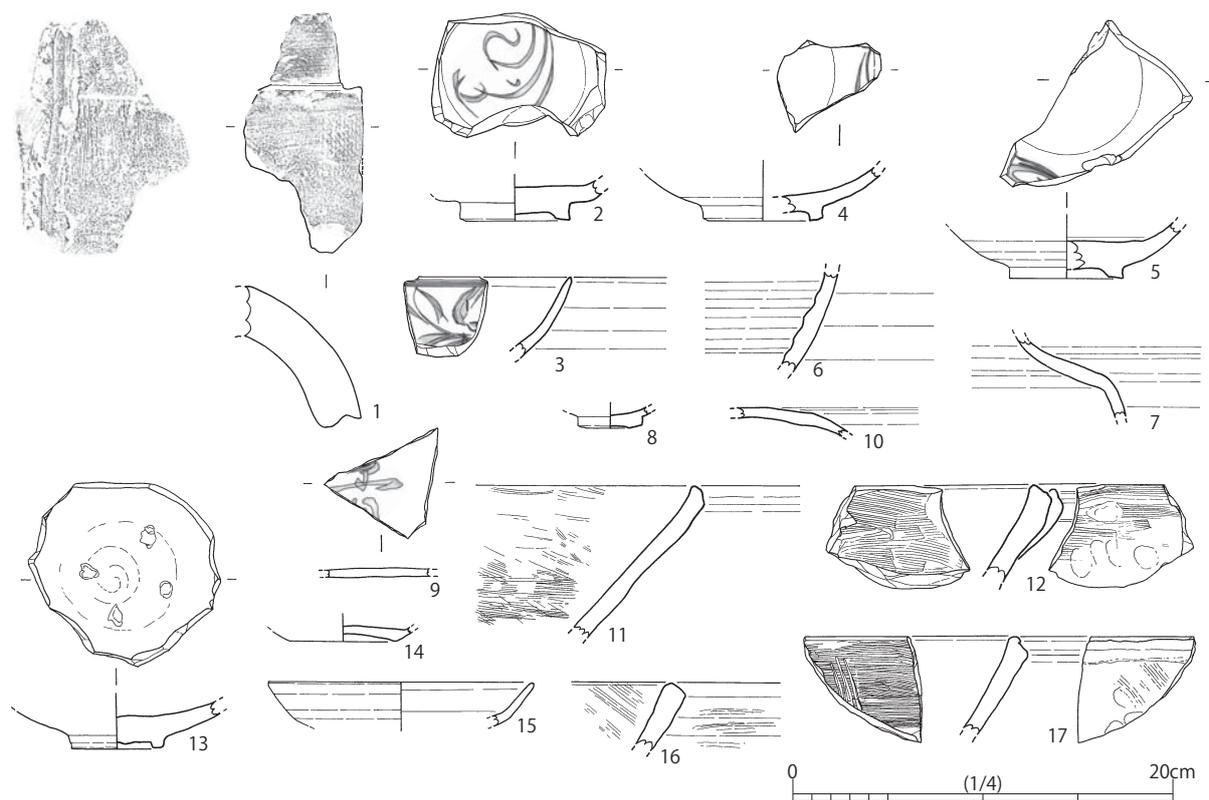
土坑 SK533・SK534・SK535・ピット SP539・土坑 SK540・SK542・ピット SP553（第90図）SK533はSP539・SK540に切られる。SK540はSK542・SK534に切られる。SK542はSK534・SK535に切られる。SK534はSK535・SK540・SK542を切る。

#### SK533出土遺物

第93図6はSK533出土の糸切り底の土師皿である。

#### SK535出土遺物

第93図7はSK535出土の陶器の甕である。大型品で外反する口縁部に帯状の粘土を貼り付けて口縁部を成形し、端部外面に2条の凹線がめぐる。頸部付近に自然釉がかかる。



第92図 HZK2101地点出土遺物31

SP539出土遺物

第93図8はSP539出土の褐釉陶器の鉢である。口縁部は折り曲げて玉縁状にするが、肩が張った形態のため口縁部が内側に入り込む。大宰府編年の陶器鉢Ⅳ-2類で、13世紀から14世紀前半の所産である（宮崎編 2000）。

SK540出土遺物

第93図9はSK540出土の青磁碗である。高台は低く、見込みと内面に片彫り文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。10は中型の円筒形をなす土錘である。

SK542出土遺物

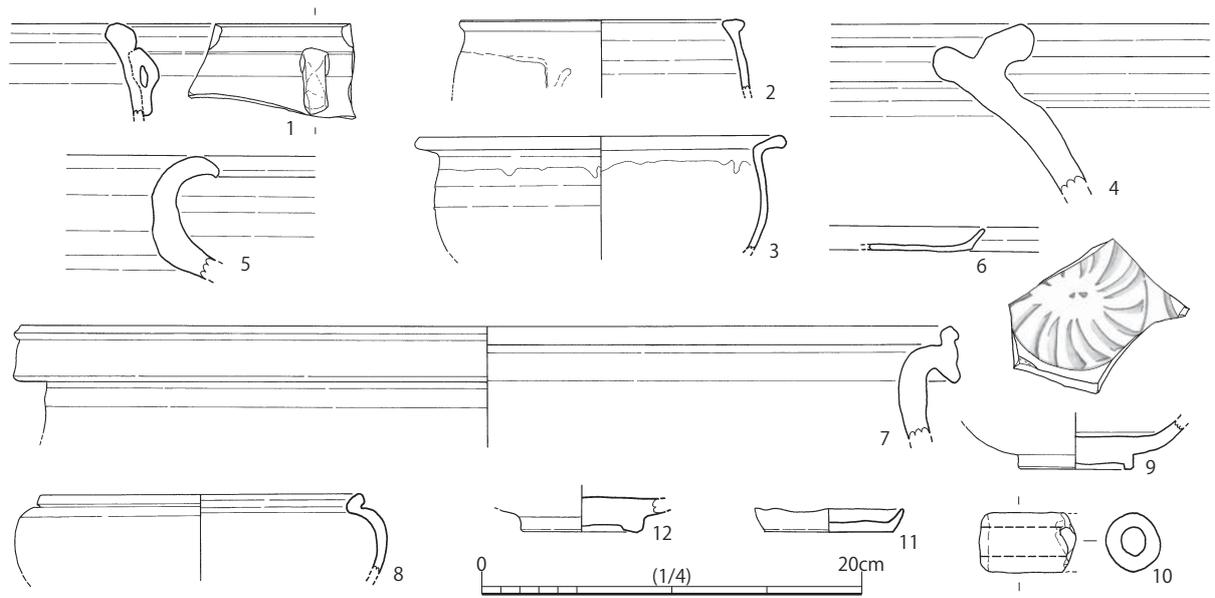
第93図11はSK542出土の糸切り底の土師皿である。

SP553出土遺物

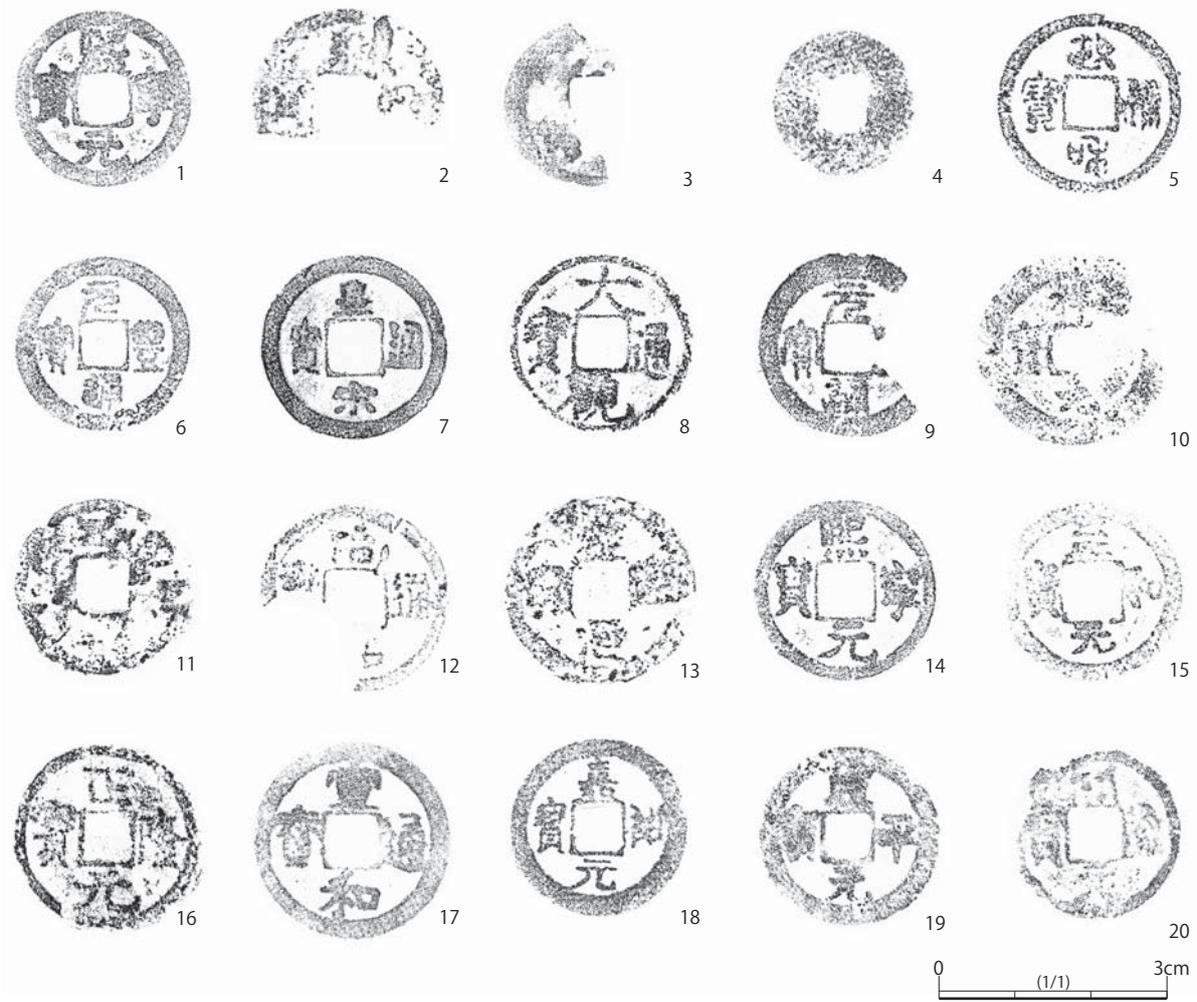
第93図12はSP553出土の青磁碗で、低い角高台を有する。高台の刳りは浅く畳付及びその内面は露胎である。龍泉窯系青磁碗Ⅰ-1類で、12世紀中頃から13世紀初頭の所産である（宮崎編 2000）。土坑SK551・SK552（第91図）SK551はSK552を切る。

エリアⅢ（北西地区）の掘立柱建物について

エリアⅢには7棟の掘立柱建物を復元できた。ほかの遺構との切り合いが激しく記述が煩雑になるため、ここで個別に記述する。掘立柱建物を構成する遺構の詳細は本文中及び遺構一覧表を参照いただきたい。



第93図 HZK2101地点出土遺物32



第94図 HZK2101地点出土遺物33

#### 掘立柱建物 E（SB-E）（第2図）

掘立柱建物 E は1間×3間の長方形建物として復元した。桁行の柱間の間隔が一定ではないが梁行の間隔はそろっている。SP280・SP304・SP307・SP325・SP327は掘立柱建物 E を構成する柱穴である。SK268・SK275・SK276は柱の想定される位置にある。

#### 掘立柱建物 F（SB-F）（第2図）

掘立柱建物 F は1間×1間の正方形建物として復元した。SP332・SK348は礎石を持ち、掘立柱建物 F を構成する柱穴である。SK334・SK335は柱の想定される位置にある。

#### 掘立柱建物 G（SB-G）（第2図）

掘立柱建物 G は1間×1間の長方形建物として復元した。桁行と梁行で長さが異なる。SP310・SP311・SP317・SP321は掘立柱建物 G を構成する柱穴である。

#### 掘立柱建物 H（SB-H）（第2図）

掘立柱建物 H は3間×4間の長方形建物として復元した。桁行の柱間の間隔が一定ではないが梁行の間隔は比較的そろっている。SP376・SP409・SP422・SK429・SP442・SK431・SK434・SP444・SP455・SP458・SP472・SK494・SP514は掘立柱建物 H を構成する柱穴である。SP422・SP455・SP458は礎石を持つ。またSK424・SK425・SK439・SK500・SK520は柱の想定される位置にある。

#### 掘立柱建物 I（SB-I）（第2図）

掘立柱建物 I は2間×5間の長方形建物として復元した。桁行の柱間の間隔が一定ではないが梁行の間隔は比較的そろっている。SP289・SP336・SP368・SP340・SP355・SP359・SK365・SK383・SP448は掘立柱建物 I を構成する柱穴である。SP289・SP340・SP448は礎石を持つ。またSK392・SK408・SK416・SK417・SK492は柱の想定される位置にある。

#### 掘立柱建物 J（SB-J）（第2図）

掘立柱建物 J は1間×1間の長方形建物として復元した。桁行と梁行で長さが異なる。SP474・SP475・SK477・SP478は掘立柱建物 J を構成する柱穴である。

#### 掘立柱建物 K（SB-K）（第2図）

掘立柱建物 K は2間×5間の長方形建物として復元した。桁行の柱間の間隔が一定ではないが梁行の間隔はそろっている。SK498・SP511・SK527・SK544・SK548・SP551・SP553・SP556・SP557は掘立柱建物 K を構成する柱穴である。また、SI418・SK451・SK452・SK491・SK513・SK534・SK540は柱の想定される位置にある。

掘立柱建物は HZK2101調査区全体で11棟復元できた。ピットの中に石を持つ柱穴は、砂地の中に柱が沈むのを防ぐための礎石であり、柱は地面の中に埋め込まれる。こうした礎石と思われるものを持つピットはほかにもあり、建物の建て替えなども想定される。掘立柱建物 A・D・E・K と掘立柱建物 B・C・H・I・J はそれぞれ長軸の方向がそろっている。

#### 遺構外

第71図10～14は遺構外出土である。10は褐釉陶器の鉢である。内外面とも回転ヘラケズリを施し薄く施釉する。11は陶器の黄釉鉄絵盤で、見込みから体部内面にかけて施文する。口縁部は肥厚させ断面方形に近い。口唇部は施釉後、釉を拭き取っている。大宰府編年の陶器盤 I-2b 類で、時期は11世紀後半から12世紀前半である（宮崎編 2000）。12・13は糸切り底の土師器の坏、14は糸切り底の土師皿である。

（谷 直子）

### 3. 小結

本地点は、九州大学設置遺構の造成土が堆積していたものの遺構は良く残っており、中世の建物・墓・土坑・溝・井戸・石組のムロ・ピットなど559遺構が検出された。大溝 SD235が調査区の中央を東西に横断しており、この大溝に長軸を平行にして建つ掘立柱建物群と、長軸を異にする掘立柱建物群が復元できる。大溝の北側は遺構の密度が多く、建物の柱穴が密集しており、柱穴の切り合いなどから掘立柱建物は複数回の建て替えがあった可能性が高い。井戸は素掘り井戸2基と石組井戸2基が検出されている。井戸が多く検出された HZK1804・1903地点などと異なり、井戸はいずれも切り合わない。石組井戸や石組のムロの構築材や礎石には石塔の一部や板碑の残欠が使用されていることから、付近に宗教関連施設が存在した可能性が考えられる。また墓も検出されている。遺物には、陶磁器・土師器・瓦・滑石製品などがあるほか、土坑から多く検出された貝も出土している。(谷 直子)

#### 引用文献

- 鋤柄俊夫1997「畿内周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 157～193頁  
 張起熏2018「朝鮮前期陶磁器様式の展開における製作技術と形式の変化」『那覇市立壺屋焼物博物館紀要』第19号 那覇市立壺屋焼物博物館  
 松田麻里・桃崎祐輔2019「筑前・筑後・豊前・肥前」『中世瓦の考古学』中世瓦研究会編 237～254頁  
 宮崎亮一(編)2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編』大宰府市教育委員会  
 山本信夫・山村信榮1997「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第79集 国立歴史民俗博物館 237～310頁

第1表 HZK2101地点遺構観察表

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物(図化不可)	備考
1	土坑	SK	01	長楕円形	153+	70	31	第1図15	土師器坏・皿, 青磁碗(龍Ⅲ類), 白磁碗, 瓦質土器捏鉢	
1	土坑	SK	02	楕円形	68+	54+	14		なし	
1	溝	SD	03	長楕円形	136	50	19	第6図-1～5	土師器坏, 陶器壺	貝溜り
1	土坑	SK	04	円形	57	47+	18		土師皿, 陶器甕(近世)	
1	ピット	SP	05	円形	40	29+	30		土師器片	
1	ピット	SP	06	楕円形	51	45+	17	第7図-1	なし	
1	土坑	SK	07	楕円形	67+	54+	49		土師器片	
1	土坑	SK	08	楕円形	108+	50+	34	第7図-2～5	土師器坏・皿, 青磁片, 白磁碗(Ⅸ類), 瓦質土器捏鉢	
1	溝	SD	09a	長楕円形	268+	46	26	第6図-6～12	土師器坏・皿, 青磁碗(龍Ⅱ類), 陶器甕, 瓦質土器捏鉢	
1	溝	SD	09b	長楕円形	258	54+	40	第6図-13	土師器坏・皿, 青磁碗(龍Ⅰ・Ⅲ類), 陶器甕, 須恵器片, 瓦質土器捏鉢	
1	溝	SD	10	長楕円形	252	46	44	第6図-14	土師器坏・皿・甕, 青磁壺, 陶器片(近代), 石球	
1	溝	SD	11	長楕円形	228	38	36		土師器片, 白磁碗(Ⅸ類)	
1	溝	SD	12	長楕円形	110	30	21		土師器片	
1	ピット	SP	13	楕円形	30+	29	13		土師器片	
1	ピット	SP	14	楕円形	64	57	8	第8図-17・18	土師器片, 陶器片	
1	土坑	SK	15	不整円形	67	53	39		土師器坏・皿・鍋, 青磁片(同安), 陶器黄釉盤	
1	土坑	SK	16	楕円形	50	44	28		土師器片, 白磁皿	
1	土坑	SK	17	楕円形	70	62	45	第8図-1	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗, 白磁碗, 陶器碗・甕, 瓦質土器捏鉢, 瓦	
1	土坑	SK	18	楕円形	76	55	19	第8図-2～4	土師器坏・鍋, 青磁片, 白磁片, 陶器壺, 瓦質土器捏鉢	
1	土坑	SK	19	不整円形	71	45+	23		土師器片, 陶器片	
1	溝	SD	20	長楕円形	170+	55	19		土師器片, 陶器, 染付片(近世), 瓦質土器捏鉢	
1	土坑	SK	21	楕円形	150	114	38	第8図-5～9	土師器坏・皿, 青磁碗, 陶器甕, 瓦質土器捏鉢	
1	土坑	SK	22	楕円形	222	150	36	第8図-10	土師器片, 青磁碗(同安), 陶器片	貝溜り
1	土坑	SK	23	楕円形	114	60+	22	第7図-6	土師器坏, 青磁碗(龍Ⅲ類), 白磁碗(Ⅸ類), 瓦質土器捏鉢, 瓦	
1	土坑	SK	24	不整楕円形	150	62	23		土師器坏・鍋	

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物（図化不可）	備考
1	ピット	SP	25	楕円形	40	34+	12		土師器片	
1	土坑	SK	26	不整形円形	178	161+	12		土師器片, 青磁碗（龍Ⅰ類）, 天目碗, 瓦	
1	土坑	SK	27	不整形楕円形	205	128	34		土師器坏・皿・捏鉢, 陶器片, 瓦	
1	ピット	SP	28	不整形円形	37	32	28		土師器片, 白磁片	
1	ピット	SP	29	円形	44	42	17		土師器坏	
1	ピット	SP	30	円形	46	44	22		土師器片	
1	土坑	SK	31	長楕円形	137	52	17		土師器片, 陶器甕	
1	溝	SD	32	長楕円形	130+	65	30		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗（同安）, 陶器搗鉢	
1	墓	ST	33	楕円形	144	123	52	第13図-1~3	なし	
1	土坑	SK	34	楕円形	90+	66	34	第8図-11	なし	
1	土坑	SK	35	円形	114	110	36		土師器坏・皿・搗鉢, 白磁碗（Ⅸ類）, 陶器壺, 瓦, 滑石製石鍋	
1	土坑	SK	36	楕円形	81	54	16	第8図-12~14	土師質鍋, 瓦	
2	井戸	SE	37	円形	235	210	175	第16図	土師器坏・鍋・捏鉢, 青磁碗, 白磁碗（中世~近世）, 陶器甕・壺, 瓦質土器捏鉢・火鉢, 瓦	石組井戸
2	ピット	SP	38	楕円形	48	43	8		土師器坏, 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	39	楕円形	55	47	12	第17図-5	土師器片	
2	ピット	SP	40	楕円形	52	45	17	第17図-6	土師質捏鉢, 青磁碗（龍Ⅰ類）, 白磁片	
1	土坑	SK	41	楕円形	80+	64	30		土師器坏・皿・鍋, 白磁碗（Ⅳ類・Ⅸ類）, 陶器壺	
1	土坑	SK	42	楕円形	85+	49+	12		土師器片, 青磁碗（龍Ⅱ類）, 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	43	円形	36	34	19		土師器片	
2	土坑	SK	44	円形	26	25	13		なし	
2	ピット	SP	45	円形	25	24	14		土師質鍋, 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	46	円形	37	33	18		土師器片	
2	土坑	SK	47	不整形楕円形	109	44+	12		土師器坏・皿, 青磁碗	
2	ピット	SP	48	円形	46	26+	10		土師器坏	
1	土坑	SK	49	楕円形	84	72	38	第7図-7・8	土師器坏・鍋・湯釜, 青磁皿, 陶器甕, 瓦	
1	土坑	SK	50	不整形楕円形	260	144	10	第7図-9・10	土師器坏・皿, 陶器壺, 瓦質土器捏鉢・搗鉢	
1	土坑	SK	51	楕円形	516	260+	90		土師器坏・皿・鍋・捏鉢, 陶磁器片（中世・近代）, 須恵質捏鉢, 瓦質土器捏鉢, 平瓦・丸瓦, 土錘	
1	土坑	SK	52	不整形楕円形	236+	236+	64		土師器坏, 陶器片, 瓦	
2	ピット	SP	53	楕円形	61	31	41		土師器片, 青磁片	
2	ピット	SP	54	楕円形	35	31	21		土師器片, 陶器片	
1	土坑	SK	55	楕円形	95	59	49		土師器坏・鍋, 陶器壺, 瓦, 砥石	
2	土坑	SK	56	円形	115	107	32	第17図-1	土師器坏・鍋・捏鉢, 青磁碗, 陶器甕・黄釉盤, 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	57	楕円形	60+	47	18		土師器片	
2	墓	ST	58	不整形楕円形	171	97	32	第18図1~10	土師器坏・皿・鍋, 白磁碗	
2	ピット	SP	59	楕円形	41	38+	10		土師器坏, 青磁片, 陶器壺	
1	土坑	SK	60	不整形円形				図7-11	土師器坏・鍋, 陶器片	
1	土坑	SK	61	楕円形	90	60+	14		土師器坏・甕, 青磁碗・皿, 陶器片	
2	ピット	SP	62	円形	42	37	21		なし	
1	土坑	SK	63	楕円形	121	94	50	第8図-15・16	土師器坏・皿, 青磁片, 陶器甕, 瓦質土器火鉢・搗鉢	
1	土坑	SK	64	楕円形	93	53	52		土師器片, 青磁碗（龍Ⅲ類）, 白磁片, 陶器壺	
2	ピット	SP	65	円形	35	34	48		土師質鍋	
2	ピット	SP	66	円形	49	48	15		土師質鍋	
2	ピット	SP	67	楕円形	58	41	33		土師器片, 陶器黄釉盤	
2	ピット	SP	68	楕円形	50	44	23		土師器, 青磁碗（龍Ⅰ類）, 瓦質土器捏鉢	
1	土坑	SK	69	不整形楕円形	328	96+	120		土師器坏・皿, 青磁碗（龍Ⅲ類）, 白磁碗・皿（Ⅸ類）, 天目碗, 陶器甕, 瓦質土器捏鉢, 瓦	
1	土坑	SK	70	楕円形	100+	56	20		土師器坏・鍋, 白磁碗（Ⅸ類）, 瓦質土器捏鉢	
1	ピット	SP	71	楕円形	48	24+	8		土師器坏・鍋, 青磁片, 瓦質土器捏鉢	
1	土坑	SK	72	楕円形	65	56	10		土師質鍋, 瓦	
2	土坑	SK	73	不整形楕円形	110	48	14		土師器坏, 陶器壺	貝溜り
2	ピット	SP	74	楕円形	50	30	20		土師器皿・鍋, 滑石製石鍋	
2	ピット	SP	75	円形	31	30	20		陶器片, 土錘	
2	ピット	SP	76	円形	20	18	21		土師器皿	
2	ピット	SP	77	円形	24	23	41		土師器坏, 瓦質土器片	
2	ピット	SP	78	不整形	43	35	23		土師器坏, 白磁碗（Ⅸ類）, 陶器片	
2	ピット	SP	79	円形	28	24	15		土師器坏	

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物 (図化不可)	備考
2	土坑	SK	80	楕円形	92	77	21		土師器片, 青磁碗・皿, 陶器壺, 壁土	
2	ピット	SP	81	楕円形	37	33	24		土師器坏, 青磁片, 陶器壺	
2	ピット	SP	82	楕円形	60	54+	27		土師器坏・鍋, 青磁片, 陶器片	
2	土坑	SK	83	不整楕円形	87	39	20		土師器坏・皿・鍋, 陶器甕	
2	土坑	SK	84	円形	32	29	14		土師器片	
2	土坑	SK	85	楕円形	58	38	12		土師器片	
2	土坑	SK	86	不整楕円形	270	210	105	第19図	土師器坏・皿・鍋・捏鉢, 青磁碗 (龍Ⅰ・Ⅱ類), 白磁碗, 陶器壺・甕, 須恵質捏鉢, 瓦質土器捏鉢, 土錘	
2	土坑	SK	87	楕円形	160+	143	17		土師器坏・捏鉢・鍋, 青磁碗・皿 (龍Ⅰ類), 白磁片, 陶器片, 瓦質土器捏鉢, 瓦	
2	土坑	SK	88	不整円形	93	90	28		土師器坏・播鉢, 須恵質捏鉢, 青磁碗 (龍Ⅰ類), 陶器黄釉盤	
2	土坑	SK	89	不整楕円形	141	100	70	第20図	土師器坏・皿, 青磁碗 (龍Ⅱ類), 白磁碗・皿 (Ⅸ類), 陶器甕・壺・黄釉盤, 瓦質土器捏鉢・湯釜, 滑石製石鍋	
2	土坑	SK	90	楕円形	166	118	50	第18図-12	土師器坏・鍋・捏鉢, 青磁碗 (龍Ⅳ類), 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	91	楕円形	40	35	14		土師器片, 白磁碗 (Ⅸ類)	
2	ピット	SP	92	円形	35	34	12		土師器坏	
2	井戸	SE	93	楕円形	384	206+	150+	第24図-1~4	土師器坏・皿・鍋, 青磁皿 (龍Ⅰ類), 白磁皿 (Ⅸ類), 陶器壺・黄釉盤, 須恵器甕, 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	94	長楕円形	110	32	18		土師器坏	
2	土坑	SK	95	楕円形	80	70	33		土師器坏・鍋, 青磁碗, 陶器片, 須恵器甕	
2	ピット	SP	96	楕円形	45+	30	9		土師器片, 陶器壺	
2	土坑	SK	97	円形	80	66+	14		土師器片, 白磁碗 (Ⅴ類)	
2	土坑	SK	98	楕円形	65	55	7	第18図-11	陶器甕・黄釉盤	
2	土坑	SK	99	楕円形	112+	80	19		土師器坏・鍋・捏鉢, 陶器黄釉盤	
2	土坑	SK	100	楕円形	86	72	20		土師器坏	
2	土坑	SK	101	楕円形	149	108	51	第25図-1~3	土師器坏・皿・鍋, 白磁碗 (Ⅸ類), 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	102	不整円形	36	32	19		土師器坏	
2	ピット	SP	103	楕円形	41	36	31		土師器坏・皿・鍋	
2	ピット	SP	104	楕円形	37	31	9		土師器片, 青磁碗 (龍Ⅰ類)	
2	土坑	SK	105	円形	82	58+	40		なし	
2	土坑	SK	106	楕円形	40+	32	28		土師器片, 陶器黄釉盤	
2	土坑	SK	107	円形	117	102+	30		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍Ⅲ類), 白磁皿, 陶器片	
2	土坑	SK	108	円形	75	70	13		土師器坏・皿・鍋, 瓦質土器碗・捏鉢	
2	ピット	SP	109	楕円形	44	30	14		土師器坏・皿, 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	110	円形	38	37	34		土師器坏, 陶器水注	
2	土坑	SK	111	楕円形	51	45	34		土師器坏・皿・鍋, 瓦質土器片	
2	土坑	SK	112	方形	354	136	20		土師器坏・皿・甕・鍋, 青磁片, 白磁碗 (Ⅸ類), 陶器壺・甕, 須恵器片	
2	ピット	SP	113	円形	40	16+	12		なし	
2	土坑	SK	114	楕円形	168	84+	42	第24図-5~7	土師器坏・皿・甕・鍋, 青磁碗, 白磁碗 (Ⅸ類), 陶器甕, 須恵器蓋, 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	115	長楕円形	62+	31	15		土師器坏, 陶器壺	
2	土坑	SK	116	不整円形	87	50+	14		土師器片	
2	土坑	SK	117	不整円形	108+	68+	26	第17図2~4	土師器坏, 青磁碗 (龍Ⅱ類), 陶器碗	
2	溝	SD	118	長楕円形	180+	56	35		土師器坏・鍋・甕, 青磁碗 (龍Ⅱ類), 陶器, 須恵器片, 瓦	
2	土坑	SK	119	楕円形	84+	60+	18		土師器片, 青磁碗 (同安), 瓦	
2	ピット	SP	120	楕円形	48	42	27		土師器片, 青磁片, 瓦質土器片	
2	土坑	SK	121	楕円形	60	55	21		土師器片	
2	ピット	SP	122	楕円形	47	42	20		土師器皿・捏鉢	
2	ピット	SP	123	楕円形	44	42	28		土師器皿	
2	土坑	SK	124	円形	56	56	33		土師器坏・皿・鍋, 白磁碗 (Ⅴ類), 砥石	
2	土坑	SK	125	不整楕円形	65	48	19		土師器坏, 青磁碗 (龍Ⅲ類), 陶器鉢	
2	ピット	SP	126	不整楕円形	50	42	12		なし	
2	土坑	SK	127	不整円形					土師器, 青磁碗 (龍Ⅰ類), 白磁片	
2	土坑	SK	128	楕円形	74	52	13		土師器坏・鍋, 陶器片	
2	土坑	SK	129	不整楕円形	72	54	22		土師器坏・皿, 白磁片	
2	土坑	SK	130	楕円形	52	42	22		土師器甕	
2	ピット	SP	131	不整円形	58	50	16		なし	
2	ピット	SP	132	楕円形	28	24	22		土師器片	

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物（図化不可）	備考
2	ピット	SP	133	不整形円形	34	32	21		土師器坏	
2	ピット	SP	134	不整形円形	38	34	10		土師器片	
2	ピット	SP	135	不整形円形	40	37	25		土師器片	
2	ピット	SP	136	不整形円形	32	30	24		土師器片, 白磁皿 (IX類), 陶器片	
2	土坑	SK	137	楕円形	54	41	28		土師器坏・皿, 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	138	楕円形	64	47	33		土師器坏・皿, 白磁碗 (V類)	
2	土坑	SK	139	不整形円形	60	59	23		土師器片, 青磁片	
2	土坑	SK	140	楕円形	46	34	20	第26図-1	土師器坏・皿, 青磁片, 陶器甕, 瓦質土器火鉢・播鉢	
2	ピット	SP	141	円形	33	30	34		土師器坏・鍋	
2	土坑	SK	142	楕円形	70	56	24		土師質鍋, 青磁碗 (同安)	
2	土坑	SK	143	不整形楕円形	210	153	30		土師器坏・鍋, 白磁碗 (IX類), 陶器鉢・壺, 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	144	不整形円形	50	34+	30		土師器坏・鍋, 青磁片, 白磁片	
2	ピット	SP	145	不整形円形	31	28	28		土師質捏鉢, 陶器片	
2	土坑	SK	146	不整形楕円形	73	55	18		土師器坏・鍋, 陶器片	
2	ピット	SP	147	不整形円形	33	33	17	第44図-7	土師器坏	
2	土坑	SK	148	楕円形	48	36	16	第46図-1・2	土師器坏・皿	
2	土坑	SK	149	楕円形	92	78	26	第46図-3~6	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍II類), 白磁碗, 陶器壺, 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	150	円形	26	25	12		なし	
2	ピット	SP	151	不整形円形	52	47	32		土師器坏・鍋	
2	土坑	SK	152	楕円形	95	50	31		土師器坏・鍋, 青磁片, 陶器片	
2	ピット	SP	153	不整形円形	42	38	24		土師器坏	
2	ピット	SP	154	円形	27	25	28		土師器片	
2	ピット	SP	155	不整形円形	36	36	30		土師器片	
2	ピット	SP	156	楕円形	35	31	14		土師器片	
2	ピット	SP	157	不整形円形	23	22	17		土師器片	
2	ピット	SP	158	楕円形	34	31	29		土師器片	
2	ピット	SP	159	楕円形	45	36	14		土師器坏	
2	ピット	SP	160	不整形円形	38	37	28		土師器坏・皿・鍋	
2	ピット	SP	161	円形	21	21	27		土師器片	
2	ピット	SP	162	円形	38	37	49		土師器片, 白磁片	
2	ピット	SP	163	楕円形	30	26	15		陶器片	
2	ピット	SP	164	不整形楕円形	57	40	10		なし	
2	ピット	SP	165	円形	41	39	19		なし	
2	土坑	SK	166	楕円形	67	49	10		なし	
2	ピット	SP	167	楕円形	43	37	13		土師器坏	
2	土坑	SK	168	不整形円形	99	83	63		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗, 白磁皿, 陶器甕, 瓦質土器捏鉢	
2	ピット	SP	169	円形	53	37+	27		土師器片	
2	ピット	SP	170	円形	34	18+	17		なし	
2	ピット	SP	171	不整形円形	38	33	18		なし	
2	ピット	SP	172	不整形楕円形	44+	36	40		土師質鍋, 青磁片	
2	ピット	SP	173	円形	30	30	31		なし	
2	ピット	SP	174	楕円形	48	40	30		土師器片	
2	ピット	SP	175	楕円形	62	35	18		なし	
2	ピット	SP	176	不整形円形	26	26	14		土師器片	
2	土坑	SK	177	不整形円形	166	154	26	第26図-2~5	土師器坏・皿・鍋, 白磁碗, 陶器片	
2	土坑	SK	178	不整形円形	76	75	31	第25図-4~7	青磁碗, 白磁皿 (IX類)	
2	土坑	SK	179	隅丸方形	132	102+	36	第25図-8~10	土師器坏・皿, 青磁碗 (龍III類), 土鍾	
2	土坑	SK	180	長楕円形	80+	47	24		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍II類), 陶器片, 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	181	隅丸方形	137	81	8		土師器坏・皿・鍋, 青磁片	
2	土坑	SK	182	不整形円形	63	50	22	第46図-7	青磁片, 陶器片	
2	溝	SD	183	長楕円形	109+	43	17		土師器坏・鍋, 青磁片, 須恵質捏鉢	
2	ピット	SP	184	円形	39	37	30		土師器坏	
2	土坑	SK	185a	不整形	128	60+	42		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗, 白磁碗, 陶器鉢 (II類), 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	185b	不整形	68+	48	42		土師器坏・甕, 陶器甕	

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物 (図化不可)	備考
2	土坑	SK	185c	不整形	208	68	8		土師器甕, 青磁碗(龍I類)・坏(龍III類), 陶器壺, 瓦質土器捏鉢, 土鍾	
2	ピット	SP	186	楕円形	42	23	22		土師器片, 陶器壺	
2	ピット	SP	187	円形	27	27	17		土師器坏・鍋	
2	ピット	SP	188	円形	48	43	18		土師器片	
2	ピット	SP	189	不整楕円形	58	50	22		土師器坏・皿・捏鉢・甕, 青磁碗(龍I類)	
2	ピット	SP	190	円形	40	38	41		土師器坏・皿, 陶器甕	
2	ピット	SP	191	円形	33	32	25		土師器片	
2	土坑	SK	192	不整楕円形	106	89	29	第46図-9・10	白磁碗(IX類), 陶器甕	
2	ピット	SP	193	楕円形	37	31	30		土師器片, 青磁碗, 須恵質捏鉢, 土鍾	
2	土坑	SK	194	楕円形	49	47	24		土師器片, 須恵質捏鉢	
2	ピット	SP	195	円形	37	35	27		土師器皿	
2	ピット	SP	196	不整円形	34	31	19		土師器片	
2	土坑	SK	197	楕円形	84	61	19	第47図-1・2	土師器坏・皿・鍋・鉢	
2	土坑	SK	198	不整円形	113	73+	11		土師器皿, 青磁片	
2	土坑	SK	199	不整円形	140	134	26	第46図-8	青磁碗(龍I類), 白磁碗(IX類), 陶器壺, 滑石製石鍾	
3	土坑	SK	200	不整円形	312	280	94		土師器坏・皿・鍋・甕・捏鉢・搗鉢, 青磁碗(龍I・III類), 白磁碗(V・VIII・IX類)・皿, 陶器甕・壺・黄釉盤, 瓦質土器捏鉢, 土鍾, 瓦	石組△口
2	ピット	SP	201	不整円形	40	39	19		土師器片, 白磁片	
2	ピット	SP	202	円形	38	36	17		土師器片	
2	土坑	SK	203	不整円形	110+	109	40	第46図-11~15	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗(龍I類), 陶器壺, 瓦質土器捏鉢, 土鍾	
2	ピット	SP	204	楕円形	45	38	22		土鍾	
2	ピット	SP	205	不整円形	39	35	23		陶器甕, 瓦	
2	土坑	SK	206	不整楕円形	113	91	37		土師器坏・皿・鍋・搗鉢, 青磁片, 陶器片	
2	ピット	SP	207	不整楕円形	48	32+	12		土鍾	
2	ピット	SP	208	不整円形					土師器皿, 陶器片, 土鍾	
2	土坑	SK	209	不整円形	107	90	22	第46図-16	土師器坏, 陶器甕	
2	土坑	SK	210	不整円形	133	100+	40	第25図-11・12	土師器坏・皿	
2	ピット	SP	211	不整円形	38	37	37		瓦	
2	土坑	SK	212	不整楕円形	92	68	34		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗(同安), 陶器片	
2	井戸	SE	213	楕円形	108	74+	148	第45図-1・2	下層/陶器片, 中層/青磁碗(龍II類), 上層/白磁碗(IX類), 須恵質捏鉢, 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	214	不整楕円形	108	102+	38	第45図-3	白磁碗(IX類), 陶器壺, 瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	215	楕円形	114	84	11		土師器坏	
2	土坑	SK	216	不整円形	100	92	25		土師器坏・皿・鍋, 白磁碗	
2	土坑	SK	217	楕円形	356	114+	74		土師器坏・皿・鍋・甕, 青磁碗(龍III類), 白磁碗(IX類), 陶器甕	
2	ピット	SP	218	円形	40	40	25		土師器坏・鍋, 陶器片	
2	ピット	SP	219	円形	34	32	21		土師質鍋	
2	土坑	SK	220	不整円形	65	50	21		土師器坏・鍋, 青磁碗, 土鍾	
2	ピット	SP	221	円形	29	22+	18		青磁碗(龍III類)	
2	土坑	SK	222	楕円形	68	30	25		なし	
2	土坑	SK	223	楕円形	111	53	26	第44図-3~6	土師器坏・皿・甕, 青磁碗(龍III類), 白磁片, 瓦質土器片	
2	土坑	SK	224	不整円形	72	55	15		土師器甕, 青磁碗, 陶器黄釉盤	
2	土坑	SK	225	楕円形	42	38+	11		土師器坏, 陶器片	
2	土坑	SK	226	不整楕円形	150	132+	45	第47図-3	瓦質土器捏鉢	
2	土坑	SK	227	楕円形	60+	36	20		なし	
2	土坑	SK	228	不整楕円形	206	158	34	第47図-4~10	土師器坏・皿	
2	土坑	SK	229	円形	48	45	14		なし	
2	土坑	SK	230	不整円形	53	50	33		なし	
2	ピット	SP	231	不整円形	43	39	28		なし	
3	土坑	SK	232	不整円形	105	93	29		なし	
3	土坑	SK	233	不整円形	103	99	19		なし	
2	土坑	SK	234-a	不整円形	120	110	97	第48図	土師器坏・皿・鍋, 滑石	
2	土坑	SK	234-b	不整円形	42	30+	28		なし	
3	溝	SD	235	長楕円形	1700+	330	40	第54図-1~14	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗(龍I・II類), 白磁碗(IX類), 陶器甕・壺, 瓦質土器捏鉢・搗鉢, 土鍾, 瓦	
2	ピット	SP	236	不整円形	41	37	25		土師器坏・甕, 陶器片	

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物（図化不可）	備考
2	土坑	SK	237	不整楕円形	246	138	65	第45図 - 4～9	土師器坏・皿・鍋・甕，青磁碗（龍Ⅰ～Ⅲ類），陶器甕・壺，須恵質捏鉢	
2	土坑	SK	238	楕円形	119	114	21		土師器坏・皿，陶器甕	
2	ピット	SP	239	円形	33	31	18		なし	
2	ピット	SP	240	不整円形	38	32	22		土師器皿	
2	土坑	SK	241	楕円形	145	70	11		なし	
3	土坑	SK	242	円形	104	94	24		なし	
3	土坑	SK	243	不整円形	141	128	22		土師器坏・皿・鍋・甕，白磁皿（Ⅸ類），陶器搗鉢・甕，須恵器片	
3	土坑	SK	244	円形	114	112	44		土師器坏・皿・鍋・捏鉢，青磁碗（龍Ⅰ類），陶器片	
3	土坑	SK	245	楕円形	152	98	18	第54図 -15～22	なし	
3	土坑	SK	246	楕円形	60+	58	18		土師器坏・鍋，白磁片，陶器片	
3	土坑	SK	247	不整楕円形	82+	51	21		土師器片，青磁片，瓦質土器片	
3	土坑	SK	248	隅丸方形	103	100	33		なし	
3	土坑	SK	249	不整楕円形	102	56	16		なし	
3	土坑	SK	250	隅丸長方形	206+	110	28		なし	
3	溝	SD	251	長楕円形	160+	60	36		なし	
3	土坑	SK	252	不整円形	266	260	46	第59図 - 1～7	土師器坏・皿・鍋・甕・捏鉢・搗鉢，陶磁器片（中世～近代），須恵質捏鉢，瓦質土器火鉢・湯釜・捏鉢・搗鉢，瓦	
3	土坑	SK	253	不整円形	158	144	36		土師器坏・捏鉢，青磁碗，白磁碗，陶器壺，瓦質土器捏鉢，瓦，土鍾	
3	土坑	SK	254	不整楕円形	152	116+	40		なし	
3	溝	SD	255	長楕円形	802+	132	66		土師器坏・鍋・捏鉢・搗鉢，陶磁器片（中世～近世），瓦質土器湯釜・火鉢・搗鉢，瓦（中世・近代）	
3	土坑	SK	256	不整楕円形	404	204+	134		土師器坏・鍋，陶器甕，瓦質土器捏鉢，瓦	
3	土坑	SK	257	不整楕円形	224	104+	36		土師器坏・鍋，青磁碗，白磁皿，須恵器片，瓦	
3	土坑	SK	258	不整楕円形	84	34	40		土師器坏，瓦	
3	ピット	SP	259	円形	34	32	26		土師器片，土鍾	
3	土坑	SK	260	長楕円形	96+	90	14		なし	
3	土坑	SK	261	楕円形	47	27+	12		なし	
3	土坑	SK	262	不整楕円形	116	62	20		土師器片	
3	土坑	SK	263	不整楕円形	92	79	19		なし	
3	土坑	SK	264	不整楕円形	89	75	46	第54図 -23～29	土師器坏・皿・鍋，白磁碗，陶器壺	
3	土坑	SK	265	隅丸方形	140	125	30		土師器坏・鍋・捏鉢，青磁碗（龍Ⅰ類），陶器片，瓦	
3	ピット	SP	266	楕円形	41	35	20		土師器甕	
3	ピット	SP	267	円形	39	37	25		土師質捏鉢，青磁片，陶器黄釉盤	
3	土坑	SK	268	不整楕円形	340	176	40		土師質鍋・搗鉢，白磁片，陶器片，瓦	
3	土坑	SK	269	円形	175	70+	16		土師器片，青磁片，陶器片	
3	土坑	SK	270	隅丸長方形	370	100	30		土師器片，陶器片	
3	土坑	SK	271	楕円形	93	58	17		土師器坏，陶器片，瓦質土器捏鉢，瓦	
3	土坑	SK	272	不整楕円形	160	120	28		土師器坏・皿・甕，青磁碗，白磁碗（Ⅸ類），陶器甕	
3	土坑	SK	273	長楕円形	120	46	20		土師器坏・鍋・搗鉢，陶器片	
3	土坑	SK	274	不整楕円形	98	70	40		土師器片	
3	土坑	SK	275	長楕円形	84+	72	30	第61図	青磁碗（龍Ⅰ類），白磁皿（Ⅸ類），瓦	
3	土坑	SK	276	不整円形	160	160	32		なし	
3	土坑	SK	277	不整楕円形	113	85	18		土師器片，陶器片	
3	土坑	SK	278	楕円形	64+	50	11		土師器片，青磁片	
3	ピット	SP	279	楕円形	51	39	7		なし	
3	ピット	SP	280	楕円形	50	19	7		土師器片	
3	土坑	SK	281	円形	136	44+	80		土師器片，陶器片，瓦	
3	土坑	SK	282	不整楕円形	110	56	40	第58図 - 1	青磁，陶器甕・鉢，瓦，壁土	
3	土坑	SK	283	不整楕円形	174	109	80		土師器坏・皿・鍋・甕，青磁碗（龍Ⅰ類・同安），陶器甕・鉢，須恵質捏鉢，瓦	
3	溝	SD	284	不整楕円形	101	50	16		土師器坏・鍋，陶器黄釉盤，瓦質土器碗	
3	土坑	SK	285	不整楕円形	180	162	40		土師器坏・鍋，青磁碗，白磁片，陶器甕・鉢，瓦質土器捏鉢	
3	溝	SD	286	長楕円形	180	56	16		なし	
3	土坑	SK	287	不整楕円形	114	77	44		なし	
3	土坑	SK	288	楕円形	150	90	80		土師器坏・皿・鍋・甕，青磁碗（龍Ⅰ類），白磁碗（Ⅸ類），陶器甕・壺	
3	ピット	SP	289	不整円形	53	46	28		土師器片，陶器片	

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物 (図化不可)	備考
3	溝	SD	290	長楕円形	370	34	36	第62図	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍I類), 白磁碗, 陶器片	
3	土坑	SK	291	不整円形	78	64	22		土師器片, 白磁碗	
3	土坑	SK	292	隅丸長方形	148	68+	26		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗, 白磁碗, 陶器黄釉盤・甕, 滑石	
3	土坑	SK	293	隅丸長方形	118	80	38		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍I類), 陶器片, 瓦質土器捏鉢	
3	土坑	SK	294	隅丸方形	112	76+	12		土師器坏・鍋, 陶器片	
3	土坑	SK	295	楕円形	80	52	19	第58図 - 2	土師器坏・鍋, 陶器鉢	
3	土坑	SK	296	楕円形	82	42	18		土師質鍋	
3	土坑	SK	297	長楕円形	135	51	12		土師器片, 陶器片, 瓦, 土鍾	
3	土坑	SK	298	長楕円形	80+	40	18		土師器坏・鍋, 瓦質土器片, 瓦	
3	ピット	SP	299	不整円形	29	28	16		土師器片	
3	ピット	SP	300	楕円形	35	28	20		土師器片, 瓦	
3	ピット	SP	301	楕円形	26	22	22		土師器坏・鍋, 瓦質土器片, 瓦	
3	ピット	SP	302	不整円形	20	18	28		なし	
3	ピット	SP	303	円形	32	32	12		白磁碗	
3	ピット	SP	304	不整円形	28	25	18		なし	
3	ピット	SP	305	不整円形	32	32	28		なし	
3	ピット	SP	306	楕円形	44	36	9		なし	
3	ピット	SP	307	円形	27	25	8		なし	
3	ピット	SP	308	円形	50	38	18		なし	
3	ピット	SP	309	円形	35	34	8		土師器片	
3	ピット	SP	310	不整円形	30	25	18		土師器片	
3	ピット	SP	311	不整円形	30	28	17		なし	
3	土坑	SK	312	不整楕円形	100	52	14	第58図 - 3	土師質風炉, 白磁碗, 瓦	
3	土坑	SK	313	円形	52	50	35		土師器坏・皿, 瓦質土器片	
3	ピット	SP	314	楕円形	68	52	16		なし	
3	土坑	SK	315	不整楕円形	288	146	28		土師器坏・鍋・捏鉢, 青磁碗 (龍I類), 陶器片, 瓦	
3	ピット	SP	316	不整円形	58+	30+	28		土師器片	
3	ピット	SP	317	不整円形	30	30	15		土師器片	
3	ピット	SP	318	円形	31	30	16		瓦質土器片	
3	ピット	SP	319	不整円形	27	27	20		土師器片	
3	土坑	SK	320	不整円形	108	90+	40		土師器坏, 青磁片, 陶器壺	
3	ピット	SP	321	楕円形	41	36	37		土師器片	
3	土坑	SK	322	楕円形	62	43	45		なし	
3	土坑	SK	323	不整楕円形	146	86	25	第58図 - 4~7	土師質擂鉢, 青磁碗, 陶器片 (近世), 瓦質土器捏鉢, 瓦	
3	土坑	SK	324	不整楕円形	128	60	18		瓦質土器擂鉢, 陶器皿 (近世), 瓦	
3	ピット	SP	325	楕円形	43	38	33		土師皿, 青磁片, 陶器片	
3	土坑	SK	326	不整円形	73	52+	22		土師器片	
3	ピット	SP	327	楕円形	58	51	22		なし	
3	土坑	SK	328	不整楕円形	54+	50	4		なし	
3	ピット	SP	329	円形	24	21	17		なし	
3	ピット	SP	330	円形	38	37	15		土師器片	
3	ピット	SP	331	円形	36	33	14		なし	
3	ピット	SP	332	楕円形	49	42	20		青磁片	
3	土坑	SK	333	円形	25	25	13		なし	
3	土坑	SK	334	楕円形	63	41	15		土師器坏	
3	土坑	SK	335	不整円形	57	54+	59	第58図 - 8~13	土師器坏, 青磁碗・皿, 陶器片	
3	ピット	SP	336	円形	28	28	21		土師器片	
3	土坑	SK	338	不整楕円形	305	256	80	第58図 -14	土師器坏・皿・甕・捏鉢・擂鉢, 青磁碗, 陶器甕・擂鉢, 瓦質土器捏鉢, 土鍾, 瓦, 砥石	
3	ピット	SP	339	楕円形	44	34	24		土師器片, 白磁片, 滑石	
3	ピット	SP	340	不整円形	78	68	12		土師器片, 陶器片, 土鍾	
3	土坑	SK	341	楕円形	80	56	18		土師器片 (近代)	
3	ピット	SP	342	不整円形	35	34	24		なし	
3	土坑	SK	343	楕円形	53	42	9		なし	
3	土坑	SK	344	不整楕円形	110	78	10		土師器坏・皿・鍋・捏鉢・擂鉢, 須恵器片, 瓦質土器片, 瓦	
3	ピット	SP	345	不整円形	36	35	26		土師器片	

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物（図化不可）	備考
3	ピット	SP	346	円形	31	28	20		土師器坏	
3	ピット	SP	347	楕円形	60	46	12		土師器片	
3	ピット	SP	348	不整形円形	37	34	13		土師器片, 陶器片	
3	土坑	SK	349	不整楕円形	72	59	9		土師器片	
3	ピット	SP	350	不整楕円形	63	43	13		土師器片, 青磁碗（龍Ⅰ類）	
3	ピット	SP	351	不整楕円形	48+	33	10		なし	
3	ピット	SP	352	楕円形	74	38	17		土師器坏・皿・鍋・捏鉢	
3	ピット	SP	353	不整形円形	38	34	28		土師器片, 陶器片	
3	土坑	SK	354	不整楕円形	123	62	23		なし	
3	ピット	SP	355	不整楕円形	50	42	12		陶器片	
3	ピット	SP	356	楕円形	44	37	13		土師器片	
3	土坑	SK	357	不整形円形					土師器片, 瓦質土器片	
3	ピット	SP	358	楕円形	35+	27+	4		なし	
3	ピット	SP	359	不整形円形	33	23+	22		土師器片, 陶器卸目皿	
3	土坑	SK	360	楕円形	86	66	14	第58図15・16	土師器坏・鍋, 青磁片, 白磁碗（Ⅷ類）, 陶器鉢, 滑石	
3	ピット	SP	361	不整形円形	22	22	20		なし	
3	ピット	SP	362	円形	25	23	14		なし	
3	ピット	SP	363	楕円形	33	23+	12+		なし	
3	土坑	SK	364	楕円形	127	80+	34	第71図-1	土師器片, 白磁片	
3	土坑	SK	365	楕円形	35	30	26		土師器片, 白磁片	
3	ピット	SP	366	不整形円形	122	118	20		なし	
3	井戸	SE	367	楕円形	245	173	145+	第55図	2面以深/土師器坏・鍋・播鉢, 陶器片, 土鍾, 瓦	石組遺構
3	ピット	SP	368	楕円形	62	46	7		なし	
3	土坑	SK	369	不整楕円形	125	110+	20		なし	
3	土坑	SK	370	不整楕円形	95	88	14	第71図-2	土師器甕, 陶器片, 土鍾	
3	土坑	SK	371	楕円形	50+	33	27		土師器甕	
3	土坑	SK	372	不整形円形	88	65	18		土師器片, 粉青沙器片	
3	土坑	SK	373	楕円形	76	52	37		土師器坏・鍋, 青磁碗（龍Ⅳ類）, 瓦	
3	土坑	SK	374	不整形円形	40	35+	27		土師器片, 青磁片	
3	ピット	SP	375	不整形円形	27	26	20		なし	
3	ピット	SP	376	円形	45	45	20		土師器坏・鍋, 青磁皿, 陶器黄釉盤	
3	ピット	SP	377	不整形円形	58	54	39		土師器片	
3	ピット	SP	378	楕円形	35+	30	36		土師器片, 瓦質土器片	
3	ピット	SP	379	不整形円形	35	32	24		土師器坏, 壁土	
3	土坑	SK	380	不整形円形					なし	
3	ピット	SP	381	円形	27	25	21		なし	
3	土坑	SK	382	不整楕円形	111	82	26		土師器坏・鍋, 青磁皿, 白磁碗（Ⅷ類）, 陶器壺, 砥石	
3	土坑	SK	383	楕円形	49+	47	19		土師器片, 陶器片	
3	ピット	SP	384	楕円形	51	30	16		土師器坏	
3	土坑	SK	385	楕円形	67	39+	29		土師器片, 陶器片, 瓦	
3	ピット	SP	386	楕円形	47	37	17		なし	
3	ピット	SP	387	円形	33	31	29		土師器片	
3	ピット	SP	388	円形	36	34	7		なし	
3	ピット	SP	389	円形	30	28	28		青磁碗	
3	土坑	SK	390	不整楕円形	204	184	108	第78図-1	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗（同安）, 白磁碗（Ⅴ類）・皿, 陶器碗・甕・壺, 染付片, 須恵質捏鉢・甕, 土鍾, 石鍾, 壁土	
3	土坑	SK	391	隅丸方形	166	134+	27	第78図-2・3	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗, 白磁碗・壺, 陶器片, 瓦質土器捏鉢, 瓦	
3	土坑	SK	392	不整形円形	160	148	11		土師器坏・鍋・捏鉢・播鉢, 青磁碗, 陶器片, 瓦質土器捏鉢, 土鍾, 壁土	
3	土坑	SK	393	隅丸長方形	272	190	31	第78図-4・5	土師器坏・鍋・播鉢, 青磁碗（龍Ⅳ類）, 白磁碗（Ⅳ類）, 染付碗（近代）, 陶器甕・壺, 瓦質土器捏鉢・湯釜, 瓦	
3	土坑	SK	394	不整楕円形	108	48	48		土師器坏・青磁碗（龍Ⅰ類）, 陶器片, 瓦質土器片	
3	ピット	SP	395	円形	35	32	24		土師器片	
3	土坑	SK	396	楕円形	62	54	29		土師器坏・鍋, 青磁碗, 滑石, 壁土	
3	ピット	SP	397	不整形円形	42	39	32		土師器片	
3	土坑	SK	398	円形	104+	56+	42		土師器坏・皿・鍋, 青磁片, 陶器片, 須恵質捏鉢	
3	ピット	SP	399	円形	34	33	35		土師器坏, 白磁皿	
3	土坑	SK	400	不整形円形	78	62	18		土師質鍋	

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物 (図化不可)	備考
1	ビット	SP	401	円形	32	30	29		土師器片, 陶器片	
1	土坑	SK	402	長楕円形	256+	158	10		土師器坏・鍋, 青磁碗 (龍III類・同安), 白磁碗 (IX類)	
1	溝	SD	403	長楕円形	187+	30	15		土師器片, 陶器壺	
1	溝	SD	404	不整楕円形	158+	40	46		土師器坏, 青磁碗, 白磁碗 (IX類)	
1	溝	SD	405	不整楕円形	94+	37	33		土師器坏・皿, 茶碗 (近代), 陶器壺	
1	土坑	SK	406	不整楕円形	238	115	44		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍I・III類), 白磁碗 (IX類), 陶器甕・壺, 須恵質捏鉢	
3	土坑	SK	407	不整円形	50	48	12		土師器坏・捏鉢	
3	土坑	SK	408	楕円形	106	50	18		土師器片, 白磁皿 (IX類), 土鍾	
3	ビット	SP	409	不整円形	28	22+	13	第71図-9	なし	
3	ビット	SP	410	楕円形	53	45	12		なし	
3	ビット	SP	411	楕円形	50+	47	8.5		なし	
3	ビット	SP	412	不整楕円形	61	43	20		なし	
3	土坑	SK	413	長楕円形	208	83	35	第79図-1~5	土師質鍋, 石鍾	
3	ビット	SP	414	長楕円形	126	43+	12		土師質鍋, 滑石製石鍾	
3	ビット	SP	415	不整楕円形	82	54	30		土師器片	
3	土坑	SK	416	不整円形	136	118+	22	第79図-6・7	土師器坏・鍋・捏鉢・搗鉢, 白磁碗・皿, 瓦質土器火鉢・捏鉢	
3	土坑	SK	417	不整円形	216	175+	20	第79図-8	土師器皿・鍋	
3	竪穴	SI	418	不整楕円形	300+	220	26	第78図-6~8	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍IV類), 白磁碗 (IX類), 陶器碗・甕・搗鉢, 瓦質土器捏鉢・湯釜, 壁土	
3	ビット	SP	419	不整楕円形	61	44	22	第71図-3	土師器片	
3	ビット	SP	420	不整楕円形	52	35	12		土師器坏	
3	土坑	SK	421	楕円形	248	108	16	第78図-9	土師器坏・鍋・捏鉢, 青磁碗, 陶器碗, 瓦質土器捏鉢	
3	ビット	SP	422	不整円形	34	32	14		土師器片	
3	土坑	SK	423	円形	94	40+	20		土師器坏, 瓦質土器捏鉢	
3	土坑	SK	424	不整楕円形	226	94	38	第72図1~5	土師器坏・皿・鍋・捏鉢, 青磁碗 (同安), 陶器片, 須恵器片	
3	土坑	SK	425	不整楕円形	126	90	106	第72図6・7	土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍I類), 白磁皿, 雑釉陶器	
3	土坑	SK	426	不整楕円形	132	82+	28		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍IV類), 陶器鉢, 瓦質土器搗鉢, 瓦	
3	土坑	SK	427	円形	62+	54+	14		なし	
3	土坑	SK	428	楕円形	180	70	18		なし	
3	土坑	SK	429	不整楕円形	264+	230	58	第72図8~21	土師器坏・皿・鍋・甕, 青磁碗 (龍I類), 白磁皿 (IX類), 陶器甕・壺, 瓦質土器捏鉢, 須恵質捏鉢, 瓦	
3	土坑	SK	430	不整円形	92	85	23		土師器坏・鍋・捏鉢, 青磁片, 石球	
3	土坑	SK	431	楕円形	136	90	12		土師器坏・皿・鍋, 陶器壺	
3	土坑	SK	432	不整楕円形	154	102	18		土師器坏・捏鉢, 青磁碗, 陶器片	
3	ビット	SP	433	不整円形	56	46	26		なし	
3	土坑	SK	434	不整円形	188	150+	16		土師器片, 青磁碗 (龍I類), 陶器片, 瓦質土器片, 土人形	
3	ビット	SP	435	不整円形	42	38	28		なし	
3	土坑	SK	436	長楕円形	110+	44	38		土師器坏・鍋, 白磁片, 陶器壺, 瓦質土器片	
3	土坑	SK	437	不整楕円形	115	104+	10		土師器坏・鍋・捏鉢, 陶器片	
3	土坑	SK	438	楕円形	79	65	14		土師器片, 陶器片, 須恵器片 (中世)	
3	土坑	SK	439	不整楕円形	122+	82+	9		土師器片, 土鍾	
3	ビット	SP	440	長楕円形	104	28+	30		土師器皿, 青磁碗 (龍I類)	
3	ビット	SP	441	円形	28	28	13		なし	
3	ビット	SP	442	不整円形	38	35	24		土師器片	
3	ビット	SP	443	不整円形	38	34	18		土師器片	
3	ビット	SP	444	不整円形	38	34	30	第84図-6	土師器片	
3	ビット	SP	445	不整円形	41	39	15		瓦質土器片	
3	ビット	SP	446	不整円形	34	32	28		土師質鍋	
3	ビット	SP	447	楕円形	34	30	18		なし	
3	ビット	SP	448	円形	35	35	22		土師器坏	
3	ビット	SP	449	楕円形	45	38	22		土師器片, 青磁碗, 白磁皿	
3	ビット	SP	450	楕円形	52	46	22		土師器片, 青磁碗 (龍IV類), 白磁碗	
3	土坑	SK	451	楕円形	245	110	26		土師器坏・皿・鍋, 青磁碗 (龍IV類), 陶器片, 瓦質土器片, 土鍾	
3	土坑	SK	452	楕円形	252+	208	32	第78図-10・11	土師器皿・鍋・甕・捏鉢, 青磁碗 (龍IV類), 白磁碗 (IX類), 陶器片, 土鍾, 壁土	
3	ビット	SP	453	楕円形	42	36	12		土師器片, 白磁片	

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物（図化不可）	備考
3	ピット	SP	454	楕円形	30	26	18		なし	
3	ピット	SP	455	楕円形	34	24	10		なし	
3	ピット	SP	456	不整円形	36	33	9		なし	
3	ピット	SP	457	楕円形	36	23	24		土師器片	
3	土坑	SK	458	楕円形	38	30	22		なし	
3	ピット	SP	459	楕円形	48	40	8		青磁碗	
3	土坑	SK	460	不整楕円形	88	36	20		土師器片, 陶器壺	
3	ピット	SP	461	楕円形	30	25	26		土師器片	
3	ピット	SP	462	楕円形	34	27	6		土師器坏	
3	ピット	SP	463	不整円形	34	28	16		瓦質土器碗	
3	ピット	SP	464	不整楕円形	49	28	21		なし	
3	ピット	SP	465	不整楕円形	54	42	23		土師器片	
3	ピット	SP	466	楕円形	82	66	20	第71図-8	土師器片, 陶器甕, 軽石	
3	ピット	SP	467	楕円形	78	58	44		土師器坏, 陶器壺	
3	ピット	SP	468	楕円形	43	40+	18		土師器片, 瓦質土器片	
3	ピット	SP	469	不整円形	25	24	25		土師質鍋	
3	ピット	SP	470	不整円形	55	44+	8		土師皿	
3	土坑	SK	471	楕円形	82	62+	48		土師器片, 青磁片	
3	ピット	SP	472	不整円形	38	32	15		なし	
3	ピット	SP	473	楕円形	64	40	22		土師質鍋・甕, 陶器片, 土鍾	
3	ピット	SP	474	円形	46	45	18		土師器坏, 陶器片	
3	ピット	SP	475	不整円形	41	38	18		土師器坏, 砥石	
3	ピット	SP	476	楕円形	53	38	24		土師器片	
3	土坑	SK	477	円形	34	32	12		土師器片	
3	ピット	SP	478	円形	33	33	14		なし	
3	ピット	SP	479	楕円形	44	37	11		土師器片	
3	ピット	SP	480	楕円形	38	34	13		なし	
3	ピット	SP	481	楕円形	45	34	23		土師器片	
3	ピット	SP	482	楕円形	45	40	13		土師器片	
3	ピット	SP	483	楕円形	50	44	19		なし	
3	ピット	SP	484	不整円形	42	39	14		なし	
3	土坑	SK	485	楕円形	92	61	44		土師器坏・鍋, 白磁片	
3	土坑	SK	486	楕円形	170	76+	35		土師器坏・皿・鍋, 白磁片, 土鍾	
3	土坑	SK	487	楕円形	103	77	7		土師器片	
3	土坑	SK	488	不整楕円形	156	108+	32		土師器坏・鍋, 青磁碗（龍Ⅰ類）, 陶器片	
3	土坑	SK	489	不整楕円形	252	168	88	第78図-12~17	土師器坏・皿・甕, 青磁碗（龍Ⅰ類）, 陶器甕・壺, 瓦質土器捏鉢	
3	土坑	SK	490	楕円形	164+	152	36		土師器坏・鍋, 青磁碗, 白磁壺・皿, 陶器片	
3	土坑	SK	491	不整円形	120	108	100	第78図-18~20	土師器坏・捏鉢・甕, 青磁碗（龍Ⅲ類）, 白磁片, 陶器甕・壺・碗, 滑石製石鍋, 石球	
3	土坑	SK	492	不整楕円形	190+	192	24		土師器坏・鍋, 青磁碗（龍Ⅰ類・同安）・皿, 白磁片, 陶器片, 砥石, ガラス（近代）, 壁土	
3	ピット	SP	493	不整楕円形	38+	35	19		なし	
3	土坑	SK	494	不整楕円形	130	100	20		土師器坏・鍋, 白磁碗, 粉青沙器片, 瓦質土器片, 瓦	
3	ピット	SP	495	楕円形	70	35+	16		土師器坏・鍋, 瓦質土器片	
3	ピット	SP	496	楕円形	32	25+	16		土師器片	
3	土坑	SK	497	不整楕円形	88	48	15		なし	
3	土坑	SK	498	楕円形	70+	50	20		土師器片, 陶器黄釉盤, 須恵質捏鉢	
3	土坑	SK	499	不整楕円形	56	45	不明		なし	
3	土坑	SK	500	不整楕円形	125	77	15		土師器坏・鍋, 瓦質土器甕, 軽石	
3	土坑	SK	501	不整楕円形	105+	116	38		土師器坏・鍋, 青磁碗（龍Ⅰ類・同安）・皿, 白磁片（近代）, 瓦質土器捏鉢, 瓦	
3	土坑	SK	502	楕円形	82	61	6		陶器片	
3	土坑	SK	503	不整円形	66	60	24		土師器坏, 青磁片, 陶器片	
3	土坑	SK	504	楕円形	224	158+	89		土師器坏・鍋・捏鉢, 青磁碗Ⅰ（龍Ⅰ類）, 陶器甕・壺, 瓦, 滑石	
3	土坑	SK	505	長楕円形	97+	38	44		土師器坏・鍋, 白磁片, 瓦質土器火鉢	
3	土坑	SK	506	不整楕円形	117	81	53	第71図4~7	土師質鍋, 青磁碗, 白磁碗・皿（Ⅸ類）, 陶器鉢・壺, 瓦質土器捏鉢, 壁土	
3	土坑	SK	507	不整楕円形	148	102	60	第84図-1	土師器坏・皿・鍋・捏鉢, 青磁碗, 陶器甕・黄釉盤, 瓦質土器捏鉢, 土鍾, 瓦, 砥石	

エリア	種別	記号	遺構番号	形状	長軸	短軸	深さ	遺物図	遺物 (図化不可)	備考
3	土坑	SK	508	不整楕円形	92	90+	24	第84図-2	土師器坏・鍋、白磁片、陶器片	
3	土坑	SK	509	円形	60	60	14		土師器坏、白磁皿(VIII類)	
3	土坑	SK	510	不整楕円形	90	73	9		土師器坏、陶器片、瓦質土器片	
3	ピット	SP	511	不整円形	52	45	18		土師器片	
3	土坑	SK	512	不整楕円形	105	86	10		土師器片、青磁碗(龍I類)	
3	土坑	SK	513	不整円形	120	118	92		土師器坏・皿・鍋、青磁碗(龍III類)、白磁碗(IV類)、陶器壺・鉢・碗、瓦質土器捏鉢、瓦、土錘、石錘、壁土	
3	ピット	SP	514	不整楕円形	46	40	不明		なし	
3	ピット	SP	515	円形	42	40	14		なし	
3	土坑	SK	516	楕円形	36	31	30		土師器片、青磁片	
3	土坑	SK	517	円形	64	63	13		土師器片、滑石	
3	土坑	SK	518	楕円形	128	108+	68	第84図-3・4	土師器坏・皿・甕、青磁碗(龍II類)・皿・壺、陶器壺、須恵質捏鉢、磁石、石鍋	
3	土坑	SK	519	楕円形	170	110	16		土師器坏・鍋・捏鉢、陶器片、滑石	
3	土坑	SK	520	楕円形	144+	120	28	第84-5	土師器坏・鍋、青磁碗(龍I類)、陶器片、瓦質土器捏鉢、瓦、土錘、石鍋	
3	土坑	SK	521	不整楕円形	264	204	15		土師器坏・皿・鍋・甕、青磁碗・皿、陶器片、土錘、壁土	
3	ピット	SP	522	不整楕円形	73	55	17		土師器片、青磁片、陶器片、瓦質土器片	
3	ピット	SP	523	不整円形	58	48+	8		土師器片、青磁皿(同安)	
3	土坑	SK	524	楕円形	51+	43	6		土師器坏	
3	土坑	SK	525	不整楕円形	105	54+	27		土師器片、瓦質土器片、滑石	
3	土坑	SK	526	円形	130	100+	14		土師器坏、青磁片、瓦質土器片、壁土	
3	土坑	SK	527	隅丸長方形	150	124+	68	第92図-1	土師器坏・皿・鍋・甕・捏鉢、青磁碗(龍I類)・蓋、白磁碗、陶器甕・黄釉盤、壺、瓦、土錘、石錘	
3	土坑	SK	528	不整楕円形	264	210+	48	第92図-2~12	土師器坏・鍋・甕、青磁碗(龍I・II類)、陶器壺・甕、瓦質土器捏鉢、瓦	
3	土坑	SK	529	不整円形	108	96	10		土師器片、青磁碗、瓦質土器片	
3	土坑	SK	530	楕円形	64	58	17		土師器片、青磁碗、瓦、石錘	
3	土坑	SK	531	不整楕円形	103	80	19	第93図-1~5	土師器坏・甕、青磁碗(龍I類)、白磁皿、陶器片、瓦質土器片	
3	ピット	SP	532	楕円形	46	36	7		陶器片	
3	土坑	SK	533	楕円形	103	73	40	第93図-6	土師器坏・鍋、青磁碗(龍I類)・皿、陶器片、磚	
3	土坑	SK	534	隅丸長方形	268	104	10		土師器坏・鍋、青磁碗(龍I類)、白磁片、陶器甕、土錘	
3	土坑	SK	535	隅丸長方形	170	74+	12	第93図-7	土師器坏・鍋、陶器鉢・壺	
3	土坑	SK	536	不整楕円形	68+	56	13		土師器坏・鍋、青磁碗(龍I類)、陶器片、瓦質土器捏鉢	
3	ピット	SP	537	不整円形	37	27+	15		土師器片、白磁片、陶器碗	
3	土坑	SK	538	不整楕円形	190+	116	28	第78図-21・22	土師器坏・鍋、青磁碗(龍I類)、白磁片(IX類)、陶器黄釉盤、瓦質土器片	
3	ピット	SP	539	円形	39	38	22	第93図-8	土師器片、青磁片、陶器片、瓦質土器片	
3	土坑	SK	540	不整楕円形	241	101	30	第93図-9・10	土師器坏・皿・鍋・甕、白磁片、陶器壺、瓦質土器捏鉢	
3	ピット	SP	541	不整円形	58	58	26		土師器坏、青磁碗(龍I類)、陶器壺、須恵質捏鉢	
3	土坑	SK	542	不整楕円形	124+	106+	5	第93図-11	土師器坏・捏鉢、青磁碗(龍I類)、陶器甕、須恵器甕・捏鉢	
3	土坑	SK	543	不整楕円形	138	82	16	第92図-13~17	土師器坏、青磁片、陶器壺、須恵器甕、瓦質土器捏鉢、瓦	
3	土坑	SK	544	円形	68	68	15		土師器坏、青磁碗(龍I類)、陶器片	
3	土坑	SK	545	楕円形	77	52	23		土師器坏・甕、青磁碗、陶器壺、磁石	
3	ピット	SP	546	楕円形	35	31	17		土師器片、陶器甕、須恵質捏鉢	
3	土坑	SK	547	不整円形	200	172	58	第78図-23	土師器坏・鍋・甕、青磁碗(龍I類)、白磁碗、粉青沙器片、陶器鉢・甕・黄釉盤	
3	土坑	SK	548	楕円形	57	48	19		土師器片、白磁碗(IX類)、陶器甕	
3	土坑	SK	549	不整楕円形	102	80	9		土師器皿、陶器片	
3	ピット	SP	550	不整円形	72	42+	52		土師器坏・鍋、白磁碗、陶器片、壁土	
3	土坑	SK	551	不整楕円形	52	38	10		なし	
3	土坑	SK	552	不整楕円形	148	134	20		土師器坏・皿・鍋、青磁片、白磁片、陶器黄釉盤、瓦質土器捏鉢	
3	ピット	SP	553	不整円形	38	34	8	第93図-12	なし	
3	土坑	SK	554	不整円形	58	55+	24		土師器片	
3	土坑	SK	555	楕円形	40	39+	12		土師器片、陶器片	
3	ピット	SP	556	楕円形	66	43	15		なし	
3	ピット	SP	557	楕円形	34	32	31+		白磁片、陶器片	
3	ピット	SP	558	楕円形	110	57+	19	第78図-24・25	青磁碗(龍III類)、陶器片、瓦質土器捏鉢	
3	土坑	SK	559	不整楕円形	93	50+	28		土師器坏・鍋、青磁碗(龍I類)、瓦質土器捏鉢	

第2表 HZK2101地点遺物観察表

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
6-1	SD03 (SK03改め)	青磁碗			[4.3]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 I-4a類
6-2	SD03	青磁碗			[3.6]	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
6-3	SD03	青磁碗			[3.0]	緻密	良好	2.5GY6/1オリーブ灰	外：施釉，施文 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 II類
6-4	SD03	陶器 水注			[8.6]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR3/3暗褐	外：施釉，施文 内：施釉	把手
6-5	SD03	瓦質土器 碗			[2.1]	緻密	良好	N5/ 灰	外：ナデ 内：ナデ，ミガキ	
6-6	SD09a	白磁壺			[4.0]	緻密	良好	外：5GY7/1明オリーブ灰 内：7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	
6-7	SD9a-1	青磁碗	(16.2)		[3.6]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
6-8	SD09a	青磁皿		(4.8)	[1.7]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁皿 I-1b類
6-9	SD09a-2	陶器 壺			[2.2]	緻密	良好	10YR4/1褐灰	外：施釉 内：施釉	
6-10	SD09a	瓦質土器 釜			[5.5]	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む	良好	7.5YR5/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
6-11	SD09a	土師器 坏	(12.4)	(8.7)	[2.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-12	SD09a	土師器 皿	(9.0)	(6.8)	[1.5]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
6-13	SD09 b -1	青磁碗		(6.4)	[2.6]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉	龍泉窯系青磁皿 I-1類
6-14	SD10-1	土師器 皿	(8.7)	(6.7)	[0.7]	緻密，雲母片を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
6-15	SK01	陶器 壺	(7.0)		[4.0]	緻密，黒色粒子を含む	良好	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR3/3暗褐	外：施釉 内：施釉	
7-1	SK06	砥石	17.5	6.8	2.6					
7-2	SK08	瓦質土器 碗	(17.4)		[3.9]	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む	良好	外：2.5Y5/2暗灰黄 内：2.5Y7/1灰白	外：ナデ，ミガキ 内：ナデ	
7-3	SK08	土師器 坏	(14.0)	(9.6)	2.6	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
7-4	SK08	土師器 坏		(10.2)	[1.3]	緻密，直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-5	SK08	土師器 坏		(8.6)	[1.9]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
7-6	SK23	陶器 鉢	(14.8)		[4.2]	緻密，直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	外：10R2/2極暗赤褐 内：10R3/1暗赤灰	外：施釉 内：施釉	陶器小鉢 VI-1類
7-7	SK49	瓦質土器 風炉	(23.3)		[4.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR3/1黒褐	外：ナデ 内：ナデ	
7-8	SK49	土師器 皿	6.7	4.8	1.3	緻密，直径1～2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
7-9	SK50 No.2	青磁碗		(5.6)	[1.9]	緻密	良好	外：7.5GY6/1緑灰 内：7.5GY7/1明緑灰	外：施釉，露胎 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 IV類
7-10	SK50 No.1	白磁皿		(5.2)	[0.6]	緻密	良好	外：10YR7/2にぶい黄橙 内：5GY8/1灰白	外：露胎 内：施釉	
7-11	SK60	滑石製 石鍋	(13.4)		[3.3]					
8-1	SK17	滑石製 石鍾	3.2	1.95	1.1					13.99g
8-2	SK18	陶器 壺			[6.0]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR4/2灰黄褐 内：10YR5/2灰黄褐	外：施釉 内：施釉	陶器壺IV-1類
8-3	SK18	陶器 耳壺	(12.1)		[13.0]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR4/6褐 内：10YR6/2灰黄褐	外：施釉 内：施釉	
8-4	SK18	土師器 坏	-	(8.8)	[1.3]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-5	SK21	白磁碗	(12.0)		[2.8]	緻密	良好	10Y6/1灰	外：施釉，施文 内：施釉	
8-6	SK21	白磁皿	(10.8)	(5.6)	3.3	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁碗IX-1類

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
8-7	SK21	白磁 合子蓋	(2.5)		0.9	緻密	良好	外：2.5GY8/1灰白 内：5Y8/1灰白	外：施釉，施文 内：施釉	
8-8	SK21	瓦質土器 捏鉢			[3.4]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	2.5Y7/2灰黄	外：ナデ 内：ナデ	
8-9	SK21	土師器 坏		(9.4)	[1.4]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
8-10	SK22一括	陶器 壺	(8.4)		[6.3]	緻密	良好	7.5YR4/1褐灰	外：施釉 内：施釉	大宰府編年 陶器壺II-1類
8-11	SK34	土師器 坏	(12.0)	(8.0)	2.6	緻密，直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/1明褐灰	外：ナデ，摩滅 内：ナデ	
8-12	SK36	白磁 碗		(6.0)	[2.7]	緻密	良好	外5Y7/1灰白 内：7.5Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	白磁碗V類
8-13	SK36	白磁 皿	(9.4)	(6.0)	[2.8]	緻密	良好	外：10Y8/1灰白 内：10GY8/1明緑灰	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁碗IX-1類
8-14	SK36No.1	陶器 碗		(3.2)	[1.6]	緻密	良好	5Y7/4浅黄	外：露胎 内：施釉	
8-15	SK63 1, 2層一括	瓦質土器 碗			[2.5]	緻密	良好	2.5Y8/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
8-16	SK63 1, 2層一括	青磁 皿	(10.5)	(4.6)	2.3	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿 I-2b類
8-17	SP14	白磁 皿			[2.6]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，施文	白磁碗VIII-2類
8-18	SP14	青磁 碗			[3.3]	緻密	良好	外：10GY7/1明緑灰 内：7.5GY7/1明緑灰	外：施釉，施文 内：施釉	
13-1	SK33 No.3	青磁 碗	15.0	5.0	7.0	緻密	良好	10Y6/2オリーブ灰	外：施釉，施文，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 IV類
13-2	SK33 No.4	粉青沙器 小碗	8.6	4.5	5.2	緻密	良好	7.5Y5/1灰	外：施釉，施文 内：施釉，施文	「長興庫」銘
13-3	SK33 1層	土師器 坏	11.8	8.2	2.5	緻密，直径1~2mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
16-1	SE37 5面 - ①中 No.106	青磁 碗		(6.0)	[2.2]	緻密	良好	外：2.5GY7/1明オリーブ灰 内：10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I類
16-2	SE37 5面 - ①中 No.108	青磁 碗		6.3	[1.8]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I類
16-3	SE37 No.104, 4面, 最深層	青磁 碗		(5.6)	[3.5]	緻密	良好	10Y7/2灰白	外：施釉，施文，露胎 内：施釉	龍泉窯系青磁碗 II類
16-4	SE37 No.1	青磁 碗		(6.3)	[2.6]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉	
16-5	SK37掘方	青白磁 碗		5.2	[1.8]	緻密	良好	7.5GY8/1明緑灰	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	
16-6	SE37 No.28 (石組)	白磁 碗			[2.9]	緻密	良好	5Y8/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁碗IV類
16-7	SE37 No.24	白磁 皿	(12.0)	(5.8)	2.8	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	白磁皿VIII-2b類
16-8	SE37	須恵器 甕	(19.5)		[7.8]	やや粗い，直径1~7mmの砂粒を少し含む	良好	外：N6/ 灰 内：7.5YR6/2灰褐	外：ナデ 内：ナデ	
16-9	SE37 No.55 (井戸内)	瓦質 風炉			[6.6]	緻密，直径1~3mmの白色粒子を含む	良好	外：5Y5/1灰 内：2.5Y7/2灰黄	外：ナデ，施文 内：ハケメ，ナデ	スタンプ文
16-10	SE37 No.35, 36	土師質 鍋			[5.7]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：5YR5/2灰褐 内：5YR6/6橙	外：ハケメ，ナデ，スス附着 内：ハケメ	
16-11	SE37 No.48 (井戸内)	土師質 鍋			[5.0]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：5YR7/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ	
16-12	SE37 2面 No.63	土師質 鍋			[6.9]	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：5YR4/1褐灰 内：5YR6/6橙	外：ハケメ，ナデ，スス附着 内：ハケメ	
16-13	SE37 No.54	軒平瓦	[4.3]	[10.3]	1.6	緻密，白色砂粒を少し含む	良好	2.5Y7/1灰白	表：ナデ 裏：ナデ	唐草文
16-14	SE37 2面直上一括	軒平瓦	[5.5]	[7.1]	1.5	緻密，白色砂粒を多く含む	良好	表：10YR8/3浅黄橙 裏：10YR6/3にぶい黄橙	表：ナデ 裏：ナデ	唐草文
16-15	SE37 No.23 (石組)	軒平瓦	[5.9]	[9.4]	2.0	緻密，直径1~2mmの砂粒を含む	良好	表：10YR7/1灰白 裏：10YR6/1褐灰	表：ナデ 裏：ナデ	唐草文
16-16	SE37 2面 No.82	軒平瓦	[7.5]	[9.1]	2.0	緻密，白色砂粒を含む	良好	表：2.5Y6/2灰黄 裏：5Y6/2灰オリーブ	表：工具ナデ 裏：工具ナデ	逆刊唐草
16-17	SE37 No.61	軒平瓦	[14.7]	[10.5]	2.2	緻密，直径1~4mmの砂粒を少し含む	良好	表：5YR7/6橙 裏：7.5YR6/2灰褐	表：工具ナデ 裏：工具ナデ	唐草文

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
16-18	SE37No.18	軒丸瓦	[6.0]		6.0	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	表：N5/灰 裏：5Y6/1灰	表：型押し 裏：ナデ	連珠文
17-1	SK56	土師器 皿	(7.7)	(6.1)	1.1	緻密，雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
17-2	SK117	青磁碗		(5.0)	[5.0]	緻密	良好	5Y5/4オリーブ	外：施釉，施文，露胎 内：施釉，施文	大宰府編年 同安業系青磁碗 I-1b類
17-3	SK117	白磁碗			[2.9]	緻密	良好	外：5Y8/1灰白 内：5Y7/2灰白	外：施釉，ナデ 内：施釉	白磁碗IV類
17-4	SK117	白磁皿		(4.9)	[0.2]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁皿IX類
17-5	SP39-1	陶器 天目碗			[4.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR4/2灰褐	外：施釉 内：施釉	
17-6	SP40	土師器 杯	(12.0)	(9.2)	2.3	緻密，直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-1	ST58	白磁皿	(10.3)	(1.9)	6.6	緻密	良好	5GY8/1灰白	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁皿 IX-1類
18-2	ST58	陶器 壺	(16.0)		[3.4]	緻密	良好	外：7.5YR6/2灰褐 内：7.5YR6/1褐灰	外：施釉 内：施釉	
18-3	ST58	土師器 杯	(15.5)	(9.9)	2.5	緻密	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
18-4	ST58	土師器 杯	12.9	8.5	3.0	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：5YR7/6橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-5	ST58	土師器 杯	(15.0)	(9.6)	4.1	緻密，直径1～3mmの砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR3/2黒褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ，スス付着	糸切り底
18-6	ST58	土師器 杯	13.1	9.6	2.5	緻密，雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-7	ST58	土師器 杯	(13.0)	(8.1)	2.5	緻密，直径1～2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-8	ST58	土師器 杯	(12.8)	(8.1)	2.6	緻密，直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-9	ST58	土師器 皿	7.9	7.1	1.2	緻密，直径1～2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-10	ST58	土師器 皿	8.0	6.9	1.2	緻密，雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-11	SK98	土師器 皿	8.3	6.7	1.1	緻密，直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
18-12	SK90	土師器 皿	7.6	5.3	2.7	やや緻密，直径1～5mmの砂粒・雲母片をわずかに含む	良好	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，スス付着 内：ナデ	糸切り底
19-1	SK86	土師器 杯	14.8	17.0	2.9	緻密，直径1mm弱の砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/6橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-2	SK86	土師器 杯	(12.0)	(7.9)	2.5	緻密，直径1～2mmの砂粒を少し含む	良好	7.5YR3/1黒褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ，スス付着	糸切り底
19-3	SK86	土師器 杯	13.1	8.9	2.8	やや緻密，直径2～5mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-4	SK86	土師器 杯	13.1	9.0	2.5	やや粗い，直径2～9mmの砂粒を多く含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-5	SK86	土師器 杯	13.0	9.4	2.5	緻密，直径1～2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-6	SK86	土師器 杯	13.0	8.6	2.8	やや緻密，直径1～4mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-7	SK86	土師器 杯	13.5	9.6	2.8	やや緻密，直径2～4mmの砂粒・黒色粒子・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-8	SK86	土師器 杯	13.4	8.7	2.7	やや緻密，直径1～7mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：5YR7/6橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ，スス付着	糸切り底
19-9	SK86	土師器 杯	12.8	8.5	2.4	緻密，直径1～3mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-10	SK86	土師器 杯	12.8	8.6	2.7	緻密，直径1～3mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-11	SK86	土師器 杯	14.2	9.3	2.8	やや緻密，直径3mmの砂粒・雲母片を含む	良好	外：7.5YR4/6褐 内：10YR8/3浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-12	SK86	土師器 杯	12.4	8.8	2.3	緻密，直径2～3mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ，スス付着	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
19-13	SK86	土師器 坏	(12.6)	(8.4)	2.9	やや緻密、直径1~4mmの砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-14	SK86	土師器 坏	12.3	9.0	2.5	やや緻密、直径2~4mmの砂粒・雲母片を多く含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-15	SK86	土師器 坏	(13.1)	(9.1)	2.4	やや緻密、直径1~4mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-16	SK86	土師器 坏	12.7	8.9	2.6	やや緻密、直径1~4mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-17	SK86	土師器 坏	13.2	8.6	2.4	緻密、直径1~3mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：5YR7/6橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-18	SK86	土師器 坏	(12.6)	(8.3)	2.4	緻密、直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-19	SK86	土師器 坏		(10.3)	[2.0]	緻密、直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR4/6褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-20	SK86	土師器 坏		(8.4)	[1.0]	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-21	SK86	土師器 坏		(9.0)	[1.4]	緻密、雲母片を少し含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR6/2灰黄褐	外：ナデ、糸切り 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-22	SK86	土師器 坏		(9.0)	[2.1]	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-23	SK86	土師器 坏	12.3	8.6	2.4	やや緻密、直径1~4mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-24	SK86	土師器 坏	(13.5)	(10.2)	2.3	緻密、黒色粒子・雲母片を少し含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-25	SK86	土師器 坏		(9.4)	[1.5]	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
19-26	SK86	土師器 皿	(8.4)	(6.6)	1.2	緻密、雲母片を少し含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-27	SK86	土師器 皿	7.8	5.9	1.3	緻密、直径1~2mmの砂粒・黒色粒子・雲母片を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
19-28	SK86	土師器 皿	8.8	6.9	1.2	緻密、直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-29	SK86	土師器 皿	(8.0)	(5.3)	0.8	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
19-30	SK86	土師器 皿	8.4	6.5	1.3	やや粗い、直径1~6mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-31	SK86	土師器 皿	7.9	6.6	1.2	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-32	SK86	土師器 皿	7.8	6.4	1.0	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
19-33	SK86	土師器 皿	8.0	6.4	1.0	緻密、直径2~5mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-34	SK86	土師器 皿	7.6	6.2	1.2	緻密、直径1~2mmの砂粒・黒色粒子・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-35	SK86	土師器 皿	8.0	6.3	1.3	緻密、直径1~2mmの砂粒・黒色粒子・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-36	SK86	土師器 皿	(8.2)	(6.8)	0.9	緻密、直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
19-37	SK86	土師器 皿	7.7	6.5	1.1	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-38	SK86	土師器 皿	7.8	6.0	1.3	緻密、直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	外：5YR6/4にぶい橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
8-39	SK86	土師器 皿	7.2	5.1	1.4	緻密、直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-40	SK86	土師器 皿	7.9	6.1	1.1	緻密、雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-41	SK86	土師器 皿	7.6	6.0	1.2	緻密、直径2~3mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-42	SK86	土師器 皿	8.0	5.1	2.2	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/2明褐灰 内：7.5YR4/1褐灰	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
19-43	SK86	土師器 皿	8.3	6.6	1.1	緻密、直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-44	SK86	土師器 皿	(7.8)	(6.0)	1.0	緻密、直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
19-45	SK86	土師器 皿	8.1	6.7	1.2	緻密、雲母片を少し含 む	良好	10YR2/1黒	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-46	SK86	土師器 皿	8.3	6.4	1.3	緻密、雲母片を少し含 む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、スス付着 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-47	SK86	土師器 皿	(6.8)	(4.2)	1.8	緻密、雲母片を少し含 む	良好	外：7.5YR4/1褐灰 内：7.5YR3/1黒褐	外：ナデ、糸切り 内：摩滅	糸切り底
19-48	SK86	土師器 皿	8.6	6.8	1.5	緻密、直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
19-49	SK86	土師器 皿	11.5	6.9	2.4	緻密、雲母片を多く含 む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-50	SK86	土師器 皿	7.4	5.3	1.7	緻密、直径2~3mmの 砂粒・雲母片を少し含 む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
19-51	SK86	瓦質土器 捏鉢	(27.5)	(12.4)	10.5	緻密、白色砂粒を多く 含む	良好	外：N5/ 灰 内：5Y8/1灰白	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ	
19-52	SK86	土錘	4.7	1.0	1.0	緻密	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	4.58g
19-53	SK86	土錘	[6.2]	1.7	1.7	緻密	良好	2.5YR6/6橙	外：ナデ	16.16g
19-54	SK86	滑石製 石錘	8.7	4.9	2.7					171.66g
20-1	SK89	青磁 瓦玉		5.2	[1.4]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリブ灰	外：施釉、露胎 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 ⅠかⅡ類
20-2	SK89	白磁 皿	(11.4)	(3.2)	6.0	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉、口禿、スス付着 内：施釉	白磁皿 Ⅸ-1類
20-3	SK89	白磁 碗			[3.5]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	
20-4	SK89	陶器 壺		(6.0)	[7.3]	緻密、直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	2.5Y6/3にぶい黄	外：施釉、ナデ、ケズリ 内：施釉、ナデ、ケズリ	
20-5	SK89	瓦質土器 捏鉢	(26.4)		[6.7]	緻密、直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：2.5Y6/1黄灰 内：2.5Y8/1灰白	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	
20-6	SK89	瓦質土器 捏鉢		(7.6)	[5.0]	緻密、白色砂粒を含む	良好	外：N5/ 灰 内：7.5Y7/1灰白	外内：回転ナデ	
20-7	SK89	土師器 坏	(12.1)	(8.4)	2.4	やや緻密、直径1~2 mmの砂粒・雲母片を含 む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
20-8	SK89	土師器 坏	12.0	9.2	2.5	緻密、直径1~2mmの 砂粒・雲母片を少し含 む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
20-9	SK89	土師器 坏	12.0	9.1	2.7	緻密、直径1mm弱の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	外：5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
20-10	SK89	土師器 坏	12.0	8.8	2.1	やや緻密、直径2~4 mmの砂粒・雲母片を多 く含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
20-11	SK89	土師器 坏	(12.0)	(7.9)	2.6	やや緻密、直径5mm大 の砂粒・雲母片を少し 含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
20-12	SK89	土師器 坏	12.1	8.0	2.5	やや緻密、直径2~4 mmの砂粒・雲母片を多 く含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
20-13	SK89	土師器 坏	12.2	9.2	2.7	緻密、直径1mm弱の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR2/1黒 内：7.5YR3/1黒褐	外：ナデ、糸切り、スス付着 内：ナデ、スス付着	糸切り底
20-14	SK89	土師器 坏		(7.1)	[1.4]	やや緻密、直径1~5 mmの砂粒・雲母片を含 む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
20-15	SK89	土師器 坏	12.1	9.6	2.1	緻密、直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ、スス付着	糸切り底
20-16	SK89	土師器 坏	12.3	9.3	2.1	緻密、直径1mm大の砂 粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/6明褐	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
20-17	SK89	土師器 坏	14.7	10.4	2.6	やや緻密、直径1~5 mmの砂粒・雲母片を含 む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
20-18	SK89No.29	土師器 坏	(12.7)	(9.3)	2.1	緻密、雲母片を少し含 む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
20-19	SK89	土師器 坏	12.4	8.5	2.5	やや緻密, 直径2~4mmの砂粒・黒色粒子・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
20-20	SK89	土師器 坏		(9.0)	[1.3]	やや緻密, 直径2mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
20-21	SK89	土師器 坏	12.2	9.1	2.5	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR6/3にぶい褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
20-22	SK89	土師器 坏	(11.6)	(8.0)	2.5	緻密, 雲母片を多く含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ, スス付着	糸切り底
20-23	SK89	土師器 坏	13.4	9.9	2.3	緻密, 雲母片を含む	良好	2.5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
20-24	SK89	土師器 坏	(12.9)	(9.6)	1.8	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外: 7.5YR7/3にぶい橙 内: 7.5YR6/3にぶい褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
20-25	SK89	土師器 坏		(9.5)	[1.0]	緻密, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
20-26	SK89	土師器 皿	(8.5)	(7.2)	1.0	緻密, 直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
20-27	SK89	土師器 皿		(6.4)	[1.3]	緻密, 雲母片を少し含む	良好	5YR5/8明赤褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
20-28	SK89	土師器 皿	(7.7)	(5.7)	1.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
20-29	SK89	土錘	4.5	1.0	1.0	緻密	良好	2.5YR5/3にぶい赤褐	外: ナデ	3.16 g
20-30	SK89	土錘	5.4	2.1	2.0	緻密	良好	5YR6/6橙	外: ナデ	23.85 g
20-31	SK89	土錘	5.8	2.3	2.0	緻密	良好	7.5YR6/2灰褐	外: ナデ	21.79 g
24-1	SE93 1面	青磁 碗		(4.7)	[2.6]	緻密	良好	5G7/1明オリーブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	大宰府縄文 龍泉窯系青磁碗 Ⅲ類
24-2	SE93 2面	青磁 碗		3.3	[2.6]	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
24-3	SE93	土師器 甕			[10.0]	緻密, 直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR6/2灰褐	外: ハケメ, ナデ, スス付着 内: ハケメ, ナデ	
24-4	SK93 1面	土錘	4.8	0.9	1.0	緻密	良好	5YR5/3にぶい赤褐	外: ナデ	3.27 g
24-5	SK114	白磁 皿		5.2	[1.7]	緻密	良好	10Y8/1灰白	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
24-6	SK114	土師器 坏		(9.4)	[1.5]	緻密, 直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
24-7	SK114	土錘	4.2	1.3	1.3	緻密	良好	7.5YR7/6橙	外: ナデ	5.28 g
25-1	SK101	土師器 坏	(12.0)	(7.8)	2.0	緻密, 直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	外: 5YR7/6橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
25-2	SK101	土師器 坏	(12.4)	(9.1)	2.6	緻密, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR7/4にぶい橙 内: 7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
25-3	SK101	土師器 坏		(7.4)	[1.3]	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
25-4	SK178	須恵器 瓶	8.2		[3.9]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外: 10YR3/1黒褐 内: 10YR5/1褐灰	外: ナデ 内: ナデ	
25-5	SK178	土師器 坏	(11.2)	(7.0)	3.3	緻密, 直径2mm大の砂粒を少し含む	良好	外: 10YR8/3浅黄橙 内: 10YR8/2灰白	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
25-6	SK178	土師器 皿	8.4	7.2	1.3	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-7	SK178	土師器 皿	8.5	7.4	1.0	緻密, 雲母片を含む	良好	7.5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
25-8	SK179	土師器 坏	12.6	8.6	2.2	緻密, 直径1~5mmの赤色粒子・雲母片を少し含む	良好	外: 5YR7/6橙 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-9	SK179	土師器 坏	(11.8)	(8.5)	2.6	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	外: 5YR4/4にぶい赤褐 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-10	SK179	土師器 皿	8.6	6.7	1.4	緻密, 直径1mm弱の砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
25-11	SK210	陶器 黄釉鉄絵盤	(27.2)	(22.3)	8.5	やや粗い, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y5/4黄褐 内: 2.5Y7/2灰黄	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	陶器盤 1-2b類
25-12	SK210	土師器 坏	(13.0)	(9.0)	2.5	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 5YR8/4淡橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
26-1	SK140	土師器 皿	(8.4)	(6.2)	1.1	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
26-2	SK177 No.1	白磁碗		5.3	[2.2]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	大宰府編年 白磁碗 V類
26-3	SK177 No.3	土師器 杯	(12.8)	(8.7)	2.4	緻密，直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
26-4	SK177 No.2	土師器 皿	8.6	6.9	1.0	緻密，黒色粒子・雲母 片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
26-5	SK177b	砥石	15.4	8.4	7.2					
44-1	SK128	土師器 杯	12.6	9.8	2.3	緻密，雲母片を少し含 む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
44-2	SK128	土師器 皿	7.4	4.9	1.2	緻密，雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
44-3	SK223	土師器 杯	(12.7)	(9.4)	2.5	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
44-4	SK223	土師器 杯		(8.6)	[1.2]	緻密，直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
44-5	SK223	土師器 皿	(7.8)	(6.0)	1.0	緻密，雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
44-6	SK223	土師器 皿	(7.9)	(5.8)	0.9	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
44-7	SP147	石製 硯	8.7	7.25	2.4					
45-1	SE213	土師器 杯	(13.0)	(8.8)	2.8	緻密，雲母片を少し含 む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
45-2	SK213	土師器 皿	8.4	6.5	1.0	緻密，直径1~3mmの 砂粒を少し含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
45-3	SK214, 237, 238	土師器 杯	(13.2)	(9.0)	3.0	緻密，直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
45-4	SK237, 238	白磁 皿	(8.9)	(3.3)	2.0	緻密	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	
45-5	SK237, 238	陶器 黄釉盤			[4.0]	やや粗い，直径1mm弱 の砂粒を多く含む	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉，露胎	陶器盤 1-2類
45-6	SK237, 238	土師器 高台付杯		(10.5)	[3.8]	やや緻密，直径2~5 mmの砂粒を含む，雲母 片を多く含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ	
45-7	SK237, 238	土師器 高台付杯		(6.4)	[1.9]	緻密，直径1~2mmの 砂粒を少し含む	良好	10YR8/3浅黄橙	外：ナデ 内：摩滅	
45-8	SK237, 238	土師器 杯	(11.6)	(9.2)	2.2	緻密，直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
45-9	SK237, 238	白磁 皿		(5.8)	[1.1]	緻密	良好	2.5GY8/1灰白	外：施釉 内：施釉	
46-1	SK148	土師器 杯	(12.3)	(7.9)	2.3	緻密，黒色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
46-2	SK148	土師器 杯	(12.8)	(9.0)	2.3	緻密，雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
46-3	SK149	土師器 高台付杯		6.8	[1.4]	やや緻密，直径1~2 mmの砂粒を多く含む	良好	10YR7/4にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
46-4	SK149	土師器 杯	(11.5)	(6.1)	3.8	緻密，直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：10YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
46-5	SK149	土師器 杯	(13.5)	(10.6)	2.6	緻密，直径1~2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
46-6	SK149	土師器 杯	(13.0)	(8.6)	2.5	緻密，直径1~2mmの 砂粒を少し含む	良好	外：5YR4/2灰褐 内：5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
46-7	SK182	土師器 杯	12.3	8.5	2.0	緻密，黒色粒子雲母片 を少し含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
46-8	SK199	土師器 杯	(12.6)	(9.1)	2.5	緻密，直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
46-9	SK192	土師器 杯		(7.2)	[1.0]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10YR8/3浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
46-10	SK192	土師器 皿	(8.5)	(6.4)	1.2	やや緻密，直径1~3 mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
46-11	SK203	白磁 皿	(8.6)	4.6	1.8	緻密	良好	5GY8/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉	白磁皿 VIII-1'類
46-12	SK203	土師質 飯蛸壺	(7.2)		[5.4]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外：10YR4/2灰黄褐 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
46-13	SK203No.1	土師器 杯	11.7	7.4	2.3	緻密，直径1~2mmの 赤色粒子・雲母片を少 し含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
46-14	SK203	土師器 坏	11.7	7.4	2.5	緻密, 直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ, スス付着	糸切り底
46-15	SK203	土師器 坏	(11.3)	(7.8)	2.3	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
46-16	SK209	青磁 皿		(5.6)	[2.1]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁皿 I-1b類
47-1	SK197	土師器 坏	(12.0)	(8.9)	2.5	緻密, 雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ, スス付着	糸切り底
47-2	SK197	土師器 皿	8.2	6.2	1.0	やや緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
47-3	SK226	土師器 皿	7.9	6.1	1.2	緻密, 直径2mm大の砂粒を少し含む	良好	外: 7.5YR6/4にぶい橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
47-4	SK228	青磁 八角小鉢	(7.3)	(2.5)	3.9	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	
47-5	SK228	青磁 皿			[2.3]	緻密	良好	2.5GY6/1オリーブ灰	外: 施釉 内: 施釉	龍泉窯系青磁皿 I類
47-6	SK228	瓦質土器 湯釜	(14.8)		[7.9]	緻密, 直径1mm大の砂粒を含む	良好	外: 2.5Y6/1黄灰 内: 2.5Y4/1黄灰	外: ナデ, 施文 内: ナデ	スタンプ文
47-7	SK228	土師器 皿	(8.0)	(6.6)	1.0	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
47-8	SK228	土師器 皿	7.1	5.4	1.9	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	10YR5/2灰黄褐	外: ナデ, 糸切り 内: 摩滅, スス付着	糸切り底
47-9	SK228	土 錘	5.6	1.8	1.6	緻密	良好	2.5Y6/2灰黄	外: ナデ	14.42g
47-10	SK228	滑石製 石錘	5.3	3.1	2.2					51.04g
48-1	SK234	土師器 高台付坏		(10.3)	[3.1]	緻密, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ 内: ナデ	
48-2	SK234	土師器 坏	(11.7)	(7.9)	2.0	緻密, 黒色粒子・雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-3	SK234	土師器 坏	(12.6)	(10.0)	1.9	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒・雲母片を含む	良好	外: 5YR5/6明赤褐 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-4	SK234	土師器 坏	(13.0)	(10.3)	2.2	緻密, 直径2mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: 摩滅	糸切り底
48-5	SK234	土師器 坏	12.2	9.1	2.1	緻密, 雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR5/6明褐 内: 7.5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
48-6	SK234	土師器 坏	(11.6)	(8.4)	2.4	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒・黒色粒子・雲母片を含む	良好	10YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-7	SK234	土師器 坏	(12.5)	(9.9)	1.9	緻密, 黒色粒子・雲母片を含む	良好	5YR6/8橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-8	SK234	土師器 坏	(12.4)	(10.0)	2.0	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-9	SK234	土師器 坏		(8.4)	[1.9]	緻密, 黒色粒子・雲母片を少し含む	良好	外: 7.5YR8/4浅黄橙 内: 7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
48-10	SK234	土師器 坏		(7.4)	[0.7]	やや緻密, 直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-11	SK234	土師器 皿	8.4	6.9	1.0	緻密, 黒色粒子・雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-12	SK234	土師器 皿	8.4	6.0	1.2	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-13	SK234	土師器 皿	8.4	5.5	1.3	緻密, 直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: 摩滅	糸切り底
48-14	SK234	土師器 皿	8.3	5.4	1.1	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	7.5YR6/3にぶい褐	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
48-15	SK234	土師器 皿	8.0	6.4	1.6	緻密, 雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ, スス付着	糸切り底
48-16	SK234	土師器 皿	8.4	6.0	11.3	緻密, 直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	外: 7.5YR5/2灰褐 内: 7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
48-17	SK234	土師器 皿	(8.5)	(6.1)	1.2	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒を含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-18	SK234	土師器 皿	8.2	6.3	1.1	やや緻密, 直径1~5mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-19	SK234	土師器 皿	8.0	6.3	1.1	緻密, 直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	7.5YR7/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
48-20	SK234	土師器 皿	7.7	6.5	1.0	やや緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
50-1	SK200	青磁碗	(16.1)	(4.6)	(7.0)	緻密	良好	5Y5/4オリーブ	外：施釉，露胎，施文 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 Ⅱ類
50-2	SK200	陶器鉢	10.0	5.2	4.0	緻密，直径1～2mmの 砂粒を少し含む	良好	7.5Y5/1灰	外：施釉，露胎 内：施釉，メアト	雑釉陶器
50-3	SK200	陶器碗		(4.7)	[2.4]	緻密	良好	7.5Y6/1灰	外：施釉，露胎 内：施釉，メアト	雑釉陶器
50-4	SK200	瓦質土器 蓋	(14.9)	(12.0)	1.0	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	外：2.5Y3/1黒褐 内：2.5Y5/1黄灰	外：ナデ，スス付着 内：ナデ	
50-5	SK200	土師質 播鉢	(31.4)		[11.6]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を少し含む	良好	外：5YR6/6橙 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：ナデ 内：ハケメ，スリ溝	
50-6	SK200	土師質 播鉢	(29.8)		[8.1]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ，ナデ，スリ溝	
50-7	SK200	土師質 播鉢	(32.0)		[9.6]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を少し含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ，スリ溝	
50-8	SK200	土師質 播鉢		(15.4)	[5.1]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ，スリ溝	
50-9	SK200	土師質 鍋	(26.6)		[8.3]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：ナデ 内：ハケメ	
50-10	SK200	土師質 鍋	(21.8)		[10.6]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を少し含む	良好	外：N3/ 暗灰 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ハケメ，ナデ，スス付着 内：ハケメ	
50-11	SK200	土師質 鍋	(30.0)		[8.9]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外：N2/ 黒 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ，スス付着 内：ハケメ	
50-12	SK200	土師質 鍋	(32.6)		[6.4]	緻密，直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ 内：ハケメ	
50-13	SK200	土師質 鍋	(31.0)		[11.4]	やや緻密，直径1～5 mmの砂粒を少し含む	良好	外：10YR2/1黒 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：ハケメ，ナデ，スス付着 内：ハケメ	
50-14	SK200	土師質 鍋	30.4	-	[14.1]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を含む	良好	外：2.5YR2/1赤黒 内：2.5YR5/8明赤褐	外：ハケメ，ナデ，スス付着 内：ハケメ	
50-15	SK200	土師質 鍋			[12.3]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：5YR6/4にぶい橙	外：ハケメ，ナデ，スス付着 内：ハケメ	
50-16	SK200	土師質 鍋	30.4		[12.1]	やや緻密	良好	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：ハケメ，ナデ，スス付着 内：ハケメ	
50-17	SK200	土師器 坏	(11.8)	(8.6)	2.2	緻密，直径1～2mmの 砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
50-18	SK200	土師器 坏	(11.4)	(5.0)	2.6	緻密，雲母片を含む	良好	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ，スス付着	糸切り底
50-19	SK200	土師器 皿	(6.1)	(4.3)	1.3	やや緻密，直径3mm大 の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
51-1	SK200	軒丸瓦	[8.0]	[8.9]	2.1	緻密，直径1～3mmの 砂粒を含む	良好	表：10YR6/2灰黄褐 裏：7.5YR6/1褐灰	表：工具ナデ 裏：ナデ，布目	
51-2	SK200	丸瓦	[13.9]	[6.4]	1.85	緻密，白色砂粒を含む	良好	表：N5/ 灰 裏：N6/ 灰	表：縄目タタキ，工具ナデ 裏：工具ナデ，コビキA，布 目，吊り紐痕	
51-3	SK200	砥石	11.5	11.9	6.1					
54-1	SD235	青磁碗		(6.0)	[4.3]	緻密	良好	5Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-2類
54-2	SD235	陶器鉢			[6.7]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	5YR4/2灰褐	外：施釉 内：施釉	陶器鉢Ⅲ類
54-3	SD235	陶器 黄釉鉄絵盤		(17.2)	[2.1]	やや緻密，直径1～3 mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐 内：2.5Y6/2灰黄	外：露胎 内：施釉，施文	
54-4	SD235	土師器 坏	(12.4)	(8.5)	2.4	緻密，直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	5YR6/8橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
54-5	SD235	土師器 坏	(11.4)	(8.4)	2.9	緻密，直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	5YR6/8橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
54-6	SD235	土師器 坏	12.4	9.4	2.2	緻密，直径1mm大の砂 粒を含む，赤色・黒色 粒子・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
54-7	SD235	土師器 坏		(8.0)	[1.8]	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	外：5YR6/6橙 内：5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
54-8	SD235	土師器 高台付坏	(12.4)	(6.0)	4.6	やや緻密，直径1～5 mmの砂粒を含む	良好	5YR6/8橙	外：ナデ 内：ナデ	
54-9	SD235	土師器 皿	8.2	7.1	1.3	緻密，直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	外：5YR5/8明赤褐 内：5YR6/8橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
54-10	SD235	土師器 皿	9.0	7.2	1.2	緻密，直径1mm大の砂 粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
54-11	SD235	土師器 皿	8.2	6.6	0.8～1.0	緻密，直径1～2mmの 砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
54-12	SD235	土師器 皿	8.2	6.4	1.0	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
54-13	SD235	土師器 皿	8.0	6.7	1.0	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
54-14	SD235	土錘	4.1	1.85	1.7	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ	10.12 g
54-15	SK245	青磁 皿			[1.4]	緻密	良好	10Y6/2オリブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系
54-16	SK245	青磁 碗	(16.0)		[4.9]	緻密	良好	10Y7/2灰白	外: 施釉, 施文 内: 施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 IV類
54-17	SK245	青磁 碗		5.0	[2.1]	緻密	良好	10GY7/1明緑灰	外: 施釉, 施文, 露胎 内: 施釉, 施文	龍泉窯系青磁碗 II-c 類
54-18	SK245	白磁 皿	(9.9)	(4.3)	2.1	緻密	良好	5Y8/1灰白	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	
54-19	SK245	土師器 坏	(12.1)	(8.5)	2.2	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外: 5YR4/6赤褐 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
54-20	SK245	土師器 坏	(10.8)	(7.7)	2.1	緻密, 直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
54-21	SK245	土師器 皿	8.2	6.7	1.0	やや緻密, 直径1~4mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
54-22	SK245	土師器 皿	(8.3)	(6.5)	1.3	緻密, 雲母片を少し含む	良好	外: 5YR6/8橙 内: 5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
54-23	SK264	土師器 坏	12.1	8.7	2.6	緻密, 雲母片を多く含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
54-24	SK264	土師器 皿	(9.0)	(6.7)	1.2	緻密, 直径2mm大の砂粒を少し含む	良好	5YR6/8橙	外: ナデ, 糸切り 内: 摩滅	糸切り底
54-25	SK264	土師器 皿	8.4	6.7	1.3	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	5YR6/6橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
54-26	SK264	土師器 皿	(8.0)	(6.8)	1.0	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
54-27	SK264	土師器 皿	7.4	5.8	1.1	緻密, 直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/3にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
54-28	SK264	土師器 皿	8.3	6.6	1.1	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	外: 5YR6/6橙 内: 5YR6/8橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
54-29	SK264	土師器 皿	8.2	6.5	1.1	緻密, 直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
55-1	SE367	白磁 小碗	(7.2)	(4.5)	4.3	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外: 施釉, 露胎 内: 施釉, 露胎	
55-2	SE367	白磁	2.8	1.9	0.9	緻密	良好	表: 5G7/1明緑灰 裏: 7.5YR7/2明褐灰	表: 施釉, 口禿 裏: 露胎	裝飾部分
55-3	SE367	須恵器 坏	(16.7)	14.2	2.0	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	N6/ 灰	外: ナデ 内: ナデ	
55-4	SE367	土師質 播鉢			[6.8]	緻密, 直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	外: 5YR5/4にぶい赤褐 内: 7.5YR5/3にぶい褐	外: ナデ 内: ナデ, スリ溝	
55-5	SE367	瓦質土器 碗	(10.8)		[1.3]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5Y7/1灰白	外: ナデ 内: ナデ	底部
55-6	SE367	瓦質土器 碗	(7.6)		[2.4]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR6/3にぶい黄橙	外: ナデ 内: ナデ	底部
55-7	SK367	土師器 三足坏	(7.0)		[3.0]	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	
55-8	SE367	土師器 皿	(8.2)	(6.0)	1.2	緻密, 直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR8/4浅黄橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
55-9	SE367	土師器 皿	6.7	5.8	1.0	緻密, 雲母片を含む	良好	10YR8/3浅黄橙	外: ナデ, 糸切り, 板状圧痕 内: ナデ	糸切り底
55-10	SE367	土錘	5.6	2.4	2.3	緻密	良好	7.5YR6/6橙	外: ナデ	23.60 g
55-11	SE367	丸瓦	[16.5]	[10.5]	2.1	緻密, 直径1~4mmの砂粒を含む	良好	表: 10YR5/1褐灰 裏: 2.5Y6/1黄灰	表: 縄目タタキ, 工具ナデ 裏: ナデ, コビキA, 布目	
55-12	SE367	丸瓦	[17.3]	[9.6]	2.0	緻密, 直径1~3mmの砂粒を含む	良好	表: 10YR6/2灰黄褐 裏: 10YR6/1褐灰	表: 縄目タタキ, 工具ナデ 裏: ナデ, コビキA, 布目	
55-13	SE367	平瓦	[9.6]	[13.1]	1.9	緻密, 直径1~2mmの砂粒を含む	良好	5Y6/1灰	表: 面取り, ナデ 裏: ナデ	
55-14	SE367	丸瓦	[12.6]	[8.7]	2.0	緻密, 直径1~3mmの砂粒・茶褐色砂粒を含む	良好	表: 2.5Y6/2灰黄 裏: 2.5Y6/1黄灰	表: 縄目タタキ, 工具ナデ 裏: ナデ, コビキA, 布目	
55-15	SE367	石臼	[18.6]		4.0					

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
58-1	SK282	土師器 坏	(13.4)	(8.4)	2.5	緻密、直径1~2mmの 砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
58-2	SK295	陶器 四耳壺	(14.6)		[9.5]	緻密	良好	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR5/2灰黄褐	外：施釉、ナデ 内：施釉、ナデ	大宰府編年 陶器耳壺 VII類
58-3	SK312	軒丸瓦	[13.8]	[13.8]	2.0	緻密、直径1~3mmの 砂粒を多く含む	良好	表：2.5Y6/1黄灰 裏：10YR6/1褐灰	表：縄目タタキ、工具ナデ 裏：ナデ、コビキA、布目、 吊り紐痕	連珠文
58-4	SK323	陶器 碗			[2.4]	緻密	良好	外：7.5YR6/1褐灰 内：5YR5/1褐灰	外：施釉 内：施釉、メアト	雑釉陶器
58-5	SK323	土師質 飯蛸壺			[1.6]	緻密、直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：5YR6/6橙	外：ナデ 内：ナデ、指オサエ	
58-6	SK323	土師質 飯蛸壺			[3.4]	緻密、直径1~4mmの 砂粒を少し含む	良好	外：5YR5/3にぶい赤褐 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ 内：ナデ、指オサエ	
58-7	SK323	滑石製 石鍋			[4.8]					
58-8	SK335	青磁 碗	(16.9)		[5.7]	緻密	良好	外：2.5GY6/1オリーブ灰 内：2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
58-9	SK335	青磁 碗			[5.9]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
58-10	SK335	青磁 皿	(10.2)		[2.2]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁皿 I-1b類
58-11	SK335	青磁 皿	(9.7)	(3.6)	2.3	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁皿 I-1b類
58-12	SK335	陶器 黄釉盤			[3.3]	緻密、直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5Y6/1灰	外：施釉、露胎 内：施釉、露胎	陶器小盤 I-2'類
58-13	SK335	土師器 皿	(8.0)	(6.8)	1.0	緻密、直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	10YR7/3にぶい黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
58-14	SK360	陶器 甕			[2.4]	緻密、直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：2.5Y5/2暗灰黄 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ、施釉 内：ナデ、施釉	陶器甕I類
58-15	SK360	土師質 鍋			[13.2]	緻密、直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	外：7.5YR2/1黒 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、スス附着 内：ハケメ	
59-1	SK252	青磁 碗		(6.2)	[3.5]	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
59-2	SK252	土師質 火鉢		(31.4)	[14.0]	緻密、白色砂粒を含む	良好	外：10YR4/1褐灰 内：5Y4/1灰	外：ハケメ、ナデ、スス附着 内：ハケメ	
59-3	SE252	滑石製 石錘	6.0	4.1	2.0					64.36 g
59-4	SK252	軒丸瓦	[10.0]	[10.1]	1.2	緻密、白色砂粒を含む	良好	表：2.5Y6/1黄灰 裏：5Y5/1灰	表：型押し 裏：ナデ	巴文
59-5	SK252	軒平瓦 (隅切)	[10.0]	[14.4]	2.1	緻密、直径1~3mmの 砂粒を含む	良好	表：N6/灰 裏：2.5Y6/1黄灰	表：コビキA、工具ナデ 裏：工具ナデ	蓮華唐草文
59-6	SK252	軒平瓦	[8.6]	[11.4]	2.2	緻密、白色砂粒を含む	良好	表：2.5Y6/1黄灰 裏：5Y6/1灰	表：ナデ 裏：ナデ	唐草文
59-7	SK252	平瓦	[13.3]	[12.6]	1.9	緻密、赤色砂粒を含む	やや軟	表：10YR6/3にぶい黄橙 裏：7.5YR6/4にぶい橙	表：工具ナデ 裏：工具ナデ	
59-8	SK338	青磁 皿		(4.2)	[1.4]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	同安窯系青磁皿 I類
59-9	SK338	陶器 碗		4.2	[1.4]	緻密、直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	5BG6/1青灰	外：施釉 内：施釉、メアト	雑釉陶器
59-10	SK338	陶器 黄釉盤	(25.0)		[5.3]	やや緻密、直径1~4 mmの砂粒を含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：施釉、露胎 内：施釉	59-11と同一個 体
59-11	調査区一括	陶器 黄釉盤		(17.3)	[3.7]	やや緻密、直径1~4 mmの砂粒を含む	良好	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：露胎 内：施釉	59-10と同一個 体
59-12	SK338	陶器 壺		5.4	[3.5]	緻密	良好	外：5Y8/1灰白 内：2.5Y8/1灰白	外：施釉、ケズリ 内：施釉	
59-13	SK338	土師器 皿	(8.2)	(5.4)	1.3	緻密、直径1mm大の砂 粒を含む	良好	外：5YR7/4にぶい橙 内：2.5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
59-14	SK338	軒丸瓦	[6.7]	[6.4]	1.9	緻密、直径1~2mmの 砂粒を含む	良好	5YR7/6橙	表：型押し 裏：ナデ	巴文・連珠文
59-15	SK338	丸瓦	[9.0]	[11.2]	1.7	緻密、赤色砂粒を含む	やや軟	表：5YR6/6橙 裏：5YR6/4にぶい橙	表：縄目タタキ、工具ナデ 裏：コビキA、布目、吊り紐 痕	
61-1	SK275	土師器 坏	(13.0)	(8.7)	7.7	やや緻密、直径1~2 mmの砂粒を多く含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-2	SK275	土師器 坏	(12.7)	(7.5)	2.8	緻密、直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-3	SK275	土師器 坏	(13.5)	(8.8)	3.0	やや緻密、直径1~3 mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
61-4	SK275	土師器 坏	12.3	8.7	2.7	やや緻密、直径1~4mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-5	SK275	土師器 坏	12.4	9.0	2.3	緻密、直径4mm大の砂粒・雲母片をわずかに含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
61-6	SK275	土師器 坏	12.6	8.8	2.4	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-7	SK275	土師器 坏	12.6	9.2	2.4	緻密、直径1mm弱の砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
61-8	SK275	土師器 坏	(12.4)	(8.0)	2.6	やや緻密、直径3~5mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-9	SK275	土師器 坏	(12.4)	(9.0)	2.3	緻密、直径1~2mmの砂粒・黒色粒子・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-10	SK275	土師器 坏	(11.2)	(8.2)	1.9	緻密、直径2mm大の砂粒を少し含む	良好	5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-11	SK275	土師器 皿	7.6	6.1	1.0	緻密、直径1mm弱の砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
61-12	SK275	土師器 皿	7.6	5.9	1.1	緻密、直径1~3mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-13	SK275	土師器 皿	8.5	7.2	0.8	緻密、黒色粒子を少し含む	良好	7.5YR6/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
61-14	SK275	土師器 皿	(8.1)	(6.2)	1.1	緻密、直径1mm弱の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
61-15	SK275	瓦質土器 釜			[3.8]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：7.5Y5/1灰 内：7.5Y4/1灰	外：ナデ 内：ナデ	
62-1	SD290	土師器 坏	12.5	8.1	3.0	緻密、直径1mm弱の砂粒・雲母片を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
62-2	SD290	土師器 坏	12.8	8.9	2.9	緻密、直径1~2mmの砂粒・黒色粒子を多く含む、雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
62-3	SD290	土師器 坏	12.8	9.1	2.5	緻密、直径1~3mmの砂粒・雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
62-4	SD290	土師器 坏	12.8	9.2	2.7~3.0	やや緻密、直径1~2mmの砂粒・黒色粒子を多く含む、雲母片をわずかに含む	良好	5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
62-5	SD290	土師器 皿	(7.6)	(5.8)	1.0	緻密、直径1~2mmの砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
62-6	SD290	土師器 皿	8.1	6.3	1.1	緻密、直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
62-7	SD290	土師器 皿	8.1	6.1	1.1	緻密、直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	外：5YR8/3淡橙 内：5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
62-8	SD290	土師器 皿	(8.5)	(6.3)	1.2	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR6/3にぶい褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
62-9	SD290	土師器 皿	(7.8)	(6.4)	0.7	緻密、直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
62-10	SD290	土師器 皿	8.0	5.9	1.3	やや緻密、直径1~3mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
62-11	SD290	土師器 皿	8.3	6.5	1.0	やや緻密、直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ、糸切り 内：ナデ	糸切り底
62-12	SD290	土師器 皿	7.9	5.9	1.1	緻密、直径1~2mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
62-13	SD290	土師器 皿	8.1	6.0	1.1	緻密、直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
62-14	SD290	土錘	3.7	1.0	1.0	緻密	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	3.14 g
62-15	SD290	滑石製 石錘	4.2	2.6	2.0					30.36 g
71-1	SK364	青磁 碗		6.1	[4.1]	緻密	良好	5Y7/2灰白	外：施釉、露胎 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 I-1a類
71-2	SK370	土師器 高台付坏	-	(8.0)	[2.5]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：摩滅、ナデ 内：摩滅	
71-3	SD419	土師器 皿	(9.4)	(8.2)	1.0	やや緻密、直径1~5mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：摩滅	糸切り底

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
71-4	SK506	土師器 坏	(12.0)	(8.1)	2.5	緻密，直径2～3mmの 砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR8/3浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
71-5	SK506	土師器 皿	(7.6)	(5.6)	1.4	緻密	良好	7.5YR8/4浅黄橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
71-6	SK506	土師器 皿	(7.4)	(5.1)	1.6	緻密，直径1mm大の砂 粒を多く含む	良好	5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ，スス付着	糸切り底
71-7	SK506	土師器 皿	8.4	6.5	1.1	緻密，直径1mm大の砂 粒を少し含む	良好	外：7.5YR8/4浅黄橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
71-8	SP466	青磁 碗		(6.2)	[6.1]	緻密	良好	7.5Y6/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 IV類
71-9	SP409	青磁 碗		5.0	[1.8]	緻密	良好	5GY8/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 IV類
71-10	調査区一括	陶器 鉢			[7.5]	緻密	良好	10YR4/1褐灰	外：施釉 内：施釉	
71-11	調査区一括	陶器 黄釉鉄絵盤	(26.6)	(24.0)	8.65	やや粗い，直径1mm弱 の砂粒を含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：2.5Y7/2灰黄	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	陶器盤 I-2b類
71-12	調査区一括	土師器 坏	(12.1)	(8.0)	2.6	緻密，直径1～2mmの 砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
71-13	調査区一括	土師器 坏	(12.7)	(8.4)	3.0	緻密，直径1～2mmの 砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
71-14	調査区一括	土師器 皿	9.5	7.4	1.3	緻密，直径1mm大の砂 粒・黒色粒子・雲母片 を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
72-1	SK424	土師質 脚部	[7.4]	2.8	1.9	やや緻密	良好	5YR4/6赤褐	外：ナデ	
72-2	SK424	土錘	[2.8]	1.7	1.5	緻密	良好	7.5YR7/6橙，10YR7/6明黄褐	外：ナデ	5.79 g
72-3	SK424	土錘	[4.4]	1.1	1.1	緻密	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	5.43 g
72-4	SK424	土錘	[5.1]	1.7	1.4	緻密	良好	2.5YR6/8橙	外：ナデ	11.21 g
72-5	SK424	滑石製 石錘	[6.4]	4.15	2.0					68.75 g
72-6	SK425	土錘	3.6	0.8	0.8	緻密	良好	2.5YR6/6橙	外：ナデ	2.3 g
72-7	SK425	土錘	5.0	1.2	1.1	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ	8.7 g
72-8	SK429	青磁 碗	(15.8)		[4.7]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I-4類
72-9	SK429	青磁 碗		(5.4)	[4.2]	緻密	良好	5Y6/2灰オリーブ	外：施釉 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
72-10	SK429	陶器 黄釉盤			[5.1]	緻密，直径1～2mmの 砂粒を少し含む	良好	外：5YR5/2灰褐 内：2.5Y7/2灰黄	外：施釉 内：施釉	陶器小盤 I-2'類
72-11	SK429	須恵器 坏			[3.5]	緻密，直径1～3mmの 砂粒を含む	やや 不良	5Y6/1灰	外：ナデ，ケズリ 内：ナデ	TK209
72-12	SK429	瓦質土器 碗			[3.7]	緻密，直径1mm弱の砂 粒を含む	良好	外：2.5Y7/1灰白 内：2.5Y6/1黄灰	外：ナデ，ミガキ 内：ナデ	
72-13	SK429	土錘	[5.7]	1.5	1.6	緻密	良好	5YR6/6橙，7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ	12.31 g
72-14	SK429	土錘	[5.3]	1.3	1.1	緻密	良好	5YR6/3にぶい橙，2.5Y6/4にぶ い黄	外：ナデ	6.41 g
72-15	SK429	土錘	4.7	1.3	1.1	緻密	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ	7.89 g
72-16	SK429	土錘	[6.2]	1.8	1.7	緻密	良好	2.5YR6/8橙	外：ナデ	19.78 g
72-17	SK429	土錘	6.2	2.3	2.0	緻密	良好	2.5YR6/6橙	外：ナデ	22.62 g
72-18	SK429	土錘	[3.3]	2.1	1.5	緻密	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ	12.88 g
72-19	SK429	土錘	[2.8]	1.5	1.5	緻密	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	4.93 g
72-20	SK429	滑石製 石錘	[6.8]	3.3	1.4					48.42 g
72-21	SK429	滑石製 石製品	3.1	3.2	1.9					7.72 g
78-1	SK390	土師質 鍋			[5.7]	緻密，直径1～3mmの 白色粒子を含む	良好	外：5YR2/1黒褐 内：5YR6/6橙	外：ナデ，スス付着 内：ハケメ	

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
78-2	SK391	青磁皿	(10.3)	(4.3)	2.5	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	大宰府編年 龍泉窯系青磁皿 I-2b類
78-3	SK391	土鍾	[4.6]	1.8	1.7	緻密	良好	5YR6/6橙	外：ナデ	13.17g
78-4	SK393	陶器甕			[7.3]	緻密	良好	外：2.5Y5/2暗灰黄 内：10YR5/2灰黄褐	外：格子タタキ，ナデ，施釉 内：同心円タタキ，ナデ，施釉	
78-5	SK393	土師器 坏		6.0	[2.5]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	7.5YR7/2明褐灰	外：摩滅，糸切り，板状圧痕 内：摩滅	糸切り底
78-6	SI418	青磁皿	(10.2)	3.2	2.5	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁皿 I-2b類
78-7	SI418	土師器 坏		(6.8)	[1.5]	緻密，直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR5/2灰褐 内：7.5YR6/2灰褐	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
78-8	SI418	土鍾	4.5	1.1	1.1	緻密	良好	2.5YR5/8明赤褐	外：ナデ	3.72g
78-9	SK421a	土師質 播鉢		(14.6)	[5.6]	やや緻密，直径1～5mmの赤色粒子を含む	良好	5YR6/6橙	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ，摩滅，スリ溝	
78-10	SK452	青磁皿		(4.9)	[1.1]	緻密	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：5Y6/3オリーブ黄	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿 I-2類
78-11	SK452	土師器 坏	11.7	8.4	2.2	やや粗い，直径4～5mmの砂粒・黒色粒子を含む，雲母片を少し含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
78-12	SK489	白磁碗		4.0	1.2	緻密	良好	7.5GY8/1明緑灰	外：施釉，露胎 内：施釉	
78-13	SK489	白磁皿	(11.8)	(7.2)	2.9	緻密	良好	10GY8/1明緑灰	外：施釉，口禿 内：施釉	白磁皿 IX-1類
78-14	SK489	陶器 壺			[5.0]	緻密	良好	外：7.5YR3/3暗褐 内：5YR3/2暗赤褐	外：施釉 内：施釉	
78-15	SK489	陶器 黄釉盤			[1.4]	緻密，直径1～2mmの砂粒を少し含む	良好	外：5Y6/1灰 内：5Y7/3浅黄	外：露胎 内：施釉	陶器盤 I-1'a類
78-16	SK489	須恵質 捏鉢			[2.9]	緻密，直径1mm大の砂粒を含む	良好	10YR7/2にぶい黄橙	外：ナデ 内：ナデ	
78-17	SK489	滑石製 石鍋			[2.0]					
78-18	SK491	青磁碗		(4.0)	[2.1]	緻密	良好	7.5Y5/2灰オリーブ	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	龍泉窯系青磁碗 I-2類
78-19	SK491	陶器 黄釉盤			[3.6]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	2.5Y7/1灰白	外：露胎 内：施釉，露胎	
78-20	SK491	土師質 鍋			[6.0]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ，スス付着 内：ハケメ	
78-21	SK538	青磁皿	(10.2)	(5.2)	1.9	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉，露胎 内：施釉，施文	同安窯系青磁皿 I-2類
78-22	SK538	陶器 鉢		(10.6)	[3.0]	緻密，直径1mm大の砂粒を少し含む	良好	外：5YR3/3暗赤褐 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：施釉 内：施釉	
78-23	SK547	土師器 皿	8.1	6.1	1.5	緻密，直径2mm大の砂粒を少し含む	良好	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り 内：ナデ	糸切り底
78-24	SP558	土師器 坏	(11.2)	(7.4)	2.4	緻密，直径1mm大の砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/6橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
78-25	SP558	土師器 坏	(10.8)	(6.8)	2.5	緻密，直径1～3mmの砂粒・雲母片を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ，糸切り，板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
79-1	SK413	青磁碗		6.3	1.55	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉，露胎 内：施釉	
79-2	SK413	瓦質土器 湯釜	(13.4)		[4.1]	緻密，直径1mm弱の砂粒を含む	良好	2.5Y3/1黒褐	外：ナデ，施文 内：ナデ	格子文スタンプ
79-3	SK413	瓦質土器 湯釜	(13.5)		[5.8]	緻密，直径1～2mmの砂粒を含む	良好	外：10YR3/1黒褐 内：10YR4/2灰黄褐	外：ナデ，施文，ミガキ 内：ハケメ，ナデ	雷文・菱文
79-4	SK413	土鍾	[4.9]	1.8	1.6	緻密，直径1～2mmの砂粒を少し含む	良好	2.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ	12.13g
79-5	SK413	滑石製石鍋 転用品	3.8	3.9	2.6					49.72g
79-6	SK416	陶器 碗	(11.8)		[3.1]	緻密，白色粒子を含む	良好	外：5Y7/1灰白 内：5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉 内：施釉	雑釉陶器
79-7	SK416	瓦質土器 捏鉢			[4.6]	緻密，白色粒子を含む	良好	外：N6/灰 内：5Y7/1灰白	外：ナデ 内：ナデ	
79-8	SK417, 413	土師質 播鉢			[7.4]	やや緻密，直径1～8mmの砂粒を含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外：ハケメ，ナデ 内：ハケメ，摩滅，スリ溝	

Ⅲ HZK2101地点（正門前地点）

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
84-1	SK507	土師質 搦鉢		(16.0)	[7.8]	やや緻密、直径1~4mmの砂粒を含む	良好	7.5YR8/3浅黄橙	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、摩滅、スリ溝	
84-2	SK508	青磁碗			[2.7]	緻密	良好	2.5GY5/1オリーブ灰	外：施釉、露胎 内：施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 Ⅳ類
84-3	SK518	白磁皿	(13.8)	(7.0)	[2.5]	緻密	良好	2.5Y7/2灰黄	外：施釉、露胎 内：施釉	白磁皿 Ⅶ-1a類
84-4	SK518	陶器鉢		(7.8)	[4.9]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：7.5YR3/3暗褐 内：5YR2/2黒褐	外：施釉、露胎 内：施釉	
84-5	SK520	白磁碗		(6.4)	[2.5]	緻密	良好	外：5Y8/1灰白 内：2.5GY8/1灰白	外：露胎 内：施釉、露胎	白磁碗 Ⅶ類
84-6	SP444	土師質鍋			[7.4]	緻密、直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：7.5YR5/2灰褐 内：5YR4/1褐灰	外：ナデ、スス付着 内：ハケメ	
92-1	SK527	丸瓦	[12.6]	[6.3]	2.4	緻密	良好	表：N6/ 灰 裏：2.5Y5/1黄灰	表：縄目タタキ、工具ナデ 裏：布目、吊り紐痕	
92-2	SK528	青磁碗		5.9	[2.2]	緻密	良好	5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-2類
92-3	SK528	青磁碗			[4.3]	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外：施釉 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-2類
92-4	SK528	青磁碗		(6.4)	[2.9]	緻密	良好	2.5GY7/1明オリーブ灰	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-2類
92-5	SK528	青磁碗		(6.0)	[3.1]	緻密	良好	外：10Y6/2オリーブ灰 内：5Y6/2灰オリーブ	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅳ類
92-6	SK528	白磁壺			[5.4]	緻密	良好	外：7.5Y7/1灰白 内：10YR5/3にぶい黄褐	外：施釉 内：施釉	
92-7	SK528	陶器壺			[4.3]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：10R2/1赤黒 内：2.5YR4/2灰赤	外：施釉 内：施釉	
92-8	SK528	陶器天目碗		(3.5)	[1.1]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：N1.5/ 黒	外：露胎 内：施釉	
92-9	SK528	陶器黄釉鉄絵盤			[0.5]	やや緻密、直径1mm大の砂粒を多く含む	良好	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：2.5Y7/2灰黄	外：露胎 内：施釉、施文	
92-10	SK528	須恵器坏蓋			[1.4]	緻密、直径1mm大の砂粒を含む	良好	外：7.5Y5/1灰 内：N4/ 灰	外：ナデ 内：ナデ	
92-11	SK528	瓦質土器捏鉢			[8.1]	緻密、直径1~2mmの砂粒を含む	良好	外：N5/ 灰 内：5Y6/1灰	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	
92-12	SK528	瓦質土器捏鉢			[5.5]	緻密、直径1~3mmの砂粒を少し含む	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：2.5Y5/1黄灰	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	
92-13	SK543	陶器碗		4.8	[2.5]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	2.5GY5/1オリーブ灰	外：施釉、露胎 内：施釉、メアト	雑釉陶器
92-14	SK543	白磁皿		5.4	0.8	緻密	良好	10Y7/1灰白	外：施釉、露胎 内：施釉	
92-15	SK543	白磁皿	(14.0)		[2.4]	緻密	良好	7.5Y7/1灰白	外：施釉 内：施釉	白磁皿 Ⅶ類
92-16	SK543	瓦質土器捏鉢			[3.6]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：N4/ 灰 内：10YR7/1灰白	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	
92-17	SK543	瓦質土器搦鉢			[5.3]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：2.5Y7/1灰白 内：N4/ 灰	外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、スリ溝	
93-1	SK531	陶器耳壺			[4.9]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：5YR3/3暗赤褐 内：7.5YR4/2灰褐	外：施釉 内：施釉	
93-2	SK531	陶器鉢	(15.0)		[3.7]	やや緻密、直径1~2mmの砂粒を多く含む	良好	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：2.5Y7/3浅黄	外：施釉 内：施釉	陶器鉢 Ⅳ-1類
93-3	SK531, SP537	陶器鉢	(19.6)		[6.0]	緻密、直径2~3mmの砂粒を少し含む	良好	外：10R2/3極暗赤褐 内：10R2/2極暗赤褐	外：施釉 内：施釉	
93-4	SK531	陶器甕			[9.0]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：2.5Y4/1黄灰 内：2.5Y7/2灰黄	外：施釉 内：施釉	陶器甕 Ⅲ類
93-5	SK531	須恵器甕			[6.6]	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	外：N5/ 灰 内：N3/ 暗灰	外：ナデ 内：ナデ	
93-6	SK533	土師器皿			1.3	緻密、直径1mm弱の砂粒を含む	良好	10YR5/1褐灰	外：ナデ、糸切り、板状圧痕 内：ナデ	糸切り底
93-7	SK535	陶器甕	(49.8)		[6.0]	やや緻密、直径1~4mmの砂粒を含む	良好	2.5YR4/3にぶい赤褐	外：ナデ 内：ナデ	
93-8	SP539	陶器鉢	(16.8)		[4.2]	緻密、直径2mm大の砂粒を少し含む	良好	外：10YR2/1黒 内：10YR3/1黒褐	外：施釉 内：施釉	陶器鉢 Ⅳ-2類
93-9	SK540	青磁碗		(6.1)	[2.5]	緻密	良好	5Y6/3オリーブ黄	外：施釉、露胎 内：施釉、施文	龍泉窯系青磁碗 Ⅰ-2類
93-10	SK540	土鍾	[5.1]	3.1	2.9	緻密	良好	2.5YR5/6明赤褐	外：ナデ	50.94 g

図	遺構・層位	種類	口径	底部径	器高	胎土	焼成	色調	文様・調整	備考
93-11	SK542	土師器 皿	7.8	6.6	1.2	緻密, 黒色粒子を少し 含む	良好	7.5YR7/4にぶい橙	外: ナデ, 糸切り 内: ナデ	糸切り底
93-12	SP553	青磁 碗		6.4	[1.9]	緻密	良好	10Y5/2オリーブ灰	外: 施釉, 露胎 内: 施釉	大宰府編年 龍泉窯系青磁碗 I-1類
94-1	SK36	銅銭	2.3	2.3	0.08					熙寧元寶(北宋)
94-2	SK86	銅銭	[1.2]	2.5	0.08					〇〇〇寶
94-3	SK86	銅銭	[2.2]	[1.6]	0.08					
94-4	SK89	銅銭	1.9	1.9	0.08					無文
94-5	SE93	銅銭	2.4	2.4	0.1					政和通寶(北宋)
94-6	SK178	銅銭	2.3	2.3	0.1					元豐通寶(北宋)
94-7	SK178	銅銭	2.4	2.4	0.1					皇宋通寶(北宋)
94-8	SK178	銅銭	2.45	2.4	0.11					大觀通寶(北宋)
94-9	SK185	銅銭	[2.1]	2.45	0.1					元〇通寶
94-10	SP221	銅銭	2.5	2.5	0.1					祥〇元寶
94-11	SK226	銅銭	2.4	2.4	0.1					
94-12	SK228	銅銭	2.5	2.5	0.1					〇〇通寶
94-13	SK228	銅銭	2.5	2.5	0.1					至和元寶(北宋)
94-14	SK237・238	銅銭	2.3	2.3	0.1					熙寧元寶(北宋)
94-15	SK256・338	銅銭	2.4	2.4	0.1					至和元寶(北宋)
94-16	SK288	銅銭	2.4	2.5	0.15					正隆元寶(金)
94-17	SK437	銅銭	2.6	2.6	0.15					宣和通寶(北宋)
94-18	SK507	銅銭	2.4	2.4	0.1					嘉祐元寶(北宋)
94-19	遺構外	銅銭	2.4	2.4	0.1					咸平元寶(北宋)
94-20	遺構外	銅銭	[2.2]	2.3	0.08					開元通寶(唐)

## IV 分析と考察

# 箱崎遺跡 HZK1804・1903・2003・2006地点 出土木材の樹種同定

小林 克也 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

福岡県福岡市の箱崎遺跡から出土した木材の樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

### 2. 試料と方法

試料は、生材18点と炭化材16点の、合計34点である。生材の試料は、HZK1804地点のC区のSK14-Cから2点、HZK1903地点のB区のSE58から2点、SE59-1、SE59-2、SE64、SE66、SE67、SE75、SE76-1、SE76-2、SE77-1、SE77-2から各1点、HZK2003地点のD区のSE4015から4点である。炭化材の試料は、HZK2006地点のG区のSK13、SK19から各3点、HZK2006地点のA区北のSK41、SK42から各3点、HZK2006地点のA区のSK15から3点、SX01から1点である。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

発掘調査所見による遺構の時期はいずれも鎌倉時代と考えられているが、放射性炭素年代測定の結果、各試料は平安時代中期～室町時代におさまる暦年代を示した（詳細は放射性炭素年代測定の項を参照）。

生材の樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柁目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柁目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行った。

### 3. 結果

同定の結果、針葉樹ではスギ1分類群、広葉樹ではクスノキ科とサクラ属、コナラ属アカガシ亜属（以下、アカガシ亜属）、クマシデ属イヌシデ節（以下、イヌシデ節）、クスドイゲ、ヒサカキ属、サカキ、ツバキ属、コシアブラの9分類群の、計10分類群が確認された。また、試料の劣化が激しいため、放射断面しか採取できず、針葉樹までの同定に留めた試料が1点あった。同定結果を第1表に、一覧を第2表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don ヒノキ科 図版1 1a-1c (試料No.1)、2c (試料

第1表 箱崎遺跡出土木材の樹種同定結果

樹種	時期 器種	平安時代	平安時代	平安時代	平安時代中期	平安時代後期	鎌倉時代		室町時代		合計
		前期～中期	中期	中期～後期	～鎌倉時代	～鎌倉時代	井戸杵	炭化材	井戸杵	炭化材	
スギ		1	1	1	3	4	5	2	2		19
針葉樹				1							1
クスノキ科										1	1
サクラ属								1			1
コナラ属アカガシ亜属								1		1	2
クマシデ属イヌシデ節								1		2	3
クスドイゲ										1	1
ヒサカキ属								2			2
サカキ								1		1	2
ツバキ属								1			1
コシアブラ										1	1
合計		1	1	2	3	4	5	9	2	7	34

## No.25)

道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ2～15列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、1分野に普通2個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

## (2) 針葉樹 Coniferous-wood 図版1 3c (試料 No.4)

試料の劣化が著しく、放射断面しか採取できなかった。放射断面では、分野壁孔が溶解し、壁厚の形状を確認できなかった。

## (3) クスノキ科 Lauraceae 図版1 4a-4c (試料 No.29)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1～2列幅となる。木部繊維内には、油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する、主に常緑性の高木または低木である。

(4) サクラ属 (広義) *Prunus* s.l. バラ科 図版1 5a-5c (試料 No.23)

小型の道管が単独ないし数個、放射方向または斜め方向に複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、1～5列幅となる。

広義のサクラ属には、モモ属とスモモ属、アンズ属、サクラ属、ウワミズザクラ属、バクチノキ属がある。樹種同定では、モモ属とバクチノキ属以外は他のサクラ属と識別できないため、広義のサクラ属とはモモ属とバクチノキ属を除くサクラ属を指す。

(5) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 図版1 6a-6c (試料 No.28)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強靱で、耐水性があり、

切削加工は困難である。

(6) クマシテ属イヌシテ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 図版1・2 7a-7c (試料 No.24)

小型の道管が単独ないし2~7個放射方向に複合してやや疎らに散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1~4列幅のものと集合放射組織がみられる。

クマシテ属イヌシテ節は温帯から暖帯の山林などに分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬く、割裂しにくい。切削加工は中庸である。

(7) クスドイゲ *Xylosma congesta* (Lour.) Merr. ヤナギ科 図版2 8a-8c (試料 No.21)

小型の道管が単独ないし2~4個放射方向に複合する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内腔にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端5列以上が直立する異性で、幅1~3列となる。また、単列部と多列部は、同じ大きさになる。

クスドイゲは近畿以西の本州、四国、九州、琉球の海岸近くの林内に生育する、常緑低木の広葉樹である。現在では顕著な材利用は行われていない。

(8) ヒサカキ属 *Eurya* モッコク科 図版2 9a-9c (試料 No.22)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は40段以上の階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1~5列が直立する異性で、幅1~5列となる。

ヒサカキ属には、ヒサカキやハマヒサカキなどがあり、ヒサカキは岩手県、秋田県以南の本州、四国、九州などの温帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は強靱、堅硬であるが、サカキよりもやや劣る。

(9) サカキ *Cleyera japonica* Thunb. モッコク科 図版2 2a-2c (試料 No.19)

小型の道管がほぼ単独で、やや密に散在する散孔材である。道管は20~40段程度の階段穿孔となる。放射組織は上下端1~4列が直立する異性で、単列となる。

サカキは日本海側で新潟県、太平洋側で関東以西の本州、四国、九州などの温帯から亜熱帯に分布する常緑高木である。材は強靱、堅硬で、切削加工は困難である。

(10) ツバキ属 *Camellia* ツバキ科 図版2 11a-11c (試料 No.20)

角張った小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1~3列が直立する異性で、幅1~3列となる。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどがあり、ヤブツバキは本州、四国、九州の温帯に、サザンカは山口県以南の温帯南部から亜熱帯に分布する常緑小高木の広葉樹である。材は重硬で、切削加工は困難である。

(11) コシアブラ *Chengiopanax sciadophylloides* (Franch. et Sav.) C.B.Shang et J.Y.Huang ウコギ科 図版2 12a-12c (試料 No.32)

年輪のはじめに中型の道管が単独で断続的に並び、晩材部では小型の道管が単独ないし2~3個複合してやや密に散在する半環孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端1列が直立する異性で、ほぼ単列となる。

コシアブラは北海道、本州、四国、九州などの温帯から暖帯上部の肥沃な湿潤地に多く分布する、落葉高木の広葉樹である。材は軽軟で弱く、切削加工は容易である。

## 4. 考察

生材の試料18点はいずれも井戸杵である。井戸杵は、SE58の試料 No.4のみが針葉樹で、それ以外の17点はすべてスギであった。スギは木理通直で真っすぐに生育する、加工性の良い樹種である（伊東ほか 2011）。福岡県内で確認されている同じ時期の井戸杵には、スギを中心とした針葉樹も利用されているが、シイ属やクスノキ科などの広葉樹が多く利用されている（伊東・山田編 2012）。

炭化材は、鎌倉時代～室町時代の材ではスギとサクラ属、アカガシ亜属、イヌシデ節、ヒサカキ属、サカキ属、ツバキ属が、室町時代の材ではクスノキ科とアカガシ亜属、イヌシデ節、クスドイゲ、サカキ、コシアブラがみられた。用途はいずれも不明である。福岡県内で確認されている同じ時期の炭化材では、多様な広葉樹がみられ、サクラ属やアカガシ亜属、ヒサカキ属、ツバキ属なども確認されており、傾向は一致する。いずれも遺跡周辺に生育可能な樹種であり、遺跡周辺に生育していた樹木が伐採利用されていたと考えられる。

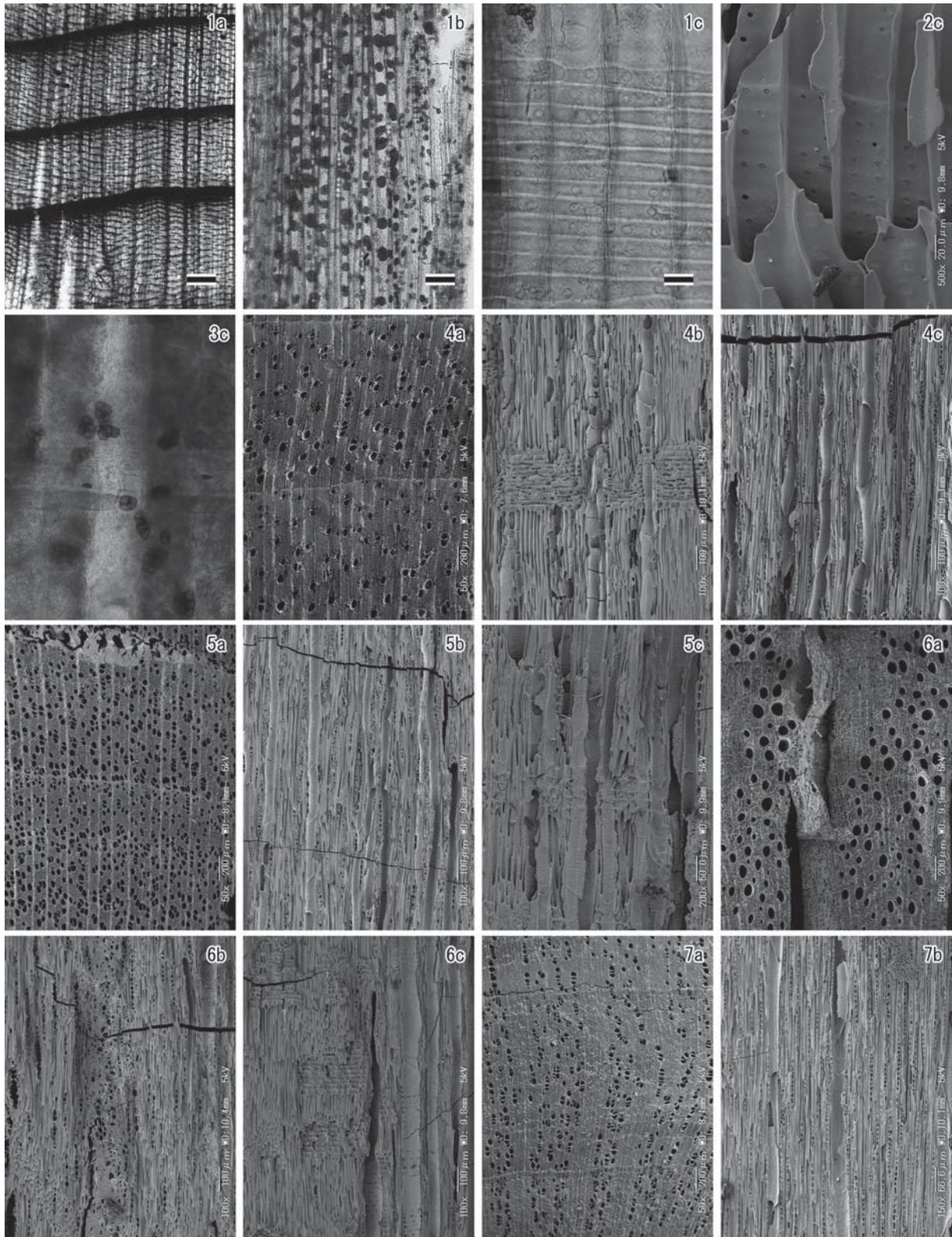
### 引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌. 238p, 海青社.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

第2表 箱崎遺跡出土木材の樹種同定結果一覧

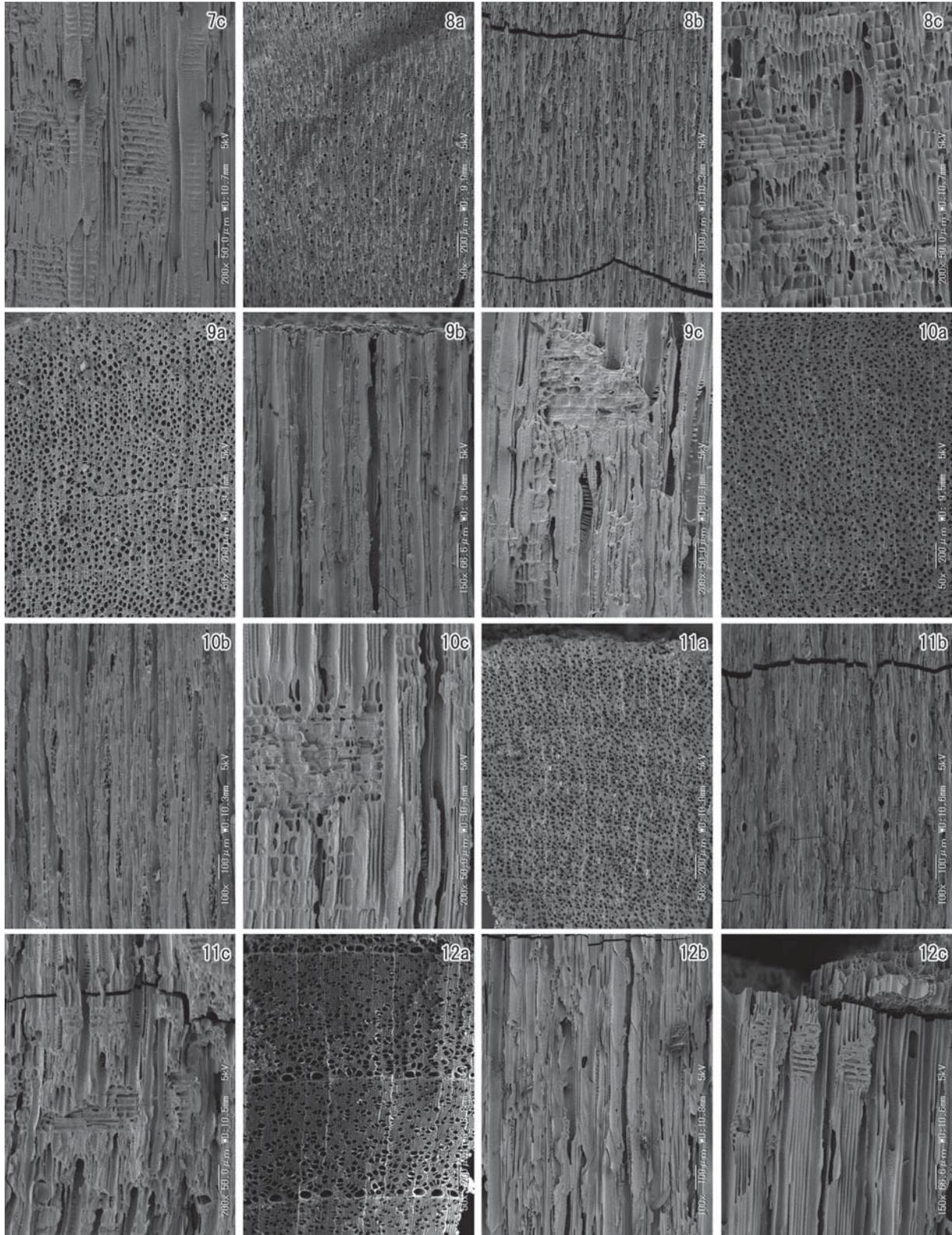
試料 No.	地区名	出土遺構	層位	遺物 No.	種類	器種	樹種	木取り	年代測定による時期	年代測定番号
1	HZK1804 C 区	SK14-C			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代中期～後期	PLD-43835
2	HZK1804 C 区	SK14-C			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代中期～鎌倉時代	PLD-43836
3	HZK1903 B 区	SE58			生材	井戸杵	スギ	割れ	鎌倉時代～室町時代	PLD-43837
4	HZK1903 B 区	SE58			生材	井戸杵	針葉樹	割れ	平安時代中期～後期	PLD-43838
5	HZK1903 B 区	SE59-1			生材	井戸杵	スギ	柱目	平安時代中期～鎌倉時代	PLD-43839
6	HZK1903 B 区	SE59-2			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代後期～鎌倉時代	PLD-43840
7	HZK1903 B 区	SE64			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代後期～鎌倉時代	PLD-43841
8	HZK1903 B 区	SE66			生材	井戸杵	スギ	板目	鎌倉時代～室町時代	PLD-43842
9	HZK1903 B 区	SE67	14層		生材	井戸杵	スギ	割れ	平安時代後期～鎌倉時代	PLD-43843
10	HZK1903 B 区	SE75			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代中期～鎌倉時代	PLD-43844
11	HZK1903 B 区	SE76-1			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代後期～鎌倉時代	PLD-43845
12	HZK1903 B 区	SE76-2			生材	井戸杵	スギ	板目	鎌倉時代～室町時代	PLD-43846
13	HZK1903 B 区	SE77-1			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代中期	PLD-43847
14	HZK1903 B 区	SE77-2			生材	井戸杵	スギ	板目	平安時代前期～中期	PLD-43848
15	HZK2003 D 区	SE4015		A-1	生材	井戸杵	スギ	追柱目	鎌倉時代～室町時代	PLD-43849
16	HZK2003 D 区	SE4015		A-2	生材	井戸杵	スギ	柱目	室町時代	PLD-43850
17	HZK2003 D 区	SE4015		a-1	生材	井戸杵	スギ	柱目	鎌倉時代～室町時代	PLD-43851
18	HZK2003 D 区	SE4015		a-2	生材	井戸杵	スギ	柱目	室町時代	PLD-43852
19	HZK2006 G 区	SK13		炭化物①	炭化材	炭化材	サカキ	芯持丸木	鎌倉時代～室町時代	PLD-43853
20	HZK2006 G 区	SK13		炭化物②	炭化材	炭化材	ツバキ属	芯持丸木	鎌倉時代～室町時代	PLD-43854
21	HZK2006 G 区	SK13		炭化物③	炭化材	炭化材	クスドイゲ	芯持丸木	室町時代	PLD-43855
22	HZK2006 G 区	SK19		炭化物①	炭化材	炭化材	ヒサカキ属	半割	鎌倉時代～室町時代	PLD-43856
23	HZK2006 G 区	SK19		炭化物②	炭化材	炭化材	サクラ属	みかん割	鎌倉時代～室町時代	PLD-43857
24	HZK2006 G 区	SK19		炭化物③	炭化材	炭化材	クマシデ属イヌシデ節	半割	鎌倉時代～室町時代	PLD-43858
25	HZK2006 A 区北	SK41		4	炭化材	炭化材	スギ	板目	鎌倉時代～室町時代	PLD-43859
26	HZK2006 A 区北	SK41		29	炭化材	炭化材	サカキ	半割	室町時代	PLD-43860
27	HZK2006 A 区北	SK41		107	炭化材	炭化材	スギ	板目	鎌倉時代～室町時代	PLD-43861
28	HZK2006 A 区北	SK42		14	炭化材	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	みかん割	鎌倉時代～室町時代	PLD-43862
29	HZK2006 A 区北	SK42		15	炭化材	炭化材	クスノキ科	みかん割	室町時代	PLD-43863
30	HZK2006 A 区北	SK42		18	炭化材	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	みかん割	室町時代	PLD-43864
31	HZK2006 A 区	SK15		3	炭化材	炭化材	クマシデ属イヌシデ節	みかん割	室町時代	PLD-43865
32	HZK2006 A 区	SK15		7	炭化材	炭化材	コシアブラ	みかん割	室町時代	PLD-43866
33	HZK2006 A 区	SK15		8	炭化材	炭化材	クマシデ属イヌシデ節	みかん割	室町時代	PLD-43867
34	HZK2006 A 区	SK01		50	炭化材	炭化材	ヒサカキ属	みかん割	鎌倉時代～室町時代	PLD-43868



図版1 箱崎遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. スギ (No.1)、2c. スギ (No.25)、3c. 針葉樹 (No.4)、4a-4c. クスノキ科 (No.29)、5a-5c. サクラ属 (No.23)、6a-6c. コナラ属アカガシ亜属 (No.28)、7a-7b. クマシデ属イヌシデ節 (No.24)

a: 横断面 (スケール=250 $\mu$ m)、b: 接線断面 (スケール=1000 $\mu$ m)、c: 放射断面 (スケール=25 $\mu$ m)



図版2 箱崎遺跡出土木材の走査型電子顕微鏡写真

7c. クマシデ属イヌシデ節 (No.24)、8a-8c. クスドイゲ (No.21)、9a-9c. ヒサカキ属 (No.22)、10a-10c. サカキ (No.19)、11a-11c. ツバキ属 (No.20)、12a-12c. コシアブラ (No.32)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

# 箱崎遺跡 HZK1804・1903・2003・2006地点出土木材の 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ  
伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹  
Zaur Lomtadze・小林克也

## 1. はじめに

福岡県福岡市の箱崎遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、生材および炭化材試料については樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

## 2. 試料と方法

試料は、HZK1804地点C区から生材2点、HZK1903地点B区から生材12点、HZK2003地点D区から生材4点、HZK2006地点G区から炭化材6点、HZK2006地点A区北から炭化材6点、HZK2006地点A区から炭化材4点と動物骨1点の、計35点である。

HZK1804地点C区の試料はいずれも井戸枠で、SK14-Cから2点（試料No.1、2：PLD-43835、43836）である。樹種は、いずれもスギである。

HZK1903地点B区の試料はいずれも井戸枠で、SE58から2点（試料No.3、4：PLD-43837、43838）、SE59-1とSE59-2から各1点（試料No.5、6：PLD-43839、43840）、SE64から1点（試料No.7：PLD-43841）、SE66から1点（試料No.8：PLD-43842）、SE67から1点（試料No.9：PLD-43843）、SE75から1点（試料No.10：PLD-43844）、SE76-1とSE76-2から各1点、（試料No.11、12：PLD-43845、43846）、SE77-1とSE77-2から各1点（試料No.13、14：PLD-43847、43848）である。樹種は、試料No.4が針葉樹で、それ以外はいずれもスギである。

HZK2003地点D区の試料はいずれも井戸枠で、SE4015から4点（試料No.15～18：PLD-43849～43852）である。樹種は、いずれもスギである。

HZK2006地点G区の試料はいずれも炭化材で、SK13から3点（試料No.19～21：PLD-43853～43855）、SK19の3点（試料No.22～24：PLD-43856～43858）である。樹種は、試料No.19がサカキ、試料No.20がツバキ属、試料No.21がクスドイゲ、試料No.22がヒサカキ属、試料No.23がサクラ属、試料No.24がクマシデ属イヌシデ節である。

HZK2006地点A区北の試料はいずれも炭化材で、SK41から3点（試料No.25～27：PLD-43859～43861）、SK42の3点（試料No.28～30：PLD-43862～43864）である。樹種は、試料No.25と27がスギ、試料No.26がサカキ、試料No.28と30がコナラ属アカガシ亜属、試料No.29がクスノキ科である。

HZK2006地点A区の試料は炭化材4点と動物骨1点で、SK15から炭化材3点（試料No.31～33：PLD-43865～43867）、SX01から炭化材1点（試料No.34：PLD-43868）と動物骨1点（試料No.35：PLD-43869）である。樹種は、試料No.31と33がクマシデ属イヌシデ節、試料No.32がコシアブラ、試料No.34がヒサカキ属である。また、動物骨はウマの肋骨である。

発掘調査所見では、いずれの試料も鎌倉時代頃と考えられている。また、木材試料について、試料

No.19～24、26、28、29、31～34には最終形成年輪が残っていたが、それ以外の試料には最終形成年輪が残っていなかった。測定試料の情報、調製データは第3表～第5表のとおりである。

試料は調製後、精製ラインによるCO<sub>2</sub>ガス精製後、水素還元によるグラファイト化およびセメンタイト化を行った。その後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

### 3. 結果

第6表～第8表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代を、第1図と第2図に測定結果のマルチプロット図を、第3図～第7図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代（yrBP）の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5730 $\pm$ 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20、暦年較正結果が1950年以降にのびる試料についてはPost-bomb atmospheric NH2）を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

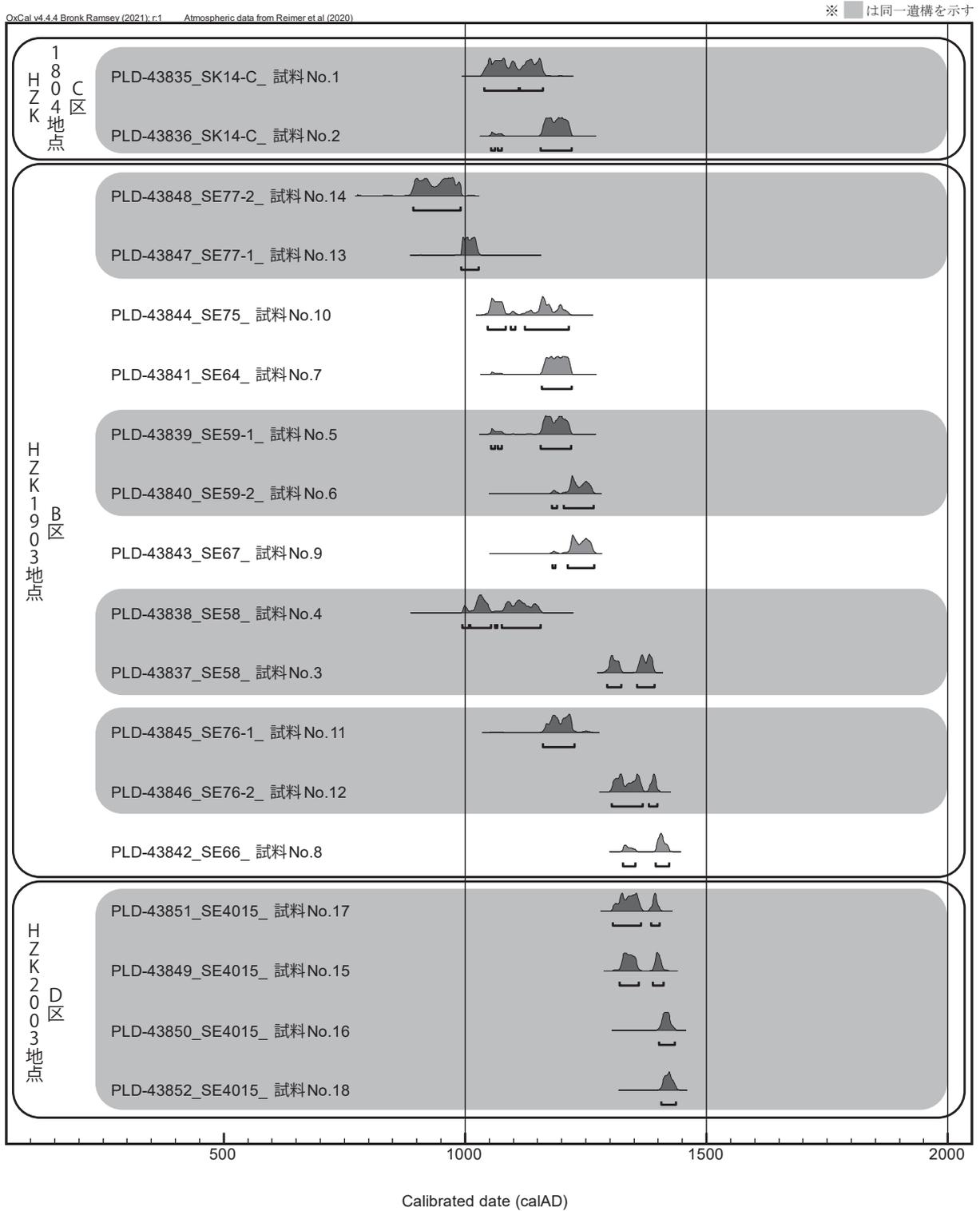
### 4. 考察

以下、 $2\sigma$ 暦年代範囲（確率95.45%）に着目して、調査区別に、遺構ごとに、暦年代の古い順に結果を整理する。

#### (1) HZK1804地点C区

SK14-Cの試料No.1（PLD-43835）は、1039-1111 cal AD（56.64%）および1112-1161 cal AD（38.81%）で、11世紀前半～12世紀後半の暦年代を示した。これは、平安時代中期～後期に相当する。また試料No.2（PLD-43836）は1053-1061 cal AD（2.34%）、1067-1075 cal AD（1.37%）、1156-1220 cal AD（91.74%）で、11世紀中頃～13世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代中期～鎌倉時代に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回のSK14-C



第1図 マルチプロット図(1)

の試料2点はいずれも最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられ、実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果よりも新しい時期であると考えられる。

## (2) HZK1903地点 B 区

SE77-2の試料 No.14 (PLD-43848) は、892-991 cal AD (95.45%) で、9世紀末～10世紀末の暦年代を示した。これは、平安時代前期～中期に相当する。また、SE77-1の試料 No.13 (PLD-43847) は、992-1027 cal AD (95.45%) で、10世紀末～11世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代中期に相当する。試料はいずれも最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられ、木が枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりも新しい時期であったと考えられる。

SE75の試料 No.10 (PLD-43844) は、1046-1084 cal AD (39.00%)、1094-1103 cal AD (2.41%)、1124-1215 cal AD (54.04%) で、11世紀中頃～13世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代中期～鎌倉時代に相当する。なお、試料は最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

SE64の試料 No.7 (PLD-43841) は、1158-1220 cal AD (95.45%) で、12世紀中頃～13世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代後期～鎌倉時代に相当する。なお、試料は最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

SE59-1の試料 No.5 (PLD-43839) は、1053-1061 cal AD (3.45%)、1067-1075 cal AD (2.35%)、1156-1219 cal AD (89.65%) で、11世紀中頃～後半および12世紀中頃～13世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代中期～鎌倉時代に相当する。また、SE59-2の試料 No.6 (PLD-43840) は、1179-1191 cal AD (5.06%) および1204-1266 cal AD (90.39%) で、12世紀後半～13世紀後半の暦年代を示した。これは、平安時代後期～鎌倉時代に相当する。なお、試料はいずれも最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

SE67の試料 No.9 (PLD-43843) は、1181-1187 cal AD (1.63%) および1213-1268 cal AD (93.82%) で、12世紀後半～13世紀後半の暦年代を示した。これは、平安時代後期～鎌倉時代に相当する。なお、試料は最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

SE58の試料 No.4 (PLD-43838) は、994-1007 cal AD (5.40%)、1011-1053 cal AD (34.26%)、1062-1066 cal AD (0.67%)、1076-1156 cal AD (55.12%) で、10世紀末～12世紀中頃の暦年代を示した。これは、平安時代中期～後期に相当する。また試料 No.3 (PLD-43837) は、1294-1323 cal AD (39.12%) および1356-1392 cal AD (56.33%) で、13世紀末～14世紀末の暦年代を示した。これは、鎌倉時代～室町時代に相当する。試料はいずれも最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

SE76-1の試料 No.11 (PLD-43845) は、1161-1226 cal AD (95.45%) で、12世紀後半～13世紀前半の暦年代を示した。これは、平安時代後期～鎌倉時代に相当する。また、SE76-2の試料 No.12 (PLD-43846) は、1303-1367 cal AD (75.61%) および1381-1398 cal AD (19.84%) で、14世紀代の暦年代を示した。これは、鎌倉時代～室町時代に相当する。試料はいずれも最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

SE66の試料 No.8 (PLD-43842) は、1326-1352 cal AD (25.95%) および1394-1422 cal AD (69.50%) で、14世紀前半～15世紀前半の暦年代を示した。これは、鎌倉時代～室町時代に相当する。なお、試料は最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

## (3) HZK2003地点 D 区

SE4015の試料 No.17 (PLD-43851) は、1306-1364 cal AD (76.52%) および1385-1402 cal AD (18.93%)

で、14世紀初頭～15世紀初頭の暦年代を示した。また、試料 No.15 (PLD-43849) は、1319-1360 cal AD (65.35%) および1389-1411 cal AD (30.10%) で、14世紀前半～15世紀前半の暦年代を示した。この2点の暦年代は、鎌倉時代～室町時代に相当する。さらに、試料 No.16 (PLD-43850) は、1401-1434 cal AD (95.45%)、試料 No.18 (PLD-43852) は1406-1437 cal AD (95.45%) で、15世紀初頭～前半の暦年代を示した。この2点の暦年代は、室町時代に相当する。

なお、これらの試料はいずれも最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

#### (4) HZK2006地点 G 区

SK19の試料 No.22 (PLD-43856) は、1306-1364 cal AD (76.58%) および1385-1402 cal AD (18.87%) で、14世紀初頭～15世紀初頭の暦年代を示した。また、試料 No.24 (PLD-43858) は1318-1360 cal AD (66.95%) および1388-1410 cal AD (28.50%)、試料 No.23 (PLD-43857) は1324-1355 cal AD (46.52%) および1393-1420 cal AD (48.93%) で、14世紀前半～15世紀前半の暦年代を示した。3試料とも、鎌倉時代～室町時代に相当する。

SK13の試料 No.19 (PLD-43853) は1321-1358 cal AD (61.55%) および1390-1412 cal AD (33.90%)、試料 No.20 (PLD-43854) は1329-1335 cal AD (2.28%) および1396-1432 cal AD (93.17%) で、14世紀前半～15世紀前半の暦年代を示した。これらは、鎌倉時代～室町時代に相当する。また、試料 No.21 (PLD-43855) は1409-1441 cal AD (95.45%) で、15世紀初頭～前半の暦年代を示した。これは、室町時代に相当する。

なお、HZK2006地点 G 区の試料6点は、いずれも最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。

#### (5) HZK2006地点 A 区北

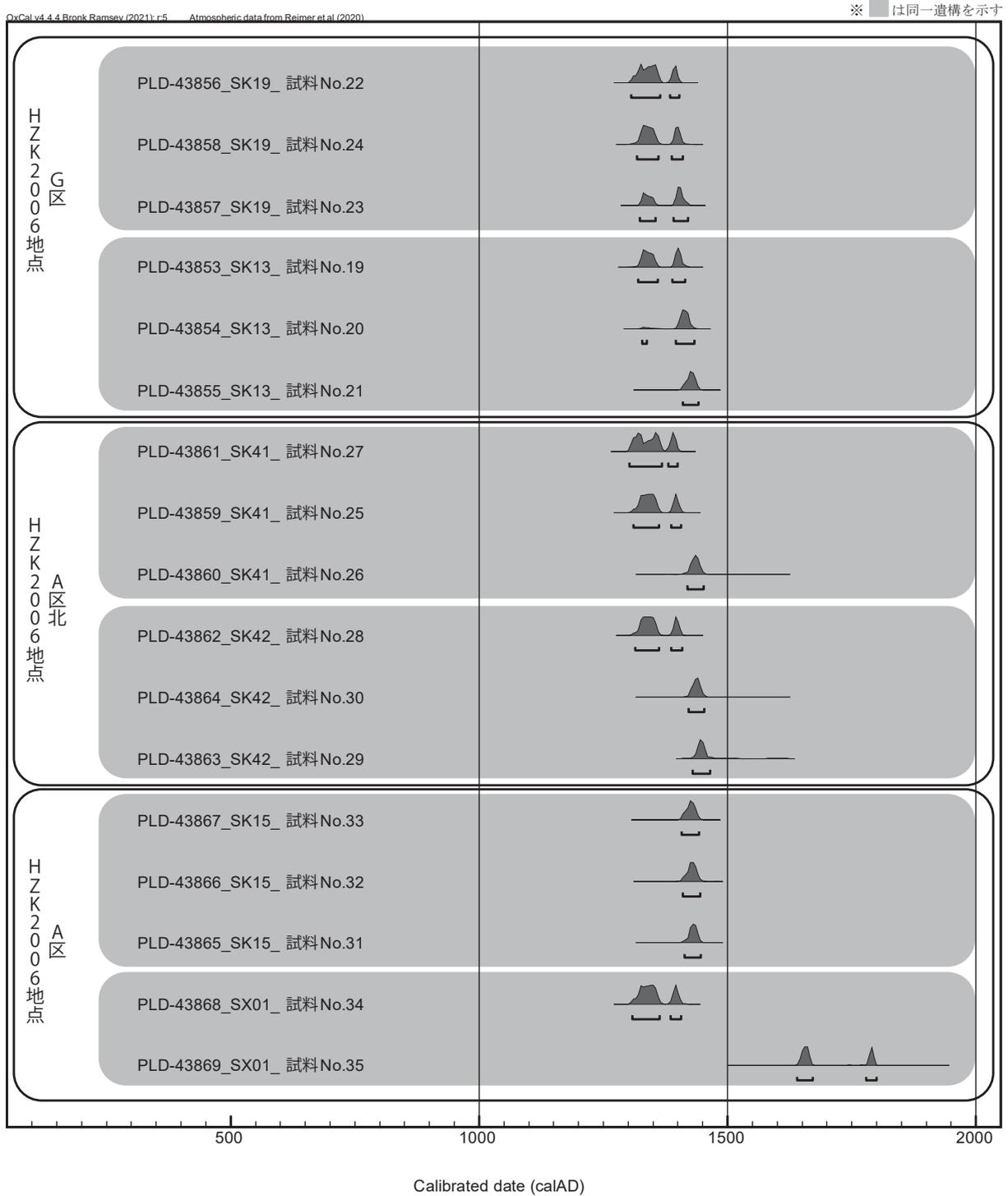
SK41の試料 No.27 (PLD-43861) は、1303-1367 cal AD (75.59%) および1381-1398 cal AD (19.86%) で、14世紀代の暦年代を示した。また、試料 No.25 (PLD-43859) は、1308-1362 cal AD (73.80%) および1387-1406 cal AD (21.65%) で、14世紀初頭～15世紀初頭の暦年代を示した。これらは、鎌倉時代～室町時代に相当する。さらに、試料 No.26 (PLD-43860) は、1419-1452 cal AD (95.45%) で、15世紀前半～中頃の暦年代を示した。これは、室町時代に相当する。

SK42の試料 No.28 (PLD-43862) は、1310-1361 cal AD (71.86%) および1388-1407 cal AD (23.59%) で、14世紀前半～15世紀初頭の暦年代を示した。これは、鎌倉時代～室町時代に相当する。また、試料 No.30 (PLD-43864) は、1422-1452 cal AD (95.45%) で、15世紀前半～中頃の暦年代を示した。さらに、試料 No.29 (PLD-43863) は、1428-1460 cal AD (93.97%) および1464-1468 cal AD (1.48%) で、15世紀前半～後半の暦年代を示した。この2点の暦年代は、室町時代に相当する。

なお、SK41の試料 No.26と SK42の試料 No.28、29は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示すが、SK41の試料 No.25と SK42の試料 No.27、30は最終形成年輪が残っておらず、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

#### (6) HZK2006地点 A 区

SK15の試料 No.33 (PLD-43867) は1408-1442 cal AD (95.45%) で、15世紀初頭～前半の暦年代を示した。また、試料 No.32 (PLD-43866) は1410-1443 cal AD (95.45%)、試料 No.31 (PLD-43865)



第2図 マルチプロット図 (2)

は1413-1445 cal AD (95.45%) で、15世紀前半～中頃の暦年代を示した。3 試料とも、室町時代に相当する暦年代である。

SX01の試料 No.34 (PLD-43868) は、1307-1363 cal AD (74.17%) および1386-1406 cal AD (21.28%) で、14世紀初頭～15世紀初頭の暦年代を示した。これは、鎌倉時代～室町時代に相当する。また、試料 No.35 (PLD-43869) は、1640-1670 cal AD (59.57%)、1780-1797 cal AD (33.08%)、1944-1951 cal

AD (2.71%)、1953-1953 cal AD (0.10%) で、17世紀前半～後半、18世紀後半～末、20世紀中頃の暦年代を示した。これは、江戸時代前期、江戸時代後期、昭和時代に相当する。なお、SK15の試料 No.31～33と SX01の試料 No.34は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。

SX01では、試料 No.35の動物骨と、試料 No.34の炭化材で、年代に差がみられた。SX01は近世以降の遺構で、遺構内に鎌倉時代～室町時代の炭化材が再堆積した可能性や、SX01は中世の遺構で、近世以降の動物骨が混入した可能性などが考えられる。

#### 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
- Hua, Q., Barbetti, M. Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010. *Radiocarbon*, 55 (4), 1-14.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- 大森貴之・山崎孔平・椛澤貴行・板橋 悠・尾寄大真・米田 稔 (2017) 微量試料の高精度放射性炭素年代測定. 第20回 AMS シンポジウム, 55.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62 (4), 725-757. doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

第3表 測定試料および処理(1)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-43835	試料 No.1 調査区：HZK1804 C 区 遺構：SK14-C	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43836	試料 No.2 調査区：HZK1804 C 区 遺構：SK14-C	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43837	試料 No.3 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE58	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43838	試料 No.4 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE58	種類：生材（針葉樹） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） セメントタイト化
PLD-43839	試料 No.5 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE59-1	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43840	試料 No.6 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE59-2	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43841	試料 No.7 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE64	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43842	試料 No.8 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE66	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43843	試料 No.9 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE67 層位：14層	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43844	試料 No.10 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE75	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43845	試料 No.11 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE76-1	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43846	試料 No.12 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE76-2	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43847	試料 No.13 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE77-1	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43848	試料 No.14 調査区：HZK1903 B 区 遺構：SE77-2	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43849	試料 No.15 調査区：HZK2003 D 区 遺構：SE4015 遺物 No.A-1	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化

第4表 測定試料および処理(2)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-43850	試料 No.16 調査区：HZK2003 D 区 遺構：SE4015 遺物 No.A-2	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43851	試料 No.17 調査区：HZK2003 D 区 遺構：SE4015 遺物 No.a-1	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43852	試料 No.18 調査区：HZK2003 D 区 遺構：SE4015 遺物 No.a-2	種類：生材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 器種：井戸杵 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43853	試料 No.19 調査区：HZK2006 G 区 遺構：SK13 遺物 No.炭化物①	種類：炭化材（サカキ） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43854	試料 No.20 調査区：HZK2006 G 区 遺構：SK13 遺物 No.炭化物②	種類：炭化材（ツバキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43855	試料 No.21 調査区：HZK2006 G 区 遺構：SK13 遺物 No.炭化物③	種類：炭化材（クスドイゲ） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43856	試料 No.22 調査区：HZK2006 G 区 遺構：SK19 遺物 No.炭化物①	種類：炭化材（ヒサカキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43857	試料 No.23 調査区：HZK2006 G 区 遺構：SK19 遺物 No.炭化物②	種類：炭化材（サクラ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43858	試料 No.24 調査区：HZK2006 G 区 遺構：SK19 遺物 No.炭化物③	種類：炭化材（クマシデ属イヌシデ節） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43859	試料 No.25 調査区：HZK2006 A 区北 遺構：SK41 遺物 No.4	種類：炭化材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43860	試料 No.26 調査区：HZK2006 A 区北 遺構：SK41 遺物 No.29	種類：炭化材（サカキ） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43861	試料 No.27 調査区：HZK2006 A 区北 遺構：SK41 遺物 No.107	種類：炭化材（スギ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43862	試料 No.28 調査区：HZK2006 A 区北 遺構：SK42 遺物 No.14	種類：炭化材（コナラ属アカガシ亜属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43863	試料 No.29 調査区：HZK2006 A 区北 遺構：SK42 遺物 No.15	種類：炭化材（クスノキ科） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43864	試料 No.30 調査区：HZK2006 A 区北 遺構：SK42 遺物 No.18	種類：炭化材（コナラ属アカガシ亜属） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化

第5表 測定試料および処理 (3)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-43865	試料 No.31 調査区：HZK2006 A 区 遺構：SK15 遺物 No.3	種類：炭化材（クマシデ属イヌシデ節） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43866	試料 No.32 調査区：HZK2006 A 区 遺構：SK15 遺物 No.7	種類：炭化材（コシアブラ） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43867	試料 No.33 調査区：HZK2006 A 区 遺構：SK15 遺物 No.8	種類：炭化材（クマシデ属イヌシデ節） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43868	試料 No.34 調査区：HZK2006 A 区 遺構：SX01 遺物 No.50	種類：炭化材（ヒサカキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L） グラファイト化
PLD-43869	試料 No.35 調査区：HZK2006 A 区 遺構：SX01 遺物 No.22	種類：動物骨（ウマ） 部位：肋骨 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン コラーゲン抽出 グラファイト化

第6表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (1)

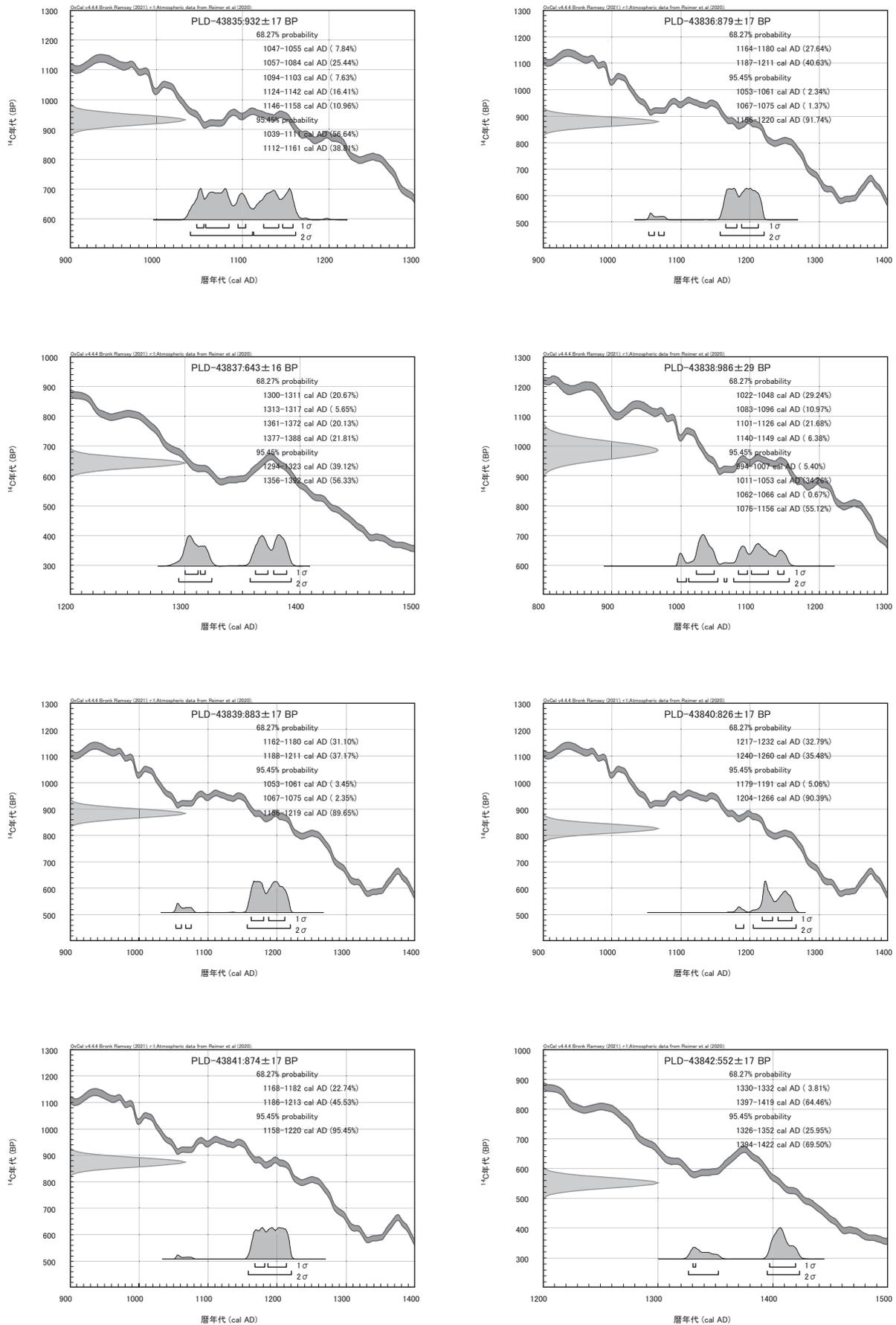
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-43835 SK14-C 試料 No.1	-26.06 $\pm$ 0.12	932 $\pm$ 17	930 $\pm$ 15	1047-1055 cal AD (7.84%) 1057-1084 cal AD (25.44%) 1094-1103 cal AD (7.63%) 1124-1142 cal AD (16.41%) 1146-1158 cal AD (10.96%)	1039-1111 cal AD (56.64%) 1112-1161 cal AD (38.81%)
PLD-43836 SK14-C 試料 No.2	-25.11 $\pm$ 0.11	879 $\pm$ 17	880 $\pm$ 15	1164-1180 cal AD (27.64%) 1187-1211 cal AD (40.63%)	1053-1061 cal AD (2.34%) 1067-1075 cal AD (1.37%) 1156-1220 cal AD (91.74%)
PLD-43837 SE58 試料 No.3	-24.91 $\pm$ 0.10	643 $\pm$ 16	645 $\pm$ 15	1300-1311 cal AD (20.67%) 1313-1317 cal AD (5.65%) 1361-1372 cal AD (20.13%) 1377-1388 cal AD (21.81%)	1294-1323 cal AD (39.12%) 1356-1392 cal AD (56.33%)
PLD-43838 SE58 試料 No.4	-28.27 $\pm$ 0.21	986 $\pm$ 29	985 $\pm$ 30	1022-1048 cal AD (29.24%) 1083-1096 cal AD (10.97%) 1101-1126 cal AD (21.68%) 1140-1149 cal AD (6.38%)	994-1007 cal AD (5.40%) 1011-1053 cal AD (34.26%) 1062-1066 cal AD (0.67%) 1076-1156 cal AD (55.12%)
PLD-43839 SE59-1 試料 No.5	-25.91 $\pm$ 0.11	883 $\pm$ 17	885 $\pm$ 15	1162-1180 cal AD (31.10%) 1188-1211 cal AD (37.17%)	1053-1061 cal AD (3.45%) 1067-1075 cal AD (2.35%) 1156-1219 cal AD (89.65%)
PLD-43840 SE59-2 試料 No.6	-24.81 $\pm$ 0.11	826 $\pm$ 17	825 $\pm$ 15	1217-1232 cal AD (32.79%) 1240-1260 cal AD (35.48%)	1179-1191 cal AD (5.06%) 1204-1266 cal AD (90.39%)
PLD-43841 SE64 試料 No.7	-24.11 $\pm$ 0.11	874 $\pm$ 17	875 $\pm$ 15	1168-1182 cal AD (22.74%) 1186-1213 cal AD (45.53%)	1158-1220 cal AD (95.45%)
PLD-43842 SE66 試料 No.8	-25.69 $\pm$ 0.12	552 $\pm$ 17	550 $\pm$ 15	1330-1332 cal AD (3.81%) 1397-1419 cal AD (64.46%)	1326-1352 cal AD (25.95%) 1394-1422 cal AD (69.50%)
PLD-43843 SE67 試料 No.9	-27.15 $\pm$ 0.12	821 $\pm$ 17	820 $\pm$ 15	1219-1232 cal AD (28.90%) 1240-1260 cal AD (39.37%)	1181-1187 cal AD (1.63%) 1213-1268 cal AD (93.82%)
PLD-43844 SE75 試料 No.10	-26.26 $\pm$ 0.12	905 $\pm$ 18	905 $\pm$ 20	1051-1080 cal AD (35.74%) 1154-1177 cal AD (26.50%) 1194-1201 cal AD (6.03%)	1046-1084 cal AD (39.00%) 1094-1103 cal AD (2.41%) 1124-1215 cal AD (54.04%)
PLD-43845 SE76-1 試料 No.11	-27.15 $\pm$ 0.13	857 $\pm$ 18	855 $\pm$ 20	1177-1193 cal AD (31.21%) 1201-1220 cal AD (37.05%)	1161-1226 cal AD (95.45%)
PLD-43846 SE76-2 試料 No.12	-26.21 $\pm$ 0.17	610 $\pm$ 17	610 $\pm$ 15	1307-1327 cal AD (30.14%) 1346-1363 cal AD (24.09%) 1386-1395 cal AD (14.04%)	1303-1367 cal AD (75.61%) 1381-1398 cal AD (19.84%)
PLD-43847 SE77-1 試料 No.13	-25.11 $\pm$ 0.12	1039 $\pm$ 18	1040 $\pm$ 20	994-998 cal AD (10.23%) 999-1008 cal AD (24.60%) 1010-1022 cal AD (33.43%)	992-1027 cal AD (95.45%)
PLD-43848 SE77-2 試料 No.14	-27.20 $\pm$ 0.19	1113 $\pm$ 18	1115 $\pm$ 20	895-925 cal AD (34.10%) 949-978 cal AD (34.17%)	892-991 cal AD (95.45%)

第7表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-43849 SE4015 試料 No.15	-25.43 $\pm$ 0.13	576 $\pm$ 18	575 $\pm$ 20	1326-1351 cal AD (50.52%) 1395-1403 cal AD (17.75%)	1319-1360 cal AD (65.35%) 1389-1411 cal AD (30.10%)
PLD-43850 SE4015 試料 No.16	-23.77 $\pm$ 0.19	524 $\pm$ 18	525 $\pm$ 20	1408-1424 cal AD (68.27%)	1401-1434 cal AD (95.45%)
PLD-43851 SE4015 試料 No.17	-24.51 $\pm$ 0.13	599 $\pm$ 17	600 $\pm$ 15	1320-1330 cal AD (15.36%) 1333-1359 cal AD (41.48%) 1390-1397 cal AD (11.43%)	1306-1364 cal AD (76.52%) 1385-1402 cal AD (18.93%)
PLD-43852 SE4015 試料 No.18	-25.26 $\pm$ 0.11	512 $\pm$ 18	510 $\pm$ 20	1410-1428 cal AD (68.27%)	1406-1437 cal AD (95.45%)
PLD-43853 SK13 試料 No.19	-27.59 $\pm$ 0.11	572 $\pm$ 18	570 $\pm$ 20	1327-1348 cal AD (44.25%) 1395-1405 cal AD (24.02%)	1321-1358 cal AD (61.55%) 1390-1412 cal AD (33.90%)
PLD-43854 SK13 試料 No.20	-26.66 $\pm$ 0.14	534 $\pm$ 18	535 $\pm$ 20	1405-1422 cal AD (68.27%)	1329-1335 cal AD ( 2.28%) 1396-1432 cal AD (93.17%)
PLD-43855 SK13 試料 No.21	-25.89 $\pm$ 0.12	499 $\pm$ 18	500 $\pm$ 20	1419-1436 cal AD (68.27%)	1409-1441 cal AD (95.45%)
PLD-43856 SK19 試料 No.22	-23.63 $\pm$ 0.20	598 $\pm$ 17	600 $\pm$ 15	1321-1330 cal AD (15.06%) 1332-1358 cal AD (42.17%) 1390-1397 cal AD (11.04%)	1306-1364 cal AD (76.58%) 1385-1402 cal AD (18.87%)
PLD-43857 SK19 試料 No.23	-27.29 $\pm$ 0.12	562 $\pm$ 18	560 $\pm$ 20	1327-1345 cal AD (30.92%) 1395-1409 cal AD (37.35%)	1324-1355 cal AD (46.52%) 1393-1420 cal AD (48.93%)
PLD-43858 SK19 試料 No.24	-25.32 $\pm$ 0.14	578 $\pm$ 18	580 $\pm$ 20	1326-1352 cal AD (52.84%) 1394-1402 cal AD (15.43%)	1318-1360 cal AD (66.95%) 1388-1410 cal AD (28.50%)
PLD-43859 SK41 試料 No.25	-24.50 $\pm$ 0.11	589 $\pm$ 18	590 $\pm$ 20	1324-1355 cal AD (58.51%) 1392-1398 cal AD ( 9.76%)	1308-1362 cal AD (73.80%) 1387-1406 cal AD (21.65%)
PLD-43860 SK41 試料 No.26	-24.81 $\pm$ 0.20	475 $\pm$ 20	475 $\pm$ 20	1427-1443 cal AD (68.27%)	1419-1452 cal AD (95.45%)
PLD-43861 SK41 試料 No.27	-24.21 $\pm$ 0.14	609 $\pm$ 18	610 $\pm$ 20	1307-1327 cal AD (29.23%) 1345-1363 cal AD (25.34%) 1386-1395 cal AD (13.70%)	1303-1367 cal AD (75.59%) 1381-1398 cal AD (19.86%)
PLD-43862 SK42 試料 No.28	-26.26 $\pm$ 0.12	585 $\pm$ 18	585 $\pm$ 20	1325-1354 cal AD (57.71%) 1393-1399 cal AD (10.56%)	1310-1361 cal AD (71.86%) 1388-1407 cal AD (23.59%)

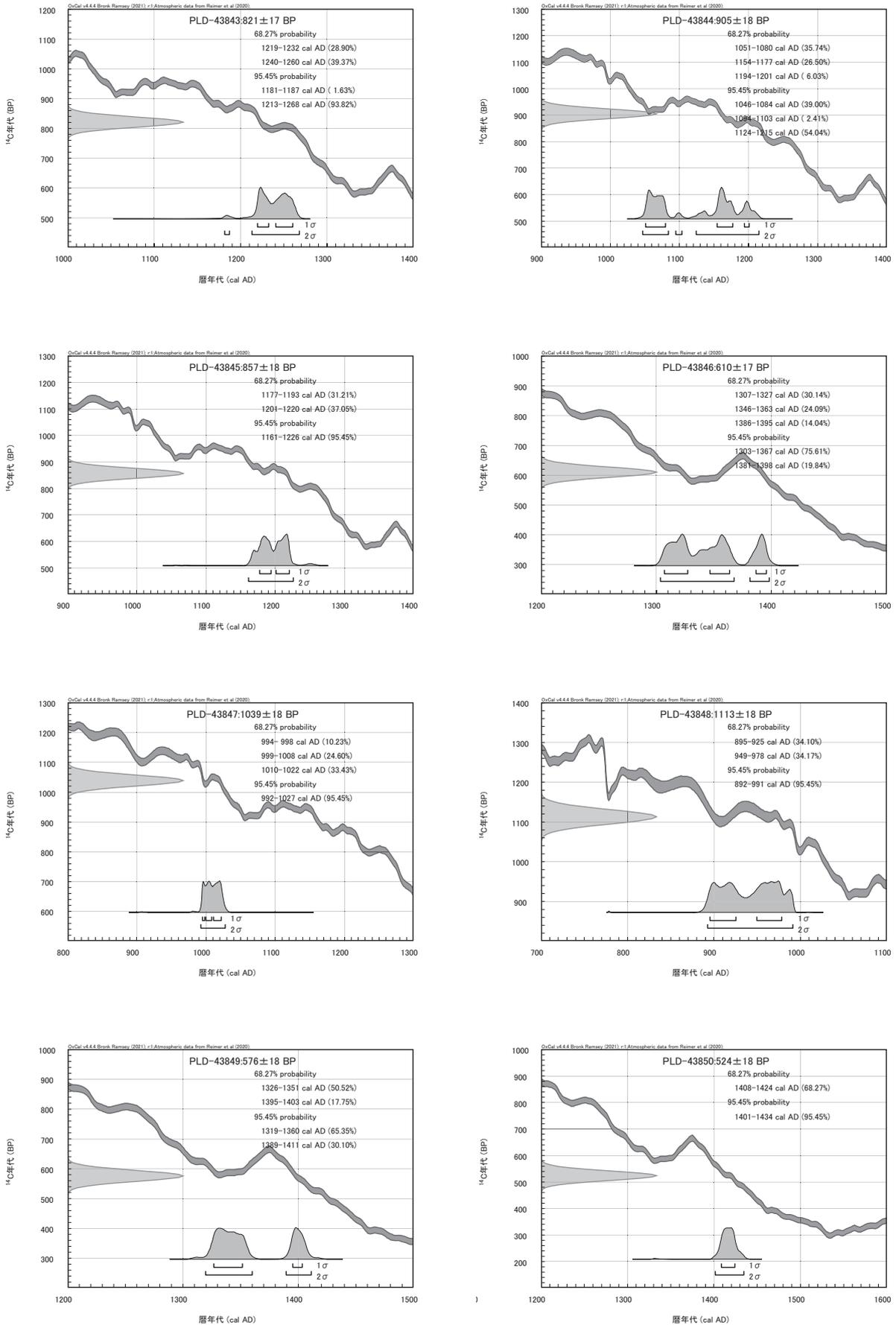
第8表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (3)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-43863 SK42 試料 No.29	-26.02 $\pm$ 0.12	442 $\pm$ 18	440 $\pm$ 20	1440-1454 cal AD (68.27%)	1428-1460 cal AD (93.97%) 1464-1468 cal AD ( 1.48%)
PLD-43864 SK42 試料 No.30	-28.04 $\pm$ 0.18	469 $\pm$ 19	470 $\pm$ 20	1429-1445 cal AD (68.27%)	1422-1452 cal AD (95.45%)
PLD-43865 SK15 試料 No.31	-26.73 $\pm$ 0.21	487 $\pm$ 18	485 $\pm$ 20	1423-1438 cal AD (68.27%)	1413-1445 cal AD (95.45%)
PLD-43866 SK15 試料 No.32	-25.52 $\pm$ 0.14	494 $\pm$ 20	495 $\pm$ 20	1421-1438 cal AD (68.27%)	1410-1443 cal AD (95.45%)
PLD-43867 SK15 試料 No.33	-24.03 $\pm$ 0.19	500 $\pm$ 20	500 $\pm$ 20	1418-1436 cal AD (68.27%)	1408-1442 cal AD (95.45%)
PLD-43868 SX01 試料 No.34	-26.50 $\pm$ 0.14	591 $\pm$ 19	590 $\pm$ 20	1323-1356 cal AD (58.27%) 1392-1398 cal AD (10.00%)	1307-1363 cal AD (74.17%) 1386-1406 cal AD (21.28%)
PLD-43869 SX01 試料 No.35	-19.52 $\pm$ 0.18	236 $\pm$ 18	235 $\pm$ 20	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1648-1663 cal AD (44.84%) 1786-1794 cal AD (23.43%)	Post-bomb NH2 2013, Reimer et al 2020: 1640-1670 cal AD (59.57%) 1780-1797 cal AD (33.08%) 1944-1951 cal AD ( 2.71%) 1953-1953 cal AD ( 0.10%)

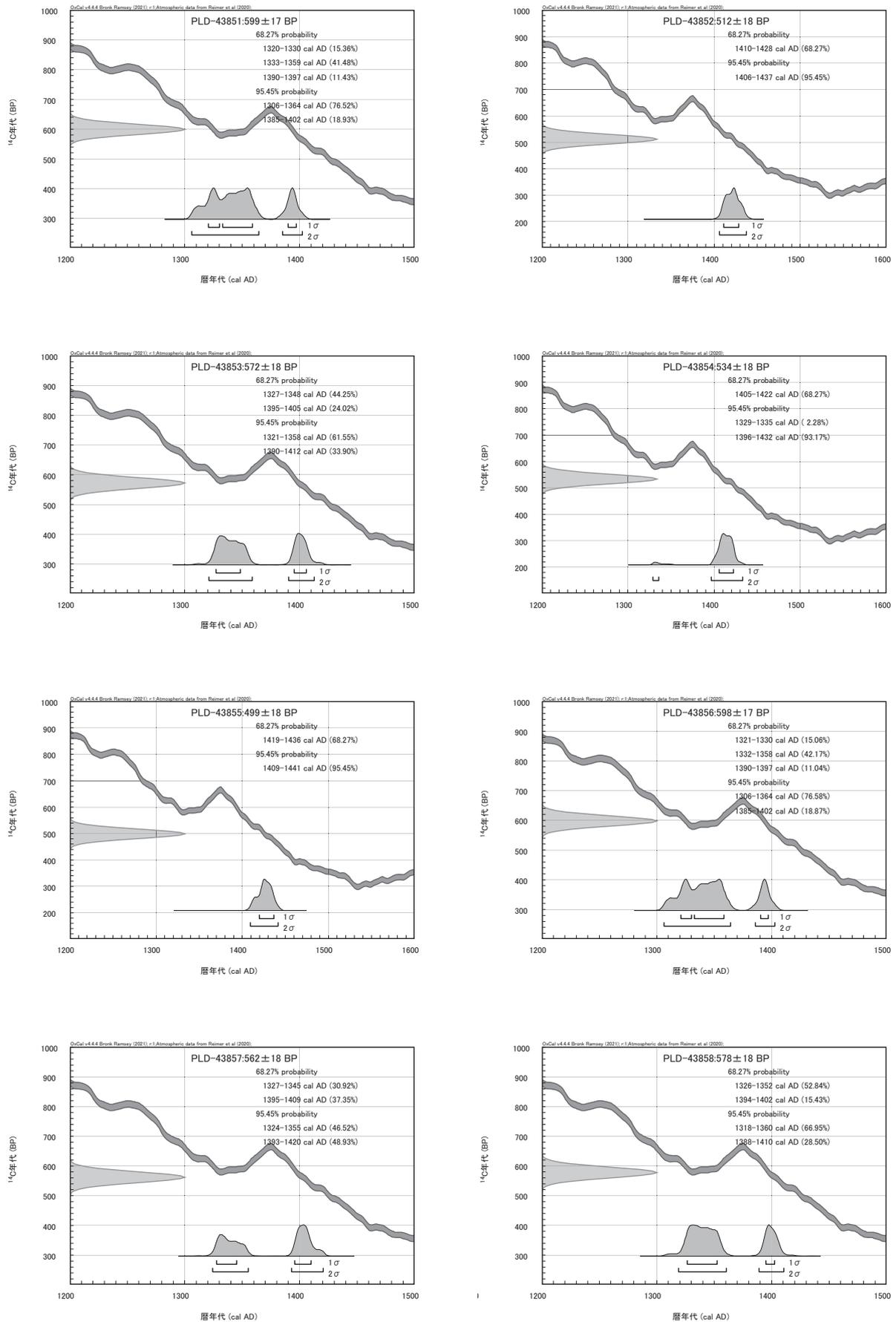


第3図 暦年較正結果(1)

IV 分析と考察

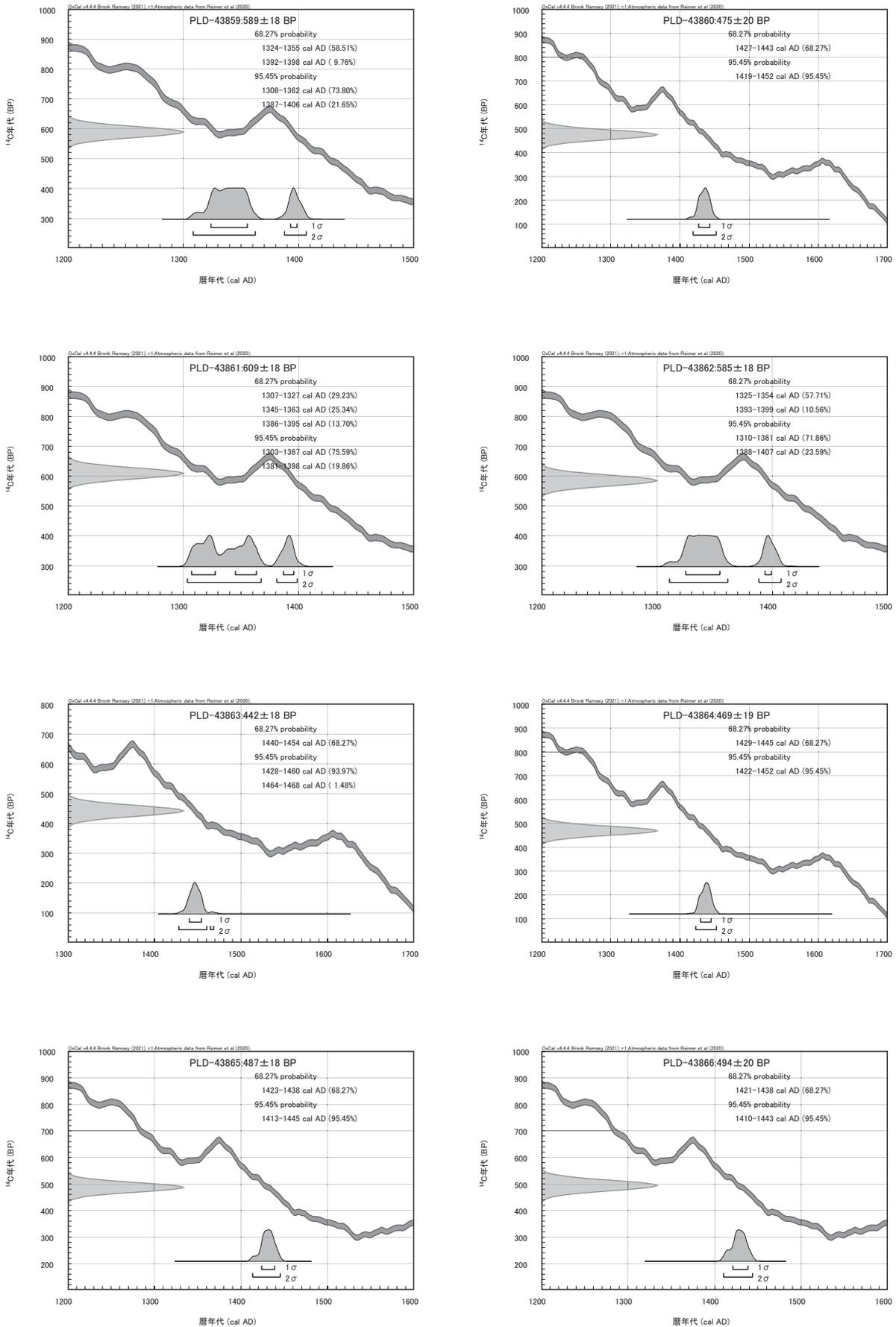


第4図 暦年較正結果 (2)

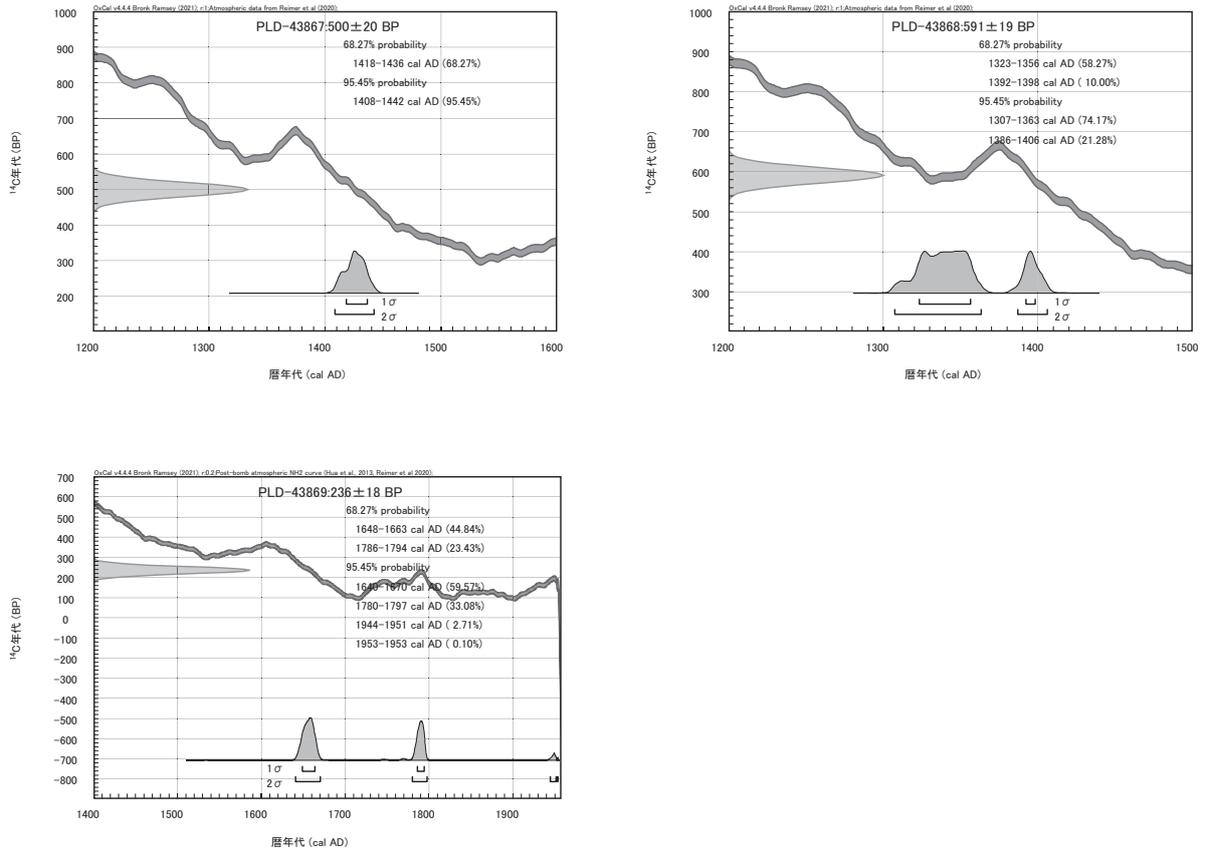


第5図 暦年較正結果 (3)

IV 分析と考察



第6図 暦年較正結果 (4)



第7図 暦年較正結果 (5)

## V まとめと展望

### 1. はじめに

本報告書は、九州大学箱崎キャンパス売却予定地東南部の中世箱崎遺跡の発掘調査報告書である。福岡市経済観光文化局文化財活用部文化財課（以後、福岡市埋蔵文化財課と略称）が行った試掘調査により、旧応用力学研究所本部建物周辺の箱崎キャンパス東南部を中心に中世箱崎遺跡が広がることが判明した。2015年に再編された九州大学埋蔵文化財調査室（以後、埋蔵文化財調査室と略称）は、箱崎キャンパスの売却に先立つ建物の解体に伴う埋蔵文化財調査を2016年から行っている。

箱崎キャンパス東南部の箱崎遺跡は、調査対象外の箱崎サテライト（旧工学部本館など国の登録有形文化財指定地域）を境に遺跡環境を大きく異にしている。箱崎サテライト以南は、建物や井戸など集落環境を示す遺跡群であるのに対し、北側は中世から近世にかけての墓地遺構が展開している。本報告書は、この内、箱崎サテライト以南の中世の集落遺跡を対象とするものである。

埋蔵文化財調査室の発掘は、この地域のすべての埋蔵文化財包蔵地を対象としたが、土壌汚染が判明した包蔵地は発掘対象外とした。2017年に HZK1703（九州大学埋蔵文化財調査報告第9集第IV章）、2018年に HZK1804（同第II章）、2019年に HZK1903（本報告書I章）と HZK1904（本報告書II章）、2020年に HZK2003（九州大学埋蔵文化財調査報告第9集第III章）、2021年に HZK2101（本報告書III章）を発掘した（第1図）。

箱崎遺跡は、筥崎宮がこの地に遷座された10世紀から始まる。筥崎宮を中心に次第に砂丘列の北側に向けて遺跡が延びている（佐藤 2013）。箱崎キャンパスに向けて延びる砂丘列は12世紀には安定し（本田 2022）、この段階から箱崎キャンパスの箱崎遺跡が始まっている。

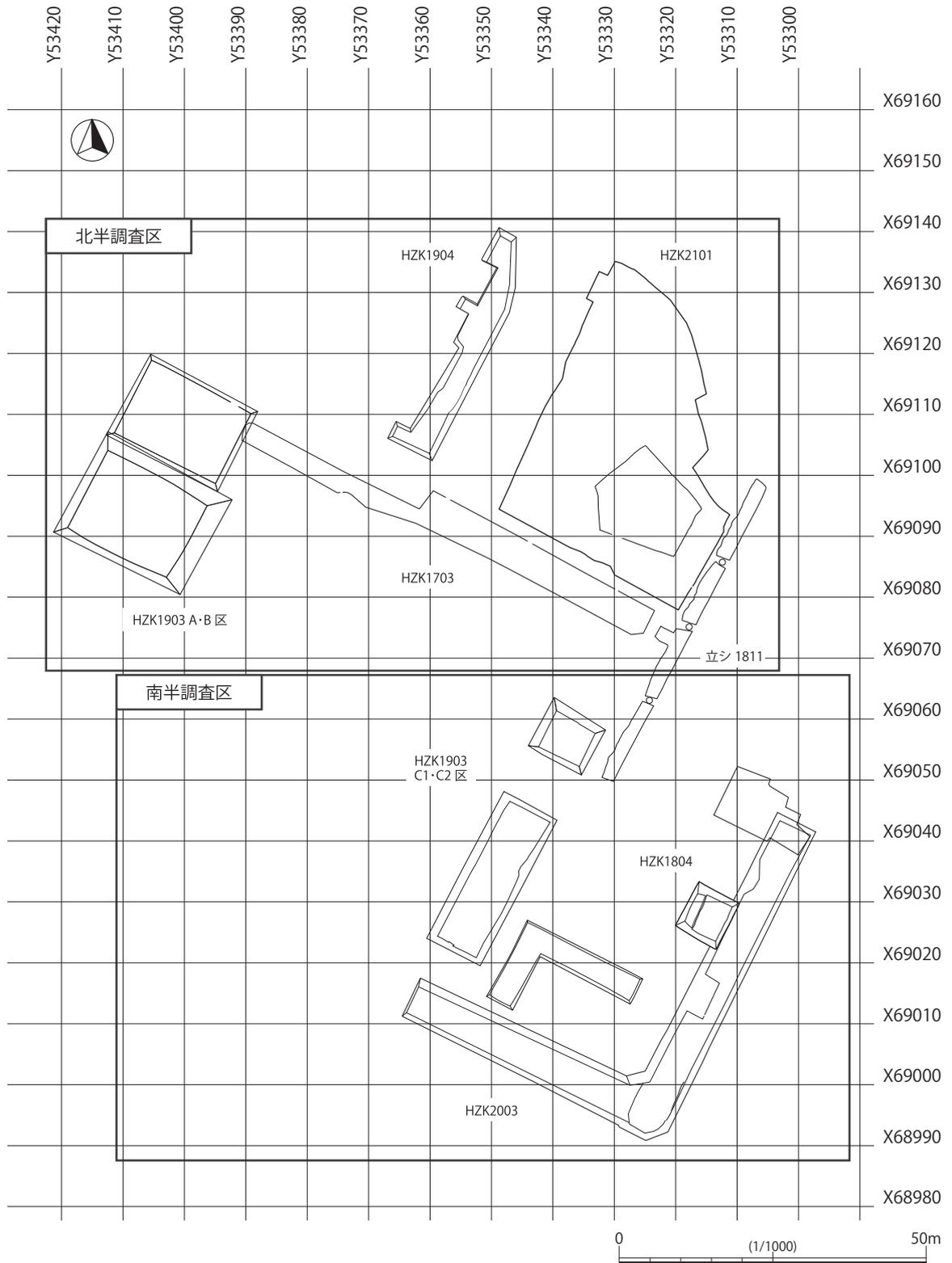
### 2. 遺構の変遷

この地域の遺構は、大きく中世を三つの段階に分けて眺めることができるであろう。第1段階が12世紀後半～13世紀前半、第2段階が13世紀後半～14世紀前半、そして14世紀後半～15・16世紀の第3段階に分けてみることができる。なお、第3段階の15世紀以降の遺構は、箱崎遺跡全体において極めて少なく（中尾 2018）、本調査でも同様の傾向を示している。以下、この三つの段階に応じて、遺構の変遷をまとめてみることにしたい。なお、発掘調査によって明らかとなった全遺構を第2図に表示した。遺構は、調査区全域にわたって稠密に分布していることが理解できるであろう。しかしながら、既存の建物によって破壊されていたり、土壌汚染により発掘ができない場所が多数であり、遺構群全体を理解するのが困難にしている。

#### (1) 第1段階（12世紀後半～13世紀前半、第3・4図）

宇美川や綿打川などから押し出された土砂によって形成された砂州が、当該地域において安定した段階に、遺構の形成が始まる。これは11世紀後半に筥崎宮周辺で本格化する箱崎遺跡が（佐藤 2013、福永 2022）、この段階で北側に延び、箱崎キャンパス跡地にまで達していたことを示している。

HZK2101地点のSD235、HZK1903地点C2区のSD55・SD62や、HZK2003地点D区のSD5003にみられるように、北西方向に砂州の長軸に対して横方向の区画溝が認められる。さらにその区画方位に



第1図 調査区配置図

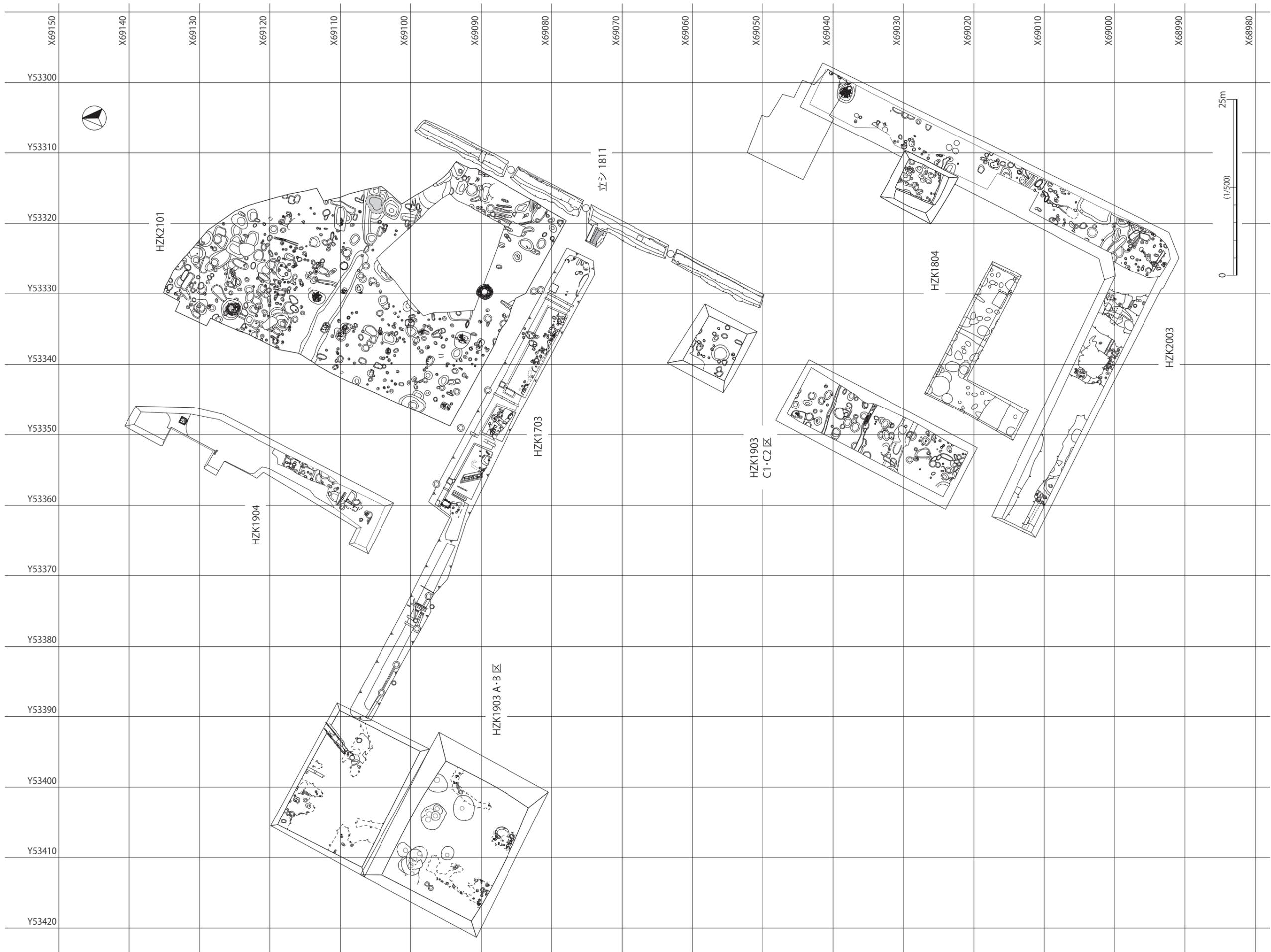
沿う形で、HZK2101地点の掘立柱建物 SB-A と SB-K がみられる。一方、HZK2003地点 D 区の SD5003の北側には礎石を持つ柱穴も認められ、ここにも掘立柱建物が存在していた可能性がある。区画溝と掘立柱建物はセットをなし、屋敷地を示している可能性がある。

第IV章で示された井戸枠の木材の放射性炭素年代を、その井戸の構築年代と考えた場合、HZK1804地点 C 区 SE14-C や HZK1903地点 B 区の SE75・SE64・SE59は、第1段階に構築された井戸と考えられる。HZK1903地点 B 区の SE75と SE59は切り合い関係があり、SE59が SE75を切っている。切り合い関係で新しい SE59は、出土遺物は15世紀代であり、この時期の井戸と推定されているが、15世紀が廃棄年代である可能性がある。あるいは、切り合い関係上、新しい SE59が15世紀代の井戸と推定でき、SE75は12世紀後半～13世紀前半の第1段階に掘削された可能性もあるであろう。SE76・SE77・SE75と SE59は切り合い関係を持ちながら一つの地点に四つの井戸が形成されている。したがって、第1段階から第3段階まで連続してここに井戸が作られたものと考えられる。また、SE64は併せて6基が重なり切り合い関係を持った井戸群を形成しており、その中で SE64は最も古いものである。SE64は出土遺物からも12世紀後半から13世紀前半の遺物が出土しており、第1段階の井戸と推定できる。HZK1903地点 B 区は井戸が集中して検出された地点であり、第1段階から第3段階まで何度かの掘り返しをしながら、井戸が持続的に配置されていた地点である。この他、HZK2101地点では、掘立柱建物 SB-A に隣接して石組井戸 SE37が位置している。SE37には12世紀から13世紀前半の青磁や白磁が出土するところから、第1段階の井戸と考えられる。HZK1804地点 C 区や HZK1903地点 B 区の井戸が素掘りで木製の井戸枠のあるものであったのに対し、同時期の SE37は石組の井戸である。これは、掘立柱建物と井戸がセットで居住域が構成され、格式の高いものとなっている。一方で、井戸が密集する素掘り井戸は、共同で利用された井戸という用途や社会性の違いが存在するのではないだろうか。すなわち、掘立柱建物 SB-A と石組井戸 SE37は武家などの階層上位者の建物と区画溝で区画された武家の屋敷地であり、素掘り井戸は民衆が共同で利用した井戸とすることができるであろう。

## (2) 第2段階 (13世紀後半～14世紀前半、第5・6図)

この時期は、元寇防塁が構築され維持されていた段階である (宮本 2022)。総じて前段階に比べ、検出された遺構数が減少する傾向にある。区画溝や建物遺構は検出されていないが、井戸は第1段階同様あるいはより多くの井戸が検出されており、集落遺跡として存続している。

第IV章の井戸の木枠の年代から、HZK1903地点 B 区の SE58・SE76は、この第2段階に構築されたものと考えられる。このうち SE58は、13世紀後半～14世紀前半の白磁・青磁や陶器が出土しており、構築年代を傍証している。また、第1段階の SE77を切って構築された SE76は、第2段階に相当している可能性がある。また、SE67は井戸を掘削した文化層が12世紀後半～13世紀前半であり、その構築年代は13世紀後半の第2段階と考えられる。このように、HZK1903地点 B 区は、第1段階に引き続き井戸が密集して構築されている。箱崎の砂丘列の中央に南北に走る砂丘2 (本田 2022) には、本調査区で箱崎遺跡の始まる11世紀後半から井戸が構築されており、14世紀後半までは、その傾向が続いている (福永 2022)。これは砂丘2に水脈が走っていることを示しており、そこに井戸が集中して構築されたのであろう。また、箱崎キャンパス跡地は箱崎遺跡の北端に位置し、この地域に遺跡が延びる第1段階の12世紀後半以来、砂丘2に井戸が構築されていく。



第2図 検出遺構図

### (3) 第3段階（14世紀後半～15・16世紀、第7・8図）

元寇防塁が維持されず次第に崩壊していく14世紀後半以降の第3段階は、遺構の方位や様相が第1・第2段階とは大きく異なっていく。第1・第2段階が鎌倉期であったのに対し、第3段階は室町期であり、歴史的にも大きく変動した時期である。

HZK2101地点では掘立柱建物 SB-H と SD255がほぼ東西方位に位置しており、第1段階の掘立柱建物と区画溝が西北方位であったのとは、大きく異なっている。掘立柱建物 SB-H の北側に隣接して石組遺構の SK372が存在する。これは貯蔵機能をもつ室であると考えている。同じような石組遺構は、HZK1703地点の SX20にも認められる。HZK2003地点 D 区の堅穴 SI4004も、出土した土師器鍋の型式から、この段階の遺構と考えられる。ここからは多量の糸切り底の土師器杯・皿が廃棄された状態で出土した。何らかの祭祀的な用途に使われたものであろうか。また、この段階から、各調査区で瓦が出土している。3間×4間の掘立柱建物 SB-H などに瓦が葺かれていたとすれば、堂宇などの寺院建築である可能性もある。調査区からは板碑なども発見されており、寺院が建立されるなど大きく遺跡環境が変わった可能性もある。

HZK2101地点では、墓壙 ST33が検出されている。ここからは釘が検出されているところから、木棺墓である可能性がある。龍泉窯青磁碗1点と粉青沙器1点が出土しており、15世紀代の墓と考えられる。同じような墓には、HZK1903地点の西側に隣接する福岡市箱崎遺跡第92次調査第2地点の木棺墓 SR152がある（福岡市教育委員会 2022）。副葬品には龍泉窯青磁碗2点、同安窯皿3点、白磁皿1点、中国産陶器壺1点などが出土している。これらの陶磁器の年代から、木棺墓は13世紀後半から14世紀前半の第2段階のもので、木棺墓 ST33より古い段階のものである。このような木棺墓は箱崎サテライト北側南端に認められ、13世紀～14世紀の木棺墓が群集している。そのような木棺墓と同じ位置づけで、木棺墓 ST33や木棺墓 SR152が存在する。一方で、箱崎サテライト北側の木棺墓群の北側には、15・16世紀代の火葬墓が認められる。第3段階の寺院関連遺構は、14世紀後半から15・16世紀の木棺墓や火葬墓と関連して捉えるべきであろう。

一方、共同利用の素掘り井戸は、この段階にも存在する。HZK1903地点 B 区の SE66は、同区に存続する井戸である。また、同区の SE60・SE62の切り合い関係のある井戸も同じ段階のものである。第IV章の井戸枠の放射性炭素年代によれば、HZK2003地点 D 区の SE4015A も14世紀後半～15世紀のもので、第3段階に構築された素掘り井戸である。

## 3. まとめ

12世紀前半までに安定した砂丘列に、12世紀後半には筥崎宮を中心とする箱崎遺跡が北側に拡大したのが、箱崎キャンパス跡地の西南端である箱崎サテライトの南側地点であった。ここに12世紀後半～13世紀前半の第1段階には、区画溝と掘立柱建物からなる屋敷地が構築された。この時期、箱崎遺跡は中国系商人街であり、旧工学部2号館の HZK1805地点出土の碇石は、日宋交易を担った中国のジャンク船に伴うものである可能性がある（森 2019）。箱崎遺跡は、このように博多遺跡群と同様に国際交易港として賑わい、町が拡大していった。その北端が本調査区であったのである。箱崎遺跡に集住する人々の水源である井戸は、地下水脈に沿うように構築され、本調査区でも砂丘列の中央軸に沿うように構築されている。また、この段階から箱崎遺跡の墓地として木棺墓が、箱崎サテライト北側南端を中心として構築され始める。

13世紀後半～14世紀前半の第2段階は、元寇を経て当時の海岸線に沿うように元寇防塁が構築され、

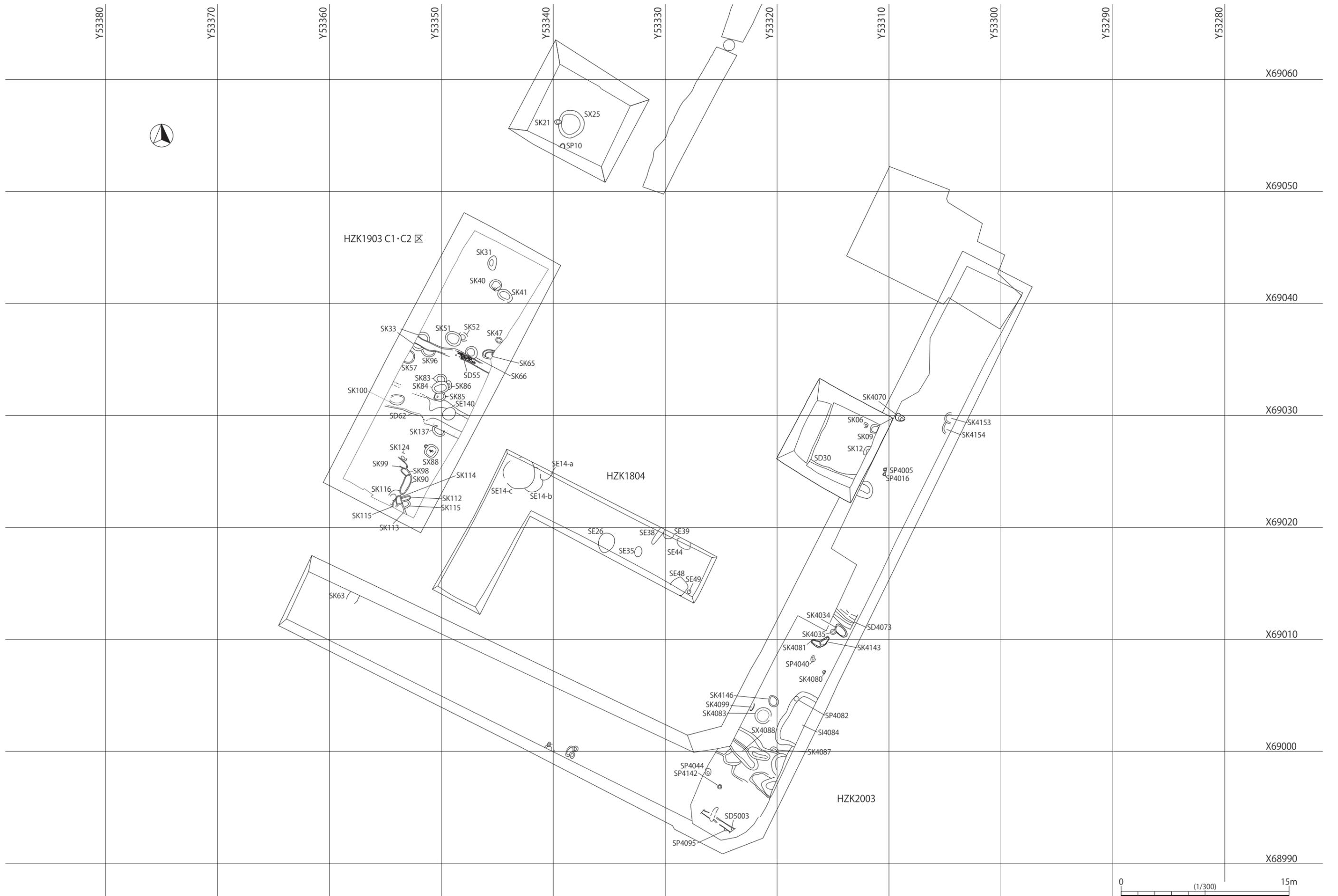
元への警護が持続していた段階である。この段階の本調査区では、屋敷地などは明瞭ではないが、素掘り井戸などが引き続き構築され、生活空間は維持されていた。この時期の屋敷地は、旧理学部のHZK1701地点から旧工学部工学研究科共同棟のHZK1805地点で検出された区画溝などで認められる屋敷地（宮本 2022）に移動した可能性がある。この地区での屋敷地は、元寇防塁を維持・管理するために新たに作られた薩摩の御家人たちの居住地と想定したい。

14世紀後半～15・16世紀は、室町期になるとともに、元寇防塁が管理されず崩壊していく段階である。この時期の新たに作られた遺構では、建物や区画溝の方位が変わり、本調査区の街区の構成が大きく変化する時期である。HZK2101地点のSB-Hなど掘立建物には瓦が葺かれ、それは堂宇のような寺院関連遺構だった可能性がある。この時期から箱崎サテライト北側では火葬墓が作られ始め、寺院の北側には墓地が広がる景観が想定される。また、本調査区の北西側の旧工学部2号館のHZK1901地点C区では、元寇防塁を壊して15・16世紀に区画溝が作られるなど屋敷地が本調査区の北西側にも広がり（宮本 2022）、箱崎遺跡の街区が北側に広がっている。この時期、箱崎遺跡は、砂丘の南端の筥崎宮を中心とする地点と、砂丘北端の箱崎キャンパス東南端を中心とする地域に分かれていくが（佐藤 2013）、発掘調査の結果は砂丘北端の街区が広がっていくことを示している。（宮本一夫）

## 引用文献

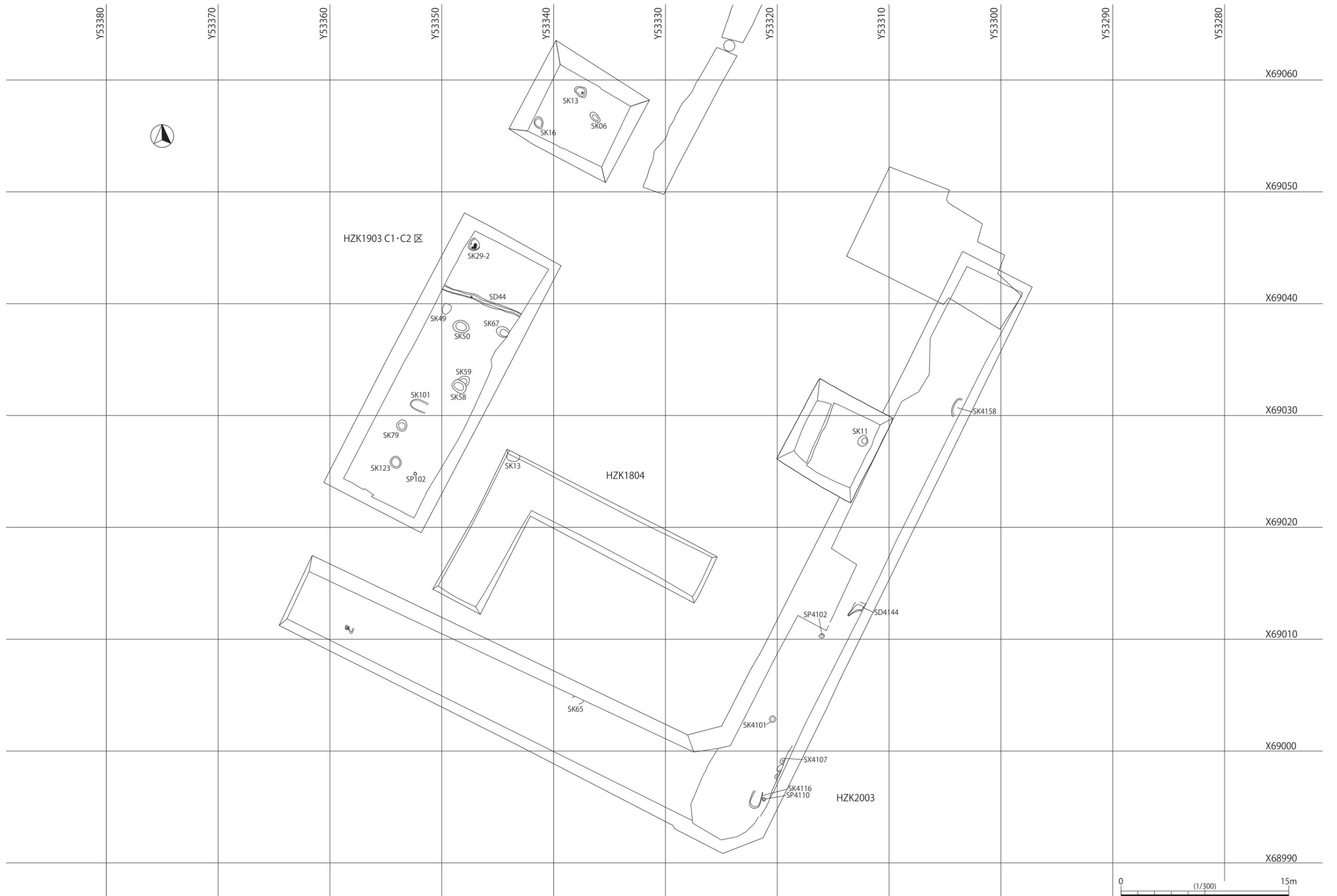
- 佐藤一郎 2013「箱崎遺跡—古代末から中世にかけて」『自然と遺跡からみた福岡の歴史』（新修 福岡市史 特別編）242-247頁
- 本田浩二郎 2022「箱崎遺跡の古地形復元」『箱崎キャンパス地区元寇防塁調査総括報告書』（九州大学埋蔵文化財調査室報告第7集）97-110頁
- 中尾祐太 2018「考古学からみた箱崎」『アジアのなかの博多湾と箱崎』勉誠社、10-23頁
- 福岡市教育委員会 2022『箱崎64 第92次・第102次・第108次調査報告-』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1457集）
- 福永将大 2022「箱崎砂州先端部におけるモンゴル襲来前後の土地利用史」『箱崎キャンパス地区元寇防塁調査総括報告書』（九州大学埋蔵文化財調査室報告第7集）111-127頁
- 宮本一夫 2022「総括と展望」『箱崎キャンパス地区元寇防塁調査総括報告書』（九州大学埋蔵文化財調査室報告第7集）193-202頁
- 森貴教 2019「中世礎石の基礎的研究—HXK1702地点出土礎石の位置づけ—」『九州大学箱崎キャンパス発掘報告書 2 箱崎遺跡—HZK1701・1702・1704・1705・1706地点—』（九州大学埋蔵文化財調査室報告第2集）144-152頁



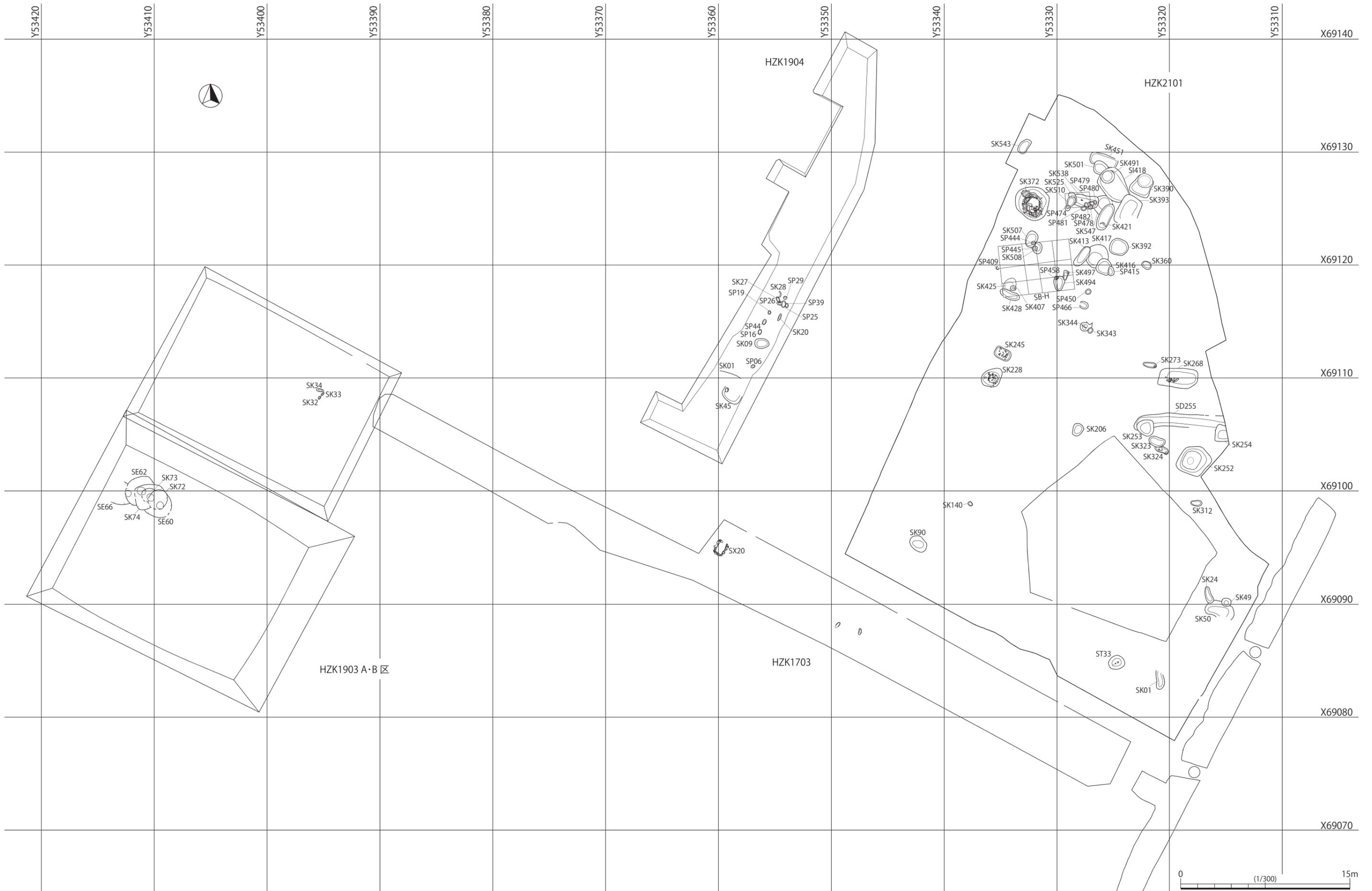


第4図 第1段階（12世紀後半～13世紀前半）の遺構〈南半調査区〉

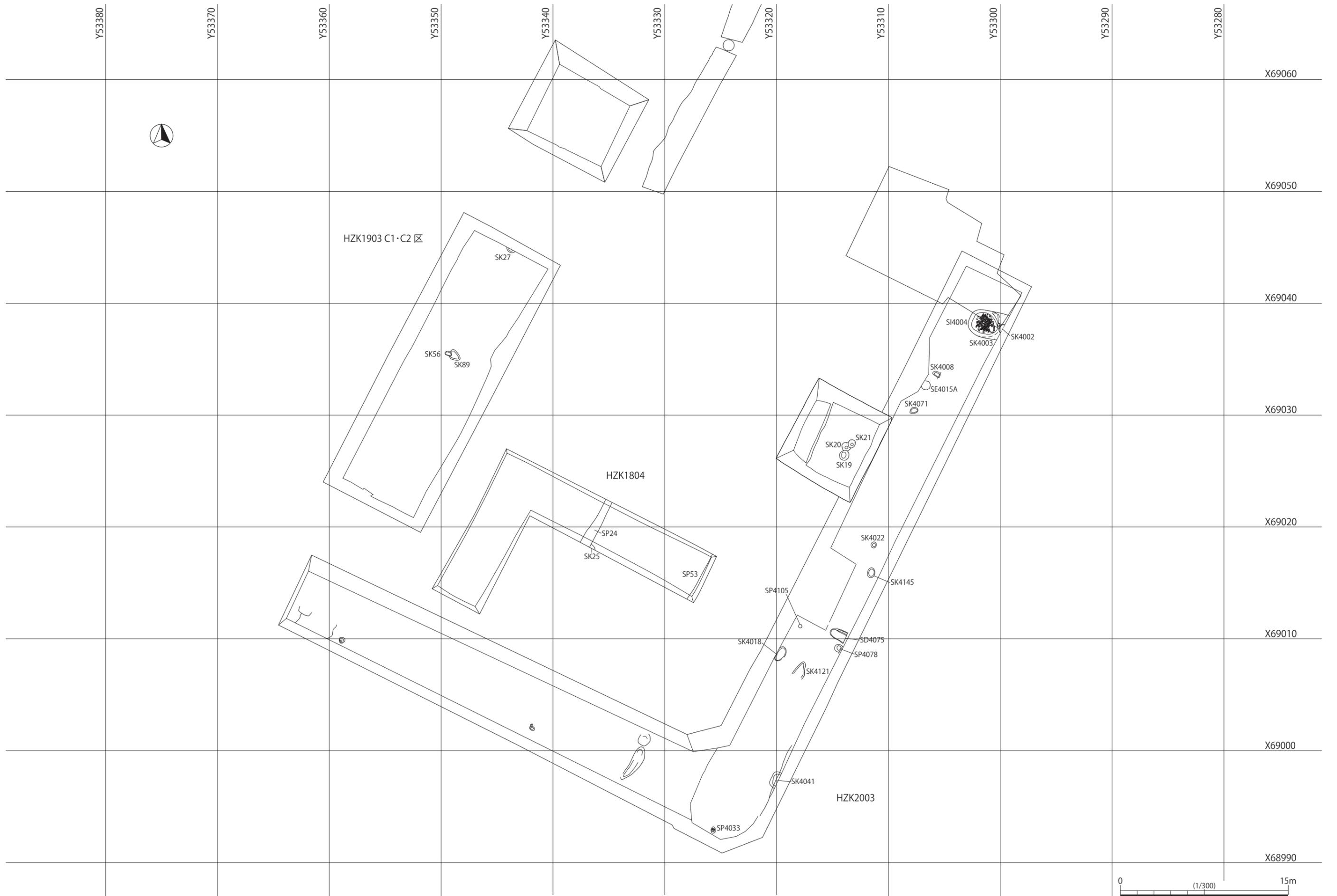




第6図 第2段階（13世紀後半～14世紀前半）の遺構〈南半調査区〉



第7図 第3段階（14世紀後半～15・16世紀）の遺構〈北半調査区〉



第8図 第3段階（14世紀後半～15・16世紀）の遺構〈南半調査区〉



1-1 HZK1903地点A区 エリアⅠ完掘 (西から)



1-2 HZK1903地点A区 エリアⅡ完掘 (西から)



1-3 HZK1903地点A区 エリアⅢ完掘 (南から)



1-4 HZK1903地点A区 井戸 SE001・002セクション(南から)



1-5 HZK1903地点A区 井戸 SE006 (南から)



1-6 HZK1903地点B区 エリアⅠ完掘 (西から)



1-7 HZK1903地点B区 エリアⅢ完掘 (南から)



1-8 HZK1903地点B区 土坑 SK55周辺 (北から)



2-1 HZK1903地点B区 井戸 SE58 (南から)



2-2 HZK1903地点B区 井戸 SE59・75~77 (南から)



2-3 HZK1903地点B区 井戸 SE60~66 (西から)



2-4 HZK1903地点C2区完掘 (南から)



2-5 HZK1903地点C2区 溝 SD44完掘 (西から)



2-6 HZK1903地点C2区 溝 SD55完掘 (西から)



2-7 HZK1903地点C2区 SX88出土状況 (東から)



2-8 HZK1903地点C2区 SX88出土土器



3-1 HZK1904地点 調査区完掘 (南西から)



3-2 HZK1904地点 土坑 SK9完掘 (西から)



3-3 HZK1904地点 ピット SP18完掘 (東から)



3-4 HZK1904地点 土坑 SK31完掘 (東から)



3-5 HZK1904地点 ピット SP44完掘 (西から)



3-6 HZK1904地点 井戸 SE55完掘 (西から)



3-7 HZK1904地点 井戸 SE55井戸杵 (西から)



3-8 HZK1904地点 SX60完掘 (西から)



4-1 HZK2101地点 調査区全景 (北から)



4-2 HZK2101地点 溝 SD03~09完掘 (南から)



4-3 HZK2101地点 墓 ST33出土遺物 (東から)



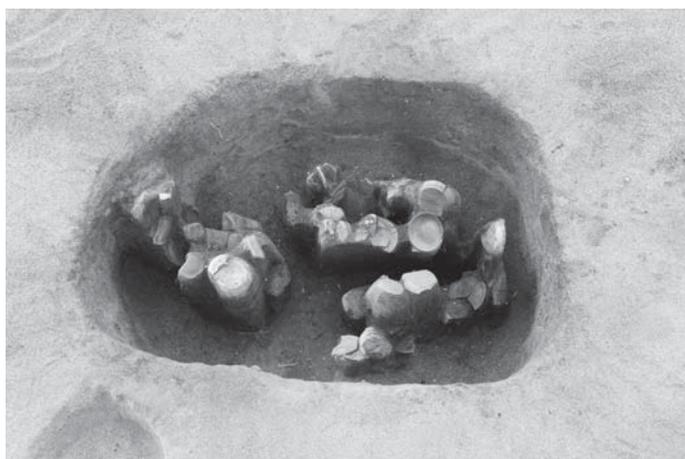
4-4 HZK2101地点 井戸 SE37底面 (南から)



4-5 HZK2101地点 井戸 SE37断面 (南から)



4-6 HZK2101地点 土坑 SK86遺物出土状況 (北から)



4-7 HZK2101地点 土坑 SK89遺物出土状況 (東から)



4-8 HZK2101地点 井戸 SE93上面 (東から)



5-1 HZK2101地点 井戸 SE93完掘 (東から)



5-2 HZK2101地点 溝 SD235完掘 (西から)



5-3 HZK2101地点 溝 SD255完掘 (東から)



5-4 HZK2101地点 石組土坑 SK200完掘 (西から)



5-5 HZK2101地点 石組土坑 SK200断面 (南から)



5-6 HZK2101地点 石組土坑 SK367周辺 (西から)



5-7 HZK2101地点 石組土坑 SK367完掘 (南西から)



5-8 HZK2101地点 竪穴 SI418完掘 (南北から)



第6图14



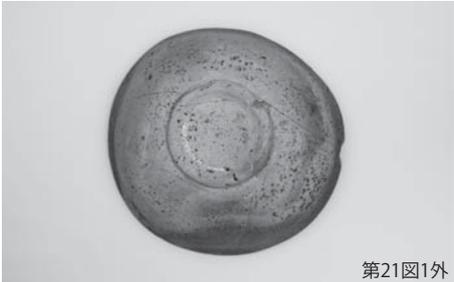
第6图16



第21图2



第21图1内



第21图1外



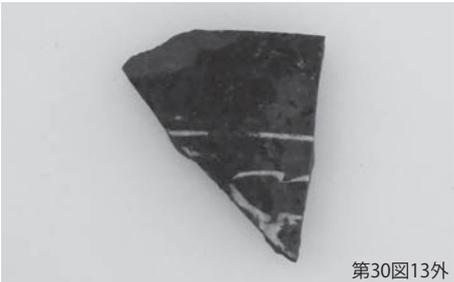
第25图12



第29图3



第30图13内



第30图13外



第30图5



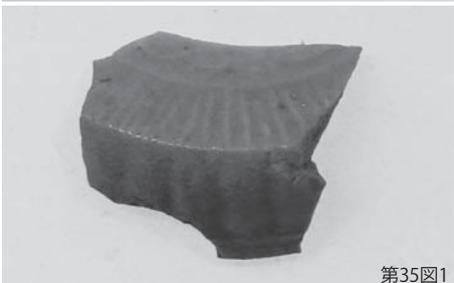
第31图2



第33图4



第33图7



第35图1



第35图10



第37图2



第49图16



第52图21



第55图20



第57图10



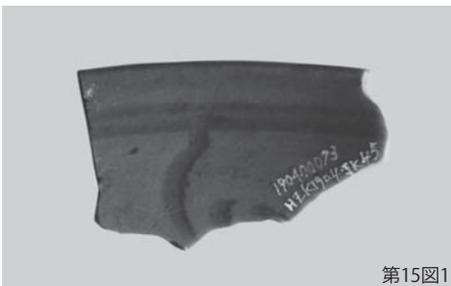
第60图15



第5图10



第9图11



第15图1



第15图3



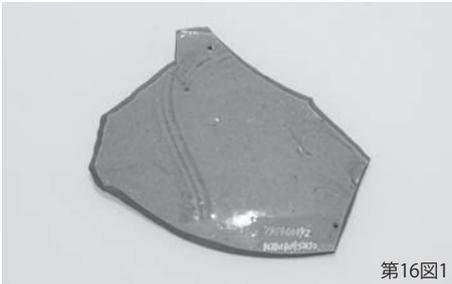
第15图11



第15图19



第15图22



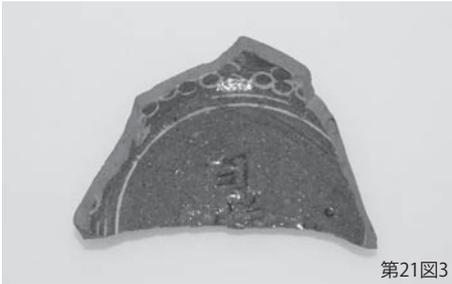
第16图1



第19图6



第19图12



第21图3



第21图4

Ⅲ章 HZK2101地点出土遺物



第13图1



第13图2



第16图9



第16图16



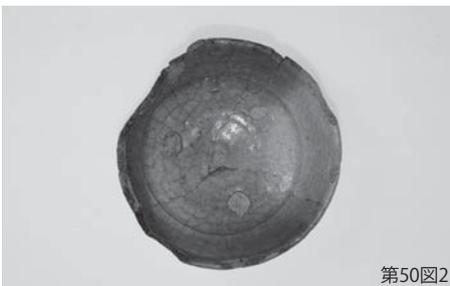
第19图51



第25图4



第44图7



第50图2



第50图4



第50图14



第50图16



第55图1



第55图2



第58图3



第59图2



第59图5



第78图21



第79图5



第93图4



第93图5



第94图1



第94图5



第94图6



第94图7



第94图8



第94图14



第94图16

報告書抄録

ふりがな	はごぎいせき—HZK1903・1904・2101ちてん—							
書名	箱崎遺跡—HZK1903・1904・2101地点—							
副書名	九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告7							
シリーズ名	九州大学埋蔵文化財調査室報告							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	谷 直子(編)・宮本一夫・齋藤瑞穂・福永将大・三阪一徳・石井若香葉・小林克也・パレオ・ラボ AMS年代測定グループ							
編集機関	九州大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10-1							
発行年月日	2023年12月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK1903地点	福岡市東区 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 18"	130° 25' 30"	2019.9.18 ～ 2020.4.1	1170	開発事業
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK1904地点	福岡市東区 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 19"	130° 25' 29"	2019.10.2 ～ 2019.11.6	300	開発事業
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK2101地点	福岡市東区 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 18"	130° 25' 30"	2021.5.24 ～ 2022.3.10	1900	学術研究
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
HZK1903地点	集落跡・散布地	中世	井戸・土坑・ピット	陶磁器、土師器		井戸の構築と廃絶		
HZK1904地点	集落跡・散布地	中世・近代	井戸・土坑・ピット	陶磁器、土師器、瓦、銅銭				
HZK2101地点	集落跡	中世	掘立柱建物、溝、井戸、石組土坑、土坑、ピット	陶磁器、土師器、瓦、銅銭		寺院の存在を示唆する遺構と遺物		
要約	<p>箱崎遺跡九州大学箱崎キャンパス内の2017年度から2021年度の発掘調査のうち、キャンパス南側の発掘調査地点で、まだ報告されていなかった中世集落を中心とする発掘地点である HZK1903地点・HZK1904地点・HZK2101地点の本報告を行った。</p> <p>HZK1903地点は、A～C区に分けて調査された。A区では13世紀後半～14世紀前半に構築された井戸や13世紀後半以降に構築された土坑などが検出され、13世紀以降井戸の構築と廃絶が繰り返された。B区では、12世紀代と考えられる礎石を伴う柱穴のほか、12世紀後半から15世紀代まで13基の井戸が検出され、長期にわたって井戸の構築と廃絶が繰り返された。C区からは、大型の土坑から13世紀を中心とした遺物が出土したほか、完形の土師器の坏が9枚重なった遺構が検出された。A・B区と比べ井戸が少ないことも特徴的である。</p> <p>HZK1904地点からは中世の井戸、土坑、ピットなどが検出された。この地点の北側は深い部分まで攪乱が及ぶが、南側では井戸や土坑が検出された。遺物は12世紀後半～16世紀頃までの土師器や陶磁器・漁労具のほか、遺構外出土であるが「司膳」の銘を持つ粉青沙器が出土した。</p> <p>HZK2101地点では、中世の掘立柱建物・墓・溝・井戸・石組の室・土坑・ピットなど多数の遺構が検出された。大溝が調査区の中央を東西に横断し、これに長軸が平行する掘立柱建物群と、長軸を異にする掘立柱建物群がある。井戸は素掘りと石組とがある。墓からは龍泉窯系青磁碗と「金□長興庫」銘の粉青沙器が出土した。出土遺物では陶磁器や土師器の他に瓦も多く、石塔の一部や板碑の残欠など、寺院の存在を示唆する遺物も存在する。</p> <p>HZK1903・1904・2101地点からは、中世箱崎の人々の生活に関わる多彩な遺構と遺物が出土しており、12世紀後半から16世紀に亘る箱崎遺跡北端の生活史の一端が解明された。</p>							

---

---

箱崎遺跡

— HZK1903・1904・2101 —

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第10集

令和5年(2023)12月25日

発行 九州大学埋蔵文化財調査室  
福岡市東区箱崎6-10-1

印刷 九州コンピュータ印刷  
福岡市南区向野1丁目19-1

---

---

